

久下東遺跡 IX

(C2・D2・D3・E2・E3・E4地点)

二〇一六

本庄市教育委員会

久下東遺跡 IX  
(C2・D2・D3・E2・E3・E4地点)

一本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書9一

2016

本庄市教育委員会

く げ ひがし い せき  
久 下 東 遺 跡 IX  
(C2・D2・D3・E2・E3・E4 地点)

—本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書9—

2016

本庄市教育委員会



## 序

埼玉県の北部に位置する本庄市は、県内で最古級の古墳として有名な鷺山古墳をはじめ、原始・古代の注目される遺跡が多く所在しています。また、中世では鎌倉幕府の成立期に活躍した児玉党の本拠地であったことや、戦国時代の先駆けとなった享徳の乱で関東管領側の重要拠点であった五十子陣が築かれた場所としても、知られているところです。

本書は、上越新幹線本庄早稲田駅北側の早稲田の杜地区内にある久下東遺跡の発掘調査の成果の一部を記録した報告書です。久下東遺跡は、市内に所在する遺跡の中では比較的広い範囲が調査されており、古墳時代から江戸時代まで続く大規模な集落跡であったことが明らかになっています。

今回報告する久下東遺跡のC 2・D 2・D 3・E 2・E 3・E 4地点では、本遺跡の古墳時代後期の住居跡の中では最も規模の大きな住居跡が調査されており、集落の中心的な場所であったことがうかがえます。また、平安時代の住居跡からは、県内ではあまり出土例がない松鶴鏡と呼ばれる和鏡が出土し、さらに当地方ではこれまでに例がない江戸時代の大規模な区画を伴う墓地が調査されるなど、多くの貴重な発見とともに、地域の歴史を考えるうえで重要な成果を上げることができました。

本書が、学術的な資料としてはもとより、郷土の歴史や遺跡を理解する一助として、多くの皆様に広くご活用いただければ幸甚に存じます。

最後になりましたが、現地の発掘調査から整理・報告書の刊行にあたり、多大なご協力を賜りました関係諸機関並びに地元関係者の皆様に対しまして、心からお礼を申し上げます。

平成28年 11月

本庄市教育委員会  
教育長 勝山 勉

## 例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市北堀の旧1291・1292地点(C 2)、1306地点(D 2)、1305地点(D 3)、1777地点(E 2)、1563・1564・1565・1566地点(E 3)、1778地点(E 4) (現在の早稲田の杜2丁目～4丁目)に所在した久下東遺跡のC 2・D 2・D 3・E 2・E 3・E 4地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う事前の記録保存を目的として、C 2・D 2・D 3・E 2・E 3地点が平成20年度、E 4地点が平成22年度に調査を実施した。
3. 発掘調査は、本庄市教育委員会が実施し、各地点の調査はC 2・D 2・D 3・E 4地点を的野善行が、E 2・E 3地点を恋河内昭彦が担当した。なお、E 2・E 3地点については高林真人(株式会社測研)が調査員として現地で補佐した。
4. 本書中で使用した地図は、国土地理院発行の5万分の1と2万5千分の1である。
5. C 2・D 2・D 3・E 2・E 3地点の遺構番号については、将来の混乱を避けるため、本報告の正式番号にカッコをつけて調査時の旧番号を併記した。
6. 出土遺物の実測・トレースは、D 2・E 2・E 3地点の住居跡出土遺物の一部を、有限会社毛野考古学研究所に委託した。その他の出土遺物の実測は恋河内が行った。
7. 出土遺物観察表に記した記号は、以下のとおりである。  
A－法量(単位はcm、g、カッコは推定)、B－成形、C－整形・調整、D－胎土、材質、E－色調、F－残存度、G－備考、H－出土層位・位置
8. 本書に掲載した写真は、遺構を各調査担当者が、遺物の委託分は有限会社毛野考古学研究所が撮影した。なお、本書の写真図版に掲載した遺物写真は、縮尺不同である。
9. 遺構図のデジタルトレースとレイアウト編集は、株式会社測研に委託した。
10. 近世土坑墓出土土片の樹種鑑定は株式会社パレオ・ラボに委託し、その結果は第VI章に記した。
11. 本書の執筆・編集は、第VI章を黒沼保子(株式会社パレオ・ラボ)が、それ以外を恋河内が行った。
12. 発掘調査から本書刊行にあたって、下記の方々や機関からご教示・ご協力を賜った。記して感謝します。

浅間 陽、池田 匡彦、伊藤 順一、井上 裕一、大谷 徹、大塚 昌彦、小川 望、  
金子 彰男、栗島 義明、車崎 正彦、昆 彭生、坂本 和俊、塩原 暁、菅谷 浩之、  
鈴木 徳雄、関 美智子、高林 真人、武井 樊太、中沢 良一、中村 倉司、堀内 秀樹、  
丸山 修、丸山 陽一、宮本 久子、村上 章義、  
埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団、  
早稲田大学考古資料館、清福寺

# 目 次

序	
例 言	
第 I 章 発掘調査に至る経緯	1
第 II 章 遺跡の立地と歴史的環境	5
第 III 章 C 2 地点の調査	7
第 1 節 C 2 地点の概要	7
第 2 節 竪穴式住居跡	9
第 3 節 土 坑	24
第 IV 章 D 2・D 3 地点の調査	27
第 1 節 D 2・D 3 地点の概要	27
第 2 節 竪穴式住居跡	29
第 3 節 掘立柱建物跡	54
第 4 節 井 戸 跡	55
第 5 節 土 坑	55
第 6 節 溝 跡	58
第 V 章 E 2・E 3・E 4 地点の調査	63
第 1 節 E 2・E 3・E 4 地点の概要	63
第 2 節 竪穴式住居跡	68
第 3 節 竪穴状遺構	176
第 4 節 掘立柱建物跡	176
第 5 節 土 坑	185
第 6 節 溝 跡	274
第 7 節 調査区内出土遺物	316
《参考資料》 久下東遺跡第 1 地点出土遺物	317
第 VI 章 久下東遺跡 E 2・E 3 地点出土木製品の樹種同定	327
第 VII 章 清福寺近世墓地跡について	331
第 1 節 近世土坑墓群の副葬品	331
第 2 節 近世土坑墓の形態分類	343
第 3 節 清福寺近世墓地跡の構造と変遷	353
<参考文献>	358
写真図版	
抄 録	

## ＜ 挿 図 目 次 ＞

第1図	遺跡の位置	……………XX	第34図	第129(SI3)号住居跡出土遺物(3)	………43
第2図	北堀久下塚北・久下東・久下前・北堀新田・北堀新田前遺跡調査地点配置図	……………2	第35図	第129(SI3)号住居跡出土遺物(4)	………44
第3図	久下東遺跡本報告地点位置図	……………3	第36図	第130(SI1)号住居跡	……………47
第4図	周辺の主要遺跡	……………4	第37図	第130(SI1)号住居跡出土遺物	………48
第5図	周辺の既調査遺跡	……………6	第38図	第131(SI2)号住居跡	……………50
第6図	C2地点調査区全体図	……………8	第39図	第131(SI2)号住居跡出土遺物	………51
第7図	第112(SI2)号住居跡	……………10	第40図	第132(SI7)号住居跡	……………52
第8図	第112(SI2)号住居跡出土遺物	……………11	第41図	第132(SI7)号住居跡出土遺物	………53
第9図	第113(SI10)号住居跡	……………12	第42図	第2号掘立柱建物跡	……………54
第10図	第114(SI9)号住居跡	……………13	第43図	第13(1)号井戸跡	……………55
第11図	第114(SI9)号住居跡出土遺物	……………14	第44図	第13(1)号井戸跡出土遺物	………55
第12図	第115(SI12)号住居跡	……………16	第45図	土 坑	……………56
第13図	第115(SI12)号住居跡出土遺物	……………16	第46図	第107(3)号土坑出土遺物	………57
第14図	第116(SI13)号住居跡	……………18	第47図	第108(14)号土坑出土遺物	………57
第15図	第116(SI13)号住居跡出土遺物	……………19	第48図	第110(5)号土坑出土遺物	………58
第16図	第117(SI11)号住居跡	……………20	第49図	第28(2)・29(3)号溝跡出土遺物	………59
第17図	第117(SI11)号住居跡出土遺物(1)	………22	第50図	第28(2)・29(3)・30(4)号溝跡	………60
第18図	第117(SI11)号住居跡出土遺物(2)	………23	第51図	第31(7)号溝跡	……………62
第19図	第92(8)号土坑出土遺物	……………24	第52図	E地点全体図	……………64
第20図	土 坑	……………25	第53図	E2・E4地点全体図	………66
第21図	D2・D3地点調査区全体図	……………28	第54図	E3地点全体図	……………67
第22図	第126(SI4)号住居跡出土和鏡	……………29	第55図	第133(SI1)号住居跡	……………68
第23図	第126(SI4)・127(SI5)号住居跡	……………30	第56図	第133(SI1)号住居跡出土遺物	………68
第24図	第126(SI4)号住居跡カマド	……………31	第57図	第134(SI2)号住居跡	……………69
第25図	第126(SI4)号住居跡出土遺物(1)	………32	第58図	第134(SI2)号住居跡カマド・貯蔵穴	………70
第26図	第126(SI4)号住居跡出土遺物(2)	………33	第59図	第134(SI2)号住居跡出土遺物(1)	………72
第27図	第126(SI4)号住居跡出土遺物(3)	………34	第60図	第134(SI2)号住居跡出土遺物(2)	………73
第28図	第127(SI5)号住居跡出土遺物	……………36	第61図	第134(SI2)号住居跡出土遺物(3)	………74
第29図	第128(SI6)号住居跡	……………37	第62図	第135(SI3)号住居跡	……………76
第30図	第128(SI6)号住居跡出土遺物	……………38	第63図	第135(SI3)号住居跡カマド	……………77
第31図	第129(SI3)号住居跡	……………39	第64図	第135(SI3)号住居跡出土遺物	………77
第32図	第129(SI3)号住居跡出土遺物(1)	………41	第65図	第136(SI4)号住居跡出土遺物	………78
第33図	第129(SI3)号住居跡出土遺物(2)	………42	第66図	第136(SI4)号住居跡	……………79
			第67図	第140(SI8)・183(SI51)号住居跡	………81
			第68図	第140(SI8)号住居跡出土遺物	………82

第69回	第141(SI9)号住居跡	82	第105回	第160(SI28)号住居跡出土遺物	117
第70回	第141(SI9)号住居跡出土遺物	82	第106回	第161(SI29)号住居跡	118
第71回	第142(SI10)号住居跡	83	第107回	第161(SI29)号住居跡出土遺物(1)	120
第72回	第143(SI11)号住居跡	85	第108回	第161(SI29)号住居跡出土遺物(2)	121
第73回	第143(SI11)号住居跡出土遺物	85	第109回	第162・163(SI30・31)号住居跡	122
第74回	第144(SI12)号住居跡	86	第110回	第162(SI30)号住居跡カマド	123
第75回	第144(SI12)号住居跡出土遺物	86	第111回	第162(SI30)号住居跡出土遺物	124
第76回	第145(SI13)号住居跡	87	第112回	第163(SI31)号住居跡出土遺物	126
第77回	第145(SI13)号住居跡出土遺物	88	第113回	第164(SI32)号住居跡	127
第78回	第146(SI14)号住居跡	89	第114回	第164(SI32)号住居跡出土遺物	128
第79回	第146(SI14)号住居跡出土遺物	90	第115回	第165(SI33)号住居跡	129
第80回	第147(SI15)号住居跡	91	第116回	第165(SI33)号住居跡出土遺物	130
第81回	第147(SI15)号住居跡出土遺物	92	第117回	第166(SI34)号住居跡	132
第82回	第148・149(SI16・17)号住居跡	93	第118回	第166(SI34)号住居跡出土遺物(1)	134
第83回	第149(SI17)号住居跡出土遺物	94	第119回	第166(SI34)号住居跡出土遺物(2)	135
第84回	第150(SI18)号住居跡	95	第120回	第167(SI35)号住居跡	135
第85回	第150(SI18)号住居跡出土遺物(1)	97	第121回	第167(SI35)号住居跡出土遺物	136
第86回	第150(SI18)号住居跡出土遺物(2)	98	第122回	第168(SI36)号住居跡	137
第87回	第151(SI19)号住居跡	99	第123回	第168(SI36)号住居跡出土遺物	137
第88回	第151(SI19)号住居跡出土遺物(1)	100	第124回	第169(SI37)・170(SI38)号住居跡	139
第89回	第151(SI19)号住居跡出土遺物(2)	101	第125回	第169(SI37)号住居跡カマド	140
第90回	第152(SI20)号住居跡	102	第126回	第169(SI37)号住居跡出土遺物	141
第91回	第152(SI20)号住居跡出土遺物	103	第127回	第170(SI38)号住居跡カマド	142
第92回	第153(SI21)号住居跡	103	第128回	第170(SI38)号住居跡出土遺物	144
第93回	第153(SI21)号住居跡出土遺物	103	第129回	第171(SI39)号住居跡	145
第94回	第154(SI22)号住居跡	104	第130回	第171(SI39)号住居跡出土遺物	145
第95回	第154(SI22)号住居跡出土遺物	104	第131回	第172(SI40)号住居跡	147
第96回	第155(SI23)号住居跡出土遺物	105	第132回	第172(SI40)号住居跡カマド	148
第97回	第155(SI23)・156(SI24)号住居跡	107	第133回	第172(SI40)号住居跡出土遺物(1)	150
第98回	第156(SI24)号住居跡出土遺物	109	第134回	第172(SI40)号住居跡出土遺物(2)	151
第99回	第157(SI25)号住居跡出土遺物	110	第135回	第173(SI41)号住居跡	152
第100回	第157(SI25)・158(SI26)・159(SI27)号住居跡	111	第136回	第174(SI42)号住居跡	153
第101回	第158(SI26)号住居跡出土遺物(1)	113	第137回	第174(SI42)号住居跡出土遺物	154
第102回	第158(SI26)号住居跡出土遺物(2)	114	第138回	第175(SI43)号住居跡	155
第103回	第159(SI27)号住居跡出土遺物	115	第139回	第175(SI43)号住居跡カマド	156
第104回	第160(SI28)号住居跡	116	第140回	第175(SI43)号住居跡出土遺物(1)	157
			第141回	第175(SI43)号住居跡出土遺物(2)	158

第142图	第175(SI43)号住居跡出土遺物(3) …	159	第179图	土 坑(11) ……………	200
第143图	第175(SI43)号住居跡出土遺物(4) …	160	第180图	土 坑(12) ……………	201
第144图	第176(SI44)号住居跡 ……………	162	第181图	土 坑(13) ……………	202
第145图	第176(SI44)号住居跡出土遺物 ……	163	第182图	土坑出土遺物(1) ……………	224
第146图	第177(SI45)号住居跡 ……………	165	第183图	土坑出土遺物(2) ……………	225
第147图	第177(SI45)号住居跡出土遺物 ……	166	第184图	土坑出土遺物(3) ……………	226
第148图	第178(SI46)号住居跡 ……………	167	第185图	土坑出土遺物(4) ……………	227
第149图	第178(SI46)号住居跡出土遺物(1) …	168	第186图	土坑出土遺物(5) ……………	228
第150图	第178(SI46)号住居跡出土遺物(2) …	169	第187图	土坑出土遺物(6) ……………	229
第151图	第179(SI47)号住居跡 ……………	171	第188图	土坑出土遺物(7) ……………	230
第152图	第179(SI47)号住居跡出土遺物 ……	171	第189图	土坑出土遺物(8) ……………	231
第153图	第180(SI48)号住居跡 ……………	172	第190图	土坑出土遺物(9) ……………	232
第154图	第180(SI48)号住居跡出土遺物 ……	172	第191图	土坑出土遺物(10) ……………	233
第155图	第181(SI49)号住居跡 ……………	173	第192图	土坑出土遺物(11) ……………	234
第156图	第181(SI49)号住居跡出土遺物 ……	174	第193图	土坑出土遺物(12) ……………	235
第157图	第182(SI50)号住居跡 ……………	175	第194图	土坑出土遺物(13) ……………	236
第158图	第183(SI51)号住居跡出土遺物 ……	176	第195图	土坑出土遺物(14) ……………	237
第159图	第1号竖穴状遺構 ……………	176	第196图	土坑出土遺物(15) ……………	238
第160图	第4号掘立柱建物跡 ……………	177	第197图	土坑出土遺物(16) ……………	239
第161图	第4号掘立柱建物跡出土遺物 ……	177	第198图	土坑出土遺物(17) ……………	240
第162图	第5号掘立柱建物跡 ……………	178	第199图	土坑出土遺物(18) ……………	241
第163图	第6号掘立柱建物跡 ……………	179	第200图	土坑出土遺物(19) ……………	242
第164图	第6号掘立柱建物跡出土遺物 ……	180	第201图	土坑出土遺物(20) ……………	243
第165图	第7号掘立柱建物跡 ……………	181	第202图	第32号溝跡出土遺物 ……	274
第166图	第8号掘立柱建物跡及凸出土遺物 …	182	第203图	第34号溝跡出土遺物 ……	275
第167图	第9号掘立柱建物跡 ……………	183	第204图	第35号溝跡出土遺物 ……	276
第168图	第10号掘立柱建物跡 ……………	184	第205图	第37号溝跡出土遺物 ……	277
第169图	土 坑(1) ……………	190	第206图	第38号溝跡出土遺物 ……	278
第170图	土 坑(2) ……………	191	第207图	第39号溝跡出土遺物 ……	278
第171图	土 坑(3) ……………	192	第208图	第41号溝跡出土遺物 ……	279
第172图	土 坑(4) ……………	193	第209图	第43(1)号溝跡出土遺物 ……	280
第173图	土 坑(5) ……………	194	第210图	第44(2)号溝跡出土遺物 ……	280
第174图	土 坑(6) ……………	195	第211图	第45(3)号溝跡出土遺物 ……	281
第175图	土 坑(7) ……………	196	第212图	第46B(4)号溝跡出土遺物 ……	282
第176图	土 坑(8) ……………	197	第213图	第47(5)号溝跡出土遺物 ……	283
第177图	土 坑(9) ……………	198	第214图	第46(4)AB~49(7)·74(4)~77号 溝跡 ……………	284
第178图	土 坑(10) ……………	199			

第215図	第46(4)AB～49(7)・74(4)～77号 溝跡土層断面 ……………	285	第246図	第1地点第5号住居跡出土遺物(1) ……	319
第216図	第43(1)～45(3)・50(8)～55(13)号 溝跡 ……………	288	第247図	第1地点第5号住居跡出土遺物(2) ……	320
第217図	第43(1)～45(3)・50(8)～55(13)号 溝跡土層断面 ……………	289	第248図	第1地点第6号住居跡出土遺物 ……	320
第218図	第57(15)～62(20)・64(22)号溝跡…	290	第249図	第1地点第7号住居跡出土遺物 ……	320
第219図	第65～71(29)・73(31)号溝跡…	292	第250図	第1地点第8号住居跡出土遺物 ……	321
第220図	第57(15)号溝跡出土遺物 ……………	294	第251図	第1地点第9号住居跡出土遺物 ……	321
第221図	第57(15)・66(24)～68(26)号溝跡…	295	第252図	第1地点第11号住居跡出土遺物 ……	321
第222図	第57(15)・66(24)～68(26)号溝跡 断面図 ……………	296	第253図	第1地点第13号住居跡出土遺物 ……	322
第223図	第35・39・63・69・70・72号溝跡 ……	297	第254図	第1地点第5号土坑出土遺物 ……	322
第224図	第35・39・63・69・70・72号溝跡 断面図 ……………	298	第255図	久下東遺跡E2・E3地点の近世 土坑墓群(清福寺近世墓地跡) ……	330
第225図	第32・35・40～42号溝跡…	300	第256図	銭貨出土土坑分布図 ……………	331
第226図	第32・35・40～42号溝跡断面図…	301	第257図	近世土坑墓出土銭貨数量対比図…	333
第227図	第32～34・36～38号溝跡 ……………	302	第258図	近世土坑墓出土銭貨枚数別基数…	334
第228図	第32～34・36～38号溝跡断面図…	303	第259図	近世土坑墓出土寛永通宝組合せ別 基数 ……………	335
第229図	第63(21)号溝跡出土遺物 ……………	304	第260図	煙管・火打金出土土坑分布図 ……	336
第230図	第64(22)号溝跡出土遺物 ……………	305	第261図	近世土坑墓出土煙管分類図 ……	336
第231図	第65(23)号溝跡出土遺物 ……………	305	第262図	鏡・数珠玉・刃物・道具出土土坑 分布図 ……………	338
第232図	第66(24)号溝跡出土遺物 ……………	306	第263図	日常雑器出土土坑分布図 ……	340
第233図	第67(25)号溝跡出土遺物 ……………	307	第264図	日常雑器個体数比較図 ……	340
第234図	第68(26)号溝跡出土遺物 ……………	307	第265図	近世土坑墓出土の日常雑器 ……	342
第235図	第70(28)号溝跡出土遺物 ……………	309	第266図	平面形態別土坑墓分布図…	344
第236図	第71(29)号溝跡出土遺物 ……………	311	第267図	近世土坑墓形態別規模比較図…	344
第237図	第72(30)号溝跡出土遺物 ……………	312	第268図	長方形土坑墓集成図 ……………	345
第238図	第75号溝跡 ……………	314	第269図	円形土坑墓A類集成図…	348
第239図	第75号溝跡出土遺物 ……………	315	第270図	円形土坑墓B類集成図(1) ……	349
第240図	第77号溝跡出土遺物 ……………	315	第271図	円形土坑墓B類集成図(2) ……	350
第241図	調査区内出土遺物…	316	第272図	円形木棺底部圧痕規模別基数比較図…	351
第242図	第1地点第2号住居跡出土遺物(1) ……	317	第273図	楕円形土坑墓集成図 ……………	352
第243図	第1地点第2号住居跡出土遺物(2) ……	318	第274図	I期の様相 ……………	354
第244図	第1地点第3号住居跡出土遺物 ……	319	第275図	II期の様相 ……………	355
第245図	第1地点第4号住居跡出土遺物 ……	319	第276図	清福寺近世墓地跡と区画地外の 関連土坑 ……………	356

## 〈 表 目 次 〉

第1表	第112(SI2)号住居跡出土遺物觀察表 …… 9	第35表	第154(SI22)号住居跡出土遺物觀察表…105
第2表	第114(SI9)号住居跡出土遺物觀察表 … 15	第36表	第155(SI23)号住居跡出土遺物觀察表…106
第3表	第115(SI12)号住居跡出土遺物觀察表… 17	第37表	第156(SI24)号住居跡出土遺物觀察表…108
第4表	第116(SI13)号住居跡出土遺物觀察表… 18	第38表	第157(SI25)号住居跡出土遺物觀察表…110
第5表	第117(SI11)号住居跡出土遺物觀察表… 21	第39表	第158(SI26)号住居跡出土遺物觀察表…112
第6表	第92(8)号土坑出土遺物觀察表 …… 24	第40表	第159(SI27)号住居跡出土遺物觀察表…115
第7表	第126(SI4)号住居跡出土遺物觀察表 … 31	第41表	第160(SI28)号住居跡出土遺物觀察表…117
第8表	第127(SI5)号住居跡出土遺物觀察表 … 35	第42表	第161(SI29)号住居跡出土遺物觀察表…119
第9表	第128(SI6)号住居跡出土遺物觀察表 … 38	第43表	第162(SI30)号住居跡出土遺物觀察表…123
第10表	第129(SI3)号住居跡出土遺物觀察表 … 40	第44表	第163(SI31)号住居跡出土遺物觀察表…126
第11表	第130(SI1)号住居跡出土遺物觀察表 … 47	第45表	第164(SI32)号住居跡出土遺物觀察表…128
第12表	第131(SI2)号住居跡出土遺物觀察表 … 49	第46表	第165(SI33)号住居跡出土遺物觀察表…131
第13表	第132(SI7)号住居跡出土遺物觀察表 … 52	第47表	第166(SI34)号住居跡出土遺物觀察表…133
第14表	第13(1)号井戸跡出土遺物觀察表 …… 55	第48表	第167(SI35)号住居跡出土遺物觀察表…136
第15表	第107(3)号土坑出土遺物觀察表 …… 57	第49表	第168(SI36)号住居跡出土遺物觀察表…138
第16表	第108(14)号土坑出土遺物觀察表 …… 57	第50表	第169(SI37)号住居跡出土遺物觀察表…138
第17表	第110(5)号土坑出土遺物觀察表 …… 58	第51表	第170(SI38)号住居跡出土遺物觀察表…143
第18表	第28(2)・29(3)号溝跡出土遺物 觀察表 …… 59	第52表	第171(SI39)号住居跡出土遺物觀察表…146
第19表	第133(SI1)号住居跡出土遺物觀察表 … 68	第53表	第172(SI40)号住居跡出土遺物觀察表…149
第20表	第134(SI2)号住居跡出土遺物觀察表 … 71	第54表	第174(SI42)号住居跡出土遺物觀察表…154
第21表	第135(SI3)号住居跡出土遺物觀察表 … 78	第55表	第175(SI43)号住居跡出土遺物觀察表…156
第22表	第136(SI4)号住居跡出土遺物觀察表 … 78	第56表	第176(SI44)号住居跡出土遺物觀察表…164
第23表	第140(SI8)号住居跡出土遺物觀察表 … 82	第57表	第177(SI45)号住居跡出土遺物觀察表…165
第24表	第141(SI9)号住居跡出土遺物觀察表 … 82	第58表	第178(SI46)号住居跡出土遺物觀察表…169
第25表	第143(SI11)号住居跡出土遺物觀察表… 84	第59表	第179(SI47)号住居跡出土遺物觀察表…171
第26表	第144(SI12)号住居跡出土遺物觀察表… 87	第60表	第180(SI48)号住居跡出土遺物觀察表…172
第27表	第145(SI13)号住居跡出土遺物觀察表… 88	第61表	第181(SI49)号住居跡出土遺物觀察表…174
第28表	第146(SI14)号住居跡出土遺物觀察表… 89	第62表	第183(SI51)号住居跡出土遺物觀察表…176
第29表	第147(SI15)号住居跡出土遺物觀察表… 92	第63表	第4号掘立柱建物跡出土遺物觀察表…177
第30表	第149(SI17)号住居跡出土遺物觀察表… 94	第64表	第6号掘立柱建物跡出土遺物觀察表…180
第31表	第150(SI18)号住居跡出土遺物觀察表… 96	第65表	第8号掘立柱建物跡出土遺物觀察表…182
第32表	第151(SI19)号住居跡出土遺物觀察表… 99	第66表	土坑一覽表 ……185
第33表	第152(SI20)号住居跡出土遺物觀察表…103	第67表	第113号土坑出土遺物觀察表 ……244
第34表	第153(SI21)号住居跡出土遺物觀察表…104	第68表	第114号土坑出土遺物觀察表 ……244
		第69表	第115号土坑出土遺物觀察表 ……244





第144表	第233号土坑出土遺物觀察表	265	第181表	第367号土坑出土遺物觀察表	273
第145表	第234号土坑出土遺物觀察表	265	第182表	第368号土坑出土遺物觀察表	273
第146表	第235号土坑出土遺物觀察表	266	第183表	第371号土坑出土遺物觀察表	273
第147表	第236号土坑出土遺物觀察表	266	第184表	第32号溝跡出土遺物觀察表	274
第148表	第238号土坑出土遺物觀察表	267	第185表	第34号溝跡出土遺物觀察表	275
第149表	第239号土坑出土遺物觀察表	267	第186表	第35号溝跡出土遺物觀察表	276
第150表	第240号土坑出土遺物觀察表	267	第187表	第37号溝跡出土遺物觀察表	277
第151表	第248号土坑出土遺物觀察表	267	第188表	第38号溝跡出土遺物觀察表	278
第152表	第253号土坑出土遺物觀察表	268	第189表	第39号溝跡出土遺物觀察表	278
第153表	第255号土坑出土遺物觀察表	268	第190表	第41号溝跡出土遺物觀察表	279
第154表	第256号土坑出土遺物觀察表	268	第191表	第43(1)号溝跡出土遺物觀察表	280
第155表	第257号土坑出土遺物觀察表	268	第192表	第44(2)号溝跡出土遺物觀察表	281
第156表	第260号土坑出土遺物觀察表	268	第193表	第45(3)号溝跡出土遺物觀察表	282
第157表	第261号土坑出土遺物觀察表	268	第194表	第46AB号溝跡出土遺物觀察表	282
第158表	第262号土坑出土遺物觀察表	269	第195表	第47(5)号溝跡出土遺物觀察表	283
第159表	第263号土坑出土遺物觀察表	269	第196表	第57(15)号溝跡出土遺物觀察表	294
第160表	第264号土坑出土遺物觀察表	270	第197表	第63(21)号溝跡出土遺物觀察表	304
第161表	第265号土坑出土遺物觀察表	270	第198表	第64(22)号溝跡出土遺物觀察表	305
第162表	第266号土坑出土遺物觀察表	270	第199表	第65(23)号溝跡出土遺物觀察表	305
第163表	第268号土坑出土遺物觀察表	270	第200表	第66(24)号溝跡出土遺物觀察表	306
第164表	第269号土坑出土遺物觀察表	270	第201表	第67(25)号溝跡出土遺物觀察表	306
第165表	第271号土坑出土遺物觀察表	271	第202表	第68(26)号溝跡出土遺物觀察表	308
第166表	第322号土坑出土遺物觀察表	271	第203表	第70(28)号溝跡出土遺物觀察表	309
第167表	第347号土坑出土遺物觀察表	271	第204表	第71(29)号溝跡出土遺物觀察表	311
第168表	第348号土坑出土遺物觀察表	271	第205表	第72(30)号溝跡出土遺物觀察表	312
第169表	第349号土坑出土遺物觀察表	271	第206表	第75号溝跡出土遺物觀察表	315
第170表	第351号土坑出土遺物觀察表	271	第207表	第77号溝跡出土遺物觀察表	315
第171表	第352号土坑出土遺物觀察表	272	第208表	調査区内出土遺物觀察表	316
第172表	第353号土坑出土遺物觀察表	272	第209表	第2号住居跡出土遺物觀察表	322
第173表	第354号土坑出土遺物觀察表	272	第210表	第3号住居跡出土遺物觀察表	324
第174表	第355号土坑出土遺物觀察表	272	第211表	第4号住居跡出土遺物觀察表	324
第175表	第356号土坑出土遺物觀察表	272	第212表	第5号住居跡出土遺物觀察表	324
第176表	第357号土坑出土遺物觀察表	272	第213表	第6号住居跡出土遺物觀察表	325
第177表	第360号土坑出土遺物觀察表	273	第214表	第7号住居跡出土遺物觀察表	325
第178表	第361号土坑出土遺物觀察表	273	第215表	第8号住居跡出土遺物觀察表	325
第179表	第364号土坑出土遺物觀察表	273	第216表	第9号住居跡出土遺物觀察表	326
第180表	第365号土坑出土遺物觀察表	273	第217表	第11号住居跡出土遺物觀察表	326

第218表 第13号住居跡出土遺物観察表 ……326  
 第219表 第5号土坑出土遺物観察表 ……326

第220表 樹種同定結果一覧表 ……328  
 第221表 近世土坑墓出土銭貨種類別数量表 ……332

## < 写真図版目次 >

**図版1** 久下東遺跡C・D・E地点(北より)  
 久下東遺跡C・D・E地点(西より)

**図版2** 久下東遺跡C地点全景(北より)  
 久下東遺跡C1・C2地点全景

**図版3** 第112(SI2)号住居跡  
 第112(SI2)号住居跡遺物出土状態  
 第112(SI2)号住居跡カマド  
 第113(SI10)号住居跡  
 第114(SI9)号住居跡  
 第114(SI9)号住居跡カマド  
 第114(SI9)号住居跡遺物出土状態(1)  
 第114(SI9)号住居跡遺物出土状態(2)

**図版4** 第115(SI12)号住居跡  
 第115(SI12)号住居跡カマド  
 第116(SI13)号住居跡  
 第116(SI13)号住居跡カマド  
 第117(SI11)号住居跡  
 第117(SI11)号住居跡カマド  
 第117(SI11)号住居跡遺物出土状態  
 第117(SI11)号住居跡掘り方

**図版5** 第88(SK10)号土坑  
 第89(SK9)号土坑  
 第91(SK21)号土坑  
 第92(SK8)号土坑  
 第93(SK12)号土坑  
 第94(SK13)号土坑  
 第96(SK15)号土坑  
 第113(SI10)～116(SI13)号住居跡

**図版6** 久下東遺跡D地点全景(北から)  
 久下東遺跡D1・D2・D3地点全景(真上から)

**図版7** 第126(SI4)号住居跡

第126(SI4)号住居跡カマド  
 第126(SI4)号住居跡遺物出土状態  
 第126(SI4)号住居跡カマド遺物出土状態  
 第126(SI4)号住居跡和鏡出土状態  
 第126(SI4)・127(SI15)号住居跡  
 第127(SI15)号住居跡  
 第127(SI15)号住居跡遺物出土状態

**図版8** 第128(SI6)号住居跡  
 第128(SI6)号住居跡カマド  
 第129(SI13)号住居跡  
 第129(SI13)号住居跡遺物出土状態  
 第129(SI13)号住居跡カマド  
 第129(SI13)号住居跡貯蔵穴  
 第130(SI1)号住居跡  
 第130(SI1)号住居跡カマド

**図版9** 第131(SI2)号住居跡  
 第131(SI2)号住居跡遺物出土状態  
 第132(SI7)号住居跡  
 第132(SI7)号住居跡遺物出土状態  
 第1号掘立柱建物跡  
 第13(1)号井戸跡  
 第105(6)号土坑  
 第106(15)号土坑

**図版10** 第107(3)号土坑  
 第108(14)号土坑  
 第109(2)号土坑  
 第110(5)号土坑  
 第111(1)号土坑  
 第27(1)～30(5)号溝跡  
 第27(1)～29(3)号溝跡  
 第31(7)号溝跡

- 図版11** 久下東遺跡 E 2・E 3地点全景(真上から)  
久下東遺跡 E 2・E 3地点全景(北西から)
- 図版12** 久下東遺跡 E 2地点全景(真上から)  
久下東遺跡 E 2地点全景(東から)
- 図版13** 久下東遺跡 E 3地点全景(真上から)  
久下東遺跡 E 3地点全景(北から)
- 図版14** 久下東遺跡 E 4地点全景(南から)  
久下東遺跡 E 4地点全景(北から)
- 図版15** 第133(SI1)号住居跡  
第133(SI1)号住居跡カマド  
第134(SI2)号住居跡  
第134(SI2)号住居跡カマド  
第134(SI2)号住居跡遺物出土状態(1)  
第134(SI2)号住居跡遺物出土状態(2)  
第134(SI2)号住居跡遺物出土状態(3)  
第134(SI2)号住居跡遺物出土状態(4)
- 図版16** 第135(SI3)号住居跡  
第135(SI3)号住居跡カマド  
第135(SI3)号住居跡遺物出土状態  
第135(SI3)号住居跡カマド遺物出土状態  
第136(SI4)号住居跡  
第136(SI4)号住居跡カマド  
第140(SI8)号住居跡  
第140(SI8)号住居跡カマド
- 図版17** 第140(SI8)号住居跡遺物出土状態(1)  
第140(SI8)号住居跡遺物出土状態(2)  
第141(SI9)号住居跡  
第142(SI10)号住居跡  
第143(SI11)号住居跡  
第143(SI11)号住居跡カマド  
第144(SI12)号住居跡  
第145(SI13)号住居跡
- 図版18** 第146(SI14)号住居跡  
第146(SI14)号住居跡カマド  
第147(SI15)号住居跡  
第147(SI15)号住居跡カマド  
第148(SI16)号住居跡
- 第148(SI16)号住居跡カマド・貯蔵穴  
第149(SI17)号住居跡  
第150(SI18)号住居跡
- 図版19** 第150(SI18)号住居跡遺物出土状態  
第150(SI18)号住居跡カマド  
第151(SI19)号住居跡  
第151(SI19)号住居跡カマド  
第152(SI20)号住居跡  
第152(SI20)号住居跡カマド  
第153(SI21)号住居跡  
第153(SI21)号住居跡遺物出土状態
- 図版20** 第154(SI22)号住居跡遺物出土状態  
第154(SI22)号住居跡戸  
第155(SI23)号住居跡  
第155(SI23)号住居跡カマド  
第156(SI24)号住居跡  
第156(SI24)号住居跡カマド  
第157(SI25)号住居跡  
第157(SI25)号住居跡遺物出土状態
- 図版21** 第158(SI26)号住居跡  
第158(SI26)号住居跡カマド  
第158(SI26)号住居跡遺物出土状態(1)  
第158(SI26)号住居跡遺物出土状態(2)  
第159(SI27)号住居跡  
第159(SI27)号住居跡遺物出土状態  
第160(SI28)号住居跡  
第160(SI28)号住居跡遺物出土状態
- 図版22** 第161(SI29)号住居跡  
第161(SI29)号住居跡カマド  
第162(SI30)号住居跡  
第162(SI30)号住居跡カマド  
第163(SI31)号住居跡  
第163(SI31)号住居跡遺物出土状態  
第164(SI32)号住居跡  
第164(SI32)号住居跡貯蔵穴
- 図版23** 第165(SI33)号住居跡  
第165(SI33)号住居跡カマド

- 第166(SI34)号住居跡  
 第166(SI34)号住居跡カマド  
 第167(SI35)号住居跡  
 第167(SI35)号住居跡カマド  
 第168(SI36)号住居跡  
 第168(SI36)号住居跡カマド
- 図版24** 第169(SI37)号住居跡  
 第169(SI37)号住居跡カマド  
 第169(SI37)号住居跡遺物出土状態(1)  
 第169(SI37)号住居跡遺物出土状態(2)  
 第170(SI38)号住居跡  
 第170(SI38)号住居跡遺物出土状態  
 第171(SI39)号住居跡  
 第171(SI39)号住居跡遺物出土状態
- 図版25** 第172(SI40)号住居跡  
 第172(SI40)号住居跡カマド  
 第172(SI40)号住居跡貯蔵穴  
 第172(SI40)号住居跡遺物出土状態  
 第172(SI40)号住居跡カマド遺物出土状態  
 第172(SI40)号住居跡貯蔵穴遺物出土状態  
 第173(SI41)号住居跡  
 第174(SI42)号住居跡
- 図版26** 第175(SI43)号住居跡  
 第175(SI43)号住居跡遺物出土状態  
 第175(SI43)号住居跡カマド  
 第175(SI43)号住居跡カマド遺物出土状態  
 第176(SI44)号住居跡  
 第176(SI44)号住居跡カマド  
 第177(SI45)号住居跡  
 第177(SI45)号住居跡カマド
- 図版27** 第178(SI46)号住居跡  
 第178(SI46)号住居跡カマド  
 第179(SI47)号住居跡  
 第179(SI47)号住居跡カマド  
 第179(SI47)号住居跡貯蔵穴  
 第180(SI48)号住居跡  
 第181(SI49)号住居跡
- 第181(SI49)号住居跡貯蔵穴
- 図版28** 第182(SI50)号住居跡  
 第1号竪穴状遺構  
 第4号掘立柱建物跡  
 第5号掘立柱建物跡  
 第6号掘立柱建物跡  
 第7号掘立柱建物跡  
 第8号掘立柱建物跡  
 第9号掘立柱建物跡
- 図版29** E 3地点近世土坑墓群(西から)  
 E 3地点近世土坑墓群(南から)
- 図版30** E 3第113号土坑  
 E 3第114号土坑  
 E 3第115号土坑  
 E 3第116号土坑  
 E 3第117号土坑  
 E 3第119号土坑  
 E 3第120号土坑  
 E 3第121号土坑
- 図版31** E 3第122号土坑  
 E 3第122号土坑骨出土状態  
 E 3第123号土坑  
 E 3第123号土坑骨出土状態  
 E 3第124号土坑  
 E 3第125号土坑  
 E 3第126号土坑  
 E 3第127号土坑
- 図版32** E 3第128号土坑  
 E 3第129号土坑  
 E 3第130号土坑  
 E 3第131号土坑  
 E 3第132号土坑  
 E 3第132号土坑遺物出土状態  
 E 3第133号土坑  
 E 3第134・135号土坑
- 図版33** E 3第136号土坑  
 E 3第137号土坑

- E 3第138号土坑  
E 3第139号土坑  
E 3第139号土坑遺物出土状態  
E 3第140号土坑  
E 3第141号土坑  
E 3第141号土坑遺物出土状態
- 図版34** E 3第142号土坑  
E 3第143号土坑  
E 3第143号土坑遺物出土状態  
E 3第144号土坑  
E 3第145号土坑  
E 3第145号土坑遺物出土状態  
E 3第146号土坑  
E 3第147号土坑
- 図版35** E 3第148号土坑  
E 3第148号土坑遺物出土状態  
E 3第149号土坑  
E 3第150号土坑  
E 3第151号土坑  
E 3第151号土坑遺物出土状態  
E 3第152号土坑  
E 3第152号土坑錢貨・木片出土状態
- 図版36** E 3第153号土坑  
E 3第154号土坑  
E 3第155号土坑  
E 3第156号土坑  
E 3第157号土坑  
E 3第158号土坑  
E 3第159号土坑  
E 3第160号土坑
- 図版37** E 3第161号土坑  
E 3第162号土坑  
E 3第163・164号土坑  
E 3第165号土坑  
E 3第166号土坑  
E 3第167号土坑  
E 3第168号土坑
- E 3第169号土坑
- 図版38** E 3第170号土坑  
E 3第171号土坑  
E 3第172号土坑  
E 3第173号土坑  
E 3第173号土坑遺物出土状態  
E 3第173号土坑錢貨出土状態  
E 3第174号土坑  
E 3第175号土坑
- 図版39** E 3第176号土坑  
E 3第177・178号土坑  
E 3第177号土坑遺物出土状態  
E 3第178号土坑ナイフ形石器出土状態  
E 3第179号土坑  
E 3第180号土坑  
E 3第181号土坑  
E 3第181号土坑遺物出土状態
- 図版40** E 3第182号土坑  
E 3第183号土坑  
E 3第184号土坑  
E 3第185号土坑  
E 3第185号土坑遺物出土状態(1)  
E 3第185号土坑遺物出土状態(2)  
E 3第186号土坑  
E 3第187号土坑
- 図版41** E 3第188号土坑  
E 3第189号土坑  
E 3第190号土坑  
E 3第190号土坑桶底部瓦痕  
E 3第191号土坑  
E 3第192号土坑  
E 3第193号土坑  
E 3第193号土坑遺物出土状態
- 図版42** E 3第194号土坑  
E 3第194号土坑錢貨出土状態  
E 3第195号土坑  
E 3第195号土坑遺物出土状態

E 3第196号土坑  
E 3第197号土坑  
E 3第198号土坑  
E 3第199号土坑  
**图版43** E 3第200号土坑  
E 3第201号土坑  
E 3第202号土坑  
E 3第203号土坑  
E 3第203号土坑桶底部压痕  
E 3第204号土坑  
E 3第204号土坑遺物出土状态  
E 3第205号土坑  
**图版44** E 3第206号土坑  
E 3第206号土坑遺物出土状态  
E 3第207号土坑  
E 3第207号土坑遺物出土状态  
E 3第208号土坑  
E 3第209号土坑  
E 3第210号土坑  
E 3第210号土坑遺物出土状态  
**图版45** E 3第211号土坑  
E 3第212号土坑  
E 3第212号土坑桶底部压痕  
E 3第212号土坑土層断面  
E 3第213号土坑  
E 3第213号土坑遺物出土状态  
E 3第214号土坑  
E 3第215号土坑  
**图版46** E 3第216号土坑  
E 3第216号土坑遺物出土状态  
E 3第218号土坑  
E 3第218号土坑遺物出土状态  
E 3第219号土坑  
E 3第219号土坑遺物出土状态  
E 3第220号土坑  
E 3第220号土坑錢貨出土状态  
**图版47** E 3第221号土坑

E 3第221号土坑遺物出土状态  
E 3第222号土坑  
E 3第223·224号土坑  
E 3第223号土坑遺物出土状态  
E 3第224号土坑遺物出土状态  
E 3第225号土坑  
E 3第226号土坑  
**图版48** E 3第227号土坑  
E 3第228号土坑  
E 3第229号土坑  
E 3第229号土坑桶底部压痕  
E 3第230号土坑  
E 3第230号土坑遺物出土状态  
E 3第231号土坑  
E 3第231号土坑遺物出土状态  
**图版49** E 3第232号土坑  
E 3第232号土坑錢貨出土状态  
E 3第233号土坑  
E 3第234号土坑  
E 3第234号土坑かわらけ出土状态  
E 3第234号土坑錢貨出土状态  
E 3第235号土坑  
E 3第235号土坑遺物出土状态  
**图版50** E 3第236号土坑  
E 3第236号土坑遺物出土状态  
E 3第238号土坑  
E 3第238号土坑遺物出土状态  
E 3第239号土坑  
E 3第239号土坑錢貨出土状态  
E 3第240号土坑  
E 3第240号土坑遺物出土状态  
**图版51** E 3第241号土坑  
E 2第243(2)号土坑  
E 2第244(3)号土坑  
E 2第245(4)号土坑  
E 2第246(5)号土坑  
E 2第247(6)号土坑

E 2第248(7)号土坑  
E 2第248(7)号土坑出土状态  
**图版52** E 2第248(7)号土坑遺物出土状态  
E 2第249号土坑  
E 3第250号土坑  
E 3第251号土坑  
E 3第252号土坑土層断面  
E 3第255号土坑  
E 3第257号土坑  
E 3第258号土坑  
**图版53** E 3第259号土坑  
E 3第259号土坑桶底部压痕  
E 3第260号土坑  
E 3第260号土坑錢貨出土状态  
E 3第261号土坑  
E 3第261号土坑遺物出土状态  
E 3第262号土坑  
E 3第262号土坑遺物出土状态  
**图版54** E 3第263号土坑  
E 3第263号土坑遺物出土状态  
E 3第264号土坑  
E 3第264号土坑錢貨出土状态  
E 3第265号土坑  
E 3第265号土坑桶底部压痕  
E 3第266号土坑  
E 3第267号土坑  
**图版55** E 3第268号土坑  
E 3第268号土坑遺物出土状态  
E 3第269号土坑  
E 3第269号土坑遺物出土状态  
E 2第271(10)号土坑  
E 2第320(59)号土坑  
E 2第321(60)号土坑  
E 2第322(61)号土坑  
**图版56** E 2第223(62)号土坑  
E 2第324(63)号土坑  
E 2第325(64)~327(66)号土坑

E 2第328(67)·329(68)号土坑  
E 2第331(70)号土坑  
E 3第334号土坑  
E 3第335号土坑  
E 3第336号土坑  
**图版57** E 3第337号土坑  
E 3第338号土坑  
E 3第339号土坑  
E 3第340号土坑  
E 3第341号土坑  
E 3第342号土坑  
E 2第343(82)号土坑  
E 2第344(83)号土坑  
**图版58** E 2第345(84)号土坑  
E 2第345(85)号土坑  
E 2第347(86)号土坑  
E 2第348(87)号土坑  
E 2第348(87)号土坑錢貨出土状态  
E 2第349(88)号土坑  
E 2第350(89)号土坑  
E 2第351(90)号土坑  
**图版59** E 2第352(91)号土坑  
E 2第352(91)号土坑遺物出土状态  
E 2第353(92)号土坑  
E 2第354(93)号土坑  
E 2第355(94)号土坑  
E 2第355(94)号土坑遺物出土状态  
E 2第356(95)号土坑  
E 2第357(96)号土坑  
**图版60** E 2第357(96)号土坑遺物出土状态  
E 2第357(96)号土坑錢貨出土状态  
E 2第358(97)号土坑  
E 2第359(98)·365(104)号土坑  
E 2第360(99)号土坑  
E 2第361(100)号土坑  
E 2第362(101)·363(102)号土坑  
E 2第364(103)号土坑



- 図版61** E 2第366(105)号土坑  
E 2第367(106)・368(107)号土坑  
E 2第369(108)号土坑  
E 2第370(109)号土坑  
E 2第371(110)号土坑  
E 3第112・372(111)号土坑  
E 2第47(5)～49(7)・74(4)号溝跡  
E 2第43(1)・44(2)・50(8)～52(10)号溝跡
- 図版62** E 2第45(3)・50(8)・55(13)号溝跡  
E 2第58(16)～60(18)号溝跡  
E 2第65(23)号溝跡  
E 2第72(30)号溝跡  
E 2第39・72(30)号溝跡(西から)  
E 2第39・63(21)・72(30)号溝跡(北から)  
E 2第32・35・41・42号溝跡  
E 2第32号溝跡遺物出土状態
- 図版63** E 3第33・37・38号溝跡  
E 3第35・37・38号溝跡  
E 3第63(21)・70(38)号溝跡土層断面  
E 3第65(23)・73(31)号溝跡  
E 3第65(23)・68(26)・71(29)・73(31)号溝跡  
E 3第67(25)・68(26)号溝跡  
E 4第46・47・74・76・77号溝跡(東から)  
E 4第46・47・74・76・77号溝跡(西から)
- 図版64** E 4第49号溝跡(東から)  
E 4第49号溝跡(西から)  
E 4第75号溝跡  
E 4第75号溝跡遺物出土状態  
E 2地点調査風景  
E 3地点調査風景  
現地説明会風景(1)  
現地説明会風景(2)
- 図版65** C 2地点住居跡出土遺物
- 図版66** C 2地点住居跡出土遺物
- 図版67** C 2地点住居跡出土遺物
- 図版68** C 2地点住居跡・土坑、D 2地点住居跡出土遺物
- 図版69** D 2地点住居跡出土遺物
- 図版70** D 2地点住居跡出土遺物
- 図版71** D 2地点住居跡出土遺物
- 図版72** D 2地点住居跡出土遺物
- 図版73** D 2地点住居跡出土遺物
- 図版74** D 2地点住居跡出土遺物
- 図版75** D 2地点井戸跡・土坑・溝跡、E 2地点住居跡出土遺物
- 図版76** E 2地点住居跡出土遺物
- 図版77** E 2地点住居跡出土遺物
- 図版78** E 2地点住居跡出土遺物
- 図版79** E 2・E 3地点住居跡出土遺物
- 図版80** E 3地点住居跡出土遺物
- 図版81** E 3地点住居跡出土遺物
- 図版82** E 3地点住居跡出土遺物
- 図版83** E 3地点住居跡出土遺物
- 図版84** E 3地点住居跡出土遺物
- 図版85** E 3地点住居跡出土遺物
- 図版86** E 3地点住居跡出土遺物
- 図版87** E 3地点住居跡出土遺物
- 図版88** E 3地点住居跡出土遺物
- 図版89** E 3地点住居跡出土遺物
- 図版90** E 3地点住居跡出土遺物
- 図版91** E 3地点住居跡出土遺物
- 図版92** E 3地点住居跡出土遺物
- 図版93** E 3地点住居跡出土遺物
- 図版94** E 3地点住居跡出土遺物
- 図版95** E 3地点住居跡出土遺物
- 図版96** E 3地点住居跡・掘立柱建物跡・土坑出土遺物
- 図版97** E 3地点土坑出土遺物
- 図版98** E 3地点土坑出土遺物
- 図版99** E 2・E 3地点土坑出土遺物
- 図版100** E 2・E 3地点土坑出土遺物
- 図版101** E 2・E 3地点土坑・溝跡出土遺物

- 圖版102 E 2・E 3・E 4地点溝跡出土遺物
- 圖版103 E 2・E 3地点溝跡出土遺物
- 圖版104 E 2・E 3・E 4地点溝跡出土遺物
- 圖版105 E 2・E 3地点近世土坑墓群出土  
木製品樹種同定試料(1)
- 圖版106 E 2・E 3地点近世土坑墓群出土  
木製品樹種同定試料(2)
- 圖版107 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(1)
- 圖版108 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(2)
- 圖版109 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(3)
- 圖版110 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(4)
- 圖版111 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(5)
- 圖版112 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(6)
- 圖版113 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(7)
- 圖版114 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(8)
- 圖版115 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(9)
- 圖版116 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(10)
- 圖版117 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(11)
- 圖版118 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(12)
- 圖版119 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(13)
- 圖版120 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(14)
- 圖版121 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(15)
- 圖版122 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(16)
- 圖版123 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(17)
- 圖版124 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(18)
- 圖版125 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(19)
- 圖版126 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(20)
- 圖版127 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(21)
- 圖版128 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(22)
- 圖版129 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(23)
- 圖版130 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(24)
- 圖版131 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(25)
- 圖版132 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(26)
- 圖版133 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(27)
- 圖版134 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(28)
- 圖版135 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(29)
- 圖版136 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(30)
- 圖版137 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(31)
- 圖版138 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(32)
- 圖版139 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(33)
- 圖版140 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(34)
- 圖版141 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(35)
- 圖版142 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(36)
- 圖版143 E 2・E 3地点近世土坑墓出土錢貨(37)  
E 2・E 3地点溝跡出土錢貨(1)
- 圖版144 E 3地点溝跡出土錢貨(2)

### 発 掘 調 査 組 織

#### <平成20年度>

<b>主体者</b>	本庄市教育委員会		
	教 育 長	茂木 孝彦	
<b>事務局</b>	事 務 局 長	丸山 茂	
	文化財保護課長	備田 英夫	
	課 長 補 佐	鈴木 徳雄	
	埋蔵文化財係長	太田 博之	
	主 査	恋河内昭彦(調査担当)	
	主 任	大熊 季広	
	主 任	松澤 浩一	
	主 事	松本 完	
	臨 時 職 員	の野 善行(調査担当)	
	調 査 員	高林 真人(兼測研)	

#### <平成22年度>

<b>主体者</b>	本庄市教育委員会		
	教 育 長	茂木 孝彦	
<b>事務局</b>	事 務 局 長	腰塚 修	
	文化財保護課長	金井 孝夫	
	副参事兼課長補佐	鈴木 徳雄	
	埋蔵文化財係長	太田 博之	
	主 査	恋河内昭彦	
	主 査	大熊 季広	
	主 査	松澤 浩一	
	主 任	松本 完	
	臨 時 職 員	の野 善行(調査担当)	
	調 査 員	高林 真人(兼測研)	

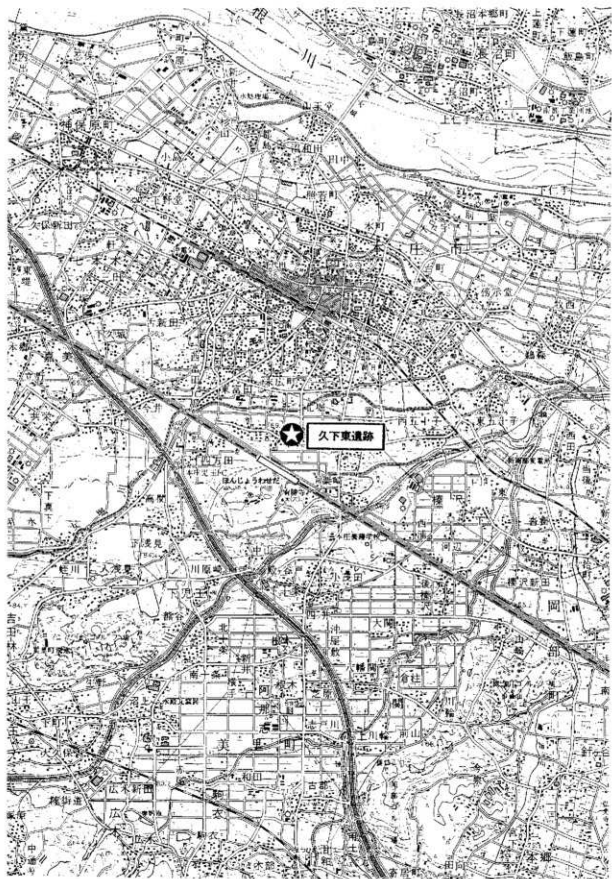
### 整 理・報 告 書 刊 行 組 織

#### <平成27年度>

<b>主体者</b>	本庄市教育委員会		
	教 育 長	勝山 勉	
<b>事務局</b>	事 務 局 長	稲田 幸也	
	文化財保護課長	川上 美恵	
	課 長 補 佐 兼		
	埋蔵文化財係長	太田 博之	
	主 幹	恋河内昭彦(整理担当)	
	主 査	松本 完	
	主 査	徳山 寿樹	
	主 事	栗原 秀人	
	臨 時 職 員	の野 善行	

#### <平成28年度>

<b>主体者</b>	本庄市教育委員会		
	教 育 長	勝山 勉	
<b>事務局</b>	事 務 局 長	稲田 幸也	
	次 長	山田 由幸	
	文化財保護課長	杉原 初	
	課 長 補 佐 兼		
	埋蔵文化財係長	太田 博之	
	主 幹	恋河内昭彦(整理担当)	
	主 査	松本 完	
	主 査	徳山 寿樹	
	主 任	の野 善行	
	臨 時 職 員	中嶋 淳子	



第1図 遺跡の位置

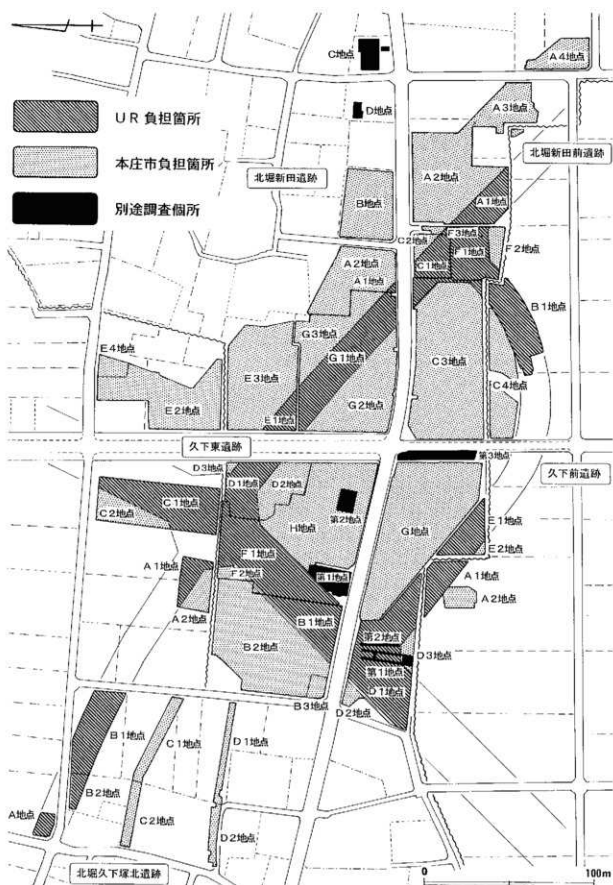
## 第 I 章 発掘調査に至る経緯

本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、平成18年9月に事業認可を受けて、同年11月10日に独立行政法人都市再生機構(U R)本庄都市開発事務所・本庄市・埼玉県教育委員会・本庄市教育委員会の4者によって締結された「本庄早稲田駅周辺地区埋蔵文化財に関する協定書」に基づいて、同年12月より本庄市教育委員会が実施している。

事業地内の発掘調査は、その費用負担の違いにより、機構(U R)側の費用負担箇所である都市計画道路の建設区域と、本庄市の費用負担箇所であるそれ以外の区域(沿道サービス用地・産業業務用地・商業業務用地など)に、それぞれ地点を分けている(第2図)。これらの発掘調査予定区域は、工事計画との関係から都市計画道路建設区域を優先しながら、調査が可能になった部分から遺跡(埋蔵文化財包蔵地)毎にアルファベットによる地点名を付けて、随時調査を実施している。そのため、調査地点は調査対象区域内で細かく錯乱したような配置になっているが、年度毎に発掘調査を実施した地点は、以下のとおりである。

- <平成18年度> 機構負担区域 — 七色塚遺跡B 1地点、北堀新田前遺跡A 1地点  
市負担区域 — 七色塚遺跡B 2地点、北堀新田前遺跡A 2～A 4地点
- <平成19年度> 機構負担区域 — 浅見山I遺跡A 1・A 2地点、久下東遺跡A 1・B 1地点、  
北堀久下塚北遺跡A地点  
市負担区域 — 浅見山I遺跡B 1・B 2地点、久下東遺跡A 2・B 2地点
- <平成20年度> 機構負担区域 — 久下東遺跡C 1・D 1・E 1地点、久下前遺跡A 1・B 1地点、  
北堀久下塚北遺跡B地点  
市負担区域 — 久下東遺跡B 3・C 2・D 2・D 3・E 2・E 3地点、  
北堀久下塚北遺跡C 1・D 1地点
- <平成21年度> 機構負担区域 — 久下前遺跡C 1地点、北堀新田遺跡A 1地点、  
宥勝寺北裏遺跡A 1・B 1地点  
市負担区域 — 久下前遺跡C 2・C 3地点、北堀新田遺跡A 2地点(南側)、  
北堀久下塚北遺跡C 2・D 2地点、  
宥勝寺北裏遺跡A 2・B 2地点
- <平成22年度> 機構負担区域 — 久下東遺跡F 1・G 1地点、久下前遺跡D 1・E 1・F 1地点  
市負担区域 — 久下東遺跡E 4・F 2地点、  
久下前遺跡A 2・C 4・D 2・D 3・E 2・F 2・F 3地点、  
北堀新田遺跡A 2地点(北側)・B地点
- <平成23年度> 市負担区域 — 久下東G 2・G 3地点・H地点、久下前遺跡G地点
- <平成24年度> 機構負担区域 — 宥勝寺北裏遺跡C地点

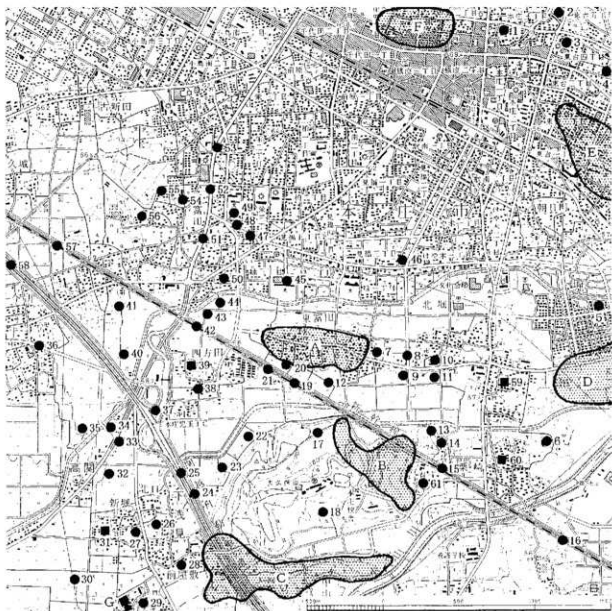
今回報告するのは、市負担区域として平成20年度に調査した久下東遺跡のC 2・D 2・D 3・E 2・E 3地点と、同じく市負担区域として平成22年度に調査した久下東遺跡のE 4地点の計6地点分である。



第2図 北堀久下塚北・久下東・久下前・北堀新田・北堀新田前道跡調査地点配置図



第3図 久下東遺跡本報告地点位置図



第4図 周辺の主要遺跡

1. 城山遺跡
  2. 天神林遺跡
  3. 天神林Ⅱ遺跡
  4. 薬師堂遺跡
  5. 田端屋敷遺跡
  6. 東本庄遺跡
  7. 北堀久下塚北遺跡
  8. 久下東遺跡
  9. 久下前遺跡
  10. 北堀新田遺跡
  11. 北堀新田前遺跡
  12. 七色塚遺跡
  13. 有勝寺裏塚輪軸跡
  14. 有勝寺北裏遺跡
  15. 東谷遺跡
  16. 古川端遺跡
  17. 浅見山1遺跡
  18. 大久保山遺跡
  19. 下田遺跡
  20. 元富遺跡
  21. 東富田観音塚遺跡
  22. 山根遺跡
  23. 根田遺跡
  24. 雷電下遺跡
  25. 飯玉東遺跡
  26. 中畑遺跡
  27. 天神耕地遺跡
  28. 南ノ前遺跡
  29. 鷺山南遺跡
  30. 浅見境北遺跡
  31. 関根氏館跡
  32. 東牧西分遺跡
  33. 梅沢遺跡
  34. 川越田遺跡
  35. 今井川越田遺跡
  36. 北塚遺跡
  37. 後張遺跡
  38. 四方田遺跡
  39. 四方田氏館跡
  40. 今井条里遺跡
  41. 地神・塔頭遺跡
  42. 九反田遺跡
  43. 西富田前田遺跡
  44. 西富田・四方田条里遺跡
  45. 雌塚遺跡
  46. 笠ヶ谷戸遺跡
  47. 南大通り線内遺跡
  48. 薬師元屋鋪遺跡
  49. 薬師遺跡
  50. 西富田本郷遺跡
  51. 社具路遺跡
  52. 夏目遺跡
  53. 二本松遺跡
  54. 夏目西遺跡
  55. 弥藤次遺跡
  56. 西富田新田遺跡
  57. 諏訪遺跡
  58. 九城前遺跡
  59. 北堀本田館跡
  60. 栗崎館跡
  61. 大久保山寺院跡
- A. 東富田古墳群 B. 大久保山古墳群 C. 塚本山古墳群 D. 西五十子遺跡群 E. 塚合古墳群 F. 北原古墳群 G. 鷺山古墳



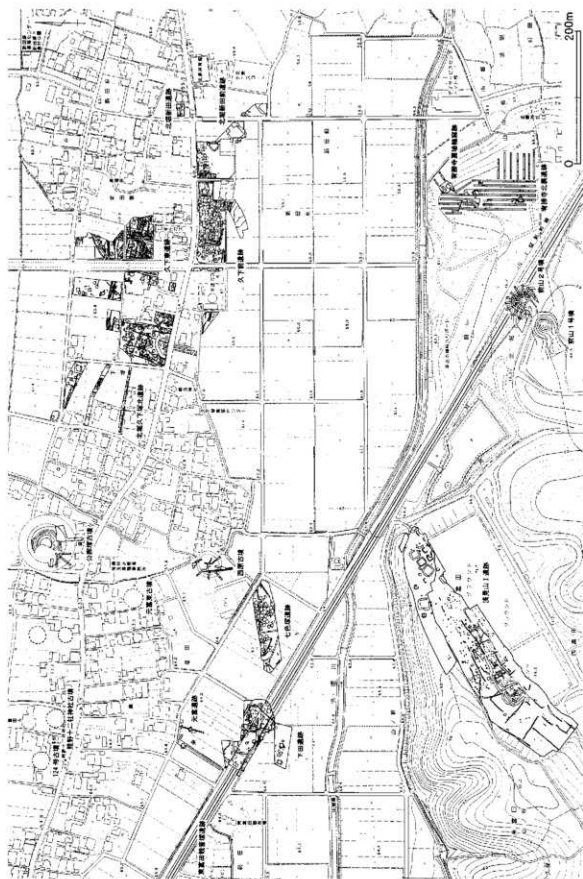
## 第二章 遺跡の立地と歴史的環境

今回報告する久下東遺跡C2・D2・D3・E2・E3・E4の6地点は、上越新幹線本庄早稲田駅の北側に位置する低地部の東西方向に帯状に延びる微高地に立地している(第5図)。遺跡の周辺は、埼玉県と群馬県の県境をなす神流川によって形成された神流川扇状地の東端部にあたり、秩父山地の北縁にあたる上武山地内の湧水を水源とする金鑽川や旧赤根川などの小河川を集めて北東方向に流れる現在の女堀川の下流域にあたる。久下東遺跡は、この女堀川低地の女堀川と児玉町高間地内で同河川から分岐する男堀川に挟まれた標高59～63mを測る東西方向に帯状に延びる微高地に立地し、北側には、女堀川を挟んで水田部とあまり比高差がない低平で広大な本庄台地が、南側には男堀川を挟んで児玉丘陵から列状に並ぶ残丘性独立丘陵の大久保山が対峙している。

本遺跡周辺の女堀川下流域の各時代の集落遺跡は、低地内の自然堤防や微高地上、低地周縁の本庄台地の南側縁辺部、大久保山残丘上やその残丘斜面下の低台地上の主に3ヶ所に立地している。また、低地内の水田部には、現代の土地改良事業によるほ場整備が実施される以前までは、一町四方の方格地割りが連続する条里形地割り(児玉条里遺跡)が連続して認められた。

当地域では、古くは旧石器時代から遺跡の存在が認められるが、古墳時代になって遺跡数が爆発的に増加し、特に前時代の丘陵部を集落立地の主体とした弥生時代後期と異なり、古墳時代前期より低地内への集落の進出が顕著に認められる。これらの低地内に進出した集落は、弥生時代からの伝統的な在来系土器ではなく、東海・畿内・北陸・南関東地方などの系譜をもつ外来系土器を主体にしており、おそらく当地域の弥生時代までの水田経営とは技術的系譜を異にした集団によって、在来集団を取り込んだ労働力の再編成と、灌漑水路の掘削による低地内の開発が積極的に行われていったものと思われる。この当地域における低地開発の成功は、その後の中・後期の集落遺跡の安定的な増加からも窺え、当地域でも地域社会の再編成の象徴として、前期後葉には大久保山残丘上に前方後円墳とされる前山1号墳、中期前葉には方墳とされる前山2号墳(松本・町田2002)、中期中葉には低地内の微高地上に大形円墳の公野塚古墳(増田・坂本他1986)などの首長墓級の古墳が築造され、後期には多数の小円墳を主体とする東富岡古墳群、大久保山古墳群、西五十子古墳群などの群集墳が地域社会の奥津城として形成される。当地域周辺では、7世紀後半の白鳳時代になると、流域の低地全域にみられる条里形地割り(児玉条里)の施工と呼応してか、低地内の集落は低地周辺部に移動する傾向が見られる。しかしながら、下流域では本遺跡をはじめ、古墳時代後期から継続的に立地する集落が多く、古墳時代前期から平安時代中期まで、集落の立地傾向にあまり大きな変化は見られないようである。

中世の遺跡は、本遺跡周辺の下流域では比較的多く確認されているが、その性格を明らかにできたものは非常に少ない。児玉地方は、平安時代末から鎌倉時代初期にかけて活躍した武蔵七党の児玉党の本貫地であり、当地域は地名から児玉党久下塚氏との関係が深い地域と考えられる。中世後期の15世紀後半には、関東内乱の象徴でもある古河公方と敵対した関東管領上杉氏側の一大防衛線の拠点である五十子陣が、本遺跡の東側約1.5kmの女堀川と身馴川(現小山川)の合流地点に築かれており、それに関係する遺跡も当地域には多く存在するものと思われる。また、本遺跡周辺では中世の屋敷や村落の一部と考えられる遺構も多く検出されているが、南側の大久保山残丘を中心に、鎌倉永福寺の創建期瓦など、中世初期からの瓦の出土が比較的多く見られる傾向がある。



第5図 周辺の既調査遺跡(恋河内・野2010の第168図を一部改変)

## 第三章 C2地点の調査

### 第1節 C2地点の概要

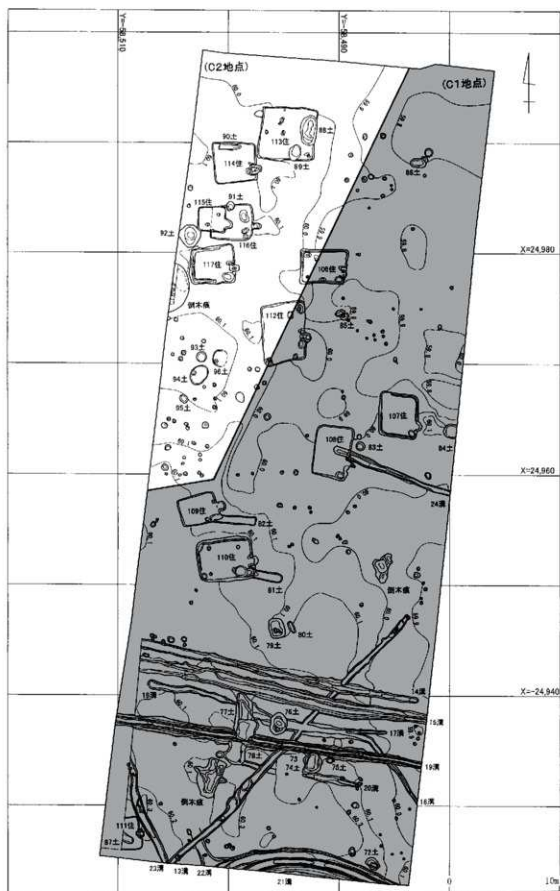
久下東遺跡のC地点は、本庄早稲田駅周辺土地画整理事業に伴って発掘調査を実施した久下東遺跡内の全調査地点の中で、東側のE2・E4地点と同じく最も北側に位置する(第3図)。調査区域は、標高60m前後を測り、北側に向かって緩やかに傾斜しながら徐々に低くなる地形で、そのさらに北側は東西方向に流路をとる女堀川の右岸低地に至る。C地点の調査区内は、都市計画道路(中央通り線)の路線部分にあたり、都市再生機構(U R)側の発掘調査経費負担箇所である南東側のC1地点と、沿道サービス用地にあたり、市側の発掘調査経費負担箇所である北西側のC2地点に便宜的に分かれる(第6図)。このうち、C1地点の発掘調査の成果については、すでに報告書(恋河内・的野2010)が刊行されているので、そちらを参照されたい。

C地点の調査区内で検出された遺構は、奈良時代(8世紀)後半と平安時代前期(9世紀)末～中期(10世紀)初頭頃の竪穴式住居跡11軒と時期不明の竪穴式住居跡1軒の計12軒、古墳時代から近世以降の土坑25基、古墳時代から中近世以降の溝跡12条である。このうち、調査区東側のC1地点の区域内では、竪穴式住居跡6軒、土坑16基、溝跡12条が検出されており、今回報告する調査区北西側のC2地点の区域内では、竪穴式住居跡6軒と土坑9基が検出されている。

C2地点で検出された遺構・遺物で最も古いものは、第92(8)号土坑から出土した縄文時代中期後半の加曾利EⅢ式土器(第19図)である。少量の破片であるが、第92(8)号土坑の南東側約17mの隣接するC1地点側で、完形の大形石皿が単独で出土しており(恋河内・的野2010)、それと関係するものかもしれない。女堀川流域の中・下流域では、該期の加曾利EⅢ式期には本庄台地縁部に隣接して営まれた将監塚遺跡(石塚他1986、長谷川他1994)・古井戸遺跡(宮井他1989)・新宮遺跡(恋河内1995、宮田・高橋2011)の3つの大規模環状集落の衰退とともに、中下田遺跡(鈴木1991)・平塚遺跡(鈴木1997)・西富田前田遺跡(増田1989)、西富田四方田条里遺跡(利根川1999)・七色塚遺跡(恋河内・松本2008)など、複数の小規模集落が女堀川の低地内に出現する特徴が見られる。おそらく、C地点の調査区近隣にも該期の小規模な集落が形成されていたのではないと思われる。

C2地点で検出された奈良時代と平安時代の竪穴式住居跡は、調査区内における密集度は高いが、同時期の住居跡同士の重複は見られない。形態は、長方形のものが主体で、奈良時代の住居跡は住居の長軸を東西方向に、平安時代の住居跡は南北方向に向けているものが多い。カマドの位置は、時代に関係なく、いずれも住居の東側壁に付設しており、その右側に貯蔵穴を伴うものが一般的である。いずれの住居跡も、住居内に上屋を支える主柱穴らしき穴が見られないことから、主柱は床面の上に直に置かれていたであろう。土坑は、時期が分かるものは奈良時代～平安時代頃と推測される第91(21)号土坑と第92(8)号土坑の2基だけで、その性格が分かるものはない。

これらの住居跡から出土した遺物は、当地域に特徴的な土器が主体である。この中で奈良時代(8世紀)後半の住居跡では、北武蔵型の鬘や環とともに、須恵器を模倣したロクロ使用による土師器の蓋や高台付塊が比較的多く見られる点は注目される。このロクロ使用の土師器は、奈良時代後半の短期間に見られるものであるが、本遺跡では他の遺跡に比べて、その出土が顕著に認められる。土器以外では、平安時代前期(9世紀)末頃の第112(SI 2)号住居跡から、大形の鉄鏝が1点出土している。



第6图 C2地点调查区全体图

## 第2節 竪穴式住居跡

### 第112(SI 2)号住居跡(第7図、図版3)

C 2 地点調査区東端の C 1 地点との境界線上に位置する。北東側にはすでに報告した第104(SI 1)号住居跡(恋河内・的野2010)が近接し、北西側には第117(SI11)号住居跡がある。

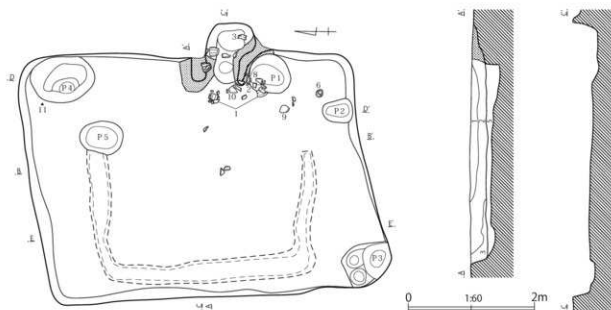
平面形は、コーナー部の丸み強い平行四辺形状に歪んだ南北方向に長い長方形を呈している。規模は、南北方向が最高5.42m、東西方向が最高3.98mを測る。主軸方位は、N-80°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で26cmある。各壁下には壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを多量含む暗灰褐色土を、埋め戻して平坦にした貼床式である。住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際に近い周辺部はやや軟弱である。掘り方は、床下の全面に及ぶ形態である。床下掘り方内の中央部には、「コ」の字状を呈する溝跡が見られ、その形態が住居の壁溝に類似していることから、本住居は拡張された可能性がある。ピットは、住居内からP 1～P 5の5ヶ所が検出されている。P 1は、住居東側壁のカマド右側袖に接してあり、その位置から拡張前の旧住居跡の貯蔵穴であった可能性が考えられる。67cm×64cmの楕円形ぎみの形態で、底面は広く平坦で床面からの深さは17cmある。P 2は、住居南側壁際に位置する。48cm×38cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは22cmある。P 3は、住居南西側コーナー部にあり、3つの小ピットが重複した形態である。床面からの深さは最も深いもので33cmある。P 4は、住居北東側コーナー部に位置する。102cm×73cmの楕円形を呈し、底面は2段に深くなり床面からの深さは32cmある。P 5は、住居中央部の北東側寄りに位置している。68cm×52cmの楕円形ぎみの形態で、底面は広く床面からの深さは10cm程度ある。

カマドは、住居東側壁の中央よりやや南東側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長110cm・最大幅は150cmを測る。燃烧部は、住居の壁を掘り込んで作られており、壁面はあまり焼けていない。燃烧面(火床)は、住居床面とほぼ同じ高さの灰層(第4層)と焼土層(第3層)付近と考えられ、奥壁に向かって緩やかに傾斜している。支脚は見られなかった。袖は、灰色粘土ブロックとロームブロックを主体とする暗灰褐色土(第7層)を住居壁面に貼り付けて構築している。左側袖の内側には、板状の片岩を2枚貼り付けて補強にしていたようである。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

出土遺物は、カマド内やその周辺の床面付近及び住居跡の覆土中から、土師器の甕・環や、須恵器の高台付杯と大甕の破片、還元不良のロクロ使用の高台付碗や環などが出土している(第8図)。土器以外では、住居北側壁際の北東側コーナー部に近い位置の覆土中から、鉄線(No11)が1点出土している。本住居跡の時期は、住居の形態や出土遺物の様相から、平安時代前期(9世紀)末～中期(10世紀)初頭頃と考えられる。

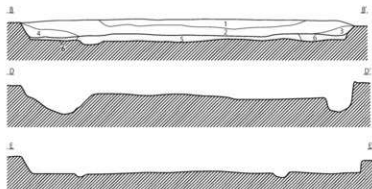
第1表 第112(SI 2)号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径 20.0、器高 27.5、底部径 4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ナデの後ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面上半部ナデ・下半ハケ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 2/3。G. 胴部内面中位に指掘り痕を残す。H. 床面付近。
2	甕	A. 口縁部径(19.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後上半ハケ。D. 赤色粒、暗褐色粒、白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 口縁部 1/2 割。G. 口縁部外面中位に指掘り痕を残す。H. 床面付近。
3	甕	A. 口縁部径(19.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 暗褐色粒、白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 口縁部 1/4。H. カマド内。
4	甕	A. 底部径 4.4。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 底部 1/2。H. 貯蔵穴内。



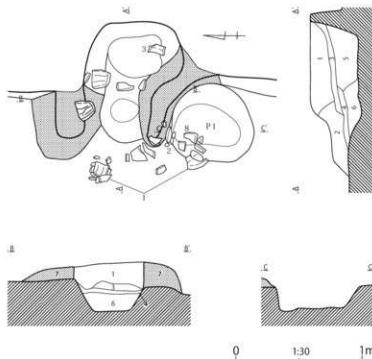
## &lt;第112号住居跡土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層  
 第2層：暗褐色土層  
 第3層：暗褐色土層（径1～2mmのローム粒子を含む。）  
 第4層：暗褐色土層（径1cm以下のローム粒子を多量、黒色土ブロックを含む。しまりあり。）  
 第5層：暗黄褐色土層（径5～10cmのロームブロックを多量含む。しまりあり。）  
 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを含む。）

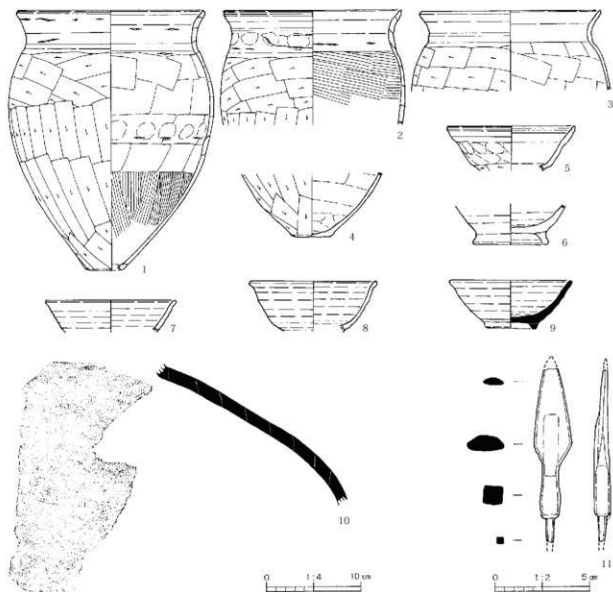


## &lt;第112号住居跡カマド土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径0.1～2cmの焼土粒子を多量、径0.5～2cmのローム粒子・径0.1～2cmの炭化粒子を少量含む。）  
 第2層：暗褐色土層（径2～3cmのロームブロックを多量、径0.1～0.3cmの焼土粒子を少量含む。）  
 第3層：暗赤色土層（径0.5～2cmの焼土粒子を多量、径0.5cmの炭化粒子を少量含む。）  
 第4層：暗灰褐色土層（灰層。）  
 第5層：暗黄褐色土層（径0.5～2cmのローム粒子を多量、径0.1～0.3cmの焼土粒子を少量含む。）  
 第6層：暗褐色土層（径0.5～2cmのローム粒子を多量、黒色土ブロックを含む。）  
 第7層：暗灰色土層（径2～4cmの灰色粘土ブロック・ロームブロックを多量、径0.1cm以下の焼土粒子を少量含む。）



第7図 第112(S12)号住居跡



第8図 第112(SI2)号住居跡出土遺物

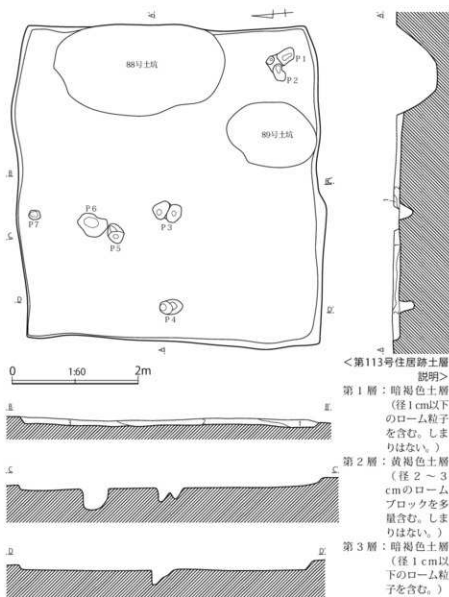
5	環	A. 口縁部径(13.6)。B. 粘土組織み上げ?。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半クズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 口縁部 1/2 弱。G. 体部外面中位に指頭圧痕を残す。高台が付くと思われる。H. 貯蔵穴付。
6	高台付埴	A. 高台部径 8.0。B. ロク口成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。高台部回転ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 体部下半のみ。G. 還元不良。高台が付くと思われる。H. 覆土中。
7	環	A. 口縁部径(14.0)。B. ロク口成形。C. 体部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡灰褐色。F. 口縁部 1/4。G. 還元不良。H. 覆土中。
8	環	A. 口縁部径(13.6)。B. ロク口成形。C. 体部内外面回転ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一灰褐色。F. 口縁部 1/4。G. 還元不良。H. 床面付近。
9	須恵器	A. 口縁部径(13.0)。B. ロク口成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後、高台部回転ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一灰色。F. 1/2。H. 覆土中。
10	須恵器	B. 粘土組織み上げ後叩き整形。C. 胴部外面叩き(平行叩き目)、内面ナデ(部分的に円形の当道具痕を残す)。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 胴部破片。H. 床面付近。
11	鉄製品	A. 残存長 9.2。最大幅 2.0。最大厚 0.9。重さ 14.7g。B. 鍛造。C. 鎌身は片丸造り。柄は琵琶・基とも断面方形。D. 鉄製。F. 鎌身先端と基末端を欠損。G. 形態は主頭鎌に近い。H. 覆土中。

## 第113(SI10)号住居跡(第9図、図版3)

C 2 地点の調査区北側に位置し、南西側には第114(SI9)号住居跡が近接している。第88(10)号土坑及び第89(9)号土坑と重複し、それらに切られている。すでに住居跡の床面下まで削平されており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、方形を呈している。規模は、東西方向が5.06m、南北方向が4.90mを測る。住居の東西方向は、ほぼN-90°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で14cmまで残存している。床面はすでに削平されており、掘り方は住居の床下全面に及ぶ形態である。ピットは、住居跡内からP1~P6の6ヶ所検出されているが、いずれも本住居跡に伴うものか不明である。カマドの痕跡は見られない。

出土遺物は、掘り方の埋土中より土器の破片が少量出土しただけであるが、詳細な時期が分かるようなものはない。本住居跡の時期は、不明である。



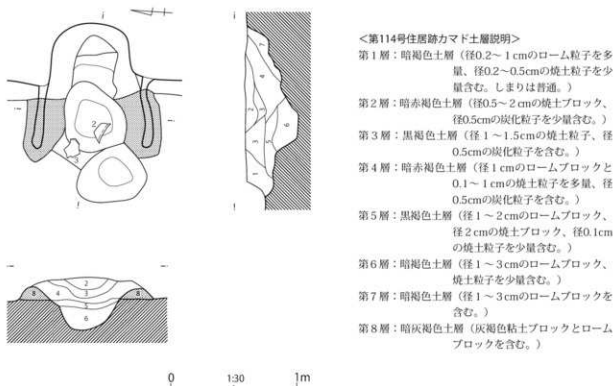
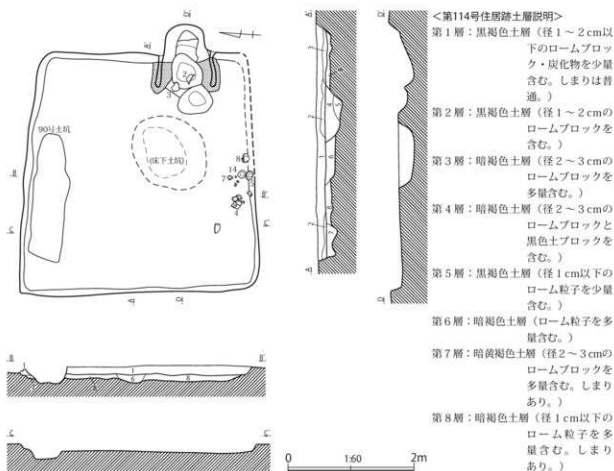
第9図 第113(SI10)号住居跡

## 第114(SI 9)号住居跡(第10図、図版3)

C 2 地点の調査区西側に位置し、北東側には第113(SI10)号住居跡が、南側には第115(SI12)号住居跡と第116(SI13)号住居跡が近接している。第90(11)号土坑と重複し、それによって切られている。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもち、住居の東側壁がやや短い台形状の方形を呈している。規模は、東西方向が3.88m、南北方向が3.82mを測る。主軸方位は、N-86°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で18cmある。各壁下には壁溝は見られな



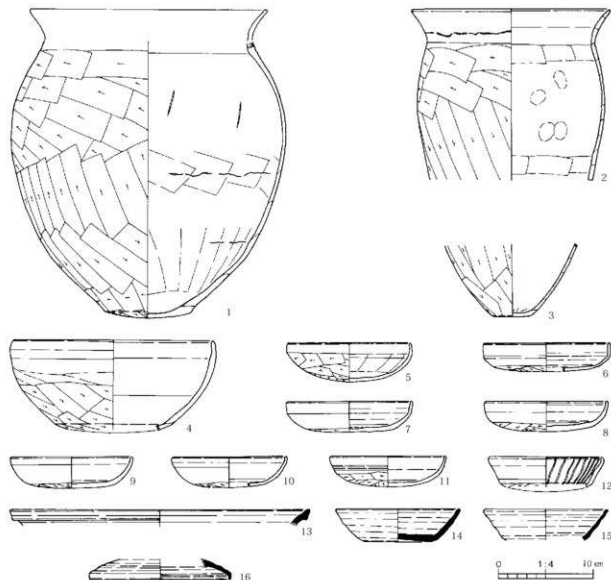


第10図 第114(SI9)号住居跡

い。床面は、ロームブロックを多量含む暗褐色土を埋め戻して平坦にした貼床式である。住居の中央部は比較的強く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、床下の全面に及ぶ形態である。住居の中央部からは、床下土坑が1基検出されている。136cm×110cmの楕円形を呈し、床面からの深さは26cmある。土坑内は、ロームブロックを含む暗褐色土が充填されていた。表面には明確な貼床は施されていないが、強く締まっている。

カマドは、住居東側壁の中央より南東側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長140cm・最大幅は110cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られており、壁面はあまり焼けていない。燃焼面(火床)は、住居床面よりやや低く、奥壁は傾斜して立ち上がっている。支脚は見られなかった。袖は、灰色粘土ブロックとロームブロックを主体とする暗灰褐色土(第8層)を住居壁面に貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

出土遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、土師器の甕・鉢・杯や、須恵器の広口甕・杯・蓋などが



第11図 第114(S19)号住居跡出土遺物

出土している。この中でNo 5 の土師器杯は、住居南側壁際の覆土中から他の土器と近接して出土しているが、他の土器よりも古い時期のものと考えられ、混入品と思われる。本住居跡の時期は、出土遺物の様相や住居の形態から、奈良時代(8世紀)後半頃と考えられる。

第2表 第114(SI 9)号住居跡出土遺物観察表

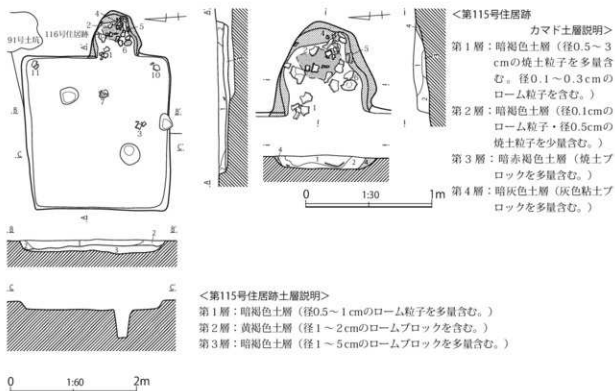
1	粥 甕	A. 残存高29.2, 底部径9.2, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面跗ナデ, 底部外面ケズリ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡茶褐色, F. 胴部2/3, G. 胴部外面に壁付着, H. 覆土中。
2	長 粥 甕	A. 口縁部径(21.0), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗茶褐色, F. 口縁部1/3, G. 胴部内面に指頭印痕を残す, H. カマド内。
3	長 粥 甕	A. 底部径4.1, B. 粘土組織み上げ, C. 胴部外面ケズリ, 内面ナデ, 底部外面ケズリ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 外一明茶褐色, 内一暗茶褐色, F. 底部のみ, H. カマド内。
4	鉢	A. 口縁部径(21.4), 残存高9.5, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ナデの後下半ケズリ, 内面ナデ, D. 白色粒, 黒色粒, E. 内外一淡茶褐色, F. 1/2弱, H. 覆土中。
5	杯	A. 口縁部径13.2, 器高4.1, B. 曲げ成形, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面跗ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一明茶褐色, F. 3/4, G. 湿入品, H. 覆土中。
6	杯	A. 口縁部径(13.4), 器高3.0, B. 曲げ成形, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ナデの後下半ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一明茶褐色, F. 口縁部1/4強, G. 口縁部に油煙付着, H. カマド内。
7	杯	A. 口縁部径(13.4), 器高3.3, B. 曲げ成形, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ナデの後下半ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡茶褐色, F. 1/2, H. 床面付近。
8	杯	A. 口縁部径13.0, 器高3.2, B. 曲げ成形, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ナデの後下半ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗茶褐色, F. はぼ完形, G. 口縁部に油煙付着, H. 床面付近。
9	杯	A. 口縁部径(13.0), 器高3.4, B. 曲げ成形, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ナデの後下半ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡茶褐色, F. 1/2, H. 覆土中。
10	杯	A. 口縁部径(12.2), 器高3.2, B. 曲げ成形, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ナデの後下半ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡茶褐色, F. 口縁部1/2弱, H. 覆土中。
11	杯	A. 口縁部径(12.4), 器高3.3, B. 曲げ成形, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ, D. 白色粒, E. 内外一淡茶褐色, F. 2/3, H. 覆土中。
12	暗文付杯	A. 口縁部径(12.2), B. 曲げ成形, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 白色粒, E. 内外一茶褐色, F. 口縁部1/3, G. 口縁部内面に放射状暗文を施す, H. 覆土中。
13	須 恵 器 甕	A. 口縁部径(32.0), B. 粘土組織み上げ後ロクロ整形, C. 口縁部内外面回転ナデ, D. 黒色粒, 白色粒, E. 内外一暗灰色, F. 口縁部1/8, G. 還元焼成, H. 覆土中。
14	須 恵 器 杯	A. 口縁部径13.2, 器高3.5, 底部径7.0, B. ロクロ成形, C. 口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D. 黒色粒, 白色粒, E. 内外一暗灰色, F. はぼ完形, H. 覆土中。
15	須 恵 器 杯	A. 口縁部径(13.2), B. ロクロ成形, C. 口縁部内外面回転ナデ, D. 白色粒, E. 内外一暗灰色, F. 口縁部1/4, H. カマド内。
16	須 恵 器 蓋	A. 口縁部径(15.0), B. ロクロ成形, C. 口縁部内外面回転ナデ, D. 白色粒, E. 外一黒灰色, 内一淡茶褐色, F. 口縁部1/6, H. 掘り方埋土内。

## 第115(SI12)号住居跡(第12図、図版4)

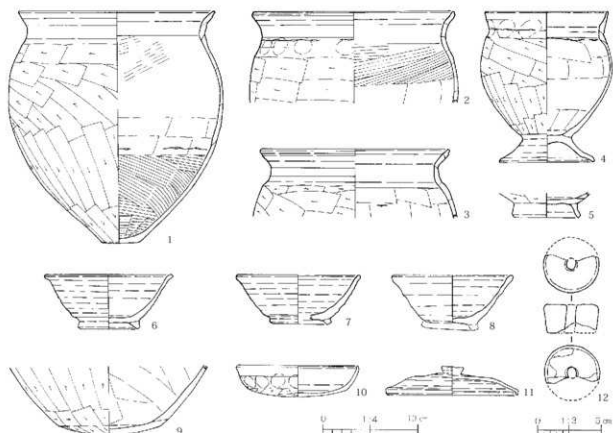
C 2 地点の調査区中央の西側寄りに位置し、北側には第114(SI 9)号住居跡が、南側には第117(SI11)号住居跡が近接している。重複する第116(SI13)号住居跡を切り、南西側は第92(8)号土坑と接している。住居跡の上面を強く削平されており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、方形を呈している。規模は、東西方向が2.48m、南北方向が2.34mを測る。主軸方位は、N-92°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で12cmある。各壁下には壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを多量含む暗褐色土を埋め戻して平坦にした貼床式で、全体にやや軟弱である。掘り方は、床下の全面に及ぶ形態である。ピットは、住居跡内から2ヶ所検出されているが、本住居に伴うものか明確ではない。

カマドは、住居東側壁の中央からやや南東側コーナー部に寄った位置に、住居の壁を直角に掘り込んで構築している。規模は、全長67cm・最大幅66cmを測る。燃焼部は、大半が住居の壁外に位置し、掘り方の内側に灰色粘土を貼り付けて燃焼部の壁面になっている。燃焼面(火床)は、住居床面とほぼ同じ高さで、奥壁に向かって緩やかに傾斜している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。



第12図 第115(SI12)号住居跡



第13図 第115(SI12)号住居跡出土遺物

出土遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、土師器の甕・小形台付甕・高台付埴や、酸化焙焼成でロクロ使用の蓋、還元不良の高台付環などが出土している。この中のNo 9の胴張甕・No10の土師器環・No11の酸化焙焼成でロクロ使用の土師器蓋は、本住居跡に伴う他の土器に比べて時期が古いと考えられるもので、重複する第116(SI13)号住居跡からの混入品と思われる。土器以外では、土製紡錘車の破片が1点出土している。本住居跡の時期は、出土遺物の様相や住居の形態から、平安時代前期(9世紀)末～中期(10世紀)初頭頃と考えられる。

第3表 第115(SI2)号住居跡出土遺物観察表

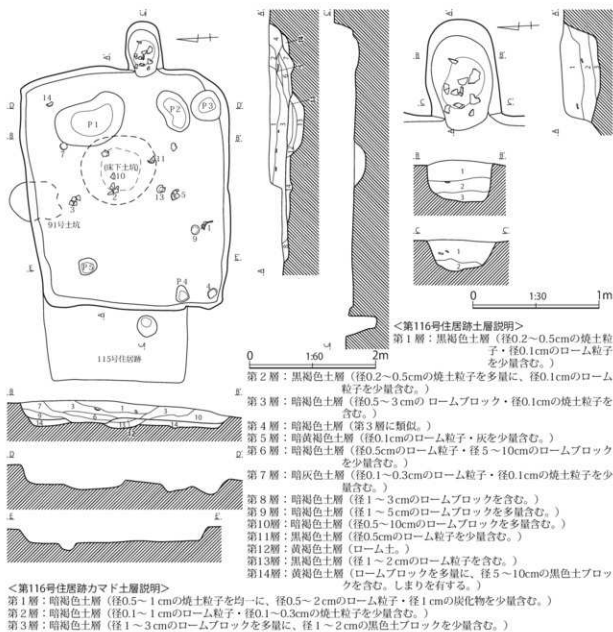
1	甕	A. 口縁部径 20.8、器高 24.7、底部径 4.2、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面ハケの後中位置ナデ、上半ナデ。底部外面ケズリ、D. 白色粒、E. 外一暗褐色、内一明茶褐色、F. 2/3、G. 胴部外面に煤付着、H. カマド内。
2	甕	A. 口縁部径 (21.4)、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面ハケの後段ナデ、D. 片岩粒、赤色粒、白色粒、E. 内外一暗茶褐色、F. 口縁部 1/4、G. 胴部外面に指頭圧痕を残し、黒斑あり、H. カマド内。
3	甕	A. 口縁部径 (20.0)、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面鏡ナデ、D. 赤色粒、白色粒、E. 内外一暗茶褐色、F. 口縁部 1/4、H. 床面付近。
4	小形台付甕	A. 口縁部径 13.0、器高 16.1、台端部径 10.0、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面ナデの後段ナデ、D. 白色粒、E. 外一淡茶褐色、内一暗褐色、F. 2/3、G. 胴部外面に煤付着、口縁部外面に指頭圧痕を残す、H. カマド内。
5	高台付埴	A. 台端部径 7.2、B. 台部貼り付け、C. 体部外面ケズリ、内面ナデ、高台部内外面ヨコナデ、D. 赤色粒、白色粒、E. 内外一明茶褐色、F. 高台部のみ、G. 底部外面に砂付着、H. カマド内。
6	高台付環	A. 口縁部径 13.6、器高 5.8、高台部径 6.5、B. ロクロ成形、高台部貼り付け、C. 体部内外面回転ナデ、高台部内外面及び底部外面回転ナデ、D. 片岩粒、赤色粒、白色粒、E. 内外一淡灰茶褐色、F. 1/2、G. 還元不良、H. カマド内。
7	高台付環	A. 口縁部径 13.2、器高 5.3、高台部径 6.5、B. ロクロ成形、高台部貼り付け、C. 体部内外面回転ナデ、底部外面回転ナデ、D. 赤色粒、白色粒、E. 内外一黒灰褐色、F. 2/3、G. 還元不良、H. 床面付近。
8	高台付環	A. 口縁部径 12.8、残存高 5.3、底部径 5.7、B. ロクロ成形、C. 体部内外面回転ナデ、底部外面回転ナデ、D. 赤色粒、白色粒、E. 内外一黒灰褐色、F. 環部成形、高台部剥離、G. 還元不良、H. 覆土中。
9	胴張甕	A. 底部径 10.6、B. 粘土組織み上げ、C. 胴部外面ケズリ、内面鏡ナデ、底部外面ケズリ、D. 赤色粒、白色粒、E. 外一黒褐色、内一淡茶褐色、F. 底部 1/4、G. 重複する第 116 号住居跡からの混入品と思われる、H. 覆土中。
10	環	A. 口縁部径 (13.0)、器高 3.4、B. 曲げ成形、C. 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデの後半ケズリ、内面ナデ、D. 赤色粒、白色粒、E. 内外一淡褐色、F. 1/3、G. 体部外面に指頭圧痕を残す、重複する第 116 号住居跡からの混入品と思われる、H. 床面付近。
11	蓋	A. 口縁部径 14.0、器高 3.0、B. ロクロ成形、揃み部貼り付け、C. 口縁部内外面回転ナデ、天井部外面ナデ、揃み部外面ヨコナデ、D. 赤色粒、白色粒、E. 内外一明茶褐色、F. 2/3、G. 酸化焙焼成、重複する第 116 号住居跡からの混入品と思われる、H. 床面付近。
12	土製紡錘車	A. 上面径 4.4、下面径 4.0、高さ 2.3、重さ 31.9g、B. 手摺ね、C. 上面・下面ナデ、側面ケズリの後ナデ、D. 白色粒、E. 外一淡茶褐色、F. 1/2、G. 側面に黒斑あり、H. 覆土中。

## 第116(SI13)号住居跡(第14図、図版4)

C 2 地点の調査区中央の西側寄りに位置し、北側には第114(SI 9)号住居跡が、南側には第117(SI11)号住居跡が近接している。重複する第115(SI2)号住居跡に切られ、第91(21)号土坑を切っている。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ東西方向に長い長方形を呈している。規模は、東西方向が3.80m、南北方向が3.36mを測る。主軸方位は、N-91°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で30cmある。各壁下には壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを多量含む黄褐色土を埋め戻して平坦にした貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際周辺部はやや軟弱である。住居中央部の床下からは、床下土坑が1基検出されている。掘り方は、床下の全面に及ぶ形態である。ピットは、住居内から5ヶ所検出されているが、その性格が分かるものはない。P 1は、比較的規模が大きく浅い形態であるが、土層観察では本住居跡に伴う物ではなく、覆土埋没過程中に形成されたものであることがわかる。

カマドは、住居東側壁の中央やや南東コーナー部寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に掘り込んで付設している。規模は、全長88cm・最大幅57cmを測る。燃焼部は、その大半が住居の壁外に位置し



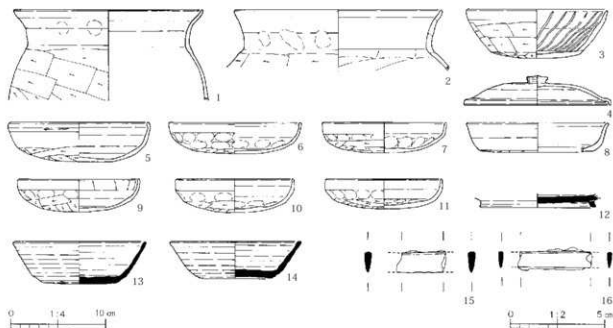
第14図 第116(S113)号住居跡

ている。燃焼面(火床)は、住居床面とほぼ同じ高さ(第3層上面)で、奥壁は直線的にやや傾斜して立ち上がっている。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

出土遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、土師器の甕・坏や、須恵器の坏が出土しており、当地域の該期の土器に特徴的なNo 4の蓋やNo 8の坏のような酸化焙焼成でロクロ使用の土師器も伴出している。この他、No12の須恵器高台付坏の破片は、他の土器に比べて時期が古いと考えられ、混入品と思われる。また、土器以外では、覆土中から刀子の破片と思われる鉄製品が2点出土している。本住居跡の時期は、出土土器の様相や住居の形態から、奈良時代(8世紀)末頃と考えられる。

第4表 第116(S113)号住居跡出土遺物観察表

1	長 副 表	A. 口縁部径(20.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面丁寧ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 口縁部1/2。G. 口縁部外面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
2	副 面 表	A. 口縁部径(22.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面丁寧ナデ。D. 白色粒。E. 外一黒褐色。内一明茶褐色。F. 口縁部1/4。G. 口縁部外面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。



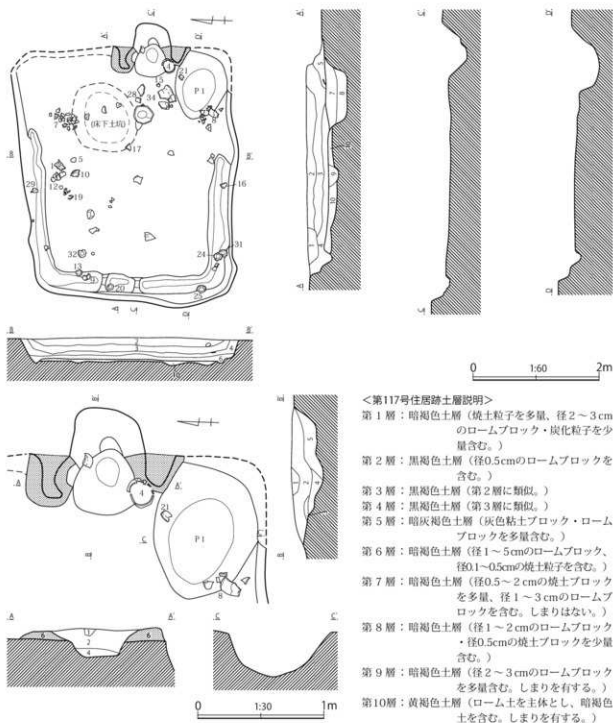
第15図 第116(SI13)号住居跡出土遺物

3	暗文付 罎	A. 口縁部径(15.0)、器高5.1、底部径(9.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 1/2。H. 床面付近。
4	蓋	A. 口縁部径 15.6、器高 3.1。B. ロクロ成形。握み部貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面ナデ。握み部回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 2/3。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
5	罎	A. 口縁部径 15.0、器高 4.2。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
6	罎	A. 口縁部径(14.0)、器高3.3。B. 曲げ成形。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 1/3。G. 体部外面上半と内面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
7	罎	A. 口縁部径 12.1 ~ 13.2、器高 3.2。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 完形。G. 体部外面上半と内面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
8	罎	A. 口縁部径 (15.0)、器高 3.1、底部径 (12.0)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面手持ち籠ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 1/4。G. 酸化焙焼成。H. カマド内。
9	罎	A. 口縁部径 13.0、器高 3.5。B. 曲げ成形。C. 口縁部外面ヨコナデ。内面籠ナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外一明橙褐色。F. 完形。G. 体部外面上半と内面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
10	罎	A. 口縁部径(12.6)、器高3.6。B. 曲げ成形。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明橙褐色。F. 1/2。G. 体部外面上半と内面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
11	罎	A. 口縁部径 12.4、器高 3.2。B. 曲げ成形。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 完形。G. 体部外面上半と内面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
12	須恵器 高台付 罎	A. 高台部径(12.2)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 高台部内外面回転ナデ。底部外面回転ケズリ。D. 白色粒、黒色粒。E. 外一暗灰色。内一淡灰色。F. 高台部 1/3。G. 混入品。H. 覆土中。
13	須恵器 罎	A. 口縁部径 (14.0)、器高 4.5、底部径 7.4。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一灰褐色。F. 3/4。G. 還元不良。H. 覆土中。
14	須恵器 罎	A. 口縁部径(13.8)、器高4.0、底部径7.4。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 1/3。H. 覆土中。
15	鉄製 刀	A. 残存長 2.6、幅 1.1、厚さ 0.4、重さ 2.1g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 破片(身の両側を欠損)。G. 片側に刃部をもつ。H. 覆土中。
16	鉄製 刀	A. 残存長 4.0、幅 0.9、厚さ 0.3、重さ 3.2g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 破片(身の両側を欠損)。G. 片側に刃部をもつ。H. 覆土中。

## 第117(SI11)号住居跡(第16図、図版4)

C 2 地点の調査区中央の西側寄りに位置する。北側には第115(SI12)号住居跡と第116(SI13)号住居跡が近接し、北西側は第92(8)号土坑と接している。

平面形は、コーナー部の丸みが強い東西方向に長い長方形を呈している。規模は、東西方向が4.15m、南北方向が3.47mを測る。主軸方位は、N-87°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち



<第117号住居跡土層説明>

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、径2～3cmのロームブロック・炭化粒子を少量含む。）  
 第2層：黒褐色土層（径0.5cmのロームブロックを含む。）  
 第3層：黒褐色土層（第2層に類似。）  
 第4層：黒褐色土層（第3層に類似。）  
 第5層：暗灰褐色土層（灰色粘土ブロック・ロームブロックを多量含む。）  
 第6層：暗褐色土層（径1～5cmのロームブロック、径0.1～0.5cmの焼土粒子を含む。）  
 第7層：暗褐色土層（径0.5～2cmの焼土ブロックを多量、径1～3cmのロームブロックを含む。しまりはない。）  
 第8層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロック・径0.5cmの焼土ブロックを少量含む。）  
 第9層：暗褐色土層（径2～3cmのロームブロックを多量含む。しまりを有する。）  
 第10層：黄褐色土層（ローム土を主体とし、暗褐色土を含む。しまりを有する。）

<第117号住居跡カマド土層説明>

- 第1層：暗褐色土層（径0.1～0.3cmのローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む。）  
 第2層：暗褐色土層（径0.3～2cmの焼土ブロックを多量、径0.2cmのローム粒子・炭化粒子を少量含む。）  
 第3層：暗灰色土層（灰層。）  
 第4層：暗褐色土層（径1cmの焼土ブロックを多量、径0.1～0.5cmのローム粒子を含む。）  
 第5層：暗褐色土層（径0.5～2cmの焼土ブロックを多量、径0.1～3cmのローム粒子やロームブロックを含む。）  
 第6層：暗灰褐色土層（灰色粘土ブロック・ロームブロックを多量含む。カマド池。）

第16図 第117(S11)号住居跡

上がり、確認面からの深さは最高で32cmある。壁溝は、住居西側半分の壁下を途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを多量含む黄褐色土を埋め戻して平坦にした貼床式で、住居中央部は



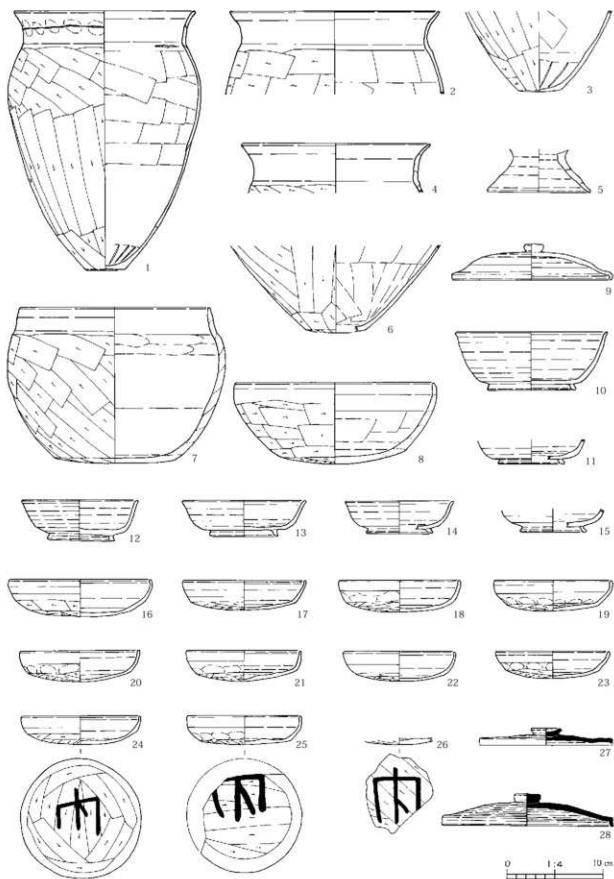
比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、床下の全面に及ぶ形態である。ピットは、住居内から1ヶ所検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南西側コーナー部に位置している。104cm×83cmの楕円形を呈し、床面からの深さは34cmある。住居中央部のやや東側に寄った場所からは、床下土坑が1基検出されている。120cm×102cmの楕円形を呈し、床面からの深さは35cmある。土坑内は、焼土ブロックを含む暗褐色土が充填されていた。

カマドは、住居東側壁の中央やや南東側コーナー部寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に掘り込んで付設している。規模は、全長85cm・最大幅121cmを測る。燃焼部は、その半分は住居の壁外にあり、燃焼面(火床)は住居床面よりやや低く、奥壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。袖は、灰色粘土ブロックとロームブロックを含む暗灰褐色土を、住居の壁に貼り付けて構築している。右側袖の先端には、No4の襖を伏せて補強している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

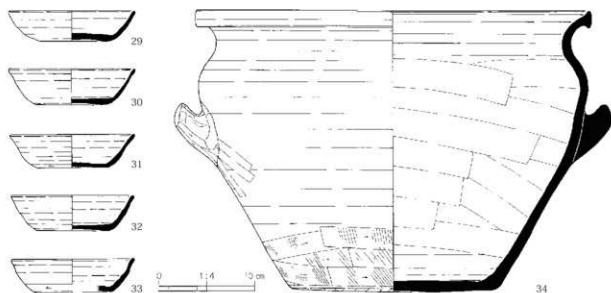
出土遺物は、住居中央部の床面付近や覆土中から、土師器の甕・小形台付甕・鉢・環や、須恵器の蓋・環・大形鉢など、比較的多くの土器が出土している。中でも、当地域で該期に特徴的な酸化焙焼成でロクロ使用の蓋や高台付碗が多く見られるのは注目される。また、住居南西側コーナー部の壁際から、「内」の字に類似した文字を同じ場所に墨書した土師器の環が2個体(No24・25)出土し、覆土中からも同じ文字を墨書した環の破片が1個体(No26)出土している。本住居跡の時期は、出土土器の様相や住居の形態から、奈良時代(8世紀)後半と考えられる。

第5表 第117(SI1)号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A. 口縁部径19.0。器高27.5。底部径4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ。内面ナデの後上半段ナデ。D. 赤色粒。白色粒。E. 外一暗褐色。内一淡茶褐色。F. 1/4。G. 口縁部外面に黒斑を呈す。口縁部内面に黒色付着物。H. 床面付近。
2	長 胴 甕	A. 口縁部径(22.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ。内面瓦ナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 口縁部1/4強。H. 覆土中。
3	長 胴 甕	A. 底部径4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリ。内面瓦ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒。白色粒。E. 外一黒褐色。内一淡茶褐色。F. 胴部下半1/3。H. 覆土中。
4	長 胴 甕	A. 口縁部径19.8。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ。内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 口縁部のみ。G. カマド袖先端の補強に転用。H. カマド袖先端。
5	小 形 台 付 甕	A. 台端部径(11.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 台部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒。白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 台部1/4。H. 床面付近。
6	胴 甕 甕	A. 底部径6.2。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリ。内面瓦ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒。白色粒。E. 外一淡褐色。内一淡茶褐色。F. 胴部下半1/3。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
7	鉢	A. 口縁部径20.0。器高16.5。底部径12.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ。内面丁寧ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 1/2強。H. 覆土中。
8	鉢	A. 口縁部径21.0。器高8.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ケズリ。内面瓦ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. ほぼ球形。H. 床面付近。
9	蓋	A. 口縁部径16.8。器高3.8。B. ロクロ成形。揃み部貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面ナデ。揃み部回転ナデ。D. 赤色粒。白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 3/4。G. 酸化焙焼成。H. 床面付近。
10	高台付碗	A. 口縁部径16.0。器高6.2。高台部径(9.2)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 3/4。G. 内面に黒色付着物顯著。酸化焙焼成。H. 床面付近。
11	高台付碗	A. 高台部径(7.0)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。D. 赤色粒。白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 高台部1/4破片。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
12	高台付碗	A. 口縁部径12.2。器高4.4。高台部径7.1。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 3/4。G. 酸化焙焼成。H. 床面付近。
13	高台付碗	A. 口縁部径(13.0)。器高3.8。高台部径7.3。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 1/3。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
14	高台付碗	A. 口縁部径(11.4)。器高3.4。高台部径(6.8)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。D. 赤色粒。白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 口縁部1/4強。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
15	高台付碗	A. 高台部径(7.0)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 高台部1/3破片。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
16	環	A. 口縁部径(15.0)。器高3.9。B. 曲り成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ。内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 1/3。H. 覆土中。



第17图 第117(S111)号住居跡出土遺物 (1)



第18図 第117(S111)号住居跡出土遺物(2)

17	坏	A. 口縁部径(13.0)、器高3.1、B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 口縁部 1/4。H. 覆土中。
18	坏	A. 口縁部径(12.8)、器高3.4、B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
19	坏	A. 口縁部径(12.4)、器高3.3、B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 1/2。G. 体部内外面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
20	坏	A. 口縁部径(12.6)、器高3.3、B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 3/4。G. 体部外面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
21	坏	A. 口縁部径 12.0、器高3.4、B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 3/4。G. 体部外面に指頭圧痕を残す。H. 床面付近。
22	坏	A. 口縁部径 11.8、器高3.2、B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 1/2弱。H. 覆土中。
23	坏	A. 口縁部径(12.0)、器高2.9、B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 口縁部 1/3。G. 体部外面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
24	坏	A. 口縁部径 12.6、器高3.1、B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. ほぼ完形。G. 底部外面に「内」に類似した文字の墨書あり。H. 床面付近。
25	坏	A. 口縁部径 12.1、器高3.0、B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 2/3。G. 体部外面に指頭圧痕を残す。底部外面に「内」に類似した文字の墨書あり。H. 床面付近。
26	坏	B. 曲げ成形。C. 底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一暗褐色、内一暗茶褐色。F. 底部破片。G. 底部外面に「内」に類似した文字の墨書あり。H. 覆土中。
27	須恵器 蓋	A. 口縁部径(14.0)、推定高1.7、B. ロクロ成形。揃み部貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ、内面回転ナデ。揃み部回転ナデ。D. 小石、白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 1/4。H. 覆土中。
28	須恵器 蓋	A. 口縁部径(18.0)、器高3.4、B. ロクロ成形。揃み部貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ、内面回転ナデ。揃み部回転ナデ。D. 白色針状、黒色粒。E. 内外一灰色。F. 1/8。G. 南比企窯産。H. 床面付近。
29	須恵器 坏	A. 口縁部径 13.4、器高3.3、底部径7.2、B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後外周ケズリ。D. 褐色粒、黒色粒。E. 内外一灰色。F. 3/4。H. 覆土中。
30	須恵器 坏	A. 口縁部径(13.4)、器高3.8、底部径7.6、B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
31	須恵器 坏	A. 口縁部径 13.2、器高3.5、底部径7.3、B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後外周回転ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一淡灰褐色。F. 3/4。G. 還元不良。H. 床面付近。
32	須恵器 坏	A. 口縁部径 13.0、器高3.8、底部径7.5、B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。
33	須恵器 坏	A. 口縁部径(13.0)、器高3.5、底部径(8.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転ケズリ。D. 白色粒、褐色粒。E. 内外一暗灰褐色。F. 口縁部 1/3。G. 還元不良。H. 覆土中。
34	須恵器 把手付鉢	A. 口縁部径(42.0)、器高30.0、底部径21.6、B. 粘土結晶み上げ後焼し。把手貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデ。胴部外面回転ナデの後下ケズリ、内面回転ナデ。底部外面ケズリ。D. 小石、白色粒。E. 外一暗灰色、内一淡灰褐色。F. 1/2。G. 外面下端に細い平行明き目の痕跡を残す。H. 床面付近。

### 第3節 土 坑

#### 第88(10)号土坑(第20図、図版5)

C2地点の調査区北側に位置し、重複する第113(10)号住居跡を切っている。平面形は楕円形を呈し、規模は270cm×145cmを測る。壁は緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは50cmある。底面は、狭く不安定で、南側はテラス状の段をもつ。覆土は、ローム粒子やロームブロックを含む黒褐色土を主体にしている。遺物は、何も出土しなかった。本土坑の時期は、不明である。

#### 第89(9)号土坑(第20図、図版5)

C2地点の調査区北側に位置し、重複する第113(10)号住居跡を切っている。平面形は楕円形を呈し、規模は144cm×104cmを測る。壁は緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは20cmある。底面は、広く丸みをもつ。覆土は、ローム粒子やロームブロックを含む暗褐色土を主体にしている。遺物は、何も出土しなかった。本土坑の時期は、不明である。

#### 第90(11)号土坑(第20図)

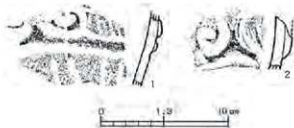
C2地点の調査区北西側に位置し、重複する第114(9)号住居跡を切っている。平面形は東西方向に長い長方形ぎみの形態を呈し、規模は202cm×58cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは18cmある。底面は、広く平坦である。遺物は、何も出土しなかった。本土坑の時期は、不明である。

#### 第91(21)号土坑(第20図、図版5)

C2地点の調査区中央部に位置し、重複する第116(13)号住居跡に切られている。平面形は不整形を呈し、規模は72cm×63cmを測る。壁は緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは42cmある。底面は、広く丸みをもつ。覆土は、ローム粒子や焼土粒子を含む暗褐色土を主体にしている。遺物は、覆土中から古代の土器片が少量出土しただけである。本土坑の時期は、遺構の重複関係や出土土器の様相から、奈良時代頃と考えられる。

#### 第92(8)号土坑(第20図、図版5)

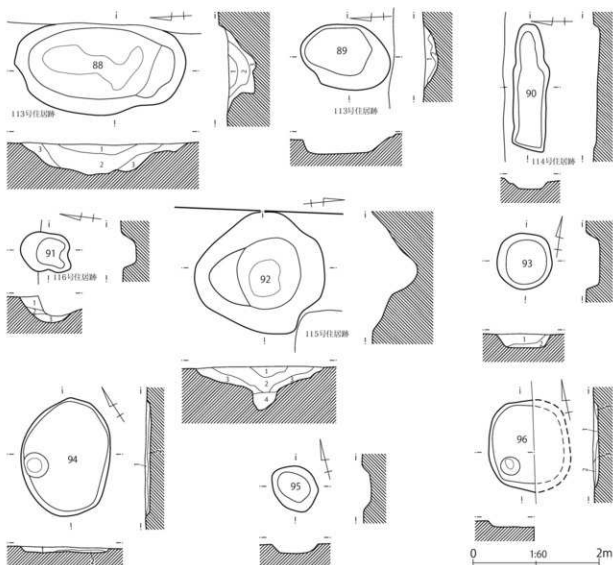
C2地点の調査区中央部の西側に位置し、第115(12)号住居跡や第117(11)号住居跡と接している。平面形は不整形を呈し、規模は207cm×196cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは72cmある。底面は、中央部がビット状に深くなっている。遺物は、覆土中から縄文時代中期後葉の加曾利EⅢ式や平安時代の土器片が少量出土しただけである。本土坑の時期は、出土土器の様相から、平安時代頃と考えられる。



第19図 第92(8)号土坑出土遺物

第6表 第92(8)号土坑出土遺物観察表

1	深	鉢	B. 粘土組織み上り。C. 口縁部は濁文と隆帯区画内に沈線を充填。胴部は太い沈線による懸垂文。地文不明。D. 片岩粒、赤色粒。E. 外一明橙褐色、内一淡褐色。F. 破片。G. 加曾利EⅢ式。H. 覆土中。
2	深	鉢	B. 粘土組織み上り。C. 口縁部は濁文と隆帯区画内に沈線を充填。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. 加曾利EⅢ式。H. 覆土中。



第20図 土 坑

## &lt;第88号土坑土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（径0.1～0.5cmのローム粒子・暗褐色土ブロックを少量含む。）  
 第2層：黒褐色土層（径0.1～0.5cmのローム粒子を少量含む。）  
 第3層：黒褐色土層（径2～3cmのロームブロックを多量含む。）

## &lt;第89号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径0.1～0.5cmのローム粒子を含む。粘性はない。）  
 第2層：暗褐色土層（径2～5cmのロームブロックを多量含む。）

## &lt;第91号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒子・焼土粒子を均一に含む。）  
 第2層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック、径0.3cmの焼土粒子を少量含む。）  
 第3層：黒褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック、径0.5cm～3cmの焼土粒子、径3cmの粘土ブロックを少量含む。）

## &lt;第92号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含む。しまりを有する。）  
 第2層：黒褐色土層（径0.3～0.5cmのローム粒子を少量含む。しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを多量含む。しまりを有する。）  
 第4層：黒褐色土層（径2～5cmのロームブロックを含む。粘性有り。）

## &lt;第93号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径0.5cmのロームブロックを少量含む。）  
 第2層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含む。）

## &lt;第94号土坑土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロックを含む。）

## &lt;第96号土坑土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを多量、径0.1～0.3cmのローム粒子を少量含む。）

第2層：暗褐色土層（径0.5cmの焼土ブロックを少量含む。）

第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒子を多量含む。）

**第93(12)号土坑(第20図、図版5)**

C 2 地点の調査区南側に位置し、第94(13)号土坑や第96(15)号土坑が近接している。平面形は円形を呈し、規模は89cm×88cmを測る。壁は直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは21cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、ロームブロックを含む暗褐色土を主体にしている。遺物は、覆土中から古墳時代の土器片が少量出土しただけである。本土坑の時期は、出土土器の様相から、古墳時代以降と考えられる。

**第94(13)号土坑(第20図、図版5)**

C 2 地点の調査区南側に位置し、第93(12)号土坑や第96(15)号土坑が近接している。平面形は楕円形を呈し、規模は188cm×142cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは9cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、ロームブロックを含む暗褐色土を主体にしている。遺物は、覆土中から白鳳時代～平安時代の土器片が少量出土しただけである。本土坑の時期は、出土土器の様相から、平安時代以降と考えられる。

**第95(14)号土坑(第20図)**

C 2 地点の調査区南側に位置し、第94(13)号土坑が近接している。平面形は楕円形を呈し、規模は78cm×66cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは14cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、ローム粒子を含む黒褐色土やロームブロックを含む暗褐色土を主体にしている。遺物は、何も出土しなかった。本土坑の時期は、不明である。

**第96(15)号土坑(第20図、図版5)**

C 2 地点の調査区南側に位置し、第93(12)号土坑や第94(13)号土坑が近接している。遺構の東側半分は掘乱によって切られている。平面形は不明で、規模は南北方向が147cm、東西方向は72cmまで測れる。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは10cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、ロームブロックや焼土ブロックを含む暗褐色土を主体にしている。遺物は、覆土中から奈良・平安時代の土器片が少量出土しただけである。本土坑の時期は、出土土器の様相から、平安時代以降と考えられる。

## 第四章 D2・D3地点の調査

### 第1節 D2・D3地点の概要

D地点は、本書のⅢ章で報告したC2地点(沿道サービス用地)の南側に、C1地点(都市計画道路部分)を挟んで位置している。西側にはF1地点(都市計画道路部分)が、南側にはH地点(商業・業務用地)が連続し、道路を挟んだ東側にはE1地点(都市計画道路部分)とE2・E3地点(沿道サービス用地)が近接している(第3図)。調査区域は、標高60mの平坦な地形で、北東方向に向かって緩やかに傾斜しながら徐々に低くなり、北側のC地点やE2・E4地点あたりで遺構密度を減じながら、その先の女堀川右岸の低地に至っている。

D地点の調査区内は、都市再生機構(UR)側の発掘調査経費負担箇所と都市計画道路(新都心環状線)の路線部分にあたる北側のD1地点と、市側の発掘調査経費負担箇所と商業・業務用地にあたる南側のD2地点、及び沿道サービス用地にあたる北東端のD3地点の3カ所に便宜的に分かれている(第21図)。このうち、D1地点の発掘調査の成果については、すでに報告書(恋河内・的野2010)が刊行されているので、そちらを参照されたい。

D地点の調査区内で検出された遺構は、竪穴式住居跡15軒、掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基、土坑16基、溝跡7条で、時期は主に古墳時代、平安時代、中世以降のものである。このうち、今回報告するD2地点では、竪穴式住居跡7軒、掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基、土坑8基、溝跡4条、同じくD3地点では溝跡1条が検出されている。

古墳時代の遺構は、竪穴式住居跡6軒で、時期はすべて中期(5世紀)後半～後期初頭(5世紀末)頃のものである。この時期の住居跡は、D2地点の調査区内ではかなり密集して分布しており、第126(SI4)号住居跡と第127(SI5)号住居跡のように同時期同士の重複も認められる。形態は、5m～6m規模のコーナー部がやや丸みをもった方形を呈するものが多い。カマドは、残存しているものが少ないが、その痕跡から推測するとほとんどが住居の東側壁に付設されていたと思われる。また、該期に特徴的なカマド内に高坏を伏せた転用支脚を伴うものも見られる。本遺跡の該期の住居跡には、入口部施設に関係すると思われる「コ」の字形か「L」字形の低い土堤を伴うのが特徴的である。しかしながら、D地点では隣接するD1地点の第122(SI11)号住居跡(恋河内・的野2010)に見られるだけで、D2地点の6軒の住居跡では土堤は確認されていない。

平安時代の遺構は、竪穴式住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基、土坑5基で、前期(9世紀)末～中期(10世紀)初頭頃のもものが主体である。このうちの第13(1)号井戸跡と第105(6)号土坑と第109(2)号土坑については、詳細な時期は不明である。

中世以降の遺構は、溝跡4条と土坑1基である。第28(2)号溝跡と第29(3)号溝跡は、その北側延長部分がD2地点で、南側延長部分は隣接するH地点と、更にその南側の久下前遺跡G地点でも検出されている。第30(4)号溝跡は西側延長部分がH地点でも検出され、第31(7)号溝跡は西側C1地点の第21号溝跡(恋河内・的野2010)と同一の溝と推測される。

D2地点では、古墳時代の第126(SI4)号住居跡の覆土上から、平安時代の完形の和鏡(松鶴鏡)が単独で出土しており、おそらく地鎮等の祭祀に関係するものと思われる。平安時代の鏡は、久下前遺跡C3地点でも、第54号住居跡の覆土中から八稜鏡の破片が1片出土しており注目される。



第21图 D2・D3地点調査区全体图



## 第2節 竪穴式住居跡

### 第118～125号住居跡 D1地点報告済み(恋河内・的野2010)

#### 第126(SI 4)号住居跡(第23図、図版7)

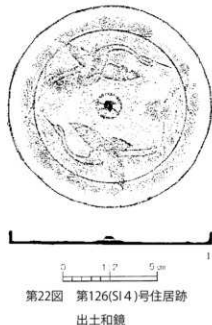
D2地点の調査区中央北側寄りに位置し、西側には第13(SK 8)号井戸跡が近接している。住居跡の東側は第127(SI 5)号住居跡と重複し、それを切っている。

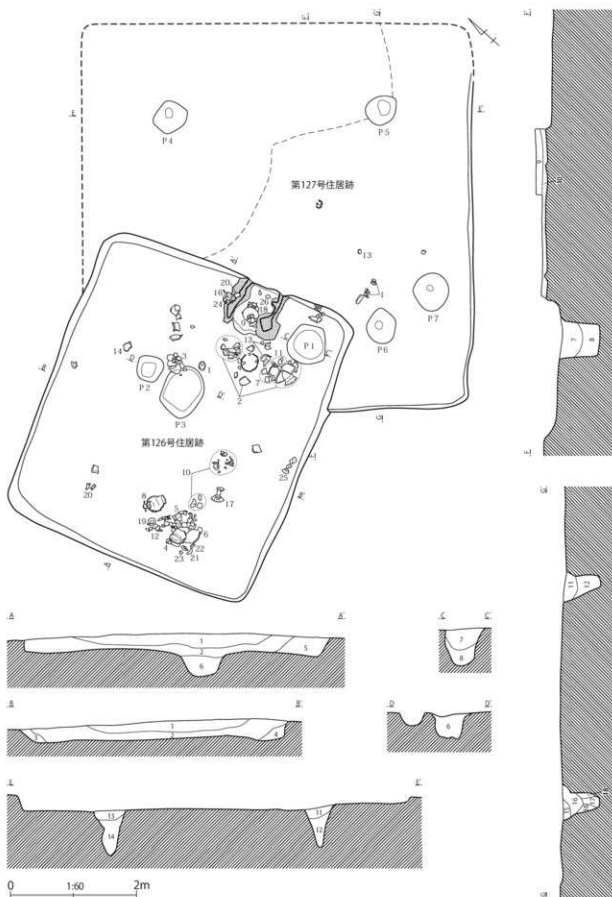
平面形は、北東～南西方向に長いコーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、北東～南西方向が4.95m、北西～南東方向が4.37mを測る。主軸方位は、 $N-71^{\circ}-E$ を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で31cmある。壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を薄く平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は強く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、住居跡内から3ヶ所検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の南東側コーナー部にある。径63cmの円形ぎみの形態で、床面からの深さは58cmある。P2は、住居中央部のP3の北側に隣接している。42cm×40cmの台形を呈し、床面からの深さは23cmある。P3は、住居中央部に位置する。78cm×64cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは37cmある。土層観察の結果では、P3は本住居に伴うかそれ以前のもと考えられるが、その性格は不明である。

カマドは、住居北東側壁の中央からやや南東側コーナー部に寄った位置に付設されている。規模は、全長82cm・最大幅96cmを測る。燃焼部は、住居内に位置する。燃焼面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで水平をなし、中央にはNo18の高環を伏せた転用支脚を据えており、その上にNo9の甕が乗せられていたような状態で出土している。袖は、灰白色粘土やロームブロックを主体とし、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

出土遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、土器の破片がまとまって多数出土している。このうち、本住居跡に伴うものは、カマド内から出土した土器だけで、覆土中から出土した多数の土器は、住居廃絶後に周囲から投げ込まれたものであろう。本住居跡の時期は、出土遺物の様相や住居跡の形態から、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃と考えられる。

また、本住居跡のプラン確認中に、住居中央付近の確認面から平安時代末頃の和鏡(松鶴鏡)が1点単独で出土している(第22図No1、図版7)。この和鏡は、外容器については不明であるが、鏡の下に植物の葉が薄い樹皮のようなものが見られたことから、その上に置かれていたか、あるいはそれによって包まれていたようである。そのため、この場所に意図的に埋置されたものであることが窺え、その性格はおそらく地鎮等の祭祀に関係するものであろう。





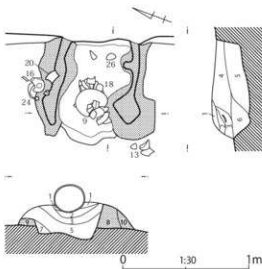
第23図 第126(SI 4)・127(SI 5)号住居跡

## &lt;第126号住居跡土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（径0.5～1cmロームブロックを少量含む。）  
 第2層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロックを含む。）  
 第3層：黄褐色土層（径2～5cmのロームブロックを均一に含む。）  
 第4層：黄褐色土層（第3層と同じ。）  
 第5層：暗褐色土層（第2層に似るが、径0.2～1cmの焼土粒子や焼土ブロックを含む。）  
 第6層：暗褐色土層（径1～1.5cmのロームブロックを含む。しまりを有する。）  
 第7層：黒褐色土層（径0.1～2cmのローム粒子やロームブロックを含む。粘性有り。）  
 第8層：黒褐色土層（径0.1～0.5cmのローム粒子を含む。）

## &lt;第127号住居跡土層説明&gt;

- 第9層：黒褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを少量含む。しまりは無い。）  
 第10層：黒褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを含む。）  
 第11層：黒褐色土層（径0.1～0.3cmのローム粒子を少量含む。）  
 第12層：黒褐色土層（径0.1～1cmのローム粒子やロームブロックを含む。）  
 第13層：黒褐色土層（径2～4cmのロームブロックを含む。）  
 第14層：黒褐色土層（径2～6cmのロームブロックを含む。）  
 第15層：黒褐色土層（径0.2～0.8cmのローム粒子やロームブロックを少量含む。）  
 第16層：黒褐色土層（径0.5～2cmのローム粒子やロームブロックを少量含む。）  
 第17層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを少量含む。）  
 第18層：黒褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを少量含む。）



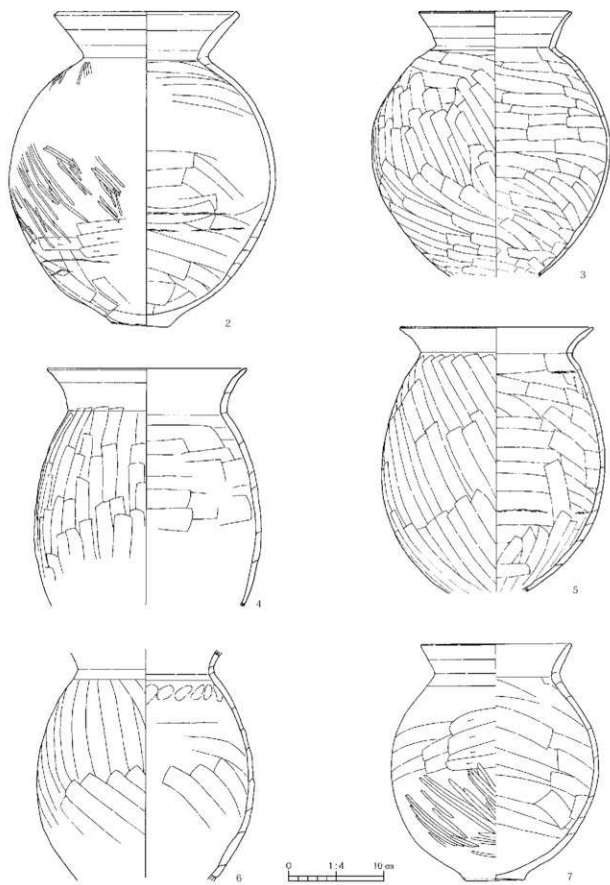
## &lt;第126号住居跡カマド土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（径0.5～1cmの焼土ブロックを含む。）  
 第2層：灰白色土層（灰白色粘土ブロックを含む。）  
 第3層：赤褐色土層（焼土ブロックを多量含む。）  
 第4層：暗褐色土層（径0.5～1cmの焼土ブロックを多量含む。）  
 第5層：暗褐色土層（径0.1～1cmの焼土粒子や焼土ブロックを含む。）  
 第6層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを少量含む。）  
 第7層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含む。）  
 第8層：灰白色土層（灰白色粘土を主体とし、径0.5cmの焼土ブロックを少量含む。）  
 第9層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを含む。）  
 第10層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを含む。）

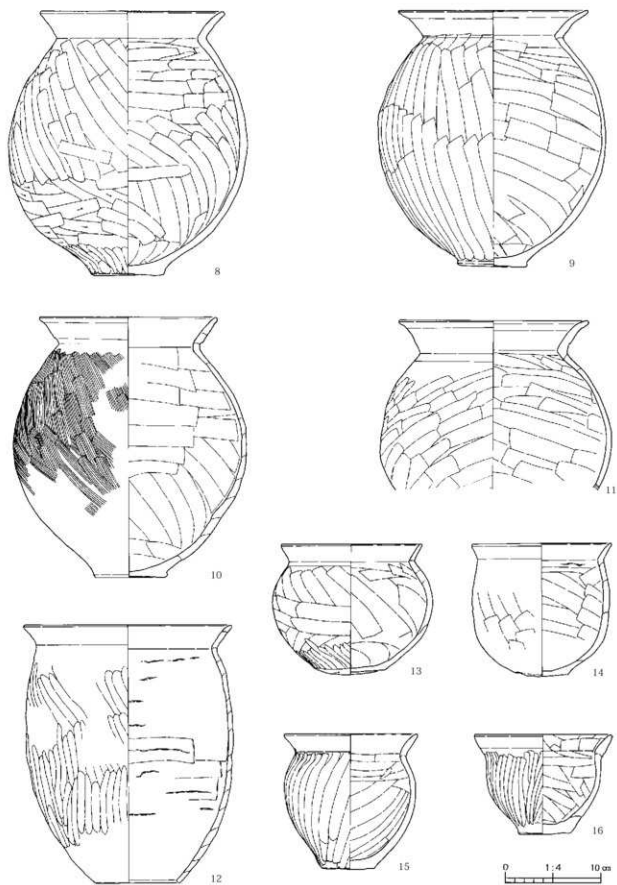
第24図 第126(S14)号住居跡カマド

第7表 第126(S14)号住居跡出土遺物観察表

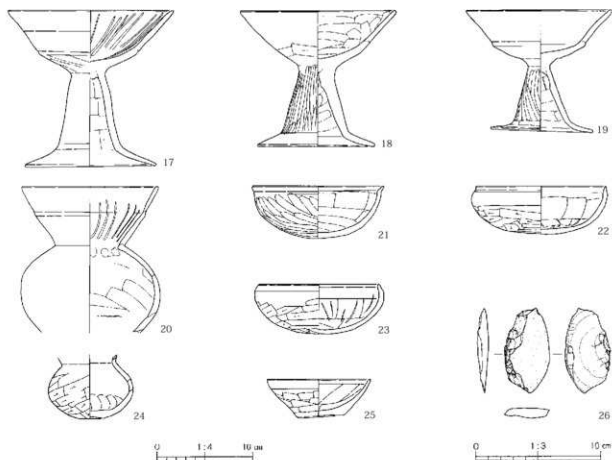
1	罫	A. 直径 10.8, 高さ 0.7, 厚さ 0.1, 組座径 1.4, 重さ 80g, B. 鋳造, D. 鋳製, F. 完形, G. 松緑銅, H. 遺構確認面。
2	竈	A. 口縁部径 19.6, 器高 33.4, 底部径 6.0, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリの後ミガキ, 内面笠ナデ, 底部外面ケズリ, D. 白色粒, 雲母, チャート, E. 外一褐色, 内一にぶい褐色, F. 4/5, G. 胴部外面に黒炭あり, H. 床面付近
3	罫	A. 口縁部径 16.1, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリの後笠ナデ, 内面笠ナデ, D. 白色粒, 赤褐色粒, E. 内外一にぶい褐色, F. 口縁部3/5, G. 胴部外面に黒炭あり, H. 履土中。
4	罫	A. 口縁部径 (21.1), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリの後笠ナデ, 内面笠ナデ, D. 白色粒, 赤褐色粒, E. 内外一褐色, F. 口縁部2/5, G. 外面胴部黒炭, H. 履土中。
5	罫	A. 口縁部径 (20.4), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリの後笠ナデ, 内面笠ナデ, D. 白色粒, 赤褐色粒, 雲母, E. 内外一褐色, F. 口縁部3/5, G. 外面胴部下位帯状に剥落, H. 履土中。
6	罫	B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリの後笠ナデ, 内面笠ナデ, D. 白色粒, 片岩粒, チャート, E. 内外一にぶい褐色, F. 胴部 4/5, G. 外面胴部下位帯状に剥落, H. 履土中。
7	罫	A. 口縁部径 16.0, 器高 24.9, 底部径 6.2, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリの後ミガキ, 内面笠ナデ, 底部外面ケズリ, D. 白色粒, チャート, E. 内外一明赤褐色, F. 4/5, G. 胴部外面黒炭あり, H. 床面付近。
8	罫	A. 口縁部径 19.5, 器高 27.8, 底部径 7.8, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリの後笠ナデ, 内面笠ナデ, 底部外面ケズリ, D. 白色粒, 赤褐色粒, 角閃石, E. 内外一にぶい褐色, F. 口縁部3/5, G. 胴部外面に黒炭あり, H. 履土中。
9	罫	A. 口縁部径 19.9, 器高 27.0, 底部径 7.4, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリの後笠ナデ, 内面笠ナデ, D. 赤褐色粒, チャート, E. 外一にぶい褐色, 内一にぶい褐色, F. ほぼ完形, G. 胴部外面に黒炭あり, H. カマド内。



第25図 第126(S14)号住居跡出土遺物(1)



第26图 第126(S14)号住居跡出土遺物 (2)



第27図 第126(SI4)号住居跡出土遺物(3)

10	甕	A. 口縁部径 18.7、器高 27.4、底部径 7.8、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケの後下半ナデ、内面塗ナデ、底部外面ナデ、D. 白色粒、角閃石、チャート、E. 内外一橙色、F. 3/5、G. 外面胴部下位帯状に剥落、H. 覆土中。
11	甕	A. 口縁部径 20.0、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後塗ナデ、内面塗ナデ、D. 白色粒、雲母、チャート、E. 外一明赤褐色、内一ふい赤褐色、F. 口縁上半 4/5、G. 胴部外面黒斑あり、H. 覆土中。
12	大形 甕	A. 口縁部径 22.0、器高 27.2、底部径 8.8、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ナデ、内面塗ナデ、D. 白色粒、赤褐色粒、E. 内外一橙色、F. 3/5、G. 外面胴部中位帯状に剥落、H. 覆土中。
13	小形 甕	A. 口縁部径 14.9、器高 13.7、底部径 6.5、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面塗ナデの後下半ミガキ、内面塗ナデ、底部外面ケズリ、D. 白色粒、赤褐色粒、雲母、E. 内外一ふい黄褐色、F. 4/5、G. 胴部外面に黒斑あり、H. 覆土中。
14	小形 甕	A. 口縁部径 14.2、器高 14.3、底部径 5.4、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後塗ナデ、内面塗ナデ、底部外面ケズリ、D. 白色粒、赤褐色粒、雲母、E. 内外一ふい橙色、F. 3/5、G. 胴部外面剥落顕著、H. 覆土中。
15	小形 甕	A. 口縁部径 14.2、器高 14.3、底部径 5.4、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後塗ナデ、内面塗ナデ、底部外面ケズリ、D. 白色粒、赤褐色粒、雲母、E. 内外一ふい橙色、F. 3/5、G. 胴部外面に黒斑あり、H. 覆土中。
16	小形 甕	A. 口縁部径 14.5、器高 10.4、底部径 5.5、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後ナデ、内面塗ナデ、底部外面ケズリ、D. 白色粒、赤褐色粒、雲母、E. 内外一橙色、F. 3/5、G. 胴部外面に黒斑あり、H. 覆土中。
17	高 環	A. 口縁部径 17.6、器高 16.5、脚端部径 13.9、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、環部内外面ナデ、脚柱部内外面ナデ、脚端部内外面ヨコナデ、D. 白色粒、赤褐色粒、雲母、E. 外一橙色、内一明赤褐色、F. 4/5、G. 環部内面に放射状暗文を施す、脚端部外面に黒斑あり、H. 覆土中。
18	高 環	A. 口縁部径 16.6、器高 14.3、脚端部径 12.5、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、環部外面ナデ、環部内面ナデ後放射状暗文、脚柱部外面ミガキ、脚部内面ナデ、D. 白色粒、赤褐色粒、E. 内外一明赤褐色、F. 3/5、G. 環部及び脚端部外面に黒斑あり、H. カマド支脚。
19	高 環	A. 口縁部径 (15.3)、器高 12.9、脚端部径 10.9、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、環部内外面ナデ、脚柱部内外面ナデ、脚端部内外面ヨコナデ、D. 白色粒、赤褐色粒、雲母、E. 外一ふい赤褐色、内一明赤褐色、F. 3/5、G. 環部及び脚端部外面に黒斑あり、H. 覆土中。
20	中形直口甕	A. 口縁部径 (14.4)、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデの後、内面に放射状暗文を施す、胴部外面ナデ、内面塗ナデ、D. 白色粒、赤褐色粒、雲母、E. 内外一明赤褐色、F. 3/5、G. 口縁部外面に黒斑あり、H. 覆土中。

21	環	A. 口縁部径 14.0、器高 5.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面澁ナデ、内面ナデ。D. 白色粒、雲母。E. 内外一にふい褐色。F. 口縁部～底部 4/5。G. 体部外面に黒炭あり。H. 覆土中。
22	環	A. 口縁部径 13.8、器高 5.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下平ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、雲母。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部～底部 4/5。G. 体部外面に黒炭あり。H. 覆土中。
23	環	A. 口縁部径 12.8、器高 5.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下平ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、雲母。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に黒炭あり。H. 覆土中。
24	小形直口壺	A. 底部径 2.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面指ナデ。D. 白色粒、赤褐色粒、角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 胴部～底部 4/5。G. 胴部外面に黒炭あり。H. 覆土中。
25	環	A. 口縁部径 10.9、器高 4.1、底部径 4.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面澁ナデ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒、雲母。E. 内外一褐色。F. 口縁部～底部 4/5。H. 覆土中。
26	スケイパー	A. 長さ 6.75、幅 3.65、厚さ 0.95、重さ 22.87g。C. 摩度をもち剥片の一端縁に片面加工を施す。縁辺部に微細刺刺痕あり。D. 頁岩。F. ほぼ完形。H. カマド内。

### 第127(SI 5)号住居跡(第23図、図版7)

D 2 地点の調査区北端に位置する。住居跡の西側は古墳時代後期初頭(5世紀末)頃の第126(SI 4)号住居跡と、東側は平安時代前期(9世紀)末～中期(10世紀)初頭頃の第128(SI 6)号住居跡と重複し、それらに切られている。本住居跡の北側半分はすでに削平されており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

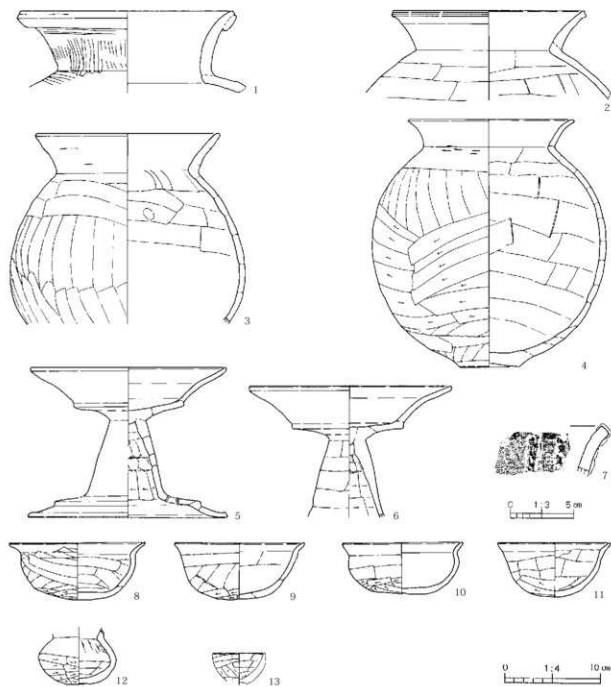
平面形、遺構の残存する部分や主柱穴の配置から推測すると、コーナー部がやや丸みをもつ方形の形態であったと思われる。規模は、北東～南西方向は5.30mまで、北西～南東方向は4.26mまで測れる。住居跡の北東～南西方向は、N-48°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で6cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広で不定形な溝状に深くなる形態である。ピットは、住居跡内からP 4～P 7の4ヶ所が検出されている。P 4～P 6は、住居のほぼ対角線上に配置されていると推測されることから、4本主柱穴を構成するピットと考えられる。平面形は50cm～60cmの楕円形を呈し、床面からの深さはいずれも70cm前後ある。P 7は、住居南側の壁際に位置する。径60cm程度の円形を呈し、床面からの深さは50cmある。

カマドやその痕跡は、確認できなかった。

出土遺物は、住居中央部の覆土中から古墳時代中期(5世紀)後半を主体とする土器の破片が少量出土している。これらの土器片は、その出土状況から、本住居跡に直接伴うものではなく、住居廃絶後に周囲から流入したものと思われる。本住居跡の時期は、出土遺物の様相や住居の形態から、古墳時代中期(5世紀)後半頃と考えられる。

第8表 第127(SI 5)号住居跡出土遺物観察表

1	複合口縁壺	A. 口縁部径(23.1)、残存高 8.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面ミガキ、内面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ミガキ、内面不明。D. 白色粒、石英、角閃石。E. 外一にふい黄褐色、内一灰黄褐色。F. 口縁部～胴部上位 1/3。G. 内外面とも器面は濡れている。H. 覆土中。
2	壺	A. 口縁部径(20.5)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面澁ナデ。D. 石英、チャート、角閃石、白色粒。E. 内外一にふい黄褐色。F. 口縁部 1/5。G. 胴部外面上半に帯状に黒炭あり。H. 覆土中。
3	壺	A. 口縁部径(19.6)、残存高(20.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面指押しさのえナデ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 内外一にふい黄褐色。F. 口縁部～胴部中位 1/5。G. 胴部内面に刺刺痕あり。H. 覆土中。
4	壺	A. 口縁部径 17.4、器高 26.2、底部径(6.3)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下平ケズリ、内面澁ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、石英、角閃石。E. 外一にふい褐色、内一にふい褐色。F. 1/3。G. 胴部外面に黒炭あり。内面胴部下位帯状にヨコシ。H. 覆土中。
5	有段高環	A. 口縁部径 20.8、器高(15.8)、脚端部径(21.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。脚柱部外面ナデ、内面指ナデの後下平ケズリ、脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、石英、角閃石。E. 内外一にふい赤褐色。F. 3/4。G. 器形は両上復原。H. 覆土中。



第28図 第127(SI5)号住居跡出土遺物

6	有段高环	A. 口縁部径(21.4)、残存高(13.7)。B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。脚柱部外面ナデ、内面指ナデの後下平ケズリ。D. 白色粒、角閃石。E. 外一にふい橙色。内一にふい赤褐色。F. 脚端部以外4/5。G. 口縁部外面に黒斑あり。脚柱部は二次焼成を受け、煤附着。H. 覆土中。
7	複合口縁破	B. 粘土層積み上げ。C. 複合口縁外面に棒状浮文を貼り付け、棒状浮文の上に磨削工具による刺突文を施す。D. 石英、白色粒、角閃石。外一橙色、内一にふい黄褐色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
8	环	A. 口縁部径(14.5)、器高6.0。B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ後下端ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石、石英。E. 外一明赤褐色、内一にふい橙色。F. 1/2。G. 口縁部内外面に黒斑あり。H. 覆土中。
9	环	A. 口縁部径(13.8)、器高5.0。B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下端ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、石英。E. 内外一にふい橙色。F. 4/5。G. 体部内面は器表面が飛れている。H. 覆土中。
10	环	A. 口縁部径(12.8)、器高5.4。B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ後下平ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 外一にふい褐色、内一暗褐色。F. 1/2。H. 覆土中。



11	環	A. 口縁部径(12.0)、器高5.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ後下平ケズリ、内面ナデ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 内外一橙色。F. 1/3。G. 体部内面は器表面が荒れている。H. 覆土中。
12	小形直口甕	A. 残存高(5.9)、底部径2.6。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ナデ後下平ケズリ、内面上下緩り目下平ナデ。底部外面ナデ。D. 石英、白色粒、角閃石。E. 内外一にふいふ褐色。F. 胴部のみ。H. 覆土中。
13	小形土器	A. 口縁部径(5.6)、残存高3.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、白色粒、石英。E. 内外一明赤褐色。F. 環部1/2。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中。

## 第128(SI 6)号住居跡(第29図、図版8)

D2地点の調査区北東端に位置し、北東側にはD1地点の第124(SI13)号住居跡(恋河内・的野2010)が、南側には第129(SI3)号住居跡が近接している。西側は第127(SI5)号住居跡と重複し、それを切っている。住居跡は、中央を境にして北側がD1地点、南側がD2地点に分断されるが、便



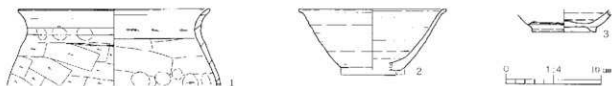
第29図 第128(SI6)号住居跡

宜的にD2地点の遺構として報告する。住居跡の上面は強く削平されており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、南北方向に長い長方形を呈している。規模は、南北方向が3.54m、東西方向が3.00mを測る。主軸方位は、N-91°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で13cmある。壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を薄く平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、2ヶ所検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の南東側コーナー部にある。106cm×80cmの長方形ぎみの浅い掘り込みの中に、床面からの深さが25cmある楕円形状の一段深い掘り込みをもつ。P2は、住居西側壁中央付近の壁際にある。直径26cmの円形を呈し、床面からの深さは20cmある。

カマドは、住居東側壁の中央からやや南東側コーナー部に寄った位置に、住居の壁を掘り込んで構築されている。規模は、全長106cm・最大幅77cmを測る。燃焼部は、半分が壁外に位置する。燃焼面(火床)は住居の床面とほぼ同じ高さで、焚口部には楕円形のピット状の掘り込みをもち、奥壁は緩やかに傾斜している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

出土遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、土師器や須恵器の土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、平安時代前期(9世紀)末頃と考えられる。



第30図 第128(SI 6)号住居跡出土遺物

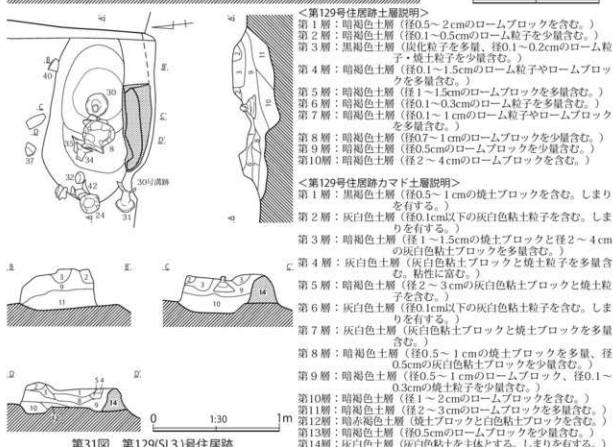
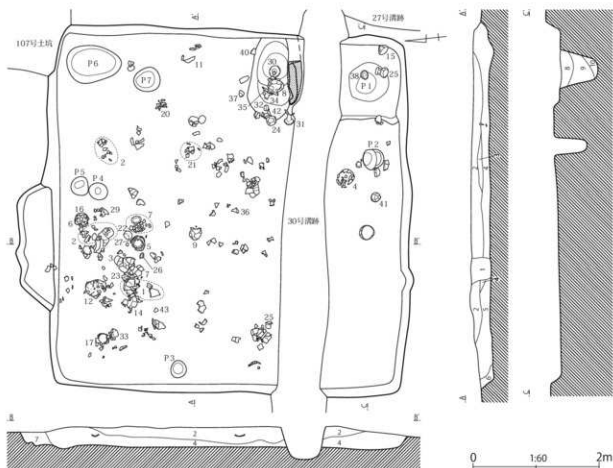
第9表 第128(SI 6)号住居跡出土遺物観察表

1	裏	A. 口縁部径(20.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面莚ナデ。D. 褐色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 口縁部1/2破片。G. 口縁部外面に指頭瓦痕を残す。H. 覆土中。
2	高台付境	A. 口縁部径(15.6)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡灰褐色。F. 1/4強。G. 還元不良。H. カマド内。
3	高台付境	A. 高台部径6.8。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転ネ切り。D. 赤色粒、白色粒、小石。E. 内外一暗灰褐色。F. 底部1/2。G. 還元不良。H. カマド内。

### 第129(SI 3)号住居跡(第31図、図版8)

D2地点の調査区東側に位置し、北側に第128(SI 6)号住居跡が、南側に第131(SI 2)号住居跡が近接している。第107号土坑や第30号溝跡と重複し、それらに切られている。

平面形は、比較的整った方形を呈している。規模は、東西方向が5.83m、南北方向が5.74mを測る。主軸方位は、N-97°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で22cmある。壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、住居内から7ヶ所検出



第31図 第129(SI3)号住居跡

## &lt;第129号住居跡土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを含む。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.1～0.5cmのローム粒子を少量含む。）
- 第3層：黒褐色土層（炭化粒子を多量、径0.1～0.2cmのローム粒子・焼土粒子を少量含む。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.1～1.5cmのローム粒子やロームブロックを多量含む。）
- 第5層：暗褐色土層（径1～1.5cmのロームブロックを多量含む。）
- 第6層：暗褐色土層（径0.1～0.3cmのローム粒子を多量含む。）
- 第7層：暗褐色土層（径0.1～1cmのローム粒子やロームブロックを多量含む。）
- 第8層：暗褐色土層（径0.7～1cmのロームブロックを少量含む。）
- 第9層：暗褐色土層（径0.5cmのロームブロックを少量含む。）
- 第10層：暗褐色土層（径2～4cmのロームブロックを含む。）

## &lt;第129号住居跡カマド土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（径0.5～1cmの焼土ブロックを含む。しまりを有する。）
- 第2層：灰白色土層（径0.1cm以下の灰白色粘土粒子を含む。しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（径1～1.5cmの焼土ブロックと径2～4cmの灰白色粘土ブロックを多量含む。）
- 第4層：灰白色土層（灰白色粘土ブロックと焼土粒子を多量含む。粘性に富む。）
- 第5層：暗褐色土層（径2～3cmの灰白色粘土ブロックと焼土粒子を含む。）
- 第6層：灰白色土層（径0.1cm以下の灰白色粘土粒子を含む。しまりを有する。）
- 第7層：灰白色土層（灰白色粘土ブロックと焼土ブロックを多量含む。）
- 第8層：暗褐色土層（径0.5～1cmの焼土ブロックを多量、径0.5cmの灰白色粘土ブロックを少量含む。）
- 第9層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック、径0.1～0.3cmの焼土粒子を少量含む。）
- 第10層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含む。）
- 第11層：暗褐色土層（径2～3cmのロームブロックを多量含む。）
- 第12層：暗赤褐色土層（焼土ブロックと白色粘土ブロックを含む。）
- 第13層：暗褐色土層（径0.5cmのロームブロックを少量含む。）
- 第14層：灰白色土層（灰白色粘土を主体とする。しまりを有する。）

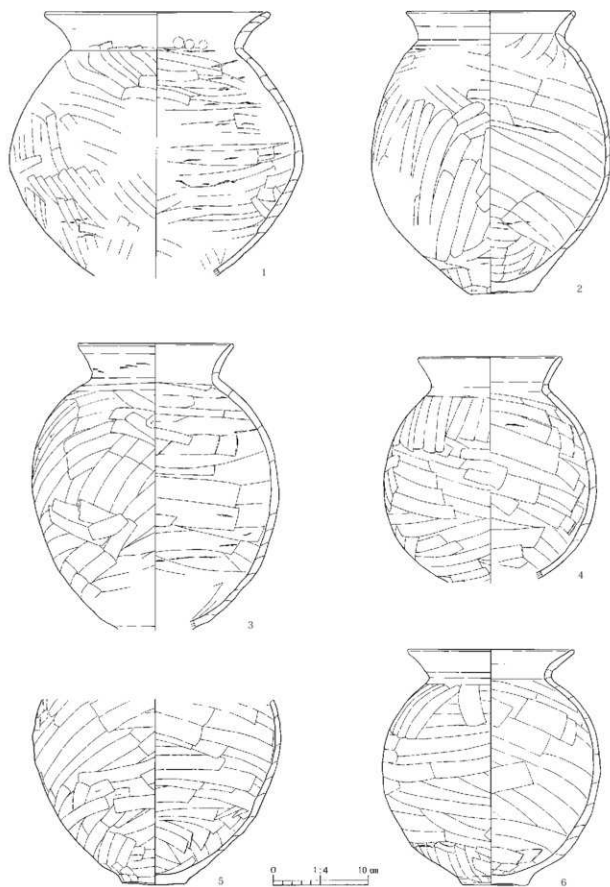
されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の南東側コーナー部にある。平面形が長方形が方形の浅い掘り込みの中央部に、直径65cmの円形を呈する深さ60cmの掘り込みをもつ。P2は、直径32cmの円形を呈し、床面からの深さは50cmある。P1西側の住居南側壁際に位置することから、住居の入口施設に関係する梯子穴の可能性が高い。本遺跡の該期の住居跡では、このピットの周囲に「コ」の字状に土塊を巡らせるものが多いが、本住居跡には見られなかった。P3は、西側壁際に位置する。直径25cmの円形を呈し、床面からの深さは12cmある。P4とP5は、隣接して北側壁際に位置する。いずれも直径30cm程度の円形を呈し、床面からの深さはそれぞれ27cmと36cmある。P6は、西北東コーナー部に位置する。86cm×60cmの楕円形を呈し、床面からの深さは9cmある。P7は、P6の南側に位置する。42cm×38cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは20cmある。

カマドは、住居東側壁の中央やや南東側コーナー部寄りの位置に、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長138cm・最大幅88cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込まず住居内にある。燃焼面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さであるが、奥壁に向かって緩やかに傾斜している。燃焼部の中央には、No30の高環を伏せて転用支脚が据えられており、その上からNo8の甕が乗せられていたような状態で出土している。袖は、右側袖の一部が残存しており、おそらく灰白色粘土を住居の壁に直接貼り付けて構築したのもと思われる。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

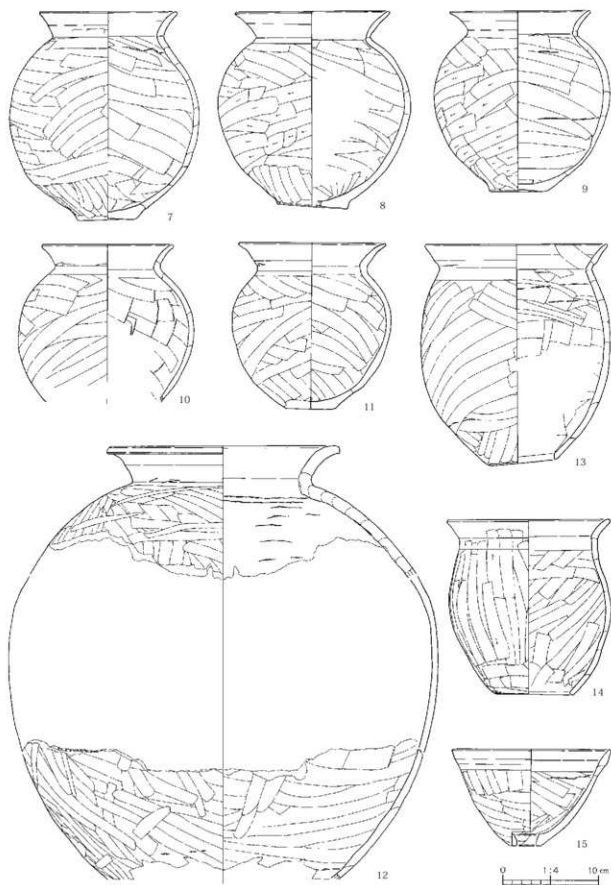
出土遺物は、カマド内や貯蔵穴内及び住居跡の覆土中から、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃の土器が多数出土している。この中で、住居跡の覆土中から出土した多くの土器は、本住居跡で使用されていたものではなく、住居廃絶後の覆土埋没過程中に周囲から投げ込まれたものであろう。この他では、縄文時代中期後半と思われる石鏃や深鉢形土器の破片が、覆土中から1点ずつ出土している。本住居跡の時期は、出土遺物の様相や住居の形態から、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃と考えられる。

第10表 第129(SI3)号住居跡出土遺物観察表

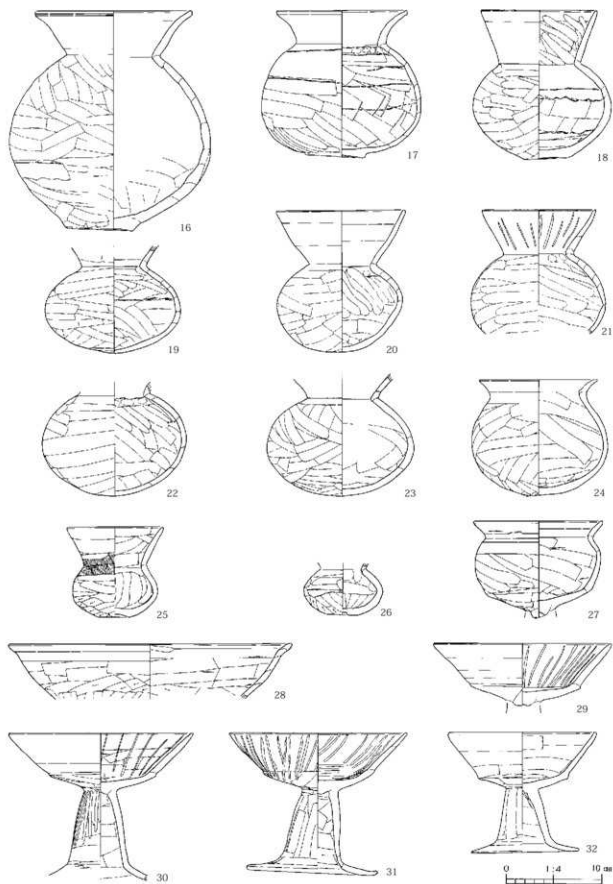
1	甕	A. 口縁部径(24.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後援ナデ、内面寛ナデ。D. 石英、片岩粒、赤色粒。E. 内外一橙色。F. 口縁～胴部3/4。H. 覆土中。
2	甕	A. 口縁部径17.8。器高29.7。底部径6.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後援ナデ、内面寛ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D. 石英、片岩粒、赤色粒。E. 内外一明褐色。F. I/3。G. 胴部外面に煤付着。H. 覆土中。
3	甕	A. 口縁部径(16.5)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後援ナデ、内面寛ナデ。D. 石英、長石、角閃石。E. 外一にふい褐色。内一明赤褐色。F. 口縁～胴部4/5。G. 胴部外面に黒斑あり。胴部外面に煤付着。H. 覆土中。
4	甕	A. 口縁部径(15.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後援ナデ、内面寛ナデ。D. 石英、角閃石。E. 内外一橙色。F. 口縁～胴部4/5。G. 胴部外面に煤付着。H. 覆土中。
5	甕	A. 底部径6.7。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリの後援ナデ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、チャート。E. 内外一橙色。F. 胴下半1/2。H. 覆土中。
6	甕	A. 口縁部径17.6。器高24.8。底部径6.9。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後援ナデ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、白色粒。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 胴部外面に黒斑あり。胴部外面に煤付着。H. 覆土中。
7	甕	A. 口縁部径14.6。器高21.9。底部径6.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後援ナデ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、白色粒。E. 外一灰褐色。内一にふい褐色。F. ほぼ完形。G. 胴部外面に煤付着。胴部内面に帯状の炭化物付着。H. 覆土中。
8	甕	A. 口縁部径16.4。器高20.7。底部径(7.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後援ナデ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、長石。E. 内外一にふい褐色。F. A/5。H. カマド内。
9	甕	A. 口縁部径(14.9)。器高19.0。底部径6.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後援ナデ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、角閃石、片岩粒。E. 内外一にふい褐色。F. ほぼ完形。G. 胴部外面に黒斑あり。胴部内面に帯状の炭化物付着。H. 覆土中。
10	甕	A. 口縁部径(14.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面寛ナデ。D. 石英、長石。E. 外一にふい赤褐色。内一にふい褐色。F. 口縁～胴部4/5。G. 胴部外面に煤斑。H. 覆土中。
11	甕	A. 口縁部径(15.6)。器高17.5。底部径5.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後援ナデ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、黒色粒。外一明褐色。内一褐色。F. I/2。H. 覆土中。



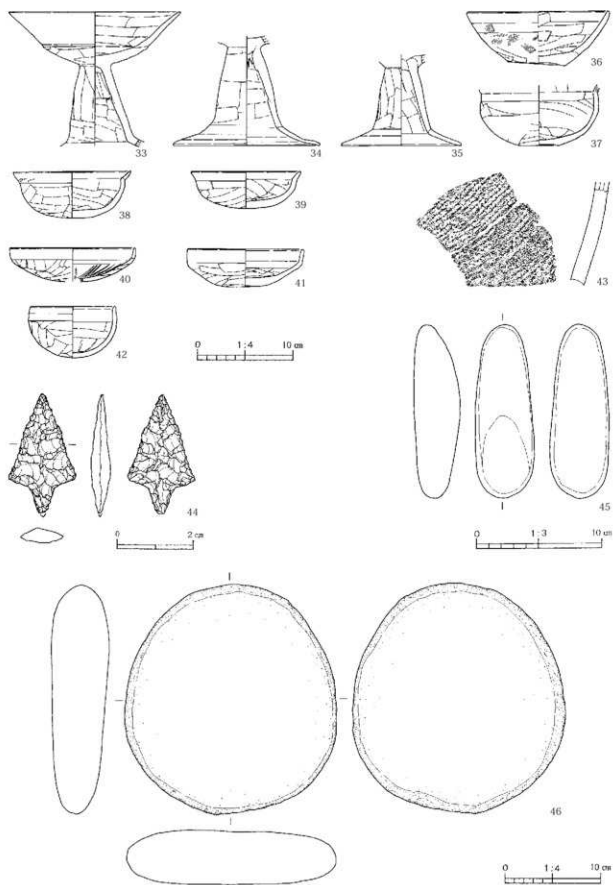
第32図 第129(SI 3)号住居跡出土遺物(1)



第33图 第129(SI 3)号住居跡出土遺物(2)



第34図 第129(SI 3)号住居跡出土遺物(3)



第35図 第129(SI 3)号住居跡出土遺物(4)



12	罎	A. 口縁部径(24.7)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面罎ナデ。D. 石英、片岩粒、赤色粒。E. 外一明赤褐色、内一明褐色。F. 口縁部4/5。胴部径。G. 胴部の粘土接着部端面にキズミ。H. 覆土中。
13	大形 甌	A. 口縁部径19.2。器高23.8。底部径7.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後罎ナデ。内面罎ナデ。D. 石英、白色粒。E. 外一明褐色、内一明赤褐色。F. 4/5。G. 胴部外面に黒炭あり。胴部外面復付着。H. 覆土中。
14	大形 甌	A. 口縁部径17.2。器高18.4。底部径8.3。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後罎ナデ。内面罎ナデ。D. 石英、角閃石。E. 外一にふい褐色、内一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 胴部外面に黒炭あり。H. 覆土中。
15	小形 甌	A. 口縁部径16.8。器高10.1。底部径3.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後罎ナデ。内面罎ナデの後下半ケズリ。D. 石英、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
16	甌	A. 口縁部径16.6。器高23.0。底部径7.3。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面罎ナデ。胴部外面ケズリ。D. 石英、チャート、片岩粒、黒色粒。E. 内外一褐色。F. 4/5。G. 外面に復付着。胴部外面に黒炭あり。内面に炭化物付着。H. 覆土中。
17	甌	A. 口縁部径13.8。器高15.4。底部径(6.3)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面罎ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、白色粒。E. 内外一褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
18	中形直口甌	A. 口縁部径12.3。器高15.7。底部径4.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。内面ヨコナデの後ナデ。胴部内外面罎ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、片岩粒、赤色粒。E. 外一にふい褐色、内一褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
19	中形直口甌	B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面罎ナデ。D. 石英、黒色粒、赤色粒。E. 内外一褐色。F. 胴部一底部1/2。H. 覆土中。
20	中形直口甌	A. 口縁部径13.7。器高14.9。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面罎ナデ。内面上半ナデの後下半ナデ。D. 石英、赤色粒。E. 内外一にふい褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
21	中形直口甌	A. 口縁部径(12.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後放射状暗文を施す。胴部内外面罎ナデ。D. 石英、白色粒。E. 外一にふい褐色、内一明赤褐色。F. 口縁部一胴部3/4。H. 覆土中。
22	中形直口甌	B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面罎ナデ。D. 石英、片岩粒。E. 外一にふい褐色、内一にふい赤褐色。F. 胴部のみ。H. 覆土中。
23	中形直口甌	B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後罎ナデ。内面罎ナデ。D. 石英、白色粒。E. 外一にふい赤褐色、内一明赤褐色。F. 胴部一頸部4/5。H. 覆土中。
24	鉢	A. 口縁部径12.5。器高12.2。底部径3.9。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面罎ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、白色粒。E. 内外一にふい褐色。F. 4/5。H. 床面直上(カマド焚口)。
25	小形直口甌	A. 口縁部径(10.2)。器高9.5。底径3.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ハケの後ヨコナデ。内面ヨコナデの後ナデ。胴部外面罎ナデの後下半ケズリ。内面ナデ。底部外面ナデ。D. 石英、黒色粒、赤色粒。E. 内外一にふい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 胴部外面に黒炭あり。H. 覆土中。
26	小形直口甌	B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ。内面ナデ。D. 石英、赤色粒。E. 内外一にふい赤褐色。F. 胴部のみ。G. 胴部外面に黒炭あり。H. 覆土中。
27	脚付鉢	A. 口縁部径13.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面罎ナデ。D. 石英、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部一胴部7/8。H. 覆土中。
28	大形鉢	A. 口縁部径(30.1)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面罎ナデの後下半ケズリ。内面罎ナデ。D. 石英、赤色粒。E. 内外一褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
29	高 環	A. 口縁部径18.8。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後内面に放射状暗文を施す。坏部内外面罎ナデ。D. 石英、黒色粒。E. 内外一赤褐色。F. 坏部のみ。H. 覆土中。
30	高 環	A. 口縁部径19.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後内面に放射状暗文を施す。坏部内外面罎ナデ。脚柱部外面罎ナデの後ミガキ。内面罎ナデ。胴部内外面ヨコナデ。D. 石英、白色粒。E. 外一明赤褐色。内一にふい赤褐色。F. 脚端部欠損。H. カマド支脚。
31	高 環	A. 口縁部径18.8。器高15.0。脚端部径13.8。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後放射状暗文を施す。脚柱部外面罎ナデ。内面罎ナデの後下半ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 石英、長石、角閃石、片岩粒。E. 外一褐色。内一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。
32	高 環	A. 口縁部径(15.6)。器高12.7。脚端部径(11.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後罎ナデ。脚柱部外面罎ナデ。内面罎ナデの後下半ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 石英、長石、片岩粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面直上(カマド焚口)。
33	高 環	A. 口縁部径(18.1)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後内面罎ナデ。坏一坏部内外面罎ナデ。脚柱部外面罎ナデ。内面罎ナデの後下半ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 石英、黒色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
34	高 環	A. 脚端部径15.4。B. 粘土組織み上げ。C. 脚柱部外面罎ナデ。内面罎ナデの後下半ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 石英、片岩粒、黒色粒、赤色粒。E. 外一褐色、内一明赤褐色。F. 脚部のみ。H. カマド上面。
35	高 環	A. 脚端部径12.7。B. 粘土組織み上げ。C. 脚柱部外面罎ナデ。内面罎ナデの後下半ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 石英、黒色粒、赤色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 脚部4/5。H. カマド上面。
36	鉢	A. 口縁部径15.1。器高5.8。底径6.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ハケの後ナデ。内面罎ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、黒色粒。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 底部外面に黒炭あり。H. 覆土中。
37	鉢	A. 底径3.9。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後罎ナデ。内面罎ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D. 石英、赤色粒。E. 内外一褐色。F. 2/3。G. 胴部外面復付着。H. 覆土中。
38	環	A. 口縁部径12.5。器高4.9。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後罎ナデ。内面罎ナデ。D. 石英、赤色粒。E. 内外一褐色。F. ほぼ完形。H. 貯蔵穴(P1)内。
39	環	A. 口縁部径11.7。器高3.9。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面罎ナデ。D. 石英、赤色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面被熱。H. 覆土中。

40	模倣環	A. 口縁部径(13.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面縦ナデの後、内面に放射状暗文を施す。D. 石英、白色粒。E. 内外一橙色。F. 1/4。H. 覆土中。
41	模倣環	A. 口縁部径 12.4。器高 4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面縦ナデ。D. 石英、赤色粒。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
42	小形環	A. 口縁部径 9.1。器高 5.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後縦ナデ、内面縦ナデ。D. 石英、片岩粒、黒色粒。E. 内外一橙色。F. 完形。H. カマド内。
43	深鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面単脚LR縄文を斜位施文。胴部内面斜位のナデ。D. 石英、片岩粒、赤色粒、黒色粒。E. 内外一橙色。F. 胴部破片。G. 縄文時代中期加曽利EⅡ式。H. 覆土中。
44	石 甌	A. 長さ 3.1。最大幅 1.8。厚さ 0.5。重さ 1.74g。C. 全体的に丁寧な加工が施されている。D. チャートない珪質頁岩。F. ほぼ完形。G. 凸基有茎甌。H. 覆土中。
45	磨 石	A. 長さ 13.6。最大幅 4.65。厚さ 3.65。重さ 281.47g。D. 流紋岩。F. 完形。G. 表裏面とも摩耗痕が認められ、表面中央～下部は顕著な摩耗により平滑になる。H. 覆土中。
46	台 石 ?	A. 長さ 24.25。幅 22.5。厚さ 6.1。重さ 5050g。D. 閃緑岩。F. 完形。G. 表裏ともに顕著な摩耗痕が認められる。H. 覆土中。

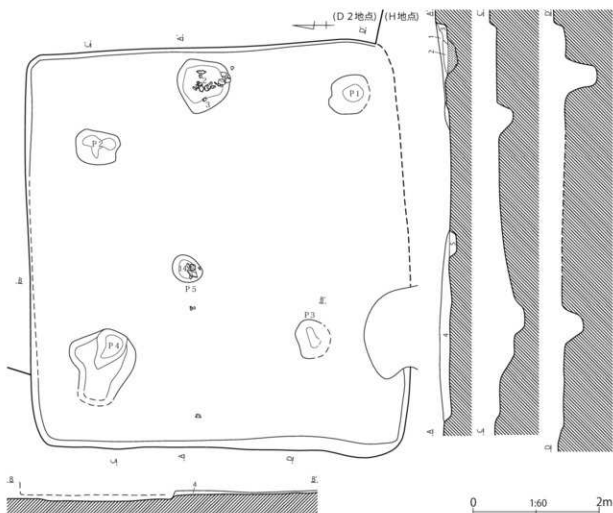
### 第130(SI 1)号住居跡(第36図、図版 8)

D2地点の調査区南西端に位置する。東側には第131(SI 2)号住居跡が、北側には第2号掘立柱建物跡が近接している。住居跡の上面は強く削平を受けており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。本住居跡の南側と西側の調査区外にあたる部分は、平成23年度の隣接するH地点で調査されており、同一の遺構であることから今回両者を合せて報告する。

平面形は、コーナー部が丸みをもち、西側壁がやや歪んだ方形を呈している。規模は、東西方向が6.45m、南北方向が6.02mを測る。主軸方位は、N-89°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で16cmある。壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を薄く平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は強く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、住居跡内から5ヶ所検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の南東側コーナー部付近にある。66cm×61cmの不整形円形を呈し、床面からの深さは50cmある。P2～P4は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、4本主柱穴を構成するものと考えられる。いずれも70cm程度の楕円形ぎみの形態で、床面からの深さはそれぞれ31cm・32cm・34cmある。P5は、住居の中央付近に位置する。50cm×40cmの楕円形を呈し、床面からの深さは8cmある。中からNo14の平安時代の須恵器高台付環と片岩が出土していることから、本住居跡には伴わないものと考えられる。

カマドは、住居東側壁の中央付近にある。カマドの袖や煙道部はすでに削平されており、燃焼部の掘り方部分だけが残存している。燃焼部の掘り方は、住居の壁より内側に位置する。84cm×86cmの不整形円形を呈し、床面からの深さは17cmある。燃焼面(火床)は、土器の出土状態からみて、住居床面よりも一段低くほぼ水平であったようである。中央部から自然石が1個出土しているが、支脚かどうかは不明である。

出土遺物は、主にカマド内から古墳時代中期(5世紀)を主体とする土器の破片が、少量出土しただけである。この他に、本住居跡の遺構確認面や覆土中から、奈良時代(8世紀)後半から平安時代中期(10世紀)中頃までの土師器や須恵器と灰陶陶器の破片が多く混在して出土しており、新しい時代の住居跡と重複していた可能性も考えられる。また、覆土中から土壁状や小さな粘土塊が出土しているが、その時期や性格は不明である。本住居跡の時期は、住居の形態やカマド燃焼部の掘り方内から出土した土器の様相から、古墳時代中期(5世紀)中頃と考えられる。



<第130号住居跡土層説明>

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのルームブロック、径0.5cmの炭化物、径0.3cmの焼土粒子を少量含む。）  
 第2層：暗褐色土層（径1～3cmのルームブロックを多量、径0.5cmの炭化物を少量含む。）  
 第3層：暗褐色土層（径0.5cmのルームブロックを均一に含む。）  
 第4層：暗褐色土層（径0.5～3cmのルームブロック、径0.5～1cmの炭化物、径0.3cm以下の焼土粒子を少量含む。）  
 第5層：黒褐色土層（径1～2cmのルームブロックを少量含む。）

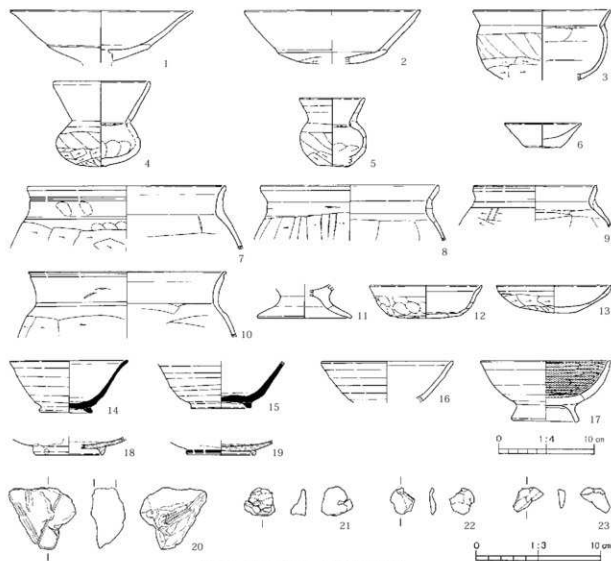
<第130号住居跡カマド掘り方土層説明>

- 第1層：赤褐色土層（焼土層。径1～2cmの白色粘土ブロックを少量含む。）  
 第2層：黒褐色土層（径0.5cmの焼土ブロック、径2cmのルームブロック、炭化物を含む。）  
 第3層：暗褐色土層（径2cmのルームブロック、炭化物を含む。）

第36図 第130(S1)号住居跡

第11表 第130(S1)号住居跡出土遺物観察表

1	高 環	A. 口縁部径 19.5、残存高 5.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。D. 白色粒、角閃石、石英。E. 外一赤褐色、内一にぶい褐色。F. 環部 3/4。G. 環部内面器表面剥落著。内面に黒斑あり。H. カマド内。
2	高 環	A. 口縁部径 (18.7)、残存高 5.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。環部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、石英、角閃石。E. 外一にぶい褐色、内一赤褐色。F. 環部 1/3。G. 器表面はやや荒れている。口縁部外面に黒斑あり。H. カマド内。
3	鉢	A. 口縁部径 (14.1)、残存高 7.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 石英、チャート、角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部～胴部破片。G. 内外面に黒斑あり。内面胴部器表面剥落著。H. カマド内。
4	小形直口壺	A. 口縁部径 (10.4)、器高 (5.2)、底部径 1.3。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデの後下半ケズリ、内面指ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 胴部のみほぼ完形、口縁部破片。G. 器形は図上復元。内外面に黒斑あり。H. カマド内。



第37図 第130(SI 1)号住居跡出土遺物

5	小形直口壺	A. 口縁部径(7.0)、器高7.2、底部径(3.3)、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ナデの後下平ケズリ、内面指ナデ、D. 白色粒、石英、角閃石、E. 内外一にぶい褐色、F. 1/2、H. 覆土中。
6	小形 環	A. 口縁部径(8.2)、器高2.6、底部径3.6、B. 粘土組織み上げ、C. 器表面が荒れているため観察不能、D. 片岩粒、石英、角閃石、E. 内外一褐色、F. 4/5、G. 底部外面に黒炭あり、H. 覆土中。
7	甕	A. 口縁部径(21.0)、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面甕ナデ、D. 角閃石、片岩粒、石英、白色粒、E. 内外一にぶい褐色、F. 口縁部破片、G. 口縁部外面に指頭圧痕を残す、H. 確認面。
8	甕	A. 口縁部径(18.9)、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面甕ナデ、D. 角閃石、片岩粒、石英、白色粒、E. 内外一褐色、F. 口縁部破片、H. 覆土中。
9	甕	A. 口縁部径(13.0)、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面ナデ、D. 片岩粒、石英、角閃石、白色粒、E. 内外一にぶい褐色、F. 口縁部破片、G. 内外面に埋付着、H. 確認面。
10	甕	A. 口縁部径(21.0)、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面甕ナデ、D. 白色粒、チャート、石英、角閃石、E. 内外一にぶい赤褐色、F. 口縁部破片、H. 確認面。
11	小形台付甕	A. 台底部径(10.0)、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ナデ、D. 角閃石、石英、白色粒、E. 内外一にぶい褐色、F. 台部1/3、H. 確認面。
12	環	A. 口縁部径12.0、器高3.5、底部径7.5、B. 曲け成形、C. 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ナデ、底部外面ケズリ、D. 石英、角閃石、白色粒、E. 外一にぶい赤褐色、内一にぶい褐色、F. ほぼ完形、G. 体部外面に指頭圧痕を残す、体部外面に黒炭あり、H. 確認面。
13	環	A. 口縁部径(12.3)、器高2.9、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ、D. 白色粒、角閃石、石英、E. 内外一明褐色、F. 完形、H. 覆土中。
14	須恵高台付環	A. 口縁部径12.6、器高5.5、高台部径5.7、B. ロク口成形、高台部貼り付け、C. 体部内外面回転ナデ、底部外面回転糸切り後高台部内外面回転ナデ、D. 石英、長石、角閃石、片岩粒、E. 内外一灰色、F. 3/4、G. 還元焼成、H. P. 5内。
15	須恵高台付甕	A. 残存高5.0、高台部径6.4、B. ロク口成形、高台部貼り付け、C. 体部内外面回転ナデ、底部外面回転糸切り後高台部内外面回転ナデ、D. 石英、片岩粒、角閃石、白色粒、E. 内外一灰色、F. 3/4、G. 還元焼成、H. 確認面。

16	環	A. 口縁部径(14.1)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 片岩粒、石英、角閃石、白色粒。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 体部 1/3。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
17	高台付 埴	A. 口縁部径 13.8、器高 6.5、高台部径 7.3。B. ロクロ成形、高台部貼り付け。C. 体部外面回転ナデ、内面ミガキ。底部外面回転ヘラケズリ後高台部内外面回転ナデ。D. 白色粒、角閃石、石英。E. 内外一にぶい褐色。F. 4/5。G. 酸化焙焼成、内面黒色処理。H. 覆土中。
18	灰輪陶器 埴	A. 高台部径(7.1)。B. ロクロ成形、高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。D. 黒色粒。E. 内外一灰白色。F. 底部破片。G. 還元焙焼成、灰輪漬け掛け。H. 覆土中。
19	灰輪陶器 皿	A. 高台部径(7.4)。B. ロクロ成形、高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。D. 黒色粒。E. 内外一灰白色。F. 底部 1/4。G. 灰輪漬け掛け、底部内面に重ね焼きの痕跡あり。H. 確認面。
20	土 壁 状 粘 土 埴	A. 長さ 4.7、幅 4.8、厚さ 2.4、重さ 42.0g。B. 手捏ね。C. 指ナデ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒。E. ぶい褐色。F. 破片。G. 表面に革のような沈殿状の痕跡あり。H. 覆土中。
21	小 粘 土 埴	A. 長さ 2.4、幅 2.1、厚さ 0.8、重さ 4.3g。B. 手捏ね。C. 指頭による押圧。D. 白色粒、角閃石、石英。E. 明赤褐色。F. 完形。H. カマド内。
22	小 粘 土 埴	A. 長さ 2.1、幅 1.9、厚さ 0.3、重さ 1.3g。B. 手捏ね。C. 指頭による押圧。D. 白色粒、角閃石。E. 赤褐色。F. 完形。H. 覆土中。
23	小 粘 土 埴	A. 長さ 2.4、幅 1.3、厚さ 0.5、重さ 1.8g。B. 手捏ね。C. 指頭による押圧。D. 白色粒。E. 明褐色。F. 完形。H. 覆土中。

### 第131(SI 2)号住居跡(第38図、図版9)

D 2地点の調査区南側に位置し、北側には第129(SI 3)号住居跡が、東側には第132(SI 7)号住居跡が、西側には第130(SI 1)号住居跡が近接している。第27号溝跡と重複しており、住居の東側コーナー部を切られている。

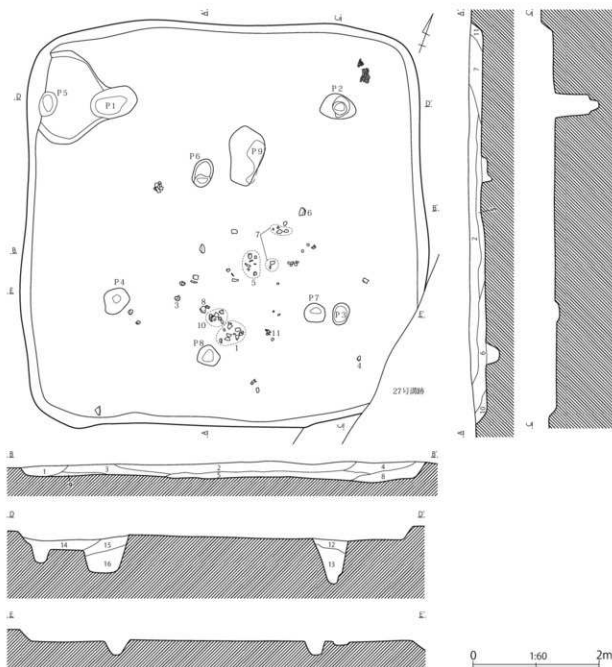
平面形は、コーナー部の丸みが強い方形を呈している。規模は、東西方向が6.45m、南北方向が6.40mを測る。住居跡の東西方向は、N-71°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で28cmある。壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、住居内から8ヶ所検出されている。P 1～P 4は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、4本主柱穴と考えられる。平面形は36cm～76cmの楕円形ぎみの形態が多い。床面からの深さは、北側のP 1とP 2がそれぞれ60cmと70cmで深いのに対して、南側のP 3とP 4はそれぞれ6cmと22cmで極端に浅くなっている。P 5は、北西コーナー部寄りの西側壁際に位置する。40cm×28cmの楕円形を呈し、床面からの深さは33cmある。P 6は、住居中央付近にある。47cm×30cmの楕円形を呈し、床面からの深さは16cmある。P 7は、P 3の西側にある。径30cmの円形を呈し、床面からの深さは22cmある。P 8は、住居南側の中央付近にある。径34cmの不整形円形を呈し、床面からの深さは22cmある。P 9は、住居中央付近のP 6の東側にある。92cm×57cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは36cmある。形態的には整っておらず、人為的なものか明確ではない。

カマドや炉の痕跡は、確認できなかった。

出土遺物は、住居跡中央部の覆土中から、古墳時代中期(5世紀)後半頃の土器の破片が多く出土している。また、これらに混じって縄文時代早期の押型文土器の破片(第39図No12)が1片見られる。土器以外では、住居の北東側コーナー部の床面上から、板状の炭化材が3点出土している。本住居跡の時期は、住居の形態や出土遺物の様相から、古墳時代中期(5世紀)後半頃と考えられる。

第12表 第131(SI 2)号住居跡出土遺物観察表

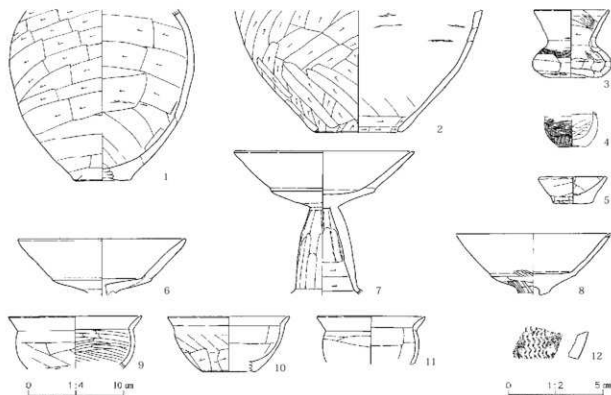
1	粟	A. 残存高 17.9、底部径(6.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部内外面ともナデの後上半ケズリ。底部外面ケズリ。D. 石英、白色粒、角閃石、片岩粒。E. 外一暗赤褐色。内一暗赤褐色。F. 胴部下半 1/4。H. 覆土中。
2	大形 甗	A. 残存高 12.8、底部径(9.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデの後底部内面ケズリ。D. 白色粒、角閃石、石英、片岩粒。E. 外一にぶい黄褐色。内一赤褐色。F. 胴部下半 1/3。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土中。



第38図 第131(SI 2)号住居跡

## &lt;第131号住居跡土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックと炭化物を少量含む。）  
 第2層：黒褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを少量含む。）  
 第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを含む。）  
 第4層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを含む。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径2～3cmのロームブロックを少量含む。）  
 第6層：暗褐色土層（径0.3～5cmのローム粒子やロームブロックを含む。）  
 第7層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを均一に含む。）  
 第8層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを含む。）  
 第9層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを多量含む。）  
 第10層：暗褐色土層（径0.1～2cmのロームブロックを多量含む。）  
 第11層：黒褐色土層（径0.1～2cmのロームブロックやローム粒子を含む。）  
 第12層：暗褐色土層（径5～10cmのロームブロックを含む。）  
 第13層：黄褐色土層（径5cmのロームブロックを多量含む。）  
 第14層：黒褐色土層（径2～3cmのロームブロックを少量含む。）  
 第15層：黄褐色土層（径2～3cmのロームブロックと径0.1～0.3cmのローム粒子を含む。）  
 第16層：黄褐色土層（径2～3cmのロームブロックを多量に、径5cmのロームブロックを少量を含む。）



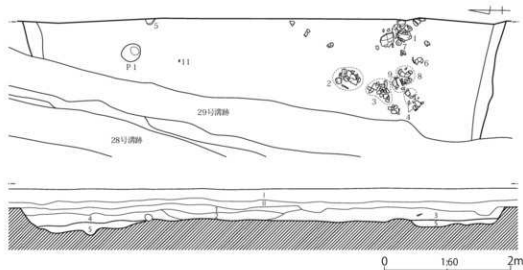
第39図 第131(SI 2)号住居跡出土遺物

3	小形直口壺	A. 口縁部径(7.9)、器高(7.1)、底部径5.4、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケの後ナデ、胴部外面ハケの後下半ナデ、内面頭ナデ、底部外面ナデ、D. 角四石、白色粒、石英、E. 内外にぶい赤褐色、F. 1/3、口縁部と胴部は焼点なし。器形は図上復元、G. 外面に黒斑あり、H. 覆土中。
4	小形土器	A. 残存高3.7、底部径3.0、B. 粘土組織み上げ、C. 胴部外面ミガキ、内面ナデ、底部外面ケズリ、D. 角四石、白色粒、石英、E. 内外にぶい赤褐色、F. 胴部1/2、G. 外面に黒斑あり、H. 覆土中。
5	小形杯	A. 口縁部径(7.2)、器高2.8、底部径4.2、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ケズリ、D. 白色粒、角四石、石英、E. 外にぶい赤褐色、内一にぶい赤褐色、F. 2/3、G. 外面に黒斑あり、H. 覆土中。
6	高杯	A. 口縁部径(17.7)、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、杯部内外面ナデ、D. 石英、角四石、白色粒、片岩粒、E. 外一明赤褐色、内一にぶい赤褐色、F. 杯部1/4、H. 覆土中。
7	高杯	A. 口縁部径(19.0)、残存高15.0、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、杯部内外面ナデ、脚柱部外面ナデ、内面ナデの後下半ケズリ、D. 白色粒、角四石、石英、E. 内外一赤褐色、F. 1/3、G. 杯部外面に黒斑あり、杯部内面剥落顕著、H. 覆土中。
8	高杯	A. 残存高6.2、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、杯部外面ナデの後ミガキ、D. 白色粒、石英、角四石、E. 内外にぶい赤褐色、F. 杯部1/2、口唇部欠損、G. 内面に黒斑あり、H. 覆土中。
9	杯	A. 口縁部径(14.1)、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデの後下ケズリ、内面ナデの後ミガキ、D. 石英、角四石、白色粒、E. 内外一明赤褐色、F. 破片、G. 内外面の一部に覆付着、H. 覆土中。
10	杯	A. 口縁部径(12.9)、器高5.5、底部径(5.5)、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ、D. 白色粒、石英、角四石、E. 外一明赤褐色、内一にぶい赤褐色、F. 1/3、G. 内外面に黒斑あり、H. 覆土中。
11	杯	A. 口縁部径(11.4)、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ、D. 白色粒、石英、角四石、E. 内外一明赤褐色、F. 口縁部1/4、H. 覆土中。
12	深鉢	B. 粘土組織み上げ、C. 外面に山形の押型文を施す。内面ナデ、D. 白色粒、石英、E. 内外一にぶい褐色、F. 胴部破片、G. 縄文時代早期、H. 覆土中。

## 第132(SI 7)号住居跡(第40図、図版9)

D2地点の調査区東端に位置する。住居跡の西側は重複する中世以降の第28(2)号溝跡と第29(3)号溝跡に切られており、東側は調査区外のため、遺構の全容は不明である。

平面形は不明である。規模は、南北方向が7.64m、東西方向は1.95mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で28cmある。検出された各壁下には、壁溝は見られな



第40図 第132(SI 7)号住居跡

## &lt;第132号住居跡土層説明&gt;

第1層：表土。

第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を多量含む。しまりを有する。）

第1層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を含む。）

第2層：暗褐色土層（径0.5cmの炭化物、径1cmのロームブロックを少量含む。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、径3～4cmのロームブロックを含む。）

第4層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを多量、径1～2cmの炭化物と焼土粒子を少量含む。）

第5層：暗褐色土層（径1～5cmのロームブロックを多量含む。）

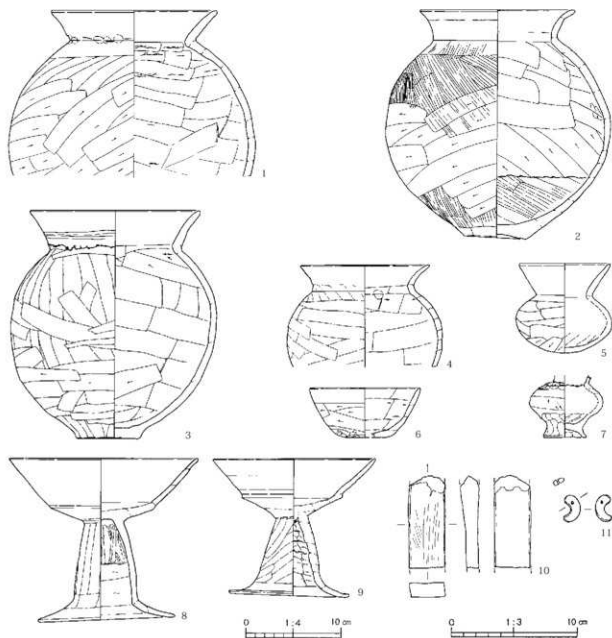
かった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した粘床式で、住居中央部は堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態と思われる。ピットは、住居内から1ヶ所検出されている。P1は、住居の北側寄りに位置する。32cm×26cm楕円形を呈し、床面からの深さは56cmある。

出土遺物は、住居南側周辺部の覆土中から、土器の破片が多数出土している。これらの覆土中から出土した土器は、本住居跡で使用されていたものではなく、住居廃絶後の覆土埋没過程中に周囲から投げ込まれたものであろう。土器以外では、覆土中から小形の勾玉が1点出土している。覆土中から出土した柱状砥石は、その形態から見て本住居跡に伴うものではなく、近世のものと思われる。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、古墳時代中期(5世紀)後半頃と考えられる。

第13表 第132(SI 7)号住居跡出土遺物観察表

1	裏	A. 口縁部径17.6、残存高17.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ。内面箇ナデ。D. 片岩粒、角閃石、石英、白色粒。E. 外-灰褐色。内-にぶい褐色。F. 4/5。G. 口縁部内外面に煤付着。H. 覆土中。
2	裏	A. 口縁部径(16.4)、器高24.0、底部径6.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後中位ケズリ。内面ハケの後中位ナメケズリ。上半箇ナデ。底部外面ナデの後外縁ケズリ。D. 角閃石、白色粒、石英、片岩粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 4/5。H. 覆土中。
3	裏	A. 口縁部径(18.0)、器高24.0、底部径6.8。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ。内面箇ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、チャート、白色粒。E. 外-にぶい褐色。内-にぶい黄褐色。F. 1/2。G. 口縁部及び胴部外面下半に帯状に煤付着。胴部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
4	小形裏	A. 口縁部径13.5、残存高10.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面箇ナデ。D. 石英、片岩粒、角閃石、白色粒。E. 外-にぶい褐色。内-にぶい赤褐色。F. 上半1/2。G. 口縁部内面表面剥落顕著。H. 覆土中。
5	小形直口裏	A. 口縁部径9.6、器高9.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ。内面ナデ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 口縁部内外面煤付着。胴部外面に黒斑あり。H. 床面直上。





第41図 第132(SI7)号住居跡出土遺物

6	環	A. 口縁部径 (11.3)、器高 5.2、底部径 (5.6)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ。内面鏡ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、角閃石、石英。E. 内外一にふい赤褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
7	台付小形甕	A. 残存高 6.5、台部径 4.6。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部内外面ナデ。台部内外面指ナデ。D. 白色粒、角閃石、石英。E. 内外一にふい赤褐色。F. 口縁部欠損。G. 胴部外面に黒斑あり。器形は歪んでいる。H. 覆土中。
8	高環	A. 口縁部径 (20.0)、器高 17.4、脚端部径 14.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。脚柱部外面ナデ。内面指サエの後下半ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、石英、角閃石。E. 内外一にふい赤褐色。F. A/5。G. 環部内面剥落顯著。H. 覆土中。
9	高環	A. 口縁部径 17.2、器高 14.7、底部径 (12.3)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。脚柱部外面ナデ。内面指サエの後下半ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 石英、白色粒、角閃石、片岩粒。E. 内外一にふい赤褐色。F. A/5。G. 環部内面剥落顯著。H. 覆土中。
10	柱状硯石	A. 残長 7.4、幅 2.9、厚さ 1.4、重さ 41.1g。B. 母岩から柱状か短冊形にカット。C. 四面使用。D. 凝灰岩。F. 両端部欠損。G. 形状から見て近世のものと思われる。H. 覆土中。
11	石製品 勾玉	A. 長 2.1、幅 0.8、厚さ 0.4、重さ 1.5g。B. 母岩から勾玉状に彫割り。C. 全面研磨。D. 滑石?。F. 完形。G. 穿孔あり。H. 床面直上。

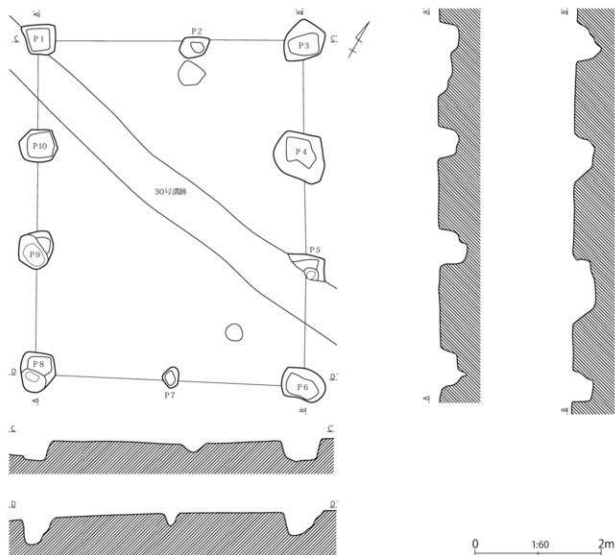
### 第3節 掘立柱建物跡

#### 第2号掘立柱建物跡(第42回、図版9)

D2地点の調査区中央部西側寄りに位置する。東側には第129(SI 3)号住居跡が、南東側には第131(SI 2)号住居跡が、南側には第130(SI 1)号住居跡が近接している。東西方向に走る第30(4)号溝跡と重複し、それによってP1とP5の一部を切られている。

平面形は、南北方向が3間、東西方向が2間の長方形を呈している。規模は、南北方向が5.40m、東西方向が4.20mを測る。建物跡の長軸方向は、N-30°-Wを向いている。柱通りは、南北方向の桁行側、東西方向の梁行側とも、比較的良く直線上に並んでいる。柱心間は、南北方向の桁行側は1間1.80mのほぼ等間隔である。東西方向の梁行側は、南側の柱穴列が1間2.1mの等間隔であるのに対して、北側の柱穴列は1間2.5mと1.7mの不揃いである。

柱穴は、南北方向の両桁行側は長さ60cm～80cmの楕円形や長方形ぎみの形態で、確認面からの深さは32cm～40cmある。東西方向の両梁行側では、真ん中の棟持柱と考えられるP2・P7が、長さ



第42図 第2号掘立柱建物跡

35cmと50cmの楕円形で、確認面からの深さが15cmと20cmの極端に小さく浅い形態になっている。覆土は、いずれもローム粒子やロームブロックを少量含む黒褐色土で、柱痕は見られなかった。

出土遺物は、柱穴覆土中から古墳時代中期後半から平安時代前期の土器の破片が少量出土しただけである。本建物跡の時期は、覆土の状態や出土遺物の様相から、平安時代前期頃の所産ではないかと思われる。

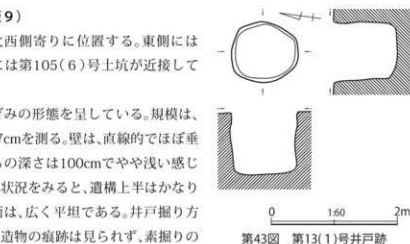
## 第4節 井戸跡

### 第13(1)号井戸跡(第43図、図版9)

D2地点の調査区中央やや北西側寄りに位置する。東側には第126(SI4)号住居跡が、西側には第105(6)号土坑が近接している。

井戸掘り方の平面形は、円形ぎみの形態を呈している。規模は、南北方向が107cm、東西方向が97cmを測る。壁は、直線的でほぼ垂直に落ち込んでいる。確認面からの深さは100cmでやや浅い感じがするが、D地点の住居跡の遺存状況を見ると、遺構上半はかなり削平されていると思われる。底面は、広く平坦である。井戸掘り方内からは、石組や木枠等の井筒構造物の痕跡は見られず、素掘りの井戸であった可能性が高いと思われる。

出土遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片が少量と、やや大形の羽口の破片が1点出土しただけである。本井戸跡の時期は、覆土の状態や出土遺物の様相から、古代以降の所産と推測される。



第43図 第13(1)号井戸跡



第44図 第13(1)号井戸跡出土遺物

第14表 第13(1)号井戸跡出土遺物観察表

1	須恵器	B. 粘土粗積み上げ後叩き。C. 胴部外面平行叩き目、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡灰褐色。F. 胴部破片。G. 還元不良。H. 覆土中。
2	羽口	A. 残存高5.8、最大径(100)。B. 手捏ね成形。C. 内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外上半一黒色、外下半一暗灰色。内一明褐色。F. 上端部1/4。G. 外面上半は高熱による発泡痕が多く見られ、一部ガラス化している。H. 覆土中。

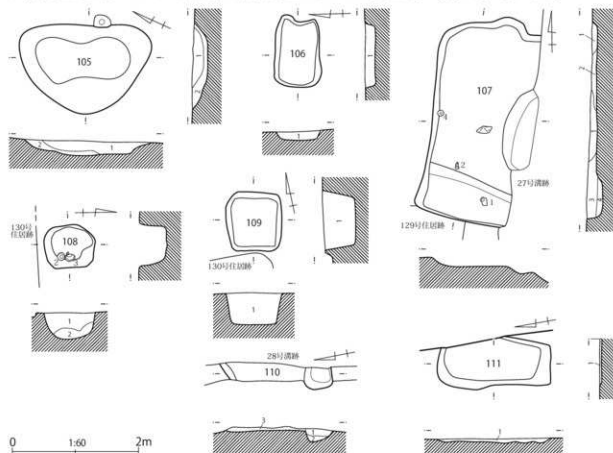
## 第5節 土坑

### 第105(6)号土坑(第45図、図版9)

D2地点の調査区北側に位置し、東側には第13(1)号井戸跡が近接している。平面形は不整形を呈し、規模は212cm×140cmを測る。壁は緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは24cmある。底面は、広く丸みをもつ。覆土は、ローム粒子やロームブロックを含む暗褐色土を主体としている。遺物は、覆土中から平安時代の土器片が少量出土しただけである。本土坑の時期は、出土土器の様相から、平安時代前期頃と考えられる。

## 第106(7)号土坑(第45図、図版9)

D2地点の調査区東側寄りに位置し、第107(3)号土坑や第129(3)号住居跡が近接している。平面形は隅丸長方形ぎみの形態を呈し、規模は112cm×75cmを測る。壁は直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは15cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、ローム粒子や焼土粒子を含む暗褐色土を主体にしている。遺物は、何も出土しなかった。本土坑の時期は、不明である。



第45図 土 坑

## &lt;第105号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径0.1～0.3cmのローム粒子を少量含む。）  
 第2層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロックを多量含む。）

## &lt;第106号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径1cm以下のローム粒子・焼土粒子を少量含む。しまり有り。）

## &lt;第107号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径0.5cmのロームブロック、径0.1～0.3cmの炭化粒子、微細な焼土粒子を少量含む。）  
 第2層：黄褐色土層（径2～3cmのロームブロック、微細な焼土粒子を少量含む。）  
 第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのロームブロック、径0.5cmの炭化粒子を少量含む。）  
 第4層：黄褐色土層（径2～5cmのロームブロックを多量含む。しまり普通。）

## &lt;第108号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径0.8cmの炭化物、径0.5cmの焼土粒子、径0.1～2cmのローム粒子やロームブロックを均一に含む。）  
 第2層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを多量含む。）

## &lt;第109号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径2～6cmのロームブロックを均一に含む。しまり有り。）

## &lt;第110号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロックや径0.3cmの焼土粒子を含む。）  
 第2層：暗褐色土層（径2～5cmのロームブロックを多量含む。）  
 第3層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロック、径0.1～5cmの焼土粒子や焼土ブロック、微細な炭化粒子を少量含む。）

## &lt;第111号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを多量含む。）

## 第107(3)号土坑(第45図、図版10)

D2地点の調査区東側寄りに位置し、重複する中世以降の第27(1)号溝跡(恋内・的野2010)に切られ、古墳時代後期初頭頃の第129(SI 3)号住居跡を切っている。平面形は、残存する範囲から推測すると、隅丸長方形か隅丸方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が333cm、東西方向は163cmまで測れる。壁は直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは27cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、炭化粒子やロームブロックを含む暗褐色土や黄褐色土を主体にしている。遺物は、覆土中から古墳時代～平安時代の土器片が少量出土しただけである。本土坑の時期は、出土土器の様相から、平安時代中期(10世紀)初頭頃と考えられる。



第46図 第107(3)号土坑出土遺物

第15表 第107(3)号土坑出土遺物観察表

1	高台付 環	A. 口縁部径13.4。残存高4.8。B. ロク口成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 1/2。G. 還元不良。高台部剝離。H. 床面付近。
2	高台付 環	A. 高台部径6.8。B. ロク口成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面不明瞭。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡灰白色。F. 底部1/2。G. 還元不良。H. 床面付近。
3	須 恵 器 高台付 環	A. 高台部径6.4。B. ロク口成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 底部1/2。G. 還元焼成。H. 覆土中。
4	小形台付 甕	A. 台端部径9.2。B. 粘土層積み上げ。C. 台部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 台部のみ。H. 床面付近。

## 第108(14)号土坑(第45図、図版10)

D2地点の調査区南西側に位置し、第130(SI 1)号住居跡が近接している。平面形は隅丸長方形の形態を呈し、規模は80cm×68cmを測る。壁は直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは42cmある。底面は、広くやや丸みをもつ。覆土は、ローム粒子やロームブロックを含む暗褐色土を主体にしている。遺物は、覆土中から平安時代の土器片と鉄滓が1点出土している。本土坑の時期は、出土土器の様相から、平安時代中期(10世紀)初頭頃と考えられる。



第47図 第108(14)号土坑出土遺物

第16表 第108(14)号土坑出土遺物観察表

1	小形台付 甕	A. 口縁部径12.4。B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
2	環	A. 口縁部径12.6。器高3.9。底部径5.7。B. ロク口成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一白褐色。F. ほぼ完形。G. 還元不良。H. 覆土中。
3	須 恵 器 甕	A. 底部径13.6。B. 粘土層積み上げ後ロク口整形。C. 胴部外面回転ナデの後下面回転ケズリ、内面回転ナデ。底部外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一灰色、内一淡茶褐色。F. 底部1/3。G. 還元焼成。H. 覆土中。
4	鉄 滓	A. 長さ5.5、幅6.0、厚さ2.2、重さ91.4g。G. 鉄分を含む。H. 覆土中。

**第109(2)号土坑(第45図、図版10)**

D 2地点の調査区南西側に位置し、第130(SI 1)号住居跡が近接している。平面形は隅丸方形ぎみの形態を呈し、規模は93cm×89cmを測る。壁は直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは48cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、ロームブロックを含む暗褐色土を主体としている。遺物は、覆土中から古墳時代～平安時代の土器片が少量出土しただけである。本土坑の時期は、出土土器の様相から、平安時代以降と考えられる。

**第110(5)号土坑(第48図、図版10)**

D 2地点の調査区南東側に位置し、土坑の東西両側を重複する第27(1)号溝跡と第28(2)号溝跡に切られている。平面形は不明で、規模は南北方向は177cmまで、東西方向は28cmまで測れる。壁は緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは20cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、焼土粒子やロームブロックを含む暗褐色土を主体としている。遺物は、覆土中から古代の土器片が少量出土している(第48図)。本土坑の時期は、遺構の重複関係や出土土器の様相から、平安時代以降頃と考えられる。



第48図 第110(5)号土坑  
出土遺物

第17表 第110(5)号土坑出土遺物観察表

1	小形甕	A. 口縁部径(16.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面底ナデ。D. 赤色粘、白色粘。 E. 内外一淡褐色。F. 口縁部 1/8 破片。H. 覆土中。
---	-----	---

**第111(1)号土坑(第45図、図版10)**

D 2地点の調査区南東隅に位置する。平面形は隅丸長方形ぎみの形態を呈し、規模は180cm×76cmを測る。壁は緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは8cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、ロームブロックを含む暗褐色土を主体としている。遺物は、覆土中から古墳時代～平安時代の土器片が少量出土している。本土坑の時期は、土坑の長軸方向が西側に隣接する第28(2)・29(3)号溝跡の方向と平行しており、同溝による地割りの規制を受けた配置と考えられることから、同溝の掘削後の中世以降と考えられる。

**第6節 溝 跡**

**第27(1)号溝跡** 報告済(恋河内・的野2010)。

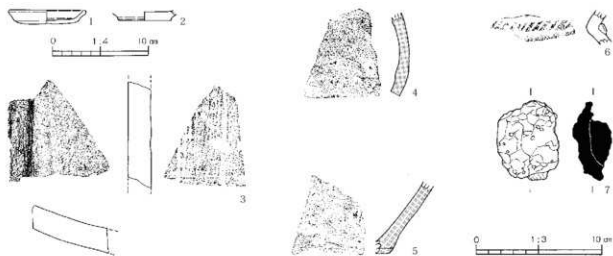
**第28(2)号溝跡(第50図、図版10)**

C 2地点の調査区東端に位置し、西側には第27(1)号溝跡が並走している。本溝跡の東側を並走する第29(3)号溝跡や第110(5)号土坑と重複し、それらを切っている。流路は、C 2地点の調査区内及び北側に隣接するC 1地点では、南北方向に向けて直線的な流路を取っているが、本溝跡の北側の延長部分はC 2地点の北東側に位置するE 2地点の第43(1)号溝跡と考えられ、南側の延長部分はH地点と更にその南側に位置する久下前遺跡のG地点でも検出されている。それによると、本

溝跡は南側の久下前遺跡のG地点から久下東遺跡のH地点を通してC地点まで、若干南西から北東方向に向かって直線的な流路を取り、北側のE2地点で大きく湾曲しながら北東か東に向きを変えている。

形態は、溝の上幅が120cm前後・下幅が40cm前後の比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは40cmある。底面は、広く平坦で北に向かって緩やかに傾斜している。覆土は、ローム粒子やロームブロックを含む暗褐色土を主体としている。本溝跡は、流路を同じくして並走する第29(3)号溝跡を切っていることから、第29(3)号溝跡の埋没後に掘り返された溝と考えられる。

出土遺物は、第29(3)号溝跡との帰属がはっきりしないものが多いが、奈良・平安時代を主体とする古代から中世の土器の破片が、覆土中から多く出土している。土器以外では、中世初期の平瓦の破片や椀型の鉄滓が1点ずつ出土している。本溝跡の時期は、出土遺物や遺構の重複関係から、中世以降と思われる。



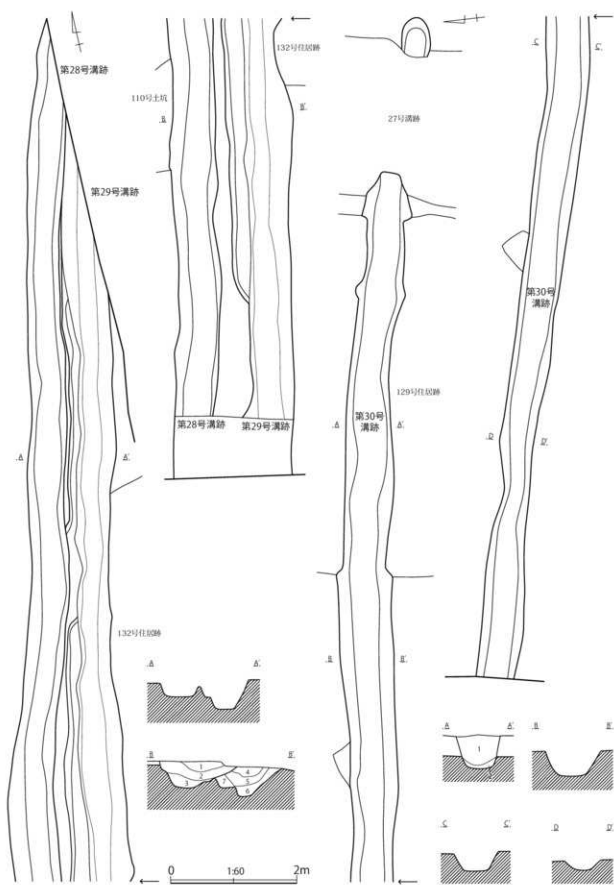
第49図 第28(2)・29(3)号溝跡出土遺物

第18表 第28(2)・29(3)号溝跡出土遺物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径8.2、器高1.5。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.ほぼ完形。G.内外面に煤付着。H.28・29 溝覆土中。
2	かわらけ	A.底部径5.6。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡灰褐色、内一黒灰褐色。F.底部1/2。H.29 溝覆土中。
3	平瓦	A.残存長8.4、残存幅6.1、厚さ1.9。B.一枚作り。C.凹面糸切り、凸面縄目印。側面縄切り後丁寧なナデ。D.白色粒。E.内外一暗灰色。F.破片。G.凹面繩粒砂付着。中世瓦。H.28・29 溝覆土中。
4	常滑系 茶葉	B.粘土組織み上げ後印。C.胴部外面麗ナデ、内面ナデ。D.白色粒。E.外一茶褐色、内一暗褐色。F.胴部破片。G.外面上平に降灰による淡緑色の自然軸が分かる。H.28・29 溝覆土中。
5	陶器	B.粘土組織み上げロクロ整形。C.胴部内外面麗ナデ。底部外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.底部1/6破片。G.産地不明。内面に降灰による自然軸が分かる。H.28・29 溝覆土中。
6	壺	B.粘土組織み上げ。凸帯貼り付け。C.外部ミガキ、内面ナデ。凸帯上籠状工具によるキザミ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.頸部破片。H.28・29 溝覆土中。
7	鉄滓	A.長さ6.3、幅5.0、厚さ3.1、重さ115.4g。G.鉄分を含む、椀型滓。H.28・29 溝覆土中。

### 第29(3)号溝跡(第50図、図版10)

C2地点の調査区東端に位置する。並走する第28(2)号溝跡と重複し、それに切られている。本溝跡の北側の延長部分はC地点の北東側に位置するE2地点の第44(2)号溝跡と考えられ、南側





## &lt;第28号溝跡土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径0.1cmのローム粒子を少量含む。粘性・しまりとも普通。）  
 第2層：暗褐色土層（径0.1～2cmのローム粒子やロームブロックを含む。粘性・しまりとも普通。）  
 第3層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロックを多量含む。粘性普通。しまりやや有り。）

## &lt;第29号溝跡土層説明&gt;

- 第4層：暗褐色土層（径0.1cm以下のローム粒子を含む。粘性・しまりとも普通。）  
 第5層：暗褐色土層（径0.1～3cmのローム粒子やロームブロックを多量、焼土粒子を少量含む。粘性・しまりとも普通。）  
 第6層：暗褐色土層（径0.1～1cmのローム粒子やロームブロックを含む。粘性・しまりとも普通。）  
 第7層：暗褐色土層（径1～3cmのローム粒子やロームブロックを多量含む。粘性普通。しまり有り。）

## &lt;第29号溝跡土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（径0.2cmのローム粒子を含む。）  
 第2層：黒褐色土層（径2～4cmのロームブロックを含む。しまり有り。）

の延長部分はH地点と更にその南側に位置する久下前遺跡のG地点でも検出されている。本溝跡の西側壁には溝と平行して段が見られるが、土層観察の結果からは本溝跡の掘り返し以前の溝の痕跡であることが分かる。

形態は、溝の上幅が75cm前後・下幅が20cm前後の比較的均一な幅で、断面は葉研堀に近い形状を呈している。壁は、直線的に緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは45cmある。底面は、狭く平坦で北に向かって緩やかに傾斜している。覆土は、ローム粒子やロームブロックを含む暗褐色土を主体にしている。

出土遺物は、第28(2)号溝跡との帰属がはっきりしないものが多いが、覆土中から奈良・平安時代を主体とする古代から中世の土器の破片が多く出土している。第49図No 2のかわらけは、その胎土や色調から、13世紀～14世紀頃の中世前期と推測されるものである。No 3の縄目叩きの平瓦は、12世紀末～13世紀前半頃のもので、大久保山遺跡(荒川1998)、城の内遺跡(恋河内1997)、真鏡寺後遺跡(恋河内2009)、東本庄遺跡(松本・町田・大田2004)などで出土した縄目叩きの瓦と類似するものである。本溝跡の時期は、出土遺物や遺構の重複関係から、中世以降と思われる。

**第30(4)号溝跡(第50図、図版10)**

C2地点の調査区中央部に位置する。重複する第27(1)号溝跡に切られ、第129(SI 3)号住居跡と第2号掘立柱建物跡を切っている。流路は、C2地点の調査区内では直線的に東西方向に向いている。溝西側の延長部分は隣接するH地点でも連続して検出されている。東側は南北方向に流路を取る第28(2)号溝跡に接して途切れている。

形態は、溝の上幅が55cm～85cm、下幅が40cm前後の比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは52cmある。底面は、広く平坦である。調査区内では溝の東西両端で底面の高低差はほとんど見られない。覆土は、ローム粒子やロームブロックを含む暗褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から古墳時代の土器の破片が少量出土しただけである。本溝跡の時期は、溝の東端が第28(2)号溝跡と接して途切れていることから、第28(2)・29(3)号溝跡と同時期の中世以降と思われる。

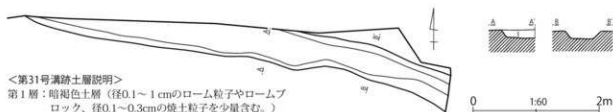
**第31(7)号溝跡(第51図、図版10)**

D3地点の調査区北端に位置し、調査区内では東西方向に向いた流路を取っている。東側の延長

部分は不明であるが、西側の延長部分はC1地点の調査区南端に位置する第21号溝跡と思われる。

形態は、溝の上幅が51cm～62cmの比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは12cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、ローム粒子やロームブロックと焼土粒子を含む暗褐色土である。

遺物は、何も出土しなかった。本溝跡の時期は、同一の溝と思われるC1地点の第21号溝跡が出土遺物から中世の13世紀以降と考えられていることから、その時期と思われる(恋河内・的野2010)。



第51図 第31(7)号溝跡



D地点調査区全景（北より）

## 第V章 E 2・E 3・E 4 地点の調査

### 第1節 E 2・E 3・E 4 地点の概要

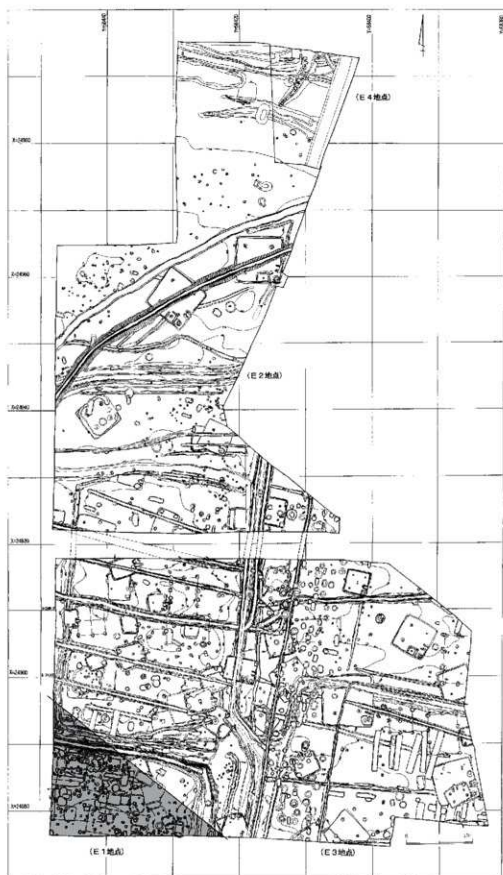
E 2・E 3・E 4 地点は、本書第三章で報告したC 2 地点(治道サービス用地)や第四章で報告したD 2 地点(商業・業務用地)やD 3 地点(治道サービス用地)と、道路を挟んで東側に位置している。また、南側には都市計画道路部分のG 1 地点(松本2013)と、治道サービス用地部分のG 3 地点(松本2015)が連続している(第3図)。調査区域の標高は、南側のE 3 地点が60.3m、北側のE 2・E 4 地点が60.0mを測る。地形的には広く平坦であるが、北側に向かって緩やかに傾斜しながら徐々に低くなり、そのさらに北側は女堀川の右岸低地に至る。

E 地点の調査区内は、都市計画道路部分で都市再生機構(U R)側の発掘調査経費負担箇所であるE 1 地点と、治道サービス用地で市側の発掘調査経費負担箇所であるE 2・E 3・E 4 地点に分かれる(第2図)。このうち、E 1 地点の発掘調査の成果については、すでに報告書(恋河内・的野2010)が刊行されているので、そちらを参照されたい。

E 地点で検出された遺構は、竪穴式住居跡51軒、竪穴状遺構 1、掘立柱建物跡10棟、土坑262基、溝跡47条である。主に、E 地点の全域から古代の集落跡が、E 1 地点から中世の居敷跡(恋河内・的野2010)が、E 3 地点から近世の寺院関連の集団墓地が検出されている。

今回報告するE 2・E 3・E 4 地点で検出された遺構は、竪穴式住居跡48軒、竪穴状遺構 1、掘立柱建物跡 7 棟、土坑213基、溝跡45条で、時期は主に古墳時代中期(5世紀)～江戸時代中期(18世紀)後半頃までのものである。

古墳時代の遺構は、竪穴式住居跡30軒、土坑 3 基、溝跡 2 条である。時期は、概ね中期(5世紀)前半～後期後葉(7世紀前半)にわたるが、後期前葉～中葉(6世紀前半～中頃)の遺構はE 地点では検出されていない。中期(5世紀)前半頃と考えられる遺構は、住居跡 1 軒(第154号住居跡)と土坑 1 基(第126号土坑)だけである。E 3 地点南端の第154号住居跡は、遺存状態が悪いため明確ではないが、炉を有しカマドを伴わない可能性が高い。該期の住居跡は、本遺跡における前期末の集落と同じく、南側の男堀川低地に面する微高地上の南側半分を主体に住居跡が分布しており、おそらく本住居跡は該期集落の北端に位置する住居の一つと思われる。中期(5世紀)後半の遺構は、住居跡13軒(第134・136・142・149・153・166・169・174・176・178・181・182・183号住居跡)と土坑 2 基(第360・365号土坑)である。これらの住居跡は、調査区のほぼ全域に分布しており、すべて住居の東側にカマドが付設されている。第134号住居跡と第166号住居跡では、D 地点の該期住居跡に見られた土堤を巡らす入口部施設を伴っている。後期初頭(5世紀末)の遺構は、住居跡 8 軒(第133・135・140・146・159・164・172・175号住居跡)で、調査区のほぼ全域に分布している。中期後半の住居跡との類似性が高く継続的と考えられる。中期後半の住居跡と同じく、カマドは住居の東側に付設され、第135号住居跡と第175号住居跡では、土堤を巡らす入口部施設を伴っている。E 地点には、E 1 地点の第138号住居跡(恋河内・的野2010)、E 2 地点の第134号住居跡と第135号住居跡、E 3 地点の第149号住居跡や第172号住居跡など、本遺跡の中期後半から後期初頭の集落では最大規模の7m級の大型住居が多く集中する特徴が見られ、E 地点が該期集落の中心であったことが窺える。後期後葉(7世紀前半)頃の遺構は、住居跡 8 軒(第147・150・161・165・167・171・179・180号住居跡)と溝跡 2 条(第74・75号溝跡)である。住居跡は、南側のE 3 地点の西側半分を主体にやや密集し



第52图 E地点全体图

て分布している。規模が2m～3m級の小型や3m～5m級の中型の住居跡が主体で、カマドは住居の東側や北側の壁に付設されている。溝跡は、いずれも北側のE 2地点の北端やE 4地点に位置している。E 4地点の第75号溝跡は、調査区北端の第74号溝跡に通じる階段状の通路で、集落域と北側女堀川低地の生産域を繋ぐ集落周縁部の様相を知るうえで重要な遺構である。

白鳳時代(7世紀後半)の遺構は、E 3地点の調査区南側から住居跡が4軒(第157・160・170・173号住居跡)検出されている。また、近接するE 1地点の第139号住居跡(恋河内・的野2010)も該期のものである。これらの住居跡は、規模が3m級の小型から中型が主体で、カマドを住居の北西側か北東側に付設させて、住居の向きを北西もしくは北東方向に揃える傾向が見られる。

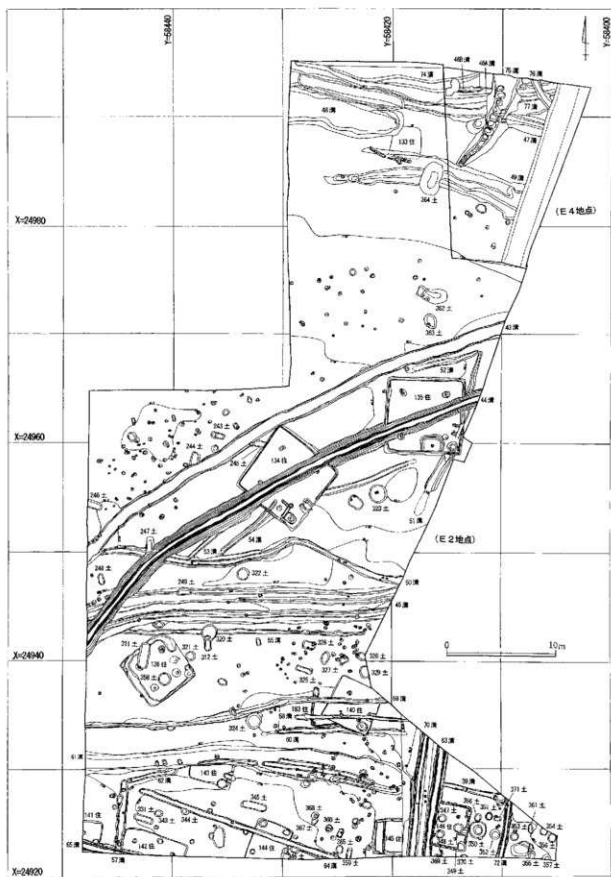
奈良時代(8世紀)の遺構は、E 2地点の南西端からE 3地点の西側にかけて、住居跡3軒(第141・162・163号住居跡)と掘立柱建物跡1棟(第8号掘立柱建物跡)が検出されている。住居跡は、白鳳時代の住居跡と同じく北東方向に向くものと、南北方向に向くものがあり、第162号住居跡と第163号住居跡は重複している。掘立柱建物跡は、建物の平面形が長方形の側柱式建物で、長軸を東西方向に向けている。

平安時代の遺構は、住居跡11軒(第143・144・145・148・151・152・155・156・158・168・177号住居跡)・掘立柱建物跡5棟(第4・5・6・7・10号掘立柱建物跡)・土坑6基(第112・169・271・364・367・368号土坑)・溝跡2条(第46・47号溝跡)が検出されている。時期は、前期(9世紀)～中期(10世紀)前半頃で、E 2地点の南側からE 3地点の西側にかけて分布している。住居跡は、いずれも規模の小さいものが主体で、カマドを住居の北～東に付設するものの、住居の向きはやや統一性を欠く傾向が見られる。掘立柱建物跡は、建物の平面形が2間×3間の長方形の側柱式建物と2間×2間の正方形の総柱式建物があり、すべて南側のE 3地点に位置している。第169号土坑は、完形の高台付塚が出土しており、土坑墓の可能性が高いと思われる。

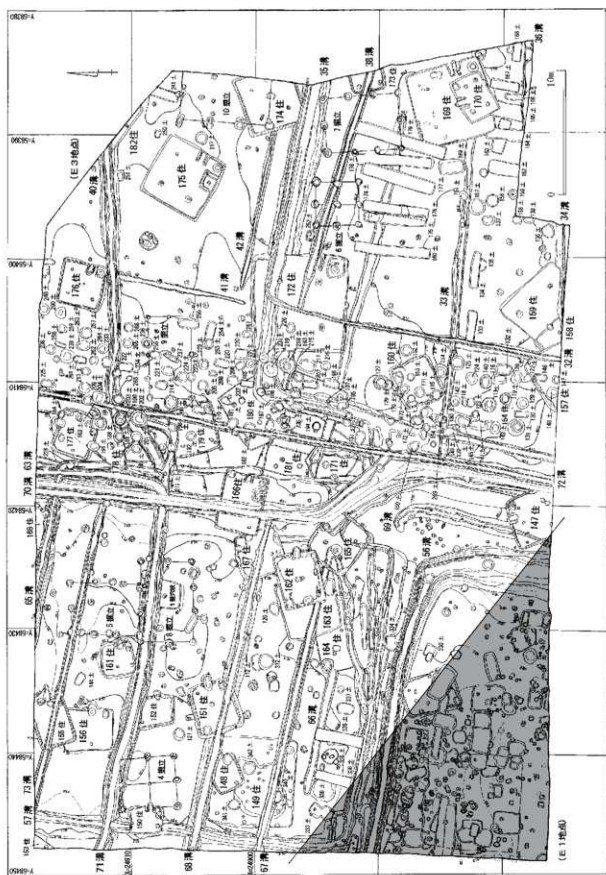
中世の遺構は、掘立柱建物跡1棟(第9号掘立柱建物跡)・土坑8基(第133・134・135・157・161・165・166・359号土坑)・溝跡10条(第33・34・36・40・43・44・48・67・73・76号溝跡)である。これらの性格は良く分からないが、E 1地点で検出された中世後期の屋敷跡(恋河内・的野2010)と関連して形成されたものと思われる。

近世以降の遺構は、土坑196基、溝跡31条である。このうち、E 2地点の南東端から南側のE 3地点の中央付近に、第32・41・42・72号溝跡によって東西約10m、南北約50mの短冊形に区画された土地の中に、116基の土坑墓が群在する江戸時代前期(17世紀)から中期(18世紀)前半に造営された一般庶民階層の集団墓地が検出されている。この墓地は、区画東側中央に東に向かって直線的に延びる参道をもち、その延長が隣接する清福寺の山門前の道と一致している。そのため、清福寺の江戸時代前期を主体とする墓地(寺墓)であったと考えられるため、別個に「清福寺近世墓地跡」と命名した。副葬品は、被葬者の身分や階層を反映したものが多く、寛永通宝を主体とする銭貨(計965枚)をはじめ、陶磁器やかわらけの日常雑器(計123個体)、生前使用していたと思われる煙管や鏡、数珠や火打金と箱庭遊びの人形や碁石などの道具が見られ、やや特異なものでは小刀(脇差)が出土している。

この他、遺構に伴う物ではないが、旧石器時代のナイフ形石器や縄文時代早期・前期・中期の土器片と、石鏃・石皿・凹石などの石器が、後世の遺構の覆土に混じって出土している。



第53图 E 2 · E 4 地点全体图



## 第2節 竪穴式住居跡

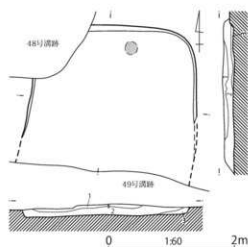
### 第133(SI 1)号住居跡(第55図、図版15)

E 2地点の調査区北側に位置する。住居跡の北西側を第48(6)号溝跡に、南側を第49(7)号溝跡に切られている。住居跡の上面は強く削平されているため、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部の丸みが強い方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、東西方向が2.70m、南北方向は2.34mまで測れる。主軸方位は、 $N-5^{\circ}-E$ を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは、最高で12cmある。検出された各壁下には、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を薄く平坦に埋め戻した貼床式である。掘り方は、床下全面に及ぶ形態と思われる。ピットは検出されなかった。

カマドは、残存していなかったが、住居北側壁際の床面上に焼けて赤色化した部分が見られ、おそらくその位置に付設されていたものと推測される。

出土遺物は、住居跡の覆土中や床面付近から土器の破片が多く出土しているが、これらは本住居跡に直接伴うものではなく、住居廃絶後に周囲から投げ込まれたものと推測される。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃と考えられる。



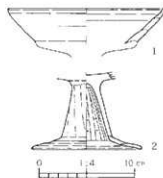
第55図 第133(SI 1)号住居跡

#### <第133号住居跡土層説明>

第1層：黒褐色土層（径0.3～0.5mmの灰白色粒子、径0.3～0.5mmの黄褐色粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（径1.5～3cmのロームブロックを少量含む。粘性、しまりともない。）

第3層：暗灰黄色土層（径1～2cmのロームブロック、径1～2cmの黒褐色ブロック、ローム粒子を少量含む。粘性、しまりともない。）



第56図 第133(SI 1)号住居跡出土遺物

第19表 第133(SI 1)号住居跡出土遺物観察表

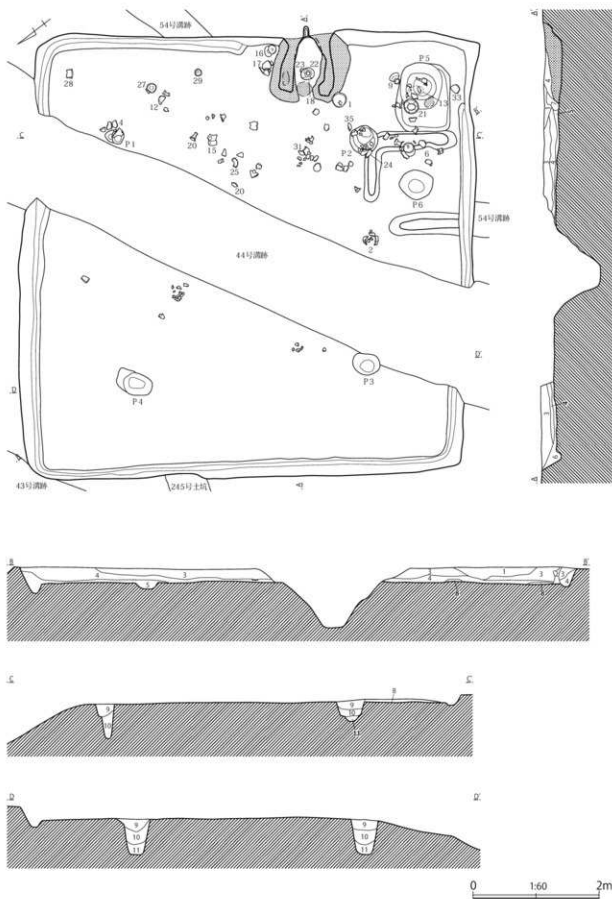
1	高 杯	A. 口縁部径(16.6)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面コナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 口縁部1/2弱。H. 床面付近。
2	高 杯	A. 脚端部径(11.6)。B. 粘土組織み上げ。C. 脚柱部外面ケズリの後丁寧なナデ。内面ケズリの後雑なミガキ。脚端部内外面コナデ。D. 赤色粒。白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 脚部1/3。H. 覆土中。

### 第134(SI 2)号住居跡(第57図、図版15)

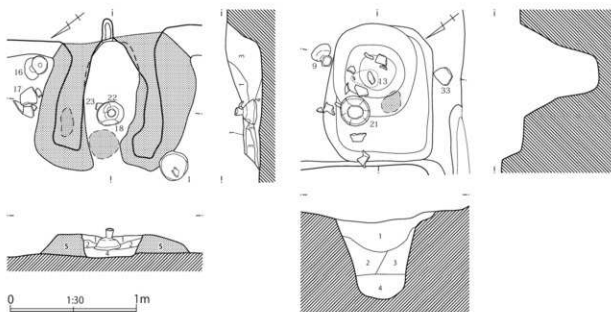
E 2地点の調査区中央部に位置し、東側には第135(SI 3)号住居跡が近接している。住居跡の中央部を南西から北東方向に走る第44(2)号溝跡に、南側の一部を同じく南西から北東方向に走る第54(12)号溝跡に、北西壁の一部を第245(4)号土坑に切られている。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ比較的整った方形を呈している。規模は、北西～南東方向が7.06m、北東～南西方向が7.17mを測る。主軸方位は、 $N-128^{\circ}-E$ を向いている。壁は、緩やか





第57图 第134(SI 2)号住居跡



第58図 第134(SI2)号住居跡カマド・貯蔵穴

## &lt;第134号住居跡土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（径1mmのローム粒子、径1mm以下の灰白色粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗灰黄色土層（径0.3～1cm、径1～2mmのローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：黒色土層（径1cmのローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：黒褐色土層（径1～2mmのローム粒子、径3mm～1cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第5層：灰黄褐色土層（径1～2mmのローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第6層：黒褐色土層（径0.5～1mmのローム粒子、径5mm～1cmのロームブロックを少量含む。粘性、しまりともない。）  
 第7層：黄灰色土層（径1～3cmのロームブロックを少量含む。粘性、しまりともない。）  
 第8層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第9層：黒褐色土層（径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第10層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第11層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第134号住居跡カマド土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第2層：暗褐色土層（焼土ブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：黄褐色土層（焼土粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、焼土ブロック・炭化粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗黄灰色土層（ロームブロック・白色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第134号住居跡貯蔵穴土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：黒褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりはない。）

に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で27cmある。各壁下には、壁溝が巡っているが、カマド右側から貯蔵穴(P5)周辺の住居南側コーナー部には見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、住居内から6ヶ所検出されている。P1～P4は、住居のほぼ対角線上に配置

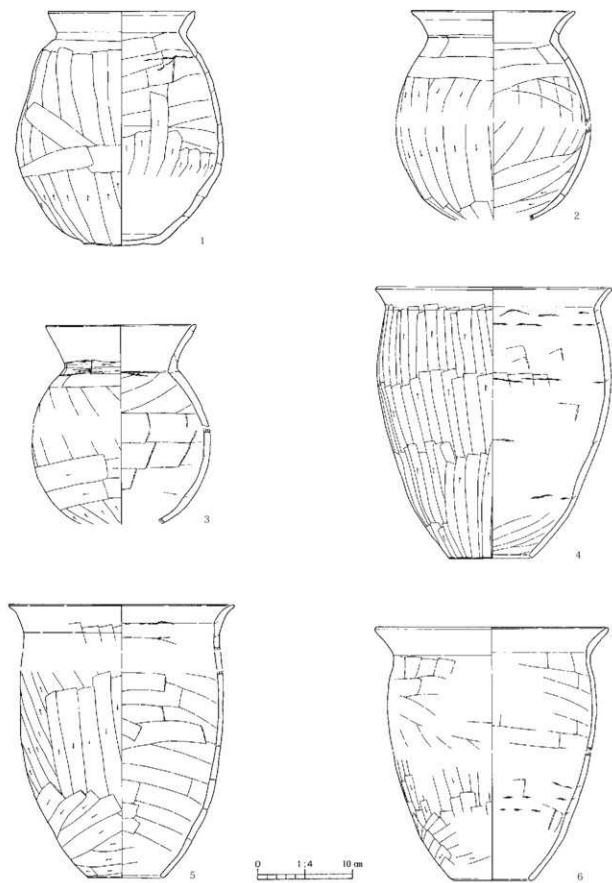
されていることから、4本支柱穴を構成するものと考えられる。いずれも長さ30cm～60cm程度の円形や楕円形を呈し、床面からの深さは30cm～58cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、住居の南側コーナー部に位置している。107cm×86cmの隅丸長方形を呈し、床面からの深さは70cmある。P6は、P5北西側の住居南西側壁際に位置する。直径50cm程度の円形を呈し、床面からの深さは13cmある。ピットの周囲をローム土によって突き固めた低い土堤によって「コ」の字状に囲繞させており、本遺跡の該期住居跡に特徴的な形態の入口部に関係する施設の梯子穴と思われる。

カマドは、住居南東側壁の中央よりやや南側コーナー部寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長110cm・最大幅120cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込まず住居内にある。燃焼面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さである。燃焼部の中央には、高付を伏せた転用支脚が据えられているが、これはNo22とNo23の高環部を2個体伏せて重ねた上に、No18の高環を被せて設置されており、高環の転用支脚としてはあまり例を見ない高さ調節のための設置方法であろう。袖は、ロームブロックと白色粘土ブロックを主体とする暗黄灰色土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

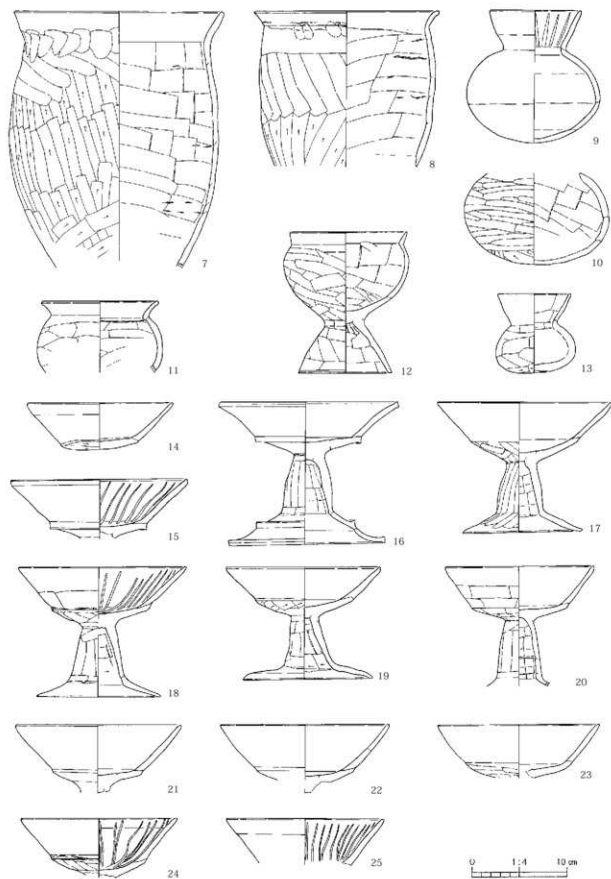
出土遺物は、カマドや貯蔵穴周辺と住居中央部の床面付近や覆土中から、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃の土器の破片が多く出土している。本住居跡の時期は、出土遺物の様相や住居跡の形態から、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃と考えられる。

第20表 第134(SI 2)号住居跡出土土器観察表

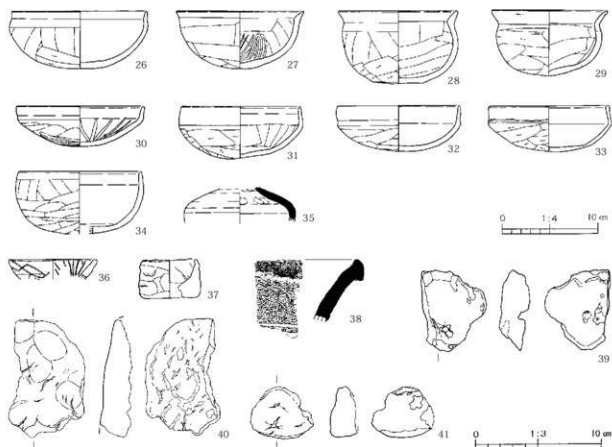
1	甕	A. 口縁部径15.7、器高24.8、底部径8.1、B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半段ナデ。内面笠ナデの下半ケズリ。底部外面ケズリ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 内外-にぶい褐色。F. A/5、G. 胴部外面被熱。H. 床面付近。
2	甕	A. 口縁部径17.3、残存高(21.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半段ナデ。内面ナデ。D. 白色粒、石英、角閃石。E. 内外-にぶい褐色。F. 上半1/5、下半1/3。器形は図上復元。H. 床面付近。
3	甕	A. 口縁部径(16.1)、残存高(11.1)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ハケの後ヨコナデ。内面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ。内面笠ナデ。D. 石英、片岩粒、角閃石。E. 内外-にぶい褐色。F. 上半2/3、下半破片。器形は図上復元。G. 内面胴部下平に黒色付着物あり。H. 覆土中。
4	大形甕	A. 口縁部径25.0、器高28.7、底部径8.3、B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ。内面笠ナデ。D. 白色粒、黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい褐色。F. ほぼ完形。H. 床面付近。
5	大形甕	A. 口縁部径(24.0)、器高(28.0)、底部径8.0、B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ。内面笠ナデ。D. 石英、片岩粒、角閃石、白色粒。E. 内外-にぶい褐色。F. 口縁部破片、胴下平4/5。G. 胴部外面に黒炭あり。器形は図上復元。H. 床面付近。
6	大形甕	A. 口縁部径(24.8)、器高(26.8)、底部径(8.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半段ナデ。内面笠ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-にぶい褐色。F. 1/4。H. 床面付近。
7	大形甕	A. 口縁部径22.4、B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半段ナデ。内面笠ナデ。D. 白色粒、小石。E. 内外-にぶい褐色。F. 胴部下位欠損。H. 覆土中。
8	大形甕	A. 口縁部径19.8、残存高16.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半段ナデ。内面笠ナデ。D. 角閃石、白色粒、石英。E. 内外-にぶい褐色。F. 上半1/2。G. 胴部外面に黒炭あり。内面に黒炭付着物あり。H. 覆土中。
9	中形直口甕	A. 口縁部径9.8、器高14.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後面に放射状暗文を施す。胴部外面ケズリの後笠ナデ。内面笠ナデ。D. 白色粒、黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい褐色。F. ほぼ完形。H. 床面付近。
10	中形直口甕	A. 残存高9.6。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリの後上半段ナデ。内面笠ナデ。D. 白色粒、角閃石、石英。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 胴部のみ。G. 胴部外面被熱。H. 覆土中。
11	鉢	A. 口縁部径(12.5)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後笠ナデ。内面笠ナデ。D. 白色粒。E. 外-にぶい褐色。内-黒褐色。F. 口縁部1/3。H. 覆土中。
12	台付鉢	A. 口縁部径(12.6)、器高15.0、台座部径(9.9)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。台部内外面ナデ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
13	小形直口甕	A. 口縁部径7.8、器高8.4、底部径2.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、角閃石、長石。E. 外-褐色。内-にぶい褐色。F. A/5。G. 胴部外面に黒炭あり。H. 床面付近。
14	鉢	A. 口縁部径15.6、残存高5.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ケズリ。内面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 2/3。G. 器形は歪んでいる。作りは高環の環部と類似している。H. 床面付近。
15	有段高環	A. 口縁部径(18.8)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後、内面に放射状暗文を施す。D. 白色粒、石英、長石、角閃石。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 環部1/2。H. 床面付近。



第59图 第134(S12)号住居跡出土遺物(1)



第60图 第134(S12)号住居跡出土遺物(2)



第61図 第134(SI2)号住居跡出土遺物(3)

16	有段高杯	A. 口縁部径 19.0. 器高 15.3. 脚端部径 16.7. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 脚柱部外面ナデ. 内面ナデの後ケズリ. 脚端部内外面ヨコナデ. D. 白色粒. 角四石. E. 内外一褐色. F. ほぼ完成形. H. 床面付近.
17	高杯	A. 口縁部径 18.6. 器高 14.0. 脚端部径 12.7. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 環部外面ナデ. 脚柱部外面ナデ. 内面ケズリ. 脚端部内外面ヨコナデ. D. 片岩粒. 角四石. 石英. 長石. E. 内外一にぶい褐色. F. ほぼ完成形. G. 内外面に被熱. 口縁部と脚端部外面に黒色付着物あり. H. 床面付近.
18	高杯	A. 口縁部径 18.0. 器高 13.8. 脚端部径 13.3. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデの後. 内面に放射状暗文を施す. 環部外面ナデ. 脚柱部外面ナデ. 内面ケズリ. 脚端部内外面ヨコナデ. D. 白色粒. 角四石. 石英. 長石. E. 外一赤褐色. 内一明赤褐色. F. ほぼ完成形. H. カマド支脚.
19	高杯	A. 口縁部径 16.5. 器高 12.0. 脚端部径 (13.8). B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 環部外面ケズリ. 脚柱部外面ナデ. 内面指ナデの後下平ケズリ. D. 白色粒. E. 内外一にぶい赤褐色. F. 1/3. G. 脚柱部外面に黒色付着物あり. H. 床面付近.
20	高杯	A. 口縁部径 (17.8). 残存高 12.6. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 脚柱部外面ナデ. 内面ケズリ. D. 白色粒. 角四石. 長石. E. 内外一明赤褐色. F. 1/2. H. 床面付近.
21	高杯	A. 口縁部径 (17.8). B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. D. 白色粒. 角四石. 長石. 石英. E. 内外一にぶい赤褐色. F. 環部 1/3. G. 口縁部外面に粘土付着. H. 貯蔵穴 (P5) 上面.
22	高杯	A. 口縁部径 18.1. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. D. 白色粒. 角四石. 石英. 片岩粒. 長石. E. 内外一明赤褐色. F. 環部のみ. G. 脚柱部との接合部に黒色付着物あり. H. カマド支脚.
23	高杯	A. 口縁部径 17.2. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部外面ヨコナデ. D. 白色粒. 角四石. E. 外一明赤褐色. 内一にぶい褐色. F. 環部のみ. G. 内外面に粘土付着. 内面器面剥落顕著. H. カマド支脚.
24	高杯	A. 口縁部径 16.8. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部外面ヨコナデの後. 内面に放射状暗文を施す. D. 白色粒. 角四石. 長石. E. 外一にぶい褐色. 内一にぶい赤褐色. F. 環部のみ. G. 口縁部内面に黒色付着物あり. H. P2 上面.
25	高杯	A. 口縁部径 (16.8). B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部外面ヨコナデの後. 内面に放射状暗文を施す. D. 白色粒. 長石. 角四石. E. 内外一明赤褐色. F. 口縁部 1/2. H. 床面付近.
26	杯	A. 口縁部径 (14.3). 器高 6.1. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデ後下平ケズリ. 内面ナデ. D. 白色粒. 角四石. 石英. E. 外一赤褐色. 内一灰褐色. F. 1/3. G. 体部内面に黒色付着物あり. H. 覆土中.
27	杯	A. 口縁部径 13.5. 器高 6.1. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデ. 内面ナデの後放射状暗文を施す. D. 白色粒. 角四石. 長石. E. 内外一にぶい赤褐色. F. 完成形. G. 体部内面に黒色付着物あり. H. 覆土中.
28	杯	A. 口縁部径 12.6. 器高 7.6. 底部径 5.1. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデの後下平ケズリ. 内面ナデ. 底部外面ケズリ. D. 角四石. 石英. チャート. 長石. E. 内外一にぶい褐色. F. 完成形. H. 覆土中.
29	杯	A. 口縁部径 12.3. 器高 6.9. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ナデの後上平ナデ. 内面覆土ナデ. D. 白色粒. 角四石. 石英. E. 内外一明赤褐色. F. 完成形. G. 内外面に黒斑あり. H. 床面付近.

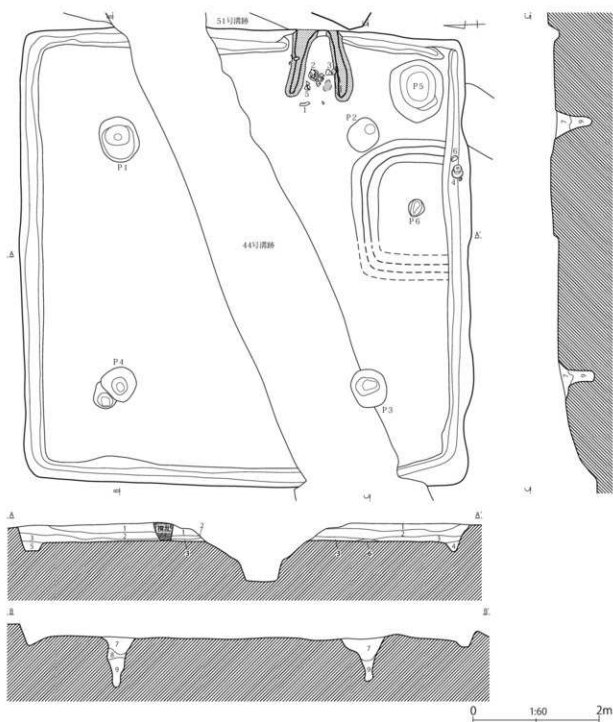
30	模倣環	A. 口縁部径(13.6)、器高4.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下平ナデ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D. 白色粒、角閃石、石英。E. 内外一明赤褐色。F. 破片。H. 覆土中。
31	模倣環	A. 口縁部径12.6、器高5.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面覆土中。D. 白色粒、角閃石、長石。E. 内外一褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
32	模倣環	A. 口縁部径13.0、器高4.8。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石、石英。E. 内外一赤褐色。F. 完形。H. 床面付近。
33	模倣環	A. 口縁部径12.7、器高5.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石、長石。E. 外一にぶい黄褐色、内一赤褐色。F. 4/5。G. 外面に黒炭あり。H. 床面直上。
34	環	A. 口縁部径(13.0)、器高6.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面覆土中。D. 白色粒、角閃石、長石。E. 内外一赤褐色。F. 破片。H. 覆土中。
35	須恵器	A. 口縁部径(3.6)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。内面上部に絞り痕と指頭圧痕を残す。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一灰色。F. 胴部上半破片。G. 外面に自然軸が掛かる。H. 覆土中。
36	小形土器	A. 口縁部径(7.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ナデの後、細線による文様を施す。D. 角閃石、石英、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部片。G. 内外面に黒色付着物顕著。H. 覆土中。
37	手捏土器	A. 口縁部径(4.2)、器高2.1、底部径(4.7)。B. 手捏ね。C. 口縁部内外面指押さえ。底部内外面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 外一にぶい褐色、内一明赤褐色。F. 1/5。H. 覆土中。
38	須恵器	B. 粘土組織み上げ後、ロクロ整形。C. 口縁部外面回転ナデ。外面に細い平行沈線による波状文を施す。D. 白色粒。E. 内外一灰色、内一褐色。F. 口縁部片。G. 外面に自然軸が掛かる。H. 覆土中。
39	貝果穴泥岩	A. 長さ6.3、幅5.1、厚2.2、重36.3g。D. 泥岩。D. 表面に複数の貝果状小穴あり。H. 覆土中。
40	土壁・埴土	A. 残存長9.4、残存幅5.9、厚さ2.3、重さ107.4g。C. 表面指押さえ、裏面剥落のため不明。D. 白色粒。E. 外一褐色。H. 覆土中。
41	小粘土	A. 残存長4.0、残存幅4.9、厚さ2.1、重33.3g。C. 表面ナデ、裏面剥落のため不明。D. 白色粒。E. 外一褐色。H. 覆土中。

### 第135(SI 3)号住居跡(第62図、図版16)

E 2 地点の調査区中央部の東端に位置し、西側には第134(SI 2)号住居跡が近接している。住居跡の中央部を南西から北東方向に走る第44(2)号溝跡に、東側を南北方向に走る第51(9)号溝跡に切られている。また、住居跡の中央部は、南北方向に走る試掘トレンチによって、住居の床面下まで破壊されている。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ比較的整った方形を呈している。規模は、東西方向が7.26m、南北方向が7.13mを測る。主軸方位は、N-91°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で30cmある。各壁下には、壁溝が途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的強く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、住居内から6ヶ所検出されている。P 1～P 4は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、4本主柱穴を構成するものと考えられる。いずれも長さ50cm～75cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは40cm～80cmある。P 5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、住居の南東側コーナー部に位置している。100cm×86cmの楕円形を呈し、床面からの深さは61cmある。P 6は、P 5西側の住居南側壁際に位置する。直径30cm程度の円形を呈し、床面からの深さは25cmある。ピットの周囲をローム土によって突き固めた低い土堤によって「コ」の字状に囲繞させていたようであり、第134(SI 2)号住居跡と同様に、本遺跡の該期住居跡に特徴的な入口部に関係する施設の梯子穴と思われる。

カマドは、住居東側壁の中央よりやや南東側コーナー部寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長112cm・最大幅107cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込まず住居内にある。燃焼面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、燃焼部の中央のやや左側寄りにNo 2の脚付鉢を伏せた転用支脚が据えられている。軸は、ローム土を主体とする淡黄色土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

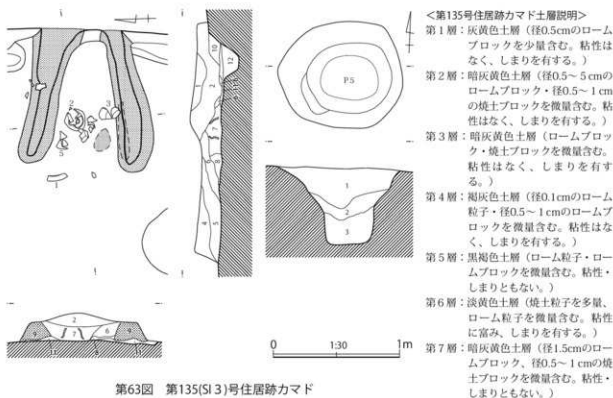


第62図 第135(SI 3)号住居跡

## &lt;第135号住居跡土層説明&gt;

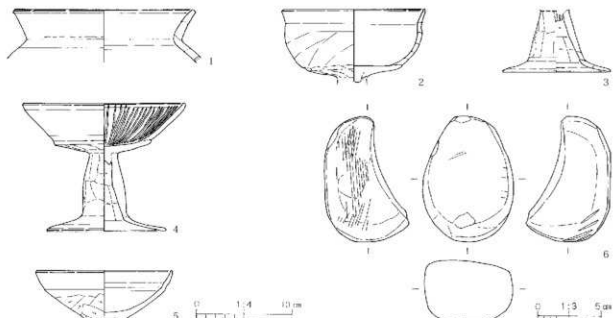
- 第1層：暗褐色土層（径0.1cmのローム粒子・径0.3～3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：黒褐色土層（径0.1cmのローム粒子・径0.5～3cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（径0.1～0.2cmのローム粒子・径0.5～1.5cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりもない。）  
 第5層：黒褐色土層（径2～6cmのロームブロックを少量含む。粘性・しまりもない。）  
 第6層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第7層：黒褐色土層（径1～4cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりもない。）  
 第8層：黒褐色土層（径0.1cmのローム粒子・径0.5～1cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりもない。）  
 第9層：黒褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性・しまりもない。）





第63図 第135(SI 3)号住居跡カマド

- 第8層：黒褐色土層（径0.5～3cmの焼土ブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）
- 第9層：淡黄色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第10層：灰褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第11層：黒褐色土層（径0.5cmの焼土ブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第12層：黒褐色土層（径1～4cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- <第135号住居跡貯蔵穴土層説明>**
- 第1層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（径1～5cmのロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：灰褐色土層（径0.5～1cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）



第64図 第135(SI 3)号住居跡出土遺物

出土遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、土器の破片が多く出土している。土器以外では、住居の南側壁際の壁溝上より、No 4の高環と並んで自然石を利用したNo 6の砥石が1点出土している。本住居跡の時期は、出土遺物の様相や住居跡の形態から、古墳時代中期(5世紀)後半頃と考えられる。

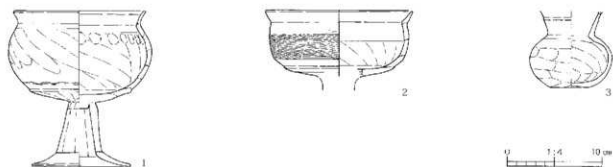
第21表 第135(SI 3)号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(19.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部1/3。H. 覆土中。
2	脚付鉢	A. 口縁部径15.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 鉢部のみ。G. カマドの支脚に転用。H. カマド内。
3	脚付鉢	A. 脚端部径11.4。B. 粘土組織み上げ。C. 脚部外面ケズリの後ミガキ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 脚部3/4。H. カマド内。
4	高環	A. 口縁部径17.2。器高13.6。脚端部径12.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。環部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 完形。G. 環部内面に放射状凹凸を施す。H. 壁溝上。
5	環	A. 口縁部径(14.4)。器高5.2。底部径4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 1/2。H. カマド内。
6	砥石	A. 長さ10.0。最大幅7.2。B. 川原石の平坦な面を砥面として使用。D. 流紋岩。F. 完形。G. 砥面は良く磨かれている。側面に刃物による傷跡と擦痕あり。H. 壁溝上。

## 第136(SI 4)号住居跡(第66図、図版16)

E2地点の調査区南側の西寄りに位置し、重複する第311(50)号土坑と第358(97)号土坑に住居内を切られている。後世の耕作によって住居の床面まで強く削平され、住居の掘り方部分しか残存していないため、遺構の遺存状態は良好とは言えない。

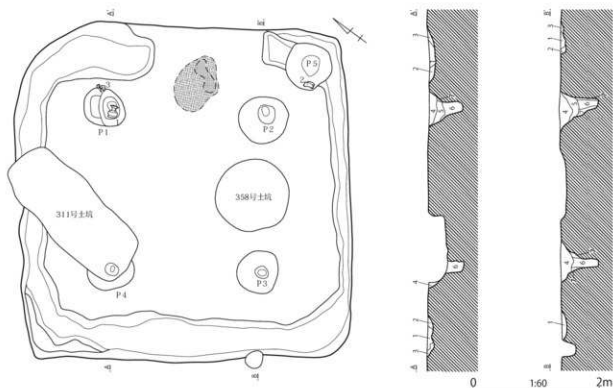
平面形は、残存する掘り方部分から推測すると、コーナ部が丸みをもつ方形を呈していたものと思われる。規模は、北西～南東方向が5.30m、北東～南西方向が5.32mを測る。主軸方位は、N-53°-Eを向いている。住居の壁や床面は、すでに削平されて残存していなかった。掘り方は、住居壁際の周辺部が周溝状に深くなる形態である。ピットは、住居内から5ヶ所検出されている。P1～P4は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、4本支柱穴を構成するものと考えられる。いずれも長さ70cm～80cmの円形ぎみの形態で、中心に直径20cm～30cm程度の円形の柱痕を残している。確認面からの深さはいずれも60cm前後ある。P1内からは、完形の高環が横になった状態で1点出土している。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、住居の東側コーナ部に位置し



第65図 第136(SI 4)号住居跡出土遺物

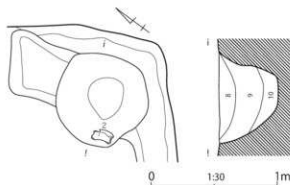
第22表 第136(SI 4)号住居跡出土遺物観察表

1	脚付鉢	A. 口縁部径(14.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面ナデ。脚部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 外一明茶褐色、内一茶褐色。F. 鉢部1/2、脚部3/4。G. 内外面の一部に埋付着。H. P1内。
2	脚付鉢	A. 口縁部径(15.6)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後下半ヨコナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一茶褐色、内一淡茶褐色。F. 鉢部1/2。G. 外面埋付着顕著。内面黒斑あり。H. P5内。
3	小形直口甕	A. 残存高さ1.0。底部径4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 1/2。G. 胴部内面斑点状剥落著。H. P1内。



＜第136号住居跡土層説明＞

- 第1層：黒褐色土層（径1～3cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗黄灰色土層（径2cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：灰黄色土層（ローム粒子・径1cmのロームブロックを含む。粘性・しまりともない。）  
 第4層：暗黄褐色土層（径1cmのロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第5層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第6層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第7層：暗黄褐色土層（径1～2cmのロームブロックを均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第8層：灰黄褐色土層（ローム粒子・径1～3cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第9層：黒褐色土層（ローム粒子・径0.5～1cmのロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）  
 第10層：灰黄色土層（径1～2cmのロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）



第66図 第136(SI 4)号住居跡

ている。直径70cm程度の円形を呈し、確認面からの深さは48cmある。

炉あるいはカマド燃焼部の痕跡が、住居北東側の主柱穴P1・P2間外側の壁際寄りで検出されている。住居の床面よりも若干掘り窪めた楕円形を呈し、覆土中には白色粘土と焼土ブロックを多量に含んでいる。

出土遺物は、遺構の遺存状態が悪いため多くはないが、主柱穴のP1内や貯蔵穴のP5内から土器が少量出土している(第65図)。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土土器の様相から、古墳時代中期(5世紀)中頃～後半と考えられる。

第137(SI 5)号住居跡 E 1 地点報告済み(恋河内・的野2010)

第138(SI 6)号住居跡 E 1 地点報告済み(恋河内・的野2010)

## 第139(SI 7)号住居跡 E 1 地点報告済み(恋河内・野2010)

## 第140(SI 8)号住居跡(第67図、図版16・17)

E 2 地点の調査区南側の東寄りに位置し、重複する第58(16)・59(17)・60(18)号溝跡に切られ、第183(SI51)号住居跡を切っている。後世の耕作によって住居の床面近くまで強く削平されているため、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ方形を呈している。規模は、北西から南東方向が4.50m、北東から南西方向は4.38mを測る。主軸方位は、N-115°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり確認面からの深さは最高で8cmある。各壁下には、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。掘り方は、住居の床下全体に及ぶ形態である。ピットは、住居内から5ヶ所検出されている。P 1～P 4は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、4本主柱穴を構成するものと考えられる。いずれも40cm前後の円形ぎみの形態で、床面からの深さは55cm～70cmある。P 5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、住居の南側コーナー部に位置している。100cm×85cmの楕円形を呈し、床面からの深さは42cmある。

カマドは、住居南東側壁の中央やや南側コーナー部寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長70cm・最大幅103cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込まず住居内にある。中央を第58(16)号溝跡に切られているため、燃焼面(火床)は不明である。軸は、黄灰色粘土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

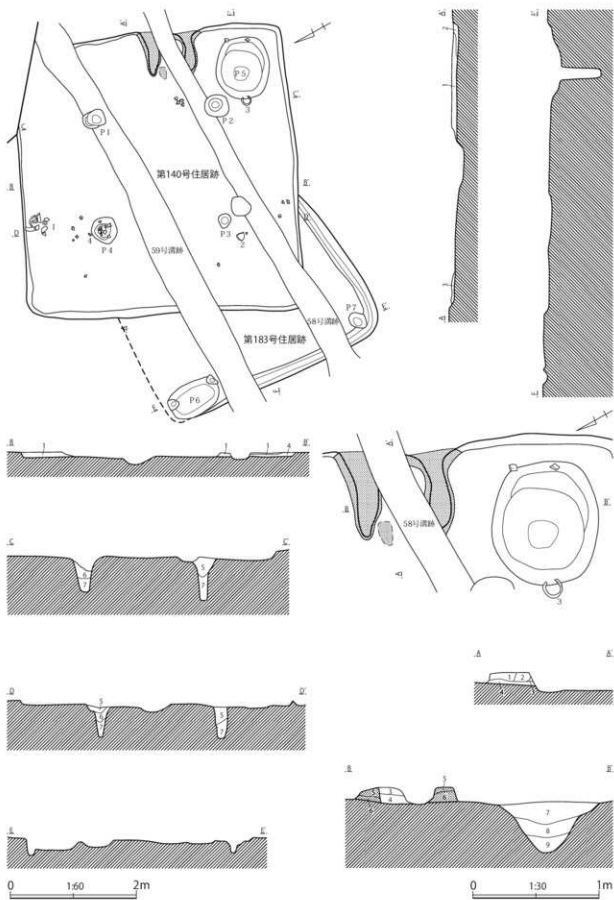
出土遺物は、住居壁際の周辺部の床面付近から、土器の破片が比較的多く出土している。これらの土器は、その出土状態から本住居跡で使用されていたものが、住居の廃絶に伴ってそのまま遺棄されたと考えられる。No 1の壺は、胴部下半を欠くもので、おそらく器台として再利用されていたものと思われる。土器以外では、P 5の貯蔵穴内から土壁状の粘土塊(No 5)が1点出土している。本住居跡の時期は、出土遺物の様相や住居跡の形態から、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃と考えられる。

## &lt;第140号住居跡土層説明&gt;

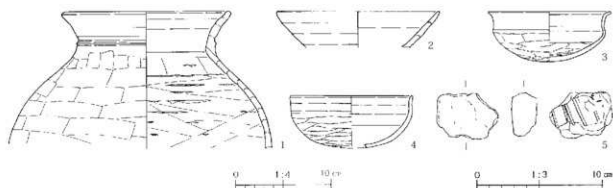
- 第1層: 黒褐色土層(焼土粒子を多量、ロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第2層: 暗褐色土層(ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第3層: 黒褐色土層(ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第4層: 暗褐色土層(ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第5層: 黒褐色土層(ロームブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層: 暗褐色土層(ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第7層: 褐色土層(ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。)

## &lt;第140号住居跡カマド・貯蔵穴土層説明&gt;

- 第1層: 暗褐色土層(黄褐色粘土粒子を多量、焼土粒子を少量含む。粘性・しまりともない。)
- 第2層: 黒褐色土層(焼土粒子を多量、黄褐色粘土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第3層: 暗褐色土層(焼土粒子・黄褐色粘土粒子を少量含む。粘性・しまりともない。)
- 第4層: 黒褐色土層(炭化物を多量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第5層: 黄灰色土層(黄灰色粘土を主体とし、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第6層: 暗褐色土層(焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第7層: 黒褐色土層(ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第8層: 黒褐色土層(ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。)
- 第9層: 黒褐色土層(ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)



第67図 第140(SI 8)・183(SI 51)号住居跡



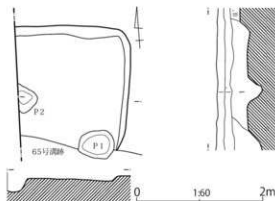
第68図 第140(SI 8)号住居跡出土遺物

第23表 第140(SI 8)号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径 18.0, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリの後難なナデ, 内面直ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一茶褐色, F. 上平のみ, G. 内外面に黒色の付着物あり, H. 床面直上。
2	高 杯	A. 口縁部径 (17.2), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, D. 白色粒, E. 内外一暗茶褐色, F. 口縁部 1/2, H. 床面付近。
3	横 徹 杯	A. 口縁部径 13.0, 器高 5.3, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ, D. 白色粒, E. 内外一淡茶褐色, F. ほぼ完形, H. 床面直上。
4	横 徹 杯	A. 口縁部径 (13.0), 器高 5.5, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ, D. 白色粒, E. 内外一明茶褐色, F. 口縁部 1/2 弱, H. 床面付近。
5	土 壁 状 粘 土 塊	A. 長さ 3.7, 幅 5.0, 厚さ 2.0, B. 手捏ね, C. 外面難なナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 破片, G. 内面に棒状の花線風圧痕あり, H. P 5 内覆土。

## 第141(SI 9)号住居跡(第69図、図版17)

E 2 地点の調査区南側の南西端に位置し、東側には第142(SI10)号住居跡が近接している。住居跡の南側は重複する第65(23)号溝跡に切れ、西側は調査区外にあるため、遺構の全容は不明である。



第69図 第141(SI 9)号住居跡

## &lt;第141号住居跡土層説明&gt;

第1層：淡黄褐色土層(堀間山系A軽石を多量含む, 粘性はなく, しまりを有する。)

第1層：淡黄褐色土層(堀間山系A軽石・ロームブロック・ローム粒子を少量含む, 粘性はなく, しまりを有する。)

第2層：褐色土層(ローム粒子を多量, ロームブロック・炭化物を少量含む, 粘性はなく, しまりを有する。)

第1層：暗褐色土層(ローム粒子・炭化物・焼土粒子を少量, 径3cmのロームブロックを微量含む, 粘性はなく, しまりを有する。)

第24表 第141(SI 9)号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径 (21.0), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 白色粒, E. 内外一明茶褐色, F. 口縁部 1/6, G. 口縁部外面中位に指頭圧痕を残す, H. 覆土中。
2	杯	A. 口縁部径 (12.6), B. 曲げ成形, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ナデの後下半ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡茶褐色, F. 口縁部 1/4 弱, G. 体部外面に指頭圧痕を残す, H. 覆土中。

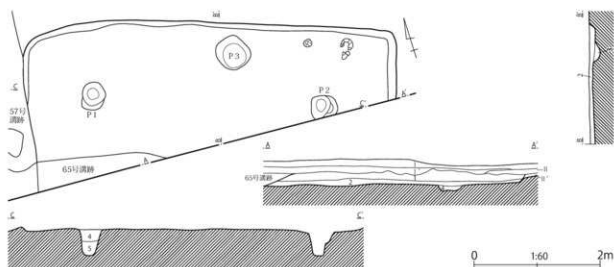
平面形は、検出された部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向は2.10mまで、東西方向は1.85mまで測れる。住居跡の北側壁の方向は、N-96°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高28cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。住居中央部は地山に近く、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態と思われる。ピットは、P1とP2の2ヶ所が検出されている。P1は、住居東側の壁際に位置する。58cm×45cmの楕円形を呈し、床面からの深さは14cmある。P2は、住居中央部の西側調査区壁と接する位置にある。規模は37cm×(45)cmあり、床面からの深さは24cmある。

出土遺物は、覆土中から奈良時代頃の土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、出土した土器の破片から推測すると、奈良時代(8世紀)頃と思われる。

#### 第142(SI10)号住居跡(第71図、図版17)

E 2 地点の調査区南側の南西端に位置し、西側には第141(SI 9)号住居跡が近接している。住居跡の西側は重複する第57(15)号溝跡と第65(23)号溝跡に切れ、南側は調査区外にあるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、検出された部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、東西方向が5.96m、南北方向2.20mまで測れる。住居跡の北側壁の方向は、N-107°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高15cmある。



第71図 第142(SI10)号住居跡

#### <第142号住居跡土層説明>

- 第1層：淡黄褐色土層(浅間山系A軽石を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第1層：淡黄褐色土層(浅間山系A軽石・ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第2層：暗褐色土層(ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。)
- 第2層：褐色土層(ローム粒子を多量、ロームブロック・炭化物を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第3層：黒褐色土層(ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第3層：暗褐色土層(ローム粒子を多量、ロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第3層：暗褐色土層(ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第4層：暗褐色土層(ローム粒子を多量、ロームブロック・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。)
- 第5層：暗褐色土層(ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。)

床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態でと思われる。ピットは、3ヶ所検出されている。P 1とP 2は、住居の北西側と北東側のコーナー部寄りに位置していることから、住居の対角線上に配置される4本主柱穴の一部である可能性が高い。いずれも長さ40cm前後の楕円形を呈し、床面からの深さはP 1が42cm、P 2が60cmある。P 3は、住居北側壁の中央部壁際に位置する。54cm×48cmの円形ぎみの形態で、床面からの深さは22cmある。

出土遺物は、覆土中から古墳時代中期(5世紀)後半頃の土器の破片が極少量出土しただけである。本住居跡の時期は、出土した土器の破片から推測すると、古墳時代中期(5世紀)後半頃と思われる。

#### 第143(SI11)号住居跡(第72図、図版17)

E 2地点の調査区南側に位置する。住居跡の北側半分を重複する第61(11)号溝跡に切られているため、遺構の遺存状態は良好とは言えない。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、東西方向が4.00m、南北方向は2.38mまで測れる。主軸方位は、N-101°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり確認面からの深さは最高で20cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られなかった。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。掘り方は、住居の床下全体に及ぶ形態と思われる。ピットは、住居内から1ヶ所検出されている。P 1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置している。92cm×90cmの円形を呈し、床面からの深さは15cmある。

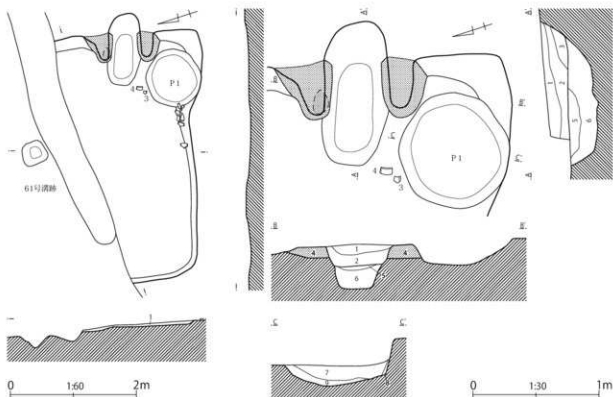
カマドは、住居東側壁の南東コーナー部寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長114cm、最大幅124cmを測る。燃烧部は、住居の壁を若干掘り込んでいるが、大半は住居内にある。燃烧面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで水平をなしている。支脚は見られなかった。袖は、灰色粘土とロームブロックを住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

出土遺物は、カマド内や住居跡の覆土中より、奈良時代(8世紀)末～平安時代前期(9世紀)初頭頃の土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、出土土器の様相や住居跡の形態から、奈良時代(8世紀)末～平安時代前期(9世紀)初頭と考えられる。

第25表 第143(SI11)号住居跡出土遺物観察表

1	炭	A. 口縁部径(19.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一茶褐色、内一暗褐色。F. 胴部上半1/4。H. カマド内。
2	炭	A. 口縁部径(18.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、指ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 口縁部1/3。H. 覆土中。
3	灰	A. 口縁部径(13.2)。推定高(4.5)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下平ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 口縁部1/4弱。G. 体部外面に指頭圧痕を残す。内面に放射状暗文を施す。H. 覆土中。
4	灰	A. 口縁部径(12.6)。器高3.0。B. 曲び成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 口縁部1/3。H. 覆土中。
5	灰	B. 曲び成形。C. 底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一淡茶褐色、内一暗茶褐色。F. 底部1/3。G. 底部内面に螺旋状暗文風の線紋(焼成筋)を施す。H. 覆土中。
6	灰	A. 口縁部径(12.6)。器高3.0。B. 曲び成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 口縁部1/4弱。G. 体部内面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。





第72図 第143(S11)号住居跡

## &lt;第143号住居跡土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む、粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第143号住居跡カマド・貯蔵穴土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、炭化物を微量含む、粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（焼土粒子を多量、炭化物を少量、径1cmのロームブロックを微量含む、粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（焼土粒子・径3cmのロームブロックを少量含む、粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：灰褐色土層（灰色粘土ブロック・ロームブロックを多量含む、粘性に富み、しまりを有する。）

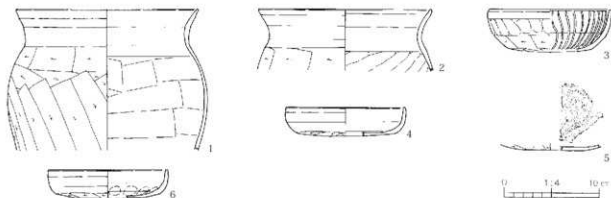
第5層：暗褐色土層（焼土粒子を多量、ローム粒子を少量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む、粘性・しまりともない。）

第6層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・焼土粒子・炭化物を少量含む、粘性・しまりともない。）

第7層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化物を少量含む、粘性・しまりともない。）

第8層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む、粘性に富み、しまりを有する。）

第9層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを微量含む、粘性に富み、しまりを有する。）

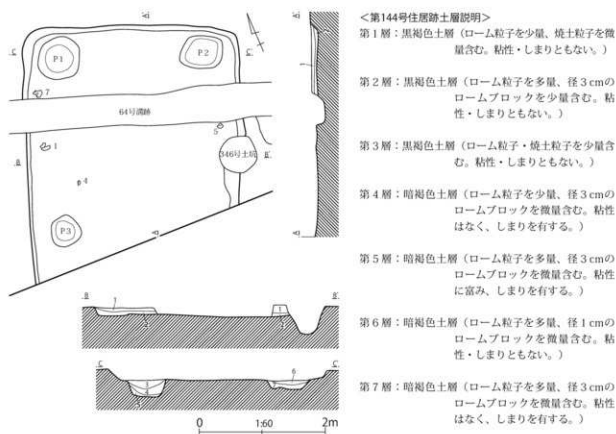


第73図 第143(S11)号住居跡出土遺物

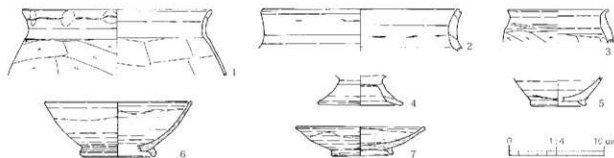
## 第144(SI12)号住居跡(第74図、図版17)

E 2 地点の調査区南側の南端に位置する。住居跡の中央部北側を重複する第64(22)号溝跡に切られ、東側壁の中央部を第346(85)号土坑に切られている。住居跡の南側は調査区外にあるため、遺構の全容は不明である。

平面形は、検出された部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ南北方向に長い長方形を呈していると思われる。規模は、東西方向が3.50m、南北方向は4.10mまで測れる。住居跡の北側壁は、N-111°Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で18cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を薄く平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居床下の全面に及ぶ形態と思われる。ピットは、P1～P3の3ヶ所が検出されている。いずれも住居のコーナー部付近



第74図 第144(SI12)号住居跡



第75図 第144(SI12)号住居跡出土遺物

に位置していることから規則的な配置が窺われるが、その性格は不明である。長さ50cm～70cmの円形や楕円形を呈し、床面からの深さはP 1が28cm、P 2が18cm、P 3が24cmある。

出土遺物は、平安時代の土器や灰軸陶器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、出土した土器の様相から、平安時代中期(10世紀)初頭頃と考えられる。

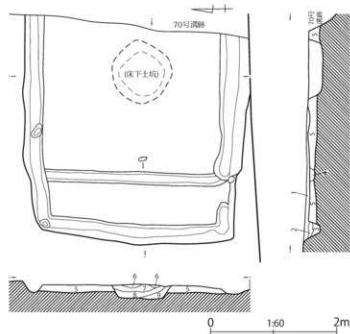
第26表 第144(S112)号住居跡出土遺物観察表

1	糞	A. 口縁部径(20.0)。B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面蹬ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 口縁部 1/6。G. 口縁部外面に指頭圧痕を残す。H. 床面付近。
2	糞	A. 口縁部径(21.0)。B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 口縁部 1/6。G. 口縁部外面に壁付痕。H. 覆土中。
3	小形台付糞	A. 口縁部径(10.6)。B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面蹬ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一暗褐色。F. 口縁部 1/4。G. 口縁部内外面に壁付痕。H. 覆土中。
4	小形台付糞	A. 台端部径(9.0)。B. 粘土層積み上げ。C. 台部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一茶褐色。F. 台部 1/2強。H. 床面付近。
5	高台付 坏	A. 台端部径(5.8)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一明褐色。F. 底部 1/3。G. 酸化焼成物。H. 覆土中。
6	灰軸陶器 埴	A. 口縁部径(15.6)。器高 5.9。高台部径(8.0)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一淡灰色。F. 口縁部 1/4。G. 軸は掛け塗り。H. 覆土中。
7	灰軸陶器 皿	A. 口縁部径 13.6。器高 3.2。高台部径 6.4。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一淡灰色。F. 2/3。G. 軸は掛け塗り。H. 覆土中。

#### 第145(S113)号住居跡(第76図、図版17)

E 2地点の調査区南側の南端に位置する。住居跡の東側を重複する第70(28)号溝跡に切られているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、検出された部分から推測すると、コーナー部がやや丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が3.66m、東西方向は3.58mまで測れる。住居跡の北側壁は、N-91°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で8cmある。検出された各壁下には、壁溝が途切れずに巡っている。住居西側壁の東側1mの所に、西側壁と平行する壁溝と類似した直線の溝が見られることから、住居西側は拡張された可能性が考えられる。床



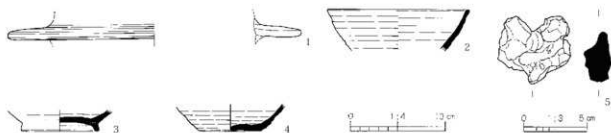
第76図 第145(S113)号住居跡

#### <第145号住居跡土層説明>

- 第1層：黒褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第7層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第9層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に堅く締まっている。掘り方は、住居床下の全面に及ぶ形態と思われる。住居中央部からは、床下土坑が1基検出されている。97cm×100cmの円形を呈し、床面からの深さは24cmある。土坑内は、ロームブロックを含む暗褐色土で埋め戻されている。

出土遺物は、住居跡の覆土中から、土器の破片が少量出土しただけである。No 1の羽釜は、鈿の幅が広いもので、土師器のコの字甕の肩部に貼り付けられたものと考えられる。当地域では一般的に見られるものではないが、本市市川原町遺跡のS101(太田2002)で類似したものが出土している。本住居跡の時期は、出土土器の様相から、平安時代前期(9世紀)後半頃と考えられる。



第77図 第145(S113)号住居跡出土遺物

第27表 第145(S113)号住居跡出土遺物観察表

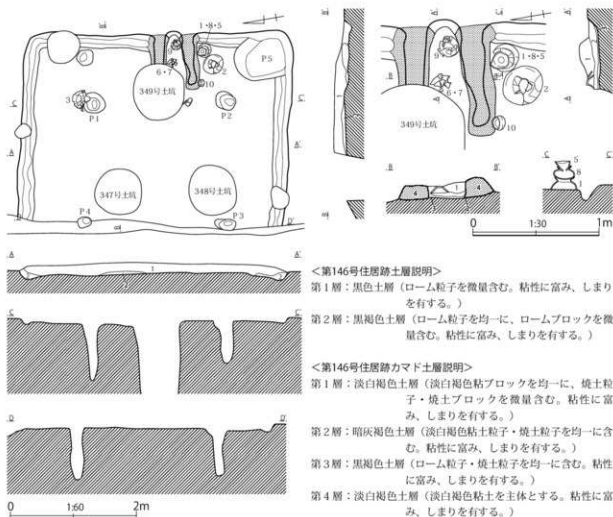
1	羽釜	A. 鈿部径(31.0)。B. 鈿部貼り付け。C. 鈿部内外面ナデの後口唇部ココナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 鈿部1/6。H. 床面付近。
2	須恵器 埴	A. 口縁部径(15.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 小石、白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
3	須恵器 高台付埴	A. 高台部径(8.2)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡灰色。F. 底部1/2。H. 覆土中。
4	須恵器 環	A. 底部径6.4。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外一淡灰色。F. 底部のみ。H. 床面付近。
5	鉄 滓	A. 長さ5.5、幅5.8、厚さ2.1、重さ73.7g。G. 鉄分を含む。H. 覆土中。

#### 第146(S114)号住居跡(第78図、図版18)

E2地点の調査区南側の東側に位置する。住居跡の西側を重複する第63(21)号溝跡に、住居跡内を近側の第347(86)号土坑・第348(87)号土坑・第349(88)号土坑に切られている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部がやや丸みをもつ方形か長方形を呈していると思われる。規模は、南北方向が4.30m、東西方向は3.08mまで測れる。主軸方位は、N-101°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高10cmある。残存する各壁下には、壁溝が巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に堅く締まっている。ピットは、住居内から5ヶ所検出されている。P1～P4は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、4本主柱穴を構成するものと考えられる。いずれも長さ22cm～32cmの楕円形かみみの形態で、床面からの深さは65cm～94cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、住居の南東側コーナー部に位置している。90cm×70cm楕円形を呈し、確認面からの深さは10cmある。

カマドは、住居東側壁の中央付近に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長94cm、最大幅82cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込まず住居内にある。燃焼面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、燃焼部の中央にはNo6とNo9の高環を伏せた転用支脚が据えられてい



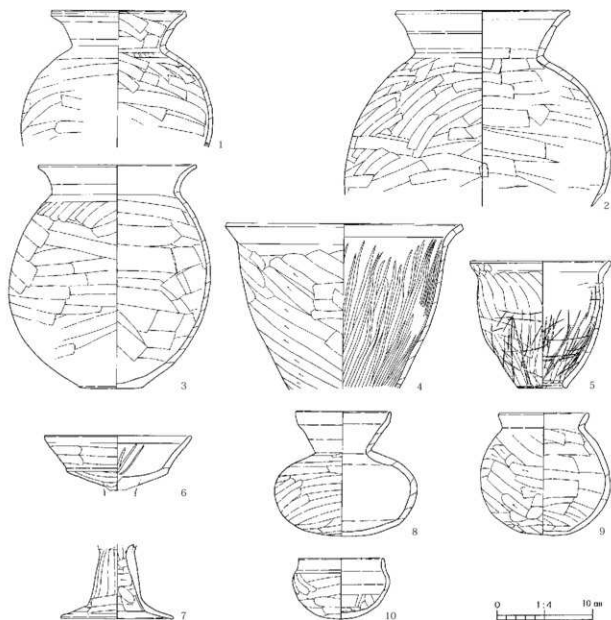
第78図 第146(S114)号住居跡

る。袖は、淡白褐色粘土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

出土遺物は、カマド内やその周辺から古墳時代後期初頭（5世紀末）頃の土器が多く出土している。これらの土器は、その出土状態から見て、本住居跡で使用されていたものが住居の廃絶とともにそのまま遺棄されたと考えられる。この中で、No 1とNo 2の胴部下半を欠いた甕は、カマド右側の床面上に正位に置かれて器台として再利用されており、特にNo 1の甕はその上にNo 7の中形直口壺とNo 5の小形甕が重ねて置かれていた。このような、中形直口壺の上に小形甕を重ねた例は、本庄市（旧良玉町）後張遺跡C地点の古墳時代中期前半の甕をもつ第203号住居跡（恋河内2005）でも見られ、小形甕の伝統的な使用法の一つであった可能性が高い。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土土器の様相から、古墳時代後期初頭（5世紀末）頃と考えられる。

第28表 第146(S114)号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径 14.4. B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D. 石英、角閃石、赤色粒。E. 外一にふい褐色、内一にふい赤褐色。F. 口縁～胴部 1/2. G. 胴部外面に黒炭あり。No 1・7・5が重なって出土。H. 床面直上。
2	甕	A. 口縁部径 18.6. B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後残ナデ。内面ナデ。D. 石英、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁～胴部 1/2. G. 胴部外面に煤付着。H. 床面直上。



第79図 第146(SI14)号住居跡出土遺物

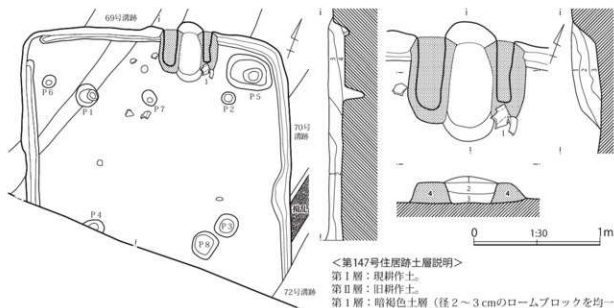
3	罍	A. 口縁部径16.8、器高23.6、底径6.8。B. 粘土組積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後旋ナデ、内面旋ナデ、底部外面ケズリ。D. 石英、黒色粒。E. 外一に赤い・橙色、内一に赤い・赤褐色。F. 4/5。G. 外面被熱。胴部外面に黒炭あり。H. 床面上。
4	大形 甗	A. 口縁部径25.2。B. 粘土組積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後旋ナデ、内面旋ナデの後ミガキ。D. 石英、赤色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁～胴部3/4。G. 胴部外面に黒炭あり。H. 覆土上。
5	小形 甗	A. 口縁部径15.0、器高13.4、底径5.3。B. 粘土組積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面旋ナデの後粗いミガキ(断面状の崩れ)、内面旋ナデの後粗いミガキ、底部下端内側ナデ。D. 石英、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 1/3。G. 口縁部外面に指頭正截を残す。胴部外面に黒炭あり。No 1・7・5が重なって出土。H. No 7上。
6	高 坏	A. 口縁部径15.7。B. 粘土組積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、环部外面ヨコナデの後旋ナデ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D. 石英、片岩粒、赤色粒。E. 外一橙色、内一明赤褐色。F. 环部1/2。G. 外面被熱。カマド支脚に転用。H. カマド内。
7	高 坏	A. 脚端部径12.0。B. 粘土組積み上げ。C. 脚柱部外面旋ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 石英、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 脚部5/6。カマド支脚に転用。H. カマド内。
8	中形直口甗	A. 口縁部径10.2、器高13.2。B. 粘土組積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後旋ナデ、内面ナデ。D. 石英、角閃石、片岩粒、赤色粒。E. 内外一橙色。F. ほぼ定形。G. 外面被熱。No 1・7・5が重なって出土。H. No 1上。

9	小形 釜	A. 口縁部径9.7、器高12.9。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ケズリ、内面貫ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、角閃石。E. 外一褐色、内一ぶい褐色。F. ほぼ完形。G. 外面被熱。胴部外面に風痕あり。H. カマド内。
10	埴	A. 口縁部径9.1。器高6.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面貫ナデ。D. 石英、白色粒。E. 外一褐色、内一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面に風痕あり。H. 覆土中。

#### 第147(S115)号住居跡(第80図、図版18)

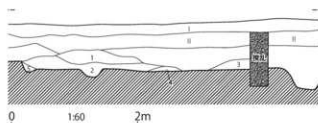
E 3 地点の調査区南端の中央付近に位置する。住居跡の北西側を重複する第69(27)号溝跡に、南東側を第70(28)号溝跡に切られている。住居跡の南側は調査区外に位置するため、遺構の全容は不明である。

平面形は、検出された部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形が長方形を呈していたものと思われる。規模は、北東～南西方向が4.33m、北西～南東方向は4.10mまで測れる。主軸方位は、N-22°-Wを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高18cmある。検出された各壁下には、壁溝が巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は強く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、住居内から



#### <第147号住居跡土層説明>

- 第1層：現耕作土。
- 第2層：旧耕作土。
- 第1層：暗褐色土層（径2～3cmのロームブロックを均一に、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを均一に、炭化粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：暗黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）



#### <第147号住居跡力マド土層説明>

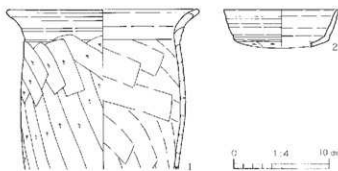
- 第1層：暗褐色土層（暗灰色粘土粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（焼土ブロックを均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（焼土粒子を均一に、炭化粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗黄褐色土層（灰褐色粘土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第80図 第147(S115)号住居跡

8ヶ所検出されている。P 1～P 4は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、4本支柱穴を構成するものと考えられる。いずれも長さ23cm～36cmの円形を呈し、床面からの深さは13cm～37cmある。P 5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居北側コーナー部に位置している。75cm×54cmの隅丸長方形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは40cmある。P 6は、住居西側コーナー部付近に位置する。径20cmの円形を呈し、床面からの深さは19cmある。P 7は、支柱穴のP 1とP 2の中間に位置する。長さ27cmの楕円形を呈し、床面からの深さは35cmある。P 8は、P 3の南側に位置する。43cm×40cmの円形を呈し、床面からの深さは13cmある。

カマドは、住居北西側壁の中央やや北側コーナー部寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長96cm、最大幅94cmを測る。燃焼部は、住居の壁を若干掘り込んでいる。燃焼面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、奥壁は緩やかに傾斜して煙道部に移行している。袖は、灰褐色粘土ブロックを含む暗灰褐色土を壁に直接貼り付けて構築している。右袖の先端からはN 1の裏が出土しており、補強にしていたようである。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

出土遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、古墳時代後期の土器片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土土器の様相から、古墳時代後期後葉(7世紀初頭)頃と考えられる。



第81図 第147(S115)号住居跡出土遺物

第29表 第147(S115)号住居跡出土土物観察表

1	長割炭	A. 口縁部径20.2. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ナデの後ケズリ、内面覆ナデ. D. 黒色粒、白色粒. E. 内外一淡褐色. F. 上半1/2弱. H. カマド右袖先端の補強材に使用.
2	有段口縁 横置環	A. 口縁部径(12.1). B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ、内面ナデ. D. 赤色粒、白色粒. E. 内外一暗茶褐色. F. 口縁部1/3弱. H. 覆土中.

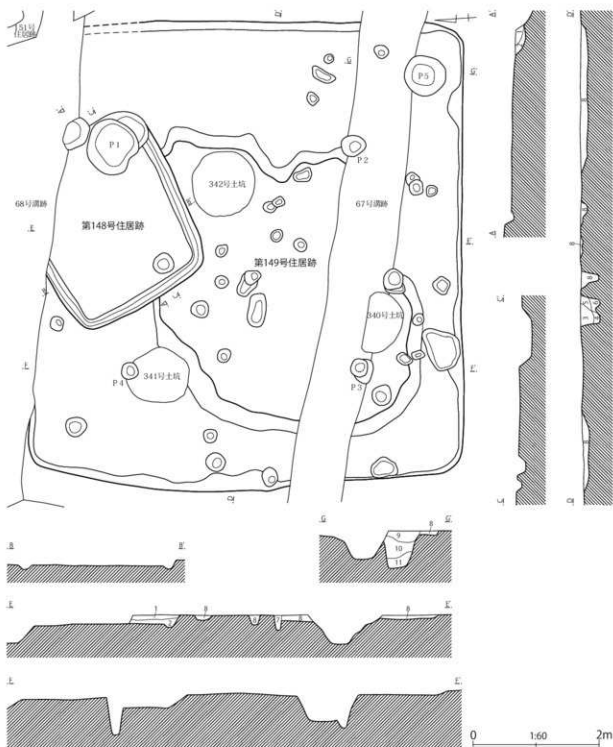
#### 第148(S116)号住居跡(第82図、図版18)

E 3 地点の調査区西端に位置する。重複する第68(26)号溝跡に住居跡の北側コーナー部付近を切られ、第149(S117)号住居跡を切っている。

平面形は、残存する部分から推測するとコーナー部がやや丸みをもつ長方形を呈していたものと思われる。規模は、北東～南西方向が2.90m、北西～南東方向が2.50mを測る。主軸方位は、N-66°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高10cmある。検出された各壁下には、壁溝が途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、住居内から1ヶ所検出されている。P 1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置している。117cm×80cmの不整円形を呈し、床面からの深さは17cmある。

カマドは、住居北東側壁の中央付近に、壁を掘り込んで付設されている。大半を第68(26)号溝跡に切られているため、詳細は不明である。





第82図 第148(S116)・149(S117)号住居跡

## &lt;第148・149号住居跡土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・統土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第7層：暗灰色土層（浅間山系A軽石・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第9層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第10層：黒褐色土層（ローム粒子・白色粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第11層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第148号住居跡カマド土層説明（A～A'）>

第1層：淡茶褐色土層（淡褐色粘土粒子・ローム粒子・焼土粒子を均一に、淡褐色粘土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

出土遺物は、住居の覆土中から古代の土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、平安時代前期（9世紀）頃と考えられる。

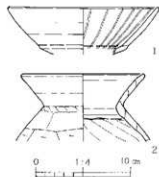
#### 第149(SI17)号住居跡(第82図、図版18)

E 3 地点の調査区西端に位置する。重複する第148(SI16)号住居跡・第340(79)号土坑・第341(80)号土坑・第342(81)号土坑・第67(27)号溝跡・第68(26)号溝跡に切られている。住居跡の上には強く掘平されて住居の掘り方部分しか残存していないため、遺構の遺存状態は劣悪である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形を呈していたものと思われる。規模は、東西方向が7.55m、南北方向が6.95mを測る。主軸方位は、N-94°-Eを向いている。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。住居に関係すると思われるピットは、P 2～P 5の4ヶ所検出されている。P 2～P 4は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、4本主柱穴を構成するものと考えられる。長さ26cm～40cmの円形や楕円形を呈し、深さはいずれも50cm程度ある。P 5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、住居南東側コーナー部に位置している。径65cmの円形を呈し、深さは41cmある。

カマドはその痕跡が残っていないため不明ではあるが、貯蔵穴の位置からすると、東側壁に付設されていたものと思われる。

出土遺物は、住居掘り方埋土中から、土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、古墳時代中期（5世紀）後半頃と考えられる。



第83図 第149(SI17)号住居跡  
出土遺物

第30表 第149(SI17)号住居跡出土遺物観察表

1	高 坏	A. 口縁部径(16.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 口縁部1/6。G. 口縁部内面に放射状暗文を施す。H. 掘り方埋土中。
2	中形直口甕	A. 口縁部径(13.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデのケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 掘り方埋土中。

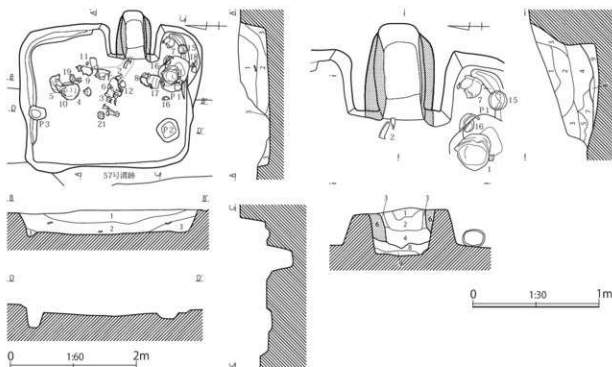
#### 第150(SI18)号住居跡(第84図、図版18)

E 3 地点の調査区北西側に位置し、東側には第152(SI20)号住居跡が、南側には第148(SI16)号住居跡がある。第57(15)号溝跡や第4号掘立柱建物跡と重複し、それらによって切られている。

平面形は、コーナー部の丸みが強い長方形を呈している。規模は、南北方向が2.93m、東西方向が2.32mを測る。主軸方位は、N-88°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高40cmある。壁溝は、住居西側壁以外の各壁下に見られる。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を薄く平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に強く締まっている。掘り方は、

床下全体に及ぶ形態である。ピットは、住居内から3ヶ所検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置している。60cm×45cmの楕円形を呈し、西側に平坦なテラスを持つ。床面からの深さは、西側のテラス部で12cm、東側で42cmある。上面からは、土器が多く出土している。P2は、住居南西側コーナー部に位置する。36cm×35cmの隅丸方形ぎみの形態で床面からの深さは6cmある。P3は、住居北側壁際の中央付近に位置する。長さ28cmの楕円形を呈し、床面からの深さは24cmある。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長83cm、最大幅106cmを測る。燃焼部は、上半を重複する第4号掘立柱建物跡の柱穴(カマド第1・2層)に切られている。住居の壁を20cm程度掘り込んで構築されており、燃焼面(火床)は住居の床面よりやや低く、奥壁は緩やかに傾斜して煙道部に移行している。袖は、地山ローム土を掘り残した可能性も考えられる硬質のローム土を芯にして、その内側に淡茶褐色粘土(カマド第6層)を厚



第84図 第150(S118)号住居跡

<第150号住居跡土層説明>

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・焼土ブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第150号住居跡カマド土層説明>

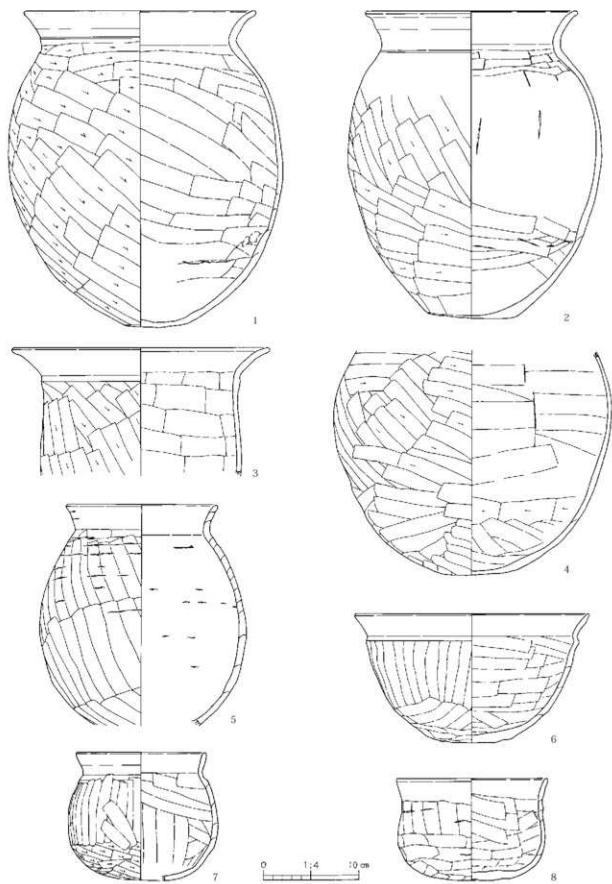
- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：淡茶褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を均一に、炭化粒子・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：淡黄褐色土層（淡黄褐色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：淡茶褐色土層（淡茶褐色粘土を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第7層：淡茶褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第8層：黒褐色土層（炭化粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

く貼り付けている。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

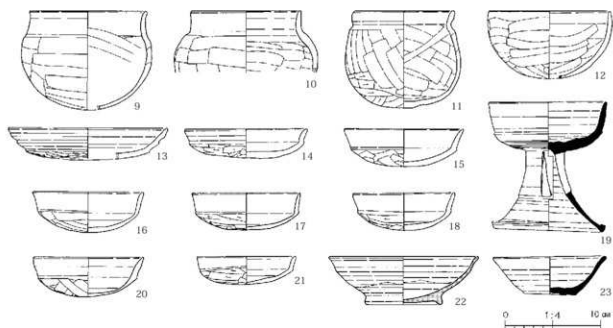
出土遺物は、カマド右側の住居南東側コーナー部の壁際から貯蔵穴上面と、住居跡中央部の覆土中から、古墳時代後期後葉(7世紀前半)頃を主体とする土器が多く出土している。これらはその出土状態から見て、前者は本住居の廃絶に伴って遺棄されたもので、後者は住居廃絶後の覆土埋没過程中に周辺から投棄されたものと考えられる。また、古墳時代後期中葉(6世紀後半)頃の土器(No5・13・14)や、平安時代前期(9世紀)末～中期(10世紀)初頭頃の土器(No22・23)も、覆土中に混入して少量ながら出土している。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、古墳時代後期後葉(7世紀前半)頃と考えられる。

第31表 第150(S118)号住居跡出土遺物観察表

1	胴 蛋 甕	A. 口縁部径24.4、器高33.6、底部径6.6、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面直ナデ、底部外面ケズリ、D. 石英、角閃石、片岩粒、白色粒、E. 内外-にふい橙色、F. ほぼ完形、H. P1上面。
2	胴 蛋 甕	A. 口縁部径(22.3)、器高32.6、底部径9.4、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面直ナデ、底部外面ケズリ、D. 石英、角閃石、白色粒、E. 内外-にふい橙色、F. 2/3、H. 覆土中。
3	長 胴 甕	A. 口縁部径(27.0)、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面直ナデ、D. 石英、角閃石、白色粒、E. 内外-にふい橙色、F. 口縁部～胴部上半1/4、H. 覆土中。
4	胴 蛋 甕	A. 底部径7.6、B. 粘土組織み上げ、C. 胴部外面ケズリ、内面直ナデ、底部外面ケズリ、D. 石英、黒色粒、白色粒、E. 内外-灰褐色、F. 胴部下半のみ、H. 覆土中。
5	胴 蛋 甕	A. 口縁部径16.0、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面直ナデ、D. 石英、黒色粒、白色粒、E. 内外-橙色、F. 2/3、H. 覆土中。
6	大 形 鉢	A. 口縁部径24.5、器高13.7、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部内外面ケズリの後直ナデ、内面直ナデ、底部外面ケズリ、D. 石英、褐色粒、黒色粒、白色粒、E. 内外-にふい褐色、F. 完形、H. 覆土中。
7	鉢	A. 口縁部径13.7、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後上半直ナデ、内面直ナデ、D. 石英、褐色粒、黒色粒、白色粒、E. 内外-にふい褐色、F. 底部2/3欠損、H. 床面直上。
8	鉢	A. 口縁部径15.9、器高10.9、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後直ナデ、内面直ナデ、底部外面直ナデ、D. 石英、黒色粒、片岩粒、E. 外-にふい黄褐色、内-にふい赤褐色、F. ほぼ完形、G. 器形は楕円形に歪んでいる、H. 覆土中。
9	鉢	A. 口縁部径12.4、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面直ナデ、底部外面ケズリ、D. 石英、白色粒、E. 内外-橙色、F. 底部の一部を欠損、H. 覆土中。
10	鉢	A. 口縁部径(11.7)、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面直ナデ、D. 石英、褐色粒、黒色粒、白色粒、E. 内外-橙色、F. 口縁部1/3、H. 覆土中。
11	鉢	A. 口縁部径10.7、器高10.2、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後上半直ナデ、内面直ナデ、底部外面ケズリ、D. 石英、角閃石、片岩粒、白色粒、E. 内外-橙色、F. ほぼ完形、H. 覆土中。
12	鉢	A. 口縁部径(12.9)、器高7.2、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ、D. 石英、黒色粒、白色粒、E. 内外-にふい褐色、F. 1/4、H. 覆土中。
13	有段口縁模倣環	A. 口縁部径(16.8)、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面ナデ、D. 石英、白色粒、E. 内外-にふい黄褐色、F. 口縁部1/3、H. 覆土中。
14	有段口縁模倣環	A. 口縁部径(13.0)、器高3.2、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面ナデ、D. 石英、黒色粒、白色粒、E. 内外-褐色、F. 口縁部1/5、H. 覆土中。
15	模倣環	A. 口縁部径12.6、器高4.0、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面ナデ、D. 石英、褐色粒、白色粒、E. 内外-褐色、F. ほぼ完形、G. 内面磨耗面著、H. 床面直上。
16	模倣環	A. 口縁部径11.7、器高4.4、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面ナデ、D. 石英、黒色粒、褐色粒、白色粒、E. 内外-褐色、F. 完形、H. 覆土中。
17	模倣環	A. 口縁部径11.4、器高4.0、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面ナデ、D. 石英、黒色粒、白色粒、E. 内外-にふい褐色、F. ほぼ完形、H. 覆土中。
18	模倣環	A. 口縁部径10.7、器高4.0、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面ナデ、D. 石英、赤色粒、白色粒、E. 内外-褐色、F. 2/3、H. 床面付近。
19	須恵器高環	A. 口縁部径12.5、器高13.8、脚端部径11.9、B. ロク口成形、C. 口縁部内外面回転ナデ、坏部外面カキス、脚柱部内外面回転ナデ、D. 大径の石英、E. 内外-灰色、F. 完形、G. 脚柱部に4単位の三角形透、内外面に降灰、H. 覆土中。
20	模倣環	A. 口縁部径11.6、器高4.2、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面ナデ、D. 石英、赤色粒、白色粒、E. 内外-褐色、F. ほぼ完形、H. 覆土中。
21	模倣環	A. 口縁部径10.4、器高2.9、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面ナデ、D. 石英、黒色粒、白色粒、E. 外-にふい黄褐色、内-褐色、F. 完形、H. 床面付近。
22	灰輪陶器埴輪	A. 口縁部径15.8、器高5.1、底部径8.2、B. ロク口成形、高台部貼り付け、C. 内外面回転ナデ、D. 黒色粒、白色粒、E. 内外-灰褐色、F. 口縁部1/2、G. 輪は張り掛け、H. 覆土中。
23	須恵器環	A. 口縁部径11.9、器高4.1、底部径5.5、B. ロク口成形、C. 内外面回転ナデ、底部外面回転糸切り、D. 石英、黒色粒、E. 内外-灰色、F. 完形、H. 覆土中。



第85图 第150(S118)号住居跡出土遺物(1)



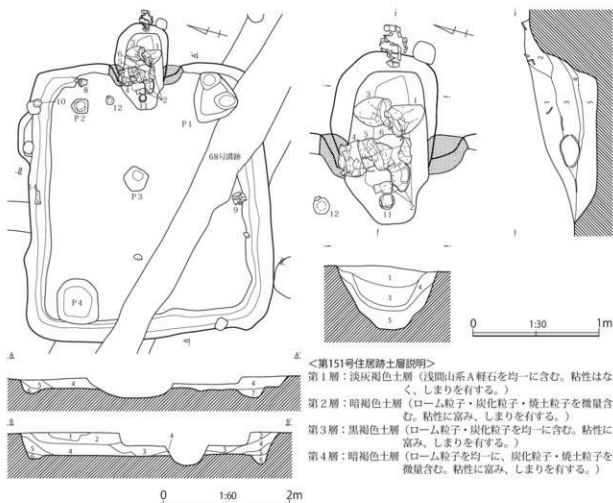
第86図 第150(SI18)号住居跡出土遺物(2)

## 第151(SI19)号住居跡(第87図、図版19)

E 3地点の調査区西側に位置し、西側には第148(SI16)号住居跡が、北側には第152(SI20)号住居跡がある。第68(26)号溝跡と重複し、それによって住居跡の中央部を切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ長方形を呈している。規模は、東西方向が4.42m、南北方向が3.94mを測る。主軸方位は、N-74°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高36cmある。北東側壁以外の各壁下には、壁溝が途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に堅く締まっている。掘り方は、床下全体に及ぶ形態である。ピットは、住居内から4ヶ所検出されている。P 1は、その位置からいわゆる貯蔵穴と思われる、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。70cm×77cmの不整形形を呈し、床面からの深さは20cmある。P 2は、住居北西側コーナー部付近に位置する。26cm×22cmの四角形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは17cmある。P 3は、住居中央付近に位置する。37cm×36cmの不整形円形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは27cmある。P 4は、住居北西側コーナー部付近に位置する。71cm×66cmの隅丸方形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは18cmある。

カマドは、住居北東側壁のほぼ中央に位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長137cm、最大幅120cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られ、その大部分は住居の壁外にある。燃焼面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、奥壁は緩やかに傾斜して煙道部に移行している。燃焼部の中央付近から、土師器の甕が2個体横に並んで横転した状態で出土しており、その出土状態から本カマドの甕の掛け方が、当地域で一般的な2個並置式であったことが分かる。また、その前から土師器の甕が3個体入れ子状に連結した状態で出土しているが、これらは焚口部上面に架設されて補強に使われていたものが落下したと考えられる。袖は、暗灰色粘土土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかったが、燃焼部の奥壁上面から甕が水平になって出土していることから、これらの甕を連結させた煙道であった可能性が高いと思わ



<第151号住居跡土層説明>

第1層：淡灰褐色土層（浅間山系A軽石を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）

第7層：暗黄褐色土層（ローム粒子を均一に、暗灰褐色粘土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第151号住居跡カマド土層説明>

第1層：暗灰褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗灰褐色土層（焼土粒子を均一に、灰色粘土粒子・鉄斑・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗灰褐色土層（焼土粒子・鉄斑・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗赤褐色土層（焼土粒子・焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗灰褐色土層（ローム粒子・鉄斑を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

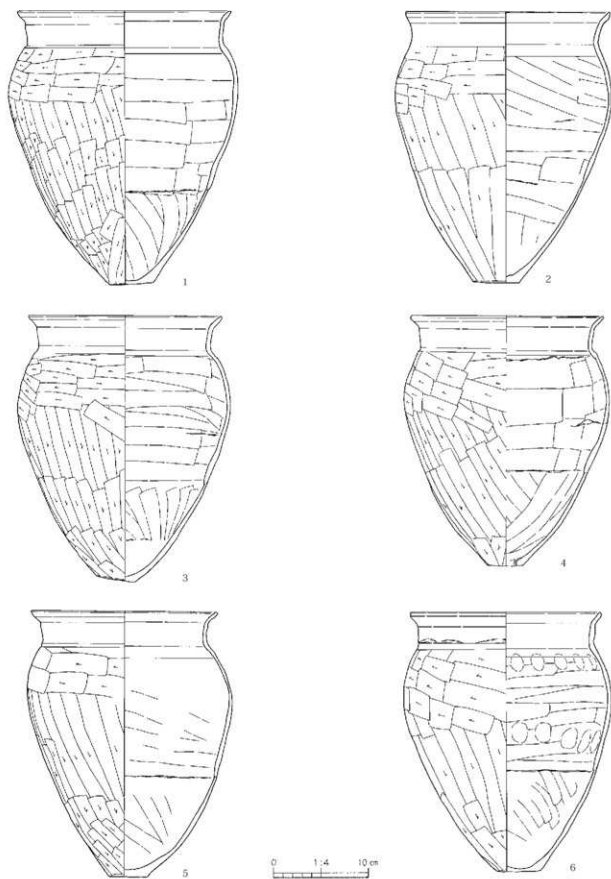
第87図 第151(S119)号住居跡

れる。

出土遺物は、カマド内や住居周辺部の床面直上及び壁際の覆土中から、平安時代前期(9世紀)中頃の土器が多く出土している。土器以外では、柱状砥石や石製紡錘車と土錘が出土している。柱状砥石は、穿孔途中の破損品ではあるが、七色塚遺跡B2地点の第80a号住居跡(恋河内・的野2014)でも、同様の工具痕跡を残す穿孔途中の柱状砥石の破片が出土している。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、平安時代前期(9世紀)中頃と考えられる。

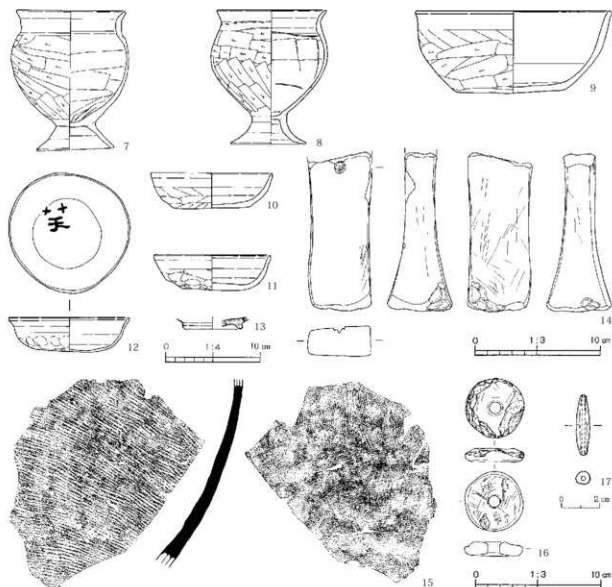
第32表 第151(S119)号住居跡出土遺物観察表

第32表 第151(S119)号住居跡出土遺物観察表	
1	裏 A. 口縁部径22.5、器高29.1、底部径4.7。B. 粘土粗積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。底部外面ケズリ。D. 石炭、片岩粒、黒色粒。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 胴部外面下半に顕著な被焼。粘土付着。H. カマド内。



第88图 第151(S119)号住居跡出土遺物 (1)





第89図 第151(S119)号住居跡出土遺物(2)

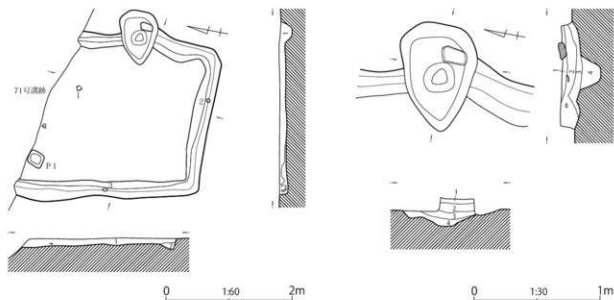
2	甕	A. 口縁部径 21.6, 器高 28.8, 底部径 (4.9), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面篋ナデ, 底部ケズリ, D. 石英, 片岩粒, 黒色粒, E. 内外一褐色, F. ほぼ完形, H. カマド補強材。
3	甕	A. 口縁部径 20.2, 器高 28.3, 底部径 4.2, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面篋ナデ, 底部外面ケズリ, D. 石英, 黒色粒, E. 内外一褐色, F. 完形, H. カマド内。
4	甕	A. 口縁部径 20.4, 器高 26.6, 底部径 3.8, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面篋ナデ, 底部外面ケズリ, D. 石英, 片岩粒, 黒色粒, E. 内外一に赤い褐色, F. ほぼ完形, H. カマド補強材。
5	甕	A. 口縁部径 19.6, 器高 28.2, 底部径 4.1, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面篋ナデ, 底部外面ケズリ, D. 石英, 片岩粒, 黒色粒, E. 内外一褐色, F. ほぼ完形, H. カマド補強材。
6	甕	A. 口縁部径 20.0, 器高 27.6, 底部径 4.7, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面篋ナデ, 底部外面ケズリ, D. 石英, E. 内外一褐色, F. 完形, H. カマド補強材。
7	小形台付甕	A. 口縁部径 11.6, 器高 14.3, 台端部径 8.0, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面篋ナデ, 台部内外面ヨコナデ, D. 石英, E. 内外一に赤い褐色, F. ほぼ完形, H. カマド内。
8	小形台付甕	A. 口縁部径 11.6, 器高 15.0, 底部径 8.2, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面篋ナデ, 台部内外面ヨコナデ, D. 石英, 片岩粒, E. 内外一褐色, F. 完形, G. 胴部内面に炭化物付着, H. 覆土中。
9	鉢	A. 口縁部径 20.8, 器高 8.8, 底部径 11.5, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ナデの後下ケズリ, 内面ナデ, 底部外面ケズリ, D. 石英, E. 内外一に赤い褐色, F. 3/4, H. 床面直上。
10	坏	A. 口縁部径 12.8, 器高 3.7, 底部径 8.0, B. 曲り成形, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部内外面ナデ, 底部外面ケズリ, D. 石英, E. 内外一褐色, F. 完形, G. 胴部外面に指痕を残す, H. 壁面。

11	環	A. 口縁部径 12.4、器高 3.8、底部径 6.6。B. 曲げ成形。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、黒色粒。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 体部外面に指頭圧痕を残す。H. カマド契口上。
12	環	A. 口縁部径 12.9、器高 3.9、底部径 8.2。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 内面底部に墨書あり。H. 床面付近。
13	灰輪陶器 埴	A. 高台部径 (6.4)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一灰白色。F. 高台部 1/5 破片。G. 内面に降灰。H. 覆土中。
14	柱状磁石	A. 残存長 12.7、幅 5.2、厚さ 5.1。D. 流紋岩。F. 上部欠損。G. 4面使用。左側面上端に穿孔途中の痕跡。H. 壁溝上面。
15	須恵器 甕	B. 粘土組織み上りの接甲き整形。C. 胴部外面平行叩き目、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一灰色。F. 胴部破片。H. 覆土中。
16	石粉 鉢 製 車	A. 直径 4.8、高さ 1.1、重さ 39.1g。C. 研磨による整形。D. 粘板岩。F. 完形。剥離痕多数。H. 覆土中。
17	土 鉢	A. 長さ 3.3、最大幅 0.8、重さ 1.62g。B. 手捏ね。C. 表面ナデ。D. 石英。E. 橙色。F. 完形。H. 覆土中。

### 第152(SI20)号住居跡(第90図、図版19)

E3地点の調査区北西側に位置し、北側には第156(SI24)号住居跡、南側には第151(SI19)号住居跡、東側には第161(SI29)号住居跡が西側には第150(SI18)号住居跡がある。住居跡の北側を重複する第71(29)号溝跡によって切られているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、平行四辺形状にやや歪んだ長方形を呈していたものと思われる。規模は、東西方向が2.65m、南北方向は2.98mまで測れる。主軸方位は、N-81°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高10cmある。残存する各壁の壁下には、壁溝が途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を薄く平



第90図 第152(SI20)号住居跡

#### <第152号住居跡土層説明>

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

#### <第152号住居跡カマド土層説明>

- 第1層：暗褐色土層（焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

垣に埋め戻した貼床式で、全体的に堅く締まっている。掘り方は、床下全体に及ぶ形態である。ピットは、住居内から1ヶ所検出されている。P1は、住居北西側に位置する。長さ22cmの方角を呈し、床面からの深さは16cmある。

出土遺物は、住居の床面付近や覆土中から、平安時代の土器の破片が少量出土しただけである。土器以外では、あまり鉄分を含んでいない鉄滓が1点覆土中から出土している。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、平安時代中期(10世紀)初頭頃と考えられる。



第91図 第152(SI20)号住居跡出土遺物

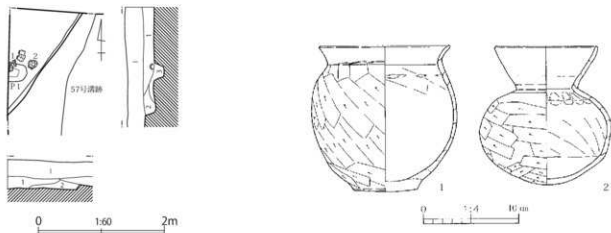
第33表 第152(SI20)号住居跡出土遺物観察表

1	高台付 坏	A. 高台部径(7.0)。B. 粘土組織み上げ。高台部貼り付け。C. 体部外面ケズリ、内面ナデ。高台部内外面ヨコナデ。D. 雲母粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色、内-黒色。F. 高台部のみ。G. 内面黒色処理。H. 床面付近。
2	高台付 坏	A. 高台部径6.2。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡灰褐色、内-黒色。F. 高台部のみ。G. 還元不良。H. 覆土中。
3	須恵 器 坏	A. 口縁部径10.4。器高3.6。底部径4.3。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 外-黒灰色、内-明灰色。F. ほぼ完形。G. 外面に黒斑あり。H. 西側壁溝上。
4	灰輪 陶器 碗	A. 高台部径(6.6)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転鋭ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 高台部1/3。H. 覆土中。

## 第153(SI21)号住居跡(第92図、図版19)

E3地点の調査区北西端に位置する。東側には第155(SI23)号住居跡と第156(SI24)号住居跡がある。調査区内で検出されたのは、住居跡の南東側壁の一部だけであるため、遺構の全容は不明である。

平面形や規模は、不明である。住居南東側壁の方向は、N-36°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高18cmある。検出された住居壁の壁下には、壁溝は見



第92図 第153(SI21)号住居跡

第93図 第153(SI21)号住居跡出土遺物

## &lt;第153号住居跡土層説明&gt;

第1層：現耕作土。

第1層：黒褐色土層(ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第2層：暗茶褐色土層(ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

第3層：暗茶褐色土層(淡褐色粘土ブロック・焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。)

られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に堅く締まっている。掘り方の形態は、不明である。ピットは、住居内から1ヶ所検出されている。P1は、住居南東側壁際に位置する。ピットの西側半分が調査区外のため、形態は不明であるが、長さ26cm以上の楕円形を呈するものと思われる。床面からの深さは18cmある。

出土遺物は、住居南東側壁際のP1周辺の床面上から、土器が少量出土している。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、古墳時代中期(5世紀)後半頃と考えられる。

第34表 第153(SI21)号住居跡出土遺物観察表

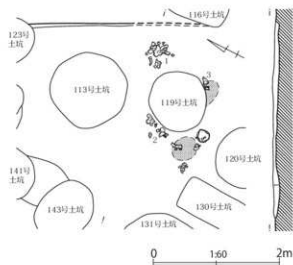
1	小形 甕	A. 口縁部径13.8、器高15.5、底部径6.8。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一暗褐色。F. 3/4。G. 外面は二次焼成を受けて荒れている。H. 床面直上。
2	中形直口甕	A. 口縁部径10.8、器高14.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面荒ナデ。D. 白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一明茶褐色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。

## 第154(SI22)号住居跡(第94図、図版20)

E3地点の調査区南側中央付近に位置する。北側には第160(SI28)号住居跡、西側には第147(SI15)号住居跡、南側には第157(SI25)号住居跡がある。住居跡内を多くの近世墓坑によって切られており、また住居跡の上面は強く削平され、住居跡の北東側壁の一部と床面の一部が残存しているだけであるため、遺構の遺存状態は劣悪である。

平面形や規模は不明である。残存する住居の北東側壁は、N-29°-Wを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高7cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。床面上には、焼けて赤色化した部分が2カ所近接して見られ、おそらく地床炉の可能性が高いと思われる。掘り方の形態は、不明である。

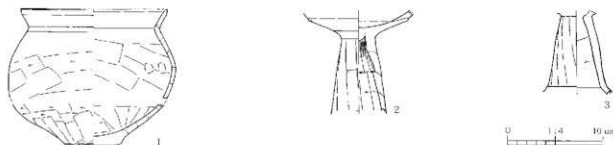
出土遺物は、住居の床面付近から、破片になった土器が比較的多く出土している。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、古墳時代中期(5世紀)前半頃と推測される。



第94図 第154(SI22)号住居跡

## &lt;第154号住居跡土層説明&gt;

第1層：黒褐色土層(ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロック・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。)



第95図 第154(SI22)号住居跡出土遺物

第35表 第154(SI22)号住居跡出土遺物観察表

1	小形 甕	A. 口縁部径 15.4、推定高(14.6)、底部径 5.9。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面荒ナデ。底部外面ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外上半一暗茶褐色、下半一暗褐色。F. 3/4。H. 床面付近。
2	高 杯	A. 残存高 11.0。B. 粘土組織み上げ。C. 杯部内外面ナデ。脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 脚柱部のみ。H. 床面付近。
3	高 杯	A. 残存高 8.9。B. 粘土組織み上げ。C. 脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚柱部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 脚柱部のみ。H. 床面付近。

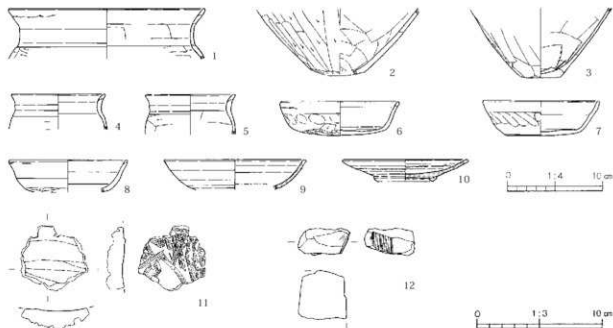
## 第155(SI23)号住居跡(第97図、図版20)

E 3 地点の調査区北端の西側寄りに位置する。南東側には第161(SI29)号住居跡が、北側には E 2 地点の第142(SI10)号住居跡や第144(SI12)号住居跡が近接している。重複する第73(31)号溝跡に住居跡の中央部を、第156(SI24)号住居跡に住居跡の南側上面を切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ北東から南西方向に長い長方形を呈している。規模は、北東～南西方向が4.18m、北西～南東方向が3.05mを測る。主軸方位は、N-72°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高22cmある。各壁下には、壁溝が巡っているが、北東側壁のカマド左側の壁下には見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に硬く締まっている。掘り方は、住居床下の全面に及ぶ形態と思われる。カマド焼口部の手前からは、床下粘土土坑が1基検出されている。この床下粘土土坑は、径53cmの円形を呈し、床面からの深さは10cmある。土坑底面には淡褐色粘土が見られ、埋土中には焼土ブロックや焼土粒子を含んでいる。ピットは、住居内から1ヶ所検出されている。P 1は、住居東側コーナー部付近に位置する。36cm×34cmの四角形を呈し、床面からの深さは39cmある。

カマドは、住居北東側壁の中央付近に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長142cm、最大幅62cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込んでおり、その大半が住居の壁外にある。燃焼面(火床)は、住居の床面より一段低く、奥壁は緩やかに傾斜して斜めに立ち上がる煙道部に移行している。袖は見られない。

出土遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、土器が少量出土しただけである。本住居跡の時期



第96図 第155(SI23)号住居跡出土遺物

は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、平安時代前期(9世紀)中頃と考えられる。

第36表 第155(SI23)号住居跡出土遺物観察表

1	炭	A. 口縁部径(20.8)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面葎ナデ。D. 石英、片岩粒、黒色陶物、白色粒。E. 外-にふい褐色、内-にふい黄褐色。F. 口縁部1/4。G. 破砕後焼熟。H. 覆土中。
2	炭	A. 底部径5.6。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面葎ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、金雲母、赤色粒、白色粒。E. 外-にふい褐色、内-に褐色。F. 底部2/3。G. 胴部外面に黒炭あり。H. 覆土中。
3	炭	A. 底部径4.3。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面葎ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-にふい褐色。F. 底部1/3。H. 覆土中。
4	小形台付甕	A. 口縁部径(10.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面葎ナデ。D. 石英、片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-にふい褐色。F. 口縁部1/5破片。H. カマド内。
5	小形台付甕	A. 口縁部径(9.5)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面葎ナデ。D. 石英、白色粒。E. 外-に褐色、内-にふい褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
6	環	A. 口縁部径12.5。器高3.6。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 石英、片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-明赤褐色、内-にふい褐色。F. ほぼ完成。H. 覆土中。
7	環	A. 口縁部径12.3。器高3.7。底部径7.7。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-に褐色。F. ほぼ完成。H. 周溝上面。
8	環	A. 口縁部径(12.5)。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの下半ケズリ、内面ナデ。D. 石英、片岩粒、黒色粒。E. 内外-にふい褐色。F. 口縁部1/5破片。H. 覆土中。
9	灰輪陶器 埴	A. 口縁部径(12.5)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-灰色。F. 口縁部1/5破片。G. 輪は潰け掛け。内面に降灰。H. 覆土中。
10	灰輪陶器 皿	A. 口縁部径(13.4)。器高2.3。高台部径6.6。B. ロクロ成形。高台貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り(右側)。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-灰白色。F. 2/3。G. 輪は潰け掛け。内面に降灰。H. 覆土中。
11	土壁状 粘土塊	A. 長さ5.2。幅5.4。厚さ1.4。B. 手捏ね。C. 外面雑なナデ。D. 片岩粒、チャート、赤色粒。E. 内外-にふい黄褐色。F. 破片。G. 内面に棒状の沈殿風圧痕あり。H. 覆土中。
12	柱状灰石	A. 残存長さ2.2。残存幅4.2。残存厚3.9。D. 流紋岩?。F. 破片。G. 砥面には強い擦り痕と刃物による砥き痕が見られる。H. 覆土中。

#### 第156(SI24)号住居跡(第97図、図版20)

E3地点の調査区北端の西側寄りに位置する。南側には第152(SI20)号住居跡が、東側には第161(SI29)号住居跡が、北側にはE2地点の第142(SI10)号住居跡や第144(SI12)号住居跡が近接している。第155(SI23)号住居跡と一部重複し、それを切っている。

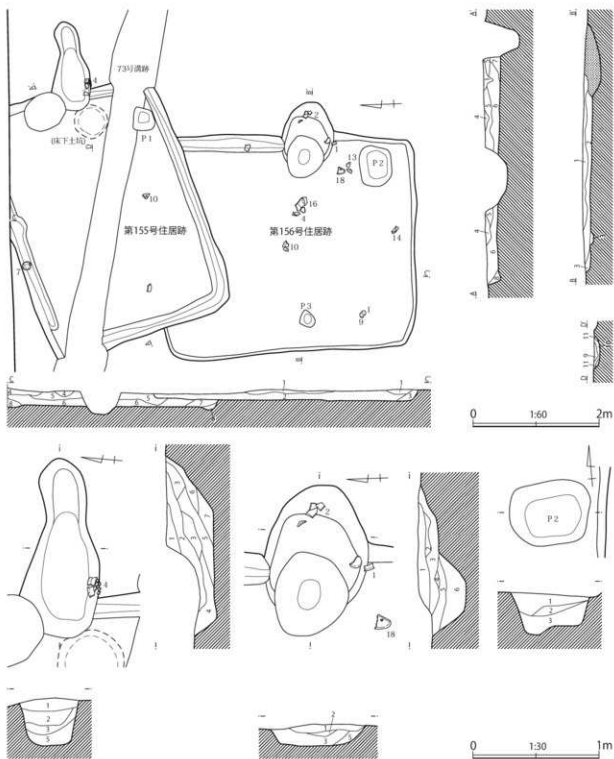
平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が3.58m、南北方向が4.00mを測る。主軸方位は、N-90°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高18cmある。壁溝は、東側壁のカマド左側の壁下だけに見られる。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に硬く締まっている。掘り方は、住居床下の全面に及ぶ形態と思われる。ピットは、住居内からP2とP3の2ヶ所が検出されている。P2は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。65cm×50cmの隅丸長方形ぎみの形態で、床面からの深さは34cmある。P2は、住居西側の壁際中央付近に位置する。25cm×24cmの不整形を呈し、床面からの深さは17cmある。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長120cm、最大幅82cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込んでおり、その半分近くが住居の壁外にある。燃焼面(火床)は、住居の床面よりやや低く、奥壁は緩やかに傾斜して煙道部に移行している。袖は見られない。煙道部はすでに削平されて残存していなかった。

出土遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、土器が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、平安時代前期(9世紀)末~中期(10世紀)初頭頃と考えられる。

第37表 第156(SI24)号住居跡出土遺物観察表

1	炭	A. 口縁部径(19.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面葎ナデ。D. 赤色粒、黒色粒。E. 内外-にふい褐色。F. 口縁部1/5破片。G. 胴部外面に指頭痕を残す。H. 覆土中。
---	---	--



第97図 第155(S123)・156(S124)号住居跡

## &lt;第155・156号住居跡土層説明&gt;

- 第1層：暗灰褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第4層：淡灰褐色土層（浅間山系A軽石を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第7層：暗褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

- 第8層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第9層：暗赤褐色土層（焼土ブロックを均一に、淡褐色粘土ブロック・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第10層：淡褐色土層（淡褐色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第11層：暗褐色土層（炭化粒子・ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第155号住居跡カマド土層説明>

- 第1層：暗灰褐色土層（焼土粒子・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（焼土粒子・ローム粒子、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗赤褐色土層（焼土粒子・焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：黒褐色土層（炭化粒子を均一に、焼土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗褐色土層（焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：暗褐色土層（焼土粒子・焼土ブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第156号住居跡カマド土層説明>

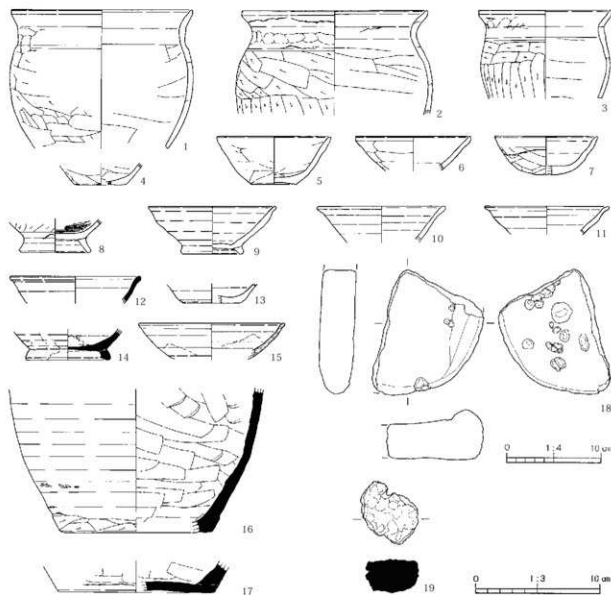
- 第1層：暗灰褐色土層（灰褐色粘土粒子を主体に、焼土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗赤褐色土層（焼土粒子・焼土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（焼土粒子を均一に、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗赤褐色土層（焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：黒褐色土層（炭化粒子を均一に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第156号住居跡貯蔵穴土層説明>

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

2	裏	A. 口縁部径(19.8)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ。内面窪ナデ。D. 石英、長石、白色粒。E. 内外一にふい褐色。F. 口縁部2/3、胴部破片。G. 口縁部外面に指頭圧痕を致す。口縁部内外面に黒炭あり。H. カマド内。
3	裏	A. 口縁部径(14.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一褐色。内一にふい褐色。F. 口縁部1/5破片。G. 口縁部外面に指頭圧痕を致す。H. 覆土中。
4	裏	A. 底部径(5.6)。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部内外面窪ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D. 長石、黒色粒、白色粒。E. 内外一にふい褐色。F. 底部1/2破片。H. 覆土中。
5	坯	A. 口縁部径(12.2)。器高5.1。底部径(5.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。体部内外面ナデ。底部外面摩耗のため観察不能。内面ナデ。D. 長石、白色粒。E. 内外一にふい褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
6	坯	A. 口縁部径(12.3)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D. 石英、長石、白色粒。E. 外一にふい褐色。内一にふい褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。
7	坯	A. 口縁部径(11.0)。器高4.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 角閃石、赤色粒、白色粒。E. 内外一にふい褐色。F. 1/5。H. 覆土中。
8	高台付坯	A. 高台部径(7.8)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部外面ケズリ。内面ミガキ。高台部内外面ヨコナデ。底部外面回転系切り。D. 黒色粒、赤色粒、白色粒。E. 外一にふい褐色。内一にふい褐色。F. 高台部1/5破片。H. 覆土中。
9	須恵器坯	A. 口縁部径13.5。器高5.1。底部径6.6。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外一灰白色。F. 1/4。G. 還元不良。H. 覆土中。
10	坯	A. 口縁部径(13.7)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外一にふい黄褐色。内一にふい黄色。F. 口縁部1/4。G. 還元不良。H. 覆土中。
11	坯	A. 口縁部径(13.2)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。D. 石英、片岩粒。E. 外一褐色。内一黒褐色。F. 口縁部一破片。G. 還元不良。H. 覆土中。
12	須恵器坯	A. 口縁部径(14.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。D. 長石、角閃石、白色粒。E. 内外一黄灰色。F. 口縁部1/4破片。G. 還元良好。H. 覆土中。
13	坯	A. 底部径(6.2)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 石英、片岩粒、黒色粒。E. 内外一にふい黄褐色。F. 底部1/5破片。G. 還元不良。H. 覆土中。
14	須恵器長頸甕	A. 高台部径(9.0)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 胴部外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 白色粒。E. 内外一灰黄色。F. 高台部1/2。G. 外面に自然熱が掛かる。H. 覆土中。
15	灰輪甕皿	A. 口縁部径(15.6)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒。E. 内外一灰色。F. 口縁部1/6破片。G. 運輸は損け掛け。H. 覆土中。
16	須恵器裏	A. 底部径(16.2)。B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 胴部外面回転ナデの後下端ケズリ。内面当道具痕を致す。底部外面ケズリの後ナデ。D. 石英、白色粒。E. 内外一灰色。F. 胴部下平1/4。H. 覆土中。
17	須恵器裏	A. 底部径(16.6)。B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 胴部外面回転ナデの後下端ケズリ。内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外一灰色。F. 底部1/6破片。H. 覆土中。
18	石皿	A. 残存長13.4、残存幅11.9、厚さ5.3、重さ769.61g。D. 安山石。F. 破片。G. 表面は使用により摩耗し、画面には顕著な摩耗痕が見られる。裏面には破損痕と思われる凹穴が見られる。H. 床面付近。





第98図 第156(SI24)号住居跡出土遺物

19	鉄 滓	A. 長さ5.1、幅4.6、厚さ2.8、重さ70.8 g。G. 鉄分含む。碗型滓。H. 覆土中。
----	-----	--

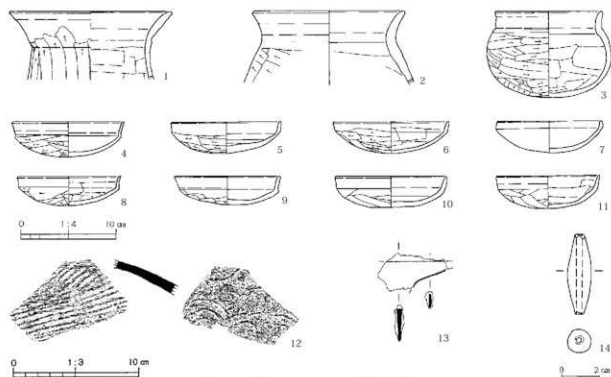
## 第157(SI25)号住居跡(第100図、図版20)

E 3 地点の調査区南端のやや東側寄りに位置する。重複する第158(SI26)号住居跡と第122・146・147・148号土坑の近世墓坑群と第32号溝跡に切られている。住居跡の南側半分は調査区外に位置するため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈するものと思われる。規模は、北東から南西方向は3.75mまで、北西から南東方向は4.82mまで測れる。住居の北西側壁は、N-59°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高33cmある。壁溝は、北西側壁下に見られる。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、P 1～P 3の3ヶ所が検出されている。いずれも壁際に位置し、長さ25cm～30cmの楕円形

を呈している。

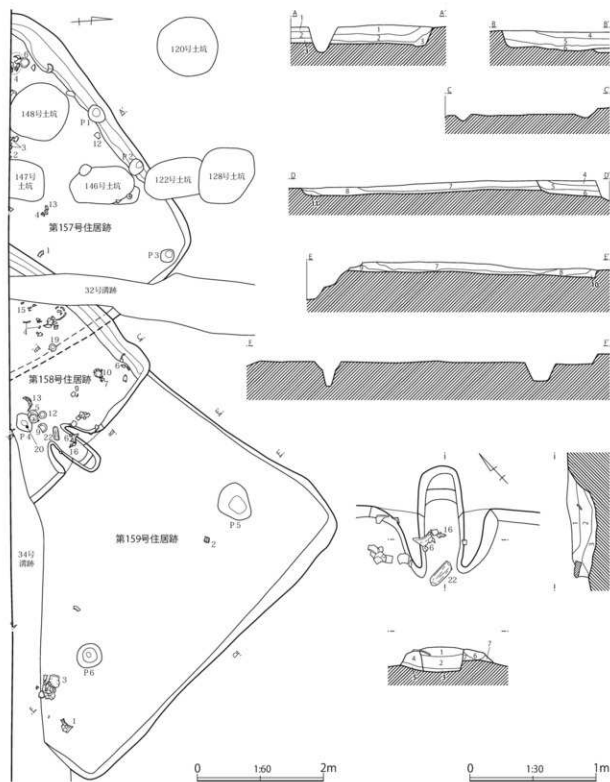
出土遺物は、住居壁際の床面付近から、土器の破片が少量出土している。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、古墳時代後期末～白鳳時代初頭(7世紀中頃)と考えられる。



第99図 第157(S125)号住居跡出土遺物

第38表 第157(S125)号住居跡出土遺物観察表

1	長胴甕	A. 口縁部径(17.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ツナデ。D. 長石、白色粒。E. 内外一褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。
2	胴甕	A. 口縁部径(16.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ツナデ。D. 長石、赤色粒、白色粒。E. 内外一にふい褐色。F. 口縁部1/3破片。H. 床面付近。
3	鉢	A. 口縁部径(11.4)。器高9.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ツナデ。D. 長石、白色粒。E. 内外一褐色。F. 2/3。G. 外面に黒斑あり。H. 床面付近。
4	横微環	A. 口縁部径11.9。器高3.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ツナデ。D. 白色粒。E. 内外一にふい褐色。F. 2/3。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中。
5	環	A. 口縁部径11.6。器高3.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ツナデ。D. 角四石。E. 内外一褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
6	環	A. 口縁部径12.3。器高3.3。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ツナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にふい褐色。F. 完形。H. 覆土中。
7	環	A. 口縁部径11.1。器高3.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面摩擦のため観察不能、内面ツナデ。D. 白色粒。E. 内外一褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
8	横微環	A. 口縁部径10.9。器高3.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ツナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にふい褐色。内一褐色。F. 3/4。G. 体部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
9	横微環	A. 口縁部径(11.2)。器高3.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ツナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にふい褐色。F. 1/4。G. 底部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
10	環	A. 口縁部径(11.9)。器高3.3。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ツナデ。D. 褐色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
11	横微環	A. 口縁部径(11.0)。器高3.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ツナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. 1/5。H. 覆土中。
12	須恵器	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 胴部外面平行叩き目、内面当道具痕(青波流文)を残す。D. 石英、黒色粒、白色粒。E. 内外一黄灰色。F. 胴部破片。H. 覆土中。
13	刀	A. 残存長3.0。残存幅4.5。厚さ0.3。重さ12.08g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 破片。G. 片側に刃部を持つ。H. 覆土中。
14	土 錘	A. 長さ4.1。幅1.2。厚さ1.2。孔径0.3。B. 手捏ね。片側穿孔。C. 外面ケズリの後ナデ。D. 石英、黒色粒、白色粒。E. 内外一にふい黄褐色。F. 完形。H. 覆土中。



第100図 第157(SI25)・158(SI26)・159(SI27)号住居跡

## &lt;第157・158・159号住居跡土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径3～5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子・焼土物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量に、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロック・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第7層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径1～3cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性、しまりともない。）  
 第10層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第11層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性、しまりともない。）

<第158号住居跡カマド土層説明>

- 第1層：黒褐色土層（焼土粒子を多量に、粘土粒子・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（焼土粒子を少量に、ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：褐色土層（ローム粒子を少量に、焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：暗褐色土層（焼土粒子を少量に、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第7層：褐色土層（ローム粒子を多量に、焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

第158(SI26)号住居跡(第100図、図版21)

E 3地点の調査区南端のやや東側寄りに位置する。住居跡の南西側を、重複する第34号溝跡に切られ、第157(SI25)号住居跡と第159(SI27)号住居跡を切っている。住居跡の南側半分は調査区外に位置するため、遺構の全容は不明である。

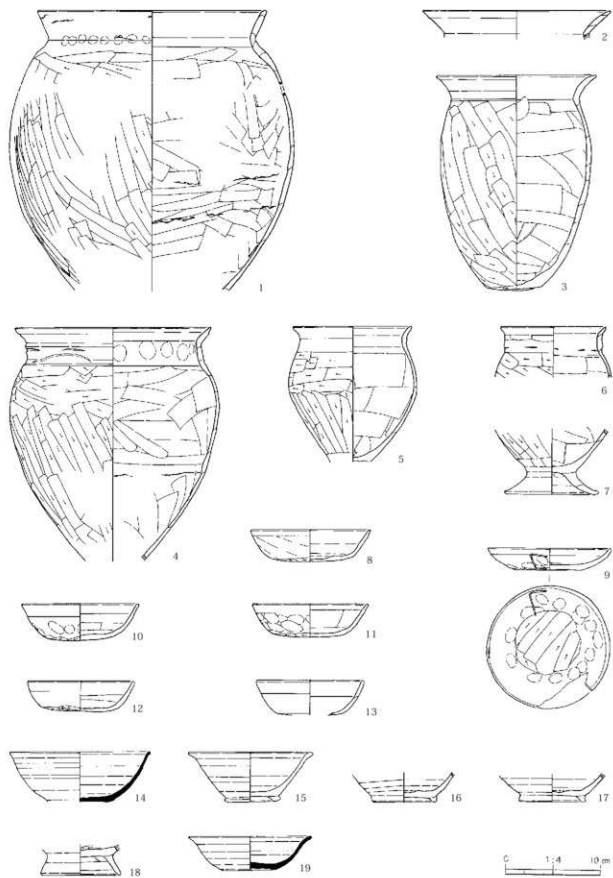
平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈するものと思われる。規模は、北東から南西方向は1.65mまで、北西から南東方向は2.90mまで測れる。住居の主軸方位は、N-46°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高26cmある。壁溝は、北西側壁下に見られる。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に堅く締まっている。掘り方は、住居床下の全面に及ぶ形態と思われる。ピットは、P 4の1ヶ所が検出されている。P 4は、35cm×26cmの楕円形ごみの形態で、床面からの深さは10cmある。

カマドは、住居北東側壁に位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長87cm、最大幅104cmを測る。燃焼部は、住居の壁を若干掘り込んで作られている。燃焼面(火床)は、住居の床面よりも低く、奥壁は緩やかに傾斜して煙道部に移行している。袖は、ローム粒子を含む暗褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

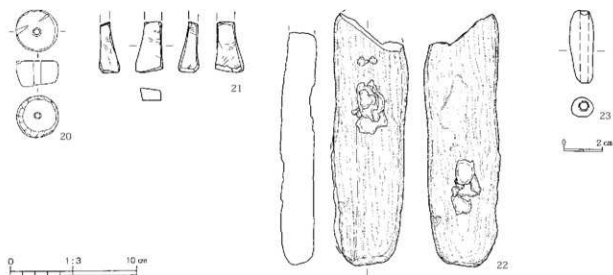
出土遺物は、カマド内やその周辺の床面付近から、平安時代前期を主体とする土器の破片が比較的多く出土している。No 1～No 3の糞は、古墳時代後期末～白鳳時代初頭頃(7世紀中頃)と考えられるもので、重複する第157(SI25)号住居跡から混入したものと推測される。土器以外では、土製紡錘車や土錘が1点ずつ出土している。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、平安時代前期(9世紀)中頃と考えられる。

第39表 第158(SI26)号住居跡出土遺物観察表

1	卵 蛋 糞	A. 口縁部径(24.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 石英、黒色粒、赤色粒、白色粒。E. 内外にふいじ色。F. 1/2。G. 胴部外面煤付着。H. 覆土中。
2	糞	A. 口縁部径(19.9)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 石英、片岩粒、チャート、赤色粒、白色粒。E. 外一明赤褐色。内一にふいじ色。F. 口縁部1/3。G. 口縁部内外面に煤付着。H. 覆土中。
3	糞	A. 口縁部径(17.0)。器高(27.8)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 石英、黒色粒、白色粒。E. 外一灰褐色。内一灰黄褐色。F. 5/6。G. 胴部外面煤付着。底部縁縁熟。H. 覆土中。
4	糞	A. 口縁部径 20.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 石英、片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. 3/4。G. 口縁部内面に指頭狂痕を残す。H. 床面付近。
5	小形台付糞	A. 口縁部径 12.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 石英、片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 内外にふいじ黄褐色。F. 台部欠損。G. 胴部外面煤付着。H. 床面付近。



第101図 第158(SI26)号住居跡出土遺物(1)



第102図 第158(SI26)号住居跡出土遺物(2)

6	小形台付甕	A. 口縁部径11.2, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面塗ナデ, D. 石英, 角閃石, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一褐色, F. 口縁部1/3 破片, G. 胴部外面に煤付粒, H. カマド内。
7	小形台付甕	A. 台部径10.0, B. 粘土組織み上げ, C. 胴部外面ケズリ, 内面ナデ, 台部内外面ヨコナデ, D. 石英, 角閃石, 白色粒, E. 内外一褐色, F. 胴部-底部2/3, H. 覆土中。
8	坏	A. 口縁部径13.6, 器高3.4, 底部径8.7, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部内外面ナデ, 底部外面ケズリ, D. 角閃石, 片岩粒, 白色粒, E. 内外一にふい褐色, F. 1/2, G. 口縁部外面に黒炭あり, H. 覆土中。
9	坏	A. 口縁部径13.0, 器高2.4, 底部径6.9, B. 曲げ成形, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部内外面ナデ, 底部外面ケズリ, D. 石英, 片岩粒, E. 外一にふい黄褐色, 内一にふい褐色, F. ほぼ完形, G. 体部外面に線刻あり, H. 覆土中。
10	坏	A. 口縁部径12.4, 器高4.0, B. 曲げ成形, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部内外面ナデ, 底部外面ケズリ, D. 石英, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一明赤褐色, F. 3/4, H. 覆土中。
11	坏	A. 口縁部径12.3, 器高3.5, B. 曲げ成形, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部内外面ナデ, 底部外面ケズリ, D. 石英, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一褐色, F. 完形, H. 床面付近。
12	坏	A. 口縁部径11.3, 器高3.2, B. 曲げ成形, C. 口縁部外面ヨコナデ, 体部内外面ナデ, 底部外面ケズリ, D. 石英, 赤色粒, 白色粒, E. 外一にふい褐色, 内一褐色, F. 1/4, H. 覆土中。
13	坏	A. 口縁部径11.4, B. 曲げ成形, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部内外面ナデ, 底部外面ケズリ, D. 石英, 赤色粒, 白色粒, E. 外一にふい褐色, 内一褐色, F. 1/4, H. 覆土中。
14	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径14.8, B. ロクロ成形, 高台貼り付け, C. 体部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り(右回転), D. 石英, 白色粒, 白色粒, E. 内外一灰色, F. 体部3/4, H. 覆土中。
15	高台付坏	A. 口縁部径13.1, 器高5.4, 底部径5.9, B. ロクロ成形, 高台貼り付け, C. 体部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り後高台部内外面回転ナデ, D. 片岩粒, 褐色粒, 白色粒, E. 内外一にふい黄褐色, F. 1/4, G. 還元不良, H. 覆土中。
16	高台付埴	A. 高台部径6.8, B. ロクロ成形, 高台貼り付け, C. 体部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D. 石英, 白雲母, 赤色粒, 白色粒, E. 外一にふい黄褐色, 内一浅黄色, F. 底部3/4, G. 還元不良, H. カマド内。
17	高台付埴	A. 高台部径7.1, B. ロクロ成形, 高台貼り付け, C. 体部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D. 石英, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一褐色, F. 底部2/3, G. 還元不良, H. 覆土中。
18	高台付埴	A. 高台部径7.1, B. 粘土組織み上げ, C. 台部内外面ヨコナデの後塗ナデ, D. 石英, 角閃石, 片岩粒, 白色粒, E. 内外一褐色, F. 底部のみ, G. 台部内面に黒炭あり, 還元不良, H. 覆土中。
19	須恵器 坏	A. 口縁部径13.0, 器高3.6, 底部径5.8, B. ロクロ成形, C. 体部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D. 黒色粒, E. 内外一灰白色, F. 4/5, H. 床面付近。
20	土 紡 車	A. 長さ3.6, 幅3.6, 厚さ2.2, 重さ33.87g, B. 手探ね, C. 裏面ケズリの後ナデ, 側面ケズリの後塗ナデ, D. 石英, 片岩粒, 赤色粒, 白色粒, E. 内一にふい褐色, F. ほぼ完形, H. P 4 上面。
21	柱状磁石	A. 残存長4.2, 幅2.2, 厚さ1.0, 重さ14.05g, D. 液紋石, F. 1/2, G. 砥面には強い擦り痕と刃物による威ぎ痕が見られる, H. 覆土中。
22	凹石	A. 残存長26.6, 幅8.0, 厚さ3.8, 重さ1076.17g, D. 片岩, F. 3/4, G. 扁平礫の表裏面に敲打集中による凹穴あり, H. 覆土中。
23	土 鏝	A. 長さ4.8, 幅1.2, 厚さ1.0, 重さ4.98g, B. 手探ね, C. 外面ケズリの後ナデ, D. 石英, 角閃石, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一にふい赤褐色, F. 完形, H. 覆土中。

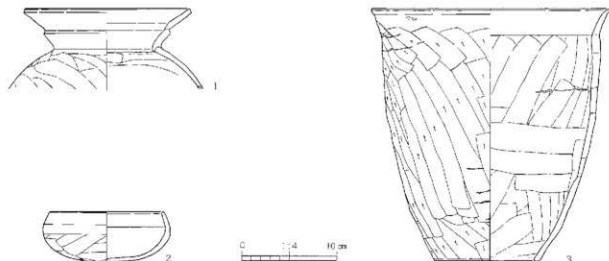
## 第159(SI27)号住居跡(第100図, 図版21)

E 3 地点の調査区南端のやや東側寄りに位置する。住居跡の南側を第34号溝跡に、南西側を第

158(SI26)号住居跡に切られている。住居跡の南側半分は調査区外に位置するため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、北東から南西方向は3.96mまで、北西から南東方向は5.96mまで測れる。住居の北西側壁は、N-44°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高16cmある。壁溝は、調査区内で検出された各壁下には見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広で不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、P 5～P 6の2ヶ所が検出されている。P 5とP 6は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、4本主柱穴の一部と考えられる。それぞれ長さ60cmの楕円形と40cmの円形を呈し、床面からの深さは30cmと42cmある。

出土遺物は、住居の床面付近から、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃の土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃と考えられる。



第103図 第159(SI27)号住居跡出土遺物

第40表 第159(SI27)号住居跡出土遺物観察表

1	複合口縁壺	A. 口縁部径 17.7. B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、黒色粒。E. 内外一橙色。F. 口縁部のみ。H. 覆土中。
2	杯	A. 口縁部径(12.2)。器高 5.3. B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 石英、長石、赤色粒。E. 内外一橙色。F. 1/4. H. 床面直上。
3	大形甕	A. 口縁部径(25.2)。器高 26.8. 底部径 11.0. B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 石英、片岩粒、赤色粒、黒色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 3/5. H. 床面直上。

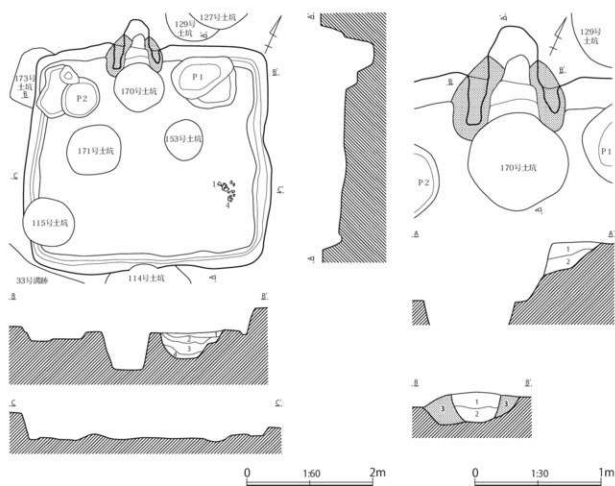
#### 第160(SI28)号住居跡(第104図、図版21)

E 3 地点の調査区中央部のやや南側寄りに位置する。北西側には第171(SI39)号住居跡が、北東側には第172(SI40)号住居跡が、南側には第157(SI25)号住居跡がある。住居跡内を多くの近世墓坑に切られており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、北東～南西方向が3.58m、北西～南東方向が3.93mを測る。主軸方位は、N-25°-Wを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高38cmある。壁溝は、各壁下に見られるが、北東側壁のカマド左側の壁

下には見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に硬く締まっている。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広で不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、住居内からP1とP2の2ヶ所が検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置する。103cm×83cmの隅丸長方形ぎみの形態で2段に深くなっている。床面からの深さは、浅い方が18cm、深い方が45cmある。P2は、住居北西側コーナー部付近に位置する。68cm×59cmの楕円形を呈し、床面からの深さは12cmある。

カマドは、住居北西側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長90cm、最大幅91cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込んでいるが、燃焼部の大半は住居内にある。燃焼面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さと思われ、奥壁は直線的に立ち上がって、緩



第104図 第160(SI28)号住居跡

<第160号住居跡P1(貯蔵穴)土層説明>

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

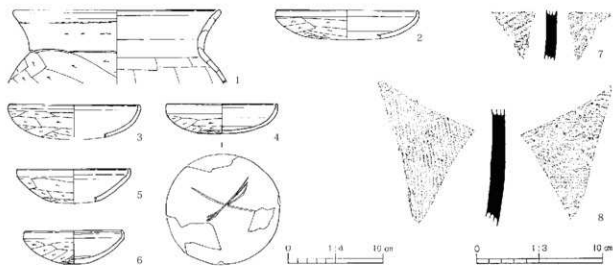
<第160号住居跡カマド土層説明>

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・焼土粒子・褐色粘土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（焼土粒子・褐色粘土粒子を少量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：暗黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）



やかに傾斜する煙道部に移行している。袖は、粘質ローム土を主体とする暗黄褐色粘土を、住居壁を斜めに削った燃焼部の側面から貼り付けて構築している。

出土遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、白鳳時代(7世紀後半)頃と考えられる。



第105図 第160(SI28)号住居跡出土遺物

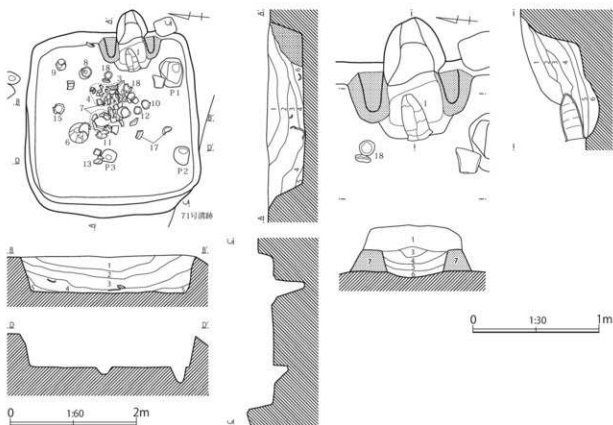
第41表 第160(SI28)号住居跡出土遺物観察表

1	卵 蛋 甕	A. 口縁部径(22.0)。B. 粘土埴積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部1/2弱。H. 床面付近。
2	坏	A. 口縁部径(15.0)。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
3	坏	A. 口縁部径(13.8)。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明褐色。F. 口縁部1/4弱。H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径11.8。器高3.2。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 3/4。G. 体部外面に焼成後の「×」字状のへら記号あり。H. 覆土中。
5	坏	A. 口縁部径(12.0)。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一明褐色。F. 口縁部1/4弱。H. 覆土中。
6	坏	A. 口縁部径10.4。器高4.5。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 3/4。H. P1内。
7	須 恵 器 甕	B. 粘土埴積み上げ後叩き。C. 外面平行叩き目、内面当て道具痕(背海波文)を残す。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一淡灰色。F. 胴部破片。H. 覆土中。
8	須 恵 器 甕	B. 粘土埴積み上げ後叩き。C. 外面平行叩き目、内面ヨコナデ(当て道具痕を残す)。D. 白色粒。E. 内外一暗灰色、内一暗茶褐色。F. 胴部破片。G. 外面に降灰による自然輪が薄くかかる。H. 覆土中。

第161(SI29)号住居跡(第106図、図版22)

E 3 地点の調査区北側の西寄りに位置する。西側には第156(SI24)号住居跡と第152(SI20)号住居跡が、東側には第5号掘立柱建物跡と第8号掘立柱建物跡がある。住居跡の南西側コーナー部の上面を重複する第71(29)号溝跡に切られているが、遺構の遺存状態は比較的良好である。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が2.96m、南北方向が2.80mを測る。主軸方位は、N-82°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高55cmである。壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に硬く締まっている。掘り方は、住居の床下全面に及ぶ形態である。ピットは、住居内から3ヶ所が検出されている。P1は、カマド右側の住居南東側コーナー部



第106図 第161(S129)号住居跡

## &lt;第161号住居跡土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第6層：暗褐色土層（焼土粒子・淡褐色粘土粒子を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第161号住居跡カマド土層説明&gt;

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗茶褐色土層（焼土粒子を均一に、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗赤褐色土層（焼土粒子を多量に、ローム粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第5層：黒褐色土層（炭化粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第6層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第7層：淡褐色土層（淡褐色粘土ブロックを主体とする。粘性に富み、しまりを有する。）

に位置する。47cm×38cmの隅丸長方形ぎみの形態で、床面からの深さは最高52cmある。P 2は、住居南側壁際の南西側コーナー部寄りに位置する。28cm×25cmの楕円形を呈し、床面からの深さは23cmある。P 3は、住居中央部の西側寄りに位置する。23cm×20cmの楕円形を呈し、床面からの深さは12cmある。

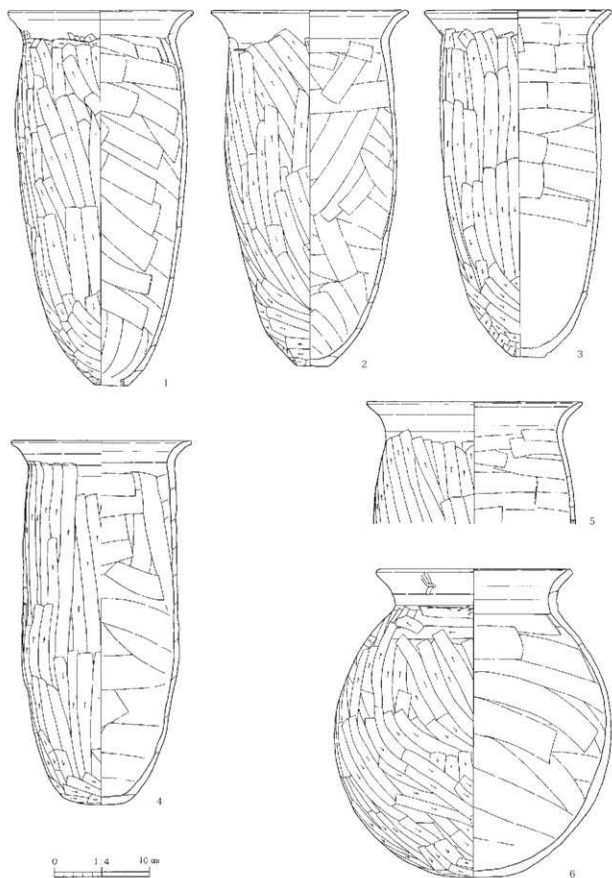
カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長94cm、最大幅102cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込んでおり、燃焼部の半分は住居の壁外にある。燃焼面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さと思われ、奥壁は直線的に立ち上がって、

煙道部に移行している。燃焼部内からは、完形に近い長胴甕がカマドの焚口部に向けて倒れたような状態で出土していることから、本カマドの土器の掛け方は一個掛けてあったことが窺える。袖は、淡褐色粘土ブロックを住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

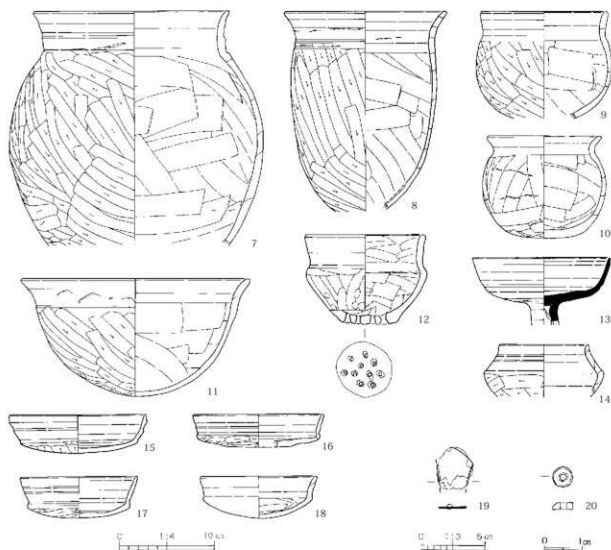
出土遺物は、カマド内や住居跡中央部の床面に近い覆土中から、古墳時代後期後葉(6世紀末～7世紀初頭頃)の土器が多数まとまって出土している。この住居中央部の覆土中からまとまって出土した土器は、その出土状態から本住居跡で使用されていたものではなく、住居廃絶後の覆土埋没過程で周辺から投げ込まれたものと考えられる。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、古墳時代後期後葉(6世紀末～7世紀初頭頃)と考えられる。

第42表 第161(SI29)号住居跡出土土器観察表

1	長 胴 甕	A.口縁部径19.7、器高36.7、底部径3.4、B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。底部外面ケズリ。D.石英、長石、片岩粒、赤色粒、黒色粒。E.内外-にふい黄褐色。F.ほぼ完形。G.胴部外面に黒炭あり。胴部外面下半に煤付着。H.カマド内。
2	長 胴 甕	A.口縁部径20.8、器高37.7、底部径3.5、B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。D.石英、片岩粒、赤色粒。E.内外-にふい褐色。F.ほぼ完形。G.胴部外面に煤付着。底部外面に黒炭あり。H.覆土中。
3	長 胴 甕	A.口縁部径19.5、器高39.8、底部径3.5、B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデの浅上半窪ナデ。底部外面ケズリ。D.石英、長石、片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外-にふい黄褐色。F.ほぼ完形。G.胴部外面下半に煤付着。H.覆土中。
4	長 胴 甕	A.口縁部径19.1、器高38.7、B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。D.石英、片岩粒、チャート、赤色粒、黒色粒。E.内外一褐色。F.ほぼ完形。G.胴部外面に帯状に煤付着。胴部外面に黒炭あり。H.覆土中。
5	長 胴 甕	A.口縁部径(22.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。D.石英、角閃石、片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外-浅黄色、内-一褐色。F.口縁部1/2。H.覆土中。
6	胴 甕 甕	A.口縁部径20.8、器高32.8、B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。D.石英、長石、片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一褐色。F.ほぼ完形。G.胴部外面に黒炭あり。底部外面摩耗。胴部内面下半斑点状剥落顕著。H.覆土中。
7	胴 甕 甕	A.口縁部径20.6、B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。D.石英、黒色鉱物、赤色粒、白色粒。E.外-にふい黄褐色、内-にふい褐色。F.口縁部-胴部2/3。G.胴部外面下にスチ付着。胴部内面に黒炭。H.覆土中。
8	小 形 甕	A.口縁部径17.1、B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。D.石英、黒色粒、赤色粒、白色粒。E.外-浅黄色、内-一褐色。F.口縁部-胴部3/4。H.覆土中。
9	小 形 鉢	A.口縁部径(13.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。D.石英、片岩粒(大粒)、灰色礫、赤色粒、白色粒。E.外-灰黄色、内-にふい黄褐色。F.2/3。G.胴部外面に黒炭あり。H.覆土中。
10	小 形 鉢	A.口縁部径(12.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窪ナデ。内面窪ナデ。D.石英、赤色粒、黒色粒、白色粒。E.外-にふい褐色、内-暗灰色。F.3/4。G.底部外面に黒炭あり。H.覆土中。
11	大 形 鉢	A.口縁部径(24.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面窪ナデ。D.石英、片岩粒、赤色粒、黒色粒。E.内外-にふい褐色。F.9/10。G.口縁部・体部外面下に煤付着。底部外面に黒炭あり。H.床面付近。
12	小 多 孔 甕	A.口縁部径12.8、器高9.4、底部径5.8、B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面窪ナデ。D.石英、片岩粒、赤色粒、黒色粒、白色粒。E.外-にふい黄褐色、内-にふい褐色。F.ほぼ完形。G.底部外面に黒炭あり。H.覆土中。
13	須 恵 器 环	A.口縁部径(14.6)。B.ロクロ成形。C.環部外面回転ナデの後下端回転ナデ。内面回転ナデ。脚柱部外面回転ナデ。内面は較り目を残す。D.石英、黒色粒、赤色粒、白色粒。E.内外-にふい赤褐色。F.口縁部-脚柱部上位3/4。H.覆土中。
14	有 段 口 縁 襷 輪 甕 环	A.口縁部径(9.4)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、片岩粒、黒色粒、白色粒。E.内外-浅黄色。F.口縁部1/3。G.坯身模範坏。H.覆土中。
15	有 段 口 縁 襷 輪 甕 环	A.口縁部径14.4、器高4.1、B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、長石、片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外-灰黄色、内-にふい黄褐色。F.ほぼ完形。G.体部外面に煤付着。H.覆土中。
16	有 段 口 縁 襷 輪 甕 环	A.口縁部径(13.8)、器高(3.5)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外-にふい赤褐色、内-にふい褐色。F.1/3。G.体部外面に煤付着。H.覆土中。
17	有 段 口 縁 襷 輪 甕 环	A.口縁部径12.4、器高4.4、B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外-灰黄色。F.ほぼ完形。H.床面付近。
18	襷 輪 甕 环	A.口縁部径12.3、器高4.5、B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデの後窪ナデ。D.石英、チャート、赤色粒、黒色粒、白色粒。E.内外一褐色。F.ほぼ完形。H.床面付近。
19	鉄 製 品	A.残存長3.3、残存幅2.9、厚さ0.2、重さ7.69g。B.鍛造。D.鉄製。F.破片。G.錆の進行著しい。H.覆土中。
20	白 白 玉	A.残さ0.5、幅0.5、厚さ0.2、重さ0.11g。D.粘板岩。F.完形。G.側面に粗い研磨痕が見られる。H.覆土中。



第107図 第161(SI29)号住居跡出土遺物(1)



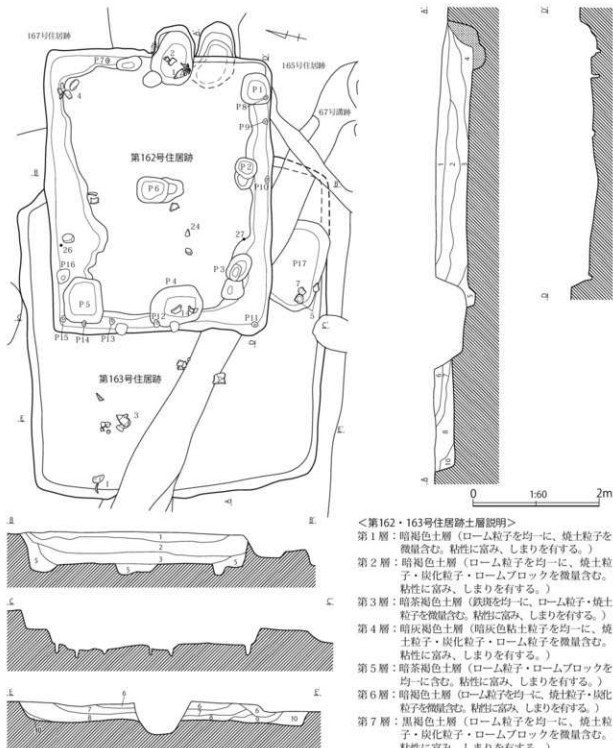
第108図 第161(SI29)号住居跡出土遺物(2)

## 第162(SI30)号住居跡(第109図、図版22)

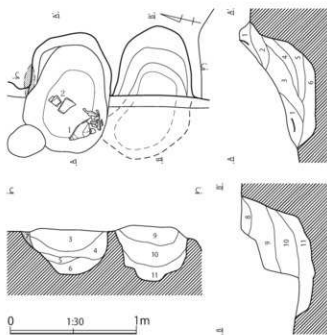
E 3 地点の調査区中央部に位置する。重複する第163(SI31)号住居跡・第165(SI33)号住居跡・第167(SI35)号住居跡を切り、第67(25)号溝跡に切られている。

平面形は、比較的整った長方形を呈している。規模は、東西方向が4.45m、南北方向が3.60mを測る。主軸方位は、 $N-75^{\circ}-E$ を向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高52cmある。壁溝は、各壁下に途切れずに見られるが、住居東側壁のカマド右側の壁下には見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広で不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、住居内から16ヶ所が検出されている。P 1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるものと思われ、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。50cm×47cmの隅丸方形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは10cmある。P 2とP 3は、住居南側壁の壁溝に沿って中央部と南西側コーナー部寄りに位置する。長さ35cmと50cmの楕円形を呈し、床面からの深さはそれぞれ22cmと36cmある。P 4とP 5は、住居西側壁際の中央と北西側コー

ナー部に位置する。いずれも120cm×60cm程度の隅丸長方形ぎみの形態で、床面からの深さはそれぞれ16cmと14cmある。P 6は、住居中央に位置する。50cm×40cmの隅丸長方形の形態で、床面からの深さは10cmある。P 7～P 16は、いずれも深さが10cm～15cmの小規模なもので壁溝内の壁側寄りであることから、住居壁面を保護する矢板を支える杭の打ち込み穴と考えられる。



第109図 第162(S130)・163(S131)号住居跡



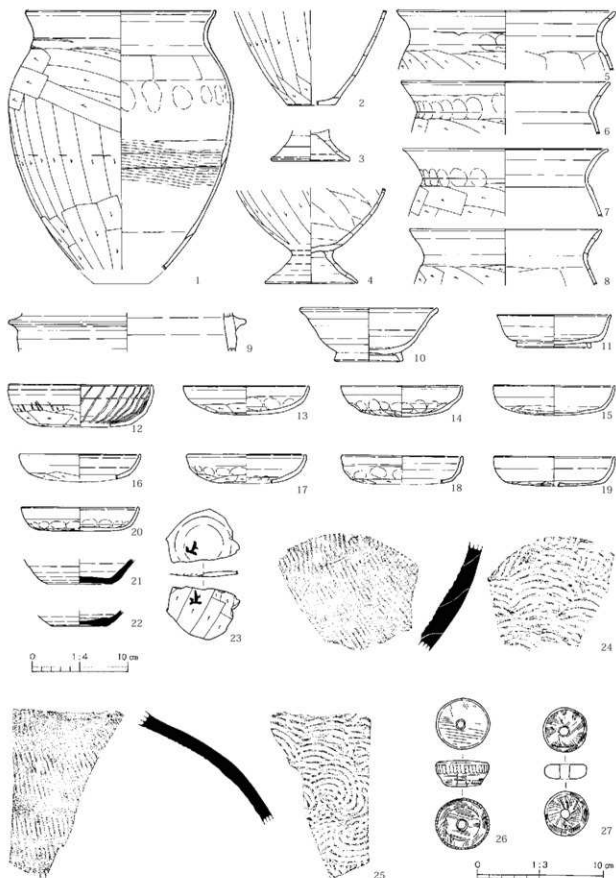
第110図 第162(S130)号住居跡カマド

カマドは、住居東側壁の中央付近に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長95cm、最大幅67cmを測る。本カマドの右側には同規模の旧カマドの痕跡が見られ、同一壁において作り替えられたものであることがわかる。燃焼面(火床)は、住居床面よりも若干低く(カマド第6層上面)、奥壁は緩やかに傾斜して煙道部に移行している。袖部は見られないが、燃焼部左側壁面の一部に暗灰色粘土が貼り付けられていることから、カマド天井部は暗灰色粘土によって作られていたと思われる。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

出土遺物は、カマド内や住居の床面付近及び覆土中から、奈良時代(8世紀)中頃～後半を主体とする土器の破片が多く出土している。この中で、No24・25の須恵器甕は古墳時代、No9の羽釜やNo10の高台付埴とNo18～20の坏は平安時代と考えられるもので、周辺から住居跡の覆土中に混入したものであろう。土器以外では、北側壁際の覆土中や南側壁際の床面から石製紡錘車が2個出土し、住居壁際の周辺部から長さ20cm～40cmの棒状の河原石が数個出土している。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、奈良時代(8世紀)中頃～後半と考えられる。

第43表 第162(S130)号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径 20.0。残存高 27.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一明茶褐色。F. 1/2弱。H. カマド内。
2	甕	A. 底部径 5.0。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一淡褐色、内一暗褐色。F. 底部 1/2。H. カマド内。
3	小形台付甕	A. 台端部径 8.4。B. 粘土組織み上げ。C. 台部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一淡褐色。F. 台部のみ。H. 覆土中。
4	台付甕	A. 台端部径 9.8。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデの後発ナデ。台部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 胴下半のみ。H. 覆土中。
5	甕	A. 口縁部径(23.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一明茶褐色、内一茶褐色。F. 口縁部 1/4。G. 頸部外面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
6	甕	A. 口縁部径(22.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 口縁部 1/4。G. 頸部外面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。



第111图 第162(SI30)号住居跡出土遺物



7	糞	A. 口縁部径(21.6)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 口縁部1/4弱。G. 胴部外面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
8	糞	A. 口縁部径(20.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 口縁部1/4。H. カマド内。
9	羽 釜	A. 胴部径(25.0)。B. 粘土組織み上げ後ロクロ整形。胴部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外一灰色、内一淡褐色。F. 胴部1/6。G. 黒炭あり。還元不良。H. 覆土中。
10	高台付埴	A. 口縁部径(14.6)。器高5.7。高台部径7.2。B. ロクロ成形?。高台部貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面ナデ。高台部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 1/2。G. 底部外面中央の窪みに砂付着。酸化焼成。須臾器根微品か?。H. 覆土中。
11	高台付埴	A. 口縁部径12.0。器高3.5。高台部径7.9。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転裏切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. ぼんぼり。G. 酸化焼成。H. 覆土中。
12	暗文付埴	A. 口縁部径(15.2)。器高4.5。底部径(10.6)。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデの後放射状暗文。底部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 口縁部1/2。H. 覆土中。
13	埴	A. 口縁部径(13.2)。器高3.1。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 1/2弱。G. 体部内面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
14	埴	A. 口縁部径12.8。器高3.3。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 3/4。G. 体部内外面に指頭圧痕を残す。H. 床面付近。
15	埴	A. 口縁部径12.8。器高3.2。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明褐色。F. 1/2強。H. カマド内。
16	埴	A. 口縁部径(12.6)。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 口縁部1/3。H. 覆土中。
17	埴	A. 口縁部径(12.6)。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 口縁部1/4。G. 体部内外面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
18	埴	A. 口縁部径(12.8)。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 口縁部1/3。G. 体部外面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
19	埴	A. 口縁部径(12.8)。器高3.1。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 口縁部1/3。H. 覆土中。
20	埴	A. 口縁部径(12.4)。器高2.5。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 1/3。G. 体部内外面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
21	須 志 器 埴	A. 底部径6.8。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。白色粒状(海綿骨針)。E. 内外一暗灰色。F. 底部3/4。G. 南北企堂産。H. 覆土中。
22	須 志 器 埴	A. 底部径6.3。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一淡褐色。内一淡褐色。F. 底部のみ。H. 覆土中。
23	埴	C. 体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 破片。G. 体部内面に「止」の墨書あり。H. 覆土中。
24	須 志 器 埴	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 胴部外面叩き(平行叩き目)、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 白色粒。E. 外一淡灰色。内一灰色。F. 胴部破片。G. No25と同一個体。H. 床面付近。
25	須 志 器 埴	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 胴部外面叩き(平行叩き目)の後ナデ、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 胴部破片。G. No24と同一個体。H. 覆土中。
26	石 紡 織 車	A. 上面径4.2。下面径2.9。高さ2.0。重さ56.1g。B. 荒削り後ケズリ。C. 上下側面とも丁寧な研磨。D. 片岩粒。F. 完形。H. 床面付近。
27	石 紡 織 車	A. 上面径3.4。高さ1.2。重さ25.6g。B. 荒削り後ケズリ。C. 上下側面とも丁寧な研磨。D. 蛇紋岩。F. 完形。H. 床面付近。

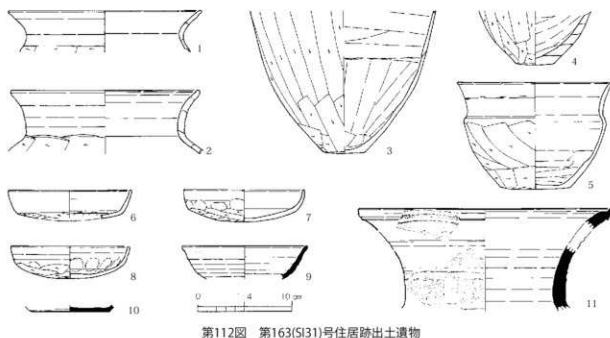
## 第163(SI31)号住居跡(第109図、図版22)

E3地点の調査区中央部に位置する。重複する第164(SI32)号住居跡を切り、第162(SI30)号住居跡と第67(25)号溝跡に切られている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部がやや丸みをもつ方形を呈していたようである。規模は、東西方向が5.00m、南北方向が4.88mを測る。住居跡の東西方向は、N-76°Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高32cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居の中央部は堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広で不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、住居内からP17の1ヶ所が検出されている。P17は、住居南東側コーナー部付近に位置する。長さ140cmの隅丸長方形ぎみの形態で、床面からの深さは15cmある。カマドは残存していないが、おそらく第162(SI30)号住居跡に切

られている東側壁に付設してあったものと推測される。

出土遺物は、住居中央部や壁際の覆土中から、奈良時代(8世紀)中頃を主体とする土器の破片が出土している(第112図)。このうち、No 2とNo 4の撰やNo11の須恵器裏の破片は、古墳時代後期後葉頃のもので、本住居跡に伴うものではなく混入品と考えられる。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土土器の様相から、奈良時代(8世紀)中頃と考えられる。



第112図 第163(S131)号住居跡出土遺物

第44表 第163(S131)号住居跡出土遺物観察表

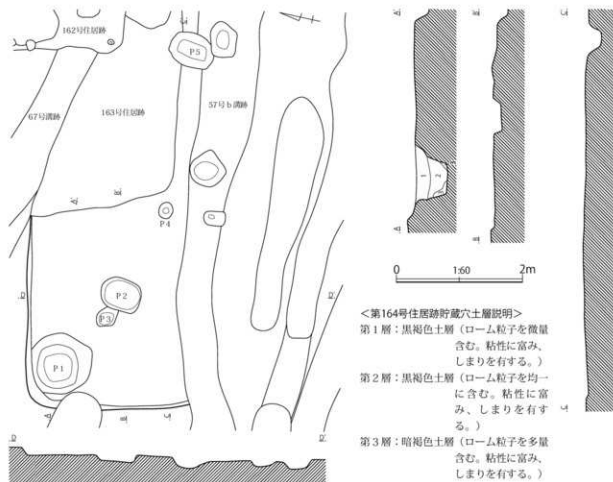
1	甕	A. 口縁部径(22.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 口縁部 1/4。H. 覆土中。
2	胴直甕	A. 口縁部径(20.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部 1/2 弱。G. 混入品。H. 覆土中。
3	甕	A. 底部径 4.4。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一暗褐色、内一明茶褐色。F. 胴部下半 1/2。G. 底部外面に黒炭あり。H. 覆土中。
4	長胴甕	A. 底部径 4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、白色粒。E. 外一淡灰褐色、内一黒褐色。F. 底部 1/2。G. 混入品。H. 覆土中。
5	鉢	A. 口縁部径(16.4)。器高 11.4。底部径 7.3。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデの後指ナデ底部外面ケズリ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 1/2。G. 底部外面に黒炭あり。H. 覆土中。
6	坏	A. 口縁部径(13.0)。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 口縁部 1/4 弱。G. 体部内面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
7	坏	A. 口縁部径 12.8。器高 3.4。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 完形。G. 体部外面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
8	坏	A. 口縁部径(12.6)。器高 3.4。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 1/2 弱。G. 体部内外面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
9	須恵器坏	A. 口縁部径(13.2)。B. ロウロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒、白色針状(海綿骨針)。E. 内外一灰色。F. 口縁部 1/6。G. 南北企業産。H. 覆土中。
10	須恵器	A. 底部径 8.2。B. ロウロ成形。C. 底部外面回転糸切り後回転ケズリ、内面回転ナデ。D. 白色針状(海綿骨針)。E. 内外一暗灰色。F. 底部 3/4。G. 南北企業産。H. 覆土中。
11	須恵器	A. 口縁部径(27.0)。B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 口縁部・頸部破片。G. 頸部外面に礫指波状文(12本面)を推定3段施す。混入品。H. 覆土中。

## 第164(SI32)号住居跡(第113図、図版22)

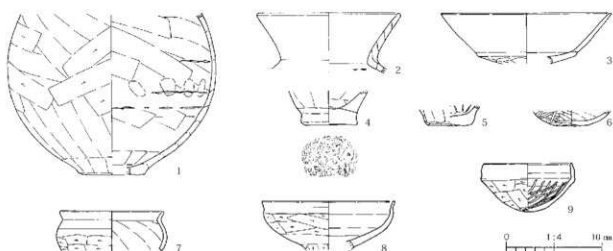
E 3 地点の調査区中央部に位置する。住居跡の北東側を第163(SI31)号住居跡に、南側を第57(15)号溝跡に切られているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、東西方向が6.00mまで、南北方向が2.55mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高15cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居の中央部は強く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態と思われる。ピットは、P 1～P 5の5ヶ所が検出されている。P 1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、住居北西側コーナー部に位置している。径100cmの円形を呈し、床面からの深さは51cmある。P 2とP 3は、その位置から4本主柱穴の一部の可能性が考えられ、床面からの深さはそれぞれ10cmと11cmある。P 4は、住居中央部に位置する。径25cmの円形を呈し、床面からの深さは20cmある。P 5は、住居東側に位置する。75cm×53cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは19cmある。カマドは残存していなかった。

出土遺物は、住居跡の覆土中から、土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、遺構の重複関係や出土土器の様相から、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃と推測される。



第113図 第164(SI32)号住居跡



第114図 第164(SI32)号住居跡出土遺物

第45表 第164(SI32)号住居跡出土遺物観察表

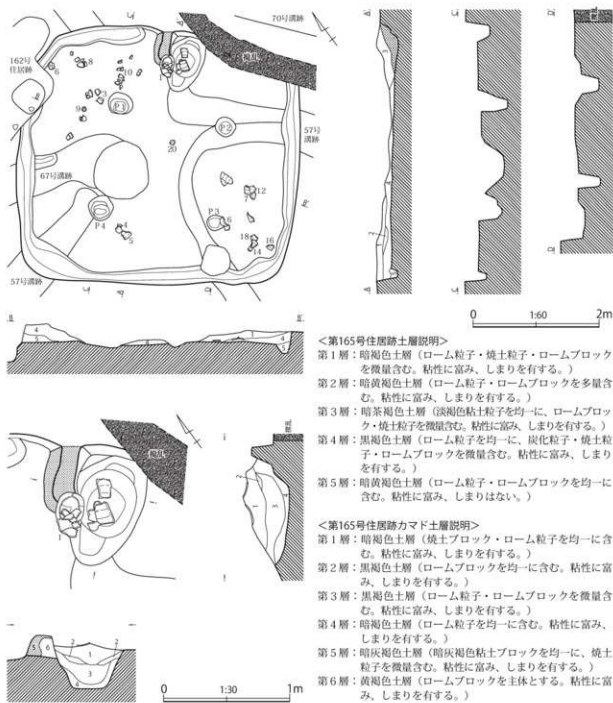
1	甕	A. 底部径(7.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデの後上半径ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一明茶褐色、内一暗褐色。F. 胴部下半1/2。G. 胴部外面に黒斑あり。外面は二次焼成を受けて荒れている。H. 覆土中。
2	壺	A. 口縁部径(15.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
3	高 杯	A. 口縁部径(18.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。杯部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 杯部1/4。H. 覆土中。
4	甕	A. 底部径4.6。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリの後ナデ、内面径ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一暗茶褐色。F. 底部1/2。G. 底部外面に數物の圧痕あり。H. 覆土中。
5	小形 甕	A. 底部径4.6。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ナデ、内面径ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 底部のみ。H. 覆土中。
6	小形直口壺	A. 底部径4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリの後雑なミガキ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 底部1/2。H. 覆土中。
7	杯	A. 口縁部径(11.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 上半1/4。H. 覆土中。
8	杯	A. 口縁部径(14.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後下半ナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
9	楕 圓 杯	A. 口縁部径9.4、器高5.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明褐色。F. 2/3。H. 覆土中。

第165(SI33)号住居跡(第115図、図版23)

E 3 地点の調査区中央部に位置する。重複する第162(SI30)号住居跡や第57(15)号溝跡・第67(25)号溝跡・第70(28)号溝跡に切られている。住居跡の覆土上半を後世の溝跡群によって強く削平されているため、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、コーナー部の丸みが強い方形を呈している。規模は、北東～南西方向が4.06m、北西～南東方向が4.46mを測る。主軸方位は、N-36°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高22cmある。壁溝は、残存する各壁の壁下に途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、住居内から4ヶ所が検出されている。P1～P4は、住居の対角線上から一部ずれているが、その配置や形態から見て本住居跡の4本主柱穴と考えられる。径30cmの円形や長さ40cmの楕円形を呈し、床面からの深さは40cm～50cmある。

カマドは、住居北東側壁の中央付近に位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長



＜第165号住居跡土層説明＞

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗茶褐色土層（淡褐色粘土粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、炭灰粒子・焼土粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）

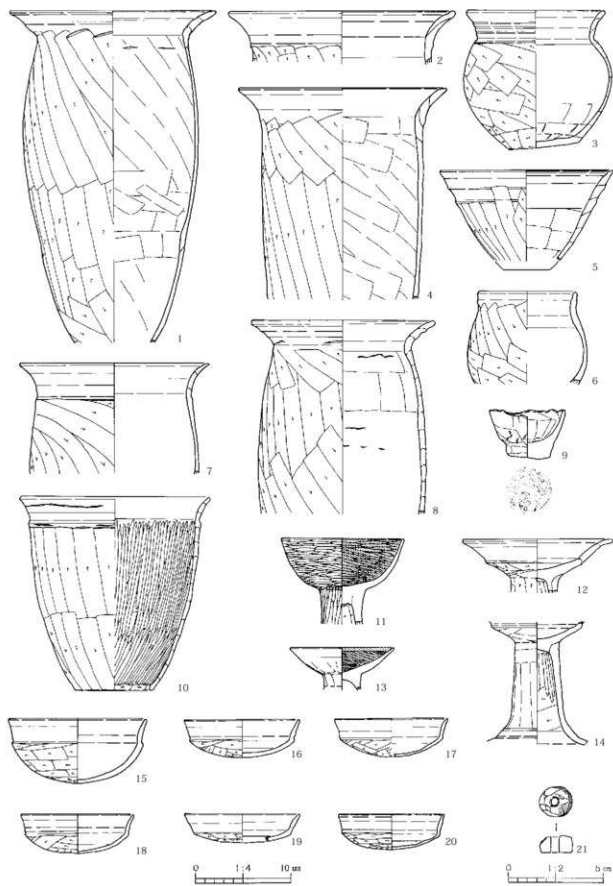
＜第165号住居跡カマド土層説明＞

- 第1層：暗褐色土層（焼土ブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：黒褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗灰褐色土層（暗灰褐色粘土ブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：黄褐色土層（ロームブロックを主体とする。粘性に富み、しまりを有する。）

第115図 第165(S133)号住居跡

98cm、幅は82cmまで残存している。燃烧部は、住居の壁を掘り込まず住居内に位置する。燃烧面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さのカマド第3層上面付近と思われる、奥壁側は緩やかに傾斜して煙道部に移行しているようである。袖は、右側は第70(28)号溝跡によって削平され、左側だけ残存している。袖の構造は、ロームブロックを主体とする黄褐色土(カマド第6層)を芯にして、その上に灰褐色粘土(カマド第5層)を被覆し、先端には土師器の甕を倒立させて埋め込んで補強していたようである。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

出土遺物は、カマド内や住居の床面付近から、多くの土器が破片になって出土している。このう



第116图 第165(SI33)号住居跡出土遺物

ち、No11とNo13の高坏は、坏部内面に黒色処理を施したもので、北関東以北地方の影響が窺えるものである。この他には、覆土中からやや大形で雑な造りの石製の玉が1個出土している。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土遺物の様相から、古墳時代後期後葉(7世紀前半)と考えられる。

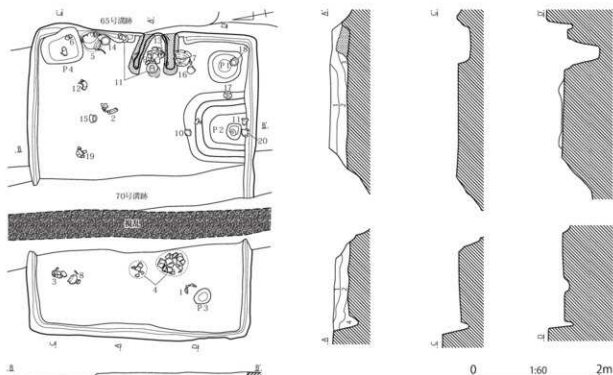
第46表 第165(S133)号住居跡出土遺物観察表

1	長 脚 費	A. 口縁部径 21.8、残存高 35.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ワナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 3/4。G. カマド左側先端の補強材に転用。H. カマド内。
2	長 脚 費	A. 口縁部径(24.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部 1/6。H. カマド内。
3	小 形 費	A. 口縁部径 14.6、器高 14.7、底部径 7.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ワナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一暗褐色。F. A/5。G. 口縁部に煤付着。胴部外面は二次焼成を受けて荒れている。H. 床面付近。
4	長 脚 費	A. 口縁部径(22.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ワナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 口縁部 1/4強。H. 床面直上。
5	鉢	A. 口縁部径(18.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ワナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 口縁部 1/3。G. 外面に黒炭あり。H. 床面付近。
6	鉢	A. 口縁部径(10.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明褐色。F. 口縁部 1/2。H. 床面直上。
7	長 脚 費	A. 口縁部径(20.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 口縁部 1/4弱。H. 床面付近。
8	長 脚 費	A. 口縁部径 19.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ワナデ。D. 白色粒。E. 外一暗褐色、内一黒褐色。F. 口縁部 1/2。H. 覆土中。
9	小形土器	A. 口縁部径 8.0、器高 5.1、底部径 4.6。B. 粘土組織み上げ。C. 体部外面ナデ、内面ワナデ。底部外面ナデ、内面指ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 完形。G. 底部外面に穀物の圧痕あり。H. 床面直上。
10	甕	A. 口縁部径 (20.0)、器高 20.4、底部径 8.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ミガキ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一黒褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
11	高 坏	A. 口縁部径(13.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 坏部外面ケズリの後ミガキ、内面ミガキ。胴柱部外面ミガキ、内面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一淡茶褐色、内一黒色。F. 坏部 1/4。G. 坏部内面黒色処理。H. 覆土中。
12	長脚高坏	A. 口縁部径(15.8)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。胴柱部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 坏部 1/2。H. 床面直上。
13	高 坏	A. 口縁部径(11.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ワナデ、内面ミガキ。胴柱部外面ワナデ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一淡褐色、内一明褐色。F. 坏部 1/4。G. 坏部内面黒色処理。H. 覆土中。
14	長脚高坏	A. 残存高 13.0。B. 粘土組織み上げ。C. 坏部内外面ナデ。胴柱部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。胴端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一暗黄褐色、内一明褐色。F. 胴柱部のみ。H. 床面直上。
15	模 倣 坏	A. 口縁部径 14.6、器高 6.8。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面丁寧ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
16	模 倣 坏	A. 口縁部径 12.2、器高 4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明褐色。F. 1/2。H. 床面付近。
17	模 倣 坏	A. 口縁部径 (12.0)、器高 4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明褐色。F. 口縁部 1/4。H. 覆土中。
18	模 倣 坏	A. 口縁部径 12.0、器高 4.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. ほび完形。G. 口縁部の一部に煤付着。H. 床面付近。
19	模 倣 坏	A. 口縁部径(12.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部 1/4。H. 覆土中。
20	模 倣 坏	A. 口縁部径 11.2、器高 3.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明褐色。F. 3/4。G. 口縁部外面に黒炭あり。H. 床面直上。
21	石 製 品 玉	A. 直径 1.6～1.8、高さ 0.9、重さ 3.7g。B. 棒状から切断。C. 表裏面・側面とも部分的で雑な研磨。D. 蛇紋岩。F. 完形。H. 覆土中。

## 第166(S134)号住居跡(第117図、図版23)

E3地点の調査区中央部に位置する。重複する第167(S135)号住居跡を切り、第65(23)号溝跡に住居東側壁の上面を、第70(28)号溝跡に住居跡の中央部を切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ比較的整った長方形を呈している。規模は、東西方向が5.08m、南北方向が3.68mを測る。主軸方位は、N-101°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で30cmある。壁溝は、各壁の壁下に見られ、途切れては巡っていない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に堅く締まっている。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピット

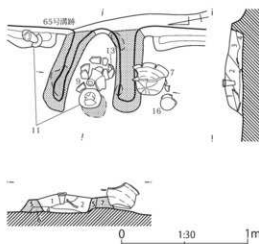


<第166号住居跡土層説明>

- 第1層：黒褐色土層（白色粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（白褐色粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第5層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

<第166号住居跡カマド土層説明>

- 第1層：黒褐色土層（白褐色粘土ブロック・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：白褐色土層（白褐色粘土ブロックを均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗赤褐色土層（焼土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：黒褐色土層（炭化粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗赤褐色土層（白色粘土ブロック・焼土粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：暗褐色土層（白色粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第7層：白褐色土層（白色粘土ブロックを主体とする。粘性に富み、しまりを有する。）



第117図 第166(SI34)号住居跡

は、住居内から4ヶ所が検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。53cm×50cmの隅丸方形きみの形態で、床面からの深さは55cmある。P2は、P1西側の住居南側壁際に位置し、「コ」の字状に巡る低い土堤に囲繞された中にある。径25cmの円形を呈し、床面からの深さは35cmある。この「コ」の字状に巡る低い土堤とその中のピットは、本遺跡の該期住居跡に特徴的に見られるもので、おそらくその位置から住居の入口部施設に関係する梯子穴と思われる。P3は、住居南西側コーナー部に位置する。30cm×24cmの楕円形を呈し、床面からの深さは10cmある。P4は、住居北東側コーナー部に位置する。68cm×57cm



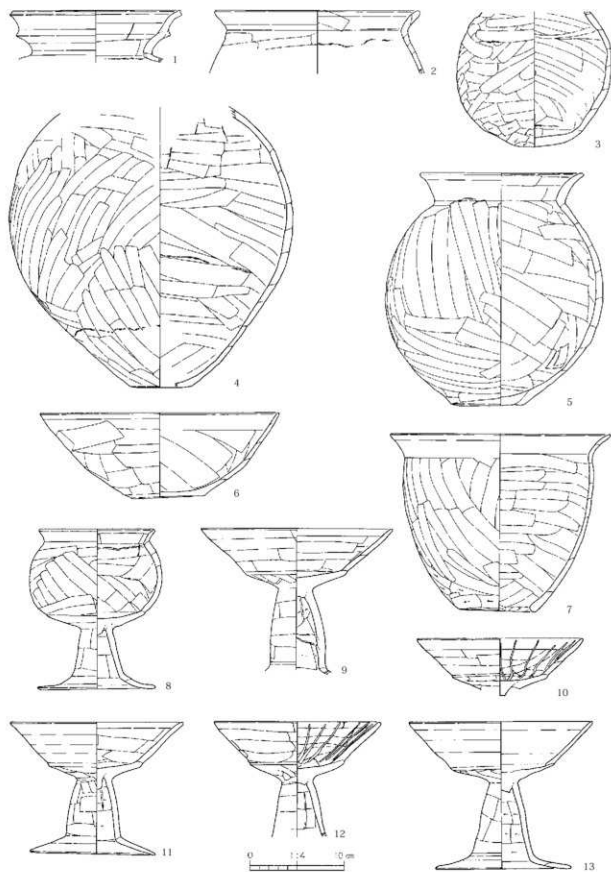
の隅丸長方形を呈し、床面からの深さは17cmある。方形の土坑状の形態であるが、住居の壁と方向がやや異なり、東側壁を一部掘り込んでいることから、本住居跡に伴わない可能性もある。

カマドは、住居東側壁の中央付近に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長67cm、最大幅78cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込まないで住居内にある。燃焼面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、中央部には高坏を伏せた転用支脚が設置されている。燃焼部奥壁は住居の壁と一致し、段をもって煙道部に移行している。袖は、白色粘土ブロックを住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

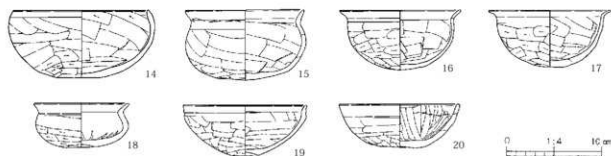
出土遺物は、カマドの内外や住居の床面上及び覆土中から、古墳時代中期(5世紀)後半頃の土器が比較的多く出土している。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土土器の様相から、古墳時代中期(5世紀)後半頃と考えられる。

第47表 第166(S134)号住居跡出土遺物観察表

1	複合口縁甕	A. 口縁部径 18.3, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部内外面甕ナデ, D. 石英, 赤色粒, 黒色粒, E. 内外一にぶい褐色, F. 口縁部のみ, H. 覆土中。
2	甕	A. 口縁部径(21.8), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面甕ナデ, 内面磨滅のため観察不能, D. 石英, 黒色粒, 赤色粒, E. 内外一褐色, F. 口縁部 1/2, H. 覆土中。
3	甕	B. 粘土組織み上げ, C. 胴部外面甕ナデの後下端ケズリ, 内面甕ナデ, D. 石英, 白色粒, E. 外一褐色, 内一にぶい褐色, F. 胴部下平 2/3, G. 胴部外面に煤付着, H. 覆土中。
4	甕	A. 底部径 6.3, B. 粘土組織み上げ, C. 胴部外面ケズリの後甕ナデ, 内面甕ナデ, 底部外面ナデ, D. 石英, 長石, チャート, E. 内外一褐色, F. 胴部 3/4, G. 胴部外面に黒炭あり, H. 床面直上。
5	甕	A. 口縁部径 17.4, 器高 24.8, 底部径 7.8, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 内面ヨコナデの後甕ナデ, 胴部外面ケズリの後甕ナデ, 内面甕ナデ, D. 石英, 片岩粒, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一褐色, F. 3/4, G. 胴部外面に煤付着, 胴部外面に黒炭あり, H. 床面付近。
6	大形鉢	A. 口縁部径 25.5, 器高 9.2, 底部径 7.7, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体内内外面甕ナデ, 底部外面ケズリ, D. 石英, 黒色粒, 白色粒, E. 内外一褐色, F. 3/4, H. P 4 内。
7	大形甕	A. 口縁部径 23.4, 器高 19.0, 底部径 8.0, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリの後甕ナデ, 内面甕ナデの後下端ケズリ, D. 石英, 白色粒, E. 外一にぶい黄褐色, 内一明赤褐色, F. ほぼ完形, G. 胴部外面に黒炭あり, H. 床面直上。
8	脚付鉢	A. 口縁部径(12.4), 器高 17.2, 脚端部径 12.6, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部外面ヨコナデ, 内面ヨコナデの後甕ナデ, 体内内外面甕ナデ, 脚柱外面甕ナデ, 内面ケズリ, 脚端部内外面ヨコナデ, D. 石英, 黒色粒, 白色粒, E. 内外一褐色, F. 2/3, H. 覆土中。
9	高坏	A. 口縁部径 20.3, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデの後甕ナデ, 脚柱外面甕ナデ, 内面ケズリ, 脚端部内外面ヨコナデ, D. 石英, 白色粒, E. 内外一褐色, F. 脚端部欠損, H. カマド支脚。
10	高坏	A. 口縁部径(17.7), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部外面ヨコナデの後甕ナデ, 内面ヨコナデの後放射状暗文を施す, D. 石英, 黒色粒, 白色粒, E. 内外一明赤褐色, F. 口縁部 1/3, H. 覆土中。
11	高坏	A. 口縁部径 18.4, 器高(14.3), 脚端部径 13.4, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 脚柱外面甕ナデ, 内面ケズリ, 脚端部内外面ヨコナデ, D. 石英, 白色粒, 外一明赤褐色, 内一にぶい赤褐色, F. 7/8, G. 脚端部内外面に黒炭あり, H. カマド内。
12	高坏	A. 口縁部径(17.7), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部外面ヨコナデの後甕ナデ, 内面ヨコナデの後放射状暗文を施す, 脚柱外面甕ナデ, 内面ケズリ, D. 石英, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一明赤褐色, F. 口縁部~脚柱部 1/2, H. 覆土中。
13	高坏	A. 口縁部径(19.6), 器高(15.8), 脚端部径(14.5), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 脚柱外面甕ナデ, 内面ケズリ, 脚端部内外面ヨコナデ, D. 石英, 白色粒, E. 内外一明赤褐色, F. 3/4, H. カマド内。
14	埴	A. 口縁部径 14.2, 器高 7.2, 底部径 4.5, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部外面ヨコナデ, 内面ヨコナデの後ケズリ, 体内外面ケズリの後甕ナデ, 内面甕ナデ, D. 石英, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一明赤褐色, F. 内外一明赤褐色, G. 胴部外面に煤付着, H. 床面付近。
15	坏	A. 口縁部径 12.5, 器高 7.5, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリの後甕ナデ, 内面甕ナデ, D. 石英, 黒色粒, 白色粒, E. 外一褐色, 内一にぶい褐色, F. ほぼ完形, G. 体部外面に黒炭あり, H. 覆土中。
16	坏	A. 口縁部径 12.8, 器高 6.4, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリの後甕ナデ, 内面甕ナデ, D. 石英, 赤色粒, 黒色粒, 白色粒, E. 内外一にぶい赤褐色, F. 7/8, G. 体部外面に黒炭あり, H. 床面直上。
17	坏	A. 口縁部径(13.8), 器高 6.1, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリの後甕ナデ, 内面甕ナデ, D. 石英, 黒色粒, 白色粒, E. 内外一にぶい褐色, F. 5/6, G. 体部外面に黒炭あり, H. 床面直上。
18	坏	A. 口縁部径 10.0, 器高 4.7, 底部径 3.1, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリの後上平ナデ, 内面甕ナデの後下半放射状暗文を施す, 底部外面ナデ, D. 石英, 片岩粒, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一褐色, F. ほぼ完形, H. P 1 内。
19	横置坏	A. 口縁部径 13.0, 器高 5.4, 底部径 2.6, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体内内外面甕ナデ, 体内外面甕ナデ, D. 石英, 黒色粒, 白色粒, E. 内外一明赤褐色, F. ほぼ完形, G. 口縁部内面は荒れている, H. 床面直上。
20	坏	A. 口縁部径 12.7, 器高 4.2, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部外面ヨコナデ, 内面ヨコナデの後ナデ, 体内内外面甕ナデ, D. 石英, 赤色粒, 黒色粒, 白色粒, E. 外一にぶい黄褐色, 内一にぶい赤褐色, F. 4/5, H. 覆土中。



第118図 第166(S134)号住居跡出土遺物(1)

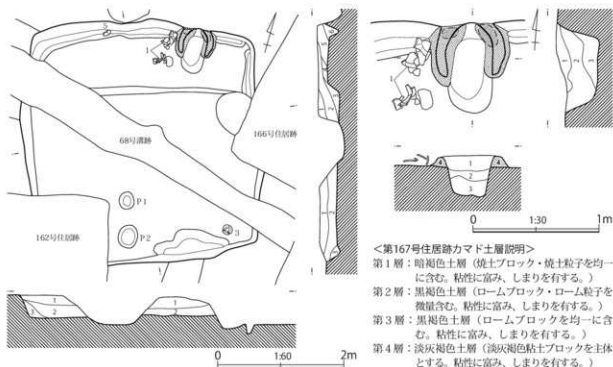


第119図 第166(SI34)号住居跡出土遺物(2)

### 第167(SI35)号住居跡(第120図、図版23)

E 3 地点の調査区中央部に位置する。重複する第162(SI30)号住居跡・第166(SI34)号住居跡・第68(SI26)号溝跡に切られている。住居跡の中央に段があり、南側が1段深くなっていることから、2軒の住居跡の重複と考えられる。

南側の新しい住居跡は、平面形が長方形を呈し、規模は南北方向が2.79m、東西方向が3.76mを測る。長軸方位は、N-76°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは35cmある。壁溝は、住居南側壁の一部に見られるだけである。床面は、ロームブロックを均一に含



第120図 第167(SI35)号住居跡

#### <第167号住居跡土層説明>

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：暗茶褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（白色粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

#### <第167号住居跡カマド土層説明>

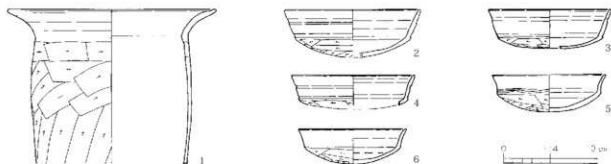
- 第1層：暗褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：黒褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：淡灰褐色土層（淡灰褐色粘土ブロックを主体とする。粘性に富み、しまりを有する。）

む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に堅く締まっている。掘り方は、住居の床下全体に及ぶ形態である。ピットは、2カ所検出されている。いずれも30cm前後の楕円形を呈し、床面からの深さはP 1が18cm、P 2が15cmある。カマドや貯蔵穴等の施設は見られなかった。

北側の古い住居跡は、残存する部分から推測すると、コーナー部がやや丸みをもつ方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、東西方向が3.56m、南北方向は1.08mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。壁溝は、残存する各壁下に見られる。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。掘り方の形態は、不明である。

カマドは、住居北側壁の中央東側寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。燃焼部は、住居の壁を掘り込まず住居内にある。燃焼面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、奥壁は緩やかに傾斜して煙道部に移行するようである。袖は、淡灰褐色粘土ブロックを住居の壁に直接貼り付けて構築している。

出土遺物は、いずれの住居跡も土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、出土土器の様相から見ると、新旧両住居跡の時間差はあまりなく、いずれの住居跡とも古墳時代後期後葉(7世紀前半)頃と考えられる。



第121図 第167(SI35)号住居跡出土遺物

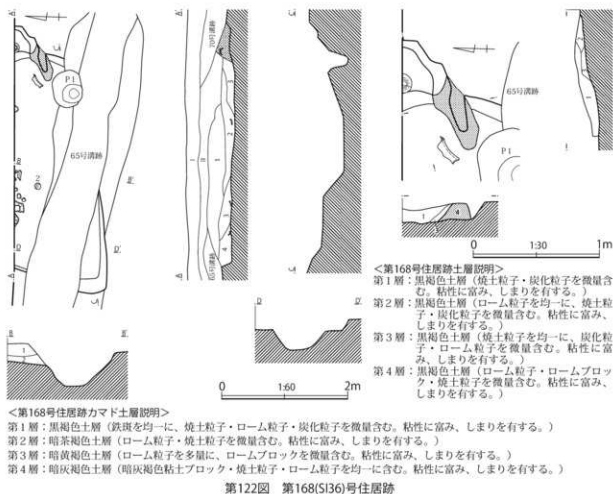
第48表 第167(SI35)号住居跡出土遺物観察表

1	罎	A. 口縁部径 22.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 上半1/2。H. 旧住居跡床面直上。
2	有段口縁 模 微 環	A. 口縁部径 (14.4)。器高 5.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一暗褐色、内一明茶褐色。F. 1/2弱。H. 覆土中。
3	有段口縁 模 微 環	A. 口縁部径 13.0。器高 4.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 3/4。H. 新住居跡床面付近。
4	有段口縁 模 微 環	A. 口縁部径 (13.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 口縁部 1/4弱。H. 覆土中。
5	模 微 環	A. 口縁部径 (12.0)。器高 4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 1/3弱。H. 旧住居跡壁際床面付近。
6	模 微 環	A. 口縁部径 (11.4)。器高 3.8。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外一淡黄褐色、内一黒褐色。F. 1/3。H. 旧住居跡床面直上。

第168(SI36)号住居跡(第122図、図版23)

E 3地点の調査区北端に位置する。調査区内で検出されたのは住居跡の南側だけであり、またその一部を重複する第65(23)号溝跡に切られているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部がやや丸みもち、平行四辺形



状に歪んだ方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、東西方向が3.74m、南北方向は1.51mまで測れる。主軸方位は、 $N-82^{\circ}-E$ を向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。調査区内で検出された各壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを含む暗褐色度を平坦に埋め戻した貼床式である。調査区内で検出された範囲が南側壁際周辺のためか、全体にやや軟弱である。掘り方の形態は、不明である。ピットは、1カ所検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居南東コーナー部に位置している。長さ58cmの楕円形か隅丸長方形を呈し、中央がピット状に深くなる形態で、床面からの深さは40cmある。

カマドは、住居東側壁に付設されている。調査区内で検出されたのは、カマドの南側半分だけであるため、カマドの全容は不明である。規模は、全長が98cm、幅は64cmまで測れる。燃焼部は、その大半が住居内にある。燃焼面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、奥壁は緩やかに傾斜しながら煙道部に移行する。袖は、暗灰褐色粘土在住居の壁に貼り付けて構築している。

出土遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、出土土器の様相から、平安時代前期(9世紀)後半頃と考えられる。



第123図 第168(S136)号住居跡  
出土遺物

第49表 第168(S136)号住居跡出土遺物観察表

1	粟	A. 口縁部径(22.0)、器高3.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
2	坏	A. 口縁部径(11.6)、器高3.9。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下端ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 1/3。H. 覆土中。

## 第169(S137)号住居跡(第124図、図版24)

E3地点の調査区南東端に位置する。重複する第170(S138)号住居跡・第33号溝跡・第164・167・179号土坑に切られている。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ比較的整った方形を呈している。規模は、東西方向が6.48m、南北方向が6.76mを測る。主軸方位は、N-75°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。壁溝は、住居北側壁と西側壁の北西コーナー部寄りの壁下に見られる。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、4ヶ所検出されている。P1とP2は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、4本主柱穴の一部と考えられる。いずれも径25cm程度の円形を呈し、床面からの深さは55cmある。P3は、カマド左側の住居東側壁際に位置する。90cm×63cmの隅丸長方形ぎみの形態で、床面からの深さは18cmある。P4は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。94cm×85cmの不整形を呈し、床面からの深さは78cmある。

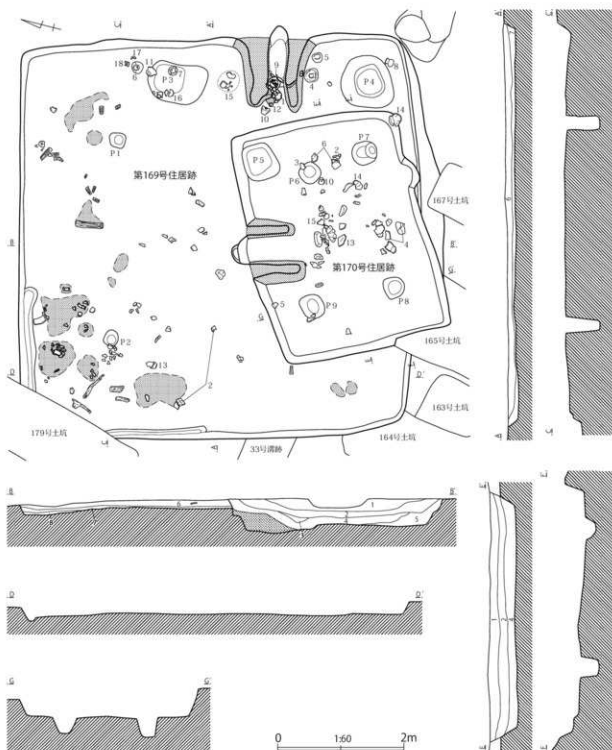
カマドは、住居東側壁の中央やや南東側コーナー部寄りに位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長141cm、最大幅133cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込まないで住居内にあり、幅は比較的狭い。燃焼面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、中央やや焚口部寄りに高環を伏せた転用支脚が据えられている。袖は、灰色粘土ブロックを住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

出土遺物は、カマド内やその周辺の床面上から、古墳時代中期(5世紀)後半頃土器が比較的多く出土している。土器以外では、覆土中から鉄製刀子の破片が出土し、貯蔵穴P4内から長さ25.75mmと23.18mmの炭化した桃の種子が2個出土している。本住居跡は、住居壁際周辺部の床面上やその付近から、焼土塊や住居の中心部に向けた炭化材が多く出土していることから、火災により焼失したことが推測される。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土土器の様相から、古墳時代中期(5世紀)後半頃と考えられる。

《写真》第169(S137)号住居跡  
出土桃の炭化種子

第50表 第169(S137)号住居跡出土遺物観察表

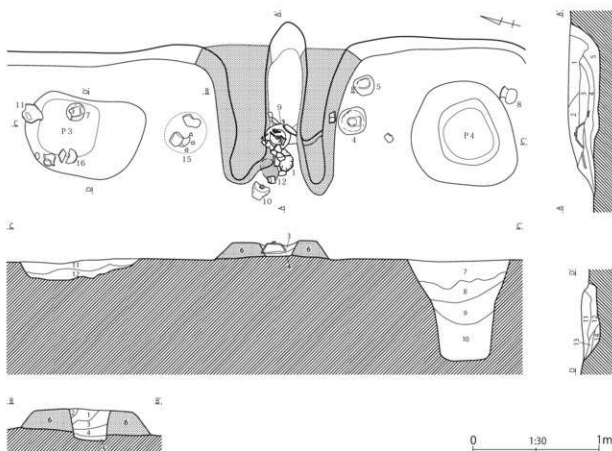
1	粟	A. 口縁部径(17.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 外一に赤い褐色。内一褐色。F. 1/3。H. カマド内。
2	大形甕?	A. 口縁部径(29.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、褐色粒、白色粒。E. 外一に赤い褐色。内一に赤い褐色。F. 口縁部～胴部上位1/4。H. 覆土中。
3	甕	A. 底部径7.3。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリ、内面内ナデ、底部外面ケズリ。D. 角閃石、白色粒。E. 外一に赤い褐色。内一に赤い褐色。F. 胴部下半1/2。H. 覆土中。
4	甕	A. 口縁部径14.9。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 内外一褐色。F. 口縁部～胴部上半のみ。H. 床面直上。



第124図 第169(S137)・170(S138)号住居跡

<第169・170号住居跡土層説明>

- 第1層：黒褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量に、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：黒褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりもない。）  
 第7層：暗褐色土層（炭化粒子を多量に、径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性、しまりもない。）  
 第8層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径3cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）



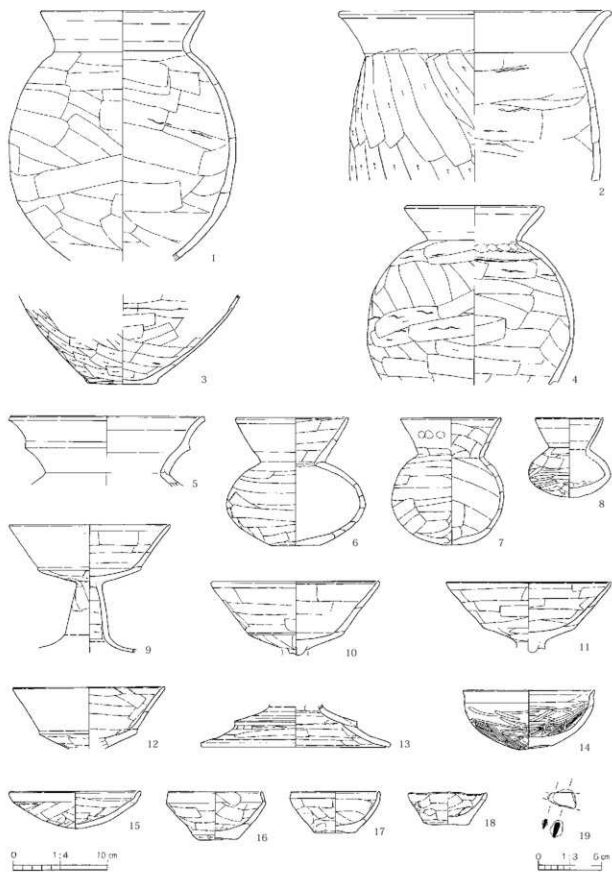
第125図 第169(S137)号住居跡カマド

<第169号住居跡カマド・貯蔵六土層説明>

- 第1層：黄褐色土層（径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：褐色土層（褐色粘土粒子を少量に、径5cmの焼土ブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（焼土粒子を少量に、炭化物・径3cmの粘土ブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：暗褐色土層（焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第6層：暗灰褐色土層（灰色粘土ブロックを多量、ロームブロック・焼土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第7層：黒褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を少量に、径5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第8層：黒褐色土層（ローム粒子を少量に、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第10層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第11層：黄褐色土層（焼土粒子を多量に、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第12層：褐色土層（径3cmのロームブロックを多量に、ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第13層：褐色土層（炭化物を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第14層：褐色土層（ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロック・炭化物・径1cmの焼土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

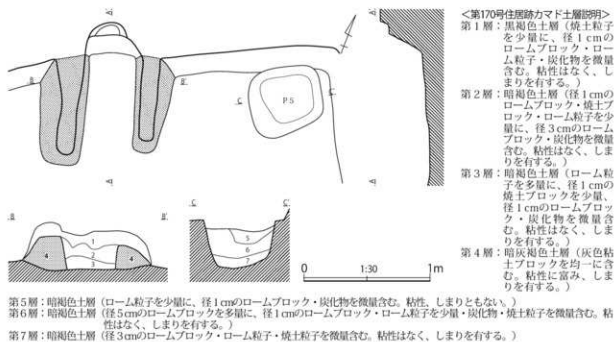
5	複合口縁痕	A. 口縁部径 20.8。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 石英、片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 内外一色。F. 口縁部のみ。H. 床面直上。
6	中形直口痕	A. 口縁部径 (12.0)、器高 13.7、底部径 5.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後援ナデ。体部外面ケズリの後援ナデ、内面後ナデ。D. 石英、黒色粒、白色粒。E. 内外一色。F. 口縁部4/5。G. 外面被熱。H. 床面直上。
7	中形直口痕	A. 口縁部径 (10.6)、器高 13.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後援ナデ。体部外面ケズリの後援ナデ、内面後ナデ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 内外一色。F. 7/8。G. 外面被熱。体部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
8	小形直口痕	A. 口縁部径 7.2、器高 8.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面後ナデの後中位ミガキ、内面ナデ。D. 石英、赤色粒、白色粒。E. 外一灰褐色、内一褐色。F. 完形。G. 外面に黒斑あり。H. 床面直上。
9	高 環	A. 口縁部径 17.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後援ナデ。脚柱部外面後ナデ、内面ケズリ。脚柱部内外面ヨコナデ。D. 石英、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 脚端部欠損。H. カマド支脚。





第126图 第169(SI37)号住居跡出土遺物

10	高 環	A. 口縁部径 17.9。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後発ナデ。D. 石英、片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 環部 3/4。H. 床面直上。
11	高 環	A. 口縁部径 17.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後発ナデ。D. 石英、黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 環部 1/2。H. 覆土中。
12	高 環	A. 口縁部径 16.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後発ナデ。D. 石英、片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 環部 1/2。H. 床面付近。
13	有段高環	A. 脚端部径 (20.1)。B. 粘土組織み上げ。C. 脚端部内外面ヨコナデの後発ナデ。D. 石英、白色粒。E. 外一にぶい褐色、内一褐色。F. 脚端部 1/4。H. 覆土中。
14	環	A. 口縁部径 (14.0)。器高 6.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ミガキ。内面発ナデの後ミガキ。D. 石英、角閃石、金雲母、白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 2/3。H. 床面直上。
15	環	A. 口縁部径 14.1。器高 4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後発ナデ。内面発ナデ。D. 石英、黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
16	小形環	A. 口縁部径 (10.1)。器高 (5.3)。底部径 3.9。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面発ナデの後下端ケズリ。内面発ナデ。底部外面ナデの後外縁ケズリ。D. 石英、赤色粒、白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 5/6。H. P.3 上面。
17	小形環	A. 口縁部径 9.6。器高 4.4。底部径 4.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面発ナデ。内面発ナデ。底部外面ナデの後外縁ケズリ。D. 石英、片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外一褐色、内一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。
18	小形環	A. 口縁部径 8.4。器高 3.6。底部径 4.6。B. 粘土組織み上げ。C. 体部内外面発ナデ。底部外面ナデ。D. 石英、黒色粒、白色粒。E. 外一明赤褐色、内一褐色。F. ほぼ完形。H. 床面直上。
19	刀 子	A. 残存長 2.4。残存幅 1.3。厚さ 0.4。重さ 2.94g。B. 鋸造。D. 鉄製。F. 破片。G. 錆の進行著しい。H. 覆土中。



第127図 第170(SI38)号住居跡方マド

## 第170(SI38)号住居跡(第124図、図版24)

E3地点の調査区南東端に位置する。重複する第169(SI37)号住居跡を切り、第33号溝跡・第165号土坑に切られている。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ比較的整った長方形を呈している。規模は、東西方向が3.80m、南北方向が2.81mを測る。主軸方位は、N-28°-Wを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で45cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に堅く締まっている。掘り方は、住居の床下全体に及ぶ形態である。ピットは、P5～P9の5ヶ所が検出されている。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもの

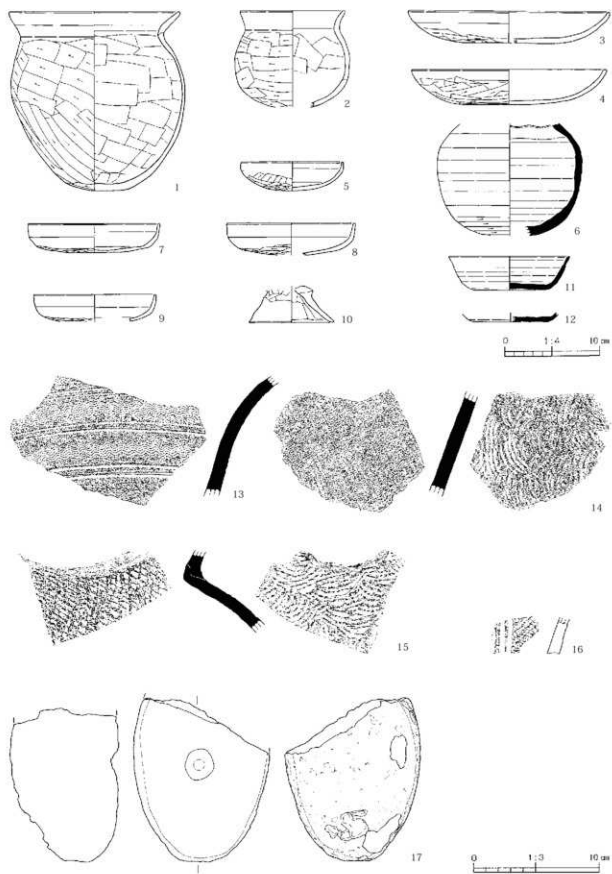
で、カマド右側の住居北東側コーナー部に位置する。59cm×55cmの隅丸方形ぎみの形態で、床面からの深さは38cmある。P6～P9は、北東側のP6がややずれているが、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、4本主柱穴の可能性が考えられる。径35cm～40cmの円形を呈し、床面からの深さはいずれも30cm程度ある。

カマドは、住居北側壁のほぼ中央に位置し、壁に対してやや斜めに付設されている。規模は、全長118cm、最大幅108cmを測る。燃焼部は、住居の壁を若干掘り込んでいるが、大半は住居内にある。燃焼面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、奥壁は直線的に傾斜して段をもって煙道部に移行するようである。袖は、灰色粘土ブロックを住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

出土遺物は、住居跡中央付近の覆土中から、土器の破片や自然石が比較的多く出土している。これらの土器は、いずれも住居廃絶後の覆土埋没過程に混入したものであるが、No1～No6の白鳳時代(7世紀後半)と、No7～No12の奈良時代(8世紀)未頃のものが見られる。土器以外では、覆土中から馬歯が出土しているが、これは重複する第33号溝跡の覆土中に該当すると考えられることから、周辺自然石とともに本住居跡には伴わないものであろう。また、縄文時代の凹石の破片も出土している。本住居跡の時期は、住居跡やカマドの形態から、白鳳時代(7世紀後半)以前と推測される。

第51表 第170(Si38)号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径 18.1、器高 19.1、B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面蓋ナデ。底部外面ケズリ。D. 角閃石、黒色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. A/5、H. 覆土中。
2	小形甕	A. 口縁部径(11.1)、B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデの後上半蓋ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外一褐色。F. 口縁部～胴部1/3、H. 覆土中。
3	皿	A. 口縁部径(21.4)、器高3.4、B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面調整不明瞭。D. 褐色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. 2/5、H. 覆土中。
4	皿	A. 口縁部径(20.6)、器高3.8、B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 雲母、黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 3/5、H. 覆土中。
5	坏	A. 口縁部径(10.8)、器高3.1、B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 石英、白色粒。E. 外一にふい褐色、内一明赤褐色。F. 1/2、H. 覆土中。
6	須恵器 瓶	A. 底部径(6.0)、B. ロクロ成形。C. 胴部外面回転ナデの後下端回転ケズリ、内面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一灰色。F. 胴部～底部。H. 覆土中。
7	坏	A. 口縁部径(21.4)、器高3.1、底部径(11.9)、B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外一にふい褐色。F. 1/2、H. 覆土中。
8	坏	A. 口縁部径(13.7)、B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 2/5、H. 覆土中。
9	坏	A. 口縁部径(13.0)、B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. 1/4、H. 覆土中。
10	台付甕	A. 底部径9.0、B. 粘土組織み上げ。C. 台部外面ヨコナデ、内面蓋ナデ。D. 石英、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 台部3/4、H. 覆土中。
11	須恵器 坏	A. 口縁部径(11.8)、器高3.6、底部径(7.9)、B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後外周回転ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 1/3、H. 覆土中。
12	須恵器 坏	A. 底部径(8.0)、B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後外周ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 底部1/2、H. 覆土中。
13	須恵器 大甕	B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面回転ナデの後、7本歯の聯動波状文と丸棒状工具による平行沈線文を横位に交互施文、内面回転ナデ。D. 石英、長石、白色粒。E. 内外一灰色。F. 頸部破片。H. 覆土中。
14	須恵器 大甕	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 胴部外面平打ち、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 石英、白色粒。E. 内外一灰色。F. 胴部破片。H. 覆土中。
15	須恵器	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 胴部外面格子目状叩きの後、胴部回転ナデ、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 石英、角閃石、片岩粒、黒色粒。E. 内外一灰白色。F. 頸部片。H. 覆土中。
16	深鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面単部R.L.縄文を縦位施文後丸棒状工具による3本一組の懸垂文を施文、内面ナデ。D. 石英、角閃石、片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. 胴部破片。G. 加賀貝E1～E2式。H. 覆土中。
17	凹石	A. 残存長13.2、幅10.9、厚さ8.7、重さ839.76g。D. 安山岩。F. 3/4。G. 表面に摩耗痕が認められ、中央部に凹穴あり。下端部と表面の一部に敲打痕あり。磨り痕後一級き・凹み。H. 覆土中。



第128图 第170(SI38)号住居跡出土遺物

第171(SI39)号住居跡  
(第129図、図版24)

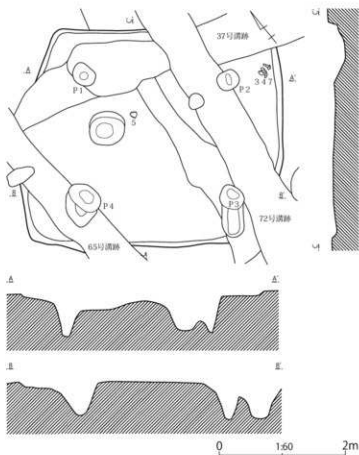
E 3 地点の調査区中央部に位置する。北側には第181(SI49)号住居跡が近接し、西側には第165(SI33)号住居跡が、南東側には第160(S28)号住居跡がある。住居跡内を第37号溝跡・第65(23)号溝跡・第72(30)号溝跡に切られており、遺構の遺存状態は良好とは言えない。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ長方形を呈している。規模は、北東～南西方向が3.42m、北西～南東方向が4.18mを測る。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高11cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、床下全体に及ぶ形態である。

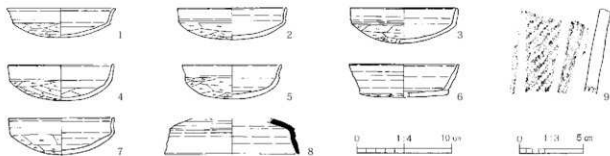
ピットは、4カ所検出されている。P1～P4は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、4本支柱穴を構成するものと考えられる。長さが36cm～56cmの楕円形を呈し、床面からの深さはいずれも60cm程度ある。

カマドは残存していなかったが、おそらく住居の北東側に付設されていたものと推測される。

出土遺物は、住居東側コーナー部付近の壁際の床面上から、土師器杯が3個体(No 3・4・7)重なって出土している。また、古墳時代後期の須恵器杯蓋の破片や、縄文時代中期後葉の加曾利EⅡ～Ⅲ式の深鉢の破片などが、覆土中に混入して出土している。本住居跡の時期は、出土土器の様相から、古墳時代後期後葉(7世紀前半)頃と考えられる。



第129図 第171(SI39)号住居跡



第130図 第171(SI39)号住居跡出土遺物

第52表 第171(Si39)号住居跡出土遺物観察表

1	模倣環	A. 口縁部径 11.6. 器高 3.2. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ、内面ナデ. D. 赤色粒、白色粒. E. 内外一明褐色. F. 3/4. H. 覆土中.
2	模倣環	A. 口縁部径 (11.6). 器高 3.4. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ、内面ナデ. D. 白色粒. E. 内外一淡茶褐色. F. 1/2強. H. 覆土中.
3	模倣環	A. 口縁部径 11.4. 器高 3.8. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ、内面ナデ. D. 黒色粒、白色粒. E. 内外一明褐色. F. 1/3. H. 床面直上.
4	模倣環	A. 口縁部径 11.2. 器高 3.8. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ、内面ナデ. D. 赤色粒、白色粒. E. 内外一明褐色. F. ほぼ完形. H. 床面直上.
5	模倣環	A. 口縁部径 (10.6). 器高 3.6. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ、内面ナデ. D. 赤色粒、白色粒. E. 内外一明褐色. F. 1/2弱. H. 床面付近.
6	有段口縁模倣環	A. 口縁部径 11.6. 器高 3.5. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ、内面ナデ. D. 赤色粒、白色粒. E. 内外一暗茶褐色. F. 4/5. H. 覆土中.
7	模倣環	A. 口縁部径 11.2. 器高 3.9. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面ケズリ、内面ナデ. D. 赤色粒、白色粒. E. 内外一明褐色. F. 4/5. H. 床面直上.
8	須恵器蓋	A. 口縁部径 (14.2). B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面回転ナデ. 天井部外面回転ケズリ. D. 白色粒. E. 内外一灰色. F. 口縁部 1/8 破片. G. 天井部外面に降灰による自然釉がかかる. H. 覆土中.
9	深鉢	B. 粘土組織み上げ. C. 外面ナデの後縦位沈線を施し、沈線間に縄文 (R.L. 縦乾し) を充填する. 内面ミガキ. D. 赤色粒、白色粒. E. 内外一淡黄褐色. F. 胴部破片. G. 加曾利E皿式. H. 覆土中.

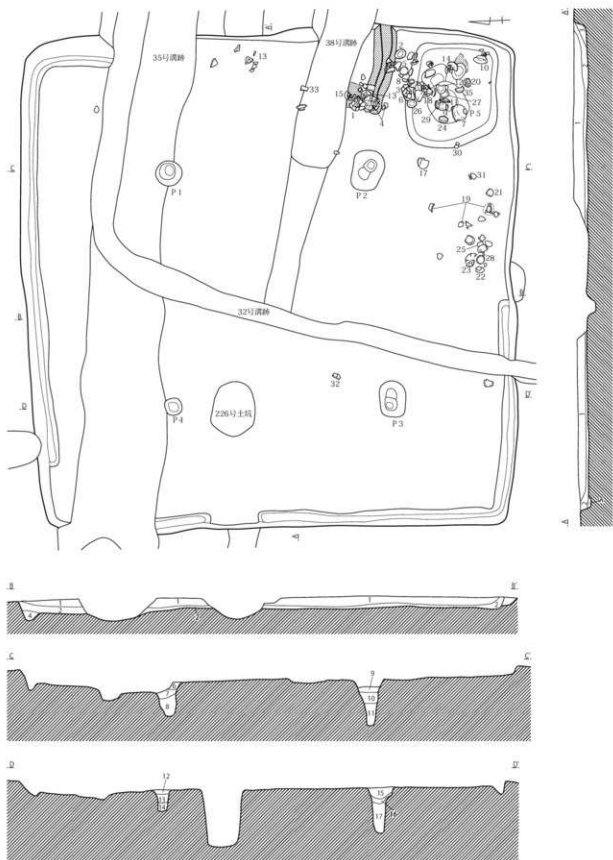
## 第172 (Si40) 号住居跡 (第131図、図版25)

E 3 地点の調査区中央東側寄りに位置する。重複する近世以降の第226・267号土坑や、第32・35・37・38号溝跡に切られている。

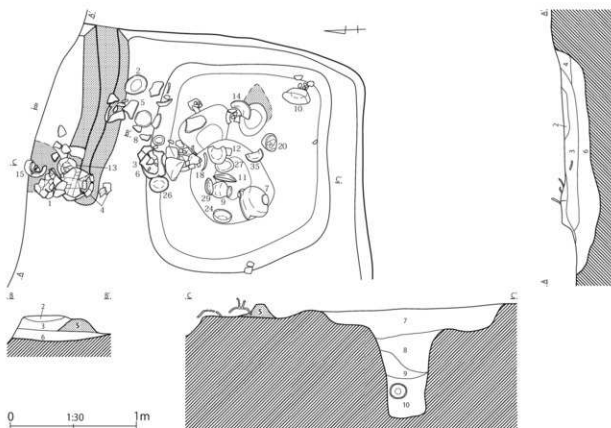
平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ方形を呈している。規模は、本遺跡で検出された該期の住居跡の中では最大で、東西方向が7.98m、南北方向が7.93mを測る。主軸方位は、N-90°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で25cmある。壁溝は全周せず、各壁下に部分的に見られる。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、5ヶ所検出されている。P1～P4は、住居の対角線上に配置されていることから4本主柱穴の一部と考えられる。長さ25cm～66cmの円形や楕円形を呈し、床面からの深さは35cm～75cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部にある。165cm×147cmの隅丸方形ぎみの形態を呈する深さ15cmの浅い掘り込みの中央部に、68cm×60cmの楕円形で深さ75cmの円柱状の掘り込みをもつもので、その中や上面から完形に近い土器の大形鉢や高環と多くの環が出土している。

カマドは、住居東側壁の中央南側寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。カマドの北側半分を第38号溝跡に切られているため、全容は不明である。規模は、全長146cm、幅は63cmまで測れる。燃焼部は、住居の壁を掘り込まないで住居内にある。燃焼面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、焚口部付近はよく焼けて赤色化している。焚口部に近い位置には、No13とNo15の高環を2個伏せて並置した転用支脚が据えられており、その上には大きさがやや異なるNo4とNo1の甕が乗せられていたようである。このような高環を2個並置した転用支脚は、女堀川中流域の辻堂遺跡第5号住居跡(恋河内1996)にも類例があるが、当地域で一般的な2個並置式のカマドでは、片側(向かって左側)だけに支脚を据えているのが普通で、あまり例を見ないものである。残存は、淡褐色粘土ブロックを住居の壁に直接貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

出土遺物は、カマドや貯蔵穴P5の内外及びその周辺の床面上と、住居南側壁際中央付近の覆土中から、土器が比較的多く出土している。これらの土器はその出土状態から見て、前者のカマドや貯



第131图 第172(S140)号住居跡



第132図 第172(SI40)号住居跡カマド

## &lt;第172号住居跡土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（炭化物を少量に、径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子を少量に、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第5層：褐色土層（ローム粒子を少量に、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第8層：黄褐色土層（ローム粒子を多量に、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第9層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第10層：褐色土層（ローム粒子を多量に、焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第11層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性、しまりともない。）  
 第12層：褐色土層（径1cmのロームブロックを少量に、ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第13層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第14層：黄褐色土層（ローム粒子を少量に、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第15層：黒褐色土層（径1cmのロームブロックを少量に、ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第16層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第17層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第172号住居跡カマド土層説明&gt;

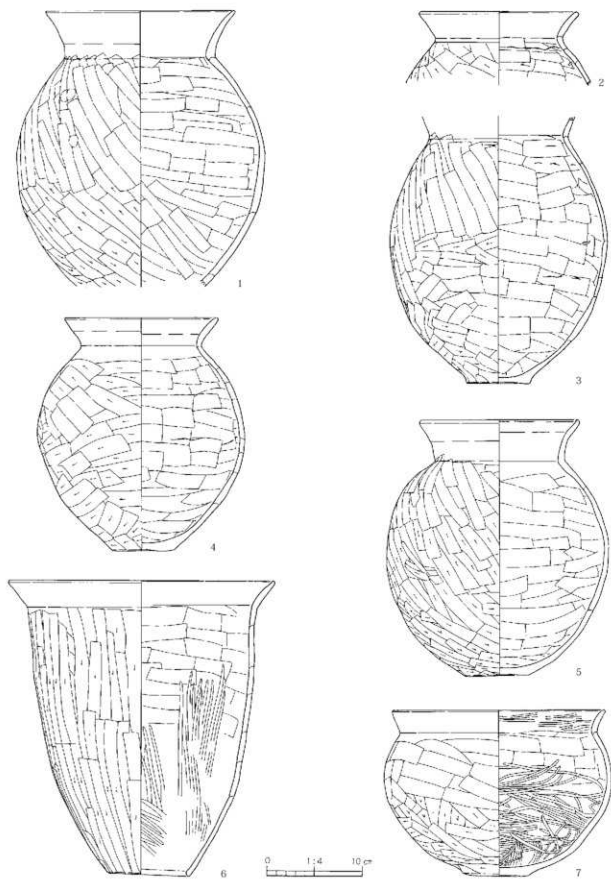
- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：淡褐色土層（淡褐色粘土粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗赤褐色土層（ローム粒子を多量に、焼土ブロック・ローム粒子・淡褐色粘土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：淡黄白色土層（淡褐色粘土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：暗褐色土層（淡褐色粘土粒子・炭化粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第7層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性、しまりともない。）  
 第10層：褐色土層（径3cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）



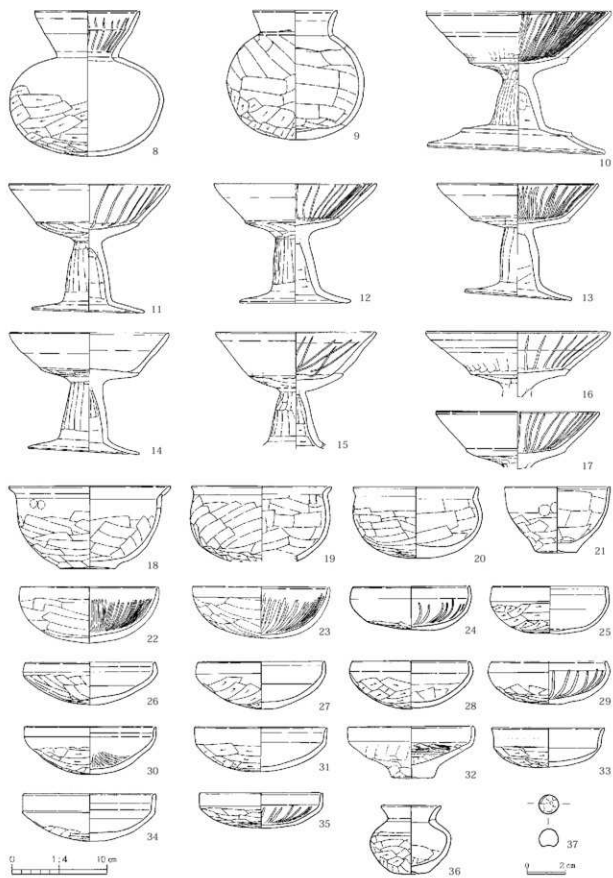
蔵穴P 5の内外及びその周辺の床面上から出土した土器は、本住居跡で使用されていたものがそのまま遺棄されたと考えられ、後者の住居南側壁際中央付近の覆土中から出土した土器は、住居廃絶後の覆土埋没過程で周辺から投棄されたと思われる。土器以外では、貯蔵穴の上段東側から白色粘土の塊が出土している。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土土器の様相から、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃と考えられる。

第53表 第172(S140)号住居跡出土土器観察表

1	甕	A. 口縁部径 20.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後半平蓋ナデ、内面蓋ナデ。D. 褐色粒、黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部～胴部 2/5。G. 胴部外面に煤付。H. カマド内。
2	甕	A. 口縁部径 16.8。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面蓋ナデ。D. 石英、白色粒。E. 内外一褐色。F. 口縁部のみ。G. 器台として転用か?。H. 床面上。
3	甕	A. 底部径 6.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後継半蓋ナデ、内面蓋ナデ。底部外面ケズリ。D. 褐色粒、黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 口縁部～底部 2/5。H. P 5 上面。
4	甕	A. 口縁部径 16.2。器高 27.2。底部径 6.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後一部蓋ナデ、内面蓋ナデ。底部外面ケズリの後蓋ナデ。D. 白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 4/5。H. カマド内。
5	甕	A. 口縁部径 16.9。器高 27.2。底部径 6.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面蓋ナデ。底部外面ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 3/4。G. 胴部外面に黒炭あり。H. 床面付近。
6	大形 甕	A. 口縁部径 28.2。器高 31.5。底部径 8.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面蓋ナデの後ミガキ。D. 褐色粒、白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 2/3。H. 床面付近。
7	大形 鉢	A. 口縁部径 22.2。器高 17.6。底部径 7.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後、内面雑なミガキ。胴部外面ケズリの後蓋ナデ、内面蓋ナデの後ミガキ。底部外面ナデ。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. ほぼ完形。H. P 5 内。
8	中形直口甕	A. 口縁部径 11.0。器高 15.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデの後、内面に放射状暗文を施す。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 褐色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. ほぼ完形。H. 床面付近。
9	短頸 甕	A. 口縁部径 8.9。器高 13.8。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後下半ケズリ、内面蓋ナデ。D. 石英、白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. ほぼ完形。G. 胴部外面に煤付。H. P 5 内。
10	有段高 甕	A. 口縁部径 19.6。器高 (18.8)。脚端部径 (15.3)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後内面に放射状暗文を施す。体部内外面蓋ナデ。脚柱部外面蓋ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、黒色粒、褐色粒。雲母。E. 内外一明赤褐色。F. 1/2。H. P 5 上面。
11	高 甕	A. 口縁部径 17.0。器高 13.7。脚端部径 11.9。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後、内面に放射状暗文を施す。体部内外面蓋ナデ。脚柱部外面蓋ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 雲母、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 7/8。H. P 5 内。
12	高 甕	A. 口縁部径 17.2。器高 (11.8)。底部径 12.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後、内面に放射状暗文を施す。体部内外面蓋ナデ。脚柱部外面蓋ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外一褐色。F. 3/4。H. P 5 内。
13	高 甕	A. 口縁部径 17.1。器高 12.4。底部径 (11.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後、内面に放射状暗文を施す。体部内外面蓋ナデ。脚柱部外面蓋ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 褐色粒、黒色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. 5/6。H. カマド支脚。
14	高 甕	A. 口縁部径 16.9。器高 13.0。底部径 11.8。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面蓋ナデ。脚柱部外面蓋ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一褐色。H. P 5 上面。
15	高 甕	A. 口縁部径 17.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後、内面に放射状暗文を施す。体部内外面蓋ナデ。脚柱部外面蓋ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 雲母、褐色粒、黒色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. 3/4。H. カマド支脚。
16	高 甕	A. 口縁部径 19.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後、内面に放射状暗文を施す。体部内外面蓋ナデ。D. 雲母、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 杯部のみ。H. 覆土中。
17	高 甕	A. 口縁部径 17.3。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後、内面に放射状暗文を施す。体部内外面蓋ナデ。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 杯部のみ。H. 覆土中。
18	甕	A. 口縁部径 17.0。器高 8.8。底部径 5.9。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面蓋ナデ。底部外面蓋ナデ。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 3/4。H. P 5 内。
19	甕	A. 口縁部径 14.8。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面蓋ナデの後下端ケズリ、内面蓋ナデ。D. 石英、褐色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
20	甕	A. 口縁部径 13.3。器高 7.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面蓋ナデ。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. ほぼ完形。G. 胴部外面に黒炭あり。H. P 5 上面。
21	甕	A. 口縁部径 11.1。器高 7.0。底部径 4.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面蓋ナデ。底部外面ナデ。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
22	甕	A. 口縁部径 14.6。器高 6.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面蓋ナデ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
23	甕	A. 口縁部径 14.5。器高 5.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面蓋ナデ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 7/8。H. 覆土中。
24	甕	A. 口縁部径 12.3。器高 4.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面蓋ナデ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. P 5 内。



第133図 第172(S140)号住居跡出土遺物(1)



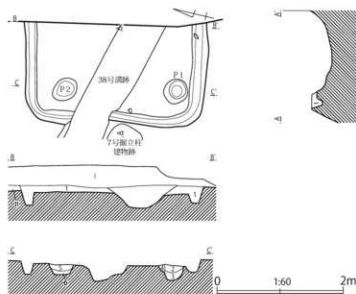
第134图 第172(S140)号住居跡出土遺物(2)

25	環	A. 口縁部径 12.2、器高 5.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 外一褐色、内一褐色。F. 5/6。H. 覆土中。
26	環	A. 口縁部径 13.8、器高 4.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。体部内面ナデ。D. 褐色粒、黒色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完成。H. 床面付近。
27	環	A. 口縁部径 13.4、器高 5.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. 完成。H. P 5 内。
28	環	A. 口縁部径 12.4、器高 5.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、褐色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. ほぼ完成。H. 覆土中。
29	環	A. 口縁部径 12.1、器高 4.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を備す。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. 完成。H. P 5 内。
30	環	A. 口縁部径 13.9、器高 5.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデの後ミガキ。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 3/5。H. 覆土中。
31	模倣環	A. 口縁部径 14.1、器高 4.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、雲母、白色粒。E. 内外一褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
32	環	A. 口縁部径 13.1、器高 4.5、底部径 4.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部外面直上。D. 雲母、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
33	模倣環	A. 口縁部径 12.0、器高 4.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 雲母、褐色粒。E. 外一にぶい褐色、内一褐色。F. 完成。H. 床面直上。
34	模倣環	A. 口縁部径 14.1、器高 5.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。底部外面ナデ。体部内面ナデ。D. 雲母、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完成。H. 覆土中。
35	模倣環	A. 口縁部径 13.1、器高 3.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。内面ナデの後放射状暗文を備す。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 3/5。H. P 5 内。
36	小形甕	A. 口縁部径 6.4、器高 7.3、底部径 4.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。肩部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 角閃石、雲母、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完成。H. 覆土中。
37	土玉	A. 直径 1.05、厚み 0.9、重さ 0.9g。B. 手捏ね。C. 雑なナデ。D. 白色粒。E. 明茶褐色。F. 完成。H. 覆土中。

## 第173(SI41)号住居跡(第135図、図版25)

E 3 地点の調査区東端に位置する。北側には第174(SI42)号住居跡が、南側には第169(SI37)号住居跡が、西側には第7号掘立柱建物跡が近接している。住居跡の東側半分は調査区外にあり、また住居跡の中央部を重複する第38号溝跡に切られているため、遺構の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部の丸みが強い方形か長方形を呈すると思われる。規模は、南北方向が2.95m、東西方向は1.62mまで測れる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは、最高で16cmある。壁溝は、調査区内で検出された各壁下に途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、



第135図 第173(SI41)号住居跡

## &lt;第173号住居跡土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（径1cm～径5cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（炭化物・焼土粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：褐色土層（径3cmのロームブロックを多量に、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量に、径5cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

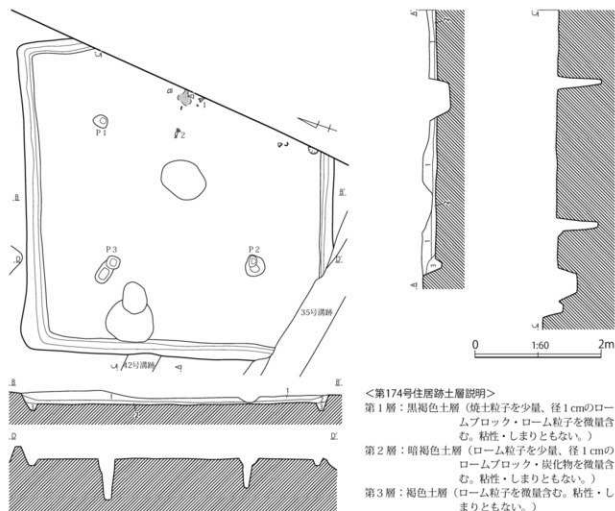
住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、2ヶ所検出されている。P1とP2は、いずれも住居のコーナー部に寄り位置しており、4本主柱穴の一部の可能性も考えられる。長さ40cm程度の楕円形を呈し、床面からの深さはそれぞれ25cmと15cmある。

出土遺物は、図示できるものはないが、住居跡の覆土中から土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、住居跡の形態から、白鳳時代以降の可能性が高いと考えられる。

#### 第174(SI42)号住居跡(第136図、図版25)

E3地点の調査区東端に位置する。重複する第10号掘立柱建物跡や第35号溝跡・第42号溝跡に切られている。住居跡の南東側コーナー部付近は、調査区外に位置する。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、比較的整った方形を呈していたものと思われる。規模は、北東～南西方向が5.10m、北西～南東方向が5.00mを測る。主軸方位は、N-71°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で22cmある。壁溝は、各壁下を途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め



第136図 第174(SI42)号住居跡

戻した貼床式で、住居中央部は比較的強く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居壁際の周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、3ヶ所検出されている。P 1～P 3は、住居の対角線上に配置されていることから、4本主柱穴の一部と考えられる。いずれも径20cm～30cm程度の円形を呈し、床面からの深さは50cm～70cm前後ある。

住居中央部の北東側壁寄り、床面が不定形に焼けて赤色化した部分が見られる。炉の可能性もあるが、おそらく調査区外の北東側壁に付設されているカマドと関係するものと思われる。

出土遺物は、住居跡の覆土中から、土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土土器の様相から、古墳時代中期(5世紀)後半頃と考えられる。



第137図 第174(SI42)号住居跡出土遺物

第54表 第174(SI42)号住居跡出土遺物観察表

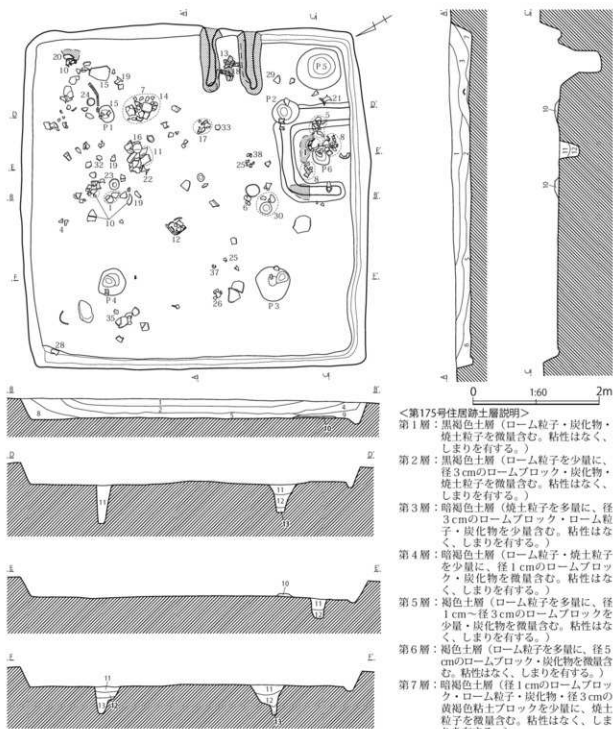
1	裏	A. 口縁部径17.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ケズリの後ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
2	高 環	A. 口縁部径17.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。環部外面ナデ。脚部外面ナデ、内面較り目を残す。D. 白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 環部のみ。G. 口縁部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
3	小形土器	A. 口縁部径(9.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。

### 第175(SI43)号住居跡(第138図、図版26)

E 3 地点の調査区北東側に位置する。北西側には第176(SI44)号住居跡が、北東側には第182号(SI50)住居跡が、南西側には第172(SI40)号住居跡が、南東側には第174(SI42)号住居跡がある。

平面形は、比較的整った方形を呈している。規模は、北西～南東方向が5.64m、北東～南西方向が5.62mを測る。主軸方位は、N-119°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で35cmある。壁溝は、カマド右側の住居南側コーナー部から北西側壁にかけて、途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は強く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、P 1～P 6の6ヶ所が検出されている。P 1～P 4は、住居の対角線上に配置されていることから、4本主柱穴と考えられる。径28cm～57cm程度の円形や楕円形を呈し、床面からの深さは30cm～64cm前後ある。規模の大きなP 3とP 4には、柱痕が見られる。P 5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南側コーナー部にある。78cm×68cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは66cmある。P 6は、P 5北西側の住居南西側壁際に位置する。直径30cm程度の楕円形を呈し、床面からの深さは33cmある。ピットの周囲には、ローム土を突き固めて「コ」の字状に圍繞させた低い土堤があり、本遺跡の該期住居跡に特徴的な入口部に関係する施設の梯子穴と思われる。

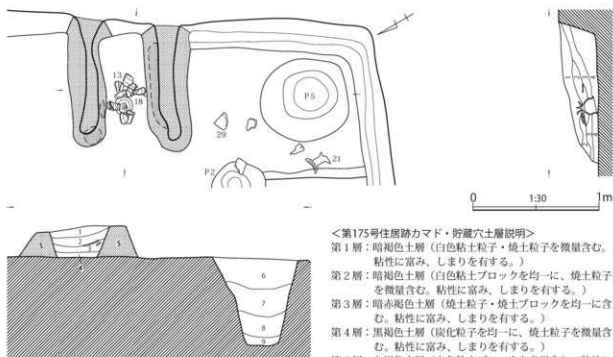
カマドは、住居南東側壁の中央やや南側コーナー部寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長104cm、最大幅98cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込まないで住居内に



＜第175号住居跡土層説明＞

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：黒褐色土層（ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロック・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（焼土粒子を多量に、径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量に、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第5層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cm～径3cmのロームブロックを少量・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径5cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第7層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・径3cmの黄褐色粘土ブロックを少量に、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第8層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第9層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第10層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第11層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量に、径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第12層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第13層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性、しまりともない。）

第138図 第175(SI43)号住居跡



＜第175号住居跡カマド・貯蔵穴層説明＞

- 第1層：暗褐色土層（白色粘土粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（白色粘土ブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗赤褐色土層（焼土粒子・焼土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：黒褐色土層（炭化粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：白褐色土層（白色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：黒褐色土層（径1cmのロームブロック・炭化物・焼土粒子を少量に、ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第7層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第8層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）

第139図 第175(S143)号住居跡カマド

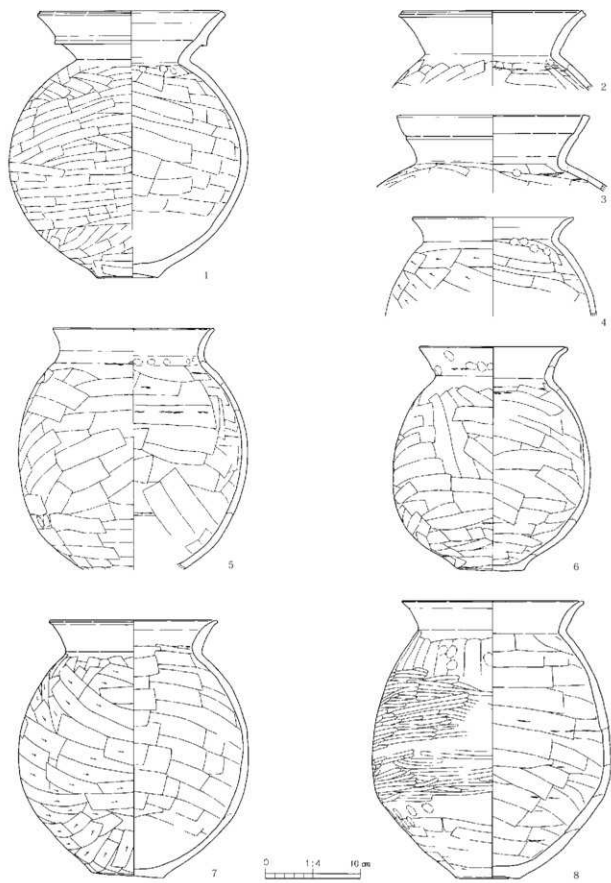
ある。燃焼面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、中央部にはNo18の脚付鉢を伏せた転用支脚が据えられている。燃焼部奥壁は住居の壁と一致し、段をもって煙道部に移行している。袖は、白色粘土ブロックを住居の壁に直接貼り付けて構築している。内側は、部分的に焼けて赤色化している。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

出土遺物は、住居跡の覆土中から、古墳時代中期(5世紀)後半頃の土器が多く出土している。これらの覆土中から出土した多くの土器は、その出土状態から見て、本住居廃絶後の覆土埋没過程中に周囲から投棄されたものと推測される。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土土器の様相から、古墳時代後期初頭(5世紀末)頃と考えられる。

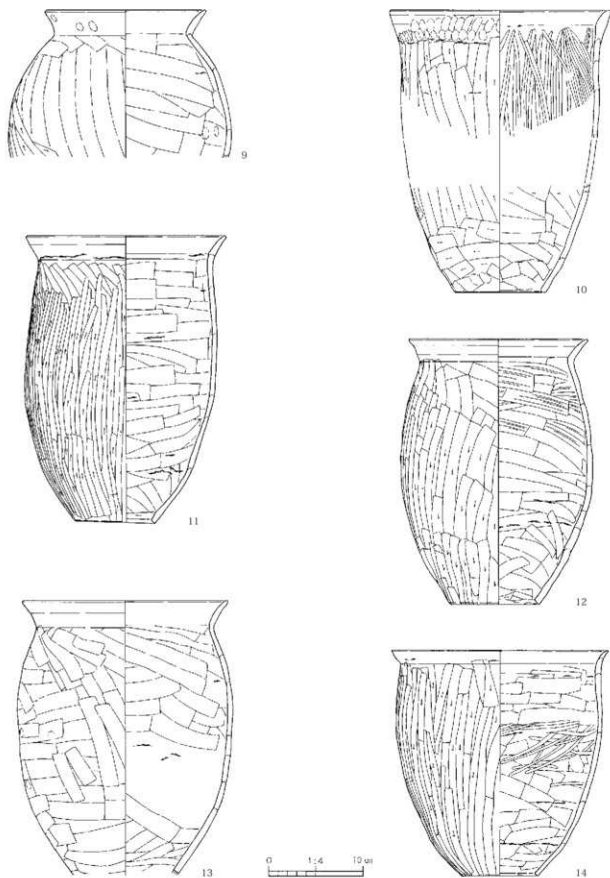
第55表 第175(S143)号住居跡出土遺物観察表

1	複合口縁壺	A. 口縁部径 19.8、器高 28.2、底部径 6.3、B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後脛ナデ、内面脛ナデ。底部外面ケズリ。D. 角四石、雲母、白色粒。E. 内外一褐色~にぶい褐色。F. 2/5。H. 覆土中。
2	壺	A. 口縁部径 19.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面脛ナデ。D. 雲母、白色粒。E. 内外一褐色~にぶい赤褐色。F. 口縁部 1/2。H. 覆土中。
3	壺	A. 口縁部径 20.3。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面脛ナデ。D. 雲母、白色粒。E. 内外一褐色~にぶい褐色。F. 口縁部 1/2。H. 覆土中。
4	壺	A. 口縁部径 17.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面脛ナデ。D. 雲母、白色粒。E. 内外一褐色~にぶい褐色。F. 口縁部~胴部上半 1/3。H. 覆土中。
5	壺	A. 口縁部径 16.9。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後脛ナデ、内面脛ナデ。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色~にぶい赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
6	壺	A. 口縁部径 15.7、器高 23.8、底部径 7.3。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後脛ナデ、内面脛ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一褐色~灰褐色。F. 7/8。H. 覆土中。
7	壺	A. 口縁部径 17.7、器高 27.3、底部径 7.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面脛ナデ。底部外面ケズリ。D. 雲母、白色粒。E. 内外一褐色~にぶい褐色。F. 4/5。H. 床面付近。

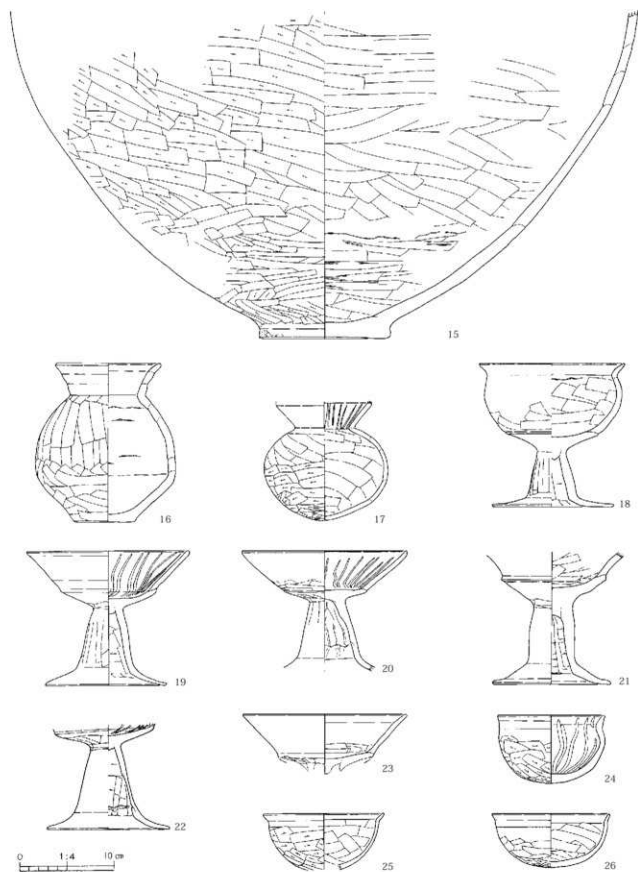




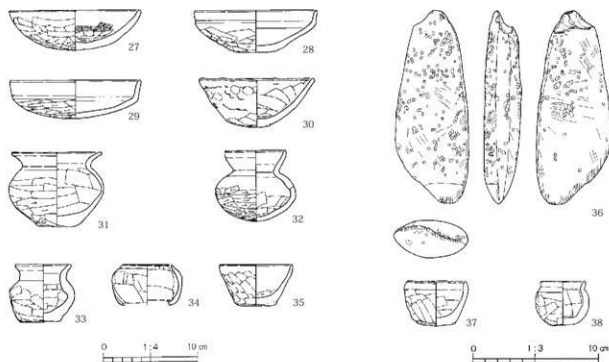
第140図 第175(SI43)号住居跡出土遺物(1)



第141图 第175(SI43)号住居跡出土遺物(2)



第142図 第175(S143)号住居跡出土遺物(3)



第143図 第175(S143)号住居跡出土遺物(4)

8	甕	A. 口縁部径 19.1, 器高 29.5, 底部径 6.8, B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ナデの後中位ミガキ, 内面笠ナデ, 底部外面ナデ, D. 雲母, 褐色粒, 白色粒, E. 内外一褐色～褐色色, F. 4/5, H. 覆土中。
9	甕	A. 口縁部径 17.0, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面上位笠ナデの後下半ケズリ, 内面笠ナデ, D. 角四石, 雲母, 白色粒, E. 内外一明赤褐色, F. 口縁部～胴部 3/5, H. 覆土中。
10	大形 甕	A. 口縁部径 (23.3), 底部径 (9.7), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面笠ナデの後上半ミガキ, D. 雲母, 褐色粒, 白色粒, E. 内外一褐色～にぶい赤褐色, F. 上半 1/4, 下半 1/4, H. 覆土中。
11	大形 甕	A. 口縁部径 21.2, 器高 30.6, 底部径 8.4, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面笠ナデの後ケズリ, 内面笠ナデ, D. 角四石, 褐色粒, 白色粒, E. 内外一褐色, F. ほぼ完形, H. 覆土中。
12	大形 甕	A. 口縁部径 18.9, 器高 28.2, 底部径 (9.4), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ナデの後ケズリ, 内面笠ナデ, D. 雲母, 白色粒, E. 内外～にぶい褐色, F. 胴部下位～底部 4/5 欠損, G. 胴部外面に黒痕あり, H. 床面直上。
13	大形 甕	A. 口縁部径 (21.7), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部内外面笠ナデ, D. 雲母, 褐色粒, 白色粒, E. 内外一褐色～にぶい褐色, F. 1/4, H. カマド内。
14	大形 甕	A. 口縁部径 22.8, 器高 24.0, 底部径 8.2, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面笠ナデ, D. 雲母, 褐色粒, 白色粒, E. 内外～にぶい赤褐色, F. 7/8, G. 胴部外面に黒痕あり, H. 床面付近。
15	大形 甕	A. 底部径 14.0, B. 粘土組織み上げ, C. 胴部外面ケズリの後下位笠ナデ, 内面笠ナデ, 底部外面笠ナデ, D. 雲母, 白色粒, E. 外～にぶい褐色, 内～褐色色, F. 胴部下 1/4, H. 覆土中。
16	甕	A. 口縁部径 (11.2), 器高 17.0, 底部径 6.5, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部内外面笠ナデ, 底部外面ナデ, D. 角四石, 雲母, 白色粒, E. 内外一明赤褐色, F. 口縁部 2/3 欠損, G. 胴部外面に黒痕あり, H. 覆土中。
17	中形直口甕	B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデの後内面に放射状暗文を施す, 胴部外面笠ナデの後下半ケズリ, 内面笠ナデ, D. 雲母, 白色粒, E. 内外～にぶい褐色, F. 口縁下位～底部 4/5, H. 床面付近。
18	脚付鉢	A. 口縁部径 15.5, 器高 15.3, 脚端部径 13.0, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部内外面笠ナデ, 脚柱部外面ナデ, 内面ケズリ, 脚端部内外面ヨコナデ, D. 雲母, 白色粒, E. 内外一褐色, F. 脚端部 4/5 欠損, H. カマド支脚。
19	高 環	A. 口縁部径 17.2, 器高 14.4, 底部径 12.9, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部外面ヨコナデ, 体部外面ナデの後下半笠ナデ, 内面笠ナデ, 脚柱部外面笠ナデ, 内面ケズリ, 脚端部内外面ヨコナデ, D. 雲母, 白色粒, E. 内外一明赤褐色, F. ほぼ完形, H. 覆土中。
20	高 環	A. 口縁部径 17.6, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデの後内面に放射状暗文を施す, 体部外面笠ナデ, 脚柱部外面笠ナデ, 内面紋り目, 脚端部内外面ヨコナデ, D. 角四石, 雲母, 白色粒, E. 内外一明赤褐色, F. 口縁部～脚端部上位 4/5, H. 覆土中。
21	高 環	A. 底部径 (12.6), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部内外面笠ナデ, 脚柱部外面ナデ, 内面ケズリ, 脚端部内外面ヨコナデ, D. 石英, 雲母, 褐色粒, 白色粒, E. 内外～にぶい赤褐色, F. 口縁部下位～脚端部 3/5, H. 覆土中。
22	高 環	A. 底部径 13.1, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデの後内面に放射状暗文を施す, 体部外面笠ナデ, 脚柱部外面調整不明瞭, 内面ケズリ, 脚端部内外面ヨコナデ, D. 角四石, 雲母, 褐色粒, 白色粒, E. 内外一明赤褐色, F. 3/4, H. 床面付近。

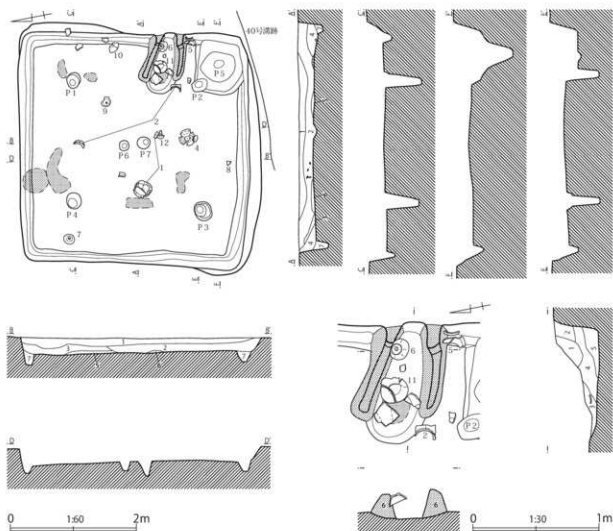
23	高 環	A. 口縁部径 17.4, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面瓦ナデ, D. 角閃石、雲母、褐色粒、白色粒, E. 内外-明赤褐色, F. 体部残存, H. 覆土中。
24	環	A. 口縁部径 11.4, 器高 7.3, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ワナの後ケズリ、内面ワナの後放射状暗文を施す, D. 雲母、白色粒, E. 内外-明赤褐色, F. 完形, H. 覆土中。
25	環	A. 口縁部径 12.8, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ワナの後ケズリ、内面ワナナデ, D. 雲母、褐色粒、白色粒, E. 内外-明赤褐色, F. 3/5, H. 覆土中。
26	環	A. 口縁部径 12.6, 器高 5.7, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ワナの後下平ケズリ、内面ワナナデ, D. 雲母、褐色粒、白色粒, E. 内外-明赤褐色, F. 4/5, H. 覆土中。
27	環	A. 口縁部径 14.0, 器高 4.3, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ワナナデの後下平ケズリ、内面ワナナデ, D. 雲母、褐色粒、白色粒, E. 内外-にぶい褐色, F. 3/5, H. 覆土中。
28	横 微 環	A. 口縁部径 (13.0)、器高 4.5、底部径 4.1, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ワナナデの後下平ケズリ、内面ワナナデ, 底部外面ケズリ, D. 角閃石、雲母、白色粒, E. 内外-灰褐色, F. 3/4, H. 覆土中。
29	横 微 環	A. 口縁部径 13.9, 器高 4.1, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ワナナデ、内面ワナナデ, D. 雲母、黒色粒、白色粒, E. 内外-にぶい赤褐色, F. 3/4, H. 覆土中。
30	環	A. 口縁部径 12.2, 器高 5.2, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ワナナデ、内面ワナナデ, D. 石英、白色粒, E. 外-にぶい褐色, 内-にぶい褐色, F. 3/5, H. 覆土中。
31	小 形 鉢	A. 口縁部径 9.5, 器高 7.9, 底部径 4.2, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ワナの後下平ケズリ、内面ワナナデ, D. 雲母、白色粒, E. 内外-褐色~灰褐色, F. 口縁部一部欠損, H. 覆土中。
32	小形直口壺	A. 口縁部径 6.5, 器高 7.5, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ワナの後下平ケズリ、内面ワナナデ, D. 雲母、白色粒, E. 内外-褐色, F. 口縁部一部欠損, H. 覆土中。
33	小形土器	A. 口縁部径 6.0, 器高 6.2, 底部径 4.3, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部内外面ワナナデ, 底部外面ワナナデ, 内面ワナナデ, D. 雲母、白色粒, E. 内外-にぶい黄褐色, F. 完形, H. 覆土中。
34	小形土器	A. 口縁部径 (5.1), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ワナナデ, 胴部内外面ワナナデ, D. 雲母、黒色粒、白色粒, E. 内外-にぶい褐色, F. 1/3, H. 覆土中。
35	小形土器	A. 口縁部径 (7.8)、器高 4.4、底部径 4.4, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ワナナデ, 底部外面ワナナデ, 内面ワナナデ, 底部内面ワナナデ, D. 雲母、白色粒, E. 内外-にぶい赤褐色, F. 完形, G. 口縁部内面に指頭圧痕を残す, H. 覆土中。
36	磨製石斧	A. 長さ 15.6, 幅 5.9, 厚さ 3.0, 重さ 403.38g, C. 敲打や研磨により加工を施し整形, D. 緑色岩類, F. ほぼ完形, G. 刃部・基部欠損, 刃部は欠損後の研磨痕が見られる(再利用), H. 覆土中。
37	ミニチュア	A. 口縁部径 4.6, 器高 3.2, 底部径 3.2, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部内外面ワナナデ, 底部外面ワナナデ, D. 雲母、白色粒, E. 内外-にぶい赤褐色, F. 4/5, H. 覆土中。
38	ミニチュア	A. 口縁部径 3.6, 器高 3.5, 底部径 2.0, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部内外面ワナナデ, 底部外面ワナナデ, D. 雲母、白色粒, E. 内外-にぶい褐色, F. 7/8, H. 覆土中。

#### 第176 (SI44) 号住居跡 (第144図、図版26)

E 3 地点の調査区北東側に位置する。西側には第177 (SI45) 号住居跡が、東側には第175号 (SI43) 住居跡がある。住居跡の東側上面の一部を、重複する第41号溝跡に切られているが、遺構の遺存状態は比較的良好である。

平面形は、比較的整った方形を呈している。規模は、東西方向が3.80m、南北方向が3.84mを測る。主軸方位は、N-103°-E を向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で32cmある。壁溝は、各壁下に見られ、途切れずに巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居周辺部が幅広で不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、7ヶ所検出されている。P 1～P 4は、住居の対角線上に配置されていることから、4本主柱穴と考えられる。径20cm～25cmの円形を呈し、床面からの深さは55cm～60cmある。P 5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部にある。85cm×80cmの方形ぎみの形態で、床面からの深さは70cmある。P 6とP 7は、住居中央部にある。いずれも径20cm程度の円形を呈する小規模なもので、床面からの深さは15cmと25cmある。

位置は、住居東側壁の中央南側寄りの位置に、壁に対してやや斜めに付設されている。規模は、全長85cm、最大幅68cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込まないで住居内にある。燃焼面(火床)



第144図 第176(SI44)号住居跡

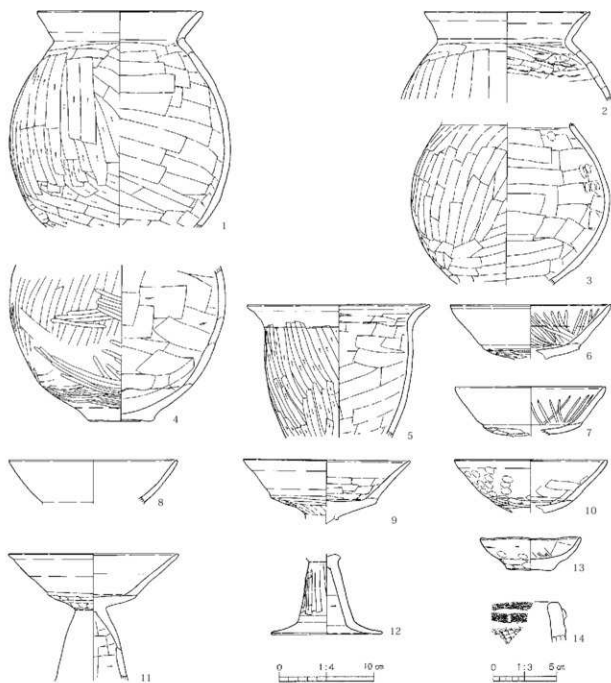
## &lt;第176号住居跡土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子・白色粘土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：暗赤褐色土層（焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第7層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第176号住居跡力マド土層説明&gt;

- 第1層：白色土層（白色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：黒褐色土層（白色粘土粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：白色粘土層（白色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

は、住居の床面より若干低く、中央部にはNo11の高杯を正位に据えた転用支脚が設置されている。焚口部付近は、焼けて赤色化している。燃焼部奥壁は住居の壁と一致し、段をもって煙道部に移行している。袖は、白色粘土ブロックを住居の壁に直接貼り付けて構築している。右側袖の先端付近からは、No 2の襖の上半部分の破片が出土しているが、袖先端の補強材として使用されていたものか



第145図 第176(S144)号住居跡出土遺物

明確ではない。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。

出土遺物は、カマド内や住居の床面付近から、古墳時代中期(5世紀)後半頃の土器が比較的多く出土している。これらの土器は、その出土状態から見て、本住居で使用されていたものが住居の廃絶に伴ってそのまま遺棄されたと思われる。土器以外では、住居北側壁の壁際から、径50cm・厚さ10cm程度の白色粘土の大きな塊が出土している。本住居跡は、床面上に炭化粒子の分布や覆土中に焼土塊が多く見られることから、火災によって焼失した可能性が高い。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土土器の様相から、古墳時代中期(5世紀)後半頃と考えられる。

第56表 第176(S144)号住居跡出土遺物観察表

1	炭	A. 口縁部径 17.5, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面笠ナデ, D. 雲母、褐色粒、白色粒, E. 内外一にぶい褐色, F. 4/5, G. 胴部外面に黒斑あり, H. 床面付近。
2	炭	A. 口縁部径 17.5, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面笠ナデ, D. 雲母、白色粒, E. 内外一にぶい赤褐色, F. 上半のみ, H. 床面付近。
3	炭	B. 粘土組織み上げ, C. 胴部内外面笠ナデ, D. 雲母、褐色粒、白色粒, E. 内外一褐色にぶい褐色, F. 胴部 3/4, H. 覆土中。
4	炭	A. 底部径 7.1, B. 粘土組織み上げ, C. 胴部外面笠ナデの後下半部なミガキ, 内面笠ナデ, D. 角閃石、雲母、白色粒, E. 外一明赤褐色, 内一にぶい赤褐色, F. 胴部下 7/8, H. 床面付近。
5	瓶	A. 口縁部径 (18.3), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面笠ナデ, D. 褐色粒、白色粒, E. 内外一にぶい褐色, F. 口縁部～胴部 1/4, G. 胴部外面に黒斑あり, H. 床面上。
6	高 環	A. 口縁部径 17.0, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデの後、内面に放射状暗文を施す, 体部外面笠ナデ, D. 雲母、白色粒, E. 内外一明赤褐色, F. 環部のみ, H. カマド内。
7	高 環	A. 口縁部径 15.9, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデの後、内面に放射状暗文を施す, 体部外面笠ナデ, D. 雲母、褐色粒、白色粒, E. 内外一褐色～褐色, F. 環部 7/8, H. 床面上。
8	高 環	A. 口縁部径 19.8, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, D. 白色粒, E. 内外一にぶい赤褐色, F. 口縁部 1/3, H. 覆土中。
9	高 環	A. 口縁部径 17.6, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部内外面笠ナデ, D. 雲母、黒色粒、白色粒, E. 内外一明赤褐色, F. 環部 3/4, H. 床面付近。
10	高 環	A. 口縁部径 16.2, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面笠ナデ, D. 石英、角閃石、雲母、褐色粒、白色粒, E. 内外一褐色, F. 環部 3/4, G. 口縁部外面に指頭圧痕を残す, H. 覆土中。
11	高 環	A. 口縁部径 18.0, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面笠ナデ, 脚柱部外面笠ナデ, 内面ケズリ, D. 石英、雲母、褐色粒、白色粒, E. 内外一褐色, F. 口縁部～脚柱部 4/5, H. カマド支脚。
12	高 環	A. 底部径 11.8, B. 粘土組織み上げ, C. 脚柱部外面笠ナデ, 内面ケズリ, 脚端部内外面ヨコナデ, D. 雲母、白色粒, E. 内外一明赤褐色, F. 脚柱部 7/8, H. 床面付近。
13	環	A. 口縁部径 10.6, 器高 3.5, 底部径 4.2, B. 粘土組織み上げ, C. 内外面ナデ, 底部外面笠ナデ, D. 雲母、白色粒, E. 内外一明赤褐色, F. 1/2, H. 覆土中。
14	深 鉢	B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部外面横位隆帯貼付・単脚 R 縄文を横位施文後隆帯に丸棒状工具による沈陥を施文、内面磨減(ナデカ), D. 石英、片岩粒、赤色粒、黒色粒、白色粒, E. 内外一褐色, F. 口縁部破片, G. 加曾利 EⅡ～EⅢ式, H. 覆土中。

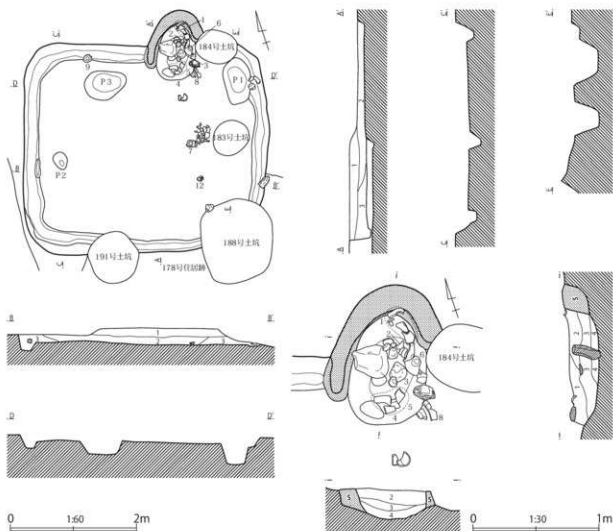
## 第177(S145)号住居跡(第146図、図版26)

E 3 地点の調査区北端に位置する。重複する第178(S146)号住居跡を切り、第183・184・188・191号土坑に切られている。

平面形は、コーナー部の丸み強い長方形を呈している。規模は、南北方向が3.32m、東西方向が3.95mを測る。主軸方位は、N-18°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で30cmある。壁溝は、各壁下を途切れずに全周している。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、3ヶ所検出されている。P 1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居北東側コーナー部にある。73cm×44cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは33cmある。P 2は、住居西側壁際の中央付近にある。30cm×22cmの楕円形を呈し、床面からの深さは18cmある。P 3は、住居北側壁際の中央やや北西側コーナー部寄りにある。70cm×48cmの楕円形を呈し、床面からの深さは20cmある。

カマドは、住居北側壁の北東側コーナー部寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長113cm、最大幅は100cm程度と推測される。燃焼部は、住居の壁を掘り込んでおり、カマド掘り方の壁面には暗灰色粘土(カマド第5層)を厚く貼っている。燃焼面(火床)は、住居の床面よりも一段低く、中央部には棒状の川原石を立てて支脚にしている。カマド内からは、やや大形の川原石がいくつか出土しているが、燃焼部内面の補強等に使われていたものと思われる。煙道部は、すでに削平されて残存していなかった。





第146図 第177(SI45)号住居跡

## &lt;第177号住居跡土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

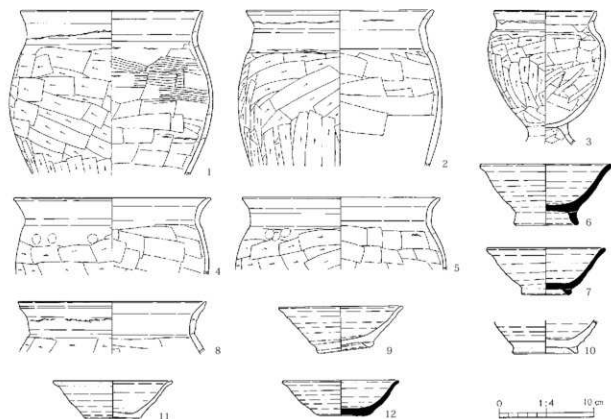
## &lt;第177号住居跡カマド土層説明&gt;

- 第1層：暗灰色土層（暗灰色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗赤褐色土層（焼土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（炭化粒子を均一に、焼土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗茶褐色土層（炭化粒子・焼土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第5層：暗灰色土層（暗灰色粘土を主体とする。粘性に富み、しまりを有する。）

出土遺物は、カマド内や住居跡の覆土中から、土器の破片が比較的多く出土している。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土土器の様相から、平安時代中期(10世紀)初頭頃と考えられる。

第57表 第177(SI45)号住居跡出土遺物観察表

1	糞	A. 口縁部径 19.4. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ナデの後ケズリ、内面蓋ナデ. D. 白色粒. E. 内外一にふい相色. F. 口縁部～胴部 3/4. H. カマド内.
2	糞	A. 口縁部径 20.0. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ナデの後ケズリ. 内面蓋ナデ. D. 角四石、雲母、褐色粒、白色粒. E. 内外一明赤褐色. F. 口縁部～胴部 1/5. H. カマド内.
3	小形台付糞	A. 口縁部径 (10.9). B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面ケズリの後下端蓋ナデ、内面蓋ナデ. 台部外面ナデ、内面蓋ナデ. D. 石英、黒色粒、白色粒. E. 内外一にふい相色. F. 口縁部～台部上位. H. カマド内.



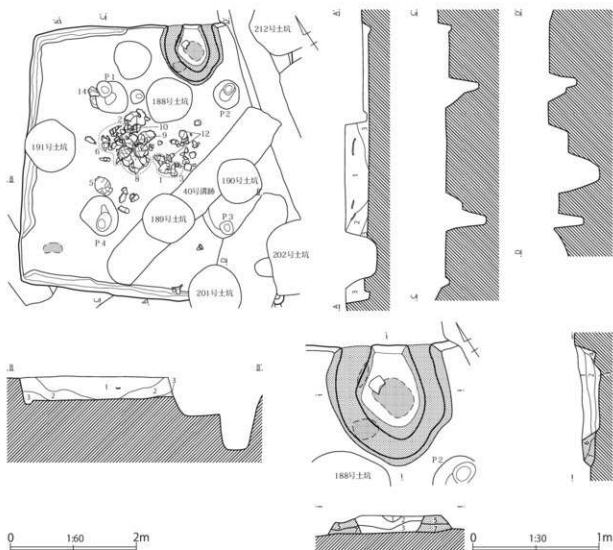
第147図 第177(SI45)号住居跡出土遺物

4	甕	A. 口縁部径 21.0, B. 粘土紐積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ナデの後ケズリ, 内面覆ナデ, D. 角四石, 白色粒, E. 内外一褐色, F. 口縁部~胴部, H. 覆土中。
5	甕	A. 口縁部径 (21.0), B. 粘土紐積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ナデの後ケズリ, 内面覆ナデ, D. 角四石, 白色粒, E. 内外一明赤褐色, F. 口縁部~胴部 1/4, H. カマド内。
6	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径 14.0, 器高 6.6, 底部径 6.9, B. ロクロ成形, 高台部貼り付け, C. 体部内外面回転ナデ, 底部外面回転系切り, 高台部内外面回転ナデ, D. 褐色粒, E. 内外一褐色, F. 3/4, H. カマド内。
7	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径 (12.6), 器高 5.0, 底部径 5.4, B. ロクロ成形, 高台部貼り付け, C. 体部内外面回転ナデ, 底部外面回転系切り, 高台部内外面回転ナデ, D. 石英, 白色粒, E. 内外一黄灰色, F. 3/5, H. 床面直上。
8	甕	A. 口縁部径 (20.0), B. 粘土紐積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面覆ナデ, D. 角四石, 雲母, 黒色粒, 白色粒, E. 内外一褐色, F. 口縁部~胴部 1/3, H. 覆土中。
9	高台付埴	A. 口縁部径 13.2, 器高 5.0, 底部径 6.2, B. ロクロ成形, 高台部貼り付け, C. 体部内外面回転ナデ, 底部外面回転系切り, 高台部内外面回転ナデ, D. 角四石, 雲母, 褐色粒, 白色粒, E. 内外一灰黄色, F. 2/3, G. 酸化焙焼成, H. 覆土中。
10	高台付埴	A. 底部径 7.0, B. ロクロ成形, 高台部貼り付け, C. 体部内外面回転ナデ, 底部外面回転系切り, 高台部内外面回転ナデ, D. 石英, 褐色粒, 白色粒, E. 内外一灰色, F. 体部~底部 3/4, G. 酸化焙焼成, H. 覆土中。
11	埴	A. 口縁部径 (12.7), 器高 4.0, 底部径 6.0, B. ロクロ成形, C. 体部内外面回転ナデ, 底部外面回転系切り, D. 白色粒, E. 内外一黄灰色~灰色, F. 2/5, G. 酸化焙焼成, H. 覆土中。
12	須恵器 埴	A. 口縁部径 12.4, 器高 3.8, 底部径 5.7, B. ロクロ成形, C. 体部内外面回転ナデ, 底部外面回転系切り, D. 雲母, 褐色粒, 白色粒, E. 内外一黄灰色, F. 4/5, H. 床面付近。

## 第178(SI46)号住居跡(第148図、図版27)

E3地点の調査区北端に位置する。重複する第178(SI46)号住居跡, 第188・189・190・191・201・202・212号土坑、40・72(30)号溝跡に切られている。

平面形は、やや歪んだ方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、北東~南西方向が4.26m、北西~南東方向は4.20mまで測れる。主軸方位は、N-38°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で36cmある。壁溝は、残存する各壁下に見られるが、西側コーナー部で途切れている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻し



第148図 第178(S146)号住居跡

## &lt;第178号住居跡土層説明&gt;

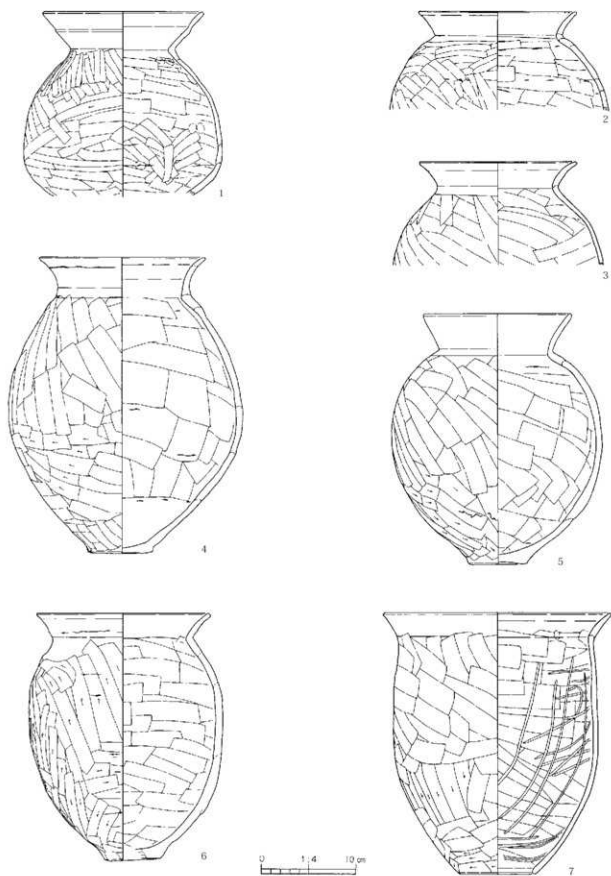
- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第178号住居跡カマド土層説明&gt;

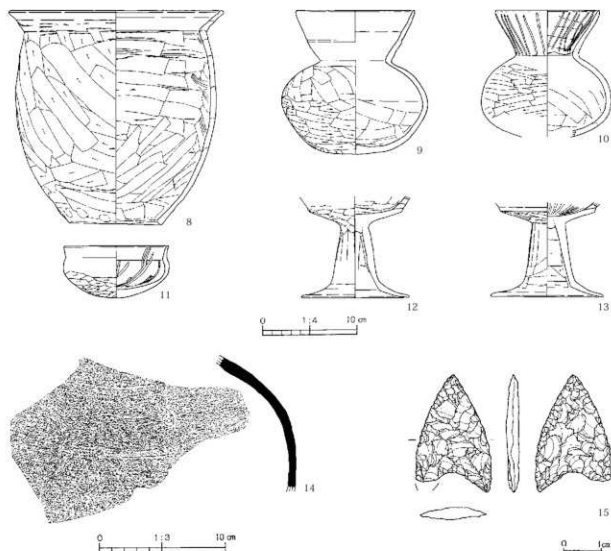
- 第1層：暗赤褐色土層（焼土ブロックを均一に、淡褐色粘土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：黒褐色土層（焼土粒子・淡褐色粘土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（ロームブロック・淡褐色粘土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（焼土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：淡褐色土層（淡褐色粘土ブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：淡褐色土層（淡褐色粘土ブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第7層：暗茶褐色土層（淡褐色粘土ブロック・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

た貼床式で、住居中央部は堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、4ヶ所検出されている。P1～P4は、住居のほぼ対角線上に配置されていることから、4本主柱穴と考えられる。径45cm～60cmの楕円形ぎみの形態を呈し、床面からの深さは40cm～60cmある。

カマドは、住居北東側壁の中央付近に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長



第149図 第178(S146)号住居跡出土遺物 (1)



第150図 第178(S146)号住居跡出土遺物(2)

96cm、最大幅96cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに住居内にある。燃焼面は、住居の床面よりも若干低く、よく焼けて赤色化している。支脚は見られなかった。袖は、淡褐色粘土を住居の壁に直接貼り付けて構築しており、焚口部で途切れずに住居壁から半円形に巡っている。このような形態のカマドは、出現期のカマドの中に見られるもので、本カマドの場合も覆土中に明確な天井部の崩落土が見られないことから、天井部をもたない形態のカマドであった可能性もある。

出土遺物は、住居中央部の覆土中から古墳時代中期(5世紀)後半頃の土器が多く出土している。これらはその出土状態から見て、本住居跡で直接使用されていたものではなく、住居廃絶後の覆土堆積中に周辺から投棄されたものと推測される。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土土器の様相から、古墳時代中期(5世紀)後半頃と考えられる。

第58表 第178(S146)号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A. 口縁部径(17.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後覽ナデ、内面覽ナデ。D. 白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部~胴部2/5。H. 覆土中。
2	甕	A. 口縁部径 16.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後覽ナデ、内面覽ナデ。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 外~外一にふい褐色~黒褐色、内~鈍い褐色。F. 口縁部~胴部1/2。H. 覆土中。

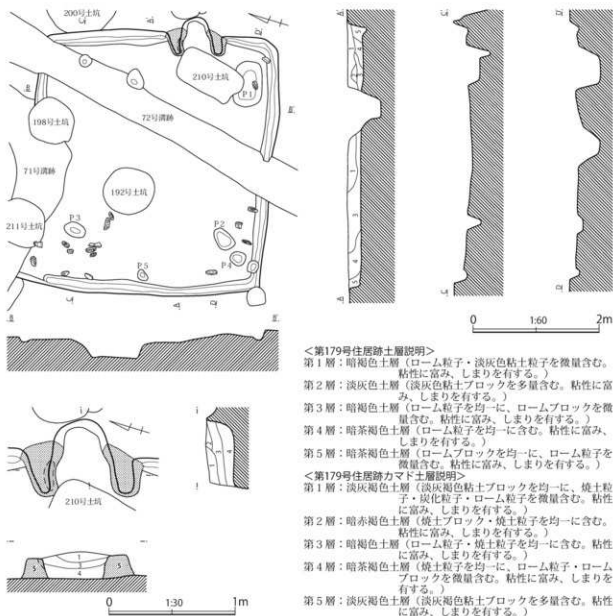
3	糞	A. 口縁部径(16.7)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後段ナデ、内面段ナデ。D. 雲母、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部～胴部 1/2。H. 覆土中。
4	糞	A. 口縁部径(17.5)。器高 31.5。底部径 6.8。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半段ナデ、内面段ナデ。底部外面ナデ。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一褐色～褐色。F. 7/8。G. 胴部外面に黒炭あり。外面に煤付着。H. 覆土中。
5	糞	A. 口縁部径 15.7。器高 26.7。底部径 9.3。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半段ナデ、内面段ナデ。底部外面段ナデ。D. 石英、白色粒。E. 内外一明褐色。F. ほぼ完形。G. 胴部外面に黒炭あり。H. 覆土中。
6	糞	A. 口縁部径 18.4。器高(26.4)。底部径(5.9)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面段ナデ。底部外面ケズリ。D. 黒色粒。E. 内外一ふいふ黄褐色。F. ほぼ完形。G. 胴部外面に黒炭あり。外面煤付着。H. 覆土中。
7	大形 甌	A. 口縁部径 24.2。器高 27.8。底部径(8.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半段ナデ、内面段ナデの後雑なミガキ。D. 石英、白色粒。E. 内外一ふいふ赤褐色。F. 4/5。G. 胴部外面に黒炭あり。H. 覆土中。
8	大形 甌	A. 口縁部径 22.7。器高 22.8。底部径 9.8。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上位ケズリの後下位段ナデ、内面段ナデ。底部内側ケズリ。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 7/8。H. 覆土中。
9	中形直口壺	A. 口縁部径 12.6。器高 15.3。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面段ナデの後下平ケズリ。内面ナデの後下平ケズリ。D. 雲母、白色粒。E. 内外一ふいふ赤褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
10	中形直口壺	A. 口縁部径(11.0)。器高 5.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ミガキの後放射状暗文を施す。胴部外面ナデの後下平ケズリ、内面段ナデ。D. 石英、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部～胴部 3/4。H. 覆土中。
11	環	A. 口縁部径(11.0)。器高 5.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下平ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D. 雲母、白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
12	高 環	A. 脚端部径 11.3。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。内面段ナデ。体部外面段ナデ。脚柱部外面段ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. 脚部 3/4。H. 覆土中。
13	高 環	A. 脚端部径(11.9)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後内面に放射状暗文を施す。体部外面段ナデ。脚柱部外面段ナデ。内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外一明褐色。F. 脚部 4/5。H. 覆土中。
14	須恵器 広口壺	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 胴部外面回転ナデの後力キ目、内面回転ナデ。D. 片岩粒、黒色粒。E. 内外一灰色。F. 胴部破片。H. 覆土中。
15	石 鏝	A. 長さ 3.12。幅 2.0。厚さ 0.35。重さ 1.67g。D. 黒曜石。F. ほぼ完形。G. 門基無草。H. 覆土中。

### 第179(SI47)号住居跡(第151図、図版27)

E 3 地点の調査区中央部の北側寄りに位置し、北側に第178(SI46)号住居跡、南側に第180(SI48)号住居跡が近接している。重複する第192・198・200・210・211号土坑や、第72(30)号溝跡に切られている。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ方形を呈している。規模は、東西方向が4.27m、南北方向が3.93mを測る。主軸方向は、N-78°-Eを向いている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で24cmある。壁溝は、残存する各壁下に見られるが、北西側コーナー部は途切れている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した床式で、全体的にやや軟弱である。掘り方は、住居のほぼ床下全体に及ぶ形態のようである。ピットは、5ヶ所検出されている。P 1 は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、住居南東側コーナー部に位置している。73cm×46cmの隅丸長方形を呈し、床面からの深さは40cmある。P 2 と P 3 は、それぞれ住居の南西側コーナー部寄りと北西側コーナー部寄りに位置する。長さ35cm～40cmの楕円形を呈し、床面からの深さは23cmと10cmある。P 4 は、住居の南西側コーナー部に位置する。径25cmの円形を呈し、床面からの深さは13cmある。P 5 は、住居西側壁中央の壁際に位置する。長さ20cmの楕円形を呈し、床面からの深さは20cmある。

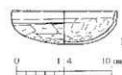
カマドは、住居東側壁の中央やや南東側コーナー部寄りに位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長65cm、最大幅100cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込んでいる。燃焼面(火床)は、住居の床面と同じ高さで水平をなし段をもって煙道部に移行している。袖は、淡灰褐色粘土を住居の壁をやや斜めに削った部分に貼り付けて構築している。煙道部は、すでに削平されて残存



第151図 第179(S147)号住居跡

していなかった。

出土遺物は、住居跡の覆土中から、土器の破片が少量出土している。土器以外では、住居の南東側コーナー部や西側壁際の床面上から、長さ15cm～20cm程度の片岩を主体とする棒状の川原石が全部で17個散らばって出土している。本住居跡の時期は、出土土器の様相や住居跡の形態から、古墳時代後期後葉（7世紀前半）頃と考えられる。



第152図 第179(S147)号住居跡出土遺物

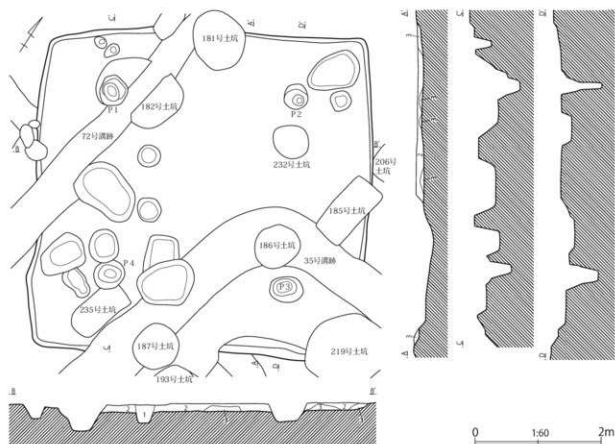
第59表 第179(S147)号住居跡出土遺物観察表

1	模倣杯	A. 口縁部径 11.2、器高 3.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 2/3。G. 体部外面に黒炭あり。体部内面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
---	-----	--

## 第180(SI48)号住居跡(第153図、図版27)

E 3 地点の調査区中央部に位置する。重複する第181(SI49)号住居跡を切り、第181・182・185・186・187・219・232・235号土坑と第35・38・72(30)号溝跡に切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、北西～南東方向が5.24m、北東～南西方向が5.44mを測る。住居跡の北東側壁と南西側壁は、N-31°-Wを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で11cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居周辺部が幅広で不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、4ヶ所検出されている。P 1～P 4は、住居の対角線上に配置されていることから、4本主柱穴と考えられる。径38cm～55cmの円形や楕円形を呈し、床面からの深さは60cm～75cmある。



第153図 第180(SI48)号住居跡

## &lt;第180号住居跡土層説明&gt;

第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

0 1:60 2m



第154図 第180(SI48)号住居跡出土遺物

## 第60表 第180(SI48)号住居跡出土遺物観察表

1	模倣環	A. 口縁部径(11.6)、器高3.5。B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
---	-----	---



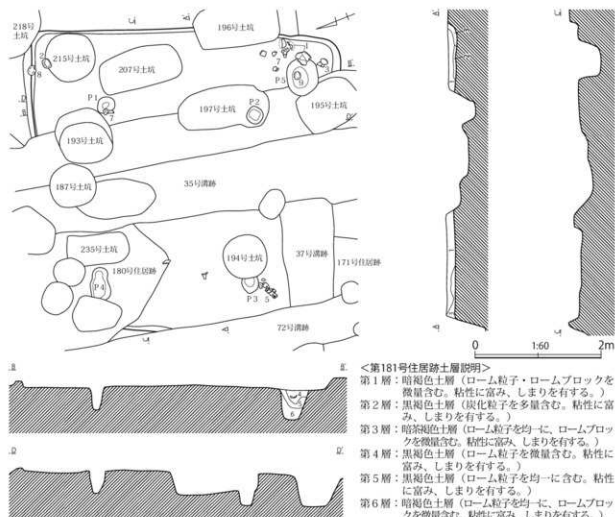
カマドは、残存していなかった。おそらく、住居の北西側壁の中央付近に付設されていたものと推測され、第181号土坑によって破壊されたものと思われる。

出土遺物は、住居跡の覆土中から、土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、出土土器の様相から、古墳時代後期後葉（7世紀前半）頃と考えられる。

#### 第181(SI49)号住居跡(第155図、図版27)

E 3 地点の調査区中央部に位置する。重複する第180(SI48)号住居跡、第187・193・194・197・207・215・235号土坑、第35・37・72(30)号溝跡に切られている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、北西～南東方向が4.95m、北東～南西方向が4.77mを測る。住居跡の北東側壁と南西側壁は、N-112°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で15cmある。残存する各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。掘り方は、住居周辺部が幅広く不定形な周溝状に深くなる形態である。ピットは、5ヶ所検出されている。P1～P4は、住居のほぼ対角線上

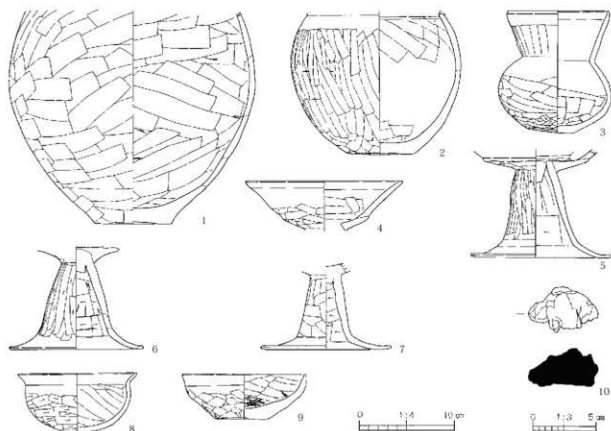


第155図 第181(SI49)号住居跡

に配置されていることから、4本主柱穴と考えられる。径30cm前後の円形を呈し、床面からの深さは35cm～50cmある。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、住居東側コーナー部に位置する。60cm×50cmの楕円形を呈し、床面からの深さは47cmある。

カマドは、住居跡の残存する部分からは検出されなかった。

出土遺物は、P5の貯蔵穴内やその周辺及び住居跡の覆土中から、古墳時代中期(5世紀)後半頃の土器が出土している。本住居跡の時期は、出土土器の様相から、古墳時代中期(5世紀)後半と考えられる。



第156図 第181(S149)号住居跡出土遺物

第61表 第181(S149)号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 底径 8.2. B. 粘土組織み上げ。C. 胴部内外面寛ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外・明赤褐色。F. 胴部～底部 3/5. G. 胴部外面に黒斑あり。H. 床面直上。
2	甕	A. 底径 7.2. B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリの後置ナデ、寛ナデ。底部外面ケズリの後置ナデ。D. 雲母、褐色粒、白色粒。E. 内外・にふい黄褐色～褐色。F. 胴部下半 1/2. G. 胴部外面に黒斑あり。H. 床面付近。
3	小形直口甕	A. 口縁部径 10.8. 器高 13.0. 底径 4.6. B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面寛ナデの後上半ヨコナデ、内面ヨコナデ。胴部内外面ナデの後下半寛ナデ。底部外面ケズリ。D. 褐色粒。E. 内外・にふい赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面付近。
4	高 杯	A. 口縁部径 16.6. B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。杯部内外面寛ナデ。D. 雲母、黒色粒、白色粒。E. 内外一褐色。F. 杯部 2/3. H. 覆土中。
5	高 杯	A. 脚端部径 (14.9). B. 粘土組織み上げ。C. 杯部外面ナデの後置ナデ、内面寛ナデ。脚柱部外面寛ナデ、内面ナデの後下半ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 雲母、黒色粒、白色粒。E. 内外・明赤褐色。F. 脚部 3/5. H. 覆土中。
6	高 杯	A. 脚端部径 14.2. B. 粘土組織み上げ。C. 杯部外面ケズリ、内面ナデ。脚柱部外面ケズリ、内面ナデの後ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 雲母、白色粒。E. 内外・にふい黄褐色。F. 脚部 4/5. G. 脚柱部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
7	高 杯	A. 脚端部径 13.8. B. 粘土組織み上げ。C. 脚柱部外面寛ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 雲母、白色粒。E. 内外一灰褐色。F. 脚部 1/2. H. 床面付近。
8	杯	A. 口縁部径 12.6. 器高 6.3. B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面寛ナデ。D. 雲母、白色粒。E. 内外・明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 床面付近。

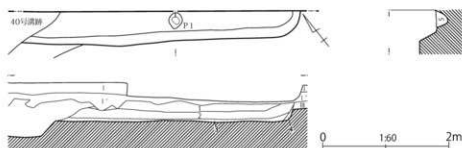
9	環	A. 口縁部径 13.1、器高 4.8、底部径 5.5。B. 粘土結核み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面饅頭ナデの後継なミガキ。底部外面ケズリ。D. 曇母、白色粒。E. 内外・橙色。F. ほぼ完形。H. P 5 内。
10	鉄 滓	A. 長さ 5.5、幅 3.2、厚さ 3.0、重さ 37.5g。G. 鉄分を含む。H. 覆土中。

### 第182(SI50)号住居跡(第157図、図版28)

E 3 地点の調査区北東端に位置し、重複する第40号溝跡に切られている。調査区内で検出されたのは、住居跡の南側コーナー部から南西側壁の一部だけであるため、住居跡の全容は不明である。

平面形は不明であり、規模は南東～北西方向は4.50m、南西～北東方向は56cmまで測れる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で30cmある。調査区内で検出された住居南西側壁の壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、壁際のためやや軟弱である。掘り方の形態は、不明である。ピットは、1ヶ所検出されている。P 1 は、径25cm程度の円形を呈し、床面からの深さは18cmある。

出土遺物は、住居跡の覆土中から、土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、出土土器の様相から、古墳時代中期(5世紀)頃と思われる。



第157図 第182(SI50)号住居跡

#### <第182号住居跡土層説明>

第1層：表土。

第Ⅱ層：灰黄褐色砂質土層（粘性はなく、しまりを有する。）

第Ⅲ層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径1～5cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

### 第183(SI51)号住居跡(第67図)

E 2 地点の調査区東寄りに位置する。住居跡の東側半分を重複する第140(SI 8)号住居跡に、中央部を第58(16)号溝跡と第59(17)号溝跡に切られているため、遺構の遺存状態は良好とは言えない。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部の丸みが強い方形か長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向は3.70mまで、東西方向は2.60mまで測れる。住居跡の東西方向は、概ねN-91°-Eを向いている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で5cmある。残存する西側壁と南側壁の壁下には、壁溝が巡っている。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を薄く平坦に埋め戻した貼床式で、全体にやや軟弱である。ピットは、P 6 と P 7 の2ヶ所が検出されている。P 6 は、住居北西側コーナー部に位置する。84cm×52cmの楕円形を呈し、床面か

らの深さは10cmある。P 7は、住居南西側コーナー部に位置する。32cm×22cmの楕円形を呈し、床面からの深さは20cmある。

出土遺物は、土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、出土した土器の様相から、古墳時代中期(5世紀)後半頃と思われる。



第158図 第183(S151)号住居跡出土遺物

第62表 第183(S151)号住居跡出土遺物観察表

1	環	A. 口縁部径(126)、器高7.1。B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデもしくは雑なミガキ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一明茶褐色、内一淡茶褐色。F. 2/3。G. 体部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
---	---	---

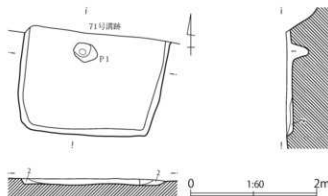
### 第3節 竪穴状遺構

#### 第1号竪穴状遺構(第159図、図版28)

E 3地点の調査区中央部の西側寄りに位置する。第8号掘立柱建物跡と重複し、第71(29)号溝跡に切られている。形態は、竪穴式住居跡に似ているが、竪穴内に住居跡に見られるような施設がなく、床面の構造も貼床や底面を平坦に削平して床にしたような形跡も見られないことから、とりあえず竪穴状遺構とした。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、東西方向が2.35m、南北方向は1.70mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは10cmある。底面は、細かな凹凸が全面に見られる。中央部からピットが1カ所検出されている。P 1は、長さ42cmの楕円形を呈し、底面からの深さは28cmある。

出土遺物は、古墳時代中期(5世紀)後半～後期(6世紀)の土器の破片が、覆土中から少量出土しただけである。本遺構の時期は、覆土の状態や出土物の様相から、古墳時代後期以降の古代の所産と推測される。



第159図 第1号竪穴状遺構

#### <第1号竪穴状遺構土層説明>

第1層：黒褐色土層(ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

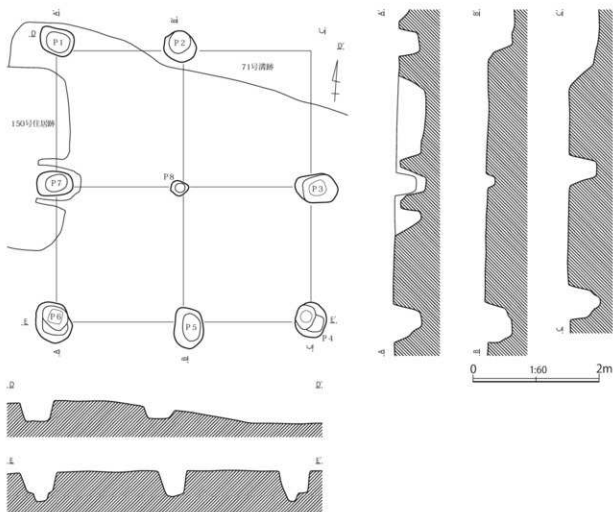
第2層：暗茶褐色土層(ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。)

### 第4節 掘立柱建物跡

#### 第4号掘立柱建物跡(第160図、図版28)

E 3地点の調査区北西側に位置する。重複する第150(S118)号住居跡を切り、第71(29)号溝跡に建物跡の北側の一部を切られている。

建物の形態は、東西方向2間、南北方向2間の方形を呈し、真真中に規模の小さな束柱(P 8)をもつ総柱式建物である。規模は、東西・南北両方向とも概ね4m前後を測る。建物跡の向きは、N-4°

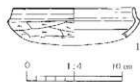


第160図 第4号掘立柱建物跡

一Wをとっている。柱通りは、東西・南北両方向とも比較的良く直線上に並んでいる。柱心間は、東西・南北両方向とも1間の間隔が概ね2mの等間隔で、1間×1間の平面形は正方形を呈すると思われる。

P1～P7の側柱穴は、長さ65cm前後の楕円形や径50cm程度の円形を呈し、確認面からの深さは35cm～50cmある。南側のP4とP6には、底面に径30cm程度の柱痕が見られる。建物の中心に位置する東柱の柱穴と推測されるP8は、側柱穴に比べて規模が小さく、径25cmの円形を呈し、確認面からの深さは15cmある。

出土遺物は、柱穴の覆土中から、古墳時代の土器の小破片が少量出土しているが、これらは混入の可能性が高い。本建物跡の時期は、建物の形態や軸方向が第6号掘立柱建物跡と類似していることから、平安時代前期(9世紀)頃の可能性が高いと思われる。

第161図 第4号掘立柱建物跡  
出土遺物

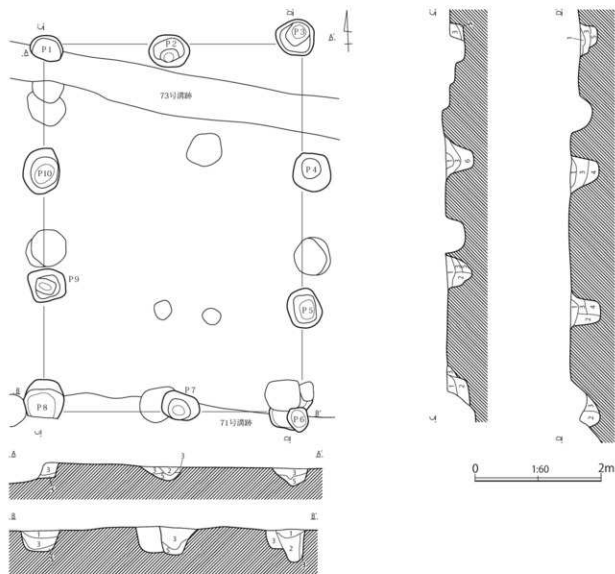
第63表 第4号掘立柱建物跡出土遺物観察表

1	模倣瓦	A. 口縁部径(12.8)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。 E. 内外一淡茶褐色。F. 口縁部1/4。H. P1内。
---	-----	---

## 第 5 号掘立柱建物跡(第162図、図版28)

E 3 地点の調査区北側の西寄りに位置し、西側には第155(SI23)・156(SI24)・161(SI29)号住居跡が、南側には第1号竪穴状遺構が近接している。重複する第71(29)・73(31)号溝跡に切れ、奈良時代後半頃の第8号掘立柱建物跡を切っている。

建物の形態は、南北方向3間、東西方向2間の南北方向に長い長方形を呈する側柱式建物である。規模は、南北方向が概ね5.70m、東西方向が概ね4.20m前後を測る。建物跡の長軸方向は、N-2°-Wを向いている。柱通りは、建物跡西側の側柱穴は比較的良く直線上に並んでいるが、それ以外の3



第162図 第5号掘立柱建物跡

## &lt;第5号掘立柱建物跡土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

方向の側柱穴はやや蛇行ぎみである。柱心間は、南北方向が1間ほぼ1.90m、東西方向は1間2.10mの等間隔と推定され、1間×1間の平面形はほぼ正方形を呈すると思われる。

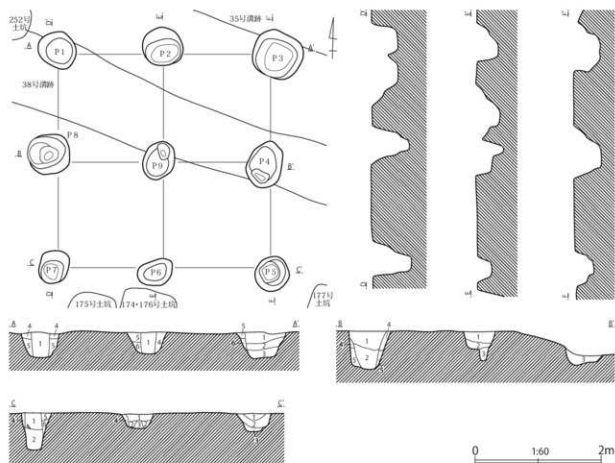
柱穴は、いずれも長さ65cm前後の楕円形や円形を呈し、確認面からの深さは23cm～74cmある。いくつかの柱穴には、底面に柱痕が見られるものがある。

出土遺物は、古墳時代前期～後期の土器破片が、柱穴の覆土中から少量出土しただけである。本建物跡の時期は、遺構の重複関係や出土土器片の様相から、平安時代前期(9世紀)頃と思われる。

#### 第6号掘立柱建物跡(第163図、図版28)

E 3地点の調査区東側に位置し、東側には第7号掘立柱建物跡が近接している。第35・38号溝跡と重複し、それらによって建物跡の柱穴の一部を切られている。

建物の形態は、東西方向2間、南北方向2間の方角を呈し、中心に東柱(P9)をもつ総柱式建物である。規模は、東西・南北方向とも3.60mを測る。建物跡の向きは、N-2°-Wをとっている。柱通り



第163図 第6号掘立柱建物跡

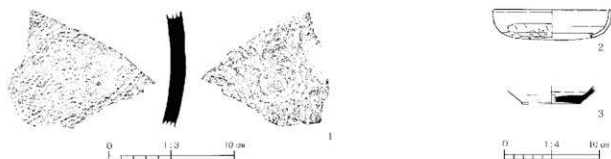
#### <第6号掘立柱建物跡土層説明>

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量に、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）
- 第3層：褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性、しまりともない。）
- 第4層：黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性、しまりともない。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）

は、東西・南北両方向とも比較的良く直線上に並んでいる。柱心間は、東西・南北両方向とも1間の間隔が1.80mの等間隔で、1間×1間の平面形は正方形である。

東西両側の側柱穴は、長さ55cm～75cmの楕円形や円形を呈し、確認面からの深さは30cm～64cmある。南北両側の側柱穴の中心にあるP2とP6は、確認面からの深さが20cmと32cmで、他の側柱穴に比べてやや浅くなっている。建物の中心に位置する東柱のP9は、長さ66cmの楕円形で、確認面からの深さは28cmある。多くの柱穴には、柱痕が見られる。

出土遺物は、柱穴覆土中から古代の土師器や須恵器の破片が比較的多く出土している。本建物跡の時期は、覆土の状態や出土土器片の様相から、平安時代前期(9世紀)前半頃と考えられる。



第164図 第6号掘立柱建物跡出土遺物

第64表 第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表

1	須恵器	B 粘土結核み上げ後叩き。C. 外面平行叩き目、内面当道具痕(青濁波文)を獲す。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 胴部破片。H. P 9内。
2	環	A. 口縁部径(12.6)。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上ナデ、下半ケズリ。内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 口縁部 1/4。H. P 8内。
3	須恵器 環	A. 底部径(6.0)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 底部 1/3。H. P 1内。

#### 第7号掘立柱建物跡(第165図、図版28)

E 3 地点の調査区東側に位置し、西側には第6号掘立柱建物跡が近接している。重複する第179号土坑・第35・37・38号溝跡に切られている。

建物の形態は、南北方向3間、東西方向2間の南北方向に長い長方形を呈する側柱式建物である。規模は、南北方向が6m、東西方向が概ね4.40mを測る。建物跡の長軸方向は、N-5°-Wを向いている。柱通りは、比較的良く直線上に並んでいる。柱心間は、南北方向が1間ほぼ2m、東西方向は1間2.20mの等間隔と推定され、1間×1間の平面形はほぼ正方形を呈すると思われる。

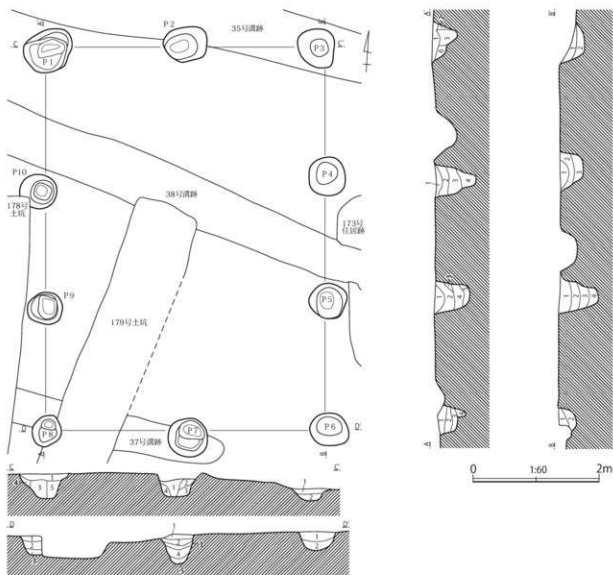
柱穴は、長さ50cm～80cmの楕円形や円形を呈し、確認面からの深さは30cm～65cmある。ほとんどの柱穴に、柱痕が見られないことから、建物廃絶時に柱は抜き取られた可能性が高い。

出土遺物は、古墳時代～平安時代前期(9世紀)初頭頃の土師器や須恵器の破片が、柱穴の覆土中から少量出土しただけである。本建物跡の時期は、覆土の状態や出土土器片の様相から、平安時代前期(9世紀)初頭頃と推測される。

#### <第7号掘立柱建物跡土層説明>

- 第1層：暗褐色土層(径1cmのロームブロックを少量に、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第2層：暗褐色土層(ローム粒子を少量に、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第3層：暗褐色土層(ローム粒子を多量に、炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。)
- 第4層：暗褐色土層(ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。)
- 第5層：褐色土層(ローム粒子を多量に、径3cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)
- 第6層：暗褐色土層(ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。)





第165図 第7号掘立柱建物跡

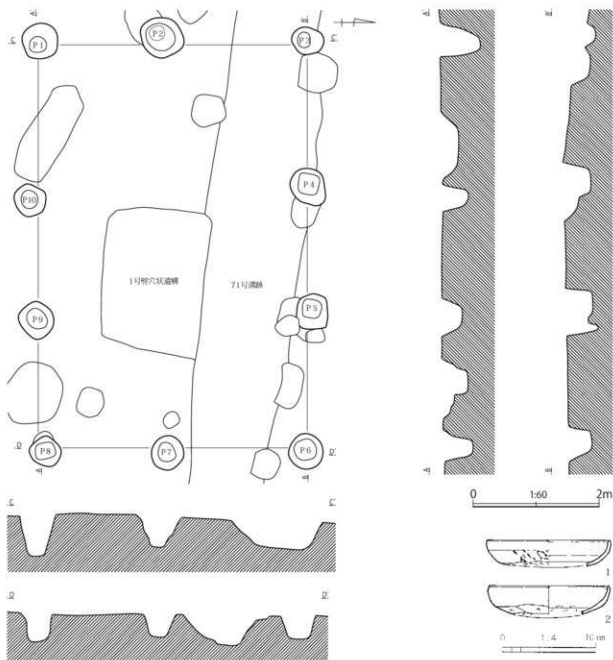
### 第8号掘立柱建物跡(第166図、図版28)

E 3 地点の調査区北側の西寄りに位置する。重複する第5号掘立柱建物跡と第71(29)号溝跡に切られている。竪穴状遺構との新旧関係は不明である。

建物の形態は、東西方向3間、南北方向2間の東西方向に長い長方形を呈する側柱式建物である。規模は、東西方向が6.30m、南北方向が4.20mを測る。建物跡の長軸方向は、 $N-90^{\circ}-E$ を向いている。柱通りは、東西・南北方向とも比較的良く、直線上に並んでいる。柱心間は、東西・南北方向とも、1間ほぼ2.10mの等間隔と推定され、1間×1間の平面形は正方形を呈している。

柱穴は、長さ52cm～70cmの楕円形や円形を呈し、確認面からの深さは32cm～65cmある。ほとんどの柱穴に、柱痕が見られないことから、建物廃絶時に柱は抜き取られた可能性が高い。

出土遺物は、白鳳時代(7世紀後半)～奈良時代(8世紀)後半頃の土師器の破片が、柱穴の覆土中から少量出土しただけである。本建物跡の時期は、出土土器片の様相から、奈良時代(8世紀)後半頃と推測される。



第166図 第8号掘立柱建物跡及び出土土遺物

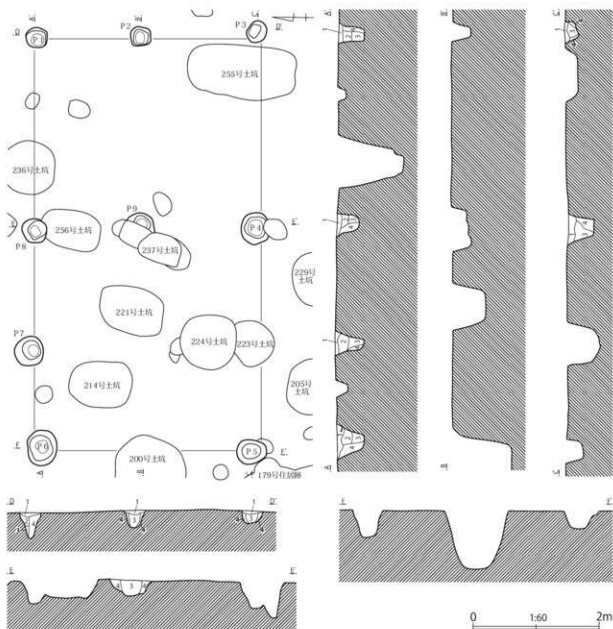
第65表 第8号掘立柱建物跡出土土遺物観察表

1	環	A. 口縁部径(13.0)。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半ケズリ。内面ナデ。D. 白色粒。 E. 内外一帯橙褐色。F. 口縁部 1/8 破片。G. 体部外面に細かな縦亀裂を残す。H. P 8 内。
2	環	A. 口縁部径(12.4)。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半ケズリ。内面ナデ。D. 白色粒。 E. 外一帯茶褐色、内一帯明茶褐色。F. 口縁部 1/8 破片。G. 内面に成形時の指痕狂痕を残す。H. P 3 内。

## 第9号掘立柱建物跡(第167図、図版28)

E 3地点の調査区中央部のやや北側寄りに位置する。重複する第200・214・223・236・237・256号土坑に切られている。

建物の形態は、東西方向に長い長方形を呈している。多くの近世土坑墓に柱穴を切られているた



第167図 第9号掘立柱建物跡

<第9号掘立建物跡土層説明>

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

め、柱穴の配列が不明な部分が多いが、南北方向は2間、東西方向は西側が2間・東側が幅広の1間の3間である。規模は、東西方向が6.40m、南北方向が3.60mを測る。建物跡の長軸方向は、N-90°-Eを向いている。柱通りは、東西・南北方向とも比較的良く、ほぼ直線上に並んでいる。柱心間は、南北方向が1間1.80mの等間隔で、東西方向は西側の2間が1間1.60mの等間隔、東側の幅広の1間が3.20mである。

柱穴は、長さ33cm～55cmの比較的規模の小さな円形や楕円形を呈し、確認面からの深さは18cm～46cmある。いくつかの柱穴には、覆土中に柱の痕跡が見られるものがある。

出土遺物は、柱穴覆土中から古墳時代中期～後期を主体とする土師器の破片が少量出土しただけである。本建物跡の時期は、遺構の重複関係や建物や柱穴の形態から、清福寺の近世墓地在形成される以前の中世後期頃と思われる。

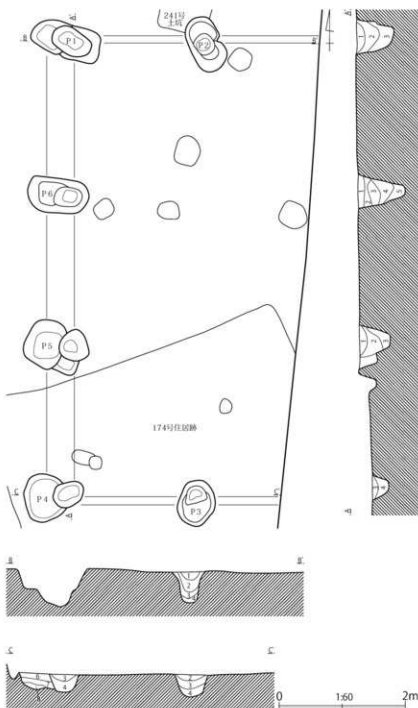
#### 第10号掘立柱建物跡(第168図)

E3地点の調査区西端に位置する。重複する第174(SI42)号住居跡を切り、第241号土坑に柱穴の一部を切られている。建物跡の東側半分は調査区外に位置するため、本建物跡の全容は不明である。

建物の形態は、南北方向3間、東西方向が2間以上の側柱式建物である。建物西側の南北方向を向く側柱穴列は、いずれの柱穴も重複が認められ、建て替えられた可能性が高い。建物跡の長軸方向は、いずれもほぼ南北を向いている。

##### <第10号掘立柱建物跡土層説明>

- 第1層：黒褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量に、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）
- 第4層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）
- 第5層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：褐色土層（ローム粒子を多量に、炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）
- 第7層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性、しまりともない。）
- 第8層：黒褐色土層（径3～5cmのロームブロックを少量に、ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）



第168図 第10号掘立柱建物跡

最初の古い建物跡は、規模が南北方向7.50m、東西方向は4.35mまで測れる。柱通りは、東西・南北方向とも比較的良く、直線上に並んでいる。柱心間は、南北方向が1間2.50mの等間隔で、東西方向は1間2.40mである。1間×1間の平面形は、正方形を呈している。柱穴は、長さ75cm～100cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは33cm～50cmある。ほとんどの柱穴に、柱痕が見られないことから、建て替えに伴って柱は抜き取られた可能性が高いと思われる。建て替えられた新しい建物跡は、規模が南北方向7.20m、東西方向は3.90mまで測れる。柱通りは、東西・南北方向とも比較的良く、直線上に並んでいる。柱心間は、南北方向が1間2.40mの等間隔で、東西方向は1間2.00mである。1間×1間の平面形は、長方形を呈している。柱穴は、長さ35cm～65cmの円形や楕円形を呈し、確認面からの深さは50cm～77cmある。

遺物は、何も出土しなかった。本建物跡の時期は、出土遺物がないため明確にできないが、遺構の重複関係や建物の向きが第6号掘立柱建物跡と同じくほぼ南北方向を向いていることから、平安時代前期(9世紀)頃の可能性が高いと思われる。

## 第5節 土 坑

第66表 土坑一覧表

番号	平面形	規模(cm)	底径	深さ	時代	出土遺物	備考
112	不整形	132×(83)	—	9	平安以降	須惠器片。	372土坑に切られる。
113	円形	120×121	50	100	江戸	銭貨6、煙管、釘。	154住を切る。
114	円形	143×128	54	92	江戸	銭貨11。	160住・33溝を切る。
115	円形	117×112	65	100	江戸	骨片、銭貨14。	160住を切る。
116	隅丸長方形	124×80	78	江戸	骨片、木片、かわらけ1。	140土坑と一部重複。	
117	不整形	96×96	70	16	江戸	なし。	
118	(円形)	68×(45)	40	59	近世初期以前	なし。	123土坑に切られる。
119	円形	98×96	52	95	江戸	銭貨3。	154住を切る。
120	円形	97×94	54	74	江戸	銭貨1。	154住を切る。
121	楕円形	102×90	64	17	不明	なし。	
122	隅丸長方形	149×64	37	江戸	骨片、歯、銭貨17、かわらけ破片少量。	157住・128土坑を切る。	
123	円形	75×72	55	60	江戸	骨片、土師器・かわらけ破片少量。	154住・118土坑を切る。
124	円形	105×95	62	100	江戸	銭貨12。	
125	円形	115×112	72	98	江戸	骨片、銭貨12、土師器・かわらけ破片少量。	33溝を切る。
126	楕円形	100×88	65	30	古墳中期前半	土師器破片少量。	
127	円形	114×112	55	115	江戸	銭貨11、土師器・かわらけ破片少量。	129土坑を切る。
128	円形	93×88	55	70	江戸	歯、銭貨11、かわらけ破片少量。	122土坑に切られる。
129	楕円形	90×(84)	(60)	22	近世初期以前	土師器破片少量。	127土坑に切られる。
130	隅丸長方形	117×54	78	江戸	土師器・須惠器破片少量。	154住を切る。	
131	円形	145×142	50	132	江戸	木片、土師器・須惠器破片少量。	154住を切る。
132	隅丸長方形	128×88	90	江戸	かわらけ。		
133	隅丸長方形	(242)×79	10	中世以前	土師器破片少量。	32溝に切られる。	
134	隅丸長方形	300×126	33	中世以前	土師器・須惠器破片少量。	135土坑を切る。	
135	(円形)	108×(48)	87	28	中世以前	土師器破片少量。	134土坑に切られる。
136	不整形	114×100	15	不明	土師器・須惠器破片少量。		
137	不整形	105×75	60	不明	土師器破片少量。		
138	(円形)	95×(47)	70	41	不明	土師器破片少量。	
139	不整形	126×68	56	江戸	骨片、歯、銭貨17、かわらけ2。	33溝を切り、35溝に切られる。	
140	楕円形	115×96	55	74	江戸	土師器・須惠器破片少量。	116土坑と一部重複。

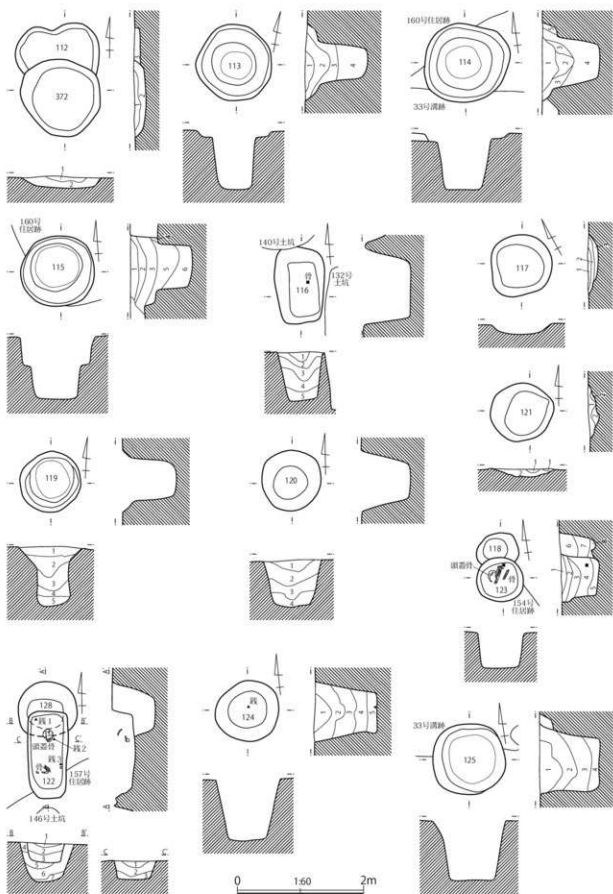
番号	平面形	規模 (cm)	底径	深さ	時代	出土遺物	備考
141	隅丸長方形	141×78		49	江 戸	骨片、歯、銭貨 8、かわらけ 2。	180 土坑を切る。
142	不整楕円形	82×72	40	105	江 戸	銭貨 6。	
143	楕 円 形	102×81	48	60	江 戸	骨片、歯、箱底板片、銭貨 23、陶器 1。	底板片に銅銭付着痕。
144	不整楕円形	113×66		21	不 明	土師器破片少量。	
145	隅丸長方形	116×84		50	江 戸	骨片、木片、銭貨 18、陶器 1、かわらけ 2。	
146	隅丸長方形	104×58		16	江 戸	骨片、歯、銭貨 19、陶器 3。	157 住を切る。
147	(隅丸長方形)	(56)×61		80	江 戸	歯、土師器・須恵器破片少量。	157 住を切る。
148	円 形	92×(90)	70	80	江 戸	骨片、歯、銭貨 15、煙管、火打金 1。	157 住を切る。底面に早稲の住痕。
149	楕 円 形	63×39		10	不 明	なし。	33・72 溝に切られる。
150	不 整 形	98×80		25	不 明	なし。	
151	隅丸長方形	114×76		61	江 戸	骨片、歯、銭貨 11、陶器 3。	
152	円 形	90×88	55	80	江 戸	木片、銭貨 14。	
153	円 形	65×60	44	45	江 戸	木片、銭貨 5。	160 住を切る。
154	不整楕円形	134×60		27	近世後半以前	土師器破片少量。	35 溝を切る。
155	楕 円 形	100×85	54	104	江 戸	歯、銭貨 6。	
156	円 形	85×72	54	44	不 明	土師器破片少量。	
157	円 形	80×(82)	95	30	中世以前	土師器破片少量。	33 溝に切られている。
158	円 形	105×104	88	9	不 明	土師器・須恵器破片少量。	
159	円 形	80×78	54	52	不 明	土師器破片少量。	
160	長 方 形	816×90		55	不 明	土師器・須恵器破片少量。	37 溝を切る。
161	不整楕円形	80×68	42	51	中世以前	土師器・須恵器破片少量。	33 溝に切られる。
162	(隅丸長方形)	(252)×111		51	不 明	土師器・須恵器破片少量。	
163	隅丸長方形	287×112		15	不 明	土師器破片少量。	164 土坑を切る。
164	(隅丸長方形)	(316)×102		32	不 明	土師器破片少量。	169 住を切り、163 土坑に切られる。
165	(隅丸長方形)	(284)×135		48	中世以降	山茶碗系片口鉢破片。	170 住・36 溝を切る。
166	(隅丸長方形)	(150)×54		28	中世以降	土師器破片少量。	36 溝を切る。
167	隅丸長方形	239×81		24	不 明	土師器・須恵器破片少量。	169 住を切る。
168	(隅丸長方形)	(160)×80		26	近世以降	土師器・須恵器・瓦破片少量。	
169	隅丸長方形	210×121		55	平 安	高台付環、鉄製品。須恵器破片少量。	
170	円 形	80×79	48	60	江 戸	銭貨 6。	160 住を切る。
171	円 形	83×76	55	60	江 戸	骨片、銭貨 13、火打金 1。	160 住を切る。
172	円 形	116×107	65	120	江 戸	土師器・須恵器破片少量。	35 溝に切られる。
173	隅丸長方形	94×(50)		18	江 戸	銭貨 5、陶器 1、かわらけ 1。	160 住を切る。
174	隅丸長方形	375×85		30	近 現 代	常滑裏破片少量。	175・176 土 坑 と 37 溝を切る。
175	隅丸長方形	505×90		33	近 現 代	土師器・須恵器・灰輪碗破片少量。	176 土坑・37 溝を切り、174 土坑に切られる。
176	長 方 形	530×100		43	近 現 代	土師器・須恵器破片少量。	37 溝を切り、174・175 土坑に切られる。
177	隅丸長方形	610×114		36	近 現 代	土師器。	37 溝を切る。
178	隅丸長方形	625×94		28	近 現 代	ナイフ形石器、土師器・須恵器破片少量。	37 溝を切る。
179	長 方 形	757×106		35	近 現 代	土師器・須恵器破片少量。	169 住・7 掘立・37 溝を切る。
180	(楕 円 形)	78×(79)	60	43	近世前期以前	土師器破片。	141 土坑に切られる。
181	不 整 円 形	97×83	60	45	江 戸	早稲底板片、銭貨 12、かわらけ 2、猪犬 1、貨幣類似品の型。	180 住・72 溝を切る。
182	不整楕円形	135×100		35	江 戸	銭貨 10、煙管。	180 住・72 溝を切る。
183	円 形	78×69	40	62	江 戸	土師器・須恵器破片少量。	177 住を切る。
184	楕 円 形	67×50		16	江 戸	銭貨 17、土師器破片少量。	177 住を切る。
185	隅丸長方形	113×52		50	江 戸	歯、銭貨 16、かわらけ 3、煙管、鉄洋 1。	180 住を切り、35 溝に切られる。
186	楕 円 形	75×65	55	10	不 明	なし。	180 住を切り、35 溝に切られる。

番号	平面形	規模 (cm)	底径	深さ	時代	出土遺物	備考
187	不整形	70×65	46	57	江戸	榑木片、銭貨6、かわらけ2。	180・181住を切り、35溝に切られる。
188	不整形	125×111	55	88	江戸	銭貨9、かわらけ5。	177・178住を切る。
189	円形	92×90	50	85	江戸	歯、木片、煙管。	178住・40溝を切る。
190	円形	148×140	55	112	江戸	銭貨1、肥前磁器・かわらけ破片。	178住、40・72溝を切る。底面に早稲の圧痕。
191	円形	100×95	57	133	江戸	木片、銭貨14、かわらけ1、鏡1。	177・178住を切る。
192	円形	72×71	55	107	江戸	近世陶器・かわらけ破片。	179住を切る。底面に早稲の圧痕。
193	円形	90×90	50	75	江戸	骨片、歯、銭貨17、かわらけ1。	181住を切り、35溝に切られる。
194	円形	75×70	48	70	江戸	銭貨6、かわらけ破片。	181住を切る。
195	隅丸長方形	98×77		70	江戸	歯、陶器2。	181住を切り、35溝に切られる。
196	隅丸長方形	85×74		43	江戸	銭貨13、かわらけ3。	181住・37溝を切る。
197	不整形	147×70		52	江戸	骨片、銭貨11、鉄製削器1。	181住を切り、35溝に切られる。
198	不整形	74×70	45	125	近世以降	木片、土師器・須恵器・かわらけ破片。	179住を切る。
199	円形	79×76	62	105	江戸	木片、かわらけ1、近世陶器片。	
200	円形	118×115	63	98	江戸	骨片、歯、銭貨17、かわらけ1、数珠玉4。	179住を切る。底面に早稲の圧痕。
201	不整形	92×81	65	130	江戸	歯、木片、銭貨1、近世陶器片。	178住を切る。
202	円形	142×124	62	133	江戸	かわらけ3。	72溝を切る。
203	楕円形	102×78	58	100	江戸	骨片、木片、銭貨11、かわらけ破片。	40・72溝を切る。底面に早稲の圧痕。
204	円形	101×92		73	江戸	骨片、銭貨19、かわらけ1。	40・72溝を切る。
205	円形	90×83	30	40	江戸	銭貨1、かわらけ1、数珠玉23。	
206	隅丸長方形	92×69		53	江戸	銭貨16、かわらけ4。	180住を切る。
207	隅丸長方形	128×61		50	江戸	銭貨13、かわらけ2。	181住を切る。
208	不整形	65×50		15	江戸	歯、銭貨3。	
209	円形	88×84	62	55	江戸	骨片、銭貨18、かわらけ破片少量。	
210	隅丸長方形	106×62		90	江戸	骨片、歯、銭貨13、陶器1、かわらけ1、釘1。	179住を切る。
211	不整形	72×70		47	江戸	土師器・須恵器破片少量。	179住を切る。
212	円形	88×80	62	80	江戸	骨片、歯、木片、銭貨14、かわらけ2。	72溝を切る。底面に早稲の圧痕。
213	不整形	70×64	50	25	江戸	銭貨7、かわらけ3。	
214	楕円形	100×72		24	江戸	磁器1。	
215	円形	79×77	54	57	江戸	かわらけ1、鉄器(火打金?)1。	181住を切る。
216	円形	74×74	55	90	江戸	骨片、歯、銭貨6、かわらけ3。	
217	隅丸長方形	130×105		90	江戸	歯、木片、銭貨16、かわらけ破片。	
218	円形	144×123	50	95	江戸	銭貨2、陶器2、かわらけ2。	38溝を切り、35溝に切られる。
219	不整形	110×107	70	100	江戸	歯、銭貨20、陶器1、かわらけ6。	180住を切り、35溝に切られる。
220	隅丸長方形	122×70		45	江戸	相成板片、銭貨6、かわらけ4。	底板片に銅銭付着痕。
221	隅丸長方形	105×75		54	江戸	銭貨18、かわらけ3。	
222	円形	80×74	50	75	江戸	骨片、歯、木片、銭貨9、かわらけ1。	234土坑と40溝を切る。
223	不整形	74×66	44	56	江戸	銭貨12、陶器2、かわらけ2。	224土坑に切られる。
224	不整形	90×84	60	53	江戸	骨片、歯、銭貨5、かわらけ3。	223土坑を切る。
225	不整形	118×70		21	江戸	銭貨6。	
226	不整形	90×70		92	江戸	銭貨18、煙管、かわらけ破片少量。	172住を切る。
227	不整形	80×66		36	不明	なし。	
228	不整形	72×72	54	66	江戸以降	かわらけ破片。	65溝を切る。

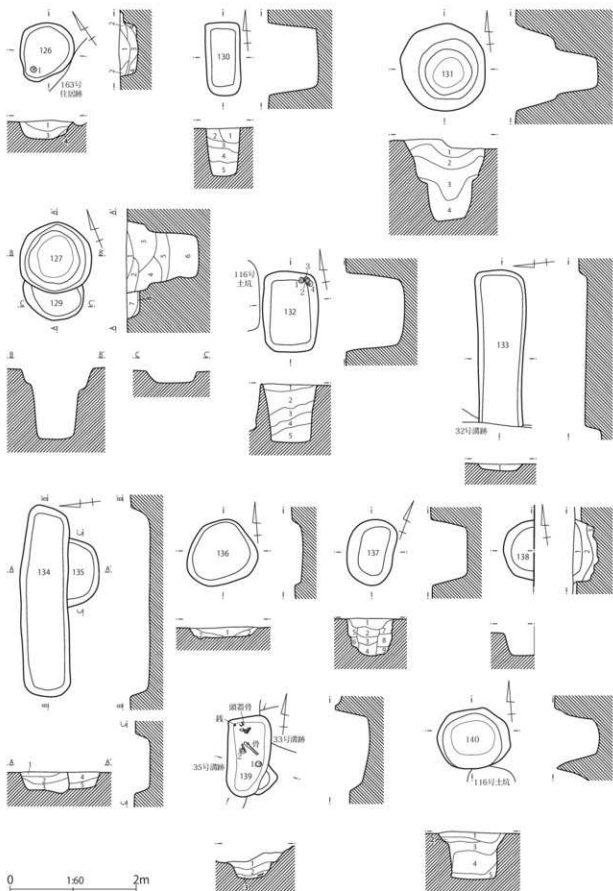
番号	平面形	規模 (cm)	底径	高さ	時代	出土遺物	備考
229	円形	88×80	50	98	江戸	柏底板片、銭貨20。	底面に早稲の圧痕。底板片に銅銭付着痕。
230	隅丸長方形	117×86		58	江戸	歯、銭貨18、煙管、火打金1、鉄器1。	
231	円形	77×72	40	75	江戸	銭貨11。	35溝に切られる。
232	円形	55×50	47	30	江戸	銭貨6、火打金1。	180住を切る。
233	円形	98×87	75	74	江戸	銭貨20、かわらけ5、近世陶器破片。	40溝を切る。
234	隅丸長方形	121×70		26	江戸	柏底板片、銭貨16、かわらけ2。	40溝を切り、222土壇に切られる。底板片に銅銭付着痕。
235	隅丸長方形	94×50		13	江戸	銭貨8、陶器1、煙管、釘1、基石1、鏡1。	180住を切る。
236	円形	94×92	67	102	江戸	銭貨16、磁器1、小刀、常滑糞・かわらけ破片。	底面に早稲の圧痕。
237	不整長方形	70×47		40	不明	土師器・須恵器破片少量。	
238	円形	76×75	51	65	江戸	銭貨2、陶器2。	
239	隅丸長方形	109×105		60	江戸	銭貨17。	
240	円形	(103)×95	50	80	江戸	骨片、銭貨9、磁器1、かわらけ1。	
241	長方形	(235)×84		12	不明	常滑糞破片。	10縦立を切る。
242	不整円形	90×77		30	不明	なし。	
243	隅丸長方形	88×55		25	不明	土師器破片少量。	
244	(不整長方形)	(138)×84		23	近世以降	土師器・須恵器破片少量。	43溝を切る。
245	(不整長方形)	(120)×66		33	近世以降	土師器破片少量。	134住と43溝を切る。
246	(不整長方形)	(151)×76		35	近世以降	土師器破片。	
247	不整長方形	120×75		38	江戸	土師器破片少量。	50溝に切られ、44溝を切る。
248	楕円形	110×56		34	江戸	歯、銭貨11、かわらけ2。	
249	隅丸長方形	134×60		20	近世以前	土師器破片少量。	45溝に切られる。
250	不整長方形	70×51		24	不明	なし。	
251	隅丸長方形	124×85		26	不明	土師器破片少量。	40溝を切る。
252	隅丸長方形	91×65		30	不明	なし。	
253	円形	85×75	58	104	江戸	骨片、歯、木片、福鉢1、数珠玉1。	底面に早稲の圧痕。254土壇を切る。
254	隅丸長方形	(175)×67		28	近世初期以前	土師器・須恵器破片少量。	253土壇に切られる。
255	隅丸長方形	172×69		22	近世後半以降	釘1。土師器・須恵器破片少量。	
256	隅丸長方形	93×52		30	江戸	銭貨5。	9縦立を切る。
257	不整円形	96×90	70	93	江戸	銭貨2。	
258	隅丸長方形	92×37		24	江戸	なし。	
259	円形	72×67	50	88	江戸	土師器・須恵器破片少量。	底面に早稲の圧痕。
260	楕円形	94×75		77	江戸	銭貨13、かわらけ1。	
261	隅丸長方形	94×56		38	江戸	銭貨17、陶器1、かわらけ2。	
262	円形	73×70	54	72	江戸	銭貨12、陶器3。	
263	隅丸長方形	100×72		80	江戸	銭貨18、かわらけ2。	
264	円形	86×75	53	72	江戸	骨片、歯、木片、銭貨6。	
265	円形	83×80	56	113	江戸	木片、銭貨7。	底面に早稲の圧痕。
266	楕円形	52×44		14	江戸	銭貨3。	
267	楕円形	90×62		48	不明	なし。	
268	円形	88×82	62	68	江戸	早稲底板片、銭貨22。	
269	隅丸長方形	93×65		36	江戸	骨片、歯、銭貨17、かわらけ2。	33溝を切る。
270	欠番				不明		
271	不整形	85×54		25	平安以降	土師器破片。	
311	隅丸長方形	248×100		24	近現代	土師器・須恵器破片少量。	136住を切る。
312	不整長方形	145×63		28	近世後半以前	土師器破片少量。	320土壇・55溝を切る。
320	楕円形	(156)×138		25	近世後半以降	土師器破片少量。	312土壇・55溝に切られる。
321	円形	90×87		7	不明	土師器破片少量。	



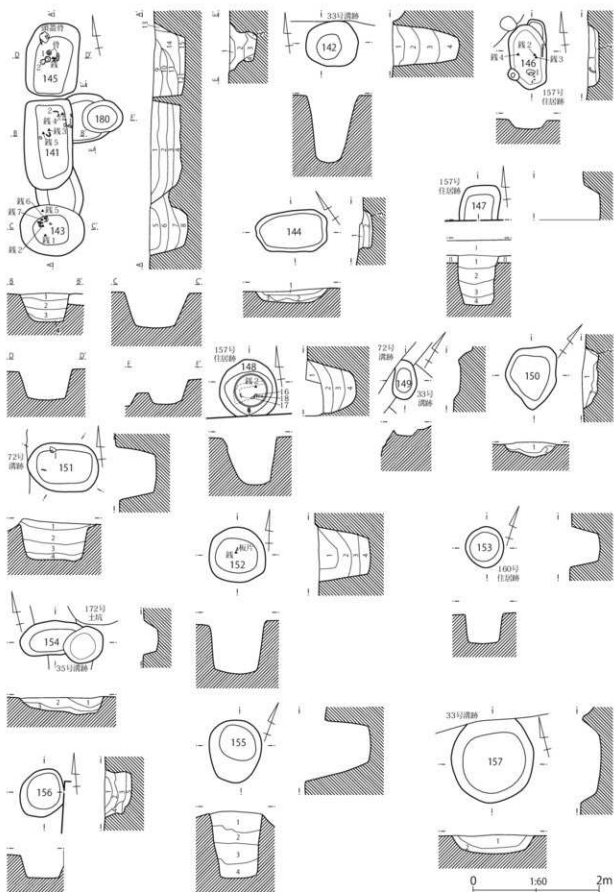
番号	平面形	規模 (cm)	底径	深さ	時代	出土遺物	備考
322	楕円形	124 × 111		16	江戸	土鈴 1。	
323	円形	174 × 165		20	不明	土師器・須恵器破片少量。	
324	円形	92 × 90		25	近世後半以前	土師器破片少量。	59溝に切られる。
325	隅丸長方形	157 × 48		14	不明	土師器破片少量。	
326	隅丸長方形	122 × 80		8	不明	土師器破片少量。	
327	不整楕円形	126 × 76		9	不明	土師器破片少量。	112土坑を切る。
328	楕円形 (106)	106 × 72		14	不明	土師器破片少量。	
329	不明	118 × (79)		17	不明	土師器破片少量。	
330	不整方形	105 × 102		28	不明	なし。	
331	隅丸長方形	190 × 62		20	不明	土師器破片少量。	
334	隅丸長方形	138 × 88		21	不明	なし。	
335	楕円形	137 × 116		10	不明	土師器破片少量。	
336	(長方形)	(397) × 104		50	不明	土師器・須恵器・灰輪碗破片少量。	57・66溝に切られる。
337	不整長方形	140 × 95		18	不明	土師器破片少量。	
338	(隅丸長方形)	(322) × 90		44	不明	土師器・須恵器破片少量。	339土坑・57・66溝に切られる。
339	不整円形	(195) × 192		16	不明	土師器・須恵器破片少量。	338土坑を切り、66溝に切られる。
340	(円形)	98 × (60)		38	不明	なし。	149住を切り、67溝に切られる。
341	楕円形	100 × 89		28	不明	土師器破片少量。	149住を切る。
342	円形	108 × 100		23	近世以降	近世瓦・土師器破片少量。	149住を切る。
343	楕円形	78 × 64		28	不明	なし。	
344	楕円形	78 × 60		56	近世以前	なし。	64溝に切られる。
345	不整長方形	240 × 74		27	不明	土師器破片少量。	
346	不整円形	60 × 60	32	46	不明	なし。	144住を切る。
347	円形	78 × 74	52	130	江戸	平桶底破片、銭貨 12、かわらけ 1。	146住を切る。底破片に銅銭付着痕。
348	円形	83 × 78	54	105	江戸	銭貨 1。	146住を切る。
349	円形	92 × 82	64	137	江戸	かわらけ 1。	146住を切る。
350	円形	162 × 158	57	142	江戸	骨片、木片、土師器破片少量。	
351	不整円形	73 × 68	47	93	江戸	磁器 2、かわらけ 4。	掘出部の中から完形の磁器が 2 個体出土。
352	円形	95 × 95	55	135	江戸	陶器 2、かわらけ 1、焙烙破片。	
353	円形	79 × 74	55	100	江戸	銭貨 2。	
354	円形	73 × (61)	60	35	江戸	かわらけ 2。	
355	(隅丸長方形)	(70) × 63		80	江戸	柏木板片、銭貨 12、かわらけ 1。	底破片に銅銭付着痕。
356	円形	84 × 82	62	125	江戸	銭貨 11。	
357	(円形)	(53) × 86	38	98	江戸	銭貨 1、かわらけ 3。	
358	円形	119 × 116		10	近世後半以降	土師器破片少量。	136住を切る。
359	不整長方形	(110) × 48		36	中世以降	内貝銅破片。	
360	不整円形	77 × 70		26	古墳中期後半	土師器鬘、高環、碗。	
361	不整長方形	92 × 43		27	江戸	銭貨 6。	
362	不整楕円形	243 × 142		48	不明	なし。	
363	不整楕円形	150 × 112		28	不明	なし。	
364	不整楕円形	308 × 191		106	平安	土師器鬘、環、土製紡錘車。	
365	隅丸長方形	81 × 65		18	古墳中期後半	土師器高環脚部。	
366	楕円形	73 × 64		38	不明	土師器破片少量。	
367	不整楕円形	75 × 55		28	平安	土師器鬘、小形台付鬘、高台付環。	368土坑を切る。
368	楕円形	75 × 66		42	平安	高台付環破片。	367土坑に切られる。
369	不明	83 × (28)		75	不明	なし。	
370	(円形)	68 × (23)		110	江戸	なし。	
371	楕円形	68 × 44		30	江戸	陶器 1、かわらけ 1。	
372	円形	130 × 120	100	19	江戸	土師器破片少量。	



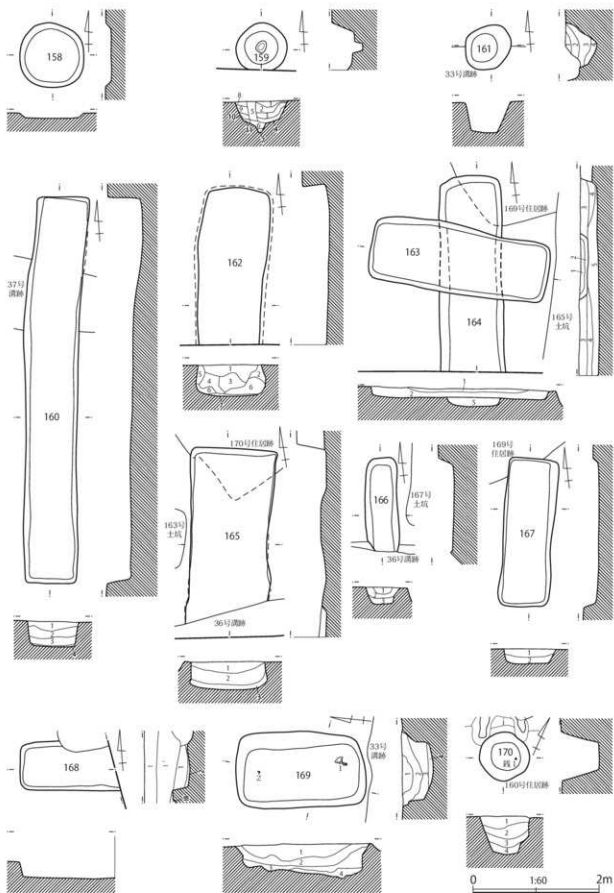
第169图 土坑(1)



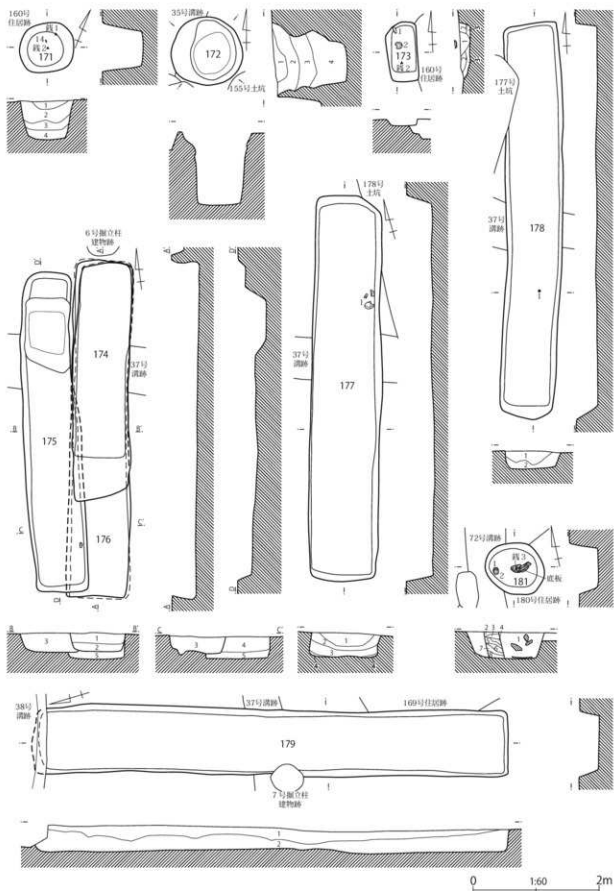
第170圖 土 坑 (2)



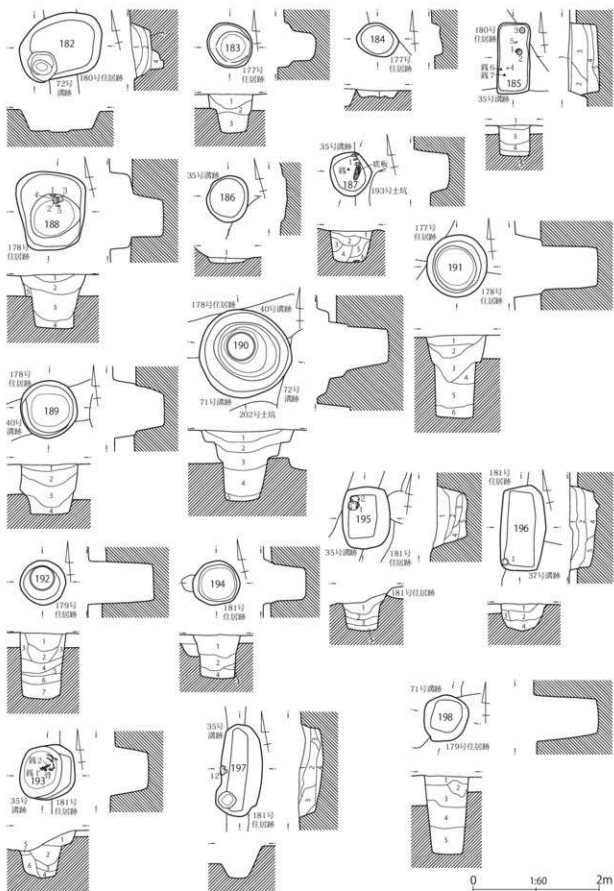
第171圖 土 坑 (3)



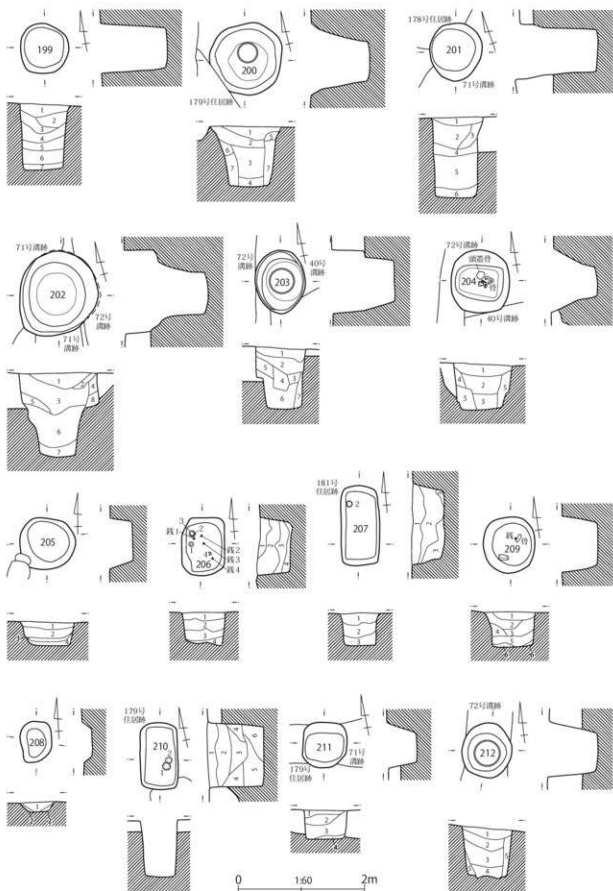
第172圖 土 坑 (4)



第173圖 土坑(5)

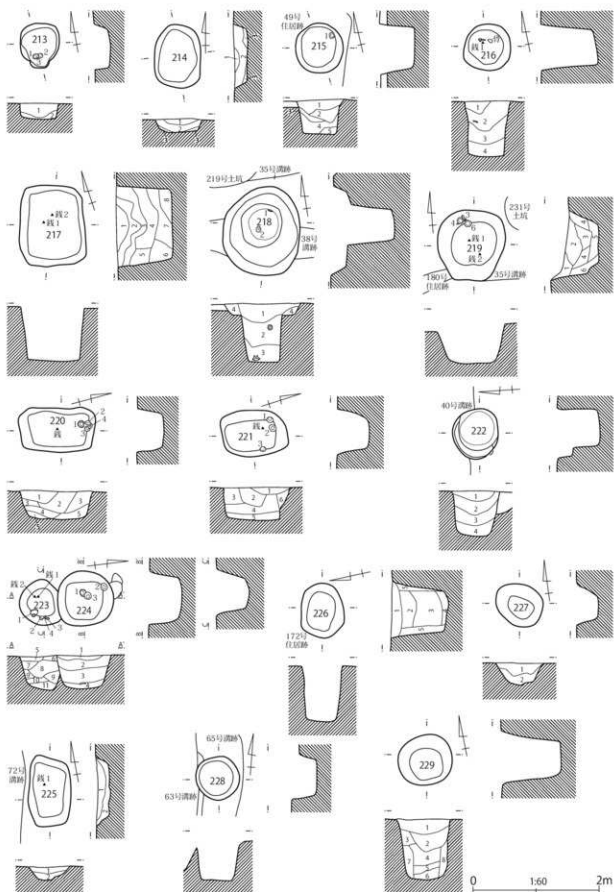


第174图 土坑(6)

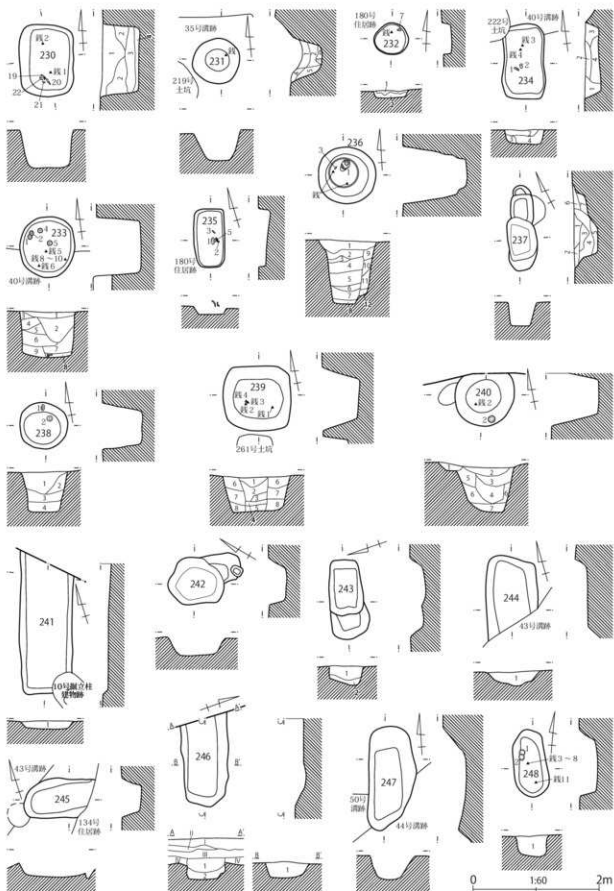


第175圖 土 坑 (7)

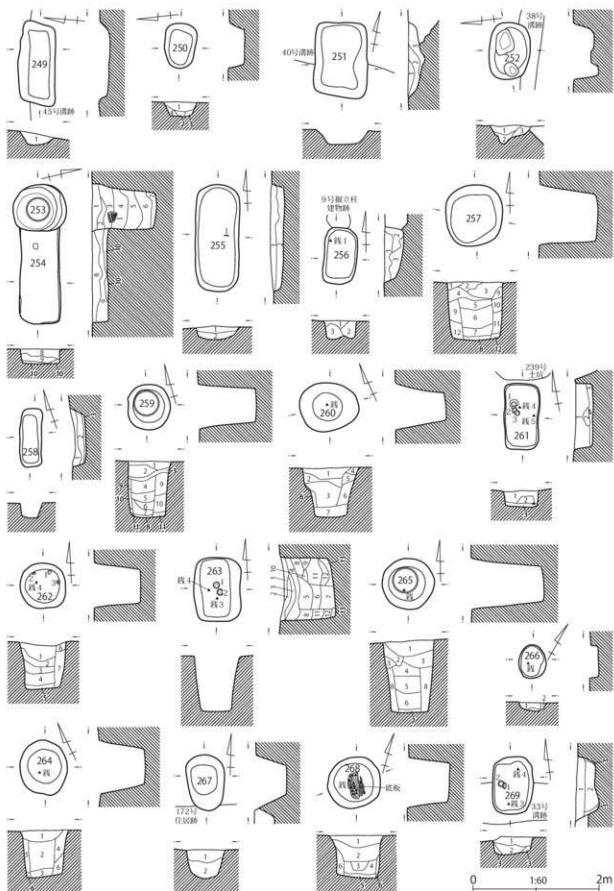




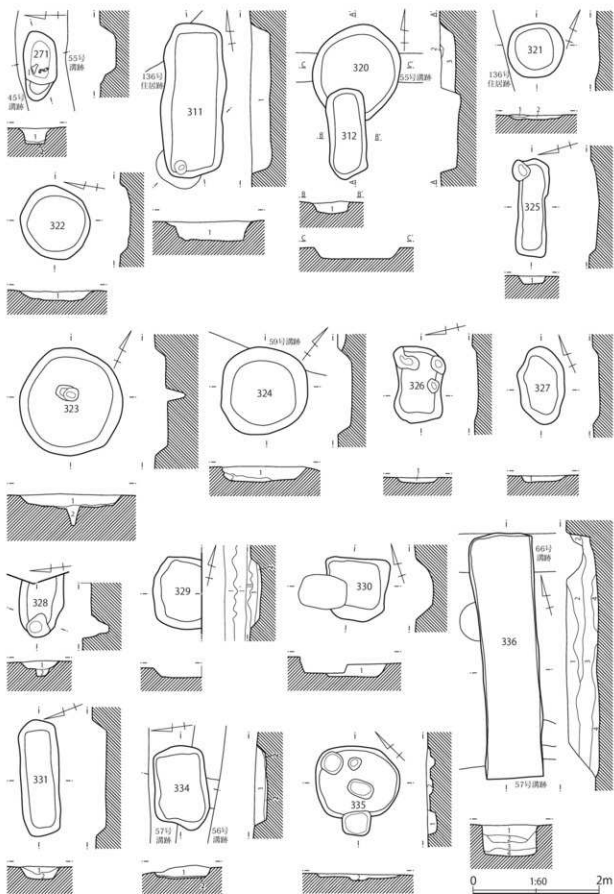
第176图 土坑(8)



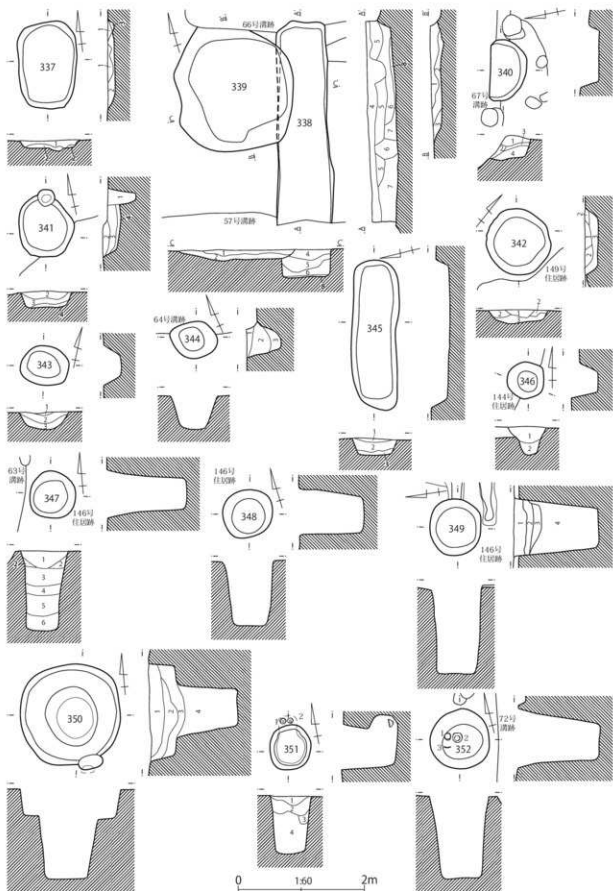
第177图 土坑(9)



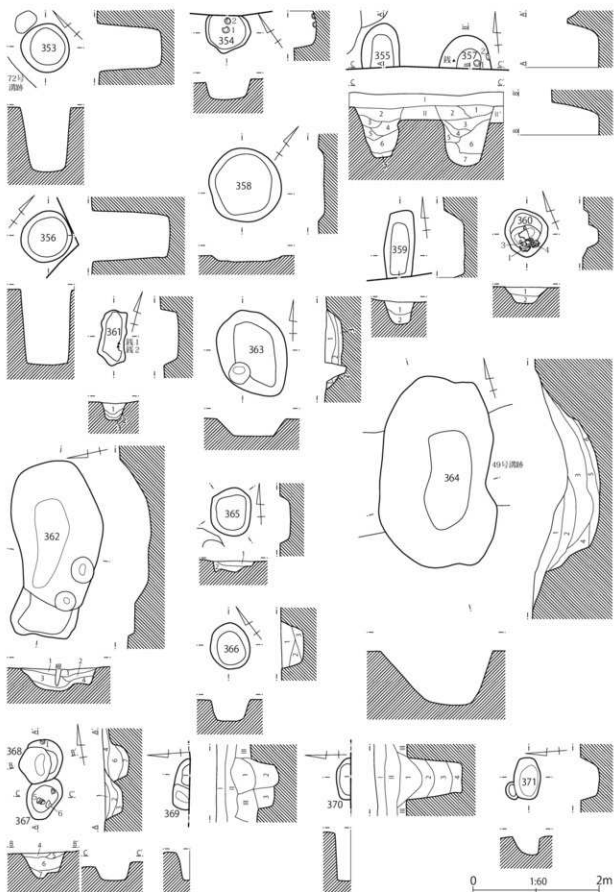
第178圖 土 坑 (10)



第179图 土坑(11)



第180图 土坑(12)



第181圖 土 坑 (13)

＜第112・372(111)号土壌層説明＞

- 第1層：黒褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子を多量に、径5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

＜第113号土壌層説明＞

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径5cmのロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（径5cmのロームブロックを多量に、ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）  
 第4層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量に、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

＜第114号土壌層説明＞

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量に、径1cmのロームブロック・径3cmの炭化物を微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第3層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）  
 第4層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量に、径5cmのロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）  
 第5層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

＜第115号土壌層説明＞

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径3～10cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第6層：暗褐色土層（径10cmのロームブロックを多量に、ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりはない。）

＜第116号土壌層説明＞

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子を少量に、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径5～10cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）

＜第117号土壌層説明＞

- 第1層：黒褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第2層：褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第3層：黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）

＜第119号土壌層説明＞

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量に、径5cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量に、ローム粒子・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径10cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第5層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを多量に、ローム粒子を少量含む。粘性・しまりともない。）

＜第120号土壌層説明＞

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを少量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロックを少量、径5cmのロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径1～3cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第4層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）

＜第121号土壌層説明＞

- 第1層：黒褐色土層（白色粒子・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）





## &lt;第131号土坑土層説明&gt;

第1層：黄褐色土層（径1cmのロームブロックを多量に、ローム粒子を少量、径5cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径5cmのロームブロックを少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第3層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径3～5cmのロームブロックを少量含む。粘性、しまりともない。）

第4層：褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第132号土坑土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（径10cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径10cmのロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：褐色土層（径0.5cmのロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子を少量、径5cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第5層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径5cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第133号土坑土層説明&gt;

第1層：黒褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第134・135号土坑土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（径5cmのロームブロックを多量に、径3cmのロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

第2層：黒褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロックを少量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：黒色土層（径1～3cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5層：黒褐色土層（ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第136号土坑土層説明&gt;

第1層：黒褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第137号土坑土層説明&gt;

第1層：黒褐色土層（径3cmのロームブロックを少量に、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量に、径5cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第5層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を多量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第7層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第8層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第9層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第138号土坑土層説明&gt;

第1層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（ローム粒子を少量に、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第139号土坑土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（径5cmのロームブロックを少量に、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第140号土坑土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（径1cmのローム粒子を多量に、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）

第2層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径5cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径5cmのロームブロックを少量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4層：褐色土層（ローム粒子を少量に、径1～5cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）

第5層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを多量に、ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第141・143・145号土坑土層説明&gt;

## &lt;第141号土坑&gt;

第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量に、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（径1～5cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第143号土坑&gt;

第5層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径5cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）

第7層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量に、ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

第8層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径3～5cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第145号土坑&gt;

第9層：黄褐色土層（ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第10層：褐色土層（ローム粒子を少量に、径3～5cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）

第11層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径3cmのロームブロックを微量含む。）

第12層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径5cmのロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第13層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第14層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）

第15層：褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第142号土坑土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（径3～5cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径1～5cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第4層：黒褐色土層（径3～5cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第144号土坑土層説明&gt;

第1層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第146号土坑土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量に、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）

第2層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径5cmのロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第147号土坑土層説明&gt;

第1層：黒褐色砂質土層（浅間山系A軽石を多量含む。）

## 第2層：暗褐色土層

第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性、しまりともない。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径3～5cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）

第4層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第148号土坑土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロックを少量、浅間山系A軽石を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量に、径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径3cmのロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第150号土坑土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第151号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量に、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量に、径5cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：黄褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第152号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径1～5cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径5～10cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：黄褐色土層（ローム粒子を多量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第4層：黄褐色土層（ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第154号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第155号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量に、径10cmのロームブロック・炭化物・径5cmの礫を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（径5～10cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：暗褐色土層（径5cmのロームブロックを少量に、ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：黒褐色土層（径10cmのロームブロックを少量に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第156号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量に、径5cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径5cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第5層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径5cmのロームブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第157号土坑土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子を少量に、径5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第159号土坑土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：黒褐色土層（ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性、しまりともない。）  
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径5cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第10層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第11層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第160号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径1～5cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量に、炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第161号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径1～3cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第162号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量に、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・径10cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを多量に、ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第5層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第6層：暗褐色土層（径3～5cmのロームブロックを多量に、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第7層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第163・164号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：黒褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第5層：黒褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第165号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量に、ローム粒子・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量に、径5cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：暗褐色土層（径5cmのロームブロックを多量に、径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第166号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径1～3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第167号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第168号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量に、径1cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第169号土坑土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（径3cmのロームブロックを少量に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロック・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：黄褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロック・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第170号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を少量に、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第171号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（径3～5cmのロームブロック・ローム粒子を少量に、焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第4層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径3cmのロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第172号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量に、径1cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物・径5cmの礫を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第173号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：褐色土層（ローム粒子を少量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第174・175・176号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量に、径5cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（径5cmのロームブロック・ローム粒子を少量に、径10cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを少量に、ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第5層：黒褐色土層（径1～3cmのロームブロック粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第177号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量に、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（径3～5cmのロームブロック・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：黒褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第178号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を少量に、炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（径3cmのロームブロックを多量に、ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第179号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量に、径5cmのロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：黒褐色土層（径3cmのロームブロックを多量に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第181号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・浅間山系A軽石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子・鉄屑を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第8層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、鉄屑・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第182号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第183号土坑土層説明&gt;

第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第184号土坑土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第185号土坑土層説明&gt;

第1層：暗黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗灰褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗茶褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第5層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第186号土坑土層説明&gt;

第1層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に、鉄珪を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第187号土坑土層説明&gt;

第1層：暗灰褐色土層（鉄珪を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗灰褐色土層（鉄珪・ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗灰褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗灰褐色土層（ロームブロックを均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：暗灰褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第188号土坑土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、浅間山系A軽石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：黒褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第189号土坑土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、浅間山系A軽石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第4層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第190号土坑土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗灰褐色土層（鉄珪を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第191号土坑土層説明&gt;

第1層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロック・浅間山系A軽石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第3層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第4層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第5層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第6層：暗灰褐色土層（鉄珪を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第192号土坑土層説明&gt;

第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、浅間山系A軽石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



## &lt;第200号土坑土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、径5cm大のロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第7層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第201号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗灰色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第6層：暗灰色土層（鉄斑を均一に、ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第202号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗茶褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、鉄斑・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：暗茶褐色土層（鉄斑・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第7層：暗灰色土層（鉄斑・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第8層：暗褐色土層（鉄斑・ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第203号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗茶褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第6層：暗灰色土層（鉄斑を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第7層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第204号土坑土層説明&gt;

- 第1層：淡灰褐色土層（ローム粒子を均一に、浅間山系A軽石・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗灰褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第205号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、浅間山系A軽石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、浅間山系A軽石・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗黄褐色土層（ローム粒子・鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第206号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・浅間山系A軽石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）



## &lt;第207号土壌土層説明&gt;

第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第208号土壌土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗黄褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第209号土壌土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

第6層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第210号土壌土層説明&gt;

第1層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗灰褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第6層：暗灰褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第211号土壌土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第212号土壌土層説明&gt;

第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、浅間山系A軽石・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

第4層：暗灰色土層（鉄斑・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）

第5層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第213号土壌土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第214号土壌土層説明&gt;

第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第215号土壌土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第216号土壌土層説明&gt;

第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）



- 第8層：暗茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第9層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第10層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第11層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

<第225号土坑土層説明>

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）

<第226号土坑土層説明>

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、浅間山系A軽石・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗灰褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第227号土坑土層説明>

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第229号土坑土層説明>

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第5層：淡褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性、しまりともない。）  
 第6層：淡灰色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性、しまりともない。）  
 第7層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性、しまりともない。）  
 第8層：淡褐色土層（ローム粒子を主体に、ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）

<第230号土坑土層説明>

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：淡灰褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第231号土坑土層説明>

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第3層：淡灰褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第232号土坑土層説明>

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：暗黄褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）

<第233号土坑土層説明>

- 第1層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性、しまりともない。）  
 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に、ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第8層：暗灰褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第234号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第236号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性、しまりともない。）  
 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第6層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性、しまりともない。）  
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第8層：暗黄褐色土層（鉄斑・ローム粒子を均一に含む。粘性、しまりともない。）  
 第9層：暗茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第10層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第11層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第12層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第237号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗黄褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。）  
 第6層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性、しまりともない。）  
 第7層：暗茶褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第238号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第239号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：暗黄褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第5層：暗黄褐色土層（鉄斑を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第6層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第7層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第8層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第240号土坑土層説明&gt;

- 第1層：淡褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第5層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第7層：暗黄褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第241号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径3～5cmのロームブロック・埴土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第243号土壌層説明&gt;

- 第1層：淡黄褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：黒褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第244号土壌層説明&gt;

- 第1層：淡黄褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第246号土壌層説明&gt;

- 第1層：黄灰色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：灰黄色土層（灰黄色粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：褐灰色土層（黄褐色粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：褐灰色土層（灰褐色粘土粒子を少量、灰黄色粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第1層：褐灰色土層（径0.5～2cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：褐灰色土層（径0.5～1cmのロームブロックを少量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第248号土壌層説明&gt;

- 第1層：黄灰色土層（径0.5～2cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第249号土壌層説明&gt;

- 第1層：黒色土層（径1～4cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第250号土壌層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量に、径5cmのロームブロック・炭化物・浅間山系A軽石を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：褐色土層（ローム粒子を多量に、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第251号土壌層説明&gt;

- 第1層：黄褐色土層（ローム粒子を少量に、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量に、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第252号土壌層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第253・254号土壌層説明&gt;

- 第1層：暗茶褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第7層：暗灰褐色土層（鉄斑・ローム粒子・白色粘土粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第9層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第10層：暗灰褐色土層（鉄斑・ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第255号土壌層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第256号土壌層説明&gt;

- 第1層：暗黄褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）



## &lt;第263号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性、しまりともない。）  
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性、しまりともない。）  
 第8層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第10層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第11層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第12層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第13層：暗黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第264号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：暗灰褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第265号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性、しまりともない。）  
 第7層：淡褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第266号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗茶褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第267号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第268号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第3層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第6層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量に、ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第269号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第271号土坑土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（径1～5cmのロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

## &lt;第311号土坑土層説明&gt;

第1層：灰黄褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性・しまりともない。）

## &lt;第312・320号土坑土層説明&gt;

第1層：暗茶褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：黄灰色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（ロームブロックを微量に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第321号土坑土層説明&gt;

第1層：黒灰色土層（ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第322号土坑土層説明&gt;

第1層：黒褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第323号土坑土層説明&gt;

第1層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黒色土層（ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

## &lt;第324号土坑土層説明&gt;

第1層：黒灰色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黒色土層（ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

## &lt;第325号土坑土層説明&gt;

第1層：黒褐色土層（ロームブロックを多量、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第326号土坑土層説明&gt;

第1層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第327号土坑土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第328号土坑土層説明&gt;

第1層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第329号土坑土層説明&gt;

第1層：灰黄褐色砂質土。

第1層：灰黄褐色砂質粘質土。

第2層：暗褐色粘質土。

第1層：黒褐色土層（ロームブロックを多量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第330号土坑土層説明&gt;

第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第331号土坑土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを少量、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第334号土坑土層説明&gt;

第1層：暗黄褐色土層（径5～10cmのロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第335号土坑土層説明&gt;

第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



## &lt;第336号土坑土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（径3～5cmのロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（径2～3cmのロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（径2～3cmのロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第337号土坑土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第338・339号土坑土層説明&gt;

- 第1層：淡灰褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、浅間山系A軽石・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗褐色土層（径2～3cmのロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：暗褐色土層（径5～10cmのロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第7層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第8層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第340号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：淡褐色土層（淡褐色粘土粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第341号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・鉄炭を微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第3層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性、しまりともない。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性、しまりともない。）

## &lt;第342号土坑土層説明&gt;

- 第1層：淡褐色土層（浅間山系A軽石を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第343号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第344号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第345号土坑土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第3層：淡黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

## &lt;第346号土坑土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（焼土粒子を少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第347号土壌土層説明&gt;

- 第1層：暗灰褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第3層：暗灰褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第4層：暗灰褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）  
 第5層：暗灰褐色土層（ローム粒子・鉄屑を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第6層：暗灰褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）

## &lt;第349号土壌土層説明&gt;

- 第1層：淡茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第2層：淡茶褐色土層（ローム粒子・白色粘土粒子を微量に含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第3層：淡茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第350号土壌土層説明&gt;

- 第1層：淡灰褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第2層：淡灰褐色土層（ローム粒子・鉄屑を均一に含む。粘性・しまりともない。）  
 第3層：淡灰褐色土層（径5cmのロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）  
 第4層：淡灰褐色土層（ローム粒子・細砂を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

## &lt;第351号土壌土層説明&gt;

- 第1層：暗黄褐色土層（ローム粒子を均一に、径3～5cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第3層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第355・357号土壌土層説明&gt;

- 第1層：暗灰褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗灰褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・白色粘土粒子を微量に含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第5層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第7層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）

## &lt;第359号土壌土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第360号土壌土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第361号土壌土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第362号土壌土層説明&gt;

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第363号土壌土層説明&gt;

- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を多量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）

- 第2層：黒褐色土層（窪間山系A軽石を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

＜第364号土坑土層説明＞

- 第1層：黒褐色土層（細砂を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：黒褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：黒色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを少量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

＜第365号土坑土層説明＞

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第2層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

＜第366号土坑土層説明＞

- 第1層：暗灰褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第3層：暗灰褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

＜第367・368号土坑土層説明＞

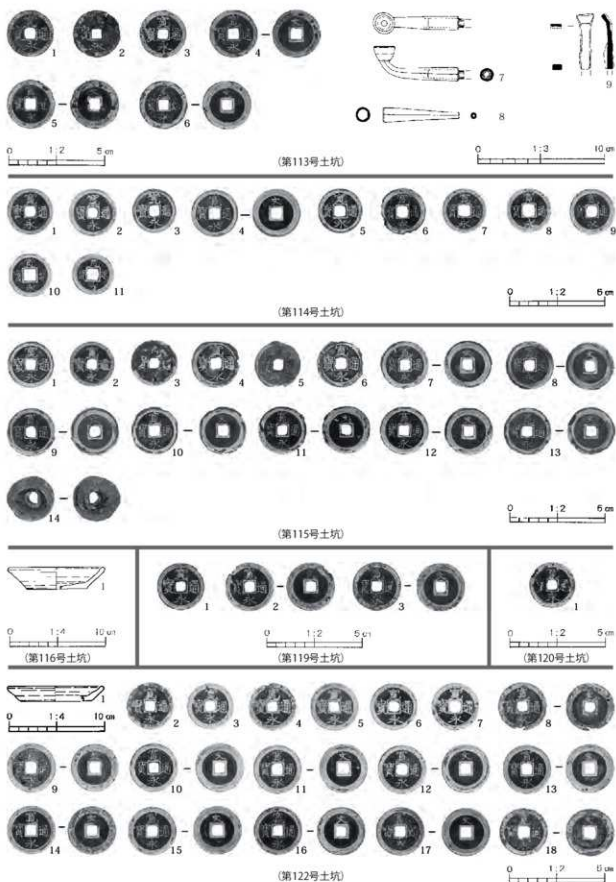
- 第1層：黒褐色土層（炭化粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：黒色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：黒色土層（炭化粒子を多量、焼土粒子を少量に含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第5層：褐色土層（焼土粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第7層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

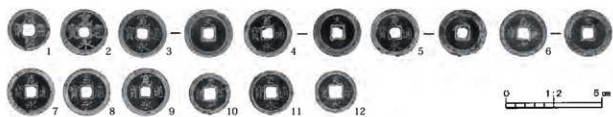
＜第369号土坑土層説明＞

- 第1層：暗茶灰色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）  
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

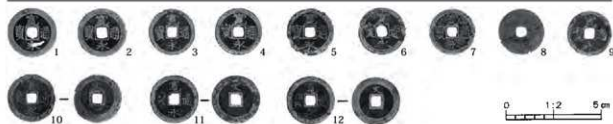
＜第370号土坑土層説明＞

- 第1層：暗茶灰色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）  
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第3層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）  
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

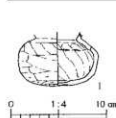




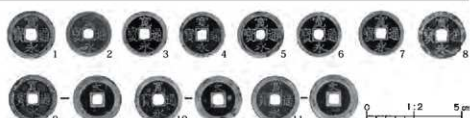
(第124号土坑)



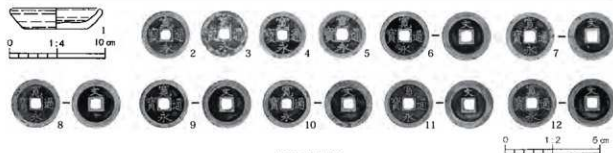
(第125号土坑)



(第126号土坑)



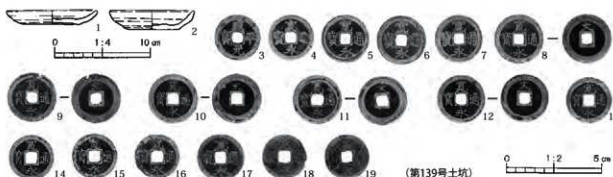
(第127号土坑)



(第128号土坑)

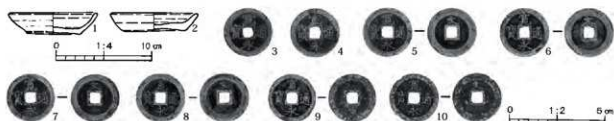


(第132号土坑)

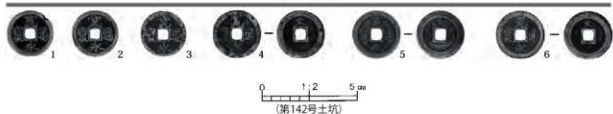


(第139号土坑)

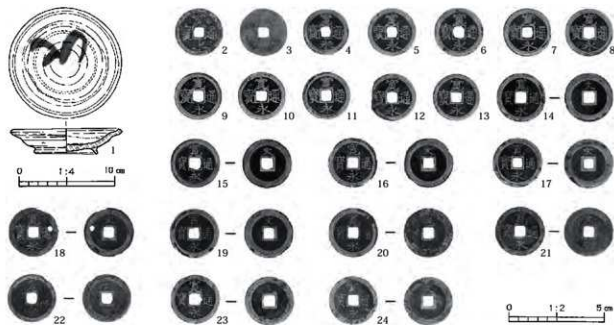
第183图 土坑出土遗物(2)



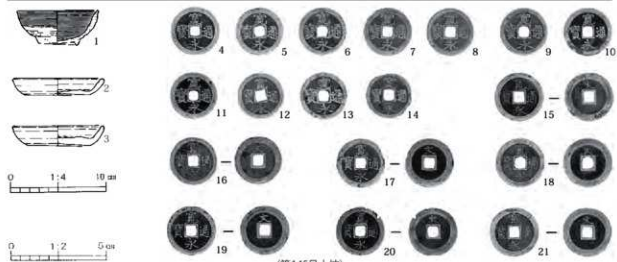
(第141号土坑)



(第142号土坑)

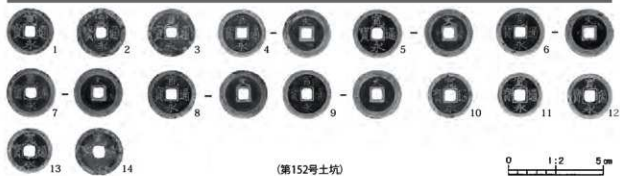
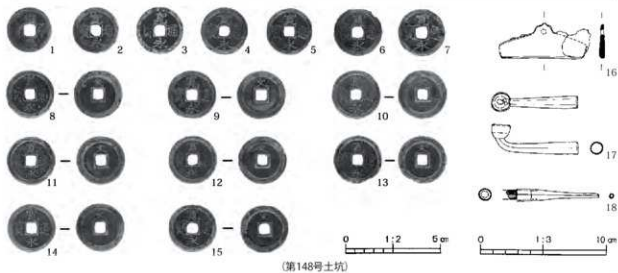
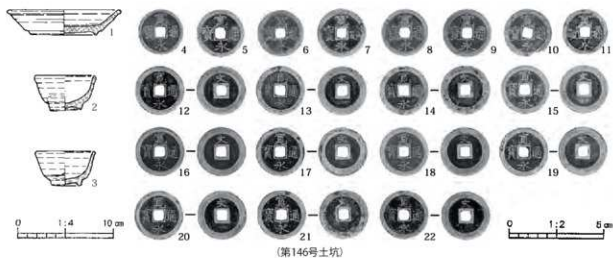


(第143号土坑)

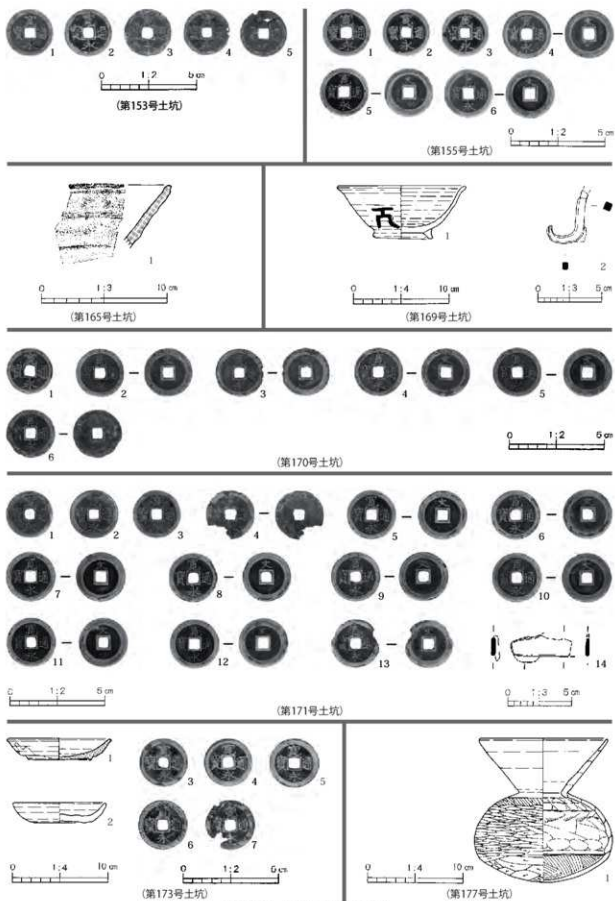


(第145号土坑)

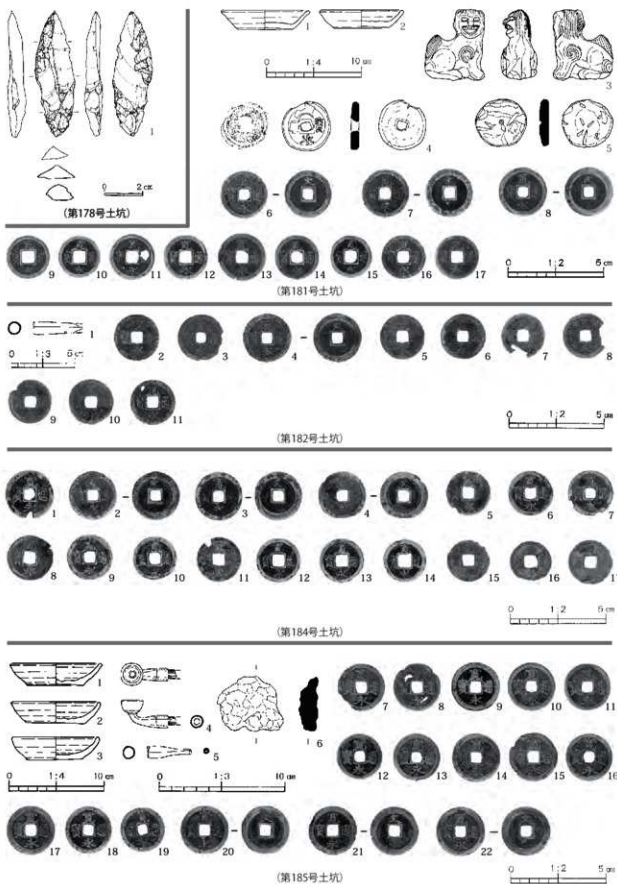
第184图 土坑出土遗物(3)

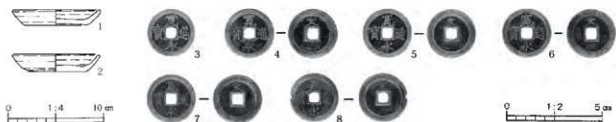


第185图 土坑出土遗物(4)

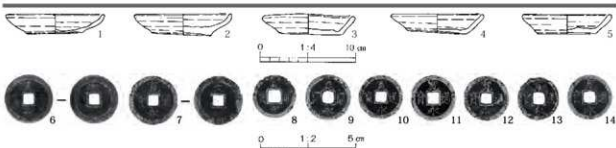




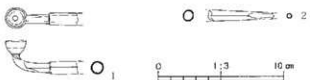




(第187号土坑)



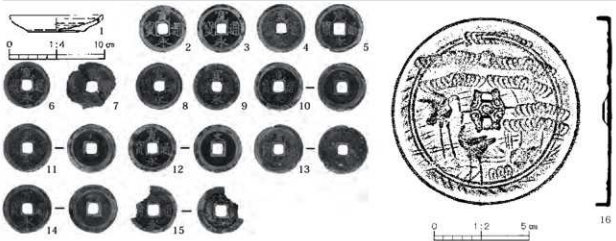
(第188号土坑)



(第189号土坑)



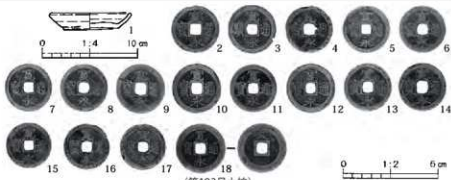
(第190号土坑)



(第191号土坑)

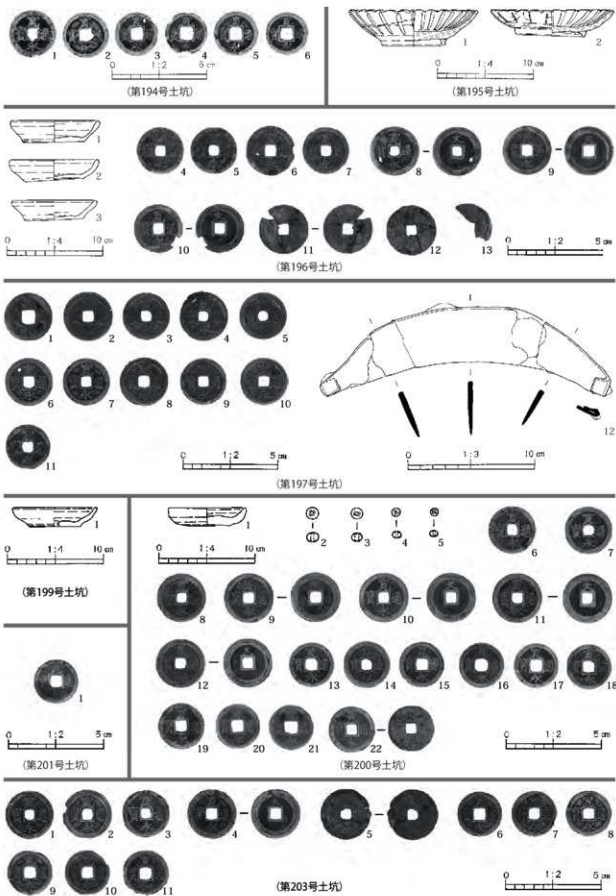


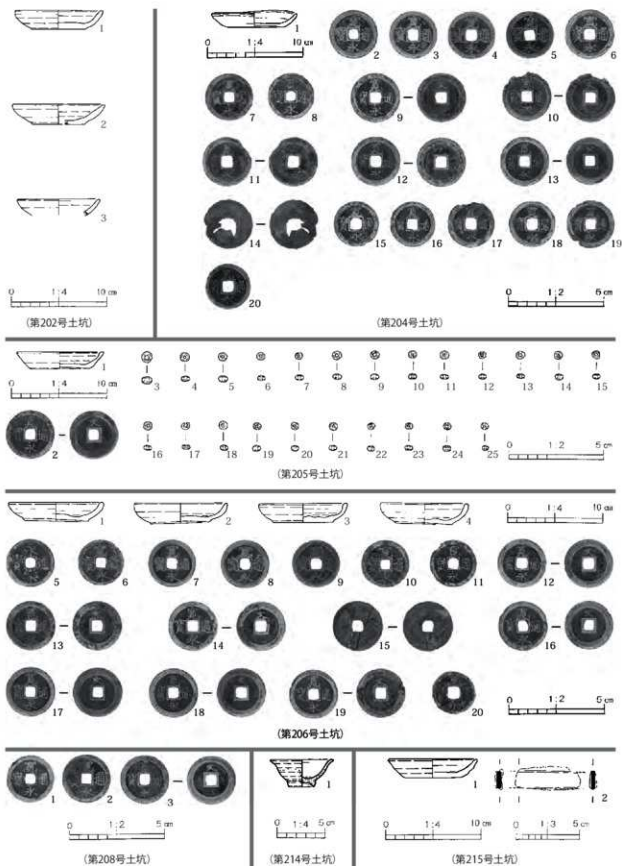
(第192号土坑)



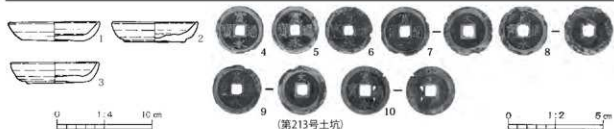
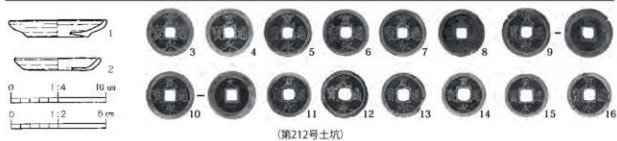
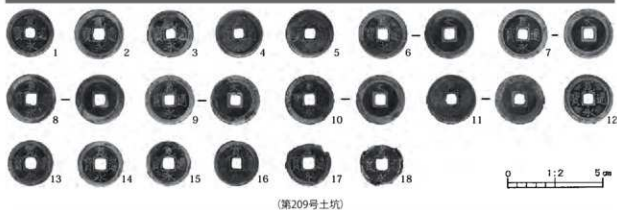
(第193号土坑)

第188图 土坑出土遗物 (7)

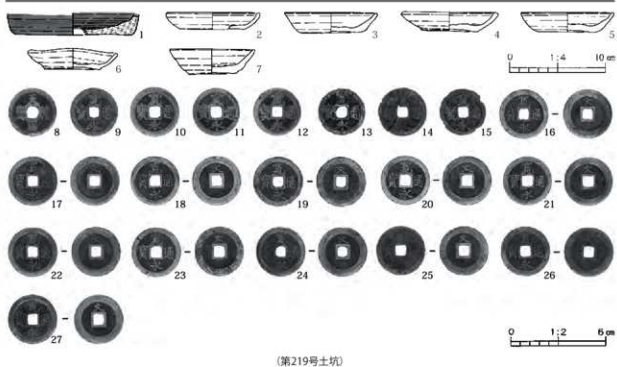
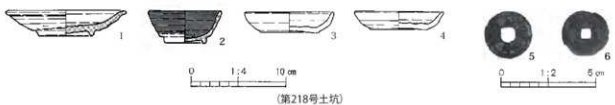
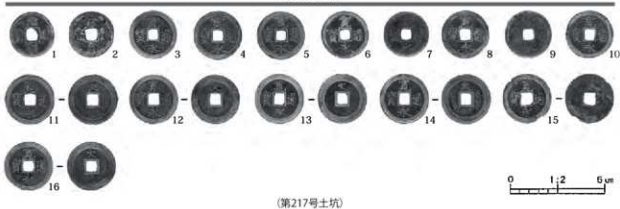




第190图 土坑出土遗物(9)



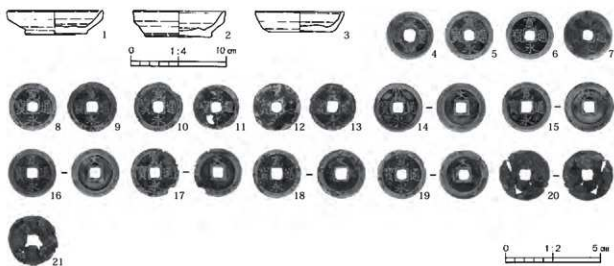
第191图 土坑出土遗物(10)



第192图 土坑出土遗物 (11)



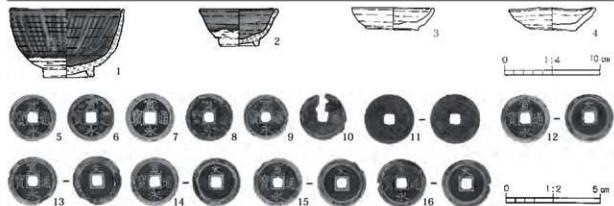
(第220号土坑)



(第221号土坑)



(第222号土坑)



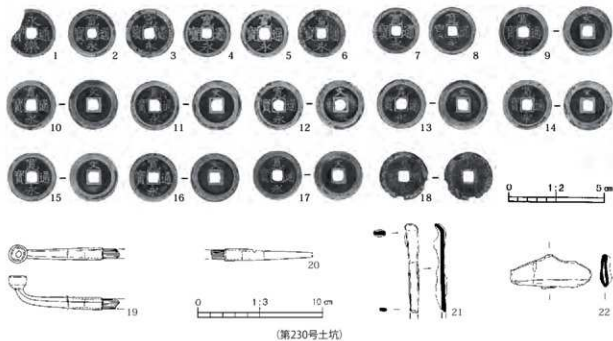
(第223号土坑)



(第224号土坑)

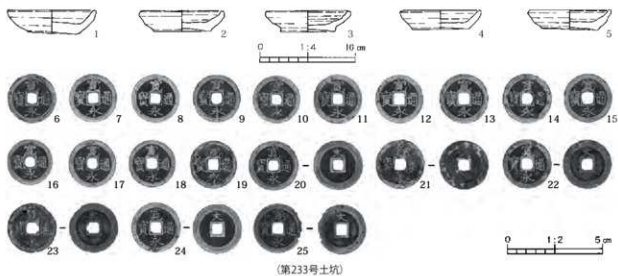
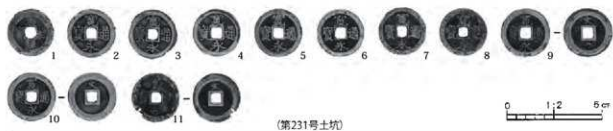
第193图 土坑出土遗物 (12)



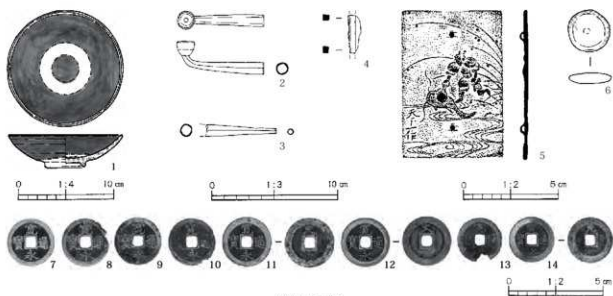


第194图 土坑出土遗物 (13)

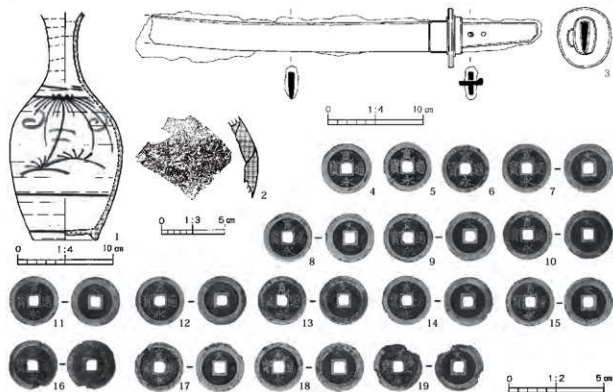




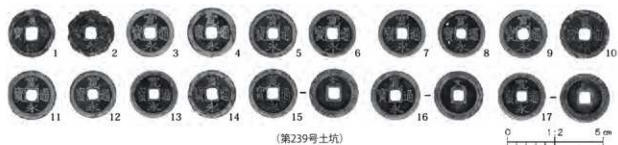
第195图 土坑出土遗物 (14)



(第235号土坑)

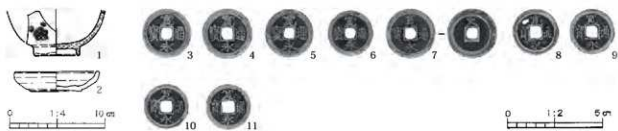


(第236号土坑)

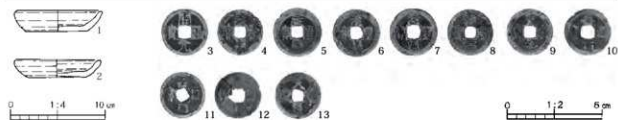


(第239号土坑)

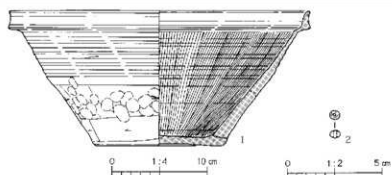
第196图 土坑出土遗物 (15)



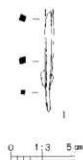
(第240号土坑)



(第248号土坑)



(第253号土坑)



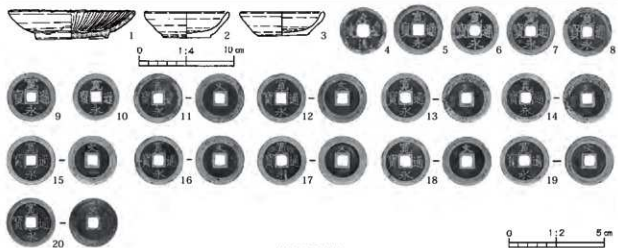
(第255号土坑)



(第256号土坑)

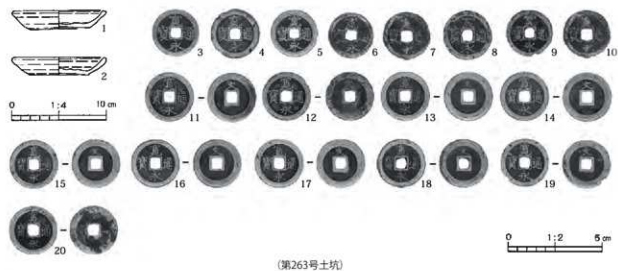


(第257号土坑)

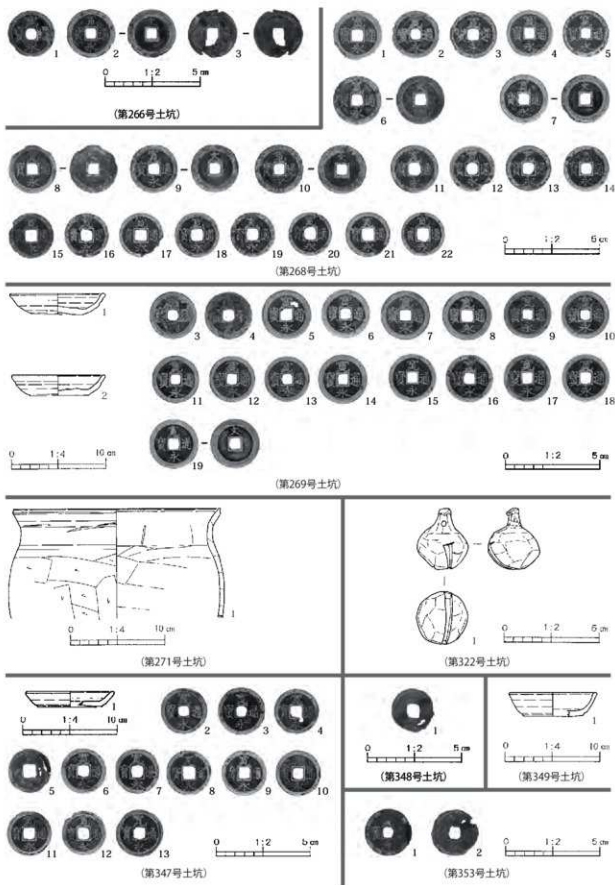


(第261号土坑)

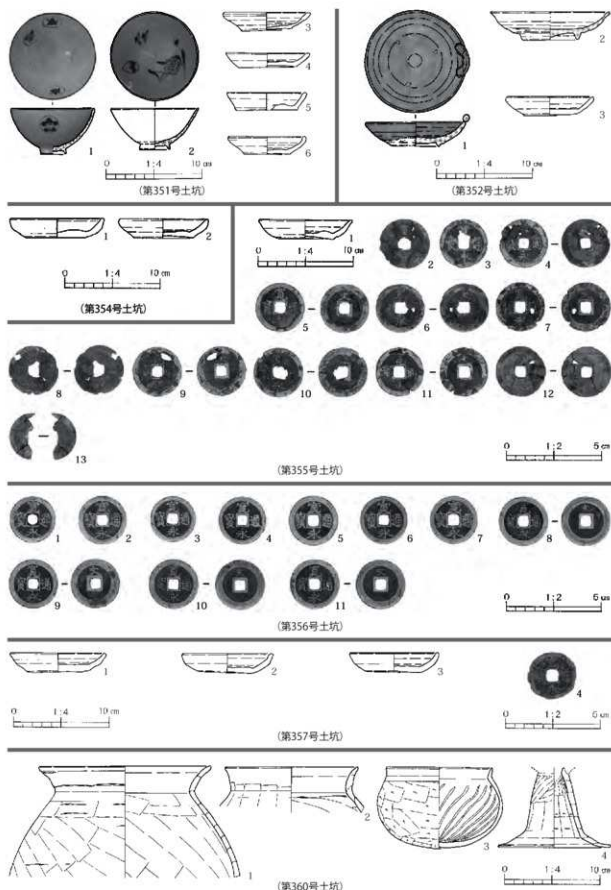
第197图 土坑出土遺物 (16)



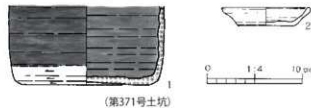
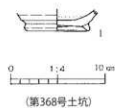
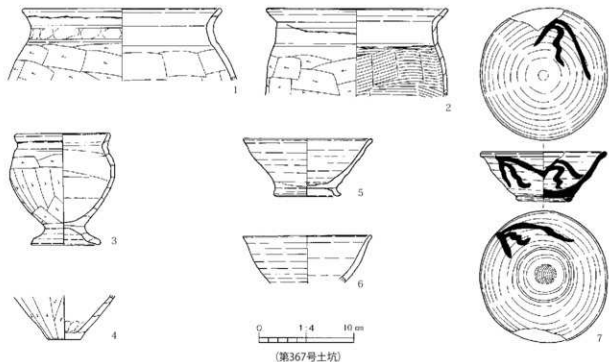
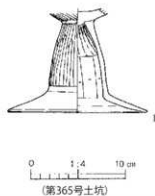
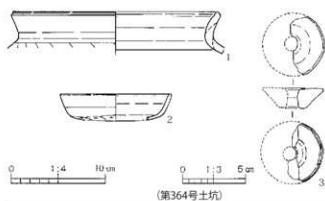
第198图 土坑出土遺物 (17)



第199图 土坑出土遗物 (18)



第200图 土坑出土遗物 (19)



第201图 土坑出土遗物 (20)

第67表 第113号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), 六道銭?, H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), 六道銭?, H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.47,厚さ0.09,重さ2.8g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), 六道銭?, H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ2.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, 六道銭?, H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.56,厚さ0.10,重さ2.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, 六道銭?, H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.10,重さ3.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, 六道銭?, H.覆土中。
7	煙管(煙首)	A.全長6.8, 首部最大径1.1, 火皿径1.7, 火皿高1.2, 厚さ0.18, 重さ10.1g, B.銅版型切り後曲げ, 火皿接着, D.銅製, F.完形, G.竹製の羅字が一部残る, H.覆土中。
8	煙管(吸口)	A.全長6.1, 最大径1.1, 厚さ0.18, 重さ5.9g, B.銅版型切り後曲げ, D.銅製, F.完形, H.覆土中。
9	踏鉄製品	A.残存長4.5, 最大幅1.4, 厚さ0.4, 重さ2.6g, B.鍛造, D.鉄製, F.1/2(下半欠損), H.覆土中。

第68表 第114号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.40,厚さ0.10,重さ2.8g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.30,厚さ0.09,重さ2.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.32,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.42,厚さ0.09,重さ2.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.29,厚さ0.10,重さ2.5g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.33,厚さ0.09,重さ2.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.38,厚さ0.10,重さ2.3g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.26,厚さ0.08,重さ1.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.16,厚さ0.09,重さ2.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。

第69表 第115号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.12,重さ3.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.35,厚さ0.09,重さ2.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.10,重さ2.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.13,重さ2.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.12,重さ2.5g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.12,重さ2.8g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ3.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ2.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ3.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.10,重さ3.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
13	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.10,重さ2.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
14	煙管	A.径2.40×2.50,厚さ0.13,重さ3.3g, B.煙管の煙首を鍛打圧延, D.銅製, F.完形, G.模造鉄, H.覆土中。

第70表 第116号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ	A.口縁部径(10.2), 器高2.3, 底部径(6.4), B.ロクロ成形, C.内外面回転子, 底部外面回転系切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一白褐色, F.2/3, H.覆土中。
---	------	--

第71表 第119号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.12,重さ3.8g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.10,重さ3.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.14,重さ4.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。



第72表 第120号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.39,厚さ0.12,重さ3.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
---	------	--

第73表 第122号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径(10.2)、器高1.6、底部径(7.4)、B.ロウ口成形, C.内外面回転ナズ, 底部外面回転糸切り, D.赤色釉、白色絵, E.内外一決褐色色, F.口縁部1/4, G.口縁部に煤付着, H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.10,重さ2.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No.2。
3	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.09,重さ2.8g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.10,重さ2.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.10,重さ2.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No.1。
9	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.10,重さ3.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No.3。
10	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.13,重さ4.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.11,重さ3.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
13	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
14	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.10,重さ3.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
15	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.10,重さ3.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
16	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.13,重さ3.8g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
17	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.09,重さ2.5g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
18	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ2.3g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。

第74表 第124号土坑出土遺物観察表

1	元豊通寶	A.直径2.23,厚さ0.07,重さ1.5g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.1078年初鑄(宋銭), H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.10,重さ3.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.12,重さ3.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ3.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.11,重さ3.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.08,重さ2.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.10,重さ3.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.12,重さ3.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.18,厚さ0.08,重さ1.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.32,厚さ0.11,重さ2.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.22,厚さ0.06,重さ1.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。

第75表 第125号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.57,厚さ0.10,重さ2.9g, B.鑄造, D.銅製, F.ほぼ完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.14,重さ4.3g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.10,重さ2.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.12,重さ3.5g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.11,重さ2.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.47,厚さ0.09,重さ2.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.40,厚さ0.08,重さ2.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.42,厚さ0.12,重さ1.9g, B.鑄造, D.銅製, F.ほぼ完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.35,厚さ0.10,重さ1.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.12,重さ2.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.12,重さ3.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。

第76表 第126号土坑出土遺物観察表

1	小形直口壺	A. 残存高5.6, B. 胎土粘り上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリの後上半ナデ, 内面指ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 胴部のみ, G. 胴部外面に黒質あり, H. 底面付近。
---	-------	--

第77表 第127号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A. 直径2.53, 厚さ0.09, 重さ2.9g, B. 鑄造, D. 銅製, F. ほぼ方形, G. 古寛永(1636年初鑄), H. 覆土中。
2	寛永通寶	A. 直径2.40, 厚さ0.13, 重さ4.0g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 古寛永(1636年初鑄), H. 覆土中。
3	寛永通寶	A. 直径2.38, 厚さ0.10, 重さ3.0g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 古寛永(1636年初鑄), H. 覆土中。
4	寛永通寶	A. 直径2.41, 厚さ0.11, 重さ2.9g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 古寛永(1636年初鑄), H. 覆土中。
5	寛永通寶	A. 直径2.38, 厚さ0.09, 重さ2.7g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 古寛永(1636年初鑄), H. 覆土中。
6	寛永通寶	A. 直径2.45, 厚さ0.11, 重さ3.2g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 古寛永(1636年初鑄), H. 覆土中。
7	寛永通寶	A. 直径2.39, 厚さ0.12, 重さ3.5g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 古寛永(1636年初鑄), H. 覆土中。
8	寛永通寶	A. 直径2.50, 厚さ0.08, 重さ2.5g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 古寛永(1636年初鑄), H. 覆土中。
9	寛永通寶	A. 直径2.55, 厚さ0.09, 重さ2.7g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H. 覆土中。
10	寛永通寶	A. 直径2.51, 厚さ0.10, 重さ2.9g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H. 覆土中。
11	寛永通寶	A. 直径2.57, 厚さ0.11, 重さ3.5g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H. 覆土中。

第78表 第128号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径9.8, 器高2.1, 底径径(6.8), B. ロクロ成形, C. 内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D. 赤色粒, 白色粒, E. 外一淡褐色, 内一明褐色, F. 1/4, G. 外面に煤付着, H. 覆土中。
2	寛永通寶	A. 直径2.48, 厚さ0.12, 重さ3.8g, B. 鑄造, D. 銅製, F. ほぼ方形, G. 古寛永(1636年初鑄), H. 覆土中。
3	寛永通寶	A. 直径2.42, 厚さ0.10, 重さ2.7g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 古寛永(1636年初鑄), H. 覆土中。
4	寛永通寶	A. 直径2.42, 厚さ0.11, 重さ3.8g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 古寛永(1636年初鑄), H. 覆土中。
5	寛永通寶	A. 直径2.46, 厚さ0.12, 重さ3.6g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 古寛永(1636年初鑄), H. 覆土中。
6	寛永通寶	A. 直径2.53, 厚さ0.11, 重さ3.3g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H. 覆土中。
7	寛永通寶	A. 直径2.50, 厚さ0.11, 重さ3.0g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H. 覆土中。
8	寛永通寶	A. 直径2.51, 厚さ0.12, 重さ3.3g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H. 覆土中。
9	寛永通寶	A. 直径2.52, 厚さ0.12, 重さ3.6g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H. 覆土中。
10	寛永通寶	A. 直径2.48, 厚さ0.14, 重さ4.1g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H. 覆土中。
11	寛永通寶	A. 直径2.51, 厚さ0.12, 重さ3.5g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H. 覆土中。
12	寛永通寶	A. 直径2.51, 厚さ0.12, 重さ3.4g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H. 覆土中。

第79表 第132号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ	A. 口縁部径9.0, 器高2.3, 底径径5.3, B. ロクロ成形, C. 内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 3/4, H. 底面直上。
2	かわらけ	A. 口縁部径9.0, 器高2.3, 底径径5.6, B. ロクロ成形, C. 内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 方形, H. 底面直上。
3	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径9.4, 器高2.6, 底径径5.8, B. ロクロ成形, C. 内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 4/5, G. 口縁部に煤付着, H. 底面直上。
4	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径9.2, 器高2.5, 底径径5.2, B. ロクロ成形, C. 内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D. 赤色粒, 白色粒, E. 外一淡褐色, 内一暗褐色, F. 4/5, G. 内面に煤付着, H. 底面直上。
5	かわらけ	A. 口縁部径(9.4), 器高2.0, 底径径6.2, B. ロクロ成形, C. 内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 1/3, H. 覆土中。

第80表 第139号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ	A. 口縁部径9.6, 器高1.5, 底径径6.0, B. ロクロ成形, C. 内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 方形, H. 底面付近。
2	かわらけ	A. 口縁部径9.0, 器高2.0, 底径径5.8, B. ロクロ成形, C. 内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 方形, H. 底面直上。
3	咸平元寶	A. 直径2.37, 厚さ0.08, 重さ2.4g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 998年初鑄(北宋銭), H. 覆土中。
4	寛永通寶	A. 直径2.34, 厚さ0.10, 重さ2.8g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 古寛永(1636年初鑄), 六道銭, H. No. 7, 覆土中。
5	寛永通寶	A. 直径2.47, 厚さ0.11, 重さ3.2g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 古寛永(1636年初鑄), H. 覆土中。
6	寛永通寶	A. 直径2.54, 厚さ0.12, 重さ3.7g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 古寛永(1636年初鑄), H. 覆土中。
7	寛永通寶	A. 直径2.46, 厚さ0.13, 重さ3.9g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 古寛永(1636年初鑄), H. 覆土中。
8	寛永通寶	A. 直径2.53, 厚さ0.12, 重さ3.6g, B. 鑄造, D. 銅製, F. 方形, G. 文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H. 六道銭, No. 7, 覆土中。

9	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.10,重さ3.2g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ2.9g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.47,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
13	寛永通寶	A.直径2.36,厚さ0.09,重さ2.1g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.新寛永(1697年初鋳), 六道銭?, H.No 3, 覆土中。
14	寛永通寶	A.直径2.30,厚さ0.09,重さ2.7g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.新寛永(1697年初鋳), 六道銭, H.No 7, 覆土中。
15	寛永通寶	A.直径2.31,厚さ0.10,重さ3.1g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.新寛永(1697年初鋳), 六道銭, H.No 7, 覆土中。
16	寛永通寶	A.直径2.30,厚さ0.09,重さ2.2g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.新寛永(1697年初鋳), 六道銭, H.No 7, 覆土中。
17	寛永通寶	A.直径2.41,厚さ0.09,重さ2.5g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
18	寛永通寶	A.直径2.29,厚さ0.09,重さ2.5g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
19	寛永通寶	A.直径2.30,厚さ0.12,重さ3.0g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。

第81表 第141号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.4,器高2.3,底部径5.7, B.ロウク成形, C.内外面回転ず, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.2/3, G.口唇部の一部に覆付着, H.覆土中。
2	かわらけ	A.口縁部径9.2,器高2.0,底部径6.7, B.ロウク成形, C.内外面回転ず, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完成, H.底面付近。
3	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.14,重さ4.6g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.No 3, 覆土上層。
4	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.13,重さ3.7g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.No 3, 覆土上層。
5	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.11,重さ2.9g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.No 3, 覆土上層。
6	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.12,重さ3.4g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.No 3, 覆土上層。
7	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.13,重さ3.6g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.No 3, 覆土上層。
8	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.12,重さ3.6g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.No 3, 覆土上層。
9	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.10,重さ2.4g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 4。
10	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ2.8g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 5。

第82表 第142号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.39,厚さ0.09,重さ2.6g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭?, H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.39,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭?, H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.37,厚さ0.11,重さ2.4g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭?, H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.10,重さ2.4g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭?, H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭?, H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.12,重さ3.4g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭?, H.覆土中。

第83表 第143号土坑出土遺物観察表

1	瀬戸美濃瀬戸 折鉢鉄軸系	A.口縁部径11.8,器高2.7,高台部径6.7, B.ロウク成形, 高台部貼り付け, C.口縁部内外面回転ず, 底部外面回転軸付, 高台部内外面回転ず, 底部外面回転軸付, D.白色粒, E.内外一淡黄白色, F.完成, G.反軸は掛け塗, 内面に鉄軸による絵と, 重ね様による高台部の圧痕あり, H.覆土中層。
2	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.12,重さ2.9g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 1, 覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.14,重さ2.2g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 1, 覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.37,厚さ0.10,重さ3.2g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 2, 覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.47,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 2, 覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ3.3g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 2, 覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.14,重さ4.1g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 2, 覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.11,重さ3.0g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 5, 覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.12,重さ3.6g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.10,重さ2.6g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
13	寛永通寶	A.直径2.42,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
14	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.13,重さ3.4g, B.鋳造, D.刷製, F.完成, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 2, 覆土中。

15	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H. No 2, 覆土中。
16	寛永通寶	A.直径2.56,厚さ0.13,重さ4.0g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H. No 2, 覆土中。
17	寛永通寶	A.直径2.57,厚さ0.13,重さ3.5g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H. No 2, 覆土中。
18	寛永通寶	A.直径2.60,厚さ0.11,重さ2.5g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H. No 2, 覆土中。
19	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.12,重さ3.6g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H. No 2, 覆土中。
20	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.11,重さ2.8g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 背面に布痕付着, No 2, 覆土中。
21	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.14,重さ3.4g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H. No 5, 覆土中。
22	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.09,重さ2.4g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H. No 6, 覆土中。
23	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ2.7g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H. No 6, 覆土中。
24	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.12,重さ3.0g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H. No 7, 覆土中。

第84表 第145号土坑出土遺物観察表

1	瀬戸美濃系鉄軸小駒	A.口縁部径8.6, 器高3.7, 高台部径4.2, B.ロウ口成形, 高台部削り出し, C.口縁部内外面回転ナデ, 体部・底部外面回転鍔ケズリ, D.白色粒, E.外上半一暗茶褐色, 下半一淡白色, 内一暗茶褐色, F.完形, G.内外面に鉄軸を施す, H.底面付近。
2	かわらけ(灯明皿)	A.口縁部径9.1～9.6, 器高2.1, 底部径6.6, B.ロウ口成形, C.内外面回転ナデ, 底部外面回転鍔ケズリ, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, G.口縁部の一部に優付着, H.底面付近。
3	かわらけ	A.口縁部径9.6, 器高1.8, 底部径6.9, B.ロウ口成形, C.内外面回転ナデ, 底部外面回転鍔ケズリ, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, G.口縁はやや歪んでいる, H.底面付近。
4	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 4, 底面付近。
5	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.10,重さ2.9g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 4, 底面付近。
6	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.12,重さ3.8g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 4, 底面付近。
7	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.11,重さ2.6g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 4, 底面付近。
8	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.11,重さ3.5g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 4, 底面付近。
9	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.13,重さ3.8g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 4, 底面付近。
10	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 4, 底面付近。
11	寛永通寶	A.直径2.42,厚さ0.12,重さ3.6g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 4, 底面付近。
12	寛永通寶	A.直径2.38,厚さ0.11,重さ3.0g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 4, 底面付近。
13	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.12,重さ3.2g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 4, 底面付近。
14	寛永通寶	A.直径2.38,厚さ0.11,重さ2.2g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 4, 底面付近。
15	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.13,重さ3.7g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面付近。
16	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.11,重さ2.9g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面付近。
17	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.13,重さ3.9g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面付近。
18	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.12,重さ3.5g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面付近。
19	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.2g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面付近。
20	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.12,重さ3.0g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面付近。
21	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.12,重さ3.7g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面付近。

第85表 第146号土坑出土遺物観察表

1	瀬戸美濃系鉄軸小駒	A.口縁部径12.0, 器高2.7, 高台部径7.1, B.ロウ口成形, 高台部削り出し, C.口縁部内外面回転ナデ, 体部・底部外面回転鍔ケズリ, D.白色粒, 茶褐色粒, E.内外一淡灰褐色, 内一暗茶褐色, F.完形, G.内外面に鉄軸を施す, H.底面付近。
2	瀬戸美濃系鉄軸小駒	A.口縁部径6.6, 器高3.8, 高台部径3.3, B.ロウ口成形, 高台部削り出し, C.口縁部内外面回転ナデ, 体部下端・底部外面回転鍔ケズリ, D.白色粒, E.内外一淡緑白色, F.完形, G.内外面に鉄軸を施す, H.覆土中。
3	瀬戸美濃系鉄軸小駒	A.口縁部径6.4, 器高3.6, 高台部径3.2, B.ロウ口成形, 高台部削り出し, C.口縁部内外面回転ナデ, 体部下端・底部外面回転鍔ケズリ, D.白色粒, E.内外一淡黄緑色, F.完形, G.内外面に鉄軸を施す, H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.34,厚さ0.12,重さ3.2g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 2, 底面。
5	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.13,重さ3.5g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 3, 底面。
6	寛永通寶	A.直径2.41,厚さ0.12,重さ3.3g, B.鋳造, D.副製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 3, 底面。

7	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.11,重さ3.5g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 3, 底面。
8	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.10,重さ3.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 4, 底面。
9	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.12,重さ3.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 4, 底面。
10	寛永通寶	A.直径2.47,厚さ0.12,重さ3.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 4, 底面。
11	寛永通寶	A.直径2.34,厚さ0.08,重さ2.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 4, 底面。
12	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.12,重さ3.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面。
13	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.12,重さ3.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面。
14	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 3, 底面。
15	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面。
16	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.12,重さ3.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面。
17	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.13,重さ3.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面。
18	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.13,重さ4.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面。
19	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.12,重さ3.5g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面。
20	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.12,重さ3.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面。
21	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.13,重さ3.8g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面。
22	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.11,重さ3.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面。

第86表 第148号土坑出土遺物観察表

1	治平元寶	A.直径2.32,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.1064年初鑄(宋銭), H.No 2, 底面付近。
2	寛永通寶	A.直径2.36,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2, 底面付近。
3	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.11,重さ2.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2, 底面付近。
4	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.12,重さ3.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2, 底面付近。
5	寛永通寶	A.直径2.39,厚さ0.09,重さ2.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2, 底面付近。
6	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.08,重さ2.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), 背面に布痕あり, H.No 2, 底面付近。
7	寛永通寶	A.直径2.42,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2, 底面付近。
8	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.12,重さ3.5g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面付近。
9	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面付近。
10	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.11,重さ2.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面付近。
11	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面付近。
12	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.12,重さ3.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面付近。
13	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.12,重さ3.5g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面付近。
14	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.12,重さ3.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面付近。
15	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.11,重さ3.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面付近。
16	火打金	A.長さ7.0,高さ2.8,最大厚0.45,重さ17.3g, B.鍛造, D.鉄製, F.完形, G.頂部穿孔は明確ではない, H.覆土中。
17	煙管(雁首)	A.全長6.8,首部最大径1.0,火皿径1.5,火皿高1.1,厚さ0.1,重さ7.1g, B.銅版型切り後曲げ, 火皿接着, D.銅製, F.ほぼ完形, H.覆土中。
18	煙管(吸口)	A.全長6.6,最大径1.0,厚さ0.1,重さ3.0g, B.銅版型切り後曲げ, D.銅製, F.ほぼ完形, G.竹製の羅字が一部残る, H.覆土中。

第87表 第151号土坑出土遺物観察表

1	瀬戸美濃系鉄輪丸	A.口縁部径10.6,器高6.4,高台部径5.4, B.ロクロ成形,高台部削り出し, C.口縁部内外面回転ナデ, 体部下底・底部外面回転削ケケリ, D.白色粒, E.内外一暗茶褐色, F.完形, G.輪は最初に全体に薄く導く,その後内面と外面と平坦に厚く掛ける, H.覆土下層。
2	瀬戸美濃系鉄輪小碗	A.口縁部径8.6,器高3.9,高台部径4.5, B.ロクロ成形,高台部削り出し, C.口縁部内外面回転ナデ, 体部下底・底部外面回転削ケケリ, D.白色粒, E.内外一暗茶褐色, 肉一淡白色, F.完形, G.輪は掛け塗りの内面にトシ痕あり, H.覆土下層。

3	瀬戸美濃系 鉄小碗	A.口縁部径8.5,器高3.9,高台部径4.5,B.ロク口成形,高台部削り出し,C.口縁部内外面回転ナデ,体部下半・底部外面回転ケズリ,D.白色粒,E.内外一暗茶褐色,内・淡白色,F.壳形,G.輪は掛け壁リ,内面にトチン痕あり,H.覆土下層。
4	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.12,重さ3.1g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.古寛永(1636年初鑄),H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.11,重さ3.4g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.古寛永(1636年初鑄),H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.40,厚さ0.10,重さ2.5g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.古寛永(1636年初鑄),H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.39,厚さ0.11,重さ2.8g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.古寛永(1636年初鑄),H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.11,重さ3.1g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.文銭(1668年初鑄),背面に「文」字あり,H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.29,厚さ0.09,重さ2.5g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.新寛永(1697年初鑄),H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.30,厚さ0.09,重さ2.5g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.新寛永(1697年初鑄),H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.33,厚さ0.10,重さ2.7g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.新寛永(1697年初鑄),H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.31,厚さ0.10,重さ2.6g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.新寛永(1697年初鑄),H.覆土中。
13	寛永通寶	A.直径2.31,厚さ0.10,重さ2.8g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.新寛永(1697年初鑄),H.覆土中。
14	寛永通寶	A.直径2.33,厚さ0.09,重さ2.2g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.新寛永(1697年初鑄),H.覆土中。

第88表 第152号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.42,厚さ0.09,重さ2.5g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.古寛永(1636年初鑄),H.No 1,底面付近。
2	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.09,重さ2.7g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.古寛永(1636年初鑄),H.No 1,底面付近。
3	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.09,重さ2.3g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.古寛永(1636年初鑄),H.No 1,底面付近。
4	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.12,重さ3.4g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.文銭(1668年初鑄),背面に「文」字あり,H.No 1,底面付近。
5	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.12,重さ3.5g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.文銭(1668年初鑄),背面に「文」字あり,H.No 1,底面付近。
6	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.12,重さ3.7g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.文銭(1668年初鑄),背面に「文」字あり,H.No 1,底面付近。
7	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.12,重さ3.4g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.文銭(1668年初鑄),背面に「文」字あり,H.No 1,底面付近。
8	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.12,重さ3.2g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.文銭(1668年初鑄),背面に「文」字あり,H.No 1,底面付近。
9	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.13,重さ3.8g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.文銭(1668年初鑄),背面に「文」字あり,H.No 1,底面付近。
10	寛永通寶	A.直径2.32,厚さ0.11,重さ2.9g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.新寛永(1697年初鑄),H.No 1,底面付近。
11	寛永通寶	A.直径2.29,厚さ0.10,重さ2.7g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.新寛永(1697年初鑄),H.No 1,底面付近。
12	寛永通寶	A.直径2.32,厚さ0.11,重さ3.1g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.新寛永(1697年初鑄),H.No 1,底面付近。
13	寛永通寶	A.直径2.33,厚さ0.10,重さ2.8g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.新寛永(1697年初鑄),H.No 1,底面付近。
14	寛永通寶	A.直径2.47,厚さ0.10,重さ2.4g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.新寛永(1697年初鑄),H.No 1,底面付近。

第89表 第153号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.41,厚さ0.12,重さ3.0g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.古寛永(1636年初鑄),H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.10,重さ3.0g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.古寛永(1636年初鑄),H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.10,重さ2.3g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.古寛永(1636年初鑄),H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.39,厚さ0.11,重さ2.9g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.古寛永(1636年初鑄),H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.41,厚さ0.10,重さ1.8g,B.鑄造,D.銅製,F.ほぼ壳形,G.古寛永(1636年初鑄),H.覆土中。

第90表 第155号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.10,重さ2.7g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.古寛永(1636年初鑄),六道銭?,H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.15,重さ3.7g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.古寛永(1636年初鑄),六道銭?,H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.11,重さ3.4g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.古寛永(1636年初鑄),六道銭?,H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.11,重さ2.6g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.文銭(1668年初鑄),背面に「文」字あり,六道銭?,H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.12,重さ3.4g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.文銭(1668年初鑄),背面に「文」字あり,六道銭?,H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.12,重さ3.4g,B.鑄造,D.銅製,F.壳形,G.文銭(1668年初鑄),背面に「文」字あり,六道銭?,H.覆土中。

第91表 第165号土坑出土遺物観察表

1	山茶系 片口鉢	A.粘土組織み上げ後ロク口整形,C.内外面回転ナデ,D.黒色粒,白色粒,E.内外一淡灰色,F.口縁部破片,H.覆土中。
---	------------	---

第92表 第169号土坑出土遺物観察表

1	高台付 埴	A.口縁部径13.6,器高5.7,高台部径6.3,B.ロク口成形,高台部貼り付け,C.体部内外面回転ナデ,底部外面回転系切り,D.片岩粒,赤色粒,白色粒,E.内外一淡茶褐色,F.ほぼ正形,G.還元不良,体部外面に黒着あり,H.底面直上。
2	釘	? A.残存長4.2,最大幅0.6,重さ5.7g,B.鍛造,D.鉄製,F.下半のみ,H.覆土中。

第93表 第170号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.38,厚さ0.09,重さ2.3g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.古寛永(1636年初鑄), 六道銭, H.No 1, 底面付近。
2	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.12,重さ3.3g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, 六道銭?, H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.12,重さ2.7g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.No 1, 底面付近。
4	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.No 1, 底面付近。
5	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.10,重さ2.5g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.No 1, 底面付近。
6	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.12,重さ3.1g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.No 1, 底面付近。

第94表 第171号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.40,厚さ0.10,重さ3.1g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2, 底面付近。
2	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.11,重さ3.9g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2, 底面付近。
3	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.07,重さ2.2g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2, 底面付近。
4	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.08,重さ1.9g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 1, 覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.12,重さ3.9g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面付近。
6	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面付近。
7	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.10,重さ2.8g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面付近。
8	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.12,重さ3.6g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面付近。
9	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面付近。
10	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.08,重さ2.7g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面付近。
11	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.11,重さ3.6g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面付近。
12	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ3.2g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面付近。
13	寛永通寶	A.直径2.47,厚さ0.10,重さ2.8g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 2, 底面付近。
14	火打金	A.残存長4.8,残存高1.6,厚さ0.3,重さ7.3g, B.鍛造, D.鉄製, F.3/4, H.覆土中。

第95表 第173号土坑出土遺物観察表

1	瀬戸美濃系長石釉(志野)	A.口縁部径11.0,器高2.3,高台部径6.7, B.ロクロ成形,高台部削り出し, C.口縁部内外面回転ナデ, 体部下・底面外面回転磨ケズリ, D.白色粒, E.内外一淡黄白色, F.宍形, G.軸は掛け僅り, 内面にトチン痕あり, H.底面直上。
2	かわらけ	A.口縁部径9.8,器高2.1,底面径5.4, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底面外面回転系切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.4/5, H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.13,重さ3.8g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.古寛永(1636年初鑄), 六道銭, H.No 2, 底面。
4	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.12,重さ3.7g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.古寛永(1636年初鑄), 六道銭, H.No 2, 底面。
5	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.12,重さ3.5g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.古寛永(1636年初鑄), 六道銭, H.No 2, 底面。
6	寛永通寶	A.直径2.56,厚さ0.12,重さ3.7g, B.鑄造, D.銅製, F.宍形, G.古寛永(1636年初鑄), 六道銭, H.No 2, 底面。
7	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.11,重さ2.3g, B.鑄造, D.銅製, F.4/5, G.古寛永(1636年初鑄), 六道銭, H.No 2, 底面。

第96表 第177号土坑出土遺物観察表

1	中形直口甕	A.口縁部径(13.6),器高15.2, B.粘土溜積み上げ, C.口縁部内ヨコナデ, 胴部外面上平ケズリ, 底面外面上平ケズリ, 内面ハケの後上ナデ, D.白色粒, E.内外一明茶褐色, F.1/2, G.混入品, H.覆土中。
---	-------	---

第97表 第178号土坑出土遺物観察表

1	ナイフ形石器	A.長さ6.55,最大幅2.1,厚さ0.98,重さ8.74g, B.単面打面石核から剥片分離された縦長剥片を素材とする, 打面は残存しておらず, 切断(折り取り)されている, C.二次加工は, 基部周辺の両側縁及び先端から中央の一側縁に施されている, D.埋埋石(和田産), F.先端部欠損, G.刃部には非常に細かいイロこぼれ(微細鋸歯痕)が認められる, H.覆土中。
---	--------	---

第98表 第181号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ(灯明皿)	A.口縁部径9.4,器高2.0,底面径5.8, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底面外面回転系切り, D.赤色粒, 白色粒, E.外一淡褐色, 内一黒灰褐色, F.宍形, G.内外面煤付着, H.棺外土坑底面付近。
2	かわらけ(灯明皿)	A.口縁部径9.0,器高1.9,底面径5.8, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底面外面回転系切り, D.赤色粒, 白色粒, E.外一淡褐色, 内一淡褐色, F.宍形, G.口縁部内面煤付着, H.棺外土坑底面付近。

3	瀬戸美濃系 人形	A.高さ3.7,最大幅3.3,最大厚1.9,重さ15.9g。B.型作り。C.外面は無色の輪を軸する。D.白色粒。E.外一黄褐色。F.完形。G.約14(阿)形。箱底遊びの道具。H.覆土中。
4	金 銭	A.径2.50,真輪外径2.30,厚さ0.43,重さ17.5g。D.鈔製?。F.ほぼ完形。G.文字は寛永通宝(新寛永)で、玩具の貨幣類似品の型と思われる。No.5の円盤とセットになる可能性が大きい。H.早稲底板上。
5	金 銭	A.径2.48,厚さ0.47,重さ20.5g。D.鈔製?。F.完形。G.片面中央に針先状の小さな窪みあり。No.4の金銭複製型とセットになる可能性が大きい。H.早稲底板上。
6	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.12,重さ3.2g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.No.3,早稲底板上。
7	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.10,重さ2.2g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.No.3,早稲底板上。
8	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.12,重さ3.5g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.No.3,早稲底板上。
9	寛永通寶	A.直径2.22,厚さ0.10,重さ2.4g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.No.3,早稲底板上。
10	寛永通寶	A.直径2.16,厚さ0.09,重さ2.0g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.No.3,早稲底板上。
11	寛永通寶	A.直径2.34,厚さ0.09,重さ2.2g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.No.3,早稲底板上。
12	寛永通寶	A.直径2.29,厚さ0.10,重さ2.7g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.No.3,早稲底板上。
13	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.09,重さ2.2g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.No.3,早稲底板上。
14	寛永通寶	A.直径2.28,厚さ0.10,重さ2.5g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.No.3,早稲底板上。
15	寛永通寶	A.直径2.18,厚さ0.11,重さ2.4g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.No.3,早稲底板上。
16	寛永通寶	A.直径2.27,厚さ0.10,重さ2.4g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.No.3,早稲底板上。
17	寛永通寶	A.直径2.28,厚さ0.09,重さ2.3g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.No.3,早稲底板上。

第99表 第182号土坑出土遺物観察表

1	煙 管 (吸 口)	A.残存長3.9,最大径1.0,厚さ0.07,重さ1.8g。B.刷製型切り後曲げ。D.刷製。F.2/3。H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.38,厚さ0.08,重さ1.9g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.古寛永(1636年初鋳)。H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.41,厚さ0.13,重さ2.2g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.古寛永(1636年初鋳)。H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.11,重さ2.9g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.32,厚さ0.10,重さ2.1g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.32,厚さ0.11,重さ2.4g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.25,厚さ0.10,重さ1.6g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.33,厚さ0.10,重さ1.8g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.26,厚さ0.09,重さ1.6g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.32,厚さ0.10,重さ1.8g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.31,厚さ0.09,重さ2.3g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。

第100表 第184号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.10,重さ2.7g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.古寛永(1636年初鋳)。H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.13,重さ3.2g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.09,重さ2.4g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.11,重さ2.4g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.30,厚さ0.10,重さ2.5g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.31,厚さ0.09,重さ2.4g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.33,厚さ0.12,重さ2.7g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.35,厚さ0.11,重さ2.6g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.34,厚さ0.09,重さ2.2g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.27,厚さ0.10,重さ2.7g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.31,厚さ0.10,重さ1.9g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.28,厚さ0.09,重さ2.1g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。
13	寛永通寶	A.直径2.29,厚さ0.12,重さ2.8g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。
14	寛永通寶	A.直径2.21,厚さ0.09,重さ2.0g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。
15	寛永通寶	A.直径2.21,厚さ0.12,重さ1.5g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。
16	寛永通寶	A.直径2.16,厚さ0.10,重さ1.2g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。
17	寛永通寶	A.直径2.28,厚さ0.10,重さ1.9g。B.鋳造。D.刷製。F.完形。G.新寛永(1697年初鋳)。H.覆土中。

第101表 第185号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ (灯 明 皿)	A.口縁部径9.8,器高2.3,底部径6.1。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ,底部外面回転系切り。D.赤色粒,白色粒。E.内外一淡褐色。F.完形。G.内外面保付着。H.底面直上。
2	かわらけ (灯 明 皿)	A.口縁部径9.6,器高2.3,底部径6.3。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ,底部外面回転系切り。D.赤色粒,白色粒。E.内外一淡褐色。F.完形。G.口縁部の一部に保付着。H.底面直上。
3	かわらけ (灯 明 皿)	A.口縁部径9.4,器高2.4,底部径6.0。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ,底部外面回転系切り。D.赤色粒,白色粒。E.内外一淡褐色。F.完形。G.口縁部の一部に保付着。H.底面直上。



4	煙管 (煙口)	A.全長3.8,首部最大径1.0,火皿径1.8,火皿高1.1,厚さ0.07,重さ6.4g, B.銅製型切り後曲げ,火皿接着部に補強帯をもつ, D.銅製, F.完形, G.竹製の継ぎが一部残る, H.底面付近。
5	煙管 (吸口)	A.全長3.5,最大径1.0,厚さ0.07,重さ1.8g, B.銅製型切り後曲げ, D.銅製, F.ほぼ完形, H.覆土中。
6	鉄洋	A.縦4.4,横5.3,厚さ1.5,重さ47.8g, D.銅製, F.完形, G.鉄分をかなり含む, 混入品か?, H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 6, 底面。
8	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.11,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 6, 底面。
9	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.10,重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 6, 底面。
10	寛永通寶	A.直径2.47,厚さ0.11,重さ3.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 6, 底面。
11	寛永通寶	A.直径2.40,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 6, 底面。
12	寛永通寶	A.直径2.35,厚さ0.10,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 6, 底面。
13	寛永通寶	A.直径2.42,厚さ0.12,重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 6, 底面。
14	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.12,重さ3.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 6, 底面。
15	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.09,重さ2.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 6, 底面。
16	寛永通寶	A.直径2.42,厚さ0.10,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 7, 底面。
17	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 7, 底面。
18	寛永通寶	A.直径2.41,厚さ0.11,重さ3.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 7, 底面。
19	寛永通寶	A.直径2.28,厚さ0.11,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 7, 底面。
20	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.09,重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 6, 底面。
21	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.10,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 6, 底面。
22	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.No 6, 底面。

第102表 第187号土坑出土土物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.4,器高1.6,底部径6.6, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, G.口唇部の一部に傷付着, H.底面付近。
2	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.4,器高1.8,底部径6.0, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.2/3, C.口縁部の一部に傷付着, H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.10,重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), 六道銭, H.底面。
4	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.11,重さ3.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.底面。
5	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.底面。
6	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.底面。
7	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.底面。
8	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.12,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.底面。

第103表 第188号土坑出土土物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径10.4,器高2.1,底部径6.0, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, G.口唇部の一部に傷付着, H.覆土中。
2	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径10.2,器高2.3,底部径6.3, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, G.口唇部の一部に傷付着, H.覆土中。
3	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.8,器高2.2,底部径6.8, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, G.口唇部の一部に傷付着, H.覆土中。
4	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.8,器高2.1,底部径6.2, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.3/4, G.口唇部の一部に傷付着, H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.09,重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.20,厚さ0.09,重さ1.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.34,厚さ0.12,重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.26,厚さ0.09,重さ2.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.32,厚さ0.09,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.31,厚さ0.15,重さ3.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
13	寛永通寶	A.直径2.22,厚さ0.10,重さ1.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
14	寛永通寶	A.直径2.29,厚さ0.09,重さ2.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。

第104表 第189号土坑出土土物観察表

1	煙 (壺 首)	A. 残存長5.8、首部最大径1.0、火皿径1.7、火皿高1.1、厚さ0.09、重さ5.3g。B. 銅版型切り後曲げ、火皿接着部に補強帯をもつ。D. 銅製。F. 4/5。G. 中位に段(肩)をもつ。H. 覆土中。
2	煙 (吸 口)	A. 残存長5.2、最大径0.9、厚さ0.05、重さ2.0g。B. 銅版型切り後曲げ。D. 銅製。F. 両端欠損。H. 覆土中。

第105表 第190号土坑出土土物観察表

1	寛永通寶	A. 直径2.52、厚さ0.13、重さ2.4g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文字」あり。H. 覆土中。
---	------	--

第106表 第191号土坑出土土物観察表

1	かわらけ	A. 残存高1.5、底部径(5.8)。B. ロク口成形。C. 内外面回転ナデ、底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡橙褐色。F. 底部1/6。H. 覆土中。
2	寛永通寶	A. 直径2.44、厚さ0.12、重さ3.5g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. 覆土中。
3	寛永通寶	A. 直径2.52、厚さ0.13、重さ3.7g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. 覆土中。
4	寛永通寶	A. 直径2.52、厚さ0.11、重さ3.1g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. 覆土中。
5	寛永通寶	A. 直径2.53、厚さ0.11、重さ3.0g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. 覆土中。
6	寛永通寶	A. 直径2.41、厚さ0.13、重さ3.1g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. 覆土中。
7	寛永通寶	A. 直径2.65、厚さ0.15、重さ2.5g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. 覆土中。
8	寛永通寶	A. 直径2.41、厚さ0.12、重さ3.0g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. 覆土中。
9	寛永通寶	A. 直径2.43、厚さ0.13、重さ3.5g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. 覆土中。
10	寛永通寶	A. 直径2.52、厚さ0.13、重さ3.6g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文字」あり。H. 覆土中。
11	寛永通寶	A. 直径2.52、厚さ0.12、重さ3.0g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文字」あり。H. 覆土中。
12	寛永通寶	A. 直径2.50、厚さ0.12、重さ3.3g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文字」あり。H. 覆土中。
13	寛永通寶	A. 直径2.55、厚さ0.12、重さ2.6g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文字」あり。H. 覆土中。
14	寛永通寶	A. 直径2.55、厚さ0.11、重さ3.1g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文字」あり。H. 覆土中。
15	寛永通寶	A. 直径2.54、厚さ0.13、重さ1.5g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文字」あり。H. 覆土中。
16	和 鋳	A. 直径10.0、高さ0.8、厚さ1.5、紐座径1.9、重さ95g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 蓬莱鏡。文様は亀趺双鏡接嘴文。H. 覆土中。

第107表 第192号土坑出土土物観察表

1	かわらけ	A. 口縁部径(9.0)、器高1.7、底部径(6.8)。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ、底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡橙褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
---	------	---

第108表 第193号土坑出土土物観察表

1	かわらけ (灯 明 皿)	A. 口縁部径8.6、器高1.9、底部径5.7。B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ、底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡橙褐色。F. ほび宍形。G. 口縁部の一部に集付着。H. 覆土中。
2	寛永通寶	A. 直径2.45、厚さ0.11、重さ3.2g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。六道銭。H. No 1。覆土下層。
3	寛永通寶	A. 直径2.51、厚さ0.12、重さ3.6g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。六道銭。H. No 1。覆土下層。
4	寛永通寶	A. 直径2.43、厚さ0.11、重さ3.2g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。六道銭。H. No 1。覆土下層。
5	寛永通寶	A. 直径2.45、厚さ0.11、重さ3.0g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。六道銭。H. No 1。覆土下層。
6	寛永通寶	A. 直径2.42、厚さ0.11、重さ3.1g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。六道銭。H. No 1。覆土下層。
7	寛永通寶	A. 直径2.43、厚さ0.13、重さ4.0g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。六道銭。H. No 1。覆土下層。
8	寛永通寶	A. 直径2.50、厚さ0.10、重さ3.5g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. No 2。覆土下層。
9	寛永通寶	A. 直径2.46、厚さ0.13、重さ4.4g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. No 2。覆土下層。
10	寛永通寶	A. 直径2.45、厚さ0.10、重さ3.3g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. No 2。覆土下層。
11	寛永通寶	A. 直径2.52、厚さ0.10、重さ3.2g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. No 2。覆土下層。
12	寛永通寶	A. 直径2.53、厚さ0.11、重さ3.6g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. No 2。覆土下層。
13	寛永通寶	A. 直径2.43、厚さ0.11、重さ3.9g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. No 2。覆土下層。
14	寛永通寶	A. 直径2.44、厚さ0.09、重さ2.9g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. No 2。覆土下層。
15	寛永通寶	A. 直径2.34、厚さ0.10、重さ3.0g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. No 2。覆土下層。
16	寛永通寶	A. 直径2.36、厚さ0.10、重さ2.2g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. No 2。覆土下層。
17	寛永通寶	A. 直径2.37、厚さ0.12、重さ3.4g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. No 2。覆土下層。
18	寛永通寶	A. 直径2.55、厚さ0.10、重さ3.0g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文字」あり。H. No 2。覆土下層。

第109表 第194号土坑出土土物観察表

1	寛永通寶	A. 直径2.41、厚さ0.09、重さ2.0g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 古寛永(1636年初鋳)。六道銭。H. 底面。
2	寛永通寶	A. 直径2.34、厚さ0.09、重さ2.3g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 宍形。G. 新寛永(1697年初鋳)。六道銭。H. 覆土下層。

3	寛永通寶 灰輪菊型	A.直径2.23,厚さ0.08,重さ1.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), 六道銭, H.覆土下層。
4	寛永通寶	A.直径2.18,厚さ0.09,重さ1.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), 六道銭, H.覆土下層。
5	寛永通寶	A.直径2.27,厚さ0.08,重さ1.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), 六道銭, H.覆土下層。
6	寛永通寶	A.直径2.17,厚さ0.10,重さ2.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), 六道銭, H.覆土下層。

第110表 第195号土坑出土遺物観察表

1	瀬戸美濃系 灰輪菊型	A.口縁部径13.6,器高3.8,高台部径6.6, B.ロクロ成形,高台部貼り付け, C.内外面回転ナデ, D.白色粒, E.内外一淡緑色, F.完形, G.軸は掛け残り, 内面にトチン痕あり, H.底面付近。
2	瀬戸美濃系 灰輪菊型	A.口縁部径13.0,器高2.9,高台部径7.3, B.ロクロ成形,高台部貼り付け, C.口縁部内外面回転ナデ, 体部下面下平回転残ケズリ, D.白色粒, E.内外一淡緑色, F.完形, G.軸は掛け残り, 内面のほぼ全面に布目圧痕を残す, 内面にトチン痕あり, H.底面付近。

第111表 第196号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.4,器高2.3,底径6.6, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡茶褐色, F.完形, G.口唇部の一部に煤付着, H.底面付近。
2	かわらけ	A.口縁部径9.4,器高2.3,底径6.2, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡茶褐色, F.ほぼ完形, H.覆土中。
3	かわらけ	A.口縁部径9.0,器高2.1,底径6.2, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡茶褐色, F.3/4, H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.41,厚さ0.12,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.40,厚さ0.10,重さ2.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.11,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.41,厚さ0.11,重さ2.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.11,重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.13,重さ2.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.57,厚さ0.15,重さ2.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
13	寛永通寶	A.直径(2.50),厚さ0.12,重さ1.0g, B.鋳造, D.銅製, F.1/3, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。

第112表 第197号土坑出土遺物観察表

1	嘉祐通寶	A.直径2.48,厚さ0.09,重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.1056年初鑄(宋銭), H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.13,重さ3.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.11,重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.10,重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.47,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.42,厚さ0.12,重さ3.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.40,厚さ0.11,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.10,重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.29,厚さ0.07,重さ1.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
12	鉄製品 刷	A.全長23.1,最大幅4.5,厚さ0.4,重さ79.4g, B.鍛造, D.鉄製, F.ほぼ完形, G.両端は折り返されて圧着している, H.底面付近。

第113表 第199号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径(9.0),器高2.1,底径(5.6), B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡茶褐色, F.口縁部1/4破片, G.口唇部の一部に煤付着, H.覆土中。
---	---------------	--

第114表 第200号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径8.2,器高1.9,底径4.8, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡茶褐色, F.3/4, G.口唇部の一部に煤付着, H.覆土中。
2	数珠玉	A.直径0.6,高さ0.5,重さ0.2g, B.巻き付け?, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, 小さな透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
3	数珠玉	A.直径0.6,高さ0.5,重さ0.2g, B.巻き付け, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, 小さな透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
4	数珠玉	A.直径0.4,高さ0.35,重さ0.1g, B.巻き付け, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, 小さな透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
5	数珠玉	A.直径0.4,高さ0.35,重さ0.1g, B.巻き付け?, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, 小さな透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.09,重さ2.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。

7	寛永通寶	A.直径2.4,厚さ0.11,重さ2.9g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.6g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.57,厚さ0.13,重さ3.4g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.56,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.56,厚さ0.14,重さ4.0g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.12,重さ3.4g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
13	寛永通寶	A.直径2.31,厚さ0.10,重さ2.5g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
14	寛永通寶	A.直径2.40,厚さ0.10,重さ3.0g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
15	寛永通寶	A.直径2.33,厚さ0.14,重さ3.2g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
16	寛永通寶	A.直径2.33,厚さ0.10,重さ2.2g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
17	寛永通寶	A.直径2.30,厚さ0.10,重さ2.5g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
18	寛永通寶	A.直径2.32,厚さ0.10,重さ2.3g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
19	寛永通寶	A.直径2.38,厚さ0.13,重さ3.7g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
20	寛永通寶	A.直径2.32,厚さ0.09,重さ2.5g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
21	寛永通寶	A.直径2.31,厚さ0.09,重さ1.8g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
22	寛永通寶	A.直径2.40,厚さ0.16,重さ2.8g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), 背面に布痕付着, H.覆土中。

第115表 第201号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.30,厚さ0.09,重さ1.9g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
---	------	--

第116表 第202号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ	A.口縁部径(9.2),器高2.0,底部径(5.8), B.ロウコ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色白, F.1/3, H.覆土中。
2	かわらけ	A.口縁部径(9.8),器高2.1,底部径(5.6), B.ロウコ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡茶褐色, F.口縁部1/4破片, H.覆土中。
3	かわらけ	A.口縁部径(8.8), B.ロウコ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色白, F.口縁部1/4破片, H.覆土中。

第117表 第203号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.10,重さ2.8g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.10,重さ3.0g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.56,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.61,厚さ0.15,重さ3.1g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.32,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.36,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.40,厚さ0.12,重さ3.1g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.36,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.34,厚さ0.10,重さ2.5g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.36,厚さ0.11,重さ2.6g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。

第118表 第204号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ (明 皿)	A.口縁部径9.0,器高1.8,底部径5.8, B.ロウコ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.ほぼ完形, G.口縁部の一部に傷付着, H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.12,重さ3.6g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.47,厚さ0.12,重さ3.5g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.11,重さ2.9g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.15,重さ4.3g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.56,厚さ0.12,重さ3.6g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.39,厚さ0.09,重さ2.2g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.12,重さ3.0g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.12,重さ2.6g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.10,重さ2.3g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.0g, B.鋳造, D.刷製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。

13	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.12,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳),背面に「文」字あり, H.覆土中。
14	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.13,重さ2.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳),背面に「文」字あり, H.覆土中。
15	寛永通寶	A.直径2.40,厚さ0.11,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
16	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.11,重さ2.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
17	寛永通寶	A.直径2.33,厚さ0.13,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
18	寛永通寶	A.直径2.33,厚さ0.12,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
19	寛永通寶	A.直径2.36,厚さ0.15,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
20	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.09,重さ2.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。

第119表 第205号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.2,器高1.9,底部径6.2, B.ロウ口成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転系切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡橙褐色, F.1/2, G.口縁部の一部に煤付着, H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳),背面に「文」字あり, H.覆土中。
3	数珠玉	A.直径0.622,高さ0.409,重さ0.2g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
4	数珠玉	A.直径0.480,高さ0.305,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, G.表面は風化により白色化している, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
5	数珠玉	A.直径0.450,高さ0.323,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, G.表面は風化により白色化している, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
6	数珠玉	A.直径0.425,高さ0.280,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
7	数珠玉	A.直径0.449,高さ0.307,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
8	数珠玉	A.直径0.455,高さ0.221,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
9	数珠玉	A.直径0.455,高さ0.251,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
10	数珠玉	A.直径0.444,高さ0.259,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
11	数珠玉	A.直径0.445,高さ0.240,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
12	数珠玉	A.直径0.416,高さ0.291,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, 表面は風化により白色化している, H.覆土中。
13	数珠玉	A.直径0.413,高さ0.229,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
14	数珠玉	A.直径0.432,高さ0.308,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
15	数珠玉	A.直径0.427,高さ0.305,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.ほぼ完形, G.内部に多数の水泡あり, 表面は風化により白色化している, H.覆土中。
16	数珠玉	A.直径0.438,高さ0.260,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
17	数珠玉	A.直径0.446,高さ0.226,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.ほぼ完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
18	数珠玉	A.直径0.466,高さ0.309,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
19	数珠玉	A.直径0.433,高さ0.270,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
20	数珠玉	A.直径0.432,高さ0.255,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
21	数珠玉	A.直径0.420,高さ0.248,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
22	数珠玉	A.直径0.448,高さ0.312,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
23	数珠玉	A.直径0.424,高さ0.270,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。
24	数珠玉	A.直径0.432,高さ0.312,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, 表面は風化により白色化している, H.覆土中。
25	数珠玉	A.直径0.382,高さ0.268,重さ0.1g, B.不明, C.表面研磨, D.ガラス製, E.無色, くすんだ透明, F.完形, G.内部に多数の水泡あり, H.覆土中。

第120表 第206号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ	A.口縁部径10.0,器高2.1,底部径6.8, B.ロウ口成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転系切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一明橙褐色, F.完形, H.覆土中。
---	------	--

2	かわらけ	A.口縁部径9.8, 器高2.2, 底部径6.3, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡茶褐色, F.完形, H.覆土中。
3	かわらけ	A.口縁部径9.4, 器高2.0, 底部径6.4, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, H.覆土中。
4	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.4, 器高2.2, 底部径6.0, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.ほぼ完形, G.口唇部の一部に優付着, H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.45, 厚さ0.10, 重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.15世紀初頭鑄(明銭), 六道銭, H.No 3, 底面。
6	寛永通寶	A.直径2.36, 厚さ0.14, 重さ3.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 1, 覆土上層
7	寛永通寶	A.直径2.42, 厚さ0.11, 重さ3.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2, 底面。
8	寛永通寶	A.直径2.48, 厚さ0.11, 重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), 六道銭, H.No 3, 底面。
9	寛永通寶	A.直径2.42, 厚さ0.11, 重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), 六道銭, H.No 3, 底面。
10	寛永通寶	A.直径2.44, 厚さ0.11, 重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 4, 底面。
11	寛永通寶	A.直径2.39, 厚さ0.10, 重さ2.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 4, 底面。
12	寛永通寶	A.直径2.49, 厚さ0.10, 重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 2, 底面。
13	寛永通寶	A.直径2.52, 厚さ0.12, 重さ3.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 2, 底面。
14	寛永通寶	A.直径2.52, 厚さ0.10, 重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 2, 底面。
15	寛永通寶	A.直径2.60, 厚さ0.12, 重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 2, 底面。
16	寛永通寶	A.直径2.51, 厚さ0.11, 重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, 六道銭, H.No 3, 底面。
17	寛永通寶	A.直径2.51, 厚さ0.12, 重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, 六道銭, H.No 3, 底面。
18	寛永通寶	A.直径2.51, 厚さ0.11, 重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, 六道銭, H.No 3, 底面。
19	寛永通寶	A.直径2.51, 厚さ0.11, 重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 4, 底面。
20	寛永通寶	A.直径2.22, 厚さ0.09, 重さ1.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.No 4, 底面。

第121表 第207号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.6, 器高2.4, 底部径6.3, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡茶褐色, F.完形, G.口唇部の一部に優付着, H.底面直上。
2	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.0, 器高2.5, 底部径5.8, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡茶褐色, F.完形, G.口唇部の一部に優付着, H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.40, 厚さ0.10, 重さ2.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.54, 厚さ0.10, 重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 1。
5	寛永通寶	A.直径2.48, 厚さ0.12, 重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 1。
6	寛永通寶	A.直径2.51, 厚さ0.12, 重さ3.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 1。
7	寛永通寶	A.直径2.49, 厚さ0.11, 重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 1。
8	寛永通寶	A.直径2.51, 厚さ0.11, 重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 1。
9	寛永通寶	A.直径2.50, 厚さ0.12, 重さ3.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 1。
10	寛永通寶	A.直径2.52, 厚さ0.10, 重さ2.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 1。
11	寛永通寶	A.直径2.50, 厚さ0.12, 重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 1。
12	寛永通寶	A.直径2.51, 厚さ0.12, 重さ3.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 1。
13	寛永通寶	A.直径2.50, 厚さ0.14, 重さ3.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 1。
14	寛永通寶	A.直径2.49, 厚さ0.11, 重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 1。
15	寛永通寶	A.直径2.53, 厚さ0.10, 重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.覆土中。

第122表 第208号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.44, 厚さ0.10, 重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.50, 厚さ0.13, 重さ3.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.52, 厚さ0.10, 重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.覆土中。

第123表 第209号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.46, 厚さ0.13, 重さ3.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2。
2	寛永通寶	A.直径2.57, 厚さ0.10, 重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2。
3	寛永通寶	A.直径2.45, 厚さ0.11, 重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2。
4	寛永通寶	A.直径2.47, 厚さ0.12, 重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2。
5	寛永通寶	A.直径2.50, 厚さ0.13, 重さ3.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2。
6	寛永通寶	A.直径2.54, 厚さ0.11, 重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 2。
7	寛永通寶	A.直径2.55, 厚さ0.12, 重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 2。
8	寛永通寶	A.直径2.56, 厚さ0.10, 重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 2。
9	寛永通寶	A.直径2.57, 厚さ0.10, 重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 2。

10	寛永通寶	A.直径2.57,厚さ0.09,重さ2.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄),背面に「文」字あり, H.No 2。
11	寛永通寶	A.直径2.57,厚さ0.13,重さ3.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄),背面に「文」字あり, H.No 2。
12	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.No 2。
13	寛永通寶	A.直径2.36,厚さ0.10,重さ3.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.No 2。
14	寛永通寶	A.直径2.36,厚さ0.09,重さ2.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.No 2。
15	寛永通寶	A.直径2.33,厚さ0.09,重さ2.5g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.No 2。
16	寛永通寶	A.直径2.34,厚さ0.13,重さ3.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.No 2。
17	寛永通寶	A.直径2.35,厚さ0.10,重さ2.3g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.No 2。
18	寛永通寶	A.直径2.28,厚さ0.08,重さ1.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.No 2。

第124表 第210号土坑出土遺物観察表

1	肥前系陶器 刷毛目茶碗	A.口縁部径10.2,器高5.4,高台部径3.9, B.ロクロ成形,高台部削り出し, C.内外面回転ナデ, D.黒色粒, E.内外一淡茶褐色, F.完形, G.内外面とも軸は螺旋状に刷毛埋り, H.底面直上。
2	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.0～9.6,器高2.1,底部径6.7, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, G.口唇部の一部に爆付着, 底部に焼成時のひび割れあり, H.底面直上。
3	釘	A.残存長3.5,幅0.4,重さ0.8g, B.鍛造, D.鉄製, F.両側欠損, G.断面四角, H.覆土中。
4	皇宋通寶	A.直径2.38,厚さ0.09,重さ2.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.1039年初鑄(北宋製), H.覆土中。
5	洪武通寶	A.直径2.32,厚さ0.10,重さ1.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.模範銭(加治木銭), 背面に「治」の字あり, 中世末～近世初期, H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.11,重さ3.5g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.12,重さ3.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.37,厚さ0.09,重さ2.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.09,重さ2.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.31,厚さ0.11,重さ2.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.31,厚さ0.10,重さ2.8g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
13	寛永通寶	A.直径2.41,厚さ0.11,重さ2.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
14	寛永通寶	A.直径2.29,厚さ0.10,重さ2.3g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
15	寛永通寶	A.直径2.31,厚さ0.09,重さ2.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
16	寛永通寶	A.直径2.35,厚さ0.10,重さ2.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。

第125表 第212号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ	A.口縁部径(10.4),器高1.3,底部径(6.6), B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.口縁部1/4破片, H.覆土中。
2	かわらけ	A.口縁部径(9.2),器高1.3,底部径(7.2), B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一茶褐色, F.口縁部1/4破片, H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.10,重さ3.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.09,重さ3.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.10,重さ2.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.40,厚さ0.08,重さ2.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.09,重さ2.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.41,厚さ0.11,重さ2.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.12,重さ3.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄),背面に「文」字あり, H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.10,重さ2.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄),背面に「文」字あり, H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.28,厚さ0.10,重さ2.8g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.08,重さ2.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
13	寛永通寶	A.直径2.29,厚さ0.08,重さ2.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
14	寛永通寶	A.直径2.25,厚さ0.09,重さ2.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
15	寛永通寶	A.直径2.25,厚さ0.09,重さ2.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
16	寛永通寶	A.直径2.28,厚さ0.09,重さ2.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。

第126表 第213号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.8,器高2.0,底部径6.5, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡茶褐色, F.ほぼ完形, G.口唇部の一部に爆付着, H.底面直上。
2	かわらけ	A.口縁部径9.2,器高2.1,底部径6.5, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, H.底面直上。
3	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.4,器高2.2,底部径6.0, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.ほぼ完形, G.口唇部の一部に爆付着, 底部外面に黒斑点あり, H.底面直上。
4	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.11,重さ3.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.47,厚さ0.12,重さ3.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.47,厚さ0.10,重さ2.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。

7	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.11,重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.09,重さ2.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.56,厚さ0.13,重さ3.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.10,重さ2.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。

第127表 第214号土坑出土遺物観察表

1	肥前系磁器	A.口縁部径6.6,器高2.9,高台部径2.8, B.ロクロ成形,高台部削り出し, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部下半・底部外面回転削ケズリ, D.白色粒, E.内外一白色, F.完形, G.内外面に白色釉を施す, H.覆土中。
---	-------	---

第128表 第215号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.4,器高2.0,底部径6.1, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転削ケズリ, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡灰褐色, F.完形, G.口縁部に僅付着, H.底面直上。
2	鉄製品	A.残存長さ5.3,幅1.4,厚さ0.3,重さ10.8g, B.鍛造, D.鉄製, F.両側欠損, G.錆が地金内部に及び,かなり膨らんでいる, C.火打金か?, H.覆土中。

第129表 第216号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ	A.口縁部径10.0,器高2.4,底部径6.0, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転削ケズリ, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, H.覆土中。
2	かわらけ	A.口縁部径10.0,器高2.3,底部径5.7, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転削ケズリ, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡茶褐色, F.完形, H.覆土中。
3	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.6,器高2.5,底部径6.4, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転削ケズリ, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一明茶褐色, F.完形, G.口縁部に僅付着, H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.10,重さ2.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.No.1, 覆土下層。
5	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.12,重さ2.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.No.1, 覆土下層。
6	寛永通寶	A.直径2.57,厚さ0.11,重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.覆土下層。
7	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.07,重さ1.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭?, H.覆土下層。
8	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.09,重さ2.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭?, H.覆土下層。
9	寛永通寶	A.直径(2.36),厚さ0.16,重さ2.5g, B.鋳造, D.銅製, F.縁1/2欠損, G.錢種は不明, 六道銭, H.No.1, 覆土下層。

第130表 第217号土坑出土遺物観察表

1	元祐通寶	A.直径2.34,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.1086年初鋳(北宋銭), H.No.1。
2	□□元寶	A.直径2.40,厚さ0.13,重さ3.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.錢種は不明, H.No.1。
3	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.13,重さ3.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No.1。
4	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.11,重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No.1。
5	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.14,重さ4.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No.1。
6	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.12,重さ3.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No.1。
7	寛永通寶	A.直径2.36,厚さ0.10,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No.1。
8	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.12,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No.2。
9	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.09,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No.2。
11	寛永通寶	A.直径2.57,厚さ0.12,重さ3.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No.1。
12	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.11,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No.1。
13	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.12,重さ3.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No.1。
14	寛永通寶	A.直径2.56,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No.1。
15	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ2.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No.2。
16	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No.2。

第131表 第218号土坑出土遺物観察表

1	瀬戸美濃系 灰輪	A.口縁部径12.8,器高2.7,高台部径5.8, B.ロクロ成形,高台部削り出し, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部・底部外面回転削ケズリ, D.黒色粒, 白色粒, E.内外一淡黄緑色, 内一暗灰色, F.完形, G.輪は掛け塗り, H.覆土中。
2	瀬戸美濃系 鉄輪小碗	A.口縁部径7.8,器高3.4,高台部径4.4, B.ロクロ成形,高台部削り出し, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部下半回転削ケズリ, 底部外面回転削ケズリ, D.黒色粒, 白色粒, E.内外一暗茶褐色, 内一淡黄白色, F.完形, G.輪は掛け塗り, 内面にトナシ痕あり, H.底面直上。
3	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.4,器高2.2,底部径6.1, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転削ケズリ, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, G.口縁部に一部に僅付着, H.覆土中。
4	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.4,器高1.9,底部径6.0, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転削ケズリ, D.赤色粒, 白色粒, E.外一暗褐色, 内一淡褐色, F.ほぼ完形, G.口縁部の一部及び外面に僅付着, H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.47,厚さ0.09,重さ1.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.16,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。



第132表 第219号土坑出土土物観察表

1	瀬戸美濃系 鉄輪壺	A. 底部径(12.2), B. 粘土組織み上げ後ロク口型。C. 胴部内外面回転ナデ。底部外面回転鋭角ズリ。D. 黒色粒、白色粒。 E. 内外一淡茶褐色。F. 底部1/6, G. 内外面に鉄輪を施す。表面風化顕著。瀬戸美濃産。浪人品。H. 覆土中。
2	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径(10.0), 器高1.8, 底部径(6.8), B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。 E. 内外一淡褐色。F. 口縁部1/4, G. 口縁部に優付着。H. 覆土中。
3	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径9.8, 器高2.1, 底部径5.7, B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。 E. 内外一淡茶褐色。F. 完形。G. 口縁部に優付着。H. 覆土中。
4	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径10.2, 器高2.1, 底部径5.9, B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。 E. 内外一淡褐色。F. 完形。G. 口縁部及び口縁部外面に優付着。H. 覆土中。
5	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径9.8, 器高2.1, 底部径6.0, B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。 E. 内外一淡褐色。F. 完形。G. 口縁部の一部に優付着。H. 覆土中。
6	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径9.6, 器高2.2, 底部径5.9, B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。 E. 内外一淡褐色。F. 完形。G. 口縁部の一部に優付着。H. 覆土中。
7	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径9.0, 器高2.7, 底部径5.2, B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒。 E. 内外一淡褐色。F. 完形。G. 口縁部に優付着。H. 覆土中。
8	天福通寶	A. 直径2.47, 厚さ0.10, 重さ2.9g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 1017年初鋳(北宋銭)。H. No 2, 底面。
9	寛永通寶	A. 直径2.48, 厚さ0.13, 重さ4.4g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 古寛永(1636年初鋳)。六道銭。H. No 1, 底面。
10	寛永通寶	A. 直径2.55, 厚さ0.11, 重さ3.4g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 古寛永(1636年初鋳)。六道銭。H. No 1, 底面。
11	寛永通寶	A. 直径2.45, 厚さ0.12, 重さ3.8g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 古寛永(1636年初鋳)。六道銭。H. No 1, 底面。
12	寛永通寶	A. 直径2.44, 厚さ0.10, 重さ3.0g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. No 2, 底面。
13	寛永通寶	A. 直径2.44, 厚さ0.10, 重さ2.4g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. 覆土中, 底面。
14	寛永通寶	A. 直径2.53, 厚さ0.14, 重さ2.4g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. 覆土中, 底面。
15	寛永通寶	A. 直径2.39, 厚さ0.10, 重さ1.5g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 古寛永(1636年初鋳)。H. 覆土中, 底面。
16	寛永通寶	A. 直径2.54, 厚さ0.11, 重さ3.5g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。六道銭。H. No 1, 底面。
17	寛永通寶	A. 直径2.54, 厚さ0.11, 重さ3.3g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。六道銭。H. No 1, 底面。
18	寛永通寶	A. 直径2.53, 厚さ0.10, 重さ3.1g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。六道銭。H. No 1, 底面。
19	寛永通寶	A. 直径2.57, 厚さ0.13, 重さ4.2g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H. No 2, 底面。
20	寛永通寶	A. 直径2.54, 厚さ0.11, 重さ3.3g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H. No 2, 底面。
21	寛永通寶	A. 直径2.50, 厚さ0.10, 重さ3.1g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H. No 2, 底面。
22	寛永通寶	A. 直径2.55, 厚さ0.10, 重さ3.3g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H. No 2, 底面。
23	寛永通寶	A. 直径2.56, 厚さ0.10, 重さ2.7g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H. No 2, 底面。
24	寛永通寶	A. 直径2.55, 厚さ0.11, 重さ3.4g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H. No 2, 底面。
25	寛永通寶	A. 直径2.54, 厚さ0.09, 重さ2.8g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H. No 2, 底面。
26	寛永通寶	A. 直径2.55, 厚さ0.10, 重さ3.0g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H. No 2, 底面。
27	寛永通寶	A. 直径2.54, 厚さ0.11, 重さ3.4g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H. No 2, 底面。

第133表 第220号土坑出土土物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径10.0 ~ 10.6, 器高2.2, 底部径5.8, B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。 E. 内外一淡褐色。F. 完形。G. 口縁部に優付着。H. 覆土中。
2	かわらけ	A. 口縁部径10.2, 器高2.1, 底部径5.9, B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒。 E. 内外一淡褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
3	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径10.0, 器高2.1, 底部径5.6, B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。 E. 内外一淡褐色。F. 完形。G. 口縁部の一部に優付着。H. 覆土中。
4	かわらけ	A. 口縁部径10.2, 器高2.1, 底部径5.9, B. ロク口成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒。 E. 内外一淡褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
5	元豊通寶	A. 直径2.42, 厚さ0.11, 重さ2.9g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 1078年初鋳(北宋銭)。六道銭。H. 底面木片上。
6	寛永通寶	A. 直径2.51, 厚さ0.13, 重さ4.1g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 古寛永(1636年初鋳)。六道銭。H. 底面木片上。
7	寛永通寶	A. 直径2.56, 厚さ0.12, 重さ3.8g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。六道銭。H. 底面木片上。
8	寛永通寶	A. 直径2.54, 厚さ0.11, 重さ3.2g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。六道銭。H. 底面木片上。
9	寛永通寶	A. 直径2.52, 厚さ0.09, 重さ2.5g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。六道銭。H. 底面木片上。
10	寛永通寶	A. 直径2.55, 厚さ0.10, 重さ3.3g, B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。六道銭。H. 底面木片上。

第134表 第221号土坑出土土物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径10.2,器高2.5,底部径6.6, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, H.底面付近。
2	かわらけ	A.口縁部径9.8,器高2.8,底部径7.1, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, H.底面付近。
3	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.4,器高2.1,底部径6.6, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, G.口縁部の一部に傷付着, H.底面付近。
4	元豊通寶	A.直径2.45,厚さ0.10,重さ2.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.1078年初鑄(北宋), H.底面。
5	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.11,重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.底面。
6	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.12,重さ3.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.底面。
7	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.10,重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.底面。
8	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.09,重さ2.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.底面。
9	寛永通寶	A.直径2.57,厚さ0.11,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.底面。
10	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.10,重さ2.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.底面。
11	寛永通寶	A.直径2.40,厚さ0.11,重さ2.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.底面。
12	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.12,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.底面。
13	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.10,重さ2.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.底面。
14	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.10,重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.底面。
15	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.底面。
16	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.10,重さ2.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.底面。
17	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.10,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.底面。
18	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.底面。
19	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.底面。
20	寛永通寶	A.直径2.59,厚さ0.11,重さ2.2g, B.鋳造, D.銅製, F.ほぼ完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.底面。
21	不明	A.直径(2.58),厚さ(0.19),重さ1.9g, B.鋳造, D.銅製, F.ほぼ完形, G.銭種不明, H.底面。

第135表 第222号土坑出土土物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径8.8,器高1.6,底部径5.2, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, G.口縁部の一部に傷付着, H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.10,重さ2.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.12,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.12,重さ3.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.12,重さ3.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.12,重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.37,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.32,厚さ0.10,重さ2.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.29,厚さ0.08,重さ2.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.34,厚さ0.09,重さ2.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。

第136表 第223号土坑出土土物観察表

1	瀬戸美濃系 鉄丸	A.口縁部径12.2,器高7.3,高台部径5.3, B.ロクロ成形, 高台部削り出し, C.口縁部内外面回転ナデ, 体部下・底部外面回転鋭クズリ, D.白色粒, E.内外一暗茶褐色, F.完形, G.軸は最初に全体に薄く塗き, その後に内面と外面上平に厚く掛ける, H.覆土中。
2	瀬戸美濃系 鉄小丸	A.口縁部径8.4,器高3.9,高台部径4.2, B.ロクロ成形, 高台部削り出し, C.口縁部内外面回転ナデ, 体部下・底部外面回転鋭クズリ, D.白色粒, E.内外一暗茶褐色, 肉一淡白色, F.完形, G.軸は塗け塗き, H.内面にトシムあり, H.覆土中。
3	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径8.8,器高2.4,底部径5.6, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, G.口縁部に傷付着, H.覆土中。
4	かわらけ	A.口縁部径9.2,器高2.4,底部径4.8, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, G.器形は歪んでいる, H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.10,重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2, 覆土下層。
6	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.10,重さ2.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2, 覆土下層。
7	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.08,重さ2.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2, 覆土下層。
8	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.11,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2, 覆土下層。
9	寛永通寶	A.直径2.34,厚さ0.08,重さ2.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2, 覆土下層。
10	寛永通寶	A.直径2.39,厚さ0.09,重さ1.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 2, 覆土下層。
11	寛永通寶	A.直径2.59,厚さ0.12,重さ2.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 1, 覆土下層。
12	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 2, 覆土下層。
13	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.10,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 2, 覆土下層。
14	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.09,重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文字あり, H.No 2, 覆土下層。

15	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 2, 覆土下層。
16	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 2, 覆土下層。

第137表 第224号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ(灯明皿)	A.口縁部径10.4,器高2.4,底部径5.9, B.口ロク成形, C.口縁部内外面回転ナズ, 底部外面回転赤切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡灰褐色, F.完形, G.口唇部の一部に煤付着, H.床面付着。
2	かわらけ(灯明皿)	A.口縁部径10.2,器高2.3,底部径6.3, B.口ロク成形, C.口縁部内外面回転ナズ, 底部外面回転赤切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, G.口縁部及び底部外面に煤付着, H.床面直上。
3	かわらけ(灯明皿)	A.口縁部径10.0,器高2.2,底部径5.9, B.口ロク成形, C.口縁部内外面回転ナズ, 底部外面回転赤切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, G.口縁部に煤付着, H.床面直上。
4	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.10,重さ2.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.13,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.08,重さ1.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径(2.50),厚さ(0.16),重さ1.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ2.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。

第138表 第225号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.11,重さ3.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.No 1。
2	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.11,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.No 1。
3	寛永通寶	A.直径2.41,厚さ0.10,重さ2.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), 六道銭, H.No 1。
4	寛永通寶	A.直径2.19,厚さ0.09,重さ2.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), 六道銭, H.No 1。
5	寛永通寶	A.直径2.36,厚さ0.12,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), 六道銭, H.No 1。
6	寛永通寶	A.直径2.32,厚さ0.09,重さ1.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), 六道銭, H.No 1。

第139表 第226号土坑出土遺物観察表

1	永楽通寶	A.直径2.54,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.15世紀初鋳(明銭), H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.11,重さ3.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.10,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.12,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.56,厚さ0.09,重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.08,重さ2.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.10,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.58,厚さ0.10,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.12,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.58,厚さ0.11,重さ4.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.30,厚さ0.08,重さ2.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.33,厚さ0.08,重さ2.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
13	寛永通寶	A.直径2.32,厚さ0.09,重さ2.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
14	寛永通寶	A.直径2.31,厚さ0.10,重さ2.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
15	寛永通寶	A.直径2.32,厚さ0.10,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
16	寛永通寶	A.直径2.31,厚さ0.08,重さ1.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
17	寛永通寶	A.直径2.35,厚さ0.09,重さ2.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
18	寛永通寶	A.直径2.31,厚さ0.08,重さ2.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
19	煙管(雁口)	A.全長7.4,首部最大径1.1,火皿径1.6,火皿高1.0,厚さ0.10,重さ11.7g, B.銅製型切り後曲げ, 火皿接着, D.銅製, F.完形, G.竹製の継ぎが一部残る, H.覆土中。
20	煙管(雁口)	A.残存長5.3,最大径1.0,厚さ0.08,重さ3.0g, B.銅製型切り後曲げ, D.銅製, F.端部欠損, H.覆土中。

第140表 第229号土坑出土遺物観察表

1	開元通寶	A.直径(2.42),厚さ0.08,重さ1.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.621年初鋳(中国銭), H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.58,厚さ0.12,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.47,厚さ0.11,重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.13,重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.11,重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.09,重さ2.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.11,重さ3.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.12,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。

10	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.12,重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.10,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
13	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.10,重さ2.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
14	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
15	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
16	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.10,重さ2.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
17	寛永通寶	A.直径2.26,厚さ0.09,重さ1.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
18	寛永通寶	A.直径2.27,厚さ0.09,重さ2.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
19	寛永通寶	A.直径2.30,厚さ0.12,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
20	寛永通寶	A.直径2.16,厚さ0.09,重さ1.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。

第141表 第230号土坑出土遺物観察表

1	永楽通寶	A.直径2.49,厚さ0.10,重さ2.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.15世紀初鋳(明銭), H.No 1, 覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.10,重さ2.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 1, 覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 1, 覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.14,重さ4.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 1, 覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.08,重さ2.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.No 2, 底面。
6	寛永通寶	A.直径2.47,厚さ0.14,重さ3.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.No 2, 底面。
7	寛永通寶	A.直径2.40,厚さ0.12,重さ3.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.No 2, 底面。
8	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.13,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.No 2, 底面。
9	寛永通寶	A.直径2.56,厚さ0.11,重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 1, 覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.57,厚さ0.12,重さ3.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 1, 覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.12,重さ3.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 1, 覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 1, 覆土中。
13	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 1, 覆土中。
14	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.12,重さ3.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 1, 覆土中。
15	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 1, 覆土中。
16	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.No 2, 底面。
17	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.10,重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.No 2, 底面。
18	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.10,重さ2.4g, B.鋳造, D.銅製, F.ほぼ完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
煙管(雁首)	A.全長7.5, 首部最大径0.9, 火皿径1.5, 火皿高1.1, 厚さ0.08, 重さ9.1g, B.銅製型切り後曲げ, 火皿接合部に補強帯をもつ, D.銅製, F.完形, G.竹製の雁字が一部残る, 煙管(吸口), 棒状鉄製品, 火打金と一緒にまともって出土, H.底面付近。	
煙管(吸口)	A.全長7.1, 最大径0.9, 厚さ0.08, 重さ2.7g, B.銅製型切り後曲げ, D.銅製, F.3/4, G.竹製の雁字が一部残る, 煙管(雁首), 棒状鉄製品, 火打金と一緒にまともって出土, H.底面付近。	
棒状鉄製品	A.残存長7.0, 幅1.0, 厚さ0.2, 重さ5.2g, B.鍛造, D.鉄製, F.2/3, G.煙管(雁首・吸口)や火打金と一緒にまともって出土, H.底面付近。	
火打金	A.長さ6.4, 高さ2.7, 厚さ0.5, 重さ13.1g, B.鍛造, D.鉄製, F.完形, G.錆より地金部分は膨らむ, 煙管(雁首), 棒状鉄製品と一緒にまともって出土, H.底面付近。	

第142表 第231号土坑出土遺物観察表

1	元祐通寶	A.直径2.43,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.模範銭(叶手元祐), 中世末~近世初頭, H.覆土下層。
2	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.10,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土下層。
3	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.12,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土下層。
4	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土下層。
5	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土下層。

6	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.10,重さ2.8g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.覆土下層.
7	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.11,重さ3.2g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.覆土下層.
8	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.11,重さ2.8g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.覆土下層.
9	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.6g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.文銭(1668年初鑄). 背面に「文」字あり. H.覆土下層.
10	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.11,重さ3.6g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.文銭(1668年初鑄). 背面に「文」字あり. H.覆土下層.
11	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.10,重さ2.5g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.文銭(1668年初鑄). 背面に「文」字あり. H.覆土下層.

第143表 第232号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.11,重さ2.9g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). 六道銭. H.覆土中.
2	寛永通寶	A.直径2.38,厚さ0.11,重さ2.8g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). 六道銭. H.覆土中.
3	寛永通寶	A.直径2.41,厚さ0.08,重さ1.5g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). 六道銭. H.覆土中.
4	寛永通寶	A.直径2.56,厚さ0.11,重さ2.2g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.文銭(1668年初鑄). 背面に「文」字あり. 六道銭. H.覆土中.
5	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.10,重さ2.4g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.文銭(1668年初鑄). 背面に「文」字あり. 六道銭. H.覆土中.
6	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ2.9g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.新寛永(1697年初鑄). 六道銭. H.覆土中.
7	火打金	A.長さ5.8,残存高2.5,厚さ0.3,重さ18.4g. B.鍛造. D.鉄製. F.一部欠損. H.覆土中.

第144表 第233号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.4,器高2.5,底部径5.3. B.ロウロ成形. C.口縁部内外面回転ナデ. 底部外面回転糸切り. D.赤色粒,白色粒. E.内外一淡褐色. F.宍形. G.内外面に優付着. H.底面付着.
2	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.0,器高2.1,底部径6.0. B.ロウロ成形. C.口縁部内外面回転ナデ. 底部外面回転糸切り後雑なナデ. D.赤色粒,白色粒. E.内外一淡褐色. F.宍形. G.口縁部の一部に優付着. H.底面付着.
3	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.0,器高2.2,底部径(5.8). B.ロウロ成形. C.口縁部内外面回転ナデ. 底部外面回転糸切り. D.赤色粒,白色粒. E.外一淡褐色,内一淡褐色色. F.口縁部1/4. G.口縁部外面に優付着. H.覆土中.
4	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径8.6,器高2.0,底部径6.0. B.ロウロ成形. C.口縁部内外面回転ナデ. 底部外面回転糸切り後雑なナデ. D.赤色粒,白色粒. E.内外一淡褐色. F.宍形. G.口縁部の一部に優付着. H.底面付着.
5	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径8.8,器高2.1,底部径6.0. B.ロウロ成形. C.口縁部内外面回転ナデ. 底部外面回転糸切り. D.赤色粒,白色粒. E.内外一淡褐色. F.宍形. G.口縁部に優付着. H.底面付着.
6	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.0g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). 六道銭. H.No 5.
7	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.11,重さ3.5g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). 六道銭. H.No 5.
8	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.13,重さ4.0g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). 六道銭. H.No 5.
9	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.11,重さ3.0g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). 六道銭. H.No 5.
10	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.10,重さ2.7g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). 六道銭. H.No 5.
11	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ3.1g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.No10.
12	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.09,重さ2.7g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.No10.
13	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.09,重さ2.9g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.No10.
14	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.09,重さ2.8g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.No10.
15	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.10,重さ2.8g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.No10.
16	寛永通寶	A.直径2.36,厚さ0.12,重さ3.2g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.No10.
17	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.11,重さ3.4g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.No10.
18	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.10,重さ2.9g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.No10.
19	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.11,重さ3.2g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.No10.
20	寛永通寶	A.直径2.56,厚さ0.12,重さ3.8g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.文銭(1668年初鑄). 背面に「文」字あり. 六道銭. H.No 5.
21	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.09,重さ2.4g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.文銭(1668年初鑄). 背面に「文」字あり. H.No 6.
22	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.09,重さ2.4g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.文銭(1668年初鑄). 背面に「文」字あり. H.No 7.
23	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.09,重さ2.0g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.文銭(1668年初鑄). 背面に「文」字あり. H.No 9.
24	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.12,重さ3.5g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.文銭(1668年初鑄). 背面に「文」字あり. H.No10.
25	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.10,重さ2.6g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.文銭(1668年初鑄). 背面に「文」字あり. H.No10.

第145表 第234号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径10.0,器高2.5,底部径6.5. B.ロウロ成形. C.口縁部内外面回転ナデ. 底部外面回転糸切り. D.赤色粒,白色粒. E.内外一明茶褐色. F.宍形. G.口縁部に優付着. H.底面付着.
2	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.8,器高2.3,底部径6.1. B.ロウロ成形. C.口縁部内外面回転ナデ. 底部外面回転糸切り. D.赤色粒,白色粒. E.内外一淡茶褐色. F.1/2. G.口縁部の一部に優付着. H.底面付着.
3	寛永通寶	A.直径2.47,厚さ0.09,重さ2.1g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.No 3,底板上.
4	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.10,重さ3.2g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.No 3,底板上.
5	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.10,重さ3.0g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.No 3,底板上.
6	寛永通寶	A.直径2.42,厚さ0.10,重さ2.9g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.No 3,底板上.
7	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.7g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.No 3,底板上.
8	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.10,重さ3.1g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.No 3,底板上.
9	寛永通寶	A.直径2.45,厚さ0.10,重さ3.1g. B.鑄造. D.銅製. F.宍形. G.古寛永(1636年初鑄). H.No 3,底板上.

10	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.10,重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 3, 底面上。
11	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.12,重さ3.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 3, 底面上。
12	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.09,重さ1.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 3, 底面上。
13	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.No 4, 底面。
14	寛永通寶	A.直径2.39,厚さ0.10,重さ2.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.No 4, 底面。
15	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.11,重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.No 4, 底面。
16	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.No 4, 底面。
17	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ2.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.No 4, 底面。
18	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.09,重さ2.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.No 4, 底面。

第146表 第235号土坑出土遺物観察表

1	肥前系陶器 甕の目 輪割ぎ皿	A.口縁部径12.2,器高3.5,高台部径4.3, B.ロクロ成形,高台部削り出し, C.口縁部内外面回転ナデ, 体部外面下平・底部外面回転削り出し, D.黒色粒, 白色粒, E.外一淡緑灰色, 内一青緑色, 内一淡灰色, F.完形, G.内面中央を櫛歯状工具により蛇の目状に青緑色釉を掻き取る, H.煙管や線と一緒に覆土下層からまともに出て上。
2	煙管 (壺首)	A.全長6.9, 首部最大径1.0, 火面径1.4, 火面高1.1, 厚さ0.09, 重さ8.3g, B.銅製型切り後曲げ, 火皿接着, D.銅製, F.ほぼ完形, G.No 3の喉口とセット, H.陶器皿, 鏡, 煙管(喉口)と一緒に覆土下層からまともに出て上。
3	煙管 (喉口)	A.残存長5.6, 最大径1.0, 厚さ0.09, 重さ3.5g, B.銅製型切り後曲げ, D.銅製, F.端部欠損, G.No 2の壺首とセット, H.陶器皿, 鏡, 煙管(壺首)と一緒に覆土下層からまともに出て上。
4	釘	A.残存長3.0, 幅0.45, 厚さ0.5, 重さ2.9g, B.鍛造, D.鉄製, F.破片, G.断面は四角形, H.覆土中。
5	鏡 (懐中鏡)	A.長さ7.8, 幅5.3, 厚さ1.5, 紐座径0.5, 重さ40g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.背面に「瓢箪(勳国)」と「天下第一」の銘あり, H.陶器皿, 煙管と一緒に覆土下層からまともに出て上。
6	碁石?	A.直径2.2, 厚さ0.55, 重さ3.6g, B.表面とも研磨, D.粘板岩?, F.ほぼ完形, G.表面を黒色に塗装, 裏面とも鉄片が付着, H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.44, 厚さ0.11, 重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.45, 厚さ0.11, 重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.44, 厚さ0.14, 重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.45, 厚さ0.11, 重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.56, 厚さ0.10, 重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.53, 厚さ0.12, 重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.覆土中。
13	寛永通寶	A.直径2.32, 厚さ0.10, 重さ1.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.覆土中。
14	寛永通寶	A.直径2.34, 厚さ0.12, 重さ2.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), 背面に「元」字あり, H.覆土中。

第147表 第236号土坑出土遺物観察表

1	肥前系磁器 染付瓶	A.残存高24.0, 底径部径6.8, B.ロクロ成形, 底部上げ底, C.内外面回転ナデ, D.白色粒, E.内外一淡灰色, F.口縁部欠損, G.内外面輪軸後, 発色の薄い染付文様を備す, H.底面直上(早稲内)。
2	常滑系茶 裏	B.粘土組織み上げ後一ロクロ整形, C.外面回転ナデ, 内面ナデ, D.白色粒, E.外一暗茶褐色, 内一暗灰褐色, F.破片, G.外面に降灰による斑点状の自然輪がわかる, H.覆土中。
3	小刀	A.残存長41.0, 身幅3.1, 身厚さ0.6, 柄長9.4, 柄最大幅2.6, 柄厚さ0.5, 重さ315.5g, B.鍛造, D.刀身・目釘は鉄製, 鞘・鍔・切刃は銅製, F.切先欠損, G.鍔は卵形で, 片側に小東穴をもつ, 鞘は腐食が激しく刀身に融着し, 原形を留めていない, H.底面直上(早稲内)。
4	寛永通寶	A.直径2.59, 厚さ0.12, 重さ3.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.底面。
5	寛永通寶	A.直径2.53, 厚さ0.10, 重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.底面。
6	寛永通寶	A.直径2.47, 厚さ0.09, 重さ2.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.底面。
7	寛永通寶	A.直径2.53, 厚さ0.10, 重さ2.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底面。
8	寛永通寶	A.直径2.53, 厚さ0.12, 重さ3.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底面。
9	寛永通寶	A.直径2.54, 厚さ0.09, 重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底面。
10	寛永通寶	A.直径2.54, 厚さ0.10, 重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底面。
11	寛永通寶	A.直径2.55, 厚さ0.12, 重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底面。
12	寛永通寶	A.直径2.53, 厚さ0.11, 重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底面。
13	寛永通寶	A.直径(1668年初鋳), 重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底面。
14	寛永通寶	A.直径2.53, 厚さ0.11, 重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底面。
15	寛永通寶	A.直径2.52, 厚さ0.12, 重さ3.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底面。
16	寛永通寶	A.直径2.57, 厚さ0.12, 重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底面。
17	寛永通寶	A.直径2.54, 厚さ0.10, 重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底面。
18	寛永通寶	A.直径2.52, 厚さ0.09, 重さ2.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底面。
19	寛永通寶	A.直径2.49, 厚さ0.11, 重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底面。

第148表 第238号土坑出土遺物観察表

1	瀬戸 美濃系 灰 輪 皿	A.口縁部径13.2、器高2.9、高台部径6.0、B.ロクロ成形、高台部削り出し、C.口縁部内外面回転ナデ、体部・底部外面回転ケズリ、D.白色粒、E.内外一淡緑灰色、内一淡灰色、F.完形、G.軸は厚く付け張り、内面にリング状の重ね焼き痕あり、H.覆土中。
2	瀬戸 美濃系 灰 輪 皿	A.口縁部径12.8、器高3.0、高台部径6.0、B.ロクロ成形、高台部削り出し、C.口縁部内外面回転ナデ、体部・底部外面回転ケズリ、D.白色粒、E.内外一淡緑灰色、内一淡灰色、F.完形、G.軸は厚く付け張り、内面にリング状の重ね焼き痕あり、H.底面付近。
3	寛永 通寶	A.直径25.4、厚さ0.12、重さ1.9g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.文銭(1668年初鋳)、背面に「文」字あり、H.覆土中。
4	寛永 通寶	A.直径25.5、厚さ0.12、重さ2.0g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.文銭(1668年初鋳)、背面に「文」字あり、H.覆土中。

第149表 第239号土坑出土遺物観察表

1	皇 宋 通寶	A.直径2.48、厚さ0.10、重さ2.4g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.1039年初鋳(北宋銭)、H.No 2、底面。
2	寛 永 通寶	A.直径2.46、厚さ0.10、重さ1.6g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.古寛永(1636年初鋳)、H.No 1、底面。
3	寛 永 通寶	A.直径2.48、厚さ0.10、重さ2.9g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.古寛永(1636年初鋳)、H.No 2、底面。
4	寛 永 通寶	A.直径2.54、厚さ0.11、重さ3.0g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.古寛永(1636年初鋳)、H.No 2、底面。
5	寛 永 通寶	A.直径2.49、厚さ0.10、重さ2.8g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.古寛永(1636年初鋳)、H.No 2、底面。
6	寛 永 通寶	A.直径2.45、厚さ0.10、重さ2.9g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.古寛永(1636年初鋳)、H.No 2、底面。
7	寛 永 通寶	A.直径2.44、厚さ0.10、重さ2.9g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.古寛永(1636年初鋳)、H.No 2、底面。
8	寛 永 通寶	A.直径2.45、厚さ0.11、重さ3.0g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.古寛永(1636年初鋳)、H.No 2、底面。
9	寛 永 通寶	A.直径2.49、厚さ0.11、重さ3.6g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.古寛永(1636年初鋳)、H.No 2、底面。
10	寛 永 通寶	A.直径2.55、厚さ0.10、重さ2.6g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.古寛永(1636年初鋳)、H.No 2、底面。
11	寛 永 通寶	A.直径2.55、厚さ0.11、重さ3.4g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.古寛永(1636年初鋳)、H.No 2、底面。
12	寛 永 通寶	A.直径2.44、厚さ0.11、重さ3.4g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.古寛永(1636年初鋳)、H.No 2、底面。
13	寛 永 通寶	A.直径2.46、厚さ0.12、重さ3.1g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.古寛永(1636年初鋳)、H.No 4、底面。
14	寛 永 通寶	A.直径2.49、厚さ0.11、重さ3.2g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.古寛永(1636年初鋳)、H.No 4、底面。
15	寛 永 通寶	A.直径2.53、厚さ0.09、重さ2.5g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.文銭(1668年初鋳)、背面に「文」字あり、H.No 3、底面。
16	寛 永 通寶	A.直径2.54、厚さ0.11、重さ3.5g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.文銭(1668年初鋳)、背面に「文」字あり、H.No 4、底面。
17	寛 永 通寶	A.直径2.54、厚さ0.08、重さ2.4g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.文銭(1668年初鋳)、背面に「文」字あり、H.No 4、底面。

第150表 第240号土坑出土遺物観察表

1	肥前系磁器 色 絵 碗	A.残存高4.9、高台部径4.8、B.ロクロ成形、C.内外面回転ナデ、D.黒色粒、白色粒、E.内外一白色、F.底部1/2、G.外面に赤色の梅花の模様を施す、H.覆土中。
2	かわらけ (灯 明 皿)	A.口縁部径9.0、器高2.1、底部径5.4、B.ロクロ成形、C.口縁部内外面回転ナデ、底部外面回転系切り、D.赤色粒、白色粒、E.内外一淡褐色、F.完形、G.口縁部の一部に保存着、H.覆土中。
3	寛 永 通寶	A.直径2.53、厚さ0.10、重さ3.3g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.古寛永(1636年初鋳)、H.No 2、底面。
4	寛 永 通寶	A.直径2.57、厚さ0.11、重さ3.4g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.古寛永(1636年初鋳)、H.No 2、底面。
5	寛 永 通寶	A.直径2.48、厚さ0.10、重さ3.2g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.古寛永(1636年初鋳)、H.No 2、底面。
6	寛 永 通寶	A.直径2.33、厚さ0.09、重さ2.6g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.古寛永(1636年初鋳)、H.No 2、底面。
7	寛 永 通寶	A.直径2.54、厚さ0.12、重さ3.7g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.文銭(1668年初鋳)、背面に「文」字あり、H.No 2、底面。
8	寛 永 通寶	A.直径2.38、厚さ0.10、重さ2.5g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.新寛永(1697年初鋳)、H.No 2、底面。
9	寛 永 通寶	A.直径2.33、厚さ0.11、重さ3.1g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.新寛永(1697年初鋳)、H.No 2、底面。
10	寛 永 通寶	A.直径2.30、厚さ0.10、重さ2.5g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.新寛永(1697年初鋳)、H.No 2、底面。
11	寛 永 通寶	A.直径2.31、厚さ0.09、重さ2.6g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.新寛永(1697年初鋳)、H.No 2、底面。

第151表 第248号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ	A.口縁部径9.4、器高2.1、底部径6.8、B.ロクロ成形、C.口縁部内外面回転ナデ、底部外面回転系切り、D.赤色粒、白色粒、E.内外一淡茶褐色、F.完形、G.下から歯が2個出土、H.底面直上。
2	かわらけ	A.口縁部径9.2、器高1.9、底部径6.2、B.ロクロ成形、C.口縁部内外面回転ナデ、底部外面回転系切り、D.赤色粒、白色粒、E.内外一淡茶褐色、F.完形、H.底面直上。
3	開 元 通寶	A.直径2.40、厚さ0.08、重さ2.2g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.621年初鋳(中国銭)、H.No11、底面付近。
4	元 豊 通寶	A.直径2.36、厚さ0.10、重さ2.4g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.1078年初鋳(宋銭)、六道銭、H.No 3、底面付近。
5	元 豊 通寶	A.直径2.51、厚さ0.10、重さ3.5g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.1078年初鋳(宋銭)、六道銭、H.No 6、底面付近。
6	元 豊 通寶	A.直径2.44、厚さ0.08、重さ2.4g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.1078年初鋳(宋銭)、六道銭、H.No 8、底面付近。
7	元 豊 通寶	A.直径2.46、厚さ0.10、重さ2.9g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.1078年初鋳(宋銭)、H.No11、底面付近。
8	熙 寧 元 寶	A.直径2.37、厚さ0.15、重さ4.3g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.1068年初鋳(宋銭)、六道銭、H.No 7、底面付近。
9	聖 宗 元 寶	A.直径2.39、厚さ0.10、重さ3.0g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.1101年初鋳(宋銭)、H.No11、底面付近。
10	嘉 祐 通寶	A.直径2.42、厚さ0.08、重さ2.4g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.1056年初鋳(宋銭)、H.No11、底面付近。
11	嘉 祐 通寶	A.直径2.35、厚さ0.14、重さ3.6g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.1056年初鋳(宋銭)、六道銭、H.No 5、底面付近。
12	元 祐 通寶	A.直径2.42、厚さ0.10、重さ2.1g、B.鋳造、D.銅製、F.完形、G.1086年初鋳(宋銭)、六道銭、H.No 4、底面付近。

13	天 禧 通 寶	A.直径2.38,厚さ0.08,重さ2.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.1017年初鑄(宋銭), H.No1, 底面付近。
----	---------	---

第152表 第253号土坑出土遺物観察表

1	丹 波 産 漆	A.口縁部径(31.8)、器高14.2、底部径(13.7)、B.粘土組織み上げ後ロクロ整形、C.外面上半回転ナデ、下半ナデの後下端ケズリ、内面回転ナデの後巻曲状工具(7本歯)による放射状の掃り目、底部外面ナデ、D.白色粒(長石)、E.外一明茶褐色、内一灰白色、F.1/2、H.底面直上。
2	数 珠 玉	A.直径0.54、高さ0.43、重さ0.2g、B.不明、C.表面研磨、D.ガラス製、E.無色、くすんだ透明、F.完形、G.表面は風化により部分的に白色化している、H.覆土中。

第153表 第255号土坑出土遺物観察表

1	釘	A.残存長8.0,最大幅0.5,重さ6.6g, B.鍛造, D.鉄製, F.2/3(頭部欠損), G.断面は四角形, H.覆土中。
---	---	---

第154表 第256号土坑出土遺物観察表

1	寛 永 通 寶	A.直径2.43,厚さ0.08,重さ1.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄)、六道銭?, H.No 1。
2	寛 永 通 寶	A.直径2.53,厚さ0.10,重さ3.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄)、六道銭?, H.No 1。
3	寛 永 通 寶	A.直径2.52,厚さ0.09,重さ2.8g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄)、背面に「文」字あり、六道銭?, H.No 1。
4	寛 永 通 寶	A.直径2.39,厚さ0.09,重さ2.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄)、六道銭?, H.No 1。
5	寛 永 通 寶	A.直径(2.35)、厚さ0.11,重さ0.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄)、六道銭?, H.No 1。

第155表 第257号土坑出土遺物観察表

1	寛 永 通 寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ1.5g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄)、背面に「文」字あり, H.覆土中。
2	寛 永 通 寶	A.直径2.30,厚さ0.08,重さ1.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。

第156表 第260号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ	A.口縁部径(9.2)、器高2.3、底部径(6.0)、B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ、底部外面回転糸切り, D.赤色粒、白色粒, E.外一淡褐色、内一淡灰褐色, F.底部1/2破片, H.覆土中。
2	寛 永 通 寶	A.直径2.46,厚さ0.09,重さ3.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.底面。
3	寛 永 通 寶	A.直径2.53,厚さ0.10,重さ2.8g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.底面。
4	寛 永 通 寶	A.直径2.45,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.底面。
5	寛 永 通 寶	A.直径2.44,厚さ0.09,重さ2.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.底面。
6	寛 永 通 寶	A.直径2.43,厚さ0.08,重さ1.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.底面。
7	寛 永 通 寶	A.直径2.52,厚さ0.11,重さ3.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄)、背面に「文」字あり, H.底面。
8	寛 永 通 寶	A.直径2.54,厚さ0.10,重さ3.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄)、背面に「文」字あり, H.底面。
9	寛 永 通 寶	A.直径2.52,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄)、背面に「文」字あり, H.底面。
10	寛 永 通 寶	A.直径2.33,厚さ0.10,重さ3.1g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.底面。
11	寛 永 通 寶	A.直径2.30,厚さ0.09,重さ2.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.底面。
12	寛 永 通 寶	A.直径2.34,厚さ0.09,重さ2.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.底面。
13	寛 永 通 寶	A.直径2.31,厚さ0.09,重さ2.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.底面。
14	寛 永 通 寶	A.直径2.25,厚さ0.08,重さ2.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.底面。

第157表 第261号土坑出土遺物観察表

1	瀬戸美濃系 灰輪菊皿	A.口縁部径13.4、器高3.0、高台部径7.7、B.ロクロ成形、高台部削り出し、C.口縁部内外面回転ナデ、体部外面下半回転篋ケズリ、底部外面回転ナデ、D.白色粒, E.内外一淡白色, F.ほぼ完形, G.輪は厚く、内面は一部緑色輪がかかる, H.底面直上。
2	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.0,器高2.7,底部径5.0, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ、底部外面回転糸切り, D.赤色粒、白色粒, E.内外一明褐色, F.完形, G.口縁部の一部に煤付着, 内面中央に布疋痕あり, H.底面直上。
3	かわらけ	A.口縁部径9.0,器高2.5,底部径5.2, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ、底部外面回転糸切り, D.赤色粒、白色粒, E.内外一明褐色, F.完形, G.底部内面中央に凹形の割離痕あり, H.底面直上。
4	元 豊 通 寶	A.直径2.42,厚さ0.06,重さ1.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.1078年初鑄(北宋銭)、六道銭, H.No 4, 底面。
5	寛 永 通 寶	A.直径2.58,厚さ0.09,重さ2.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄)、六道銭, H.No 4, 底面。
6	寛 永 通 寶	A.直径2.49,厚さ0.11,重さ3.5g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 5, 底面。
7	寛 永 通 寶	A.直径2.49,厚さ0.08,重さ2.8g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 5, 底面。
8	寛 永 通 寶	A.直径2.53,厚さ0.09,重さ2.5g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 5, 底面。
9	寛 永 通 寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ4.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 5, 底面。
10	寛 永 通 寶	A.直径2.42,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 5, 底面。
11	寛 永 通 寶	A.直径2.55,厚さ0.10,重さ3.3g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄)、背面に「文」字あり、六道銭, H.No 4, 底面。
12	寛 永 通 寶	A.直径2.54,厚さ0.10,重さ3.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄)、背面に「文」字あり、六道銭, H.No 4, 底面。
13	寛 永 通 寶	A.直径2.53,厚さ0.09,重さ2.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄)、背面に「文」字あり、六道銭, H.No 4, 底面。
14	寛 永 通 寶	A.直径2.53,厚さ0.10,重さ3.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄)、背面に「文」字あり、六道銭, H.No 4, 底面。



15	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.13,重さ4.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 5, 底面。
16	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.10,重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 5, 底面。
17	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.10,重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 5, 底面。
18	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.10,重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 5, 底面。
19	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 5, 底面。
20	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.11,重さ3.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 5, 底面。

第158表 第262号土坑出土土物観察表

1	瀬戸美濃系鉄軸小碗	A.口縁部径7.8,器高3.9,高台部径4.0, B.ロウ口成形,高台部削り出し, C.口縁部内外面回転ナデ,底部外面下半・底部外面回転脱ケズリ, D.黒色粒,白色粒, E.内外一暗茶褐色,肉一淡黄白色, F.完形, G.底部に焼成時の凸び割れあり(貫通している), H.覆土中。
2	瀬戸美濃系鉄軸小碗	A.口縁部径7.8,器高3.5,高台部径3.9, B.ロウ口成形,高台部削り出し, C.口縁部内外面回転ナデ,底部外面下半・底部外面回転脱ケズリ, D.黒色粒,白色粒, E.内外一暗茶褐色,肉一明茶褐色, F.完形, G.底部に焼成時の凸び割れあり(貫通している), 軸は最初完全に薄く塗り,その後厚く鉄軸をかけている,内面にトチン痕あり, H.覆土中。
3	瀬戸美濃系長石軸小碗(志野?)	A.口縁部径6.4,器高3.3,高台部径3.0, B.ロウ口成形,高台部削り出し, C.口縁部内外面回転ナデ,底部外面下半・底部外面回転脱ケズリ, D.白色粒, E.内外一淡黄白色,肉一淡灰白色, F.完形, G.軸は厚く離,内面にトチン痕あり, H.底面直上。
4	熊手元寶	A.直径2.32,厚さ0.11,重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.1068年初鋳(北宋銭), H.No 4, 底面。
5	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.09,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 4, 底面。
6	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.10,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 4, 底面。
7	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.11,重さ3.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 4, 底面。
8	寛永通寶	A.直径2.42,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 4, 底面。
9	寛永通寶	A.直径2.42,厚さ0.12,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 4, 底面。
10	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.10,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 4, 底面。
11	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.09,重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 4, 底面。
12	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.11,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面。
13	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面。
14	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.12,重さ3.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面。
15	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.11,重さ3.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 4, 底面。

第159表 第263号土坑出土土物観察表

1	かわらけ(灯明皿)	A.口縁部径10.0,器高1.9,底部径6.4, B.ロウ口成形, C.口縁部内外面回転ナデ,底部外面回転糸切り, D.赤色粒,白色粒, E.内外一淡橙褐色, F.完形, G.口唇部の一部に傷付痕, H.底面直上。
2	かわらけ	A.口縁部径10.0,器高1.8,底部径6.3, B.ロウ口成形, C.口縁部内外面回転ナデ,底部外面回転糸切り, D.赤色粒,白色粒, E.内外一淡橙褐色, F.3/4, H.底面直上。
3	寛永通寶	A.直径2.42,厚さ0.12,重さ3.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 3, 底面。
4	寛永通寶	A.直径2.56,厚さ0.10,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 3, 底面。
5	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.10,重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 3, 底面。
6	寛永通寶	A.直径2.37,厚さ0.10,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 3, 底面。
7	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.10,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.No 3, 底面。
8	寛永通寶	A.直径2.56,厚さ0.10,重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.No 4, 底面。
9	寛永通寶	A.直径2.41,厚さ0.09,重さ2.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.No 4, 底面。
10	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.09,重さ2.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.No 4, 底面。
11	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.11,重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 3, 底面。
12	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.11,重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 3, 底面。
13	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.12,重さ3.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 3, 底面。
14	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.11,重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 3, 底面。
15	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.11,重さ3.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 3, 底面。
16	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.12,重さ3.8g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 3, 底面。
17	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.10,重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.No 3, 底面。

18	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.11,重さ3.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.No 4, 底面。
19	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.10,重さ3.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.No 4, 底面。
20	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.08,重さ2.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.No 4, 底面。

第160表 第264号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.10,重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.底面。
2	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.10,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.底面。
3	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.10,重さ2.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.底面。
4	寛永通寶	A.直径2.40,厚さ0.11,重さ2.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), 六道銭, H.底面。
5	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.11,重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.底面。
6	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.09,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.底面。

第161表 第265号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.10,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.底面。
2	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.14,重さ3.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.底面。
3	寛永通寶	A.直径2.42,厚さ0.11,重さ2.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.底面。
4	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.07,重さ2.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), H.底面。
5	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.10,重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底面。
6	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.10,重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底面。
7	寛永通寶	A.直径2.59,厚さ0.13,重さ1.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底面。

第162表 第266号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.42,厚さ0.09,重さ2.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.底面。
2	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.10,重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底面。
3	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.10,重さ2.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底面。

第163表 第268号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.55,厚さ0.09,重さ3.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.底板上。
2	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.08,重さ2.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.底板上。
3	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.08,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.底板上。
4	寛永通寶	A.直径2.39,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.底板上。
5	寛永通寶	A.直径2.41,厚さ0.09,重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鋳), H.底板上。
6	寛永通寶	A.直径2.52,厚さ0.08,重さ2.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底板上。
7	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.09,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底板上。
8	寛永通寶	A.直径2.49,厚さ0.09,重さ2.5g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底板上。
9	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.09,重さ2.9g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底板上。
10	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.09,重さ3.0g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H.底板上。
11	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.08,重さ2.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1667年初鋳), H.底板上。
12	寛永通寶	A.直径2.34,厚さ0.09,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.底板上。
13	寛永通寶	A.直径2.35,厚さ0.10,重さ3.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.底板上。
14	寛永通寶	A.直径2.35,厚さ0.10,重さ2.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.底板上。
15	寛永通寶	A.直径2.34,厚さ0.09,重さ2.2g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.底板上。
16	寛永通寶	A.直径2.29,厚さ0.09,重さ2.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.底板上。
17	寛永通寶	A.直径2.30,厚さ0.11,重さ2.6g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.底板上。
18	寛永通寶	A.直径2.31,厚さ0.09,重さ2.3g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.底板上。
19	寛永通寶	A.直径2.30,厚さ0.09,重さ2.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.底板上。
20	寛永通寶	A.直径2.25,厚さ0.08,重さ2.1g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.底板上。
21	寛永通寶	A.直径2.32,厚さ0.08,重さ1.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.底板上。
22	寛永通寶	A.直径2.25,厚さ0.07,重さ1.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鋳), H.底板上。

第164表 第269号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ	A.口縁部径10.2,器高2.2,底部径5.6, B.口コ成り, C.口縁部内外面回転ナズ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一致褐色, F.完形, H.底面付足。
2	かわらけ(灯明皿)	A.口縁部径10.0,器高2.2,底部径6.3, B.口コ成り, C.口縁部内外面回転ナズ, 底部外面回転糸切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一致褐色, F.完形, G.外面の一部に傷付き, H.底面付足。
3	唐国通寶	A.直径2.45,厚さ0.11,重さ3.7g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.959年初鋳(南唐銭), H.No 3, 底面。
4	咸平元寶	A.直径2.47,厚さ0.09,重さ2.4g, B.鋳造, D.銅製, F.完形, G.998年初鋳(北宋銭), H.No 3, 底面。

5	寛永通寶	A.直径2.56,厚さ0.10,重さ3.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 3, 底面。
6	寛永通寶	A.直径2.50,厚さ0.10,重さ2.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 3, 底面。
7	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.12,重さ4.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 3, 底面。
8	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.09,重さ2.5g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 3, 底面。
9	寛永通寶	A.直径2.46,厚さ0.10,重さ2.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 3, 底面。
10	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.11,重さ3.8g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 3, 底面。
11	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 3, 底面。
12	寛永通寶	A.直径2.39,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 3, 底面。
13	寛永通寶	A.直径2.33,厚さ0.11,重さ3.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.No 3, 底面。
14	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.11,重さ4.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), 六道銭, H.No 4, 底面。
15	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.11,重さ2.9g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), 六道銭, H.No 4, 底面。
16	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.08,重さ2.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), 六道銭, H.No 4, 底面。
17	寛永通寶	A.直径2.43,厚さ0.09,重さ3.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), 六道銭, H.No 4, 底面。
18	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.09,重さ3.0g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), 六道銭, H.No 4, 底面。
19	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.11,重さ3.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.文銭(1668年初鑄), 背面に「文」字あり, 六道銭, H.No 4, 底面。

第165表 第271号土坑出土遺物観察表

1	鏝	A.口縁部(22.0), B.粘土組織み上げ, C.口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面段ナデ, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡茶褐色, F.口縁部1/4, H.覆土中。
---	---	---

第166表 第322号土坑出土遺物観察表

1	土 鈴	A.高さ3.2, 最大径2.7, 重さ8.5g, B.型作り?, 溝み部貼り付け, C.外面ナデ, D.細砂粒, E.外一白褐色, F.完形, G.溝み部に焼成前の穿孔(片面穿孔)あり, 中の鳴子は1個, H.覆土中。
---	-----	---

第167表 第347号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径(9.4), 器高1.7, 底部径(6.8), B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転系切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.口縁部1/3破片, G.口縁部に復付着, H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.42,厚さ0.09,重さ2.2g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.44,厚さ0.12,重さ2.8g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.古寛永(1636年初鑄), H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.33,厚さ0.09,重さ2.2g, B.鑄造, D.銅製, F.ほぼ完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.27,厚さ0.08,重さ1.2g, B.鑄造, D.銅製, F.ほぼ完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.32,厚さ0.10,重さ2.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.31,厚さ0.09,重さ2.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.34,厚さ0.08,重さ1.8g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.33,厚さ0.09,重さ2.4g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.35,厚さ0.11,重さ2.7g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.32,厚さ0.09,重さ2.3g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.30,厚さ0.10,重さ2.4g, B.鑄造, D.銅製, F.ほぼ完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。
13	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.09,重さ2.6g, B.鑄造, D.銅製, F.完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土中。

第168表 第348号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.24,厚さ0.08,重さ1.2g, B.鑄造, D.銅製, F.ほぼ完形, G.新寛永(1697年初鑄), H.覆土上層。
---	------	---

第169表 第349号土坑出土遺物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径(9.4), 器高2.5, 底部径(6.3), B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転系切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.1/4弱, G.内面に復付着, H.覆土中。
---	---------------	--

第170表 第351号土坑出土遺物観察表

1	肥前系磁器 色 絵 碗	A.口縁部径8.8, 器高4.8, 高台部径2.7, B.ロクロ成形, C.内外面回転ナデ, D.白色粒, E.内外一白色, F.完形, G.文様は外面に1カ所, 内面に3ヶ所, 赤色の円形の花文を備す, H.北側張出部。
2	肥前系磁器 色 絵 碗	A.口縁部径9.2, 器高4.3, 高台部径3.2, B.ロクロ成形, C.内外面回転ナデ, D.白色粒, E.内外一白色, F.完形, G.内面に器物と人物の絵を備す, H.北側張出部。
3	かわらけ	A.口縁部径9.2, 器高2.0, 底部径5.2, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転系切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一明茶褐色, F.完形, H.北側張出部。
4	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径8.8, 器高1.5, 底部径6.2, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転系切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.ほぼ完形, G.口縁部の一部に復付着, H.覆土中。
5	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径8.4, 器高1.9, 底部径6.6, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転系切り, D.赤色粒, 白色粒, E.外一淡褐色, 内一淡褐色, F.3/4, G.口縁部の一部に復付着, H.覆土中。
6	かわらけ	A.口縁部径8.2, 器高1.9, 底部径4.8, B.ロクロ成形, C.口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転系切り, D.赤色粒, 白色粒, E.内外一淡褐色, F.完形, H.北側張出部。

第171表 第352号土坑出土土物観察表

1	瀬戸美濃系 鉄槌手付 灯明皿	A.口縁部径10.8、器高3.4、底部径5.2。B.ロクロ成形。把手貼り付け。C.内面及び外面上半回転ナデ。外面下半及び底部外面回転ナデ。D.白色粒。E.外面上半内面一淡黄褐色。外面下半一淡黄白色。F.完形。G.底部は削り込みにより高台型になっている。内外面に鉄槌を傷み、底部外面に煤付着。内面にトナリ痕あり。H.覆土中。
2	瀬戸美濃系 灰輪皿	A.口縁部径12.6、器高3.0、高台部径6.0。B.ロクロ成形。高台部削り出し。C.内面及び外面上半回転ナデ。外面下半及び底部外面回転ナデ。D.白色粒。E.外面上半内面一淡黄褐色。外面下半一淡灰色。F.完形。G.内外面に灰輪を施す。内面にリソ状の垂木粒を散らし。H.覆土中。
3	かわらけ	A.口縁部径9.2、器高2.0、底部径5.3。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.3/4。H.覆土中。

第172表 第353号土坑出土土物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.45、厚さ0.10、重さ2.6g。B.鋳造。D.副製。F.完形。G.古寛永(1636年初鋳)。H.覆土上層。
2	寛永通寶	A.直径2.44、厚さ0.09、重さ2.0g。B.鋳造。D.副製。F.ほぼ完形。G.古寛永(1636年初鋳)。H.覆土上層。

第173表 第354号土坑出土土物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径10.0、器高2.0、底部径6.3。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.完形。G.口縁部の一部に煤付着。H.底面直上。
2	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.5、器高2.0、底部径6.1。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.完形。G.口縁部に煤付着。H.底面直上。

第174表 第355号土坑出土土物観察表

1	かわらけ	A.口縁部径9.8、器高2.0、底部径5.9。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.完形。H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.55、厚さ0.10、重さ2.1g。B.鋳造。D.副製。F.ほぼ完形。G.古寛永(1636年初鋳)。H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.47、厚さ0.10、重さ2.5g。B.鋳造。D.副製。F.ほぼ完形。G.古寛永(1636年初鋳)。H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.52、厚さ0.11、重さ2.7g。B.鋳造。D.副製。F.ほぼ完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.52、厚さ0.10、重さ2.7g。B.鋳造。D.副製。F.完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.55、厚さ0.09、重さ2.2g。B.鋳造。D.副製。F.ほぼ完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.54、厚さ0.08、重さ1.8g。B.鋳造。D.副製。F.ほぼ完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.53、厚さ0.12、重さ2.5g。B.鋳造。D.副製。F.ほぼ完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.55、厚さ0.11、重さ2.5g。B.鋳造。D.副製。F.ほぼ完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.55、厚さ0.10、重さ2.7g。B.鋳造。D.副製。F.完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.51、厚さ0.09、重さ2.3g。B.鋳造。D.副製。F.完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.覆土中。
12	寛永通寶	A.直径2.56、厚さ0.11、重さ2.3g。B.鋳造。D.副製。F.ほぼ完形。G.文銭(1668年初鋳)。H.覆土中。
13	不明	A.直径(2.41)、厚さ0.13、重さ1.3g。B.鋳造。D.副製。F.1/2弱。H.覆土中。

第175表 第356号土坑出土土物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.37、厚さ0.13、重さ4.1g。B.鋳造。D.副製。F.完形。G.古寛永(1636年初鋳)。H.覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.49、厚さ0.08、重さ2.4g。B.鋳造。D.副製。F.完形。G.古寛永(1636年初鋳)。H.覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.35、厚さ0.10、重さ3.1g。B.鋳造。D.副製。F.完形。G.古寛永(1636年初鋳)。H.覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.44、厚さ0.12、重さ3.6g。B.鋳造。D.副製。F.完形。G.古寛永(1636年初鋳)。H.覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.55、厚さ0.11、重さ3.6g。B.鋳造。D.副製。F.完形。G.古寛永(1636年初鋳)。H.覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.44、厚さ0.12、重さ3.5g。B.鋳造。D.副製。F.完形。G.古寛永(1636年初鋳)。H.覆土中。
7	寛永通寶	A.直径2.46、厚さ0.11、重さ3.1g。B.鋳造。D.副製。F.完形。G.古寛永(1636年初鋳)。H.覆土中。
8	寛永通寶	A.直径2.52、厚さ0.10、重さ3.2g。B.鋳造。D.副製。F.完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.覆土中。
9	寛永通寶	A.直径2.54、厚さ0.12、重さ3.8g。B.鋳造。D.副製。F.完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.覆土中。
10	寛永通寶	A.直径2.56、厚さ0.11、重さ3.3g。B.鋳造。D.副製。F.完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.覆土中。
11	寛永通寶	A.直径2.55、厚さ0.11、重さ3.1g。B.鋳造。D.副製。F.完形。G.文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H.覆土中。

第176表 第357号土坑出土土物観察表

1	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径10.2、器高2.1、底部径6.0。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.ほぼ完形。G.口唇部の一部に煤付着。H.覆土中。
2	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.6、器高2.1、底部径5.6。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.完形。G.口縁部の一部に煤付着。H.覆土中。
3	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.4、器高2.0、底部径5.6。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色。内一淡黄白色。F.完形。G.口縁部に煤付着。H.覆土中。

4	寛永通寶	A.直径2.48,厚さ0.11,重さ2.6g。B.鑄造。D.刷製。F.ほぼ完形。G.古寛永(1636年初鑄)。H.覆土中削。
---	------	--

第177表 第360号土坑出土遺物観察表

1	裏	A.口縁部径(18.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面麗ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
2	小形裏	A.口縁部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ。内面麗ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/2弱。H.覆土中。
3	埴	A.口縁部径11.2。器高8.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ナデ。内面ナデの後斜方向の暗文を施す。D.白色粒。E.外一暗褐色。内一茶褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
4	高 環	A.脚端部径11.8。B.粘土組織み上げ。C.柱状部外面ナデ。内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.脚端のみ。H.覆土中。

第178表 第361号土坑出土遺物観察表

1	寛永通寶	A.直径2.51,厚さ0.09,重さ2.8g。B.鑄造。D.刷製。F.完形。G.古寛永(1636年初鑄)。六道銭。H.No 1。覆土中。
2	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.11,重さ3.4g。B.鑄造。D.刷製。F.完形。G.古寛永(1636年初鑄)。六道銭。H.No 1。覆土中。
3	寛永通寶	A.直径2.38,厚さ0.13,重さ3.9g。B.鑄造。D.刷製。F.完形。G.古寛永(1636年初鑄)。六道銭。H.No 1。覆土中。
4	寛永通寶	A.直径2.53,厚さ0.09,重さ2.2g。B.鑄造。D.刷製。F.完形。G.古寛永(1636年初鑄)。六道銭。H.No 1。覆土中。
5	寛永通寶	A.直径2.33,厚さ0.11,重さ2.7g。B.鑄造。D.刷製。F.完形。G.古寛永(1636年初鑄)。六道銭?。H.No 2。覆土中。
6	寛永通寶	A.直径2.54,厚さ0.12,重さ3.8g。B.鑄造。D.刷製。F.完形。G.文銭(1668年初鑄)。背面に「文」字あり。六道銭。H.No 1。覆土中。

第179表 第364号土坑出土遺物観察表

1	胴 裏	A.口縁部径(22.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ。内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4破片。H.覆土中。
2	環	A.口縁部径(11.8)。器高2.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。底面外面ケズリ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/6破片。H.覆土中。
3	土 鈔 製 車	A.上面径(5.0)。下面径(2.5)。高さ1.6。重さ13.1。B.手捏ね。C.外面ミガキ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.1/2破片。H.覆土中。

第180表 第365号土坑出土遺物観察表

1	高 環	A.脚端部径14.8。B.粘土組織み上げ。C.脚部外面ミガキ。内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外一明褐色。F.脚端部1/2。H.覆土中。
---	-----	--

第181表 第367号土坑出土遺物観察表

1	裏	A.口縁部径(21.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ。内面麗ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.口縁部1/4破片。G.口縁部中位外面に指頭印痕を残す。H.覆土中。
2	裏	A.口縁部径(19.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ。内面ハケ。D.黒色粒、白色粒。E.外一茶褐色。内一暗茶褐色。F.口縁部1/3破片。H.覆土中。
3	小形台付裏	A.口縁部径10.2。器高11.8。台端部径7.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ。内面麗ナデ。台面内外面ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一明茶褐色。F.3/4。G.外面及び口縁部内面に煤付着。H.覆土中。
4	裏	A.底部径3.6。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ。内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.底部のみ。G.底部外面砂付着。H.覆土中。
5	高台付環	A.口縁部径13.6。器高6.1。高台部径7.1。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡黄褐色。F.3/4。G.酸化塩成。H.覆土中。
6	環	A.口縁部径(13.6)。B.ロクロ成形。C.内外面回転ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4。G.酸化塩成。H.覆土中。
7	須 恵 器 高台付環	A.口縁部径13.4。器高5.3。高台部径5.9。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡灰色。F.ほぼ完形。G.内外面に同じ文字の墨書あり。還元塩成。H.覆土中。

第182表 第368号土坑出土遺物観察表

1	高台付環	A.高台部径7.0。B.ロクロ成形。高台部貼り付け。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡灰褐色。F.高台部のみ。G.還元不良。H.覆土中。
---	------	--

第183表 第371号土坑出土遺物観察表

1	瀬戸美濃系 鉄輪広口壺	A.底部径13.6。B.粘土組織み上げ後ロクロ整形。C.胴部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.白色粒。E.外一黒茶褐色。内一淡茶褐色。内一淡黄白。F.底部1/2。G.輪は内面は薄く、外面は厚く塗っている。H.覆土中。
2	かわらけ (灯明皿)	A.口縁部径9.4。器高1.9。底部径5.8。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.3/4。G.口縁部の内外面に煤付着。H.覆土中。

## 第6節 溝 跡

## 第32号溝跡(第225・227図、図版62)

E 3 地点の調査区南東側に位置する。重複する第157(SI25)号住居跡・第170(SI40)号住居跡・第174(SI42)号住居跡、第133号土坑、第33・37・38号溝跡を切り、第35号溝跡に切られている。本溝跡は、調査区東端から西に向かって17.5mほど直線的に延び、そこからほぼ直角に曲がって南方向に直線的に延びる流路を取っている。

形態は、溝の上幅が60cm～80cm、下幅が20cm～30cmの小規模で比較的均一な幅で、断面は底面が狭い逆台形を呈している。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で43cmある。底面は、やや凹凸があり、比高差はほとんどない。覆土中に流水の痕跡が見られないことから、土地の区画と排水を目的とした溝と考えられる。

出土遺物は、近世の肥前系磁器の染付碗やかかわらけと、中世後期の常滑窯系や産地不明の甕の小破片と、古代の土師器や須恵器の破片が、覆土中から少量出土しただけである。このうちNo 1の肥前系染付碗は、重複する第35号溝跡からの混入の可能性が高いと思われる。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態及び出土遺物の様相から、江戸時代前半頃と考えられる。

本溝跡は、北側の第41・42号溝跡とともに、その西側に分布する近世土坑墓群の墓域の東側を画する区画溝と考えられる。本溝跡の東西方向に直線的に延びる部分と、その北側に並行する第42号溝跡によって画された部分は、近世土坑墓群の墓地に通じる参道と考えられ、その東側調査区外の延長方向は、現在の清福寺の山門前の東西方向の道と一致している。本溝跡の南側は、隣接するG 3地点では検出されていないことから、E 3地点とG 3地点の境の地割で途切れるものと思われる。



第202図 第32号溝跡出土遺物

第184表 第32号溝跡出土遺物観察表

1	肥前系磁器 染付碗	A. 口縁部径 11.2、器高 6.2、底部径 4.5。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡灰白色。F. 3/4。G. 外面に草花文を施す。H. 覆土中。第35号溝跡からの混入?。
2	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径 10.6、器高 2.3、底部径 7.2。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一黒褐色、内一明茶褐色。F. 完成。G. 口縁部に埋付着。H. 覆土中。
3	かわらけ	A. 口縁部径(10.0)、器高 2.1、底部径(7.0)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
4	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径 9.6、器高 1.9、底部径 6.3。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一淡褐色、内一暗褐色。F. 3/4。G. 口縁部の一部に埋付着。H. 覆土中。
5	かわらけ	A. 口縁部径 9.4、器高 1.7、底部径 6.0。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡橙白色。F. 口縁部 1/2 強。H. 覆土中。
6	かわらけ	A. 口縁部径 9.4、器高 1.9、底部径 5.8。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡橙白色。F. 3/4。H. 覆土中。

## 第33号溝跡(第227図、図版63)

E 3 地点の調査区南東側に位置する。重複する第169(SI37)号住居跡・第170(SI38)号住居跡、第149・161号土坑を切り、第114・125・139・269号土坑、第32・72(30)号溝跡に切られている。調査区内では、東西方向に向いて直線的な流路をとり、東側はさらに調査区外に延びている。

形態は、溝の上幅が70cm程度、下幅が20cm～40cm程度の比較的均一な幅で、断面は底面が狭い逆台形を呈している。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高25cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、ローム粒子を含む黒褐色土を主体とし、流水の痕跡は見られなかった。

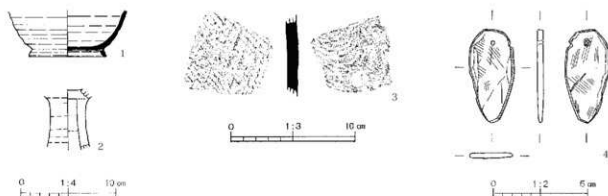
出土遺物は、覆土中から古代の土器破片等が少量出土している。土器以外では、溝跡東側の第170(SI38)号住居跡と重複したあたりから、数個の川原石とともに馬歯と思われる歯が複数出土している。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、中世の所産と推測される。

### 第34号溝跡(第227図)

E3地点の調査区南端に位置する。重複する第158(SI26)・159(SI27)号住居跡を切っている。調査区内では、東西方向に向いて直線的な流路をとっており、溝跡の西側延長部分は不明であるが、東側延長部分は隣接するG3地点(松本2015)でも直線的な流路が検出されており、その東端はG3地点の調査区内で途切れている。

形態は、溝の上幅が75cm程度、下幅が30cm程度の比較的均一な幅で、断面は逆台形の箱堀の形状を呈している。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは約60cmある。底面は、やや狭く平坦である。覆土は、ローム粒子を含む暗褐色土を主体にしており、流水の痕跡は見られない。

出土遺物は、覆土中から古墳時代～平安時代の土師器や須恵器の破片と、中世の常滑窯系撰や在地産片口鉢の破片が少量出土している。この他には、古墳時代の剣形石製模造品が1点出土している。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、中世以降と推測される。



第203図 第34号溝跡出土遺物

第185表 第34号溝跡出土遺物観察表

1	須恵器 高台付城	A. 高台部径(8.2)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 白色粒。E. 内外一淡灰色。F. 底部1/3。H. 覆土中。
2	高 環	A. 残存高6.4。B. 粘土組織み上げ後、ロクロ整形。C. 胴柱部外面回転ナデ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一明褐色。F. 胴柱部上半のみ。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
3	須恵器 費	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 胴部外面平行叩き目、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 白色粒。E. 内外一淡灰白色、肉一黒灰色。F. 破片。H. 覆土中。
4	剣 形 石製模造品	A. 長さ4.9、最大幅2.3、厚さ0.3、重さ7g。C. 表裏面・側面とも研磨。D. 片岩。F. 完形。G. 穿孔は片面側から。H. 覆土中。

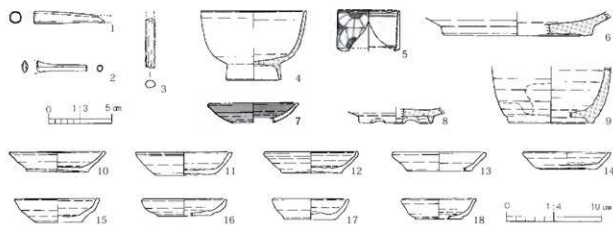
### 第35号溝跡(第223・225図、図版63)

E3地点の調査区中央部から南西側に位置する。重複する第172(SI40)・174(SI42)・180(SI48)・181(SI49)号住居跡、第6・7号掘立柱建物跡、近世土坑墓群、第32・33・37・38号溝跡を

切っている。調査区内では、溝の北側は東西方向に直線的な流路をとり、調査区中央で直角に曲がって南北方向に直線的な流路をとっている。何度か掘り返されており、最終的には南北方向に流路を取る部分の中央付近から東西方向に流路を変えて、西側の第70(28)号溝跡に合流している。

形態は、北側の東西方向に流路をとる部分では溝の上幅が2.5m、西側の南北方向に流路をとる部分では溝の上幅が60cm～2m、下幅が45cm～1.5m程度の幅の広い幅で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは30cmある。覆土は、浅間山系A軽石を含む淡黄褐色土を主体とし、流水の痕跡は見られなかった。

出土遺物は、本溝跡に伴うものとして、近世の陶磁器(肥前系磁器碗、瀬戸美濃系陶器の壺・鉢・灯明皿、堺産播鉢)や土器の焙烙やかわらけの破片と、煙管の吸口などが出土している。その他には、混入品として古代から中世の土器片も出土している。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土中に浅間山系A軽石を顕著に含むことから、江戸時代後半(18世紀後半)以降と考えられる。



第204図 第35号溝跡出土遺物

第186表 第35号溝跡出土遺物観察表

1	煙管(吸口)	A. 残存長 5.8、最大径 1.0、厚さ 0.1、重さ 5.2g。B. 銅版型切り後面付。D. 割裂。F. 3/4。H. 覆土中。
2	煙管(吸口)	A. 残存長 4.0、最大径 1.0、厚さ 0.07、重さ 1.7g。B. 銅版型切り後面付。D. 割裂。F. 2/3。G. 片側は押し潰して切断されている。H. 覆土中。
3	棒状石製品	A. 残存長 4.0、幅 0.8、重さ 3.8g。C. 側面研磨。D. 石材不明。F. 破片。G. 断面は楕円形。H. 覆土中。
4	肥前系磁器碗	A. 口縁部径 11.2、器高 7.3、高台部径 5.8。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデの後施釉。D. 白色粒。E. 内外一白色。F. 完形。H. 覆土中。
5	肥前系磁器染付碗	A. 口縁部径(6.6)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデの後施釉。D. 白色粒。E. 内外一白色。F. 口縁部1/4破片。G. 筒形。H. 覆土中。
6	瀬戸美濃系大鉢	A. 底部径(16.0)。B. 粘土摺積み上げ後ロクロ整形。C. 体部内外面回転ナデの後施釉。底部外面回転盤ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一淡白色。F. 底部1/6破片。H. 覆土中。
7	瀬戸美濃系鉄輪灯明皿	A. 口縁部径(9.6)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。体部外面下半回転盤ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一暗茶褐色。内一暗灰色。F. 口縁部1/8破片。G. 内外面に鉄輪を施す。H. 覆土中。
8	瀬戸美濃系灰釉鉢	A. 高台部径(7.8)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部-高台部内外面回転ナデ。底部外面回転盤ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一淡白色。F. 底部1/2。G. 高台部の一部(推定4カ所)を指で押し潰して装飾している。H. 覆土中。
9	瀬戸美濃系徳利	A. 高台部径(9.0)。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外一淡茶褐色。内一淡黄褐色。F. 胴部下半1/4。G. 外面は薄い鉄輪を施した後、薄い淡緑色釉を施す。H. 覆土中。
10	かわらけ	A. 口縁部径 10.2、器高 2.2、底部径 6.5。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒。白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 完形。H. 覆土中。
11	かわらけ(灯明皿)	A. 口縁部径 10.2、器高 2.4、底部径 6.1。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒。白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 完形。G. 外面に煤付着。底部外周は磨滅している。H. 覆土中。
12	かわらけ(灯明皿)	A. 口縁部径 10.0、器高 2.3、底部径 6.4。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒。白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 完形。G. 口縁部に煤付着。H. 覆土中。



13	かわらけ	A. 口縁径(10.0)、器高 2.0、底径(7.0)。B. ロウロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明褐色。F. 1/4 破片。H. 覆土中。
14	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径 9.4、器高 1.8、底径 6.0。B. ロウロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 完形。G. 口縁部に煤付着。H. 覆土中。
15	かわらけ	A. 口縁部径 9.0、器高 2.5、底径 4.4。B. ロウロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一淡褐色、内一淡褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
16	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径(9.0)、器高 1.8、底径(5.6)。B. ロウロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 1/4 破片。G. 口縁部に煤付着。H. 覆土中。
17	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径(8.2)、器高 2.2、底径(5.5)。B. ロウロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 1/4 破片。G. 口縁部に煤付着。H. 覆土中。
18	かわらけ	A. 口縁部径(8.0)、器高 2.2、底径(5.0)。B. ロウロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 1/6 破片。H. 覆土中。

### 第36号溝跡(第227図)

E 3 地点の調査区南東端に位置し、重複する第165・166号土坑に切られている。調査区内で検出されたのは、溝跡の一部だけであるため、溝跡の全容は不明である。調査区内では、東西方向に向いて直線的な流路をとっており、南西側の第34号溝跡と平行している。溝の東側はさらに調査区外に延びているが、西側の延長は調査区内で検出されておらず、あるいは調査前の地割と同じく、鍵の手状に曲がって第34号溝跡と一致する可能性も考えられる。

形態は、溝の上幅が70cmまで、下幅が50cmまで測れ、断面はおそらく逆台形を呈するようである。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高27cmある。底面は、比較的広く平坦である。覆土は、ローム粒子を含む暗褐色土を主体にしている。

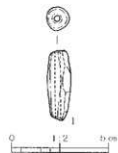
出土遺物は、古代の土師器や須恵器の破片が覆土中から少量出土しただけである。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、遺構の重複関係や覆土の状態から、中世以降と推測される。

### 第37号溝跡(第227図、図版63)

E 3 地点の調査区中央部から東側に位置する。重複する第181(S149)号住居跡、第7号掘立柱建物跡、第32・72号溝跡を切り、第160・174～179・196号土坑や第35号溝跡に切られている。調査区内ではやや北西～南東方向に向いて直線的な流路をとっており、北側3.5mの第38号溝跡と平行に並走している。溝跡の西端は、第65号溝跡の調査区中央部で南北方向に流路を取る部分と合流し、東端は調査区内で途切れている。

形態は、溝の上幅が70cm～120cm、下幅が40cm～60cmの比較的均一な幅で、断面は逆台形の箱堀の形状を呈している。壁は直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高24cmある。底面は、比較的広く平坦である。

出土遺物は、覆土中から古墳時代中期後半～後期の土器の破片が少量と土鏝が1点出土しただけである。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、江戸時代後半(18世紀後半)以降と推測される。



第205図 第37号溝跡  
出土遺物

第167表 第37号溝跡出土遺物観察表

1	土 鏝	A. 長さ 3.7、最大幅 1.2、重さ 5.8g。B. 手掘ね。C. 外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一暗褐色。F. 完形。H. 覆土中。
---	-----	--

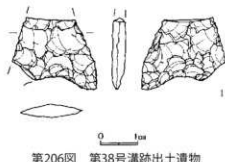
### 第38号溝跡(第227図、図版63)

E 3 地点の調査区中央部から東側に位置する。重複する第172(S140)・173(S141)・180(S148)

号住居跡、第6・7号掘立柱建物跡、第32・72号溝跡を切り、第218号土坑や第35号溝跡に切られている。調査区内では、やや北西～南東方向に向いて直線的な流路をとっており、南側3.5mの第37号溝跡と平行に並走している。溝跡の西端は、第65号溝跡の調査区中央部で南北方向に流路を取る部分と合流し、東端は調査区外に延びている。

形態は、溝の上幅が80cm前後、下幅が30cmの比較的均一な幅で、断面は逆台形の箱堀の形状を呈している。壁は直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高46cmある。底面は、やや広く平坦である。覆土は、浅間山系A軽石を含む暗褐色土を主体としている。

出土遺物は、覆土中から縄文時代の石鏃の破片や、古代の土師器や須恵器の破片が少量出土しただけである。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、江戸時代後半(18世紀後半)以降と推測される。



第188表 第38号溝跡出土遺物観察表

1	石 鏃	A. 残存長1.9、残存幅2.25、厚さ0.38、重さ1.63g。D. 黒色安山岩。F. 2/3割。G. 凹基無茎鏃。H. 覆土中。
---	-----	--

### 第39号溝跡(第223図、図版62)

E 2地点の調査区南東端に位置する。調査区内では、東西方向に向いて直線的な流路をとっている。溝跡の西端は第63(21)号溝跡に切れ、東端は南北方向に流路をとる第72(30)号溝跡の手前で途切れているため、土地の区画を目的とした区画溝と考えられる。

形態は、溝の上幅が40cm～60cm、下幅が25cm～40cmの比較的小規模な幅で、断面は逆台形の箱堀の形状を呈している。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは約25cmある。底面は、狭く平坦である。覆土は、ローム粒子を含む淡灰色土を主体にしている。

出土遺物は、本溝跡の覆土中や近辺から、渡来銭(熙寧元宝)や寛永通宝の銭貨と、古代の土器の破片が少量出土しただけである。本溝跡は、その形態や規模が近世土坑墓群を区画するE 3地点の第32号溝跡や第41・42号溝跡と類似していることから、近世土坑墓群の北側を画する溝と推測されるが、その掘削時期は、第72(30)号溝跡の手前で途切れていることから、第72(30)号溝跡の掘削以後と考えられる。



第189表 第39号溝跡出土遺物観察表

1	熙寧元寶	A. 直径2.35、厚さ0.09、重さ1.9g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 1068年初鋳(本銭)。H. 覆土中。
2	寛永通寶	A. 直径2.52、厚さ0.10、重さ3.2g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。C. 文銭(1668年初鋳)。背面に「文」字あり。H. 覆土中。
3	寛永通寶	A. 直径2.58、厚さ0.10、重さ2.9g。B. 鋳造。D. 銅製。F. ほぼ完形。G. 新寛永(1697年初鋳)。H. 覆土中。
4	寛永通寶	A. 直径2.29、厚さ0.10、重さ2.2g。B. 鋳造。D. 銅製。F. ほぼ完形。G. 新寛永(1697年初鋳)。H. 覆土中。
5	寛永通寶	A. 直径2.33、厚さ0.11、重さ3.0g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 新寛永(1697年初鋳)。H. 覆土中。

## 第40号溝跡(第225図)

E 3 地点の調査区北東側に位置する。重複する第182(SI50)号住居跡を切り、第203・204・222・233・234・251号土坑や第41号溝跡に切られている。調査区内では、東西方向に向いて若干蛇行ぎみではあるが、ほぼ直線的な流路をとっている。溝跡の西側は、第71(29)号溝跡や第73(31)号溝跡に繋がる複数の溝に分かれているが、これらは同時に存在したのではなく、掘り返しによるものと思われる。

形態は、溝の上幅が80cm～160cm、下幅が30cm～40cmの幅で、断面は逆台形を呈している。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは約45cmある。底面は、狭く平坦である。

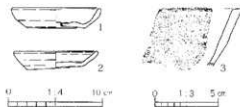
出土遺物は、中世の常滑窯系の甕や在地産片口鉢の破片が少量と、古代の土師器・須恵器・灰釉陶器の破片がやや多く、覆土中から出土している。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、中世～江戸時代初期と推測され、遺構の重複関係や覆土の土層観察の結果では、近世土坑墓群の形成以前で、18世紀後半の浅間山系A軽石降下時にはほとんど埋没していたようである。

## 第41・42号溝跡(第225図、図版62)

E 3 地点の調査区北東側に位置する。重複する第174(SI42)号住居跡・第176(SI44)号住居跡、第40号溝跡を切っている。第41号溝跡と第42号溝跡は、連続せずに途切れているが、規模や形態が非常に類似していることから同一の溝と考えられる。第41号溝跡は第32号溝跡の南北方向に向く流路の北側延長にあたり、第42号溝跡は第32号溝跡の東西方向に向く流路と一定の間隔を保って並走しており、南側の第32号溝跡と対称的な流路を取っている。

形態は、溝の上幅が40cm程度、下幅が20cm程度の小規模で比較的均一な幅で、断面は底面が狭い逆台形を呈している。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さはいずれも最高30cmある。底面は、細かな凹凸があり、比高差はほとんどない。覆土中に流水の痕跡が見られない。本溝跡の西側には、近世土坑墓群があり、南側の第32号溝跡と同じく、それらの墓域の東側を画する区画溝と考えられる。

出土遺物は比較的少なく、近世のかわらけや中世後期の内耳鍋、及び古代の土師器や須恵器の破片が、覆土中から少量出土しただけである。本溝跡の時期は、遺構の形態や出土遺物の様相から、江戸時代前半頃と考えられる。



第208図 第41号溝跡出土遺物

第190表 第41号溝跡出土遺物観察表

1	かわらけ	A. 口縁部径 9.6、器高 2.1、底部径 (6.2)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部 1/2。H. 覆土中。
2	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径 9.0、器高 1.9、底部径 6.0。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 成形。G. 口縁部の一部に煤付着。底部中央に焼成時のひび割れあり。H. 覆土中。
3	内耳鍋	B. 粘土組織み上げ後ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。G. 口縁部破片。H. 覆土中。

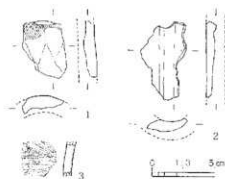
## 第43(1)号溝跡(第216図、図版61)

E 2 地点の調査区中央部に位置する。重複する第244(3)号土坑と第50(8)号溝跡に切られてい

る。調査区内では、南西から北東方向に向かってやや弓状に湾曲した流路を取っている。本溝跡の南側には第44(2)号溝跡が同じ流路をとって並走しているが、その南西側延長部分がD地点の第28号溝跡と考えられることから、両者は同時に存在したのではなく、第44(2)号溝跡の掘り返しによる溝と推測される。覆土は、鉄斑やローム粒子を含む暗褐色土や黄灰色土を主体としている。恒常的な流水の痕跡が見られないことから、排水と区画を目的とした溝と考えられる。

形態は、溝の上幅が120cm程度、下幅が80cm程度の比較的均一な幅で、断面は底面が広い逆台形の箱堀の形状を呈している。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で30cmある。底面は、広く平坦で、北東側に向かって緩やかに傾斜している。

出土遺物は、覆土中から縄文時代や古墳時代の土器片と時期不明の羽口の破片が少量出土しただけである(第209図)。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、中世以降と考えられる。



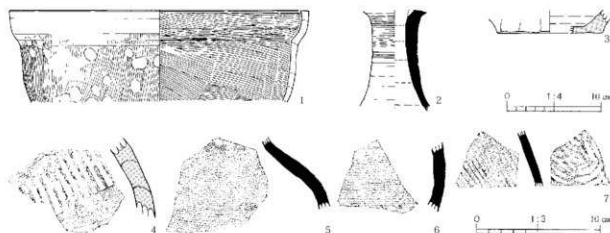
第209図 第43(1)号溝跡出土遺物

第191表 第43(1)号溝跡出土遺物観察表

1	羽口	A. 残存長4.6、残存幅3.6、厚さ1.1。B. 手捏ね成形。C. 外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外上端一黒灰色、外下半分一暗灰色、内一明褐色。F. 破片。G. 外面上端は高熱による発泡痕が見られる。内面割離。H. 覆土中。
2	羽口	A. 残存長6.3、残存幅3.8、厚さ1.1。B. 手捏ね成形。C. 内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内一明褐色。F. 破片。G. 外面割離。H. 覆土中。
3	鉢	B. 粘土層積み上げ。C. 外面地文R.L. 4本面の櫛歯状工具による櫛歯文。内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 破片。G. 縄文前期諸儀b式?。H. 覆土中。

#### 第44(2)号溝跡(第216図、図版61)

E2地点の調査区中央部に位置する。重複する第134(SI2)号住居跡と第135(SI3)号住居跡を切り、第247(6)号土坑・第45(3)・50(8)・51(9)・53(11)号溝跡に切られている。調査区内では、南西から北東方向に向かって弓状に湾曲した流路を取っている。本溝跡の北側には第43(1)号溝跡が同じ流路をとって並走しているが、本溝跡と同時期のものではない。おそらく、その南西側延長部分はD地点の第29号溝跡と考えられる。



第210図 第44(2)号溝跡出土遺物

形態は、溝の上幅が2m程度、下幅が40cm程度の比較的均一な幅で、断面はV字形の菜研堀の形状を呈している。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは約1mある。底面は、狭く平坦で、北東側に向かって緩やかに傾斜している。覆土は、鉄斑やローム粒子を含む黒褐色土を主体にしており、恒常的な流水の痕跡は見られない。

出土遺物は、古墳時代中期後半頃の住居跡と重複しているため、覆土中から古墳時代の土器片が多く出土しているが、本溝跡に関係するものとしては、当地域ではあまり例を見ない形態の土師質の鍋(No 1)や、常滑窯や渥美窯産の甕の破片(No 3・4)が少量出土している。本溝跡の時期は、出土遺物や遺構の重複関係から、概ね中世以降と考えられる。

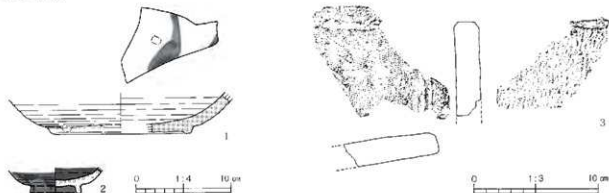
第192表 第44(2)号溝跡出土遺物観察表

1	鍋	A. 口縁部径(32.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ハケの後縦ナデ、内面ハケ。D. 雲母粒、白色粒。E. 外一明茶褐色、内一淡褐色。F. 口縁部1/4。G. 外面煤付着。胴部外面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
2	須恵器 環	A. 残存高 10.7。B. 粘土組織み上げ後ロクコ整形。C. 胴部内外面回転ナデ。D. 片岩粒、黒色粒、白色粒。E. 内外一淡灰色。F. 脚部のみ。G. 胴部外面上半にカキ目を施す。H. 覆土中。
3	常滑窯系 甕	A. 底部径(11.2)。B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 胴部外面踏ハケ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一茶褐色、内一淡褐色。F. 底部1/6。G. 底部内面に淡い緑色の自然釉がかかる。H. 覆土中。
4	渥美窯系 甕	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 胴部内外面踏ナデ。D. 白色粒。E. 外一灰色、内一淡灰色。F. 胴部破片。G. 胴部外面に太い平行線文の押印文を残す。H. 覆土中。
5	須恵器 広口壺	B. 粘土組織み上げ後ロクコ整形。C. 頸部内外面回転ナデ。胴部外面カキ目、内面回転ナデ。D. 黒色粒。E. 内外一灰色。F. 胴部破片。G. 胴部外面に降灰による薄い自然釉がかかる。No 6と同一個体。H. 覆土中。
6	須恵器 広口壺	B. 粘土組織み上げ後ロクコ整形。C. 胴部外面カキ目、内面回転ナデ。D. 黒色粒。E. 内外一灰色。F. 胴部破片。G. No 5と同一個体。H. 覆土中。
7	須恵器 甕	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 胴部外面疑似格子状の叩き目、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 白色粒。E. 外一黒色、内一暗灰色。F. 胴部破片。H. 覆土中。

## 第45(3)号溝跡(第216図、図版62)

E 2 地点の調査区中央部に位置する。重複する第249号土坑と第44(2)・55(3)号溝跡を切っている。調査区内では、東西方向に向けて2条の直線的な溝が並走した流路をとっているが、調査区東端付近は北側に、西端付近は南側に向いてやや湾曲している。

形態は、両溝とも上幅が2.7m～3m程度、下幅が2.3m程度の比較的均一な幅で、断面は逆台形に近い箱堀の形状を呈している。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは両溝とも約50cm程度ある。底面は、狭く平坦である。覆土は、浅間山系A軽石を含む暗褐色土を主体としている。本溝跡は、同規模の溝が2本並走する形態であることから、両溝の間を通路とした道の側溝と考えられる。



第211図 第45(3)号溝跡出土遺物

出土遺物は、覆土中から近世の陶磁器や土器の破片が少量出土している。陶磁器は、肥前系磁器の染付碗や瀬戸美濃系の鉄軸碗や鉄絵鉢など、17世紀後半～18世紀のものが主体である。土器は、平底形態の焙烙の破片が少量見られるだけである。No 3の平瓦の破片は、凹面に布目瓦痕を残し、凸面には粗い縄目叩きを施すもので、その特徴から古代のものと同推測される。本溝跡の時期は、覆土中に浅間山系A軽石を含んでいることから、江戸時代後半(18世紀後半)以降と考えられる。

第193表 第45(3)号溝跡出土遺物観察表

1	瀬戸美濃系 鉄 軸 鉢	A. 高台部径(15.0)。B. 粘土組織み上げ後ロクロ整形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡黄褐色。F. 底部1/6。G. 内外面施釉。内面に鉄絵を施す。内面トナシ痕あり。H. 覆土中。
2	瀬戸美濃系 鉄 軸 碗	A. 高台部径5.4。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 体部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一暗黒茶褐色。内一暗灰色。F. 底部1/2。G. 内外面とも鉄軸を施す。H. 覆土中。
3	平 瓦	A. 残存長(7.5)。残存幅7.4。厚さ2.0。B. 不明。C. 凹面布目瓦痕。凸面節の大きな粗い縄目叩き。側面鋭切りナデ。D. 小石。白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 破片。G. 古代瓦。H. 覆土中。

#### 第46(4) A・46(4) B号溝跡(第214図、図版63)

E 4地点の調査区北側に位置する。重複する第74・75号溝跡を切り、第76・77号溝跡に切られている。第46A号溝跡と第46B号溝跡も重複しており、北側の第46B号溝跡が南側の第46A号溝跡を切っている。E 4地点の調査区内では、両溝跡とも東西方向に向いた流路をとっているが、西側のE 2地点では、本溝跡は明確ではない。両者は並走していることから、掘り返しの溝である可能性が高い。

形態は、第46A号溝跡が上幅80cm・下幅45cm、第46B号溝跡が上幅45cm・下幅26cmの比較的均一な幅で、断面は底面が狭い逆台形状の形状を呈している。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは第46A号溝跡が35cm、第46B号溝跡が25cmある。

出土遺物は、古代の土師器や須恵器の破片が、覆土中から少量出土しただけである。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、平安時代前期(9世紀)以降と推測される。

第212図 第46B号溝跡  
出土遺物

第194表 第46B号溝跡出土遺物観察表

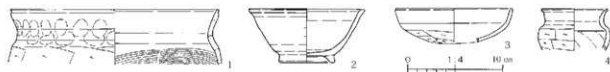
1	須 恵 器 高 台 付 埴	A. 底部径5.6。B. ロクロ成形。高台部削り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転ナデ。D. 黒色粒。白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 底部のみ。H. 覆土中。
---	------------------	---

#### 第47(5)号溝跡(第214図、図版63)

E 2地点とE 4地点の調査区北側に位置し、重複する第74・75・77号溝跡を切っている。調査区内では、東西方向に向いて直線的な流路をとっているが、E 2地点の溝西側は覆土中に浅間山系A軽石を含む江戸時代後半以降のやや規模の大きな別の溝に切られているようである。

形態は、溝の上幅が90cm～170cm、下幅が30cm～70cmの比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは約35cmある。底面は、やや広平坦である。覆土は、砂粒やローム粒子を含む暗褐色土を主体にしており、恒常的に水が流れていたような痕跡は認められない。

出土遺物は、覆土中から古代の土器破片が少量出土しただけである。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態及び出土遺物の様相から、平安時代前期(9世紀)末以降と思われる。



第213図 第47(5)号溝跡出土遺物

第195表 第47(5)号溝跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径 (22.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデの後ハケ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 口縁部 1/3。G. 口縁部外面に指頭圧痕を残す。H. 覆土中。
2	高台付 坏	A. 口縁部径 (12.2)。器高 (5.7)。高台部径 (5.9)。B. ロケロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外一黒灰褐色。F. 口縁部 1/2、底部 3/4。G. 還元不良。器形は推定復元。H. 覆土中。
3	坏	A. 口縁部径 (12.4)。B. 曲げ成形。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下平ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 口縁部 1/4。H. 覆土中。
4	小形短頭甕	A. 口縁部径 (7.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面指ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 1/4。H. 覆土中。

## 第48(6)号溝跡(第214図、図版61)

E 2 地点の調査区北端に位置し、重複する第133(SI 1)号住居跡を切り、第47号溝跡に切られている。調査区内では、東西方向に向いた流路をとっているが、東側は調査区内で途切れている。

形態は、溝の上幅が3.4m、下幅が2m程度の比較的均一な幅で、壁は、緩やかに湾曲しながら立ち上がり、確認面からの深さは45cmある。底面は、広く丸みを帯びている。

出土遺物は、古代の土師器と須恵器の破片が、覆土中から少量出土しただけである。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、中世以前と推測される。

## 第49(7)号溝跡(第214図、図版61・64)

E 2 地点と E 4 地点の調査区北側に位置する。重複する第133(SI 1)号住居跡と第364(103)号土坑を切っている。調査区内では、東西方向に向いてやや弓状に湾曲した流路をとっており、西側は後世の耕作によって削平されている。

形態は、溝の上幅が3m～3.4m、下幅が2m～2.4mの比較的規模の大きな溝で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で35cmある。底面は、広くやや丸みをもち、中央部は幅90cmの溝状になって二段に深くなっている。覆土は、ロームブロックを多量に含む暗褐色土を主体にしている。

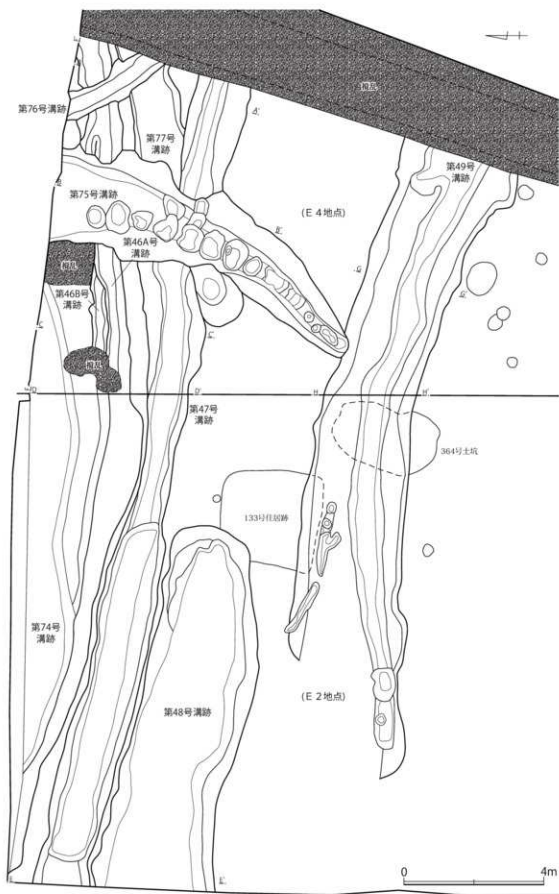
出土遺物は、古代の土師器の破片が、覆土中から少量出土しただけである。本溝跡の時期は、覆土中に浅間山系 A 軽石を含んでいることから、江戸時代後半(18世紀後半)以降と考えられる。

## 第50(8)号溝跡(第216図、図版62)

E 2 地点の調査区中央部に位置し、重複する第247(6)号土坑、第43(1)・44(2)号溝跡を切っている。調査区内では、東西方向に向いて蛇行した流路をとっており、北東側に向いて第53(11)号溝跡と第54(12)号溝跡が分岐している。

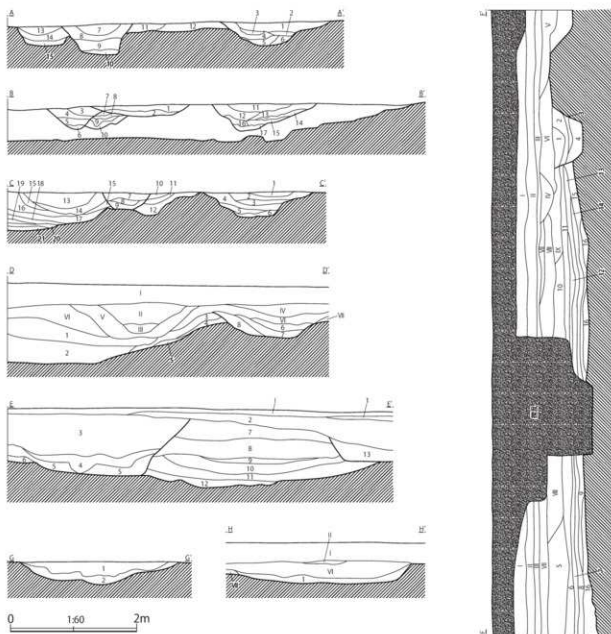
形態は、溝の上幅が50cm～80cm、下幅が30cm～40cmの比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は直線的に立ち上がり、確認面からの深さは西側で20cm、東側で30cmある。

出土遺物は、古代の土師器や須恵器の破片、中世後期の内耳鍋の破片が、覆土中から極少量出土し



第214図 第46(4)AB~49(7)・74(4)~77号溝跡





第215図 第46(4)AB~49(7)・74(4)~77号溝跡土層断面図

<第46AB~49・74~77号溝跡土層説明>

(A-A')

- 第1層：黒褐色土層（径0.2cmの褐色粒子・0.1cm以下の砂粒を含み、径0.8cmのローム粒子を少量含む。しまり有り。粘性弱い。）  
 第2層：黒褐色土層（径0.1~0.3cmの砂粒を多く含み、径0.5cmのローム粒子を少量含む。しまり有り。粘性弱い。）  
 第3層：黒褐色土層（径0.2cm以下の砂粒を多く含み、径0.5~1cmのローム粒子を含む。しまり有り。粘性弱い。）  
 第4層：暗褐色土層（径0.1cm以下の砂粒を含み、径1cmのローム粒子を少量含む。しまり有り。粘性弱い。）  
 第5層：褐灰色土層（粘土状。径1~3cmのロームブロックを含む。しまり有り。粘性有り。）  
 第6層：黒褐色土層（径1cmのローム粒子を含む。しまり有り。粘性普通。）  
 第7層：暗褐色土層（径0.1cmのローム粒子を多く含み、径0.5cmの砂粒を少量含む。しまり有り。粘性弱い。）  
 第8層：黒褐色土層（径0.2cmの砂粒・径0.2~0.8cmのローム粒子を少量含む。しまり有り。粘性弱い。）  
 第9層：黒褐色土層（径0.1~0.2cmのローム粒子を含む。しまり有り。粘性弱い。）  
 第10層：暗褐色土層（径2~3cmのロームブロックを多く含む。しまり有り。粘性有り。）  
 第11層：暗褐色土層（径1~3cmのロームブロックを多く含む。しまり有り。粘性有り。）  
 第12層：暗褐色土層（径1~2cmのロームブロックを含む。しまり有り。粘性弱い。）  
 第13層：灰黄褐色土層（砂っぽい。径0.1cm以下の砂粒を多く含み、径0.1~1cmのローム粒子を含む。しまり有り。粘性無し。）  
 第14層：黒褐色土層（径0.1~0.5cmのローム粒子を含む。しまり有り。粘性弱い。）  
 第15層：黒褐色土層（径0.1~1cmのローム粒子を多く含む。しまり有り。粘性弱い。）

## 〔B-B〕

- 第1層：淡黄褐色土層（砂粒を含む。しまり有り。粘性弱い。）  
 第2層：暗灰色土層（径0.3～1cmの礫を多く含む。）  
 第3層：暗褐色土層（砂粒を多く含む。）  
 第4層：暗褐色土層（径0.1～0.3cmのローム粒子を少量含む。）  
 第5層：暗褐色土層（径0.1～0.8cmのローム粒子を含む。）  
 第6層：灰褐色土層（径0.2cmのローム粒子を多く含む。しまり有り。粘性やや有り。）  
 第7層：暗褐色土層（白色粒子を含む。）  
 第8層：暗褐色土層（径0.1cmのローム粒子を少量含む。）  
 第9層：淡黄褐色土層（径0.1～0.3cmのローム粒子を含む。）  
 第10層：暗褐色土層（径0.1～2cmのローム粒子を少量含む。しまり有り。粘性やや有り。）  
 第11層：暗褐色土層（径0.1cm以下の砂粒を含み、径0.1cmのローム粒子を少量含む。しまり有り。粘性弱い。）  
 第12層：暗褐色土層（径0.5cmの砂粒・炭化物粒子を少量含む。しまり強い。粘性弱い。）  
 第13層：暗褐色土層（径0.1cm以下の砂粒を部分的に多く含む。径0.5cmのローム粒子を少量含む。しまり有り。粘性弱い。）  
 第14層：灰黄褐色土層（鉄分を多く含む。径0.1cm以下の砂粒を含む。しまり有り。粘性弱い。）  
 第15層：暗褐色土層（径0.5～2cmのローム粒子を少量含む。しまり有り。粘性弱い。）  
 第16層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒子を多く含む。砂粒を含む。しまり有り。粘性弱い。）  
 第17層：黄褐色土層（SD46Aに再堆積したローム土。中層に鉄分が見られる。しまり有り。粘性やや有り。）

## 〔C-C〕

- 第1層：暗褐色土層（径0.1cm以下の砂粒・径0.1cm～0.3cmのローム粒子を含む。しまり普通。粘性普通。）  
 第2層：黒褐色土層（径0.1cmのローム粒子を含み、径0.1cmの砂粒を少量含む。しまり有り。粘性強い。）  
 第3層：暗褐色土層（径0.2cm以下の砂粒を多く含む。径0.5～2cmのローム粒子を含む。しまり有り。粘性弱い。）  
 第4層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含む。しまり有り。粘性やや有り。）  
 第5層：黒褐色土層（径0.5cmのローム粒子を少量含む。しまり有り。粘性強い。）  
 第6層：暗褐色土層（径0.5～2cmのローム粒子を多く含む。しまり有り。粘性有り。）  
 第7層：灰黄褐色土層（径0.1cm以下の砂粒を多く含む。径0.5～1cmのローム粒子を含み、径0.5cmの炭化物を少量含む。）  
 第8層：灰白色土層（細砂粒を多量に、径0.5～2cmのローム粒子を少量含む。）  
 第9層：黒褐色土層（径0.5～1cmのローム粒子を含む。）  
 第10層：暗褐色土層（径0.1cm以下の砂粒を多く含む。径0.5～1cmのローム粒子を含む。）  
 第11層：灰黄褐色土層（径0.1cm以下の砂粒を極めて多く含む。径0.5～1cmのローム粒子を含む。）  
 第12層：暗褐色土層（径0.5～2cmのローム粒子を多く含む。）  
 第13層：暗褐色土層（暗褐色粒子を含む。しまり有り。粘性強い。）  
 第14層：暗褐色土層（径0.3cm以下のローム粒子をきわめて多く含む。しまり有り。粘性強い。）  
 第15層：暗褐色土層（しまり有り。粘性弱い。）  
 第16層：黒褐色土層（北壁断面図第5層。径0.3cmのローム粒子を少量含む。しまり有り。粘性弱い。）  
 第17層：暗褐色土層（径0.1cm以下のローム粒子を極めて多く含む。径0.3cm～1cmのローム粒子を多く含む。径0.5cmの炭化粒子を含む。しまり有り。粘性強い。）  
 第18層：黒褐色土層（径0.1cm以下のローム粒子を含み、径0.5cmの炭化粒子を少量含む。しまり有り。粘性弱い。）  
 第19層：暗褐色土層（径0.1～0.3cmのローム粒子を含む。しまり有り。粘性強い。）  
 第20層：黒褐色土層（径0.5cmのローム粒子・径0.3～0.5cmの礫を含む。しまり強い。粘性弱い。）  
 第21層：黒褐色土層（径0.3cm～1cmの礫を極めて多く含む。径0.5cmのローム粒子を含む。しまり強い。粘性弱い。）

## 〔D-D〕

- 第1層：灰黄褐色土層（浅間山系A軽石を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・炭化粒子を少量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、浅間山系A軽石を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第5層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・浅間山系A軽石を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第6層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子・浅間山系A軽石を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第7層：暗褐色土層（径5cmのロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第10層：淡黄褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第11層：淡黄褐色土層（細砂・ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第12層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・細砂を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第13層：暗褐色土層（ローム粒子・細砂を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第14層：暗褐色土層（ロームブロック・細砂を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第15層：淡黄褐色土層（ロームブロック・炭化粒子・細砂を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## 〔E-E〕

- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を多量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：淡黄褐色土層（浅間山系A軽石・ロームブロック・ローム粒子を少量、炭化粒子・鉄屑を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、浅間山系A軽石・ロームブロック・炭化粒子・鉄屑を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第6層：暗褐色土層（炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第7層：淡黄褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第8層：暗褐色土層（鉄屑を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第9層：暗褐色土層（鉄屑を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第10層：黒褐色土層（鉄屑を少量、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

- 第11層：暗褐色土層（鉄屑・径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第12層：灰黄褐色土層（鉄屑・径3cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第13層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、浅間山系A軽石・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 〈F-F'〉  
 第I層：規耕作土。  
 第II層：耕作土。  
 第III層：暗赤褐色土層（鉄分凝集層。水田田床。）  
 第IV層：暗褐色土層（鉄斑点を均一に、礫を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第V層：暗褐色土層（砂質土。礫を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第VI層：暗褐色土層（径0.5cmのロームブロックを含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第VII層：暗褐色土層（砂質土。第V層と同じ。）  
 第VIII層：黒褐色土層（浅間山系B軽石を均一に、ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第IX層：暗褐色土層（浅間山系B軽石を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第1層：（A-A'の第7層）  
 第2層：（A-A'の第8層）  
 第3層：（A-A'の第9層）  
 第4層：（A-A'の第10層）  
 第5層：（C-C'の第16層）  
 第6層：（C-C'の第17層）  
 第7層：（C-C'の第18層）  
 第8層：（C-C'の第19層）  
 第9層：（C-C'の第20層）  
 第10層：（第248図B-B'の第3層）  
 第11層：（第248図B-B'の第4層）  
 第12層：（第248図B-B'の第5層）  
 第13層：（第248図B-B'の第9層）  
 第14層：（第248図B-B'の第10層）  
 第15層：（第248図B-B'の第11層）  
 第16層：（C-C'の第21層）  
 〈G-G'〉  
 第1層：黒褐色土層（径1～3cmのロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（径2～5cmのロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 〈H-H'〉  
 第1層：灰黄褐色土層（浅間山系A軽石を多量含む。）  
 第II層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を少量含む。）  
 第VI層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ロームブロック・ローム粒子を微量含む。）  
 第VII層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を少量含む。）  
 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、浅間山系A軽石・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。）

ただけである。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、江戸時代後半(18世紀後半)以降と推測される。

#### 第51(9)号溝跡(第216図、図版61)

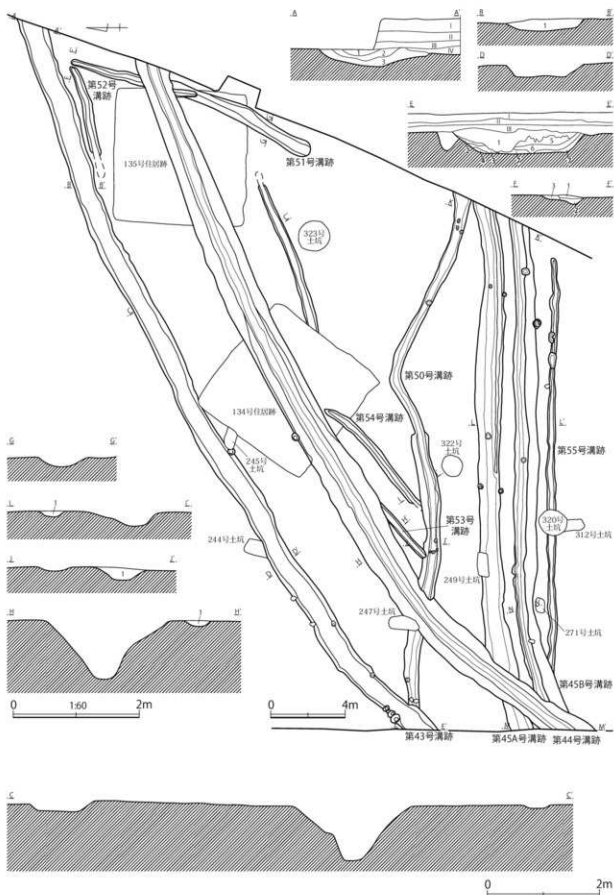
E 2 地点の調査区中央東側寄りに位置する。重複する第135(SI 3)号住居跡、第44(2)・52(10)号溝跡を切っている。調査区内では、北東から南西方向に向いて若干蛇行ぎみの流路をとっている。形態は、長さが13.6m、溝の上幅が40cm～90cm、下幅が20cm～50cmの比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは15cmある。覆土は、灰白色粒子やロームブロックを含む黄灰色土を主体にしている。

遺物は、何も出土しなかった。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、江戸時代後半(18世紀後半)以降と推測される。

#### 第52(10)号溝跡(第216図、図版61)

E 2 地点の調査区中央東側寄りに位置する。重複する第51(9)号溝跡に切られている。調査区内では、東西方向に向いて若干蛇行ぎみの流路をとっている。

形態は、長さが5m、溝の上幅が40cm～50cm、下幅が20cm程度の比較的均一な幅で、断面は逆



第216图 第43(1)~45(3)·50(8)~55(13)号沟跡

## &lt;第43号溝跡土層説明&gt;

&lt;A-A'&gt;

- 第1層：黄灰色土層（灰白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：灰色土層（灰白色粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：黄灰色土層（灰白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：黄灰色土層（灰白色粒子・鉄分凝集塊を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第5層：黒色土層（灰白色粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第6層：暗褐色土層（鉄斑を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第7層：暗褐色土層（鉄斑・黒色粘土ブロックを少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

&lt;B-B'&gt;

- 第1層：黒褐色土層（灰白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：黄褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。第50号溝跡覆土。）  
 第3層：黄褐色土層（砂粒・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：黄褐色土層（褐灰色粘土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第5層：黄褐色土層（砂粒を少量、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：黄褐色土層（粘性に富み、しまりを有する。）  
 第7層：黄褐色土層（褐灰色粘土ブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第8層：黄褐色土層（砂粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第51・52号溝跡土層説明&gt;

&lt;F-F'&gt;

- 第1層：黄褐色土層（褐灰色粒子を少量、灰白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：灰色土層（ロームブロックを少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（灰白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第53号溝跡土層説明&gt;

&lt;H-H'&gt;

- 第1層：黄褐色土層（鉄斑・灰白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第54号溝跡土層説明&gt;

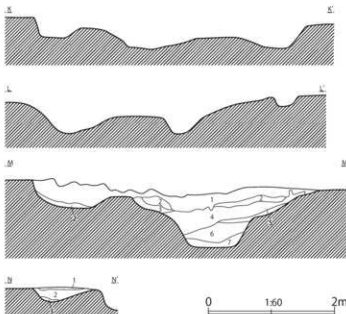
&lt;I-I'&gt;

- 第1層：黒褐色土層（鉄斑を少量、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

## &lt;第50号溝跡土層説明&gt;

&lt;J-J'&gt;

- 第1層：黄褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）



第217図 第43(1)~45(3)・50(8)~55(13)号溝跡断面図

## &lt;第44・45A号溝跡土層説明&gt;

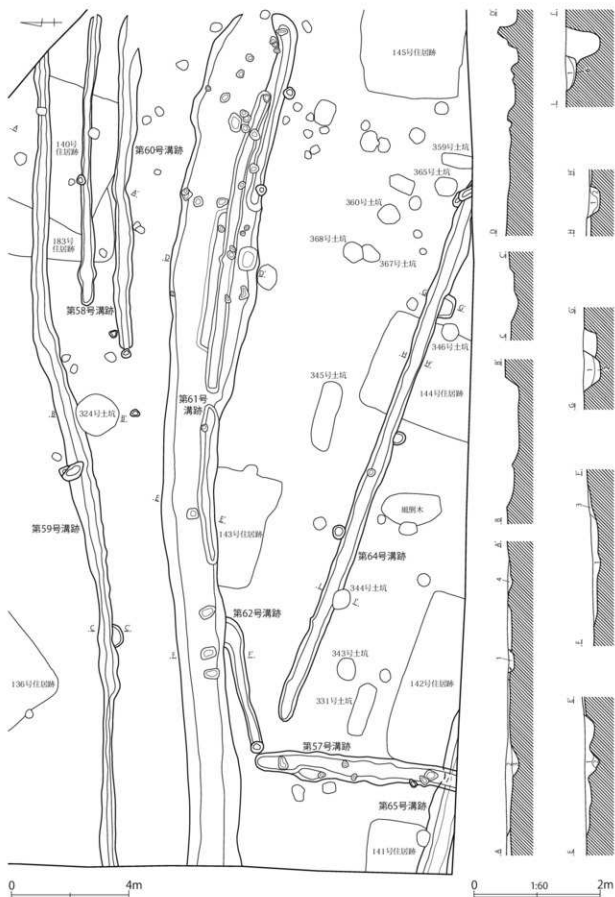
&lt;M-M'&gt;

- 第1層：暗褐色土層（鉄斑・黒色粘土・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：黒褐色土層（鉄斑・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：黒褐色土層（鉄斑を少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：黒褐色土層（ローム粒子を多量、粘土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第7層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第45B号溝跡土層説明&gt;

&lt;N-N'&gt;

- 第1層：黄褐色土層（灰白色粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：黄褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第3層：黄褐色土層（ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）



第218図 第57(15)~62(20)・64(22)号溝跡

## &lt;第58・59・60号溝跡土層説明&gt;

《A-A'》

- 第1層：灰黄褐色土層（焼土粒子を少量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：灰黄褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：淡黄褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：黄褐色土層（ローム粒子を少量、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第61・62号溝跡土層説明&gt;

《E-E'、F-F'》

- 第1層：灰黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：淡黄褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：淡黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

## &lt;第64号溝跡土層説明&gt;

《G-G'》

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 《H-H'》  
 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 《I-I'》  
 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

台形を呈している。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは6cmある。覆土は、灰白色粒子を含む黒褐色土を主体にしている。

遺物は、何も出土しなかった。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、江戸時代後半（18世紀後半）以降と推測される。

**第53(11)号溝跡(第216図)**

E 2 地点の調査区中央付近に位置し、重複する第44(2)号溝跡を切っている。調査区内では、南西～北東方向に向いて直線的な流路をとり、東側の第54(12)号溝跡と並走している。

形態は、溝の上幅が43cm、下幅が23cmの比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは10cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、鉄斑や灰白色粒子を含む黄灰色土を主体にしている。

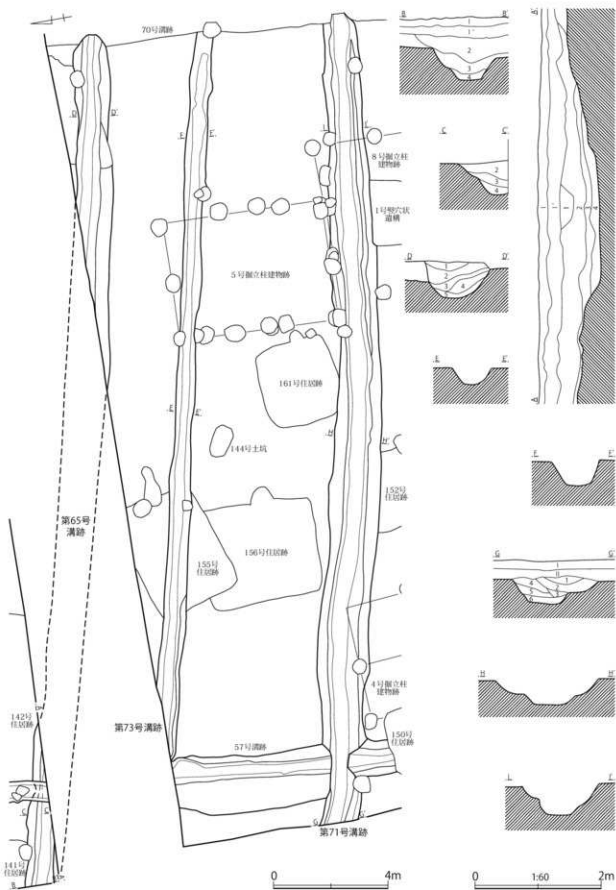
遺物は、何も出土しなかった。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、江戸時代後半（18世紀後半）以降と推測される。

**第54(12)号溝跡(第216図)**

E 2 地点の調査区中央付近に位置し、重複する第134(SI 2)号住居跡を切っている。調査区内では、南西～北東方向に向いてやや蛇行した流路をとり、西側の第53(11)号溝跡と並走している。

形態は、溝の上幅が45cm、下幅が22cmの比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは10cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、鉄斑やローム粒子を含む黒褐色土を主体にしている。

遺物は、何も出土しなかった。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、江戸時代後半（18世紀後半）以降と推測される。



第219图 第65(23)·71(29)·73(31)号溝跡



## &lt;第65号溝跡土層説明&gt;

(A-A'、B-B'、C-C')

第1層：淡灰褐色土層（浅間山系A軽石を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：淡灰褐色土層（浅間山系A軽石を少量、ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：淡灰褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロック・炭化物・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：黒褐色土層（ローム粒子を多量、径1cmのロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

(D-D')

第1層：暗灰褐色土層（浅間山系B軽石・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第71号溝跡土層説明&gt;

(G-G')

第1層：黒褐色土層（浅間山系B軽石・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（浅間山系B軽石・ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：黒褐色土層（浅間山系B軽石・ローム粒子・炭化物を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

**第55(13)号溝跡(第216図、図版62)**

E 2地点の調査区中央付近に位置し、重複する第320号土坑と第45(3) AB号溝跡に切られている。調査区内では、東西方向に向けて直線的な流路をとっている。

形態は、溝の上幅が40cm、下幅が25cmの比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは16cmある。底面は、広く平坦である。

遺物は、何も出土しなかった。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、江戸時代後半(18世紀後半)以降と考えられる。

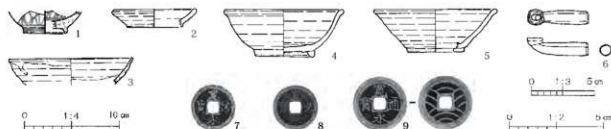
**第56(14)号溝跡 報告済(恋河内・的野2010)****第57(15)号溝跡(第218・221図)**

E 2地点の調査区南西隅から E 3地点の調査区西側に位置する。重複する第142(SI10)・150(SI18)・165(SI33)号住居跡、第65(23)・67(25)・68(26)・71(29)号溝跡を切っている。調査区内では、北側の E 2地点の第61(19)号溝跡と、南側の E 1地点の第56(14)号溝跡(恋河内・的野2010)の間で、南北方向に向けて直線的な流路をとり、東側約25mの第70(28)号溝跡と平行に並走している。溝の南端は、第56(14)号溝跡に沿って東西方向に流路を変え、その東端は北に流路を変えて、東側の第70(28)号溝跡に沿って南下している。溝の北側も、第62(20)号溝跡や第61(19)号溝跡南端の小規模な溝と関連して、東西方向に区画されているようである。このことから、本溝跡は、南北約40m・東西約25mの長方形を呈する耕作地の区画溝と考えられる。

形態は、東側の南北方向に直線的な流路を取る部分が最も規模が大きく、そこでは溝の上幅が1m前後、下幅が30cm程度の比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは45cm程度ある。底面は、やや狭く平坦である。覆土は、浅間山系A軽石を均一に含む淡灰褐色土が主体である。

出土遺物は、古墳時代前期から平安時代中期前半の土師器・須恵器・灰釉陶器の破片が比較的多く

出土しているが、本溝跡に伴うものとしては、江戸時代中期の肥前系磁器の染付碗、瀬戸美濃系陶器の筒形香炉、丹波産の播磨、在地産の焙烙・かわらけ・平瓦の小破片と寛永通宝(新寛永、寛永波銭)が、覆土中から少量出土したたけである。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態及び出土遺物の様相から、江戸時代後半(18世紀後半)以降と考えられる。



第220図 第57(15)号溝跡出土遺物

第196表 第57(15)号溝跡出土遺物観察表

1	肥前系磁器 染付碗	A. 高台部径(4.6)。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 内外面回転ナデの後輪軸。D. 白色粒。E. 内外一淡白灰色。F. 高台部1/4弱。G. 高台部砂付着。文様は二重細目文。H. 覆土中。
2	かわらけ	A. 口縁部径(8.9)、器高1.9、底部径(5.8)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
3	灰輪陶器 碗	A. 口縁部径(13.2)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデの後輪軸。D. 白色粒。E. 内外一淡白灰色。F. 口縁部1/4弱。G. 軸は掛け壁り。H. 覆土中。
4	高台付 坏	A. 口縁部径12.6。器高5.1、高台部径6.3。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面糸切り後ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡灰褐色。F. 4/5。G. 還元不良。内面黒色付着物顯著。H. 覆土中。
5	高台付 坏	A. 口縁部径(13.0)、器高4.6、高台部径(6.0)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一灰褐色。F. 口縁部1/3。G. 還元不良。内外面に黒斑あり。H. 覆土中。
6	煙 管 (雁 首)	A. 全長4.8、首部最大径1.0、厚さ0.05、火眼径1.2、火眼残存高0.6、重さ7.1g。B. 銅版型切り後曲り。D. 銅製。F. 火眼上半欠損。H. 覆土中。
7	寛永通寶	A. 直径2.27、厚さ0.05、重さ2.0g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 新寛永(1697年初鋳)。H. 覆土中。
8	寛永通寶	A. 直径2.28、厚さ0.09、重さ2.5g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 完形。G. 新寛永(1697年初鋳)。H. 覆土中。
9	寛永通寶 (西文銭)	A. 直径2.74、厚さ0.07、重さ3.9g。B. 鋳造。D. 真鍮製。F. 完形。G. 寛永波銭(1768年初鋳)。背面に11波。H. 覆土中。

#### 第58(16)号溝跡(第218図、図版62)

E 2地点の調査区南側に位置し、重複する第140(SI 8)・183(SI51)号住居跡を切っている。調査区内では、東西方向に向けて長さ10mほど検出されている。ほぼ直線的な流路をとり、北側の第59(17)号溝跡や南側の第60(18)号溝跡と並走しているが、同時に存在したのではなく、第59(17)号溝跡よりも新しいようである。

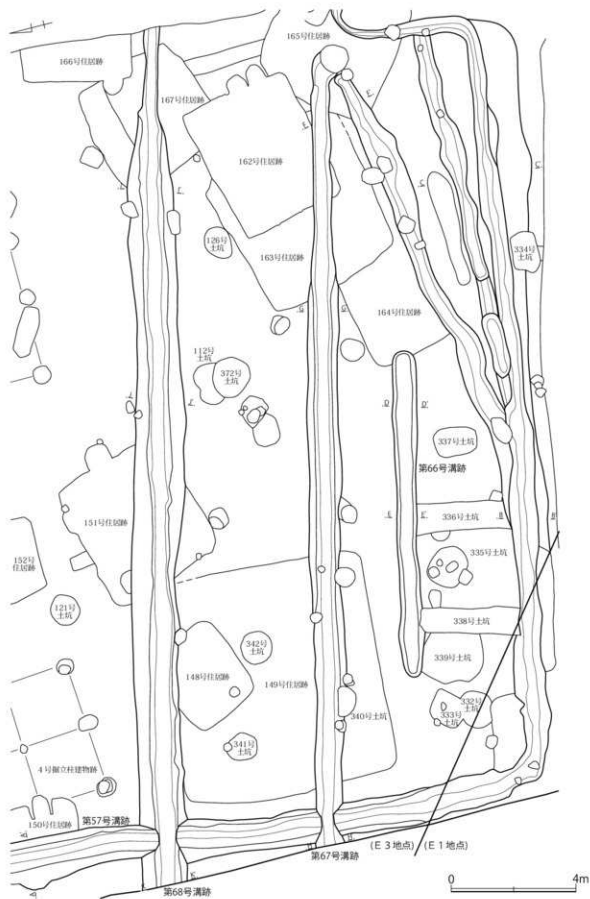
形態は、溝の上幅が40cm、下幅が20cmの比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは8cm程度ある。底面は、広く平坦である。

遺物は、何も出土しなかった。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、江戸時代以降と思われる。

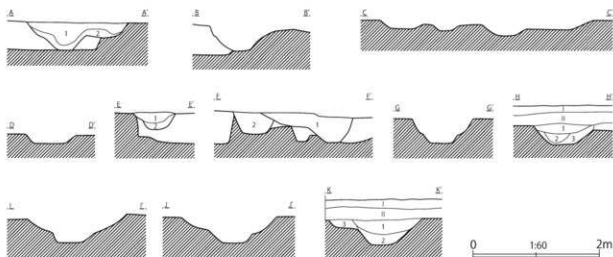
#### 第59(17)号溝跡(第218図、図版62)

E 2地点の調査区南側に位置する。重複する第140(SI 8)・183(SI51)号住居跡、第324号土坑を切っている。調査区内では、ほぼ東西方向に向けてやや蛇行した流路をとっている。

形態は、溝の上幅が50cm～90cm、下幅が30cm程度の比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは13cm～20cmある。底面は、広く平



第221图 第57(15)·66(24)~68(26)号溝跡



第222図 第57(15)・66(24)～68(26)号溝跡断面図

## &lt;第57号溝跡土層説明&gt;

(A-A)

第1層：淡灰褐色土層（浅間山系A軽石を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：淡灰褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

## &lt;第66号溝跡土層説明&gt;

(E-E)

第1層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、径2～3cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第67号溝跡土層説明&gt;

(H-H)

第1層：暗灰褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、鉄斑・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗灰褐色土層（ロームブロックを均一に、鉄斑・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

(F-F)

第1層：淡灰褐色土層（浅間山系A軽石を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：黒褐色土層（浅間山系B軽石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第68号溝跡土層説明&gt;

(K-K)

第1層：暗灰褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗灰褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

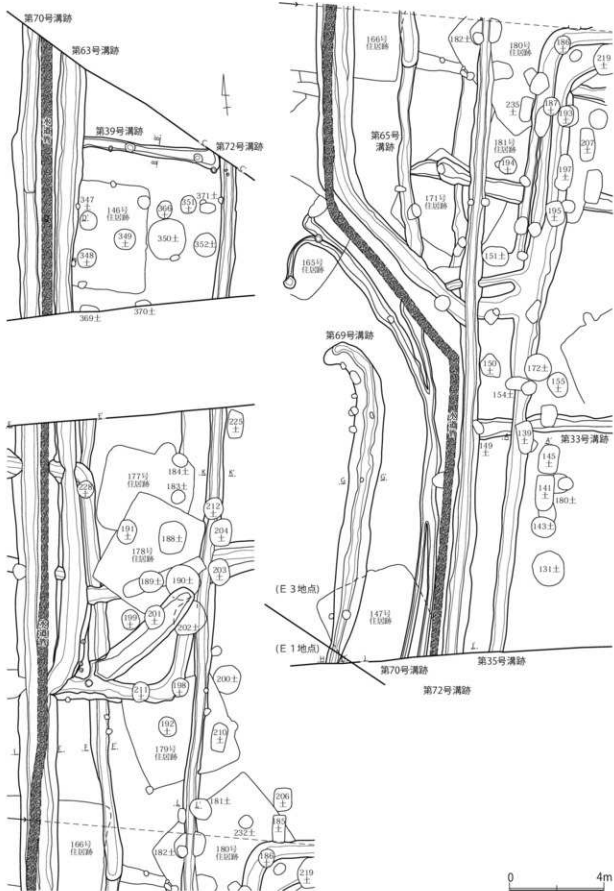
垣である。覆土は、ローム粒子を含む灰黄褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から古代の土器の小破片が少量出土しただけである。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、江戸時代以降と思われる。

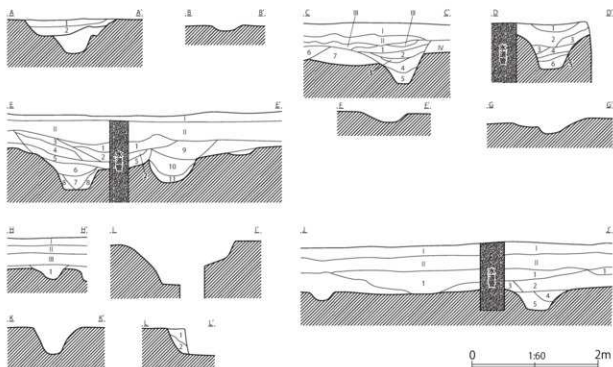
## 第60(18)号溝跡(第218図、図版62)

E 2地点の調査区南側に位置する。重複する第140(SI 8)号住居跡を切っている。調査区内では、ほぼ東西方向に向いて長さ11.3mほど検出されている。ほぼ直線的な流路をとり、北側の第58(16)号溝跡と並走している。

形態は、溝の上幅が60cm、下幅が40cmの比較的均一な幅である。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは8cm程度ある。底面は、狭く丸みを帯びている。覆土は、ローム粒子や炭化粒子を含む黄褐色土を主体にしている。



第223图 第35·39·63·69·70·72号溝跡



第224図 第35・39・63・69・70・72号溝跡断面図

## &lt;第35号溝跡土層説明&gt;

(A-A')

- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを少量、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第39・72号溝跡土層説明&gt;

(C-C')

- 第1層：畑耕作土。  
 第2層：淡茶灰色土層  
 第3層：淡灰褐色土層（浅間山系A軽石を主体とする。）  
 第4層：暗褐色土層  
 第5層：暗灰褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第6層：暗灰褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第7層：淡茶灰色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第8層：暗褐色土層（ローム粒子・鉄斑を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子・鉄斑を均一に微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第10層：淡灰褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）  
 第11層：淡茶灰色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第63号溝跡土層説明&gt;

(D-D')

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・白色粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、白色粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：黒褐色土層（鉄斑を均一に含む。ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：黒褐色土層（鉄斑・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：黒褐色土層（鉄斑・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：黒褐色土層（鉄斑・ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第63・70号溝跡土層説明&gt;

(E-E')

- 第1層：淡灰褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石を均一に、ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：淡灰褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：淡灰褐色土層（浅間山系A軽石を均一に、鉄斑・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第6層：暗灰褐色土層（鉄斑を均一に、浅間山系A軽石・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第7層：暗灰褐色土層（鉄斑・ローム粒子を均一に、浅間山系A軽石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

- 第8層：暗灰褐色土層（ローム粒子を均一に、鉄斑・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第9層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第10層：黒褐色土層（鉄斑・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第11層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第69号溝跡土層説明>

〔H-H〕

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第70・72号溝跡土層説明>

〔J-J〕

- 第1層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石を均一に、ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第4層：暗灰褐色土層（鉄斑・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗灰褐色土層（細砂を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<第72号溝跡土層説明>

〔L-L〕

- 第1層：暗灰褐色土層（ローム粒子・鉄斑を微量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

遺物は、何も出土しなかった。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、江戸時代以降と思われる。

#### 第61(19)号溝跡(第218図)

E2地点の調査区南側に位置する。重複する第143(SI11)号住居跡と第62(20)号溝跡を切っている。調査区内では、ほぼ東西方向に向いて若干湾曲した流路をとっており、東端は、南北方向に流路をとっている第70(28)号溝跡の手前で削平されている。西側は調査区外に延びており、その延長はC1地点の第14～17号溝跡(恋河内・的野2010)や、A1地点の調査区北側にある東西方向に流路をとっている掘乱とされた溝群(松本・大熊他2009)と繋がる可能性も考えられる。

形態は、溝の上幅が180cm～290cm、下幅が70cm～190cmのやや規模の大きな幅で、断面は皿形を呈している。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは10cm程度ある。底面は、広く平坦である。覆土は、ローム粒子やロームブロックを含む灰黄褐色土を主体にしている。本溝跡の南側には、流路に沿って幅45cm程度の小規模な溝の掘り込みが見られるが、これは本溝跡の掘削以前の第62(20)号溝跡に関係する溝と推測される。

出土遺物は、覆土中から古代の土器の破片が少量出土しただけである。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、江戸時代後半(18世紀後半)以降と推測される。

#### 第62(20)号溝跡(第218図)

E2地点の調査区南西側に位置する。調査区内では、ほぼ東西方向に流路をとり、西側は南北方向に流路をとっている第57(15)号溝跡の北端と接し、東側は北側で東西方向に流路をとっている第61(19)号溝跡に切られている。

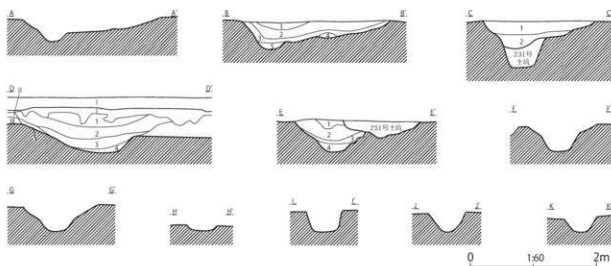
形態は、溝の上幅が50cm、下幅が30cmの比較的均一な幅で、断面は皿形を呈している。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは5cmある。底面は広く、やや起伏が見られる。覆土は、ローム粒子やロームブロック・焼土粒子を含む淡黄褐色土を主体にしている。

遺物は何も出土しなかった。本溝跡の時期は、その位置や流路から見て、第57(15)号溝跡や第61



第225图 第32·35·40~42号溝跡





第226図 第32・35・40～42号溝跡断面図

## &lt;第32・35号溝跡土層説明&gt;

(B-B')

- 第1層：淡黄褐色土層（浅間山系A軽石・ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：淡黄褐色土層（浅間山系A軽石を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：淡黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量、浅間山系A軽石を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第5層：淡黄褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

(C-C')

- 第1層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗灰褐色土層（ローム粒子を均一に、浅間山系A軽石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

## &lt;第40号溝跡土層説明&gt;

(D-D')

- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第5層：褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

(E-E')

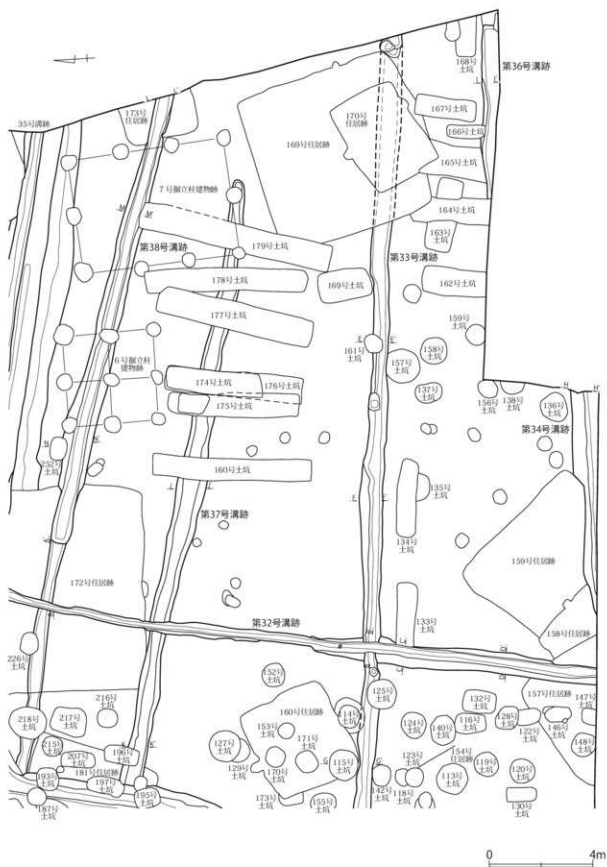
- 第1層：暗褐色土層（ロームブロックを多量、ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：黒褐色土層（ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

(19)号溝跡と関係する溝と考えられることから、江戸時代後半(18世紀後半)以降の可能性が高いと思われる。

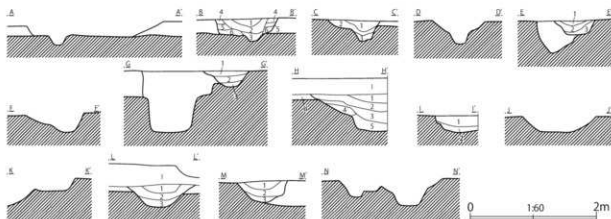
## 第63(21)号溝跡(第223図、図版63)

E2地点の調査区南東側から、E3地点の調査区北側中央付近にかけて位置する。重複する第146(SI14)号住居跡や第65(23)・73(31)号溝跡を切り、第70(28)号溝跡に切られている。調査区内では、南北方向に向いて直線的な流路をとり、E3地点の調査区北側で西側に流路を変えて、第71(29)号溝跡と一致している。

形態は、溝の上幅が100cm～120cm、下幅が40cm前後の比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は直線的に立ち上がり、確認面からの深さは75cm程度ある。底面は、広く平坦である。覆土は、ローム粒子や鉄斑を含む黒褐色土を主体にしている。



第227图 第32~34·36~38号溝跡



第228図 第32～34・36～38号溝跡断面図

＜第32号溝跡土層説明＞

〔B-B'、C-C'〕

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、ロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径3cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

＜第33号溝跡土層説明＞

〔E-E'〕

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

〔G-G'〕

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロックを少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

＜第34号溝跡土層説明＞

〔H-H'〕

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・埴土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）  
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第5層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

＜第36号溝跡土層説明＞

〔I-I'〕

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を多量、径3cmのロームブロック・炭化物を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

＜第38号溝跡土層説明＞

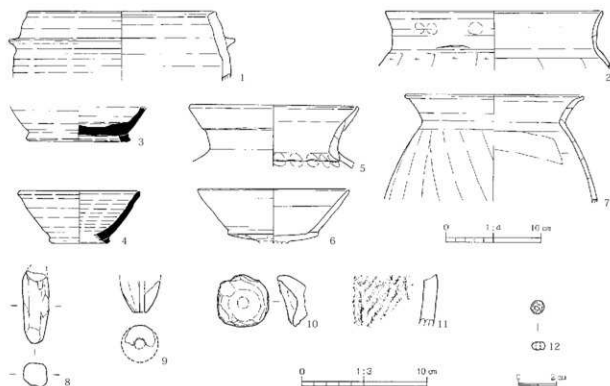
〔L-L'〕

- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・ローム粒子・埴土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石・径1cmのロームブロック・ローム粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、炭化粒子・埴土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

〔M-M'〕

- 第1層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック・ローム粒子・埴土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を少量、径1cmのロームブロックを微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）  
 第3層：暗褐色土層（径1cmのロームブロック・ローム粒子を少量、埴土粒子を微量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

出土遺物は、近世の陶磁器やかわかけの破片や古代の土師器や須恵器の破片が、覆土中から出土している。その他では、水色のガラス製小玉が1点出土している。本溝跡の時期は、南側の第71(29)号溝跡と同一の溝であることから、江戸時代前半頃と考えられる。



第229図 第63(21)号溝跡出土遺物

第197表 第63(21)号溝跡出土遺物観察表

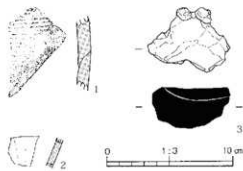
1	羽 蓋	A. 口縁部径 (20.0)。B. 粘土組積み上げ後ロクロ整形。胴部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外一灰褐色。内一淡褐色。F. 口縁部 1/4 弱。H. 覆土中。
2	甕	A. 口縁部径 (23.0)。B. 粘土組積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面鏡ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 口縁部 1/6。H. 覆土中。
3	須恵器 壺	A. 高台部径 (11.0)。B. 粘土組積み上げ後ロクロ整形。高台部貼り付け。C. 胴部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 口縁部 1/4 弱。H. 覆土中。
4	須恵器 高台付 杯	A. 口縁部径 (13.0)。器高 5.5。高台部径 (6.4)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 底部 1/4。H. 覆土中。
5	複合口縁壺	A. 口縁部径 (18.0)。B. 粘土組積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 口縁部 1/4 弱。H. 覆土中。
6	高 杯	A. 口縁部径 (11.0)。B. 粘土組積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。杯部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 杯部 1/2。H. 覆土中。
7	甕	A. 口縁部径 (19.0)。B. 粘土組積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部 1/4。G. 口縁部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
8	棒 状 土 製品	A. 残存長 5.8。幅 1.9。B. 手捏ね。C. 外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一淡茶褐色。F. 上端部欠損。G. 形象輪の部品か? H. 覆土中。
9	土 錘	A. 残存高 2.5。最大径 (3.2)。穿孔径 0.8。B. 手捏ね。C. 外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一明褐色。F. 破片。G. 形制的に近世のものと思われる。H. 覆土中。
10	土 製品	A. 径 4.0。残存高 2.2。B. 手捏ね。C. 外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 底面割斷。G. 形象輪の部品か? H. 覆土中。
11	深 鉢	B. 粘土組積み上げ。C. 外面履懸垂の沈線区画内を縄文 RL (縦転がし) により充填。内面ミガキ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一淡黄褐色。内一暗褐色。F. 胴部破片。G. 加曾利 E II ~ III 式。H. 覆土中。
12	ガラス製 小 玉	A. 径 0.7。高さ 0.4。重さ 0.2g。B. 型作り。D. ガラス製。E. マリンプルー色。F. 完形。G. 内部に気泡多数あり。H. 覆土中。

## 第64(22)号溝跡(第218図)

E 2地点の調査区南端に位置する。重複する第144(SI12)号住居跡と第344(83)号土坑を切っている。調査区内では、東西方向に向いて直線的な流路をとっている。溝の西側は南北方向に流路をとる第57(15)号溝跡の手前で途切れ、東側はさらに調査区外に伸びているが、その延長はE 3地点では検出されていない。

形態は、溝の上幅が55cm前後、下幅が35cm前後の比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は、直線的に立ち上がり、確認面からの深さは最高26cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、ローム粒子を含む暗褐色土を主体としている。

出土遺物は、覆土中から中世の渥美窯系甕や龍泉窯系青磁碗の破片と古代の土器片が少量出土しただけである。この他には、時期不明の鉄滓が1点出土している。本溝跡の時期は、時期を示す遺物がないため明確ではないが、溝の西端が江戸時代後半(18世紀後半)以降と推測される第57(15)号溝跡の手前で途切れていることから、それ以降の掘削の可能性が高いのではないと思われる。



第230図 第64(22)号溝跡出土遺物

第198表 第64(22)号溝跡出土遺物観察表

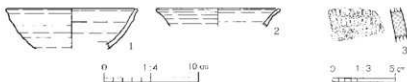
1	渥美窯系甕	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 胴部外面ナデの後押印文(平行線文)を施す。内面ハケ。D. 白色粒。E. 内一灰色。F. 胴部破片。H. 覆土中。
2	龍泉窯系青磁碗	B. ロク口成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗緑色。内一暗灰色。F. 体部破片。G. 外面の文様は不明瞭。H. 覆土中。
3	鉄滓	A. 長さ5.2、幅6.5、厚さ3.3、重さ99.7g。D. 鉄分を含む。G. 塊型滓。H. 覆土中。

## 第65(23)号溝跡(第219図、図版62・63)

E 2地点の南西端からE 3地点の北端にかけて位置する。重複する第141(SI 9)・142(SI10)・168(SI36)号住居跡を切り、第57(15)・63(21)・70(28)号溝跡に切られている。調査区内では、東西方向に向いて直線的な流路をとり、E 3地点の中央部で南北方向に流路をとる第63号溝跡の東側で、直角的に曲がって南に流路を変えている。

形態は、溝の上幅が120cm、下幅が45cm程度の比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は直線的に立ち上がり、確認面からの深さは57cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、ローム粒子やロームブロックを含む黒褐色土を主体としており、江戸時代の浅間山系A軽石の降下時(天明3年:1783年)にはほぼ埋没していたようである。

出土遺物は、覆土中から中世の常滑窯系甕の破片と、古代の土師器や須恵器と灰陶陶器の破片が比較的多く出土している。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態及び出土遺物の様相から、中世～近世前半頃と推測される。



第231図 第65(23)号溝跡出土遺物

第199表 第65(23)号溝跡出土遺物観察表

1	坪	A. 口縁部径(14.0)。B. ロク口成形。C. 体部内外面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 口縁部1/4弱。G. 酸化燻焼成。外面に黒斑あり。H. 覆土中。
---	---	---

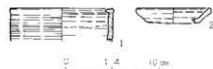
2	環	A. 口縁部径(13.2)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外一黒灰色、内一暗灰色。F. 口縁部1/6。G. 還元不良。H. 覆土中。
3	常滑窯系 甕	B. 粘土組織み上げ後甲き。C. 胴部内外面ナデ。D. 褐色粒、白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一灰褐色。F. 胴部破片。G. 胴部外面に格子状の押印文を施す。H. 覆土中。

## 第66(24)号溝跡(第221図、図版63)

E 3 地点の調査区西側中央付近に位置する。重複する第164(SI32)号住居跡、第336(75)・338(77)・339(78)号土坑を切っている。調査区内では、東西方向に向いて直線的な流路をとり、北側の第67(25)号溝跡や第68(26)号溝跡と平行に並走している。溝跡の両側は、途切れている。

形態は、全長10.4mで、溝の上幅が70cm～80cm、下幅が50cmの比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は直線的に立ち上がり、確認面からの深さは最高30cmある。底面は広く、平坦である。覆土は、ローム粒子を含む黒褐色土を主体にしている。

出土遺物は、近世の陶器や土器のかわらけと焙烙の破片、古代の土師器や須恵器の破片が、覆土中から少量出土しただけである。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、江戸時代中期(18世紀)以降と推測される。



第232図 第66(24)号溝跡  
出土遺物

第200表 第66(24)号溝跡出土遺物観察表

1	瀬戸美濃系 筒形香炉	A. 口縁部径(11.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 口縁部1/7破片。G. 外面に暗黄緑色釉を施す。H. 覆土中。
2	かわらけ	A. 口縁部径(8.0)、器高1.6、底部径(5.6)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部1/6破片。H. 覆土中。

## 第67(25)号溝跡(第221図、図版63)

E 3 地点の調査区西側中央付近に位置する。重複する第149・162・163・165号住居跡や第340号土坑を切り、第57号溝跡に切られている。調査区内では、東西方向に向いて直線的な流路をとり、北側の第68(26)号溝跡や南側の第66(24)号溝跡と平行に並走している。西側は調査区外に伸び、東側は南北方向に流路をとる第70(28)号溝跡の手前で途切れている。

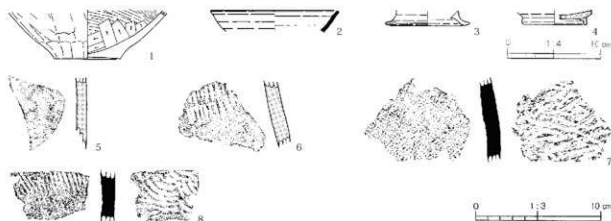
形態は、溝の上幅が100cm、下幅が37cmの比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は直線的に立ち上がり、確認面からの深さは最高40cmある。底面は広く、平坦である。覆土は、ローム粒子を含む黒褐色土を主体にしている。

出土遺物は、覆土中から中世の渥美窯系と思われる甕の破片(第233図No 6)や、E 1 地点の第56号溝跡出土の陶器(恋河内・的野2010)と同一個体の甕の破片(第233図No 5)が出土し、古代の土師器や須恵器と灰釉陶器の破片などが比較的多く出土している。

本溝跡の時期は、流路が南側の中世後期(15世紀後半)の屋敷跡の区画堀と考えられる第56号溝跡と平行していることから、それに近い時期かそれ以降と考えられる。本溝跡と第56号溝跡の間の空間には中世の遺構が見られないことから、おそらく屋敷北側と東側の耕作地を直営地として開いたものか、屋敷廃絶後の荒廃した敷地を耕作地として北側に拡張したものでないかと推測される。

第201表 第67(25)号溝跡出土遺物観察表

1	甕	A. 底部径7.0。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ナデ、内面隈ナデ。底部内外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一暗褐色、内一明茶褐色。F. 底部1/2。H. 覆土中。
2	須恵器 環	A. 口縁部径(13.6)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒、白色針状(海綿骨針)。E. 内外一暗灰色。F. 口縁部1/8破片。G. 南北企産。H. 覆土中。



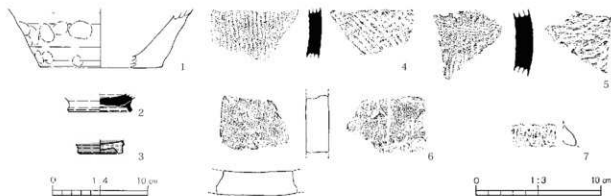
第233図 第67(25)号溝跡出土遺物

3	高台付 埴	A. 高台部径(9.0)。B. 高台部張り付け。C. 内外面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 高台部 1/4 破片。H. 覆土中。
4	灰輪陶器 碗	A. 高台部径(6.8)。B. ロクロ成形。高台部張り付け。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡灰色。F. 底部 1/4 破片。H. 覆土中。
5	陶 器	B. 粘土紐積み上げ後ロクロ成形。C. 胴部内外面回転ナデ。D. 白色粒、茶褐色粒。E. 外一淡黄緑白色、内一暗茶褐色。F. 胴部破片。G. 胴部外面に淡黄緑色釉を施す。E1地点第56号溝跡出土のNo1の甕(密河内の野2010)と同一個体。産地不明。H. 覆土中。
6	瀬美系? 甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 外面ナデ、内面闇ナデ。D. 白色粒。E. 外一暗褐色、内一淡黄灰色、内一淡灰色。F. 胴部破片。G. 胴部外面に格子目状の押印文を施す。H. 覆土中。
7	須恵 器	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 外面疑似格子目状の叩き目、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 小石(長石)、白色粒。E. 内外一暗灰色、内一暗茶褐色。F. 胴部破片。H. 覆土中。
8	須恵 器	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 外面ナデの後平行叩き目、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 胴部破片。H. 覆土中。

## 第68(26)号溝跡(第221図、図版63)

E3地点の調査区西側に位置する。重複する第148(SI16)・149(SI17)・151(SI19)・166(SI34)・167(SI35)号住居跡を切り、第57(15)号溝跡に切られている。調査区内では、東西方向に向いて直線的な流路をとり、南側の第67(25)号溝跡や第66(24)号溝跡と平行に並走している。西側は調査区外に延び、東側は南北方向に流路をとる第70(28)号溝跡と接している。

形態は、溝の上幅が105cm、下幅が45cmの比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は直線的に立ち上がり、確認面からの深さは最高43cmある。底面は広く、平坦である。覆土は、ローム粒子やロームブロックを含む暗灰褐色土を主体にしている。



第234図 第68(26)号溝跡出土遺物

出土遺物は、覆土中より古墳時代から平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器などの小破片、中世の平瓦・龍泉窯系青磁碗・在産片口鉢・風炉などの小破片、近世の肥前系磁器染付碗、瀬戸美濃系鉄釉碗・かわらけなどの破片が出土している。

本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態及び出土遺物の様相から、近世以降と考えられる。本溝跡は、南側の第67(25)号溝跡と流路が平行していることから、おそらく耕作地の北側への拡張に伴って掘削されたものではないかと思われる。

第202表 第68(26)号溝跡出土遺物観察表

1	在 地 産 片 口 鉢	A. 底部径(13.0)。B. 粘土組織み上げ後ロクロ整形。C. 体部外面ヨコナデ。内面割離顕著のため観察不能。底部外面静止糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一黒灰色、内一淡褐色。F. 底部1/4。G. 体部外面指頭圧痕顕著。H. 覆土中。
2	須 恵 器 高 台 付 埴	A. 高台部径6.8。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一期灰色。F. 高台部のみ。H. 覆土中。
3	瀬戸美濃系 鉄 釉 碗	A. 高台部径4.8。B. ロクロ成形。高台部附り出し。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転溝ケズリ。D. 白色粒。E. 外一淡茶褐色。内一黒茶褐色。内一淡灰色。F. 高台部のみ。G. 内外面に鉄釉を施す。H. 覆土中。
4	須 恵 器 費	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 胴部外面平行叩き目、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一期灰色。内一灰色。F. 胴部破片。H. 覆土中。
5	須 恵 器	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 胴部外面平行叩き目、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 白色粒。E. 外一期灰色。内一淡灰色。F. 胴部破片。G. 胴部外面に6本面の櫛指波状文を施す。H. 覆土中。
6	平 瓦	A. 残存長4.6、残存幅6.5、厚さ1.9。B. 一枚作り。C. 凹面ナデ、凸面曬目叩きの後ナデ。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 凹面砂付着。中世瓦。H. 覆土中。
7	風 炉	B. 貼り付け。D. 白色粒。E. 外一淡褐色。F. 破片。G. 外面に蓮弁文の押印を施す。H. 覆土中。

### 第69(27)号溝跡(第223図)

E3地点の調査区南側中央付近に位置する。重複する第147(SI15)号住居跡を切っている。調査区内では、南北方向に向いた流路をとり、北端は西に向いて箒手状に短く曲がっている。

形態は、溝の上幅が130cm程度、下幅が30cm程度の比較的均一な幅で、断面は逆台形で2段に深くなっている。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。底面は、狭く全体的に細かな凹凸が見られる。

出土遺物は、覆土中から古代の土器の破片が少量出土しただけである。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、江戸時代後半(18世紀後半)以降と推測される。

### 第70(28)号溝跡(第223図、図版63)

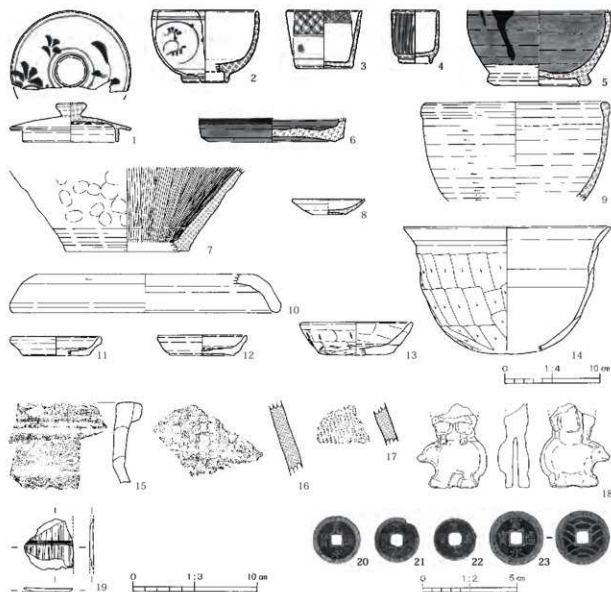
E2地点の調査区南東側からE3地点の調査区中央部にかけて位置する。重複する第145(SI13)・146(SI14)・147(SI15)・165(SI33)・166(SI34)号住居跡、第63(21)・65(23)・68(26)・71(29)・72(30)・73(31)号溝跡を切り、現代の水道管理設溝に切られている。調査区内では、南北方向に向いて直線的な流路をとっているが、E3地点の調査区南側で鍵の手状に曲がっている。これは、南西側のE1地点に位置する中世後期の屋敷跡に伴う区画溝の第56号溝跡(恋河内・的野2010)との関係によるものと思われる。

形態は、溝の上幅が最大2m、下幅が比較的均一な40cm前後の幅で、断面は逆台形を呈している。壁は直線的に立ち上がり、確認面からの深さは北端で75cm、南端で35cmある。何度か掘り返されているため当初の形態は不明であるが、覆土上半は浅間山系A軽石を含む暗灰色土によって埋没している。

出土遺物は、中世～近代の陶磁器・土器・棧瓦・砥石などの破片と銭貨(寛永通宝)や、古代の土師器・須恵器・灰釉陶器などの破片が、覆土中から多く出土している。本溝跡の時期は、遺構の重複関



係や覆土の状態及び出土遺物の様相から、江戸時代前期(17世紀)末～中期(18世紀)前半以降と考えられ、数度の掘り返しを経て埋没した後、その地割には水道管が埋設されているように、本溝跡があった土地境界線の地割は、今回の土地区画整理前まで継続して維持されている。



第235図 第70(28)号溝跡出土遺物

第203表 第70(28)号溝跡出土遺物観察表

1	瀬戸美濃系土瓶蓋	A. 口縁部径 12.8、器高 4.1。B. ロクロ成形。挿部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外一白色、内一淡褐色。F. 1/2。G. 天井部外面と挿部に白色釉を施し、明るい青色による草花文様を描く。H. 覆土中。
2	陶碗	A. 口縁部径 (11.2)、器高 7.7、高台部径 (5.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 1/3。G. 内外面施釉。外面に染付風の文様を施す。H. 覆土中。
3	肥前系磁器染付環	A. 口縁部径 (8.0)、器高 6.1、高台部径 (6.0)。B. ロクロ成形。高台部削り出し。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一白色。F. 底部 1/4。G. 染付の発色は暗い灰青色。H. 覆土中。
4	肥前系磁器染付碗	A. 口縁部径 5.0、器高 5.6、高台部径 3.4。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一白色。F. 3/4。G. 染付の発色は明るい青色。H. 覆土中。
5	瀬戸美濃系鉢	A. 高台部径 11.0。B. ロクロ成形。C. 胴部内外面回転ナデ。底部外面回転ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一赤茶色、内一淡白色。F. 胴部下半のみ。G. 胴部内外面に鉄釉を施す。H. 覆土中。
6	瀬戸美濃系広口壺	A. 底部径 (13.2)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面系切り後外周回転ケズリ、内面指ナデ。D. 白色粒。E. 外一暗茶褐色、内一淡茶褐色。F. 底部 1/3。G. 鉄釉を内外面に薄く塗った後、外面に厚く施す。H. 覆土中。

7	丹波産鉢	A. 底部径(13.2)。B. ロウロ成形。C. 体部外面ナデ、内面窪目。底部外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 底部1/6。G. 体部外面に指印正巻を顕著に残す。H. 覆土中。
8	信楽産灯明皿	A. 口縁部径(5.8)。器高1.6。底部径(3.6)。B. ロウロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転鋭ケズリ。内面に透明釉を施す。D. 白色粒。E. 内外一淡白色。F. 1/3。G. 内面全体に細かな貫入が入る。H. 覆土中。
9	瀬戸美濃系鉢	A. 口縁部径(20.0)。B. ロウロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。体部外面回転鋭ケズリ。内面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外一黄褐色。内一淡黄白色。F. 口縁部1/4。G. 外面と口縁部内面に黄色釉を施す。H. 覆土中。
10	火消煮器	A. 口縁部径(29.0)。器高4.0。B. 粘土門盤外縁粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転鋭ケズリ。D. 赤色粒。白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 口縁部1/8。H. 覆土中。
11	かわらけ(灯明皿)	A. 口縁部径(9.8)。器高2.0。底部径(6.6)。B. ロウロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転鋭ケズリ。D. 赤色粒。白色粒。E. 内外一淡茶褐色。F. 口縁部1/4弱。G. 口唇部の一部に覆付着。H. 覆土中。
12	かわらけ(灯明皿)	A. 口縁部径(9.6)。器高2.1。底部径(6.8)。B. ロウロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転鋭ケズリ。D. 赤色粒。白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部1/4。G. 口唇部の一部に覆付着。H. 覆土中。
13	坏鉢	A. 口縁部径(12.0)。器高3.5。底部径(8.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 体部内外面ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D. 赤色粒。白色粒。E. 内外一黒褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
14	鉢	A. 口縁部径(22.0)。残存高13.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ。内面丁寧ナデ。D. 白色粒。E. 外一黒褐色。内一淡茶褐色。F. 口縁部1/4。G. 外面保存者顕著。H. 覆土中。
15	火鉢	B. 粘土組織み上げ後ロウロ整形。C. 口縁部外面ミガキ。内面回転ナデ。D. 赤色粒。白色粒。E. 外一黒灰色。内一灰褐色。F. 胴部破片。G. 外面に押印による菊花文と波状文を施す。H. 覆土中。
16	常滑窯系甕	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 胴部外面ナデの後大きな格子目状の押印文。内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡灰褐色。F. 胴部破片。H. 覆土中。
17	常滑窯系甕	B. 粘土組織み上げ後叩き。C. 胴部外面ナデの後格子状の押印文。内面ナデ。D. 白色粒。E. 外一淡灰褐色。内一淡茶褐色。F. 胴部破片。H. 覆土中。
18	土製人形	A. 残存長6.7。最大幅5.5。厚さ2.5。B. 型作り。C. 表裏面ともナデ。D. 赤色粒。白色粒。E. 外一淡褐色。F. 下半のみ。G. 底部に径5mmの差し込み用穴あり。素焼き。表面は磨減している。H. 覆土中。
19	板状製品	A. 残存長4.1。残存幅4.0。重さ5.7g。B. 薄く板状に割断。C. 表裏面とも研磨。D. 粘板岩。F. 破片。G. 外面に細く浅い二条線を施す。H. 覆土中。
20	寛永通寶	A. 直径2.49。厚さ0.12。重さ3.4g。B. 鋳造。D. 刷製。F. 完形。G. 新寛永(1697年初鋳)。H. 覆土中。
21	寛永通寶	A. 直径2.34。厚さ0.10。重さ2.3g。B. 鋳造。D. 刷製。F. 完形。G. 新寛永(1697年初鋳)。H. 覆土中。
22	寛永通寶	A. 直径2.23。厚さ0.07。重さ1.1g。B. 鋳造。D. 刷製。F. 完形。G. 新寛永(1697年初鋳)。H. 覆土中。
23	寛永通寶(4文銭)	A. 直径2.82。厚さ0.10。重さ4.0g。B. 鋳造。D. 真鍮製。F. 完形。G. 寛永波銭(1768年初鋳)。背面に11波。H. 覆土中。

## 第71(29)号溝跡(第219図、図版63)

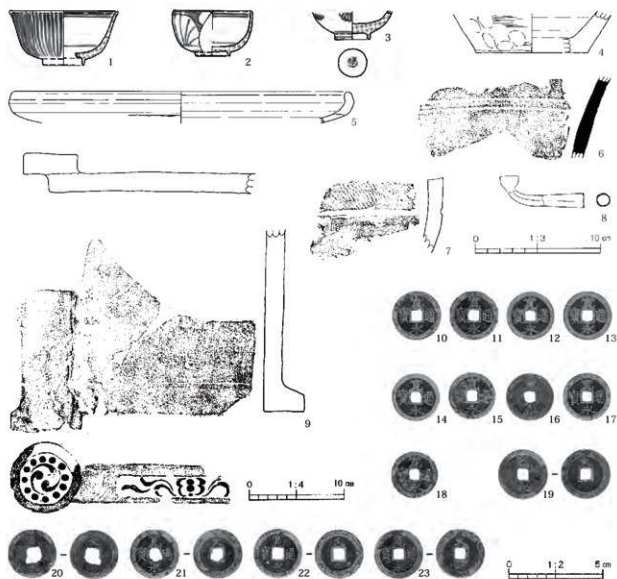
E3地点の調査区北西側に位置する。重複する第152(SI20)・161(SI29)号住居跡・竪穴状遺構・第4・5・8号掘立柱建物跡を切り、第57(15)・70(28)号溝跡に切られている。調査区内では、若干蛇行しながら直線的な流路をとり、調査区中央部の南北方向に流路を取る第70(28)号溝跡の東側で、北側に向けて第63(21)号溝跡と一致する溝と、斜方向と鍵の手状に第40号溝跡に繋がる溝がある。これらは、同時に存在したのではなく、新旧関係は不明ながら掘り返しによるものであろう。

形態は、掘り返しの結果によるものではあるが、溝の上幅が120cm～160cm、下幅が55cmの比較的整った形態で、断面は逆台形を呈している。壁は直線的に立ち上がり、確認面からの深さは最高46cmある。覆土は、浅間山系B軽石やロームブロックを含む暗褐色土や黒褐色土を主体にしている。

出土遺物は、古代の土器や近世の陶磁器の破片と、軒椀瓦・煙管の雁首・銭貨(寛永通宝)などが、覆土中から出土している。このうち銭貨の寛永通宝については、古寛永9枚と寛永文銭5枚の計14枚が出土しているが、の中には布袋に入っていたか布に包まれていたものが4枚以上あったようで、銭貨の圧痕が付いた布の破片が出土している。そのため、出土した銭貨の一部については、近世土坑墓の副葬品の可能性も考えられ、本溝跡の東側で重複する第201号土坑か第202号土坑の近世土坑墓と関係するものであった可能性が高いと思われる。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や東側の第40号溝跡と繋がる部分もことから、中世～江戸時代後半頃と考えられる。



《写真》第71(29)号溝跡出土の布片



第236図 第71(29)号溝跡出土遺物

第204表 第71(29)号溝跡出土遺物観察表

1	肥前系磁器 染付碗	A. 口縁部径(11.6)、器高5.8、高台部径(4.4)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一白色。F. 1/2。G. 染付の発色は明るい青色。肥前産。H. 覆土中。
2	肥前系磁器 染付碗	A. 口縁部径(8.5)、器高4.8、高台部径(3.7)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一白色。F. 3/4。G. 染付の発色は暗い藍色。肥前産。H. 覆土中。
3	肥前系磁器 染付碗	A. 高台部径3.8。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡灰白色。F. 高台部2/3。G. 染付の発色はやや緑色かかる。肥前産。H. 覆土中。
4	在地産 片口鉢	A. 底部径(12.0)。B. 粘土組織み上げ後ロクロ整形。C. 内外面ナデ。D. 回路粒。白色粒。E. 内外一暗灰色、内一暗茶褐色。F. 底部1/6。G. 外面に指頭瓦痕を顕著に残す。H. 覆土中。
5	焙 焼	A. 口縁部径(36.4)。B. 粘土組織み上げ後ロクロ整形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒。白色粒。E. 内外一暗黄褐色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
6	須 恵 器 裏	B. 粘土組織み上げ後ロクロ整形。C. 頸部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗灰色。F. 頸部破片。G. 外面に櫛歯状文を施す。H. 覆土中。
7	火 鉢	B. 粘土組織み上げ後ロクロ整形。C. 外面ミガキ、内面回転ナデ。D. 赤色粒。白色粒。E. 外一黒灰色、内一淡灰褐色。F. 胴部破片。H. 覆土中。
8	煙 管 (雁 首)	A. 残存長6.0、首部最大径1.1、厚さ0.1、重さ5.8g。B. 銅版型切り後面打。D. 銅製。F. 火皿部欠損。H. 覆土中。
9	軒 棧 瓦	A. 残存長19.3、残存幅24.8、厚さ2.0。B. 型作り。瓦当貼り付け。C. 凹凸面ナデ。D. 黒色粒。白色粒。E. 凹凸一黒灰色。F. 1/3。G. 瓦当文様は、軒丸部が連珠三巴文。軒平部が均整唐草文。H. 覆土中。
10	寛 永 通 寶	A. 直径2.52、厚さ0.11、重さ3.3g。B. 踏造。D. 銅製。F. 完成。G. 古寛永(1636年初踏)。H. 覆土中。

11	寛永通寶	A. 直径2.52, 厚さ0.10, 重さ2.6g, B. 鋳造, D. 銅製, F. 完形, G. 古寛永(1636年初鋳), H. 覆土中。
12	寛永通寶	A. 直径2.46, 厚さ0.13, 重さ4.0g, B. 鋳造, D. 銅製, F. 完形, G. 古寛永(1636年初鋳), H. 覆土中。
13	寛永通寶	A. 直径2.51, 厚さ0.11, 重さ3.3g, B. 鋳造, D. 銅製, F. 完形, G. 古寛永(1636年初鋳), H. 覆土中。
14	寛永通寶	A. 直径2.46, 厚さ0.13, 重さ3.5g, B. 鋳造, D. 銅製, F. 完形, G. 古寛永(1636年初鋳), H. 覆土中。
15	寛永通寶	A. 直径2.41, 厚さ0.12, 重さ3.2g, B. 鋳造, D. 銅製, F. 完形, G. 古寛永(1636年初鋳), H. 覆土中。
16	寛永通寶	A. 直径2.47, 厚さ0.09, 重さ1.9g, B. 鋳造, D. 銅製, F. 完形, G. 古寛永(1636年初鋳), H. 覆土中。
17	寛永通寶	A. 直径2.46, 厚さ0.12, 重さ3.4g, B. 鋳造, D. 銅製, F. 完形, G. 古寛永(1636年初鋳), H. 覆土中。
18	寛永通寶	A. 直径2.41, 厚さ0.10, 重さ2.8g, B. 鋳造, D. 銅製, F. 完形, G. 古寛永(1636年初鋳), H. 覆土中。
19	寛永通寶	A. 直径2.57, 厚さ0.10, 重さ2.6g, B. 鋳造, D. 銅製, F. 完形, G. 文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H. 覆土中。
20	寛永通寶	A. 直径2.52, 厚さ0.11, 重さ2.5g, B. 鋳造, D. 銅製, F. 完形, G. 文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H. 覆土中。
21	寛永通寶	A. 直径2.55, 厚さ0.11, 重さ2.9g, B. 鋳造, D. 銅製, F. 完形, G. 文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H. 覆土中。
22	寛永通寶	A. 直径2.52, 厚さ0.10, 重さ2.6g, B. 鋳造, D. 銅製, F. 完形, G. 文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H. 覆土中。
23	寛永通寶	A. 直径2.53, 厚さ0.10, 重さ3.2g, B. 鋳造, D. 銅製, F. 完形, G. 文銭(1668年初鋳), 背面に「文」字あり, H. 覆土中。

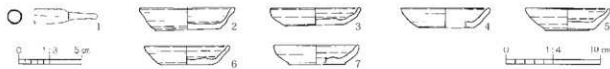
## 第72(30)号溝跡(第223図、図版62)

E 3 地点の調査区中央部に位置する。重複する第171(SI39)号住居跡・第178(SI46)号住居跡・第179(SI47)号住居跡・第180(SI48)号住居跡・第181(SI49)号住居跡、第149号土坑を切り、第181・182・202・203・204・212号土坑、第70(28)号溝跡に切られている。調査区内では、南北方向に直線的な流路をとり、北側の延長部分はE 2 地点の調査区南東端で検出されている。

形態は、溝の上幅が70cm、下幅が40cm程度の比較的均一な幅で、断面は底面が狭い逆台形の築研堀に似た形状をしている。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは45cmある。

本溝跡は、本溝跡の東側10mに位置する第32号溝跡や第41号溝跡と平行しており、それらの溝跡と関係して同時期に存在したことが推測される。おそらく、両溝跡の間にある近世土壌墓群の墓域の西側を区画することを目的として掘削された最初の溝ではないかと考えられ、その後土坑墓の分布は本溝跡のさらに西側に広がり、墓域が拡張されたようである。

出土遺物は、覆土中から近世の遺物として、肥前系磁器の染付碗、美濃瀬戸系陶器の碗、在地産の焙烙・火鉢・かわらけ・平瓦などの破片と、煙管の吸口が出土している。この他では、古代の土師器・須恵器・灰胎陶器の破片、中世の常滑窯系甕、在地産の播鉢などの破片も少量出土している。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の土層観察及び出土遺物の様相から、江戸時代の17世紀後半～18世紀前半頃(浅間山系A 軽石降下以前)と考えられる。



第237図 第72(30)号溝跡出土遺物

第205表 第72(30)号溝跡出土遺物観察表

1	煙 管 (吸 口)	A. 全長5.0, 最大径1.2, 厚さ0.07, 重さ6.2g, B. 銅版型切り後面付, D. 銅製, F. 完形, H. 覆土中。
2	かわらけ	A. 口縁部径10.2, 器高2.4, 底部径6.8, B. ロウロ成形, C. 口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転系切り, D. 赤色粒、白色粒, E. 内外一明茶褐色, F. 3/4, H. 覆土中。
3	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径9.6, 器高1.9, 底部径6.3, B. ロウロ成形, C. 口縁部内外面回転ナデ, 底部外面回転系切り, D. 赤色粒、白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 1/2, G. 口唇部に煤付着, H. 覆土中。

4	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径 (9.4)、器高 2.1、底部径 5.8。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部 1/4。G. 口縁部に煤付着。H. 覆土中。
5	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径 9.0、器高 2.4、底部径 5.0。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 2/3。G. 内外に煤付着。H. 覆土中。
6	かわらけ	A. 口縁部径 (9.0)、器高 2.0、底部径 (5.2)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
7	かわらけ	A. 口縁部径 (9.0)、器高 2.1、底部径 5.9。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部 1/4 強。H. 覆土中。

#### 第73(31)号溝跡(第219図、図版63)

E 3 地点の調査区北西端に位置する。重複する第155(SI23)号住居跡や第5号掘立柱建物跡を切り、第63(21)・70(28)号溝跡に切られている。調査区内では、東西方向に向いて直線的な流路をとり、若干蛇行して東側の第40号溝跡と繋がるようである。

形態は、溝の上幅が60cm～70cm、下幅が25cm～30cmの比較的均一な幅で、断面は逆台形を呈している。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは35cmある。底面は、狭く平坦である。

出土遺物は、中世後期(15世紀後半)の内耳鍋の破片や、古代の土師器や須恵器の破片が、覆土中から少量出土しただけである。本溝跡の時期は、東側の第40号溝跡と繋がる同一の溝と考えられることから、中世～江戸時代初期と推測される。

#### 第74(4)号溝跡(第214図、図版63)

E 2 地点と E 4 地点の調査区北端に位置している。重複する第46B・47号溝跡に切られている。調査区内では、東西方向に向いて緩やかに湾曲した流路を取っているようである。調査区内で検出されたのは、溝跡の南側半分だけであるため、形態や規模等は不明である。

溝の上幅は、最高140cmまで測れる。壁は緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは70cmある。底面は、広く平坦である。覆土の最下層部には部分的に小礫が顕著に見られ、ある程度水が流れていたことが窺える。

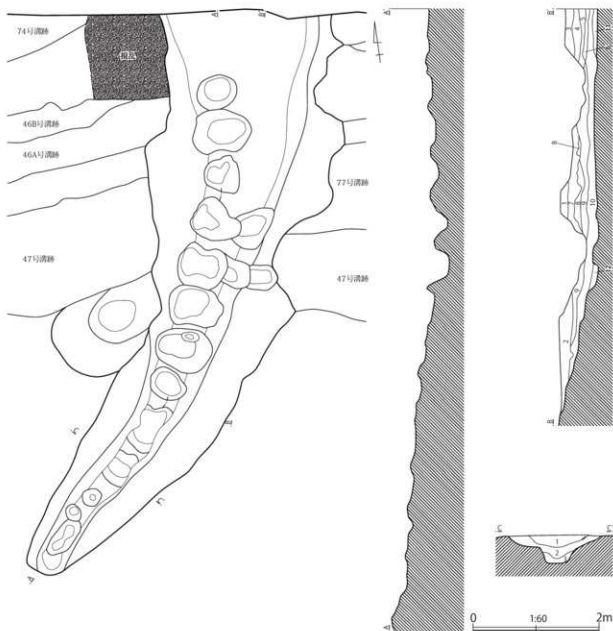
出土遺物は、古代の土器片が覆土中から出土しただけである。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代後期以降と思われる。

#### 第75号溝跡(第238図、図版64)

E 4 地点の調査区北側に位置し、重複する第46A・46B・47・49・77号溝跡に切られている。調査区内では、南北方向に向いてやや湾曲した流路をとっている。

形態は、溝の南端は途切れ、北側に向かって徐々に幅が広がり、さらに北側調査区外に延びている。規模は、南端で幅約50cm、北端で幅約3mを測る。壁は、東西両側とも緩やかに傾斜して立ち上がっている。底面は、細砂や小礫を含んだ楕円形状のビットが連続して並んでおり、確認面からの深さは南端で14cm、北端で58cmあり、北側に向かって徐々に深くなっている。覆土は、ローム粒子を含む堅く締まった暗褐色土と黒褐色土を主体とし、流水の痕跡は認められなかった。

本溝跡は、その形態的特徴から、溝底面の楕円形ビット列を通路とした、いわゆる階段状の通路状の遺構と考えられる。おそらく、北側調査区外で第74(4)号溝跡に接続するものと思われ、溝北側の楕円形ビット列のない平場が、洗い場の性格の施設ではないかと思われる。本溝跡に類似した遺



第238図 第75号溝跡

## &lt;第75号溝跡土層説明&gt;

(B-B')

第1層：暗褐色土層（径0.3～0.5cmのローム粒子を含み、砂粒を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（径0.1～0.3cmのローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径0.3～0.5cmのローム粒子を多く含む。）

第4層：暗褐色土層（径0.3～0.5cmのローム粒子を極めて多く含む。）

第5層：暗褐色土層（径0.3cm～1cmのローム粒子を多く含む。）

第6層：黒褐色土層（径0.5cmのローム粒子を少量含む。）

第7層：淡黄褐色土層（径0.5cm～2cmのローム粒子を多く含む。鉄分の凝縮多い。）

第8層：黒褐色土層（径0.3cmのローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第9層：黒褐色土層（径0.3cmのローム粒子を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第10層：灰黄褐色土層（径0.1～0.5cmのローム粒子を多く含む。炭化粒子を含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第11層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒子・径0.3～0.5cmの礫を含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第12層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含む。粘性に富み、しまりを有する。）

(C-C')

第1層：黒褐色土層（径0.1cmのローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2層：黒褐色土層（径0.1～0.3cmのローム粒子を少量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第3層：暗褐色土層（径0.1～0.3cmのローム粒子・砂粒を少量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

構は、周辺の低地内遺跡でもいくつか見られ、深谷市(旧岡部町)日詰遺跡(岩瀬1991)C区第6号溝跡や、本庄市(旧児玉町)の鶴蒔遺跡(恋河内1995)第7号溝跡で、古墳時代後期(6世紀)のものが検出されている。また、溝を伴わない楕円形ビット列だけの道路状遺構は、本庄市今井川越田遺跡(井上1997)や七色塚遺跡B地点(恋河内・松本2008)で、古墳時代後期(6世紀)～白鳳時代(7世紀後半)頃のものが見出されている。

出土遺物は、覆土中から古墳時代中期～後期初頭頃(5世紀末)の土器片が少量出土しただけである。本溝跡の時期は、出土遺物が少ないため明確には判断できないが、遺構の重複関係や覆土の状態及び出土遺物の様相から、古墳時代後期頃と推測される。



第239図 第75号溝跡出土遺物

第206表 第75号溝跡出土遺物観察表

1	高 塚	A. 残存高7.1。B. 脚柱部粘土組巻き上げ。C. 塚部内外面ナデ。脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面指ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一茶褐色。F. 脚柱部のみ。H. 底面ビット内。
2	有段高塚	A. 脚端部径(16.0)。B. 粘土組巻き上げ。C. 脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外一明茶褐色。F. 脚端部1/8。G. 器表面は荒れている。H. 覆土中。

### 第76号溝跡(第214図、図版63)

E4地点の調査区北東端に位置し、重複する第46A・46B・77号溝跡を切っている。調査区内では、南東から北西方向に向かって、やや湾曲した流路をとっている。

形態は、溝の上幅が1m程度、下幅が50cm～60cmの比較的均一な幅で、断面は逆台形の箱堀の形状を呈している。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは50cmある。底面は、広く平坦である。覆土は、砂粒やローム粒子を含む黒褐色土を主体にしている。

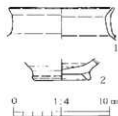
出土遺物は、古代の土師器や須恵器の破片が、覆土中から少量出土しただけである。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態から、中世以降の可能性が高いと思われる。

### 第77号溝跡(第214図、図版63)

E4地点の調査区北東側に位置する。重複する第46A・46B・75号溝跡を切り、第47・76号溝跡に切られている。

形態は、溝の上幅が160cm程度、下幅が110cm程度で、断面は逆台形を呈すると思われる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは18cmある。底面は、広くやや丸みをもっている。

出土遺物は、覆土中から古代の土器片が少量出土しただけである。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や覆土の状態及び出土遺物の様相から、平安時代前期末以降と推測される。

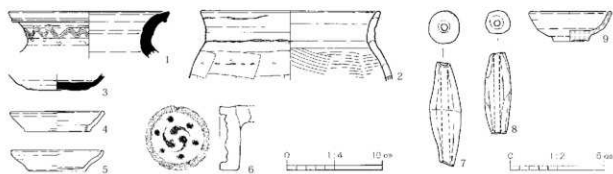


第240図 第77号溝跡出土遺物

第207表 第77号溝跡出土遺物観察表

1	小形台付甕	A. 口縁部径(11.0)。B. 粘土組巻き上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部1/6。H. 覆土中。
2	高台付 甕	A. 高台部径6.2。B. ロクロ成形。高台部取り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 片岩粒、白色粒。E. 外一黒灰褐色、内一暗灰褐色。F. 底部1/2。G. 還元不良。H. 覆土中。

## 第7節 調査区内出土遺物



第241図 調査区内出土遺物

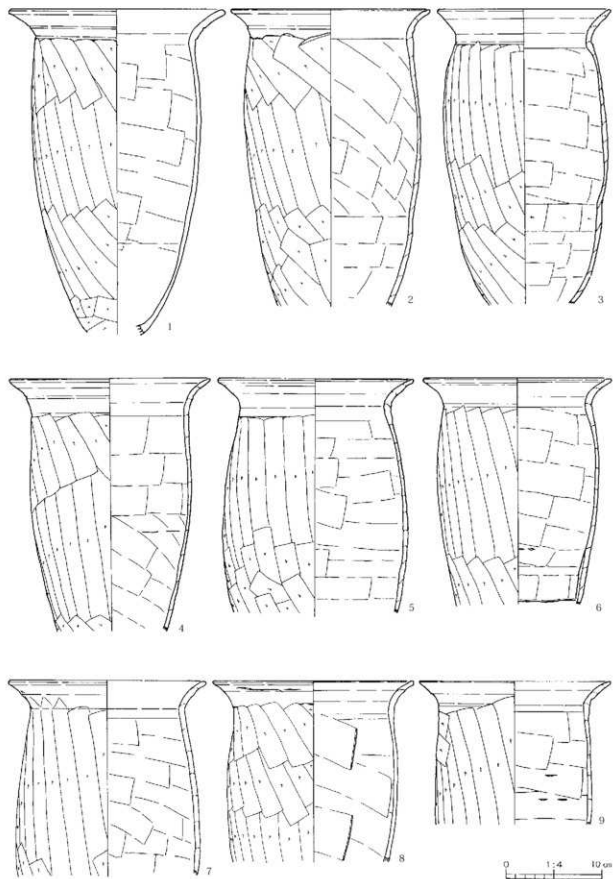
第208表 調査区内出土遺物観察表

1	須恵器 甕	A. 口縁部径(17.0)。B. 粘土層積み上げ後ロクロ整形。C. 口縁部内外面回転ナデの後、頸部外面に櫛歯状文を施す。D. 白色粒。E. 内外一暗灰色。内一暗茶褐色。F. 口縁部 1/6。H. P60 覆土。
2	甕	A. 口縁部径(19.0)。B. 粘土層積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ハケの後ナデ。D. 白色粒。E. 内外一暗茶褐色。F. 口縁部 1/4。H. P73 覆土。
3	須恵器 坪	A. 底部径(6.4)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後、外周回転蹴ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 底部 1/2。H. 表採。
4	かわらけ	A. 口縁部径(10.0)。器高 2.1。底部径(7.0)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 口縁部 1/6。H. E2調査区。
5	かわらけ	A. 口縁部径(9.8)。器高 2.2。底部径(5.8)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外一淡褐色。F. 1/4強。H. E2調査区。
6	軒棧瓦	A. 軒丸部径 6.7。B. 型作り。瓦当貼り付け。C. 外面ナデ、内面指ナデ。D. 黒色粒。E. 外一黒灰色。F. 軒丸部のみ。G. 軒丸部の瓦当文様は道珠三巴文。H. E2調査区。
7	土 鉢	A. 長さ 5.5。最大幅 1.7。重さ 13.0g。B. 手捏ね。C. 外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外一明褐色。F. 完形。H. E2調査区。
8	土 鉢	A. 長さ 4.3。最大幅 1.4。重さ 8.1g。B. 手捏ね。C. 外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一淡茶褐色。F. 完形。H. E2調査区。
9	ミニチュア 陶器 碗	A. 口縁部径 4.4。器高 1.6。底部径 1.9。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転蹴ケズリ。D. 白色粒。E. 内外一白色。F. 完形。G. 内外面に白色の長石釉を施す。瀬戸美濃系。H. E2調査区。

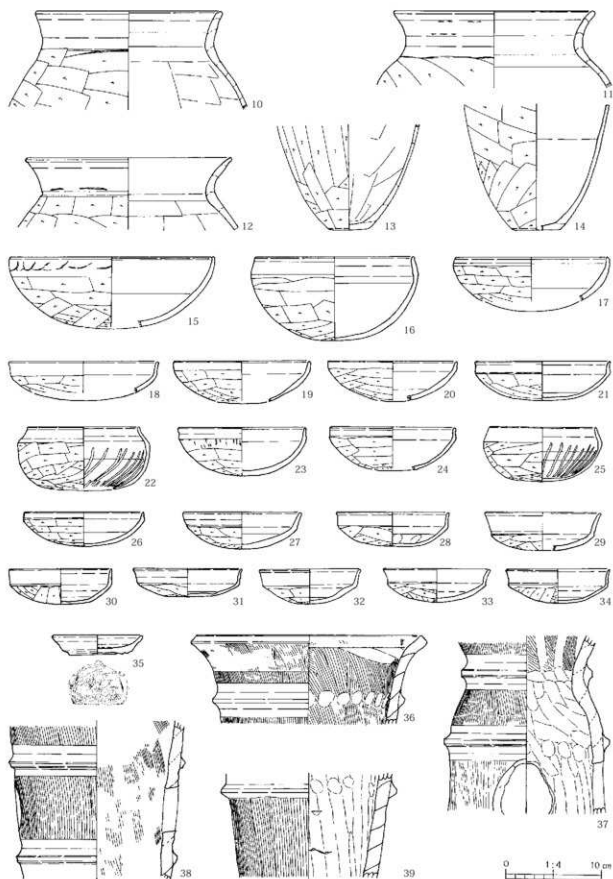




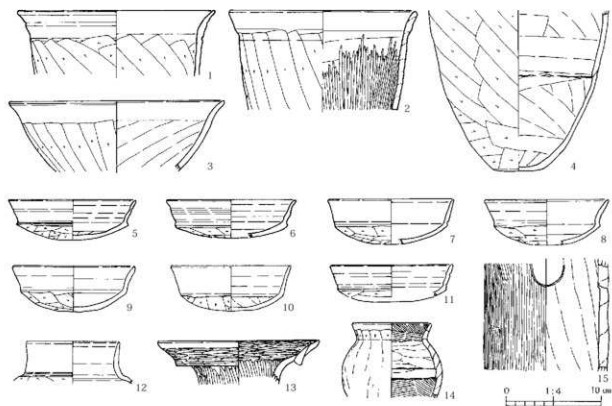
《参考資料》 一久下東遺跡第1地点出土遺物一



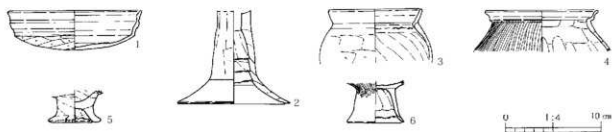
第242図 第2号住居跡出土遺物(1)



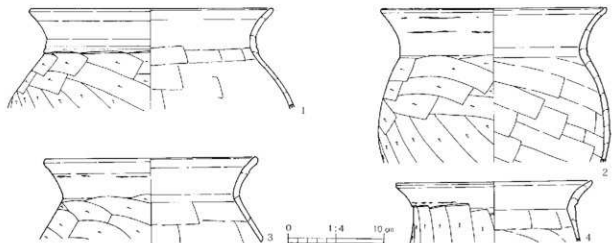
第243图 第2号住居跡出土遺物(2)



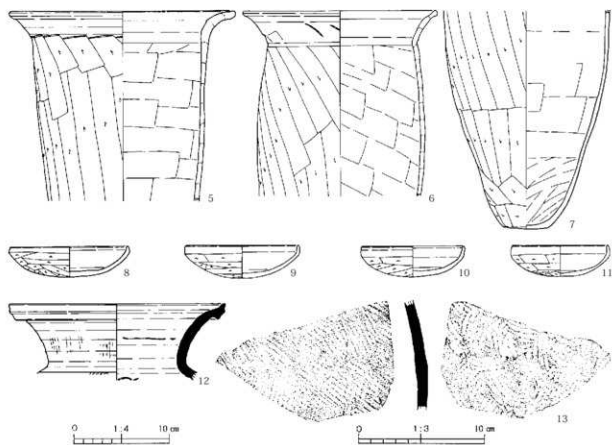
第244图 第3号住居跡出土遺物



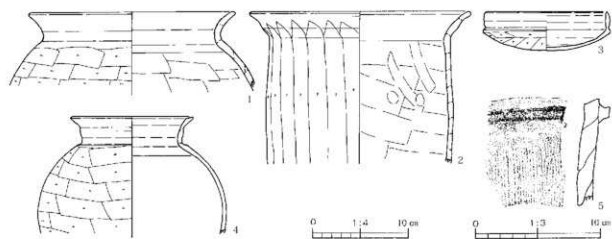
第245图 第4号住居跡出土遺物



第246图 第5号住居跡出土遺物(1)



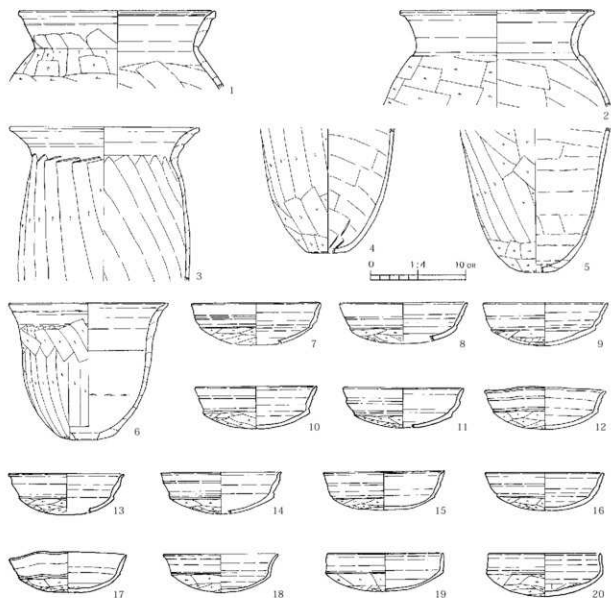
第247图 第5号住居跡出土遺物(2)



第248图 第6号住居跡出土遺物



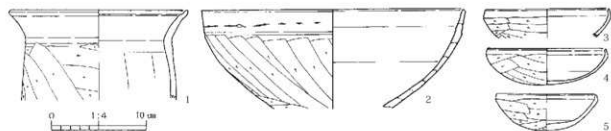
第249图 第7号住居跡出土遺物



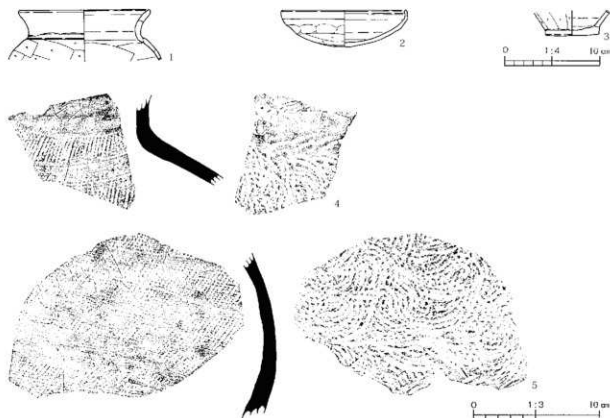
第250图 第8号住居跡出土遺物



第251图 第9号住居跡出土遺物



第252图 第11号住居跡出土遺物



第253図 第13号住居跡出土遺物



第254図 第5号土坑出土遺物

第209表 第2号住居跡出土遺物観察表

1	長 胴 甕	A.口縁部径23.0、残存高34.5、B 粘土組織み上げ、C.口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面ナデの後上半甕ナデ、D.赤色粒、白色粒、E.内外一明褐色、F.底部欠損、H.No23。
2	長 胴 甕	A.口縁部径21.2、残存高31.5、B 粘土組織み上げ、C.口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面甕ナデ、D.赤色粒、白色粒、E.内外一淡褐色、F.底部欠損、H.No22。
3	長 胴 甕	A.口縁部径18.4、残存高31.2、B.粘土組織み上げ、C.口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面甕ナデ、D.赤色粒、白色粒、E.外一褐色、内一暗褐色、F.4/5、H.No21。
4	長 胴 甕	A.口縁部径21.4、残存高26.8、B.粘土組織み上げ、C.口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面甕ナデ、D.赤色粒、白色粒、E.内外一暗褐色、F.1/4、H.No60。
5	長 胴 甕	A.口縁部径(20.8)、残存高24.8、B.粘土組織み上げ、C.口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面甕ナデ、D.赤色粒、白色粒、E.内外一暗褐色、F.上半1/4、H.カマド袖。
6	長 胴 甕	A.口縁部径(20.0)、残存高24.1、B.粘土組織み上げ、C.口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面甕ナデ、D.赤色粒、白色粒、E.外一暗褐色、内一茶褐色、F.上半3/4、H.No24。
7	長 胴 甕	A.口縁部径(21.0)、残存高20.8、B.粘土組織み上げ、C.口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面甕ナデ、D.白色粒、黒色粒、角四石、E.内外一褐色、F.上半1/4、H.カマド内。
8	長 胴 甕	A.口縁部径21.4、残存高19.2、B.粘土組織み上げ、C.口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面甕ナデ、D.赤色粒、白色粒、E.外一淡褐色、内一淡褐色、F.上半のみ、H.No23-25。
9	長 胴 甕	A.口縁部径20.2、残存高15.3、B.粘土組織み上げ、C.口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面甕ナデ、D.片岩粒、赤色粒、白色粒、E.内外一明褐色、F.上半のみ、G.カマド袖先端の補強、H.No21-27、カマド袖。

10	圓 張 罎	A. 口縁部径(20.0), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面篋ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 外一淡褐色, 内一淡褐色, F. 口縁部1/3, G. 胴部外面に黒斑あり, H.No47.
11	圓 張 罎	A. 口縁部径21.4, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 片岩粒, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. 口縁部のみ, H.No62.
12	圓 張 罎	A. 口縁部径22.0, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面篋ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. 口縁部～胴部上半のみ, H.No24.
13	長 胴 罎	A. 底部径4.2, B. 粘土組織み上げ, C. 胴部外面ケズリ, 内面篋ナデ, 底部外面ケズリ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一明茶褐色, F. 下平3/4, H.No24.
14	長 胴 罎	A. 底部径(5.0), B. 粘土組織み上げ, C. 胴部外面ケズリ, 内面ナデ, 底部外面ケズリ, D. 白色粒, E. 外一暗茶褐色, 内一淡褐色, F. 下平1/3弱, H.履土中.
15	鉢	A. 口縁部径(22.0), 残存高7.4, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. 口縁部1/4強, H.No43.
16	鉢	A. 口縁部径(17.0), 器高8.9, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面篋ナデの後下半ケズリ, 内面丁寧ナデ, D. 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 1/2弱, H.No37.
17	環	A. 口縁部径(16.0), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 口縁部1/6, H.No44.
18	環	A. 口縁部径(16.0), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 片岩粒, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. 口縁部1/4弱, H.履土中.
19	環	A. 口縁部径14.6, 残存高4.3, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. 口縁部1/2, H.履土中.
20	環	A. 口縁部径(13.8), 残存高4.2, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. 口縁部1/4, H.No67.
21	環	A. 口縁部径(14.4), 器高4.2, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. 1/4, H.履土中.
22	環	A. 口縁部径(12.0), 器高6.6, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデの後斜方向暗文, D. 赤色粒, 白色粒, E. 外一淡茶褐色, 内一明茶褐色, F. 口縁部1/3, H.No 9.
23	環	A. 口縁部径13.6, 器高5.1, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ナデの後下半ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 3/4強, H.No43.
24	環	A. 口縁部径(13.4), 残存高4.5, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一明茶褐色, F. 3/4, H.No34.
25	環	A. 口縁部径11.4, 器高5.8, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデの後斜方向暗文, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗茶褐色, F. 1/2強, G. 体部外面に黒斑あり, H.No35.
26	環	A. 口縁部径(12.8), 器高3.7, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 白色粒, E. 内外一暗茶褐色, F. 1/2, H.履土中.
27	模 倣 環	A. 口縁部径12.6, 器高3.9, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 外一淡褐色, 内一淡褐色, F. ほぼ完形, H.No70.
28	模 倣 環	A. 口縁部径12.0, 器高3.7, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. 3/4, H.No63.
29	模 倣 環	A. 口縁部径(12.4), 器高4.0, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. 口縁部1/4, H.No14.
30	模 倣 環	A. 口縁部径11.0, 器高3.8, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一明茶褐色, F. ほぼ完形, H.No 6.
31	模 倣 環	A. 口縁部径11.6, 器高3.0, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一赤茶褐色, F. 3/4, G. 体部外面に黒斑あり, 器形はやや歪んでいる, H.No36.
32	模 倣 環	A. 口縁部径(10.8), 器高3.7, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. 1/3, H.No33-36.
33	模 倣 環	A. 口縁部径(11.4), 器高3.5, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 片岩粒, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. 1/2弱, H.No66.
34	模 倣 環	A. 口縁部径11.0, 器高3.6, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. ほぼ完形, H.No35.
35	か わ ら け	A. 口縁部径9.8, 器高2.1, 底部径6.3, B. ロウク成形, C. 内外面回転ナデ, 底部外面回転ス切り, D. 小石, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 1/2強, H.No55.
36	円 筒 埴 輪	A. 口縁部径(25.2), B. 粘土組織み上げ, 凸帯貼り付け, C. 口縁部内外面ハケの後ヨコナデ, 凸帯ヨコナデ, D. 黒色粒, 白色粒, E. 内外一明茶褐色, F. 口縁部1/4, H.No36.
37	朝 顔 形 埴 輪	A. 残存部最大径17.6, B. 粘土組織み上げ, 凸帯貼り付け, C. 口縁部外面ハケ, 内面ハケの後部分的なナデ, 体部外面ハケ, 内面指ナデ, 凸帯ヨコナデ, D. 片岩粒, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗褐色～淡褐色, F. 上半のみ, G. 円形の透かし孔あり, H.No38.
38	埴 輪	A. 残存部最大径(18.6), B. 粘土組織み上げ, 凸帯貼り付け, C. 体部外面ハケ, 内面ハケの後ナデ, 凸帯ヨコナデ, D. 片岩粒, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一茶褐色, F. 体部1/4, G. 円形の透かし孔あり, H.No38.
39	埴 輪	A. 残存部最大径(18.8), B. 粘土組織み上げ, 凸帯貼り付け, C. 体部外面ハケ, 内面指ナデ, 凸帯ヨコナデ, D. 片岩粒, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 体部1/4, H.No38.

第210表 第3号住居跡出土土物観察表

1	長 胴 甕	A. 口縁部径21.0, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部内外面ナデの後ケズリ, D. 片岩粒, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡茶褐色, F. 口縁部1/2, H.No15.
2	甕	A. 口縁部径(20.0), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面ナデの後ミガキ, D. 片岩粒, 赤色粒, 白色粒, E. 外一淡褐色, 内一暗褐色, F. 口縁部1/4, H. 覆土中.
3	大形鉢	A. 口縁部径(23.0), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 片岩粒, 赤色粒, 白色粒, E. 外一淡褐色, 内一暗褐色, F. 口縁部1/6, G. 外面埋付者, H.No18.
4	長 胴 甕	A. 底部径5.4, B. 粘土組織み上げ, C. 胴部外面ケズリ, 内面匜ナデ, 底部外面ケズリ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 胴部下半のみ, H.No16.
5	有段口縁模倣環	A. 口縁部径(13.6), 器高4.3, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 片岩粒, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. 口縁部1/3, H.No13.
6	有段口縁模倣環	A. 口縁部径(13.8), 器高4.0, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. 口縁部1/4強, H. 覆土中.
7	模倣環	A. 口縁部径13.4, 器高4.8, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 1/2弱, H.No15.
8	模倣環	A. 口縁部径(13.2), 器高4.8, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面丁寧ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 1/3, G. 内面に黒色付着物あり, H.No17.
9	模倣環	A. 口縁部径(13.0), 器高4.9, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面丁寧ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 1/3, H.No15.
10	模倣環	A. 口縁部径12.8, 器高4.8, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. 成形, H.No14.
11	有段口縁模倣環	A. 口縁部径(13.0), 器高3.4, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 片岩粒, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡茶褐色, F. 口縁部1/4強, H. 覆土中.
12	小形広口甕	A. 口縁部径(10.0), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. 口縁部1/4, H. 覆土中.
13	複合口縁甕	A. 口縁部径(17.0), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部ヨコナデ, 口縁部内外面ミガキ, 頸部内外面ナデの後ミガキ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一茶褐色, F. 口縁部1/4, H. 覆土中.
14	小形甕	A. 口縁部径(8.4), B. 粘土組織み上げ, C. 外面ケズリの後ナデ, 内面ハケの後胴部上半ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 上半1/4, H.No 9.
15	形象埴輪	A. 残存部最大径(13.2), B. 粘土組織み上げ, C. 基部外面ハケ, 内面指ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 外一明茶褐色, 内一暗茶褐色, F. 基部1/4, G. 円形の透かし孔あり, H.No19.

第211表 第4号住居跡出土土物観察表

1	有段口縁模倣環	A. 口縁部径(14.2), 器高4.1, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 1/3, H.No 1.
2	高 環	A. 脚端部径(12.0), B. 粘土組織み上げ, C. 脚柱部外面ケズリの後ナデ, 内面ナデ, 脚端部内外面ヨコナデ, D. 白色粒, E. 内外一暗茶褐色, F. 脚部1/4, H. 覆土中.
3	小形鉢	A. 口縁部径(10.0), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ナデの後ケズリ, 内面ナデ, D. 片岩粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 上半1/4, G. 外面埋付者, H. 覆土中.
4	S字状口縁付甕	A. 口縁部径(12.0), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ハケ, 内面ナデの後部分的に指ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. 口縁部1/4, H.No 5.
5	台付甕	A. 台端部径5.0~5.7, B. 粘土組織み上げ, C. 台部内外面ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗茶褐色, F. 台部のみ, H.No 7.
6	S字状口縁付甕	A. 台端部径(6.0), B. 粘土組織み上げ, C. 台部外面ナデの後上半ハケ, 内面指ナデ, D. 片岩粒, 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 台部1/3, H. 覆土中.

第212表 第5号住居跡出土土物観察表

1	胴 甕	A. 口縁部径(26.0), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面匜ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 外一淡褐色, 内一淡茶褐色, F. 口縁部1/4, H.No 6・12.
2	胴 甕	A. 口縁部径(24.0), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面匜ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 外一暗褐色, 内一淡褐色, F. 口縁部1/2弱, H.No 5・6・7・8・12.
3	胴 甕	A. 口縁部径(22.8), B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面匜ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. 口縁部1/3, H.No 8.
4	長 胴 甕	A. 口縁部径20.8, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面匜ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一暗褐色, F. 口縁部1/2, H.No23・24.
5	長 胴 甕	A. 口縁部径24.0, 残存高20.1, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面匜ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 外一淡茶褐色, 内一暗褐色, F. 上半1/2, G. カマド右軸先端の補強に使用, H. カマド内.
6	長 胴 甕	A. 口縁部径20.6, 残存高19.7, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面ケズリ, 内面匜ナデ, D. 赤色粒, 白色粒, E. 内外一淡褐色, F. 上半のみ, G. カマド左軸先端の補強に使用, H. カマド内.
7	長 胴 甕	A. 残存高23.2, 底部径4.8, B. 粘土組織み上げ, C. 胴部外面ケズリ, 内面上半匜ナデ, 下半指ナデ, 底部外面ケズリ, D. 片岩粒, 赤色粒, 白色粒, E. 外一赤褐色, 内一暗褐色, F. 下半のみ, H. カマド内.
8	環	A. 口縁部径12.6, 器高3.3, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 体部外面ケズリ, 内面ナデ, D. 黒色粒, 白色粒, E. 内外一暗茶褐色, F. 1/3, H. 覆土中.



9	環	A.口縁部径(12.2)、器高3.5。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/2弱。H.No18。
10	環	A.口縁部径(11.0)、器高3.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/3。H.覆土中。
11	環	A.口縁部径(10.2)、器高3.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一淡褐色。F.1/4。H.No10。
12	須恵器	A.口縁部径(23.0)。B.粘土組織み上げ後叩き。C.口縁部内外面回転ナデ。頸部外面叩きの後回転ナデ。内面回転ナデ。胴部外面叩き(平円叩き目)。内面当道具痕を残す。D.赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色。内一淡褐色。F.口縁部1/6。H.No19。
13	須恵器	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(平円叩き目)。内面当道具痕(青海波文)を残す。D.白色粒。E.外一灰褐色。内一灰褐色。F.胴部破片。H.No.4。

第213表 第6号住居跡出土遺物観察表

1	胴張裏	A.口縁部径(22.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/4強。H.No.3。
2	長胴裏	A.口縁部径(23.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D.赤色粒、白色粒、黒色粒。E.外一淡褐色。内一淡褐色。F.上半1/4。H.No68。
3	模倣環	A.口縁部径(13.0)、器高4.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色。内一淡褐色。F.1/3。H.No.2。
4	壺	A.口縁部径(13.0)、残存高12.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面丁平ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/4。H.No.1。
5	埴輪	B.粘土組織み上げ。凸部貼り付け。C.体部外面ハケ。内面指ナデ。凸部ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一明褐色。内一茶褐色。F.体部破片。H.覆土中。

第214表 第7号住居跡出土遺物観察表

1	長胴裏	A.口縁部径(22.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ケズリ、内面寛ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/6。H.No59。
2	模倣環	A.口縁部径(12.8)、残存高3.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
3	模倣環	A.口縁部径(12.4)、器高4.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一茶褐色。F.1/2。H.覆土中。
4	S字状口縁台	A.台端部径(8.2)。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ハケの後継ナデ。内面ナデ。台部外面寛ナデ。内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.台部3/4。H.No.6。

第215表 第8号住居跡出土遺物観察表

1	胴張裏	A.口縁部径21.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部~胴部上半のみ。H.No29。
2	胴張裏	A.口縁部径(20.6)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色。内一淡褐色。F.口縁部1/3。H.No46・48。
3	胴張裏	A.口縁部径20.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外一淡褐色。内一淡褐色。F.上半3/4。H.No56。
4	長胴裏	A.底部径(4.2)。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色。内一暗褐色。F.胴部下半1/2。H.カマド内。
5	長胴裏	A.底部径(4.0)。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。底部外面ケズリ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色。内一暗褐色。F.胴部下半3/4。C.底部外面に黒斑あり。H.No35・48。
6	小形壺	A.口縁部径17.0。器高14.5。底部径5.7。穿孔径2.0~2.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面丁平ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.ほぼ完全。H.No15。
7	有段口縁模倣環	A.口縁部径(13.8)、器高4.3。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/2弱。H.No.7。
8	有段口縁模倣環	A.口縁部径(13.6)、器高4.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/6。H.カマド内。
9	有段口縁模倣環	A.口縁部径13.2。器高4.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.完全。H.No13。
10	有段口縁模倣環	A.口縁部径13.0。器高4.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一淡褐色。F.ほぼ完全。G.外面に黒斑あり。内面斑点状剥落顯著。H.No26。
11	有段口縁模倣環	A.口縁部径(12.8)、器高4.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
12	有段口縁模倣環	A.口縁部径12.1~12.8。器高4.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.成形。H.No.6。
13	模倣環	A.口縁部径(12.2)、器高4.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/2。H.No43。
14	有段口縁模倣環	A.口縁部径(12.8)、器高4.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外一暗褐色。内一暗褐色。F.口縁部1/3。G.外面に黒斑あり。内面斑点状剥落顯著。H.カマド内。

15	有段口縁模倣環	A.口縁部径12.8.器高4.1。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.ほぼ完形。H.No28。
16	有段口縁模倣環	A.口縁部径12.6.器高4.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一淡褐色。F.ほぼ完形。G.器表面は荒れている。H.No7。
17	模倣環	A.口縁部径10.9～12.4.器高4.2。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一暗褐色。F.完形。H.No8。
18	模倣環	A.口縁部径12.2.器高4.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一淡褐色。F.ほぼ完形。H.No16-30。
19	模倣環	A.口縁部径12.4.器高4.0。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一淡褐色。F.3/4。H.No9。
20	模倣環	A.口縁部径12.0.器高4.6。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一淡褐色。F.ほぼ完形。H.No10。

第216表 第9号住居跡出土土物観察表

1	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(15.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/5。H.覆土中。
2	小形浅鉢	A.口縁部径(15.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一明茶褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
3	高環	A.口縁部径(15.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。D.赤色粒。白色粒。E.外一明茶褐色。内一淡褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
4	甕	A.底部径4.6。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリの後下端ナデ、内面麓ナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一明茶褐色。F.底部のみ。H.No6。

第217表 第11号住居跡出土土物観察表

1	長胴甕	A.口縁部径(19.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面麓ナデ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一淡褐色。F.口縁部1/4。H.No2。
2	大形鉢	A.口縁部径(28.0)。残存高10.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒。白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4弱。G.外面に黒斑あり。H.覆土中。
3	環	A.口縁部径(13.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。黒色粒。E.内外一暗褐色。F.口縁部1/4弱。H.No6。
4	環	A.口縁部径12.6.器高3.8。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒。白色粒。E.内外一暗茶褐色。F.3/4。H.No2・5。
5	環	A.口縁部径(10.6)。器高3.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一暗褐色。F.1/4。H.No2。

第218表 第13号住居跡出土土物観察表

1	小形甕	A.口縁部径(14.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面麓ナデ。D.赤色粒。白色粒。E.外一淡褐色。内一淡灰褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
2	環	A.口縁部径13.2.器高3.9。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒。白色粒。E.内外一暗褐色。F.ほぼ完形。H.No2。
3	小形甕	A.底部径5.8。B.粘土組織み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。D.片岩粒。赤色粒。白色粒。E.内外一明褐色。F.底部のみ。H.覆土中。
4	須恵器	B.粘土組織み上げ後叩き。C.頸部内外面回転ナデ。胴部外面叩き(平行叩き目)の後御歯状工具による横線。内面当道具痕(青海波文)を残す。D.黒色粒。白色粒。E.内外一淡灰色。F.胴部破片。G.No5と同一個体。H.No6。
5	須恵器	B.粘土組織み上げ後叩き。C.胴部外面叩き(平行叩き目)の後御歯状工具による横線。内面当道具痕(青海波文)を残す。D.黒色粒。白色粒。E.内外一淡灰色。F.胴部破片。G.No6と同一個体。H.No7。

第219表 第5号土坑出土土物観察表

1	かわらけ	A.口縁部径(12.8)。器高2.9。底部径(8.4)。B.コルク成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.赤色粒。白色粒。E.内外一淡茶褐色。F.口縁部1/4弱。H.覆土中。
---	------	---

## 第VI章 久下東遺跡 E 2・E 3 地点出土木製品の樹種同定

黒沼保子 (株式会社パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

本庄市に所在する久下東遺跡 E 2・E 3 地点の近世土坑墓から出土した木材・木片について、樹種同定を行った。

### 2. 試料と方法

試料は、E 2 地点と E 3 地点の土坑墓から出土した木棺の一部と思われる木片が23点と、煙管の羅字と思われるタケ類が1点の、計24点である(写真図版105・106)。木片の中には、副葬された銅銭が付着した状態で出土しているものもあり、それらは棺の底板の部材の一部と考えられる。調査所見から、遺構の時期はいずれも近世前半の17世紀～18世紀前半頃と推測されている。

これらの試料から、剃刀を用いて3断面(横断面・接線断面・放射断面)の切片を採取し、ガムクローラールで封入してプレパラートを作成した。これを光学顕微鏡で観察および同定し、写真撮影を行った。

### 3. 結果

樹種同定の結果、針葉樹のスギとサワラ、スギーヒノキ科の3分類群と、単子葉類のタケ亜科の、系4分類群が確認された。結果の一覧表を第220表に示す。

以下に、同定根拠となった木材組成の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を図版に示す。

- (1) スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don スギ科 図版 1 1a-1c(SK268)、2c(SK116)、3c(SK350)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急である。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔は大型のスギ型で、1分野に通常2個並ぶ。

スギは暖帯から温帯下部に生育する常緑高木である。材は比較的軽軟で、切削加工は容易であり、割裂性は大きい。

- (2) サワラ *Chamaecyparis pisifera* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図版 1 4a-4c (SK265)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。分野壁孔はやや大型でヒノキ型からスギ型、1分野に普通2個存在する。

サワラは岩手県以南の温帯山中に生育する常緑高木である。材の耐朽性および保存性は中庸だが、水湿には良く耐える傾向がある。

- (3) スギーヒノキ科 *Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don - Cupressaceae スギ科

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。試料の状態が悪く、分野壁孔の型が不明瞭であるため、スギーヒノキ科までの同定に留めた。

- (4) タケ亜科 *Subfam Bambusoideae* イネ科 図版 1 5a(SK189)

柔細胞と維管束で構成される単子葉類で、維管束は柔細胞中に散在する。維管束は一對の道管とそれと直行する原生木部間隙と篩部で形成され、その周囲を厚膜組織からなる維管束鞘

が取り囲む。

タケ・ササの仲間で日本では12属が含まれるが、程の組織のみから属や種を識別するのは難しい。

#### 4. 考察

土坑墓出土の木棺と思われる木片は、全体ではスギが17点で多く、その他にサワラが2点、状態が悪くスギーヒノキ科までの同定となった試料が4点であった。針葉樹の材は全般に軽軟で割裂性が大きいため、製材しやすい。

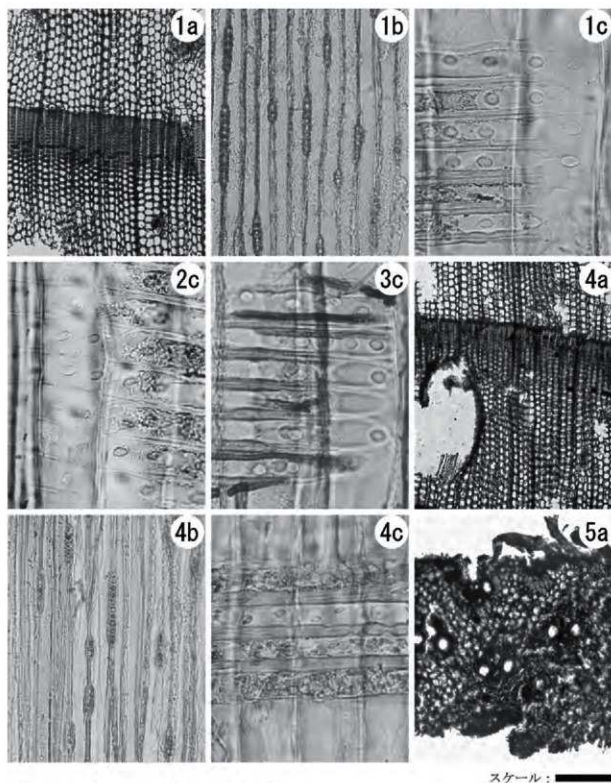
埼玉県では植材の分析例が確認できなかったが、近隣では前橋市の西田遺跡で江戸時代後期の木棺にスギ、ヒノキ、マツ属複雑管束亜属、カラマツの利用が確認されており、全国的にも針葉樹を利用する傾向がみられる(伊藤・山田編2012)。また、鈴木伸弥・能城修一氏によると、東京都の崇源寺・正見寺跡や八丁堀三丁目遺跡の出土木棺は、17世紀後半～18世紀初めまではアスナロ、ヒノキ、サワラが多く、時期が下るにつれてスギやアカマツ、モミ属が増加する傾向があり、天然林資源の枯渇と植林による木材の流通の変化が影響していると考えられている(鈴木・能城2004、2006)。今回の分析結果もスギを中心とした針葉樹が多いため、遺跡周辺で多く流通しており、加工が容易な樹種が選択的に利用されたと推測される。

第220表 樹種同定結果一覧表

遺構番号	平面形	器 種	樹 種	木 取 り
SK116(1)	長方形	板材	スギ	板目
SK116(2)		板材	スギ	板目
SK131	円形	板材	スギ	板目
SK143	楕円形	棺底板片	スギ	板目
SK145	長方形	木片	スギーヒノキ科	板目?
SK152	円形	板材	スギ	板目
SK153	円形	木片	スギ	板目
SK181	円形	棺底板片	スギ	板目
SK187	円形	板材	スギーヒノキ科	柱目
SK189	円形	煙管(羅宇)	タケ亜科	稈
SK191	円形	木片	スギーヒノキ科	不明
Sk198	円形	木片	スギ	不明
SK201	円形	板材	スギ	板目
SK203	楕円形	板材	スギ	板目
SK212	円形	木片	スギーヒノキ科	不明
SK217	長方形	棺底板片	サワラ	追柱目?
SK220	長方形	棺底板片	スギ	板目
SK229	円形	棺底板片	スギ	板目
SK234	長方形	棺底板片	スギ	板目
SK265	円形	板材	サワラ	板目、柱目
SK268	円形	棺底板片	スギ	板目、柱目
SK347	円形	棺底板片	スギ	柱目
SK350	円形	木片	スギ	追柱目?
SK355	長方形	棺底板片	スギ	板目

#### <参考・引用文献>

- 平井信二(1996)『木の百科』394p. 朝倉書店  
 伊藤隆夫・山田昌久編(2012)『木の考古学 出土木製品用材データベース』449p. 海育社  
 鈴木伸弥・能城修一(2004)『東京都中央区八丁堀三丁目遺跡より出土した江戸時代の木棺の形態と樹種』『植生史研究』第12巻第2号 75-86  
 (2006)『東京都新宿区崇源寺・正見寺跡から出土した江戸時代の木棺の形態と樹種』『植生史研究』第14巻第2号 61-72

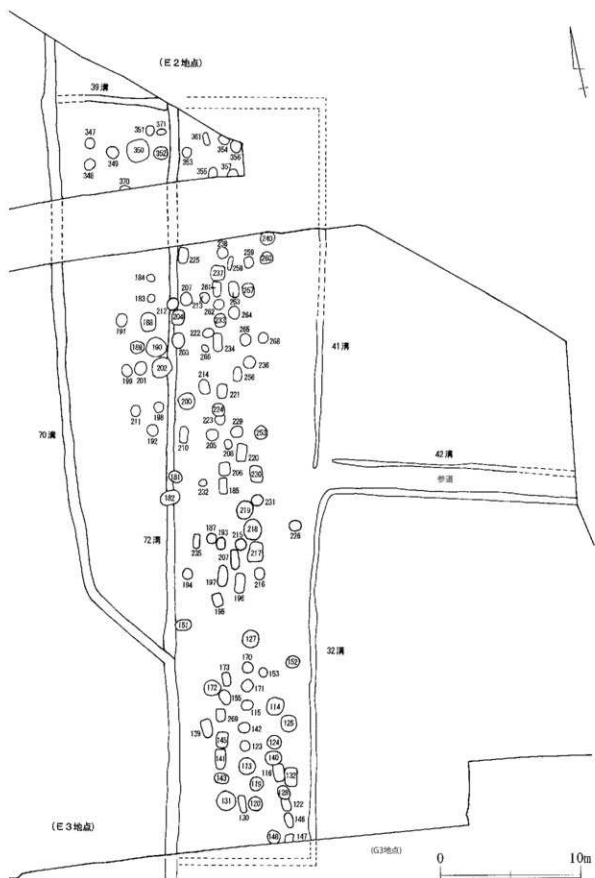


スケール: 

図版1 久下東遺跡出土木材の光学顕微鏡写真

1a-1c. スギ(SK268)、2c. スギ(SK116)、3c. スギ(SK350)、4a-4c. サワラ(SK265)、5a. タケ垂科(SK189)

a: 横断面(スケール=250  $\mu$ m)、b: 接線断面(スケール=100  $\mu$ m)、c: 放射断面(スケール=25  $\mu$ m)



第255図 久下東遺跡E2・E3地点の近世土坑墓群(清福寺近世墓地跡)

## 第七章 清福寺近世墓地跡について

久下東遺跡のE2・E3地点の調査では、E2地点の調査区南東端から南側に隣接するE3地点の調査区中央部にかけて、総数116基の土坑墓とそれに関連する土坑からなる江戸時代前半頃の集団墓地が検出されている(第255図)。検出されたのはすべて土坑墓(注1)で、火葬墓や茶毘跡は全く見られない。この集団墓地は、当初は小規模で直線的な溝によって、東西方向が10m×南北方向は推定50mの短冊形に区画され、後に西側の一部が第70号溝跡まで墓域が拡張されている。この墓地の東側の中央部には、側溝を伴う幅約1.5mの東側に直線的に延びる参道があり、その延長が隣接する現在の清福寺の山門前の道(第3図)と一致していることから、江戸時代における清福寺の墓地(寺墓)の一部と考えられる(注2)。そのため、ここではこの区画された土坑墓群を狭義の意味の「清福寺近世墓地跡」と呼ぶことにする(注3)。また、この清福寺近世墓地跡の西側に位置する久下東遺跡のB2地点(恋河内・野2014)やH地点(注4)でも、同時期の土坑墓が少数ながら散在して分布する様相が見られ、両者の性格の違いも注目される。この清福寺近世墓地跡西側の別地点の近世土坑墓については、今後の整理作業の進展と発掘調査報告書の刊行を待つことにし、本報告ではこの清福寺近世墓地跡を主体とするE地点で検出された近世土坑墓群の遺構と遺物を検討し、その具体的な様相について少し考えてみたい。

### 第1節 近世土坑墓群の副葬品

清福寺近世墓地跡では、検出された116基の近世土坑墓のうち、92.2%を占める107基から副葬品が出土している。近世土坑墓から出土した副葬品と考えられるものには、銭貨(銅銭)、喫煙具(煙管)、発火具(火打金)、鏡、数珠玉、刃物(小刀、削器)、遊具(人形、貨幣類似品の型、碁石)、日常雑器(陶磁器、かわらけ)などがある。

#### 1. 銭貨

久下東遺跡のE2・E3地点から出土した銭貨は、全部で991枚を数える。この中で、土坑から出土したものは出土銭貨の大半を占める965枚で、その他の26枚は近世後半以降の溝跡から出土している。銭貨を出土した土坑は、E2地点の1基(第248号土坑)以外は、すべて溝によって区画された清福寺近世墓地跡の土坑墓かそれに関連する土坑で、ほぼ墓域内全域の土坑墓から出土している(第256図)。その数は、副葬率75.8%を占める88基で、本墓地跡では最も一般的な副葬品である。

近世の土坑から出土した銭貨には、寛永通宝と渡来銭と模造銭があり、寛永通宝は全体の96.3%を占める929枚、渡来銭は全体の3.3%にあたる32枚、模造銭は第115号土坑から出土した雁首銭(第182図)の1枚だけである。寛永通宝は、銭種が



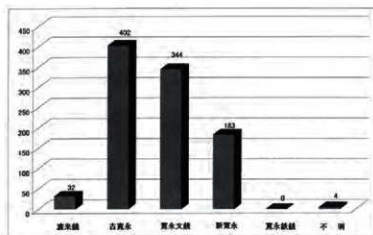
第256図 銭貨出土土坑分布図

第221表 近世土坑墓出土銭貨種類別数量表

No	土坑 番号	地点	総数	渡来銭	寛永		通 新寛永	宝 鉄	不 明 その他	備 考
					古寛永	文				
1	113	E3	6	0	3	3	0	0	0	
2	114	E3	11	0	3	1	7	0	0	
3	115	E3	14	0	6	7	0	0	1	履首銭!
4	119	E3	3	0	1	2	0	0	0	
5	120	E3	1	0	1	0	0	0	0	
6	122	E3	17	0	6	11	0	0	0	
7	124	E3	12	1	1	4	6	0	0	元豊通宝!
8	125	E3	12	0	9	3	0	0	0	
9	127	E3	11	0	8	3	0	0	0	
10	128	E3	11	0	4	7	0	0	0	
11	139	E3	17	1	4	5	7	0	0	咸平元宝!
12	141	E3	8	0	2	6	0	0	0	
13	142	E3	6	0	3	3	0	0	0	
14	143	E3	23	0	12	11	0	0	0	
15	145	E3	18	0	11	7	0	0	0	
16	146	E3	19	0	8	11	0	0	0	
17	148	E3	15	1	6	8	0	0	0	治平元宝!
18	151	E3	11	0	4	1	6	0	0	
19	152	E3	14	0	3	6	5	0	0	
20	153	E3	5	0	5	0	0	0	0	
21	155	E3	6	0	3	3	0	0	0	
22	170	E3	6	0	1	5	0	0	0	
23	171	E3	13	0	3	10	0	0	0	
24	173	E3	5	0	5	0	0	0	0	
25	181	E3	12	0	0	3	9	0	0	
26	182	E3	10	0	2	1	7	0	0	
27	184	E3	17	0	1	3	13	0	0	
28	185	E3	16	0	13	3	0	0	0	
29	187	E3	6	0	1	5	0	0	0	
30	188	E3	9	0	0	2	7	0	0	
31	190	E3	1	0	0	1	0	0	0	
32	191	E3	14	0	8	6	0	0	0	
33	193	E3	17	0	16	1	0	0	0	
34	194	E3	6	0	1	0	5	0	0	
35	196	E3	10	0	4	4	2	0	0	
36	197	E3	11	1	10	0	0	0	0	嘉祐通宝!
37	200	E3	17	0	3	4	10	0	0	
38	201	E3	1	0	0	0	1	0	0	
39	203	E3	11	0	3	2	6	0	0	
40	204	E3	19	0	7	6	6	0	0	
41	205	E3	1	0	0	1	0	0	0	
42	206	E3	16	1	6	8	1	0	0	永楽通宝!
43	207	E3	13	0	2	11	0	0	0	
44	208	E3	3	0	2	1	0	0	0	
45	209	E3	18	0	5	6	7	0	0	
46	210	E3	13	2	2	0	9	0	0	洪武通宝(加治木銭)!、皇宋通宝!
47	212	E3	14	0	6	2	6	0	0	
48	213	E3	7	0	3	4	0	0	0	
49	216	E3	6	0	2	3	0	0	1	
50	217	E3	16	2	8	6	0	0	0	元祐通宝!、他
51	218	E3	2	0	2	0	0	0	0	
52	219	E3	20	1	7	12	0	0	0	天禧通宝!
53	220	E3	6	1	1	4	0	0	0	元豊通宝!
54	221	E3	18	1	9	7	0	0	1	元豊通宝!
55	222	E3	9	0	4	0	5	0	0	



56	223	E3	12	0	6	6	0	0	0	
57	224	E3	5	0	4	1	0	0	0	
58	225	E3	6	0	2	0	4	0	0	
59	226	E3	18	1	3	2	12	0	0	永樂通寶1
60	229	E3	20	1	6	9	4	0	0	開元通寶1
61	230	E3	18	1	7	10	0	0	0	永樂通寶1
62	231	E3	11	1	7	3	0	0	0	元祐通寶(叶手元祐)1
63	232	E3	6	0	3	2	1	0	0	
64	233	E3	20	0	14	6	0	0	0	
65	234	E3	16	0	13	3	0	0	0	
66	235	E3	8	0	4	2	2	0	0	
67	236	E3	16	0	3	15	0	0	0	
68	238	E3	2	0	0	2	0	0	0	
69	239	E3	17	1	13	3	0	0	0	皇宋通寶1
70	240	E3	9	0	4	1	4	0	0	
71	248	E3	11	11	0	0	0	0	0	開元通寶1、元豐通寶4、熙寧元寶1、 聖宋元寶1、嘉祐通寶2、元祐通寶1、 天禧通寶1
72	256	E3	5	0	1	2	2	0	0	
73	257	E3	2	0	0	1	1	0	0	
74	260	E3	13	0	5	3	5	0	0	
75	261	E3	17	1	6	10	0	0	0	元豐通寶1
76	262	E3	12	1	7	4	0	0	0	熙寧元寶1
77	263	E3	18	0	8	10	0	0	0	
78	264	E3	6	0	4	2	0	0	0	
79	265	E3	7	0	3	4	0	0	0	
80	266	E3	3	0	1	2	0	0	0	
81	268	E3	22	0	5	5	12	0	0	
82	269	E3	17	2	14	1	0	0	0	唐國通寶1、咸平元寶1
83	347	E2	12	0	2	0	10	0	0	
84	348	E2	1	0	0	0	1	0	0	
85	353	E2	2	0	2	0	0	0	0	
86	355	E2	12	0	2	9	0	0	1	
87	356	E2	11	0	7	4	0	0	0	
88	357	E2	1	0	1	0	0	0	0	
89	361	E2	6	0	5	1	0	0	0	
合	計		965	32	402	344	183	0	4	
割	合		100%	3.3%	41.7%	35.6%	19.0%	0%	0.4%	



第257圖 近世土墳出土錢貨數量對比圖

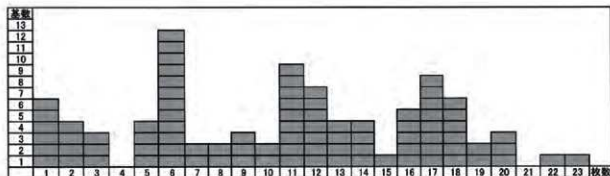
識別できるものでは、寛永13年(1636年)初鑄の古寛永が最も多い402枚(41.7%)、寛文8年(1668年)初鑄の寛永文銭が344枚(35.6%)、元禄10年(1697年)初鑄の新寛永が183枚(19.0%)で、新しく鑄造された銭種ほど数量が少なくなっており、元文4年(1739年)初鑄の寛永鉄銭や明和5年(1768年)初鑄の寛永波銭(四文銭)などの18世紀以降に鑄造された銭貨は、土坑墓からは全く出土していない(第257図)。このことから、清福寺近世墓地跡の造営期間が、概ね17世紀から18世紀前半頃で、新寛永が発行された後でも、まだ新寛永が流通銭貨の主体にならない頃までであることが窺える。

渡来銭は、銭名が判読できるものは、元豊通宝8、嘉祐通宝3、元祐通宝3、永樂通宝3、開元通宝2、熙寧元宝2、咸平元宝2、皇宋通宝2、天禧通宝2、治平元宝1、聖宋通宝1、唐国通宝1、洪武通宝1で、中にはいわゆる国産模鑄銭も含んでいる(注5)。

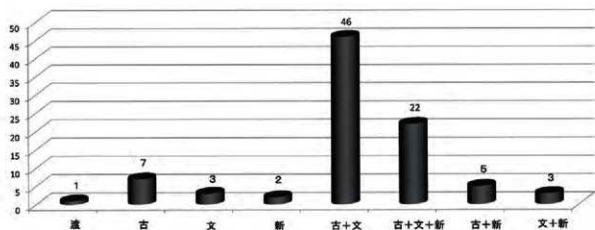
1基の土坑墓から出土した銭貨の枚数は、1枚から最高23枚までである(第258図)。このうち、4枚と21枚が0基、15枚・22枚・23枚が1基の他は、いずれの枚数も複数の土坑から出土している。最も多いのは6枚で、12基から出土している。これは、全国的な傾向でもあり、いわゆる六道銭の中心をなす「六枚1組の完全セット」(鈴木1999)の理納が、六道銭の本来の風習として重要視されていたためと言われている(鈴木2002)。つづいて11枚が9基、17枚が8基、12枚が7基、18枚と1枚が6基であり、清福寺近世墓地跡では11枚前後と17枚前後の6の倍数に近い枚数が次に多い傾向が窺える。

1基の土坑墓から出土した銭貨の銭種の組合せは、渡来銭だけのものが1基(第248号土坑)、渡来銭と寛永通宝によるものが17基、寛永通宝だけのものが71基である。出土銭貨が寛永通宝を含まず渡来銭だけで構成される土坑は、一般的には寛永通宝が流通する以前の中世の時期と判断されることが多い。しかしながら、E2地点の第248号土坑では、宋銭を主体とする11枚の渡来銭が、5枚と6枚(六道銭)に別れて土坑中央付近の底面近くから別々に出土しているが、共伴した2個体の完形のかかわりは、中世のものではなく、他の近世土坑墓に副葬されたかわらけと同じ近世前半頃のものである(第197図)。このことは、出土銭貨が渡来銭だけで構成された土坑墓の時期が、必ずしも中世とは限らず、単に時期の上限を示しているに過ぎないことを改めて注意すべきであろう(注6)。第248号土坑の場合は、清福寺近世墓地跡の区画外に位置し、他の銭貨を出土した土坑墓群とは1基だけ場所が異なっていることから、逆に渡来銭を意図的に選択して埋納している可能性もあるかもしれない。

渡来銭と寛永通宝の組合せは、<渡来銭+古寛永>の組合せが1基、<渡来銭+古寛永+寛永文銭>の組合せが11基、<渡来銭+古寛永+寛永文銭+新寛永>の組合せが4基、<渡来銭+古寛永



第258図 近世土坑墓出土銭貨枚数別基数



第259図 近世土坑墓出土寛永通宝組合せ別基数

+新寛永>の組合せが1基である。寛文10年(1670年)に公用銭貨としての渡来銭の使用禁止が幕府から通告されるが、地域によっては17世紀末の新寛永の鑄造以後も、墓への埋納というような私用銭貨として渡来銭が少数ながらも使われ続けていることは注目されよう。このような江戸時代の土坑墓から寛永通宝に混じって少量ながら出土する渡来銭についても、今後の調査においてはその出土状態や出土銭貨内でのあり方を詳細に検討し、寛永通宝とは異なる特別な意味等がないのか、改めて考えてみる必要もあろう(注7)。

寛永通宝どうしによる銭種別の組合せでは、<古寛永+寛永文銭>の組合せが最も多く、その数は46基で全体の半数にあたる51%を占めている。その次に多いのは、<古寛永+寛永文銭+新寛永>の組合せで、その数は22基で全体の4分の1にあたる25%を占めている。これら以外の<古寛永+新寛永>の組合せや<寛永文銭+新寛永>の組合せ、及び1種類の銭種だけによるものは、いずれも数基程度で非常に少ない(第259図)。

土坑墓から出土する銭貨は、これまで六道銭として一括して扱われることが多かったようである。小林義孝氏は、文献資料の検討からこれらの出土銭貨の中には埋葬儀礼に伴う地鎖や地代として埋納したものや、死者に持たせる六道銭の他に煙草銭や小道銭として埋納したものなど、その性格が異なる銭貨が多く含まれていることを指摘され、それらを明確に区別する唯一の方法は、「出土の状況を精緻に把握し、銭貨がそこに至る過程を正確に復元すること」であると言われている(小林2009)。石神裕之氏も、「多様な副葬意図が付加される近世以降の埋葬銭貨は、厳密な意味で「六道銭」と評価できないことから、埋葬する土地の地代や地鎖のような「墓域や死者に対して生者の側がなす行為」の銭貨と、六道銭や煙草銭や三途の川の渡し賃など「冥界において死者自身が使用する行為」の銭貨を明確にし、出土銭貨の埋納意図を整理することが必要とされている(石神2009)。

確かに、出土銭貨の詳細な出土状況の検討なくして、出土した銭貨すべてを六道銭として扱うことができないのは言うまでもない。しかしながら、本遺跡の土坑墓のように棺がすでに腐食して残存していないものなどは、棺内と棺外の区別はもとより、棺の腐食に伴って棺内にあった位置も移動している可能性があり、その把握はかなり困難である。そのため、本報告では土坑墓内から6枚だけ出土した銭貨や、6枚が錆で密着した銭貨については、その出土位置に関係なく六道銭としている(注8)。今後は、棺や遺体との位置関係が分かる遺存状態が良好な資料の蓄積によって、銭貨の出土状態の類型化が進められ、それとの照合によって改めてその性格が検討されなければならないであろう。

## 2. 喫煙具

喫煙具の煙管は、清福寺近世墓地跡の土坑墓群では、全部で8基から出土している。これは、土坑墓群全体の6.8%の副葬率で、本墓地跡ではあまり一般的な副葬品とは言えない。この8基の土坑墓は、墓地の中央部から南側にかけて分布しており、墓地内での出土のあり方にはやや偏在性が認められる(第260図)。


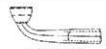








煙管は、基本的に銅製の雁首・吸口とそれをつなぐ竹製の羅宇で構成される1本の副葬が一般的であり、2本以上の煙管が出土した土坑墓は、清福寺近世墓地跡では見られない。出土した数量は、雁首7個体と吸口8個体である。羅宇は、雁首や吸口の中に差し込まれた部分が一部残存している程度で、ほとんどが腐食して全体が分かるものはない。

土坑墓から出土した雁首と吸口の形態は、以下のように分類できる(第261図)。雁首は、首部に肩が付かないA型と、首部に肩が付くB型があるが、数量的には圧倒的にA型が多い。

A型は、長さの違いによって(大)と(小)に分けられ、(大)はさらに全長7.4cm～7.5cmのサイズ(大1)と、全長6.8cm～6.9cmのサイズ(大2)の規格性の高い2つのサイズに分かれる。また、(大1)では、火皿の口縁と首部が平行するもの(I)と、脂返し(すべりかき)の湾曲がやや弱く火皿の口縁が傾斜するもの(II)が見られる。(小)は、第185号土坑No.4の1個体だ



第260図 煙管・火打金出土土坑分布図

		A			B
		(大)		(小)	
雁首	I	 (SK230No19)	 (SK113No 7)	 (SK185No 4)	 (SK189No 1)
	II	 (SK226No19)			
吸口	I	 (SK230No20)	 (SK113No 8)		 (参考: 72清No 1)
	II		 (SK148No18)	 (SK185No 5)	

第261図 近世土坑墓出土煙管分類図

けである。全長が3.8cmの首部が短いものであるが、火皿の大きさは(大)とほぼ同じで、火皿と首部の接合部には補強帯と思われる幅狭い段をもっている。

B型は、第189号土坑No 1の1個体だけである。破損しているため明確ではないが、A型のI類と同じく、火皿の口縁と首部が平行する形態と思われ、火皿と首部の接合部には補強帯と思われる幅狭い段をもっている。

吸口は、土坑墓から出土したものは、すべて首部に肩が付かないものである。形態的には、直線的に窄まるもの(I)と、湾曲して窄まるもの(II)の2形態がある。長さは、雁首の(大)と(小)に対応しており、(大1)のサイズに対応するものは全長7.1cm、(大2)のサイズに対応するものは全長6.1cm～6.6cmで、(小)に対応するものは全長3.5cmである。

煙管の形態分類と編年については、古泉弘氏が六段階に区分した編年(古泉1992)を示された後、多くの人が新たに発掘調査によって出土した資料の整理から再検討を行っており、結果として「キセルからは明確な時期設定は難しいが大きな変遷はみることができる」(安芸2005)と言われている。清福寺近世墓地跡の土坑墓から出土した煙管については、雁首の形態が脂返し湾曲して上方に延び、火皿との接合部がやや細いことから、比較的古い形態の特徴をもつと思われる。特に主体を占めるA型は、いずれも副葬品の銭貨が伴出しており、6例のうち伴出した銭貨が寛永文銭まで含むものが4例(第113・148・185・230号土坑)、新寛永まで含むものが2例(第226・235号土坑)で、その他第185号土坑で伴出したかわらけや、第235号土坑で伴出した肥前系陶器の蛇の目輪剃ぎ皿の形態から見て、17世紀後半～18世紀前半頃の時期と考えてよいであろう(注9)。

### 3. 発火具

発火具は、火打金と考えられるものが4基(第148・171・230・232号土坑)、その可能性があるものが1基(第215号土坑)の計5基の土坑墓から出土している。これは、土坑墓群全体の4.3%の副葬率で、本墓地跡ではあまり一般的な副葬品とは言えない。これらの土坑墓は、先の煙管が出土した土坑墓と同じく、墓地の中央部から南側にかけて分布しており、墓地内での出土のあり方にはやや偏在性が認められる(第262図)。いずれも1個体の副葬で、2個体以上出土した土坑はない。

形態は、完形のものが少ないため明確ではないが、第148号土坑No16・第171号土坑No14・第230号土坑No22・第232号土坑No 7の4例は、基本的に山形を呈し、両端が上方に反り返らずに直線的に収まり、中央に突起をもつ形態と思われ、いずれも長さが6cm～7cmの小形品である。第215号土坑のNo 2は、両端部が欠損しているため不明であるが、火打金であれば中央に突起をもたない短冊形か、両端が上方に角状に突起する鏡形の形態と思われる。

この本墓地跡出土の火打金の主体をなす山形の形態のものは、埼玉県内出土の古代から近世の火打金を集成して分類された関義則氏のa 1型に該当する(関2002)。そして、関氏による火打金の変遷に照らし合わせると、とりあえず系譜的には、中世後期の代表例である菖蒲城の資料に見られる大型化したa 1型が、近世になって法量分化したものか、小型化したものとして位置づけられよう。時期は、伴出した銭貨が第148・171・230号土坑の3基が寛永文銭まで、第232号土坑が新寛永を含むことから、17世紀後半～18世紀前半頃と考えられる。

火打金については、古くから清浄視され魔除けの効果があると信じられた火の信仰に基づいて、発火のための道具の一つとして副葬されたと考えられる。そのため、本来の埋納状態が分からないため明確ではないが、副葬にはセットとなる火打石や火口(あるいは付け木)も伴っていたのではな

いかと推測される(注10)。火口や付け木は、腐食してすでに残っていないことが考えられるが、火打石は自然石と類似した形状のものや、使い込んで小さくなったものなどは、調査時の問題意識が低いと見落とされる場合が多いのではないかとと思われる(小林克2015)。本地点の土坑墓の調査においては、火打石について十分な意識的調査が行えなかったことから、残念ながら火打石と火打金のセット関係は明確にできなかった。

#### 4. 鏡

鏡は、第191号土坑と第235号土坑の2基から、完形品が出土している。本墓地跡の鏡の副葬率は1.7%と極めて低く、一般的な副葬品と言えないことから、関根達人氏が言われるように「基本的には故人が生前使用した鏡」(関根2002)を副葬したものと考えられよう。

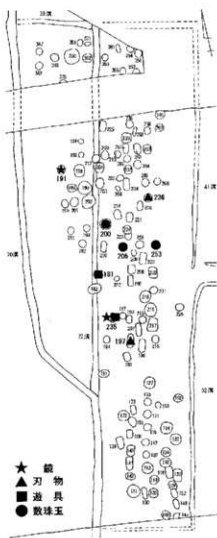
第191号土坑出土の鏡は、直径10cmの円形鏡で、鏡背面の文様が亀鈕双鶴接嘴文(内川2014)の近世に典型的な蓬萊文様の鏡である(第22図)。この鏡を入れていた外容器や、鏡を包んでいたような布や植物の葉等は見られなかった。東北地方の近世墓から出土した鏡を検討された関根達人氏は「蓬萊鏡は、近世の婚礼道具の一つで「女性と深く結びついた鏡」であり、「蓬萊図の鏡だけは女性の墓にしか副葬されない」と言われている(関根2002)。第191号土坑の被葬者の詳細は不明であるが、江戸の武士階級と考えられる喪棺墓では、男性の被葬者に柄鏡が副葬された例が数例あるようであり(谷川2010)、時期的・地域的・身分的な検討も必要であろう。

第235号土坑から出土した鏡は、7.8cm×5.3cmの長方形を呈する方形鏡で、いわゆる懐中鏡と考えられるものである(第196図)。鏡背面の文様は、禅問答を題材とした瓢箪図で、「天下一作」の銘がある。No 2とNo 3の煙管と並んで出土していることから、煙管入れに入れられていたか、または縫い付けられていたのではないかとと思われる(図版49)。

時期は、第191号土坑出土の蓬萊鏡が寛永文銭と伴出していることから17世紀後半以降、第235号土坑出土の方形鏡が肥前系陶器の蛇の目軸剃ぎ皿や新寛永と伴出していることから、17世紀末～18世紀前半頃と考えられる。

#### 5. 数珠玉

数珠玉は、第200・205・236号土坑の円形土坑墓から、ガラス製のものが出土している。この3基の円形土坑墓は、墓地の中央部にやや近接して分布しており、墓地内での出土のあり方には偏在性があるように見えるが(第272図)、数珠玉には木製のものもあり、それらはすでに腐朽して残っていない可能性が十分考えられることから、本墓地跡における数珠玉の副葬の実態については、不明と言わざるをえない。



第262図 鏡・数珠玉・刀物・道具  
出土土坑分布図

出土したガラス製の数珠玉は、いずれも直径0.4cm～0.6cm、高さ0.4cm前後の比較的小さな円盤形で、無色のくすんだ透明をしている。数は、第200号土坑が4個(第189図)、第205号土坑が23個(第190図)、第253号土坑が1個(第197図)であるが、劣化による消滅や、比較的小型品であるため調査時の見落としもあると思われる、これがそのまま埋葬時の実数とは言えないだろう。時期は、第200号土坑が新寛永と、第205号土坑が寛永文銭と伴出し、第253号土坑は口縁部の形態が緑帯をなす丹波系の播鉢が出土していることから、17世紀後半～18世紀前半頃と考えられる。

東京都台東区の下谷同朋町遺跡の17世紀の墓地から出土した数珠を分析された鈴木伸哉氏によると、数珠は「材質や珠の大きさ、復原長と被葬者の年齢層や性別との間にも一定の対応が認められ、副葬に際しては「無作為に納められたものではなく、生前の持ち物などの、被葬者との関わりが考慮された」と言われ、具体的には「女性や子どもの被葬者に比較的小型の珠が多く、男性の被葬者に大形の珠が多い傾向が伺える」と指摘している(鈴木2014)。そのため、本墓地跡から出土したガラス製の数珠玉は、いずれも小型品であることから、その被葬者が女性や子供であった可能性も推測される。また、「ガラス(硝子:びいどろ)は水晶(水精:すいしょう)の代用品として数珠玉に用いられた」とも言われており、ガラス製の数珠玉を副葬された被葬者の社会的階層もある程度推察されよう。

## 6. 刃物

刃をもつ鉄製品をすべて刃物とした。本墓地跡では、第197号土坑No12の削器(第199図)と第236号土坑No3の脇差と考えられる小刀(第196図)の2例だけである。刃物の副葬には、魔除けや悪霊払いの意味があるとされており、民俗事例的には「脇差とか小刀のほか、包丁や鎌など刃が付いているものなら何でもよかった」と言われているが、近世以前の土坑墓に見られる刃物の副葬品には、一般的には小刀(刀子)や鎌あるいは鎌などの、切る道具が多いように思われる。

第197号土坑のNo12は、鎌に似ているが両端が折れ曲がっていることから、両側に把手が引っ張るような部品が付く道具と考えられ、桶屋道具の「ウチゼン」(埼玉県立さきたま資料館1985)のように、手前に引いて板の表面を削るような道具ではないかと思われる。そのため、副葬品としてはあまり例を見ない削る道具(削器)であることから、魔除けとして副葬したものとしては、何か間に合わせて違和感がある。第236号土坑No3の小刀は、長さが41cm以上のいわゆる脇差で、鞘に入れられて早桶内に立てかけられていたものである。これも魔除けのために副葬されたことには、高価なもので大きすぎる感じがする。そのため、これらは被葬者の生前の愛用品と考えるのが妥当と思われる、第197号土坑No12の削器は、被葬者が生前に生業としていた仕事道具のひとつ、第236号土坑No3の小刀(脇差)は、被葬者の生前からの所持品か生前に賜ったものと推測される。

## 7. 遊具

遊具としたものは、第181号土坑出土No3の箱庭道具の瀬戸美濃系陶器の狛犬人形、同じく第181号土坑出土No4の貨幣類似品の型(第187図)、第235号土坑出土No6の碁石(第196図)の3例であり、これらも被葬者の生前の愛用品か愛好していた遊びを表すものであろう。この中で、第181号土坑出土の貨幣類似品の型については、厳密には遊具とは言えず別の項目を立てるべきであるが、おそらく玩具とみられる寛永通宝(新寛永)を模した鑄造品か土製の焼き物の貨幣類似品を作った型と推測されることから、とりあえずここに含めている。その他、土坑墓の副葬品ではないが、E2地点の調査区内から飯事道具の可能性もあるミニチュアの陶器碗が1点出土している(第241図)。

## 8. 日常雑器

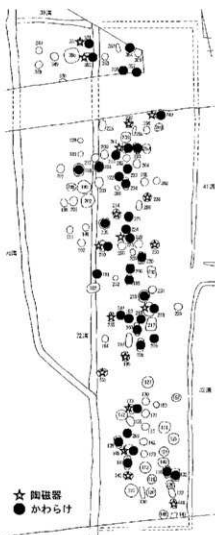
日常雑器は、国産の陶磁器や土器が副葬されている。これらは、50基の土坑墓もしくはそれに関係する土坑から出土し、それらの土坑は墓地内のほぼ全域に分布している(第263図)。副葬率は43.9%を占め、本墓地跡の副葬品の中では銭貨に次ぐ副葬率の高さである(注11)。本墓地跡から出土した陶磁器は、土器のかわらけと伴出した例は多く見られるが、磁器と陶器の伴出は見られない。

磁器は、土坑墓から出土した日常雑器の中では最も少なく、墓地の北側に分布する第214・236・351号土坑の3基から、肥前系の小碗・染付瓶・色絵碗が4個体出土している(注12)。このうち、第351号土坑では土器のかわらけが伴出している。

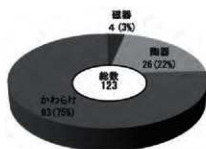
第351号土坑出土の2個の色絵碗は、17世紀後半頃と考えられるもので、土坑墓の北側壁の下半を袋状に掘り込んだ部分に、正位に並べられた状態で出土している。これは、棺の埋納以前に土坑内に供えられたもので、棺の埋設による色絵碗の破壊を防ぐために、壁を袋状に掘り込んだ埋納場所を作ったと考えられる。そのため、「冥界において死者自身が使用する」ためのものではなく、「墓域や死者に対して生者の側がなす行為」(石神2009)に伴って埋納されたものであることが推測される。正位に並べられていたことから、中に有機質の物を入れてお供えしていたことも考えられるが、土坑墓内の副葬品に銭貨が見られないことや、地方では磁器が一般庶民階層に広く普及する直前頃と思われることからすると、土坑墓の掘削と棺の埋納に伴う地鎮や地代に使用すべき銭貨の代替品であった可能性もあるかもしれない。

第236号土坑No 1の染付瓶(第196図)は、棺の中に正位に置かれていたような状態(図版50)で出土していることから、「冥界において死者自身が使用する」(石神2009)ために副葬されたものであることが分かる。ただし、この場合は瓶自体が目的ではなく、その中身の嗜好品(酒?)が冥途の土産であったと思われる。この第236号土坑は、先に述べたように小刀(脇差)が副葬されており、瓶も他に副葬の例がないことから、他の土坑墓の副葬品に比べて特異である。染付瓶の時期は、17世紀後半～18世紀前半頃と考えられる。

陶器は、第143・145・146・151・173・195・210・218・223・235・253・261・262・352号土坑の14基から、日常雑器の総個体数の22%にあたる26個体が出土している(注13)。これらの土坑墓は、墓地のほぼ全域に分布しており、偏在性は見られない(第263図)。



第263図 日常雑器出土土坑分布図



第264図 日常雑器個体数比較図



産地別では、大雑把に見ると肥前系と丹波系と瀬戸美濃系があり、肥前系2個体(7.7%)と丹波系1個体(3.8%)以外は、すべて瀬戸美濃系(88.5%)である。これらの陶器は、土器のかわけとの伴出は見られるが、産地が異なる陶器どうしの伴出は見られない。

肥前系陶器は、第210号土坑No 1の刷毛目茶碗(第191図)と第235号土坑No 1の青緑釉蛇の目軸割ぎ皿(第196図)の2個体だけである。これらは、いずれもその出土位置から棺内に副葬されていたと考えられる。第235号土坑の蛇の目軸割ぎ皿は、立てられた状態で鏡や煙管と一緒にまとめて副葬されている(図版49)ことから、被葬者の生前の愛用品であったと思われる。第210号土坑の刷毛目茶碗は、被葬者の遺体の傍に正位で置かれていたと考えられ、愛用の茶碗であったのかもれない。茶碗の横には、土器のかわけが伏せた状態で置かれている(図版44)。その出土状況から見て、茶碗の蓋にされていた可能性もあり、茶碗の中に有機質の好物を入れて供えられていたことも推測されよう。時期は、いずれも伴出した銭貨に新寛永を含むことから、17世紀末～18世紀前半頃と考えられる。

丹波系陶器は、第253号土坑No 1の播鉢(第197図)だけである。これは、口縁部が緑帯をなす丹波系播鉢の終末段階に近い形態で、時期は17世紀末～18世紀初頭頃と考えられる。この第253号土坑から出土した播鉢は、完形品ではなく1/2程度の大形破片で、覆土上層から出土している。遺体や棺との位置関係は不明であるが、遺体の頭部に被せるには十分な大きさであり、いわゆる「鍋・鉢被り葬」との関係で注目されよう(注14)。

瀬戸美濃系陶器は、第143・145・146・151・173・195・218・223・238・261・262・352号土坑の12基から、全部で23個体が出土している。器種は、皿と碗類が主体で、灰釉の菊皿3・折縁鉄絵皿1・皿5・小碗2、長石釉(志野)の皿1・小碗1、鉄釉の丸碗2・小碗7・把手付灯明皿1などが見られる。時期は、17世紀～18世紀前半頃までのもので、灰釉と長石釉(志野)の皿と小碗は古寛永や寛永文銭と、鉄釉の丸碗と小碗は古寛永・寛永文銭・新寛永との伴出が認められ、瀬戸美濃系陶器の時期的な傾向が窺える。

瀬戸美濃系陶器の1基の土坑墓からの出土個体数は、1個体から3個体までの出土が認められるが、他の日常雑器との伴出関係は、瀬戸美濃系陶器だけのものが6基(第143・146・151・195・238・262号土坑)、かわけと伴出するものが6基(第145・173・218・223・261・352号土坑)である。

土器は、すべてかわらけで、他の器種の出土は見られない。かわらけは、墓地内のほぼ全域に分布する42基の土坑から、日常雑器の総個体数の75%を占める93個体が出土しており(注15)、日常雑器の中では最も一般的なお供え用の器と言える。いずれも口縁部径が9cm～10cmの小形品で、法量差のある大形品などは全く見られない。形態は、坏形と皿形が基本で、いずれも器形にややバラエティーが認められる。あまり時間幅がないため明確ではないが、坏形・皿形とも新しくなるにつれて器高を減じながらやや小型化する傾向が窺える(注16)。

土坑1基あたりのかわけの出土個体数は、1個体から最高5個体まで見られ、1個体が13基、2個体が14基、3個体が7基、4個体が4基、5個体が3基で、本墓地跡では1基あたり1～2個体が多い傾向が窺える。

副葬あるいは埋納された93個体のかわけのうち、半分以上の62個体(66.6%)に灯明皿として使用されていた痕跡が認められる。これらの灯明皿は、葬送儀礼に伴って灯明皿として実際に使用



されたものや、灯明皿から入れ物や蓋などの器に再利用されたものもある。また、普段の日常生活で使用していたものをそのまま使ったと思われるやや古びたものから、葬送に伴って新たに購入したのではないと思われるような新品のものまでいろいろ見られる。

日常雑器の土坑墓内での出土場所については、棺や遺体との位置関係が不明であるため明確には言えないが、概ねその出土状態から見ると、(A)：棺内に遺体の傍に置かれていたと思われるもの、(B)：棺外及び棺と土坑壁との間に入れられたか落込んだと思われるもの、(C)：棺の上に置かれたと思われるものに分けられる。そして、その出土場所の違いから、(A)は死者自身が冥界で使用するかまたは冥途の土産にするために副葬したもの、(B)と(C)は葬送儀礼に関係して使用したものを棺とともに墓坑内に埋納したものと一応推測されよう。また、この出土場所の違いは、民俗事例から見ると葬送儀礼の一連の経過の中で使用した時期の違いを窺わせるもので、(A)の棺内に副葬されたものは、臨終から遺体の入棺あるいは家からの出棺の棺を密閉するまでの間に入れたもの、(B)や(C)の棺外に副葬されたものは、野辺送りから棺を墓坑に埋める埋葬までの間に入れたものであることが分かる。先に述べたように、磁器・陶器・かわらけのいずれの種類の器においても、この墓坑内での出土場所の多様性が認められ、特定の種類の日常雑器における出土場所の限定性・差別性は見られないようである。

#### 9. その他

この他に、第113号土坑と第230号土坑で、先端が折れ曲がった細長い筥状の鉄製品の破片が出している(第182図、第194図)。これらは、残存する部分の形状を見ると、化粧道具として分類される毛抜きの先端部分にも似ている。しかしながら、2例ではあるがいずれも煙管と搬出していることからすると、煙管の使用と関係する道具の可能性もあるかもしれない。

#### 10. 副葬品の特徴と階層性

以上、清福寺近世墓地跡を主体とする土坑墓から出土した副葬品の様相について見てきたが、本来は木製や布などの有機質の物も多く副葬されていた可能性があり、副葬品の種類にはもっとバラエティーがあったと思われる。清福寺近世墓地跡の副葬品の中で最も一般的なものは、寛永通宝の一文銭を主体とする銅銭であり、その次は土器のかわらけを主体とする日常雑器であった(注17)。そして、これに生前の愛用品や魔除けなどの信仰に伴う物が少量見られる程度である。

副葬品には、第236号土坑の小刀(脇差)のようなやや特異な例があるものの、多くは一般的に身分や階層を越えて見られるものがほとんどである。そのため、清福寺近世墓地跡の性格は、寺請制度に伴う一般庶民階層を主体とした檀家等の集団墓地であったと考えられる。しかしながら、墓地跡の同じ区画内には、墓坑の形態や埋葬施設は同じであっても、副葬品を全く伴わない土坑墓と考えられるものが少数ながらあり(注18)、同じ区画内に埋葬された一般庶民階層の中にも、何らかの差があったことが窺える。

## 第2節 近世土坑墓の形態分類

清福寺近世墓地跡から検出された116基の土坑墓は、その平面形態の違いによって、主に長方形土坑墓と円形土坑墓に大別され、これに掘り方がやや雑で、長方形・円形のどちらとも判断しづらい楕円形類似の土坑墓(楕円形土坑墓)を加えた3形態に分けられる(第266図)。基数は、長方形土坑墓が33基、円形土坑墓が70基、楕円形土坑墓が13基で、円形土坑墓が半数以上を占めている。この墓

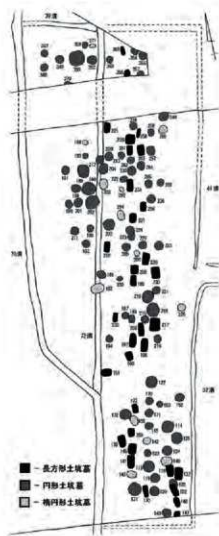
坑の平面形態の違いは、遺体の埋葬姿勢や埋葬施設である棺の形状の違いを反映していると考えられる場合が多いが、中には必ずしもそうとは言えないものも見られる(注19)。

### 1. 長方形土坑墓

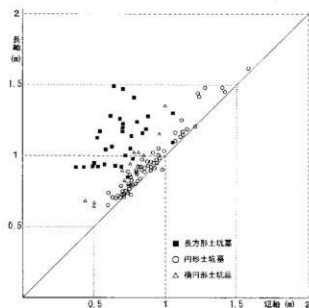
長方形土坑墓は、長軸の長さが80cm～150cmまでのものがあり、全体的には90cm～130cm程度のものが多いが、規格性は高くない(第267図)。長軸を東西方向に向ける第151号土坑以外は、すべて長軸を南北方向に向けて列状に並ぶ様相が窺えるが、長方形土坑墓どうしの重複は見られない。

これらの長方形土坑墓が南北方向に長軸を向けているのは、頭を北に向けて埋葬する信仰に基づくものと考えられ、実際に第122号土坑・第139号土坑・第145号土坑では、頭蓋骨と思われる骨の一部が土坑の北側寄りの位置から検出されている。1基だけ東西方向に長軸を向けている第151号土坑は、副葬品の様相から見ると、墓地内の土坑墓の中では比較的新しい時期のものと考えられるため、何か特別な事情があったのか、あるいは土坑の平面形態とは異なる形の埋葬施設であったことが推測される。

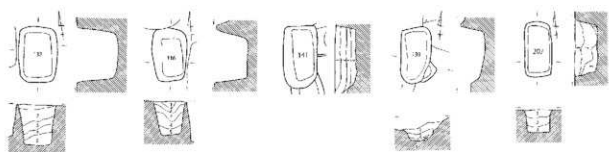
この南北方向に長軸を向ける長方形土坑墓は、ほぼ北方向に向くタイプⅠと、墓地の区画溝である東側の第32号溝跡と第41号溝跡や西側の第72号溝跡と平行するタイプⅡがあり、タイプⅠは33基中8基(第116・122・130・139・146・173・195・361号土坑)の24.2%、タイプⅡは33基中24基の72.7%で、タイプⅡが数量的には長方形土坑墓の主体を占めている。この長方形土坑墓は、すべて墓地西側拡張以前の第72号溝跡の東側に分布しており、タイプⅡはその拡張以前の墓地のほぼ全域に分布するのに対して、タイプⅠは墓地の北端に位置し、他に比べて規模が小さく、やや雑な掘り方の第361号土坑以外は、すべて墓地の南側に分布する特徴がある。このタイプⅠとタイプⅡの差異については、墓地内での分布傾向の違いから、何だかの信仰や社会的関係の差に基づく集団の違いを示している可能性もある。しかし、タイプⅠの土坑墓の副葬品には、瀬戸美濃系陶器の中でも古い段階の菊皿や灰釉皿・志野皿が見られ、銭貨では寛永通宝の文銭までのものがほとんどで、新寛永を伴うのは第



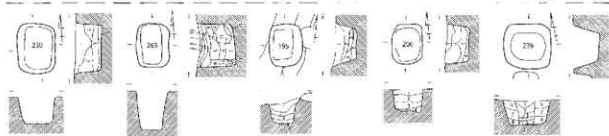
第266図 平面形態別土坑墓分布図



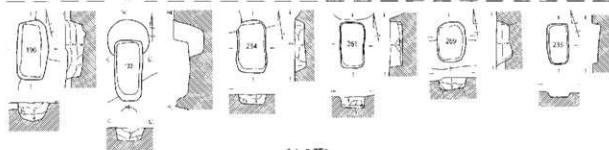
第267図 近世土坑墓形態別規模比較図



< A 1 a 類 >

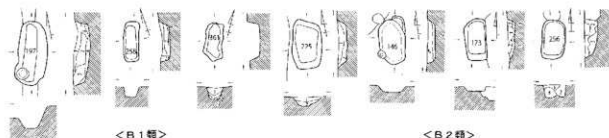


< A 1 b 類 >



< A 2 類 >

長方形土坑墓A類



< B 1 類 >

< B 2 類 >

長方形土坑墓B類



第268圖 長方形土坑墓集成圖

139号土坑だけであることから、タイプⅡよりもタイプⅠの方がやや古く出現した可能性も考えられる。そのため、タイプⅡは北頭位に向きながらも墓地の南北方向に走る区画溝と墓坑の長軸が平行するようにその配置に規制を受け、タイプⅠは北頭位に向いているが、まだ区画溝による配置の規制を受けなかった一群の系譜を引くものとも推測できる。そしてその出現時期は、墓地区画溝の第32・41・72号溝跡が掘削される直前であったかもしれない。タイプⅠとタイプⅡは混在するものの、相対的にはタイプⅠの方が若干早く出現し、区画溝や柵列等の区画施設の整備に伴って、徐々にタイプⅡが長方形土坑墓の主体になっていったのではないかとと思われるが、直接的な重複による新旧関係に基づくものではないため、現状では単なる状況的な判断による憶測に過ぎない。ちなみに、このタイプⅠとタイプⅡは、ともに墓坑掘り方の形状によって分類される下記のA類とB類のいずれの形態にも見られる。

長方形土坑墓は、その墓坑掘り方の形態の違いによって、以下のA類とB類に大別され、更にA類は掘削深度の違いによって、B類は底面の形状の違いなどによって細別される(第268図)。

《A類》 墓坑の平面形が比較的整った隅丸長方形を呈し、壁は垂直きみで底面が広く平坦な作りのものである。数量的には長方形土坑墓の主体を占めている。形態は、掘削深度が深いA1類と、掘削深度が浅いA2類(第122・196・234・235・261・269号土坑)がある。このうちのA1類は、さらに墓坑の長軸の長さながいA1a類(第116・130・132・139・141・151・185・207・210・220号土坑)と、墓坑の短軸の幅がやや広く長軸の長さがやや短いA1b類(第195・206・217・230・239・263号土坑)に細別できる。

《B類》 墓坑の平面形がやや細長い不整ぎみの隅丸長方形を呈し、底面が狭いか凹凸や起伏の見られる比較的浅く掘られているものである。墓坑の掘り方はやや雑で、底面が狭いB1類(第197・258・361号土坑)と、底面はやや広い凹凸や起伏が顕著に見られるB2類(第146・173・225・256号土坑)がある。B1類とB2類とも数量的には少数で、墓地内での分布は散在的である。

このA類とB類の墓坑掘り方に見られる精粗の差は、おそらく埋葬施設の違いを反映しているものと思われる。A類は遺体を木棺に入れて埋葬したもので、B類は木棺を伴わずに遺体をそのままか布や蓆などに包んで埋葬したものではないかと思われる。ちなみに、6基の長方形土坑墓から棺材の一部と思われる木片が出土している(第Ⅵ章参照)が、それらはすべてA類の土坑である。A類の中で長軸の長さが短いA1b類は、第239号土坑や第263号土坑の土層断面の観察に見られるように、円形木棺を埋葬していた可能性があり、長軸の長さながい他のA1a類やA2類とは埋葬施設が異なっていたことも考えられる。

A類・B類の長方形土坑墓とも、副葬品を伴うものと伴わないものが見られるが、副葬品を伴うものでは、その質や量において明確な優劣の差は認められないようである。また、両土坑墓とも、それぞれその規模に差が見られる。これは、大人と子供・乳幼児などの体格差を反映している可能性もあるが、人骨や棺等が残存していない場合がほとんどであるため、明確なことは分からない。

## 2. 円形土坑墓

円形土坑墓は、墓地のほぼ全域に分布している(第266図)。その配列には、墓地を区画する溝である第32・41・72号溝跡と平行する南北方向に列状に並んだり、それと直交する東西方向に列状に並ぶような様相が窺える部分も見られる。土坑墓どうしで重複しているものは、長方形土坑墓の第122号土坑に切られる第128号土坑、円形土坑墓どうしの第223号土坑と第224号土坑、長方形土坑

墓の第234号土坑を切る第222号土坑の3例だけであり、掘り方の平面形態が異なる土坑墓どうしの直接的な重複関係による時期差は明確ではない。

この円形土坑墓は、墓坑掘り方の掘削形態の違いによって以下のA類とB類に大別され、A類は平面規模の差異によって、B類は掘削深度の差異によってさらに細別される(第269～271図)。

《A類》 墓坑掘り方の掘削形態が、上半もしくは中位に平坦な段か稜をもつものである。第113・114・115・119・127・131・172・183・188・189・190・191・193・202・218・350号土坑の16基が該当し、円形土坑墓全体の22.8%にあたる。段は、残存する部分では二段掘りがほとんどで、他には三段掘りが1例(第190号土坑)見られる。このA類は、段掘りによる掘削のため、B類に比べて平面規模が大きいものが多いが、その平面規模の差によって概ねA1類～A3類に分類できる(第269図)。

<A1類> 平面の最大径が140cm以上ある大形のもので、第114・131・190・202・218・350号土坑の6基が該当する。最大のは第350号土坑で、その最大径は162cmを測る。掘削深度は、第114号土坑の92cm～第350号土坑の142cmまでである。

<A2類> 平面の最大径が100cm～125cm程度の中形のもので、第113・115・119・127・172・188・191号土坑の7基が該当する。掘削深度は、第188号土坑の88cm～第191号土坑の133cmまでである。

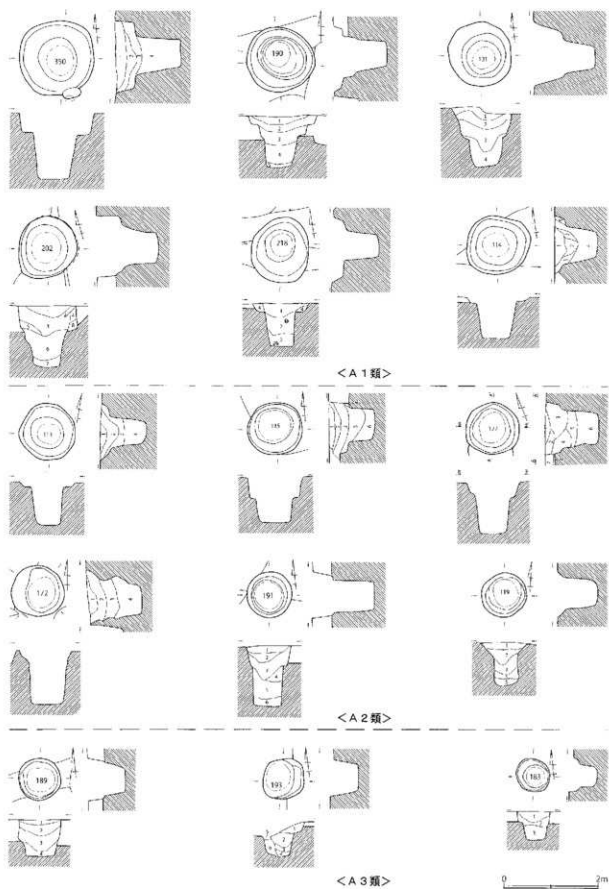
<A3類> 平面の最大径が100cm以下で、A1類やA2類に比べて掘削深度もやや浅い小形のもので、第183・189・193号土坑の3基が該当する。この中で第193号土坑は、上半の西側が半分削平されているため、本来は平面の最大径が100cm以上のA2類に該当していた可能性が高い。最小のものは第183号土坑で、その最大径は78cmを測る。掘削深度は、第183号土坑の62cm～第189号土坑の85cmまでである。

このA1類～A3類に見られる平面規模の差は、段掘り上面の平面規模が大きいほど掘削深度も深くなる傾向があり、平面規模と掘削深度の相関関係はある程度認めることができるようである。そのため、このA類に見られる段掘り掘削は、墓坑を深く掘るための掘削技法の一つと素直に考えることができ、穴掘りに使う鋤などの道具の掘削能力を補う工法であったと考えられよう。

《B類》 墓坑掘り方の掘削形態が、段をもたないで垂直的に掘り込まれているものである。このB類は全部で54基あり、円形土坑墓全体の77%を占めている。平面規模は、最大径が第200号土坑の最大118cmから、第232号土坑の最小55cmまでであるが、平面規模の差異による明確な区別はできないようである。このB類は、掘削深度に差異が認められ、それによって概ね以下のB1類～B3類に分類できる(第270・271図)。

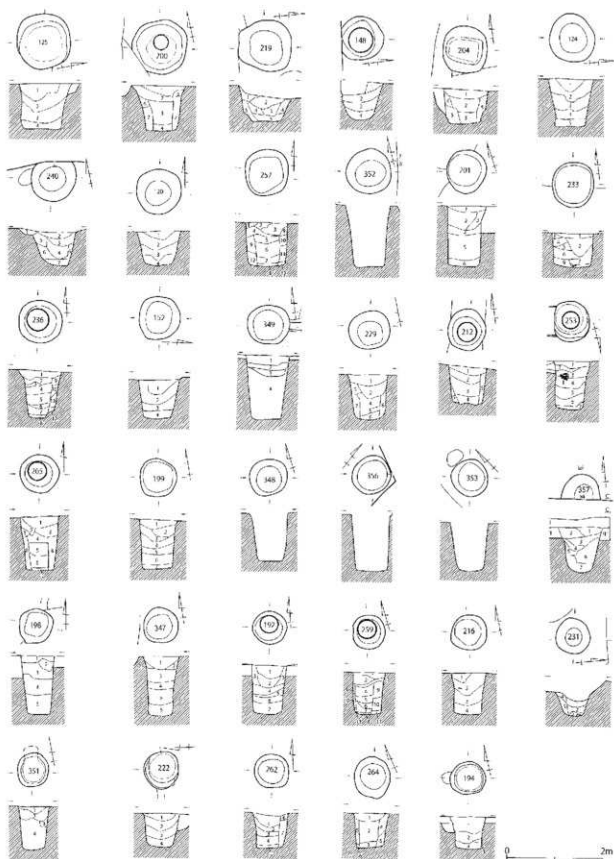
<B1類> 確認面からの深さが70cm以上あるもので、第270図の35基が該当し、B類全体の65%を占めている。最も深いものは第349号土坑の137cmを測るが、全体的には90cm～100cm以上のものが多い。平面の最大径は70cm代～110cm代までであるが、平面規模と掘削深度の相関関係は認められないようである。

<B2類> 確認面からの深さが45cm～70cmまでのものである。第123・153・170・171・181・187・209・211・215・223・224・238・268号土坑の13基があり(第271図)、B類の24%を占めている。深さは50cm代～60cm代のものが多く、平面の最大径は65cm～97cmまでであるが、B1類と同様に平面規模と掘削深度の相関関係は認められないようである。



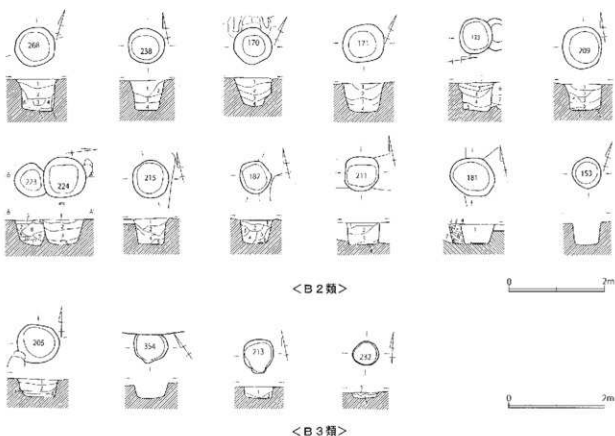
第269図 円形土坑墓A類集成図





< B 1 類 >

第270图 円形土坑墓B類集成図(1)



第271図 円形土坑墓B類集成図(2)

**<B 3類>** 確認面からの深さが25cm～40cmまでの比較的浅いもので、第205・213・232・354号土坑の4基が該当する(第271図)。平面の最大径は55cm～90cmまであり、最大径55cmの第232号土坑がB類で最小である以外は、B 1類やB 2類のものと大差はない。

このB類の中で、B 1類の中でも深さが100cm以下の若干浅いものやB 2類は、A 1類の埋葬施設を埋納する部分に当たる下段の形態と類似しており、中にはA 1類の上段部分が削平されて下段部分だけが残存しているものもあるのではないかとと思われる。

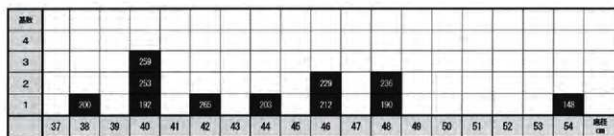
本墓地跡の円形土坑墓では、時期がある程度分かるものとして、A類は16基中10基(52.5%)、B類は54基中49基(90.7%)で銭貨の副葬が見られる。それらの銭種構成を見ると、A類では古寛永までのものが1基、寛永文銭までのものが7基、新寛永までのものが2基で、本墓地跡の円形土坑墓群の形成過程の中では、相対的に古い段階を主体とする形態であることが窺えるのではないかとと思われる。これに対して、B類では古寛永までのものが3基、寛永文銭までのものが19基、新寛永までのものが17基で、A類よりもやや新しい段階を主体とする形態の可能性が窺え、特に掘削深度の深いB 1類では、銭貨を出土した27基中半分以上の14基が新寛永を含むものであり、より新しい段階を主体とする形態である可能性が高いのではないかとと思われる。このことから、本墓地跡の円形土坑墓では、A類とB類の中でも掘削深度の深いA 1類やA 2類からB 1類への時期的な変化が推測されよう。この円形土坑墓の形態変化は、掘削深度の深いものに顕著に認められることからすると、その変化の要因には、長柄鍬をより長くしたような穴掘り道具の改良か新たな普及があったのではないかとと思われる。それによって、墓坑を深く掘るための掘削土量の減少や掘削時間の短縮により、穴

掘りに要する労働力の軽減化が図られたのであろう。

他に比べて極端に浅いB3類以外のA類及びB1類～B2類の円形土坑墓は、墓坑の底面が広く平坦で筒状に比較的深く掘削された形状であることから、ほとんどが埋葬施設の棺を伴う土坑墓であった可能性が高いと考えられる。その埋葬施設に用いられた棺は、桶形か樽形の円形木棺であったようで、第181・268・347号土坑の3基で円形木棺の底板片が出土し(第VI章参照)、第148・190・192・200・212・229・236・253・259・265号土坑の10基の土坑底面に円形木棺の底部圧痕が残っており、第229・231・257・262・264号土坑などで円形木棺を埋設していたような土層の堆積状態が確認されている。

近世における主に江戸府内の一般庶民層の土坑墓に埋葬されている円形木棺は、その棺の作りや大きさの違いによって被葬者の年齢層が異なることが明らかにされている(鈴木1988、鈴木・能城2004、中山2014)。この中で中山なな氏は、埋葬施設の規模と被葬者の死亡年齢との関係を再検討され、その結果、「方形木棺と円形木棺は、40cm未満、40cm以上45cm未満、45cm以上のグループに分類され、それぞれ、乳幼児が多数を占める小型、年齢層の偏りがほとんどみられない中間型、青年以上が多数を占める大型に対応する」ことを示し、さらに「埋葬施設の規模と被葬者の死亡年齢の対応関係の時期変化は認められない」ことを指摘されている。そして、「人骨を伴わない埋葬施設であっても、その法量から小型・大型に分類できるものについては、被葬者のおよその死亡年齢を推定することが可能」と言われている(中山2014)。

本墓地跡では、法量が分かるような円形木棺自体は残存していないが、前述のように10基の円形土坑墓と1基の楕円形土坑墓(第203号土坑)の土坑底面から、埋葬施設である円形木棺の底部圧痕が検出されている。土の面についての底部の圧着痕であるため、土圧等により実際の底部の大きさよりも縮んでいくらか小さくなっている可能性が高いと思われるが、その底部圧痕の直径を見ると最小38cm～最大54cmまであり、ばらつきがあるものの40cm代のものが大半を占めている(第272図)。これを中山氏の分類と対比すると、概ね中間型から大型に該当するようで、江戸と地方の地域差を考慮しなくてもよければ、底部圧痕が残っていた土坑墓は、概ね青年層以上を主体とする被葬者を想定することができると思われる。乳幼児の埋葬施設は、大人等のものに比べて法量が小型であり、それを埋設する墓坑の深さも浅いと思われることから、A3類やB2類～B3類の円形土坑墓がその候補として挙げられる。また、乳幼児の遺体や埋葬施設も大人のものに比べてかなり軽量で、墓坑の埋土量も比較的少ないと考えられることから、その埋葬施設の底部圧痕も付きにくかったのかもしれない。



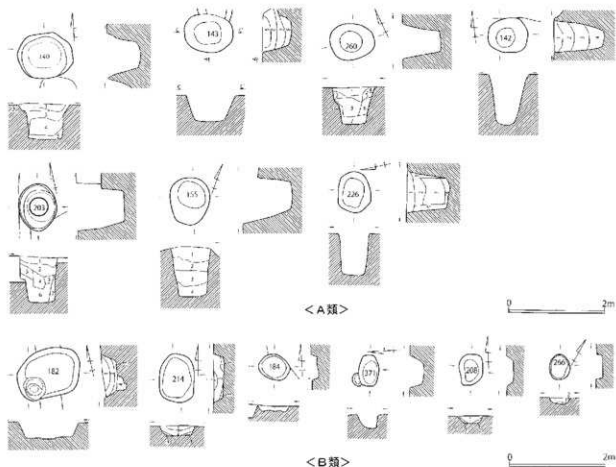
第272図 円形木棺底部圧痕規模別基数比較図(■内の白数字は土坑番号)

円形土坑墓としたものの中で、第123号土坑(図版31)と第204号土坑(図版43)で頭蓋骨と思われる骨が出土している。いずれも状態が悪いため頭位方向は良く分からないが、土坑内での位置や周辺の骨との関係から推測すると、第123号土坑は西頭位、第204号土坑は北頭位であった可能性が高いと思われる。しかしながら、埋葬施設が円形木棺であった場合、埋葬姿勢は座位屈葬と考えられるため、入棺に際しては遺体が動かないように棺内にくるか詰め物をしたと思われるが、棺の腐朽や圧潰によって遺体の頭部が元の位置から動いている可能性も考えられる(注20)。

### 3. 楕円形土坑墓

楕円形土坑墓としたものは、先にも述べたように明確な規定によって区別したものではない。一応、第140・142・143・155・182・184・203・208・214・226・260・266・371号土坑の13基が該当し、数は少ないが墓地内のほぼ全域に分布している(第266図)。

これらの楕円形土坑墓は、土坑掘り方の長軸方向を概ね南北方向に向けるタイプⅠと、概ね東西方向に向けるタイプⅡに分かれ、後者のタイプⅡが半数以上を占めている。この長軸方向を異にするタイプⅠとタイプⅡは、墓地の南側に位置する4基(第140・142・143・155号土坑)については、両者とも副葬品の出土銭貨は寛永文銭まで含むものだけであるが、墓地の中央から北側にかけて位置する8基については、タイプⅠの4基(第203・208・214・266号土坑)の出土銭貨は寛永文銭までのものが3基、新寛永までのものが1基であるのに対して、タイプⅡの4基(第182・184・226・260



第273図 楕円形土坑墓集成図

号土坑)はいずれも新寛永まで含んでおり、タイプⅡの方が時期的に新しい傾向を示しているようにも見える。しかしながら、これはそれぞれの土坑墓の墓地内での選地場所の要因が大きく関係していると思われ、楕円形土坑墓の長軸方向の差異に見られる時期的な変化とは言いえないであろう。

楕円形土坑墓も、長方形土坑墓や円形土坑墓B類と同様に、その掘削深度の差異によって以下のA類とB類に分類できる(第273図)。

《A類》掘削深度が60cm以上あるもので、第140・142・143・155・203・226・260号土坑の7基が該当する。掘削深度は、第143号土坑の60cmから第82号土坑の105cmまでである。平面規模は、比較的揃っており、長軸が100cm前後のものが主体である。

《B類》掘削深度が35cm以下の比較的浅いもので、第182・184・206・208・214・371号土坑の6基が該当する。掘削深度は、第266号土坑の14cmから第182号土坑の35cmまでである。平面規模は、長軸が100cm以上の大形のB1類(第182・214号土坑)と、60cm前後の小形のB2類(第184・208・266・371号土坑)が見られる。

本墓地跡におけるこの楕円形土坑墓は、一般的に見られる楕円形土坑墓と言われるような平面形と相似的な広く平坦な底面をもつ形態のもの(B1類)が少なく、底面が比較的小さいものが多い。特に楕円形土坑墓A類としたものは、その断面の形態や土層堆積の状態が、円形土坑墓A類の下半部や円形土坑墓B1類と類似しており、楕円形土坑墓B類の小形のB2類は円形土坑墓B3類と様相が似ている。そのため、本墓地跡の楕円形土坑墓の多くは、規格性や規範性をもった時期的な傾向や集団的な差異を示すようなものではなく、長方形土坑墓や円形土坑墓と同時に存在した、それらの亜種的なものと推測される(注21)。

#### 4.まとめ

以上、本墓地跡内に分布する近世土坑墓の形態分類を行ったが、長方形土坑墓と円形土坑墓の形態差の要因については、やはり埋葬施設や埋葬姿勢の違いが大きいのではないと思われる。両者とも墓地の造営期間中に共存するものの、墓地内における配置状況と副葬品の中の特に出土銭貨の銭種構成を軸にして、セリエーション的に両者の数量的な様相をみると、銭貨に新寛永が副葬される頃には、概ね長方形土坑墓から円形土坑墓へ土坑墓の主体が移行する傾向を認めることができる。そして先に見たように、長方形土坑墓は長軸方向が若干異なるタイプⅠからタイプⅡへ、円形土坑墓は掘削深度の深い段掘りのA1類やA2類から単純な垂直掘りのB1類へ移行する様相が窺える。

この江戸時代前期～中期前半頃を主体とする本墓地跡に見られる長方形土坑墓から円形土坑墓への移行は、江戸時代前期における埋葬施設としての円形木棺である早桶の地方への急速な波及があったものと思われる。その円形木棺に使用された木材は、第Ⅵ章の分析結果によると、本墓地跡では圧倒的にスギ材が多いようである(注22)。これらのスギ材は、おそらく現在でも多くがスギ林となっている当地域近隣の山間部から供給された可能性が高いと思われ、当地方の近世林業における植林の発達との関係でも注目されよう。

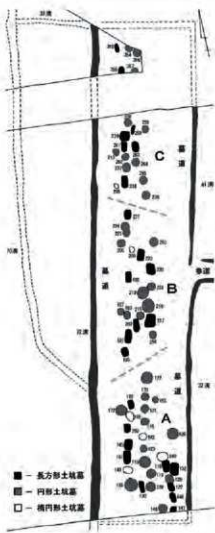
### 第3節 清福寺近世墓地跡の構造と変遷

清福寺近世墓地跡は、前述のように小規模な溝による区画を伴う江戸時代前半の17世紀～18世紀前半頃までの墓地である。この墓地跡は、後に西側の一部が第70号溝跡まで拡張されていること

から、その変遷を墓地拡張前のⅠ期と拡張後のⅡ期に大きく分けて考えることができる。

### 1. Ⅰ期の様相(第274図)

Ⅰ期は、出土銭貨に寛永文銭(1668年初鑄)までを含むもので、概ね17世紀を主体とする時期と考えられる。Ⅰ期の墓地は、東西方向が約10m、南北方向が推定50mの細長い短冊形に区画された墓域が形成されている。墓域を区画する溝は、幅が40cm～1m弱、深さが30cm～40cm程度で、断面の形態が底面がやや狭い逆台形を呈する比較的小規模な溝で、東側の区画は第32号溝跡と第41号溝跡、西側の区画は第72号溝跡で、いずれも直線的な流路を取り、両者はほぼ平行している。墓域の南側と北側の区画は、調査区内では確認されていないが、北側はⅡ期の拡張された墓域の北側を区画する第39号溝跡の東側延長のあたり、南側は隣接するG1地点(松本2013)やG3地点(松本2015)で、第32号溝跡や第72号溝跡の区画溝の延長や近世土坑墓の境の地割りを想定することができると思われる。先にも述べたように、この墓地の東側区画溝中央の第32号溝跡と第41号溝跡が途切れる部分には、墓地の区画溝と同様の第32号溝跡と第42号溝跡による側溝によって区画された幅1.5m程度の参道を作っており、その参道は調査区の東側に隣接する現在の清福寺の山門に向かって直線的に伸びている。



第274図 Ⅰ期の様相

Ⅰ期の土坑墓は、長方形土坑墓25基、円形土坑墓36基、楕円形土坑墓6基の計67基が概ね推定される。これらの土坑墓群は、墓地内の中央部付近に密集して南北に長く分布しているが、第72号溝跡の東側に沿った幅約2.5m、第32・41号溝跡の西側に沿った幅約3mの南北に帯状に広がる土坑墓が配置されていない空白地があり、おそらくそれは南北に通る墓道として利用されていた空間であろうと思われる。

土坑墓群の墓地内における密集状況を見ると、概ね墓地の南側のAグループ、中央部のBグループ、北側のCグループの3つにグループングできそうで、それぞれの境界部分には帯状の空白地が見られることから、東西に通る墓道を想定することができると思われる。このA～Cグループの集団原理については、血縁関係や地縁関係などいろいろ推測されるが、現状では明確なことはわからない。

いずれのグループも、長方形土坑墓と円形土坑墓が主体で混在するが、南北方向に列状に並んで複数配置される様相が見られる。それらの列状に並ぶ土坑墓群は、墓地構成の最小単位の集団として捉えることができ、おそらく家族(墓)に対応するものではないかと思われる。そのため、寺の墓地区画内では、A・B・Cに大きく区分された中でも、当初は家ごとに占有場所がある程度計画的に割り当てられていた可能性がある。その列状に並ぶ墓の配列の順番は、現状では明確にできないが、異なる墓坑形態の土坑墓が交じって同じ列を構成しているものが多いことや、土坑墓の間隔に

粗密があったり、列が直線をなさずにやや曲がったりする箇所が見られることからすると、おそらく列の端から順番に整然と掘られていったわけではなさそうである。

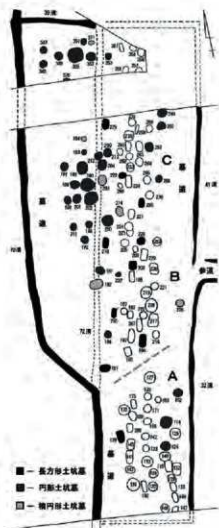
## 2. II期の様相(第275図)

II期は、出土銭貨に新寛永(1697年初鑄)までを含むもので、概ね17世紀末～18世紀前半頃を主体とする時期と考えられる。II期の墓地は、I期の墓地の区画を基本として、中央部から北側の西側が7m～8m拡張され、西側の区画として第70号溝跡が、北側の区画として第39号溝跡が掘削されている。第70号溝跡は、その後何度も掘り返されて、現在まで継続してその地割が維持されているため、掘削当初の形態は明確ではない。第39号溝跡は、上幅が50cm前後で、深さが25cm程度の比較的小規模な溝で、墓地の東側を区画する第32号溝跡や第41号溝跡と類似している。

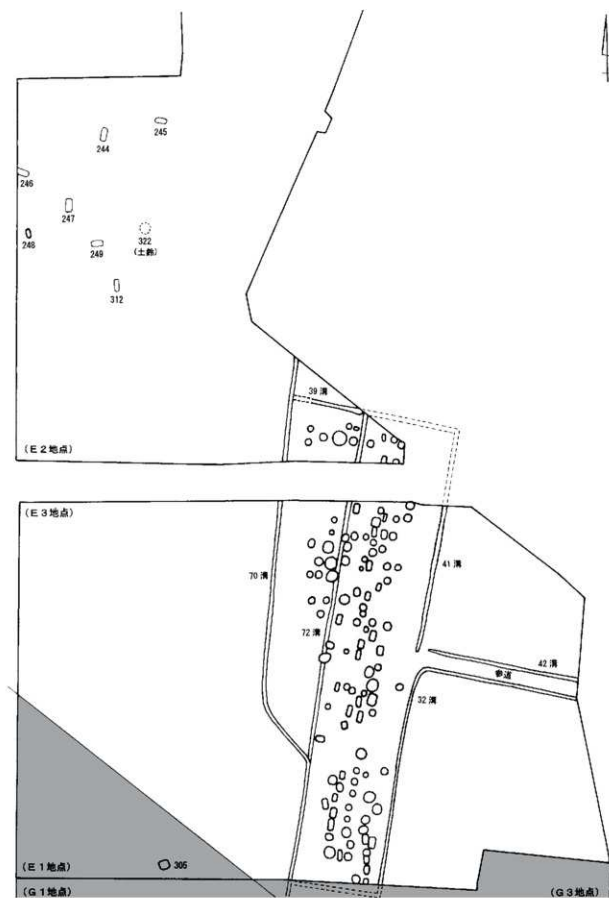
このII期の墓地の拡張部分は、I期でグルーピングしたA～Cのグループのうち、墓地中央部のBグループと北側のCグループの西側に該当している。そのため、このII期の墓地の拡張部分は、BグループとCグループの墓域の拡張として捉えられよう。南側のAグループについては、墓域の拡張は見られず、該期においてもI期の時と同じ墓域を継続して維持しているようである。

墓地内の墓道は、基本的にはI期とほぼ同じであるが、BグループとCグループの墓域西側の拡張に伴って、第72号溝跡の東側に沿って南北方向に通じていた墓道は、第70号溝跡の東側に沿う空白地に付け替えられたようである。東西方向に通じる墓道は、AグループとBグループの境界の空間に想定していた墓道は、II期になっても維持されているが、BグループとCグループの境界であった空間には土坑墓が造営され、BグループとCグループの境界が不鮮明になるとともに、明確な墓道の喪失が窺える。このことは、A・B・Cの3グループ間の親疎関係を表していると考えられ、BグループとCグループの親密な関係性を認めることができよう。

II期の土坑墓は、長方形土坑墓8基、円形土坑墓35基、楕円形土坑墓6基の計49基が概ね推定される。これらの土坑墓は、I期の土坑墓を破壊して造られているものが全く見られないことから、II期においてもI期の土坑墓の集石・配石・土盛り(土饅頭)・墓標などの上部構造が残存していることが推測され、I期の造墓活動との連続性が窺える。長方形土坑墓は、II期の拡張部分には見られず、I期の墓地内の土坑墓群の中に継続して造られているものや、I期の南北に通じる墓道であった第72号溝跡東側の空白地に新規に造られているものがある。円形土坑墓は、II期の土坑墓の主体となっている。I期の墓地内の土坑墓群の中の空いている部分に、I期の土坑墓との関係性によって、充填して造られているものもあるが、多くはBグループとCグループの西側拡張部分に新規に密集して造られている。この西側拡張部分に造られた円形土坑墓の分布の状況を見ると、I期に見



第275図 II期の様相



第276図 清福寺近世墓地跡と区画地外の関連土坑



られた南北方向に並ぶ列状配置とは異なり、東西方向に並ぶような列状配置に変化する様相が見られることは注目される。この土坑墓の配列方向の変化は、墓地拡張部分の円形土坑墓にのみ見られることからすると、墓坑の形態が長方形土坑墓から長軸方向のない円形土坑墓に変化したことが大きな要因の一つと考えられる。また、墓地北側のE2地点とE3地点の境に現在の小排水路の付設による未調査部分があるため、空白地の存在が明確ではないが、墓地の北側半分のCグループを主体とした土坑墓群は、東側のI期の南北方向に並ぶ列状配置と西側拡張部分のII期の東西方向に並ぶ列状配置の累積によって、一般庶民階層の近世墓地に比較的多く見られる「コの字型」の配置をとっていた可能性もあろう。

### 3. 近世墓地跡周辺の土坑

清福寺近世墓地跡西側の墓地地区画外からも、土坑墓の可能性があるとと思われる土坑がいくつか検出されている。具体的には、E1地点の南東端に位置する第305号土坑(恋河内・野2010)と、E2地点の西端に位置する第248号土坑で、いずれも出土銭貨の銭種が寛永通宝を含まない渡来銭だけで構成されていることが注目される。

E1地点の第305号土坑は、永楽通宝(15世紀初頭頃初鑄)を含む渡来銭が3枚出土しており、時期は中世後期の15世紀以降で、墓坑であれば近世前半頃まで時期が下る可能性もある。人骨や銭貨以外の副葬品と考えられるような遺物が見られないため、明確には墓坑と断言できない。また、調査区内では、単独的な分布の様相が窺えることから、中世後期の屋敷跡と関係する遺構である可能性もあり、清福寺近世墓地跡との関係性は現状ではよく分からない。

E2地点の第248号土坑は、先に述べたように、人の歯とともに11枚の宋銭を主体とする渡来銭と近世前半の完形のかわけが2個体出土していることから、清福寺近世墓地跡と同時期の墓坑と考えられる。形態は、先に分類した清福寺近世墓地跡の長方形土坑墓B類と類似し、その長軸方向はタイプ1の方向と一致している。この第248号土坑の周辺には、類似した形態の土坑が6基(第244・245・246・247・249・312号土坑)存在している(第276図)。これらの土坑は、遺構に伴うと考えられる遺物が出土していないため、明確な時期や性格は不明であるが、いずれも他の遺構との重複関係や覆土の状態から、第248号土坑と同じ近世前半頃(浅間山系A軽石降下以前)の可能性が高いと思われる。土坑の長軸方向も、長方形の墓坑によく見られる南北方向と東西方向に向く二者があり、その配置もまとまりが認められることから、おそらく第248号土坑と関連する土坑(墓)群を形成していたのではないかとと思われる。ちなみに、これらの土坑(墓)群のすぐ側に位置する第322号土坑では、近世の土鈴(第199図)が1点出土しており、この土坑(墓)群の形成と関係して、この場所の簡単な地鎮等の祭祀に用いられたものかもしれない。

これらの土坑(墓)群は、墓地の区画外に造られていることから、おそらく寺の檀家に属さない人達の墓と考えられる。その配置を見ると、墓地内で想定したような家族墓的な密集性の高い配列が見られず散在的であることから、土坑相互の関係性はかなり希薄であったのではないかとと思われる。そして、土坑の形態がいずれも長方形土坑墓のB類に類似していることから、埋葬施設の棺を使わずに遺体をそのまま埋葬した可能性が高いと思われ、また第248号土坑以外は銭貨等の副葬品が全く見られないことから、比較的質素で簡単に埋葬されたような感じが窺える。そのため、これらの土坑(墓)群の被葬者は、下位の身分や階層の者あるいは行倒れのような地元との関係があまりない者と推測され、おそらくその大半は、埋葬者とは縁の薄い者が無縁の者であったのではないかとと思われる。

このような、墓域によって墓坑の配列状態や埋葬施設及び副葬品の様相が異なり、それによって被葬者の身分や階層の違いが窺える例は、江戸府内の寺院に關係する墓地の調査で指摘されている。それによると、檀家と推測される墓域は、墓道に沿って比較的整然と並ぶような配置をとっているのに対して、檀家ではない都市下層民と思われる墓域は、狭い範囲に墓が過度に密集して激しく重複した様相の違いが見られると言われている(谷川2010、大八木2013)。この江戸府内の寺院における都市下層民と推測される墓域と、本遺跡の清福寺墓域跡の区画地外に位置する下層民と推測される墓域との墓地景観の違いは、地方からの単身流入者などによる人口増加が激しく、新たな墓地等の土地の確保が困難な大都市の中小寺院と、人口もそれほど多くなく、墓地の拡張ができるほど土地にある程度余裕がある地方の農村部の寺院との地域的な土地事情の差と言えよう。

#### <注>

- (注1) 土坑墓としたものは、骨や歯が出土した土坑、副葬品と考えられる遺物や植材の一部と考えられる木片が出土した土坑、それらの土坑と形状が類似した土坑である。
- (注2) 清福寺の創建時期は不明であるが、江戸時代後期頃に編纂された『新編武蔵風土記稿』の北堀村の項に、「清福寺 新義真言宗、小茂田村勝輪寺の末、犬伏山日輪院と号す。本尊大日」と記されており、江戸時代には存在していたことが分かる。ただ、境内の平成16年3月に建てられた本堂新築記念碑には、「昔は現在の本庄市中央公民館のところに位置していたようですが、明治以前に火災により現在地に移転したと口伝により伝えられている」とあり、江戸時代以前は現在の場所ではなく、本庄市文化会館東側の今は取り壊されてしまった旧本庄市中央公民館跡地あたりに所在していた可能性もある。
- (注3) 清福寺の歴代住職の墓石や境内の一角に集められている無縁仏の墓石の中で、江戸時代の元号で判読できるものでは、寛文(1661～)、延宝(1673年～)、元禄(1688年～)、宝永(1704年～)、享保(1716年～)、元文(1736年～)、寛保(1741年～)、寛延(1748年～)、宝暦(1751年～)、天明(1764年～)、安永(1772年～)、天明(1781年～)、寛政(1789年～)、文化(1804年～)、文政(1818～)、天保(1831年～)、嘉永(1848～)など、17世紀後半～19世紀前半のものが確認できる。
- (注4) 調査担当者の松本完氏の御教示による。
- (注5) 波来銭については、厳密には洪武通宝の「加治木銭」(中世末～近世初頭頃)や元祐通宝の「叶手元祐」(近世初頭頃)及び長崎の中島銭座で輸出用の元豊通宝等を鋳造した「長崎貿易銭」(万治3年:1660年～貞享2年:1685年)などのいわゆる国産模倣銭(斎藤・高橋・西川1998、2000)は区別しなければならぬであろうが、ここではその十分な鑑定力がなくことから、江戸時代の統一銭貨であり、出土銭貨の大半を占める寛永通宝との数量的な比較という意味で、17世紀頃まで生産された国産模倣銭も含めて波来銭として載せている。
- (注6) E3地点の南西側に隣接する久下東遺跡E1地点の第305号土坑も、出土銭貨が永楽通宝・元豊通宝・天聖元宝の3枚の波来銭によって構成されている(志河内・野野2010)。他に伴伴遺物がないことから、報告では中世の墓域と考えたが、周辺の遺構の様相を踏まえて再検討する必要があるかもしれない(第274図)。
- (注7) 谷川章雄氏は、18世紀中葉以降も波来銭がごくわずかながら流通していることや、近世の土坑墓で波来銭を意図的に集めたような出土銭貨の例をすでに指摘し、六道銭の銭貨(銭種)に選択性がある可能性を示唆している(谷川2010)。
- (注8) 鈴木公雄氏は「六道銭の副葬方法そのものには一貫性が認められる。すなわち、被葬者の胸元ないし組み合わせた両手のあいだに、布や紙で包んだ六道銭を持たせる方法は共通して認められる。その結果、六道銭の多くは銭貨どうしがびったりと鑄で密着した状態で発見される場合が多い(鈴木1994)と言われている。
- (注9) これらの土坑墓から出土した燻管に続く形態のものとしては、第57号清跡No6(第220図)の断面が極端に短く、首部と火皿の接合部が太い形態の燻管がある。
- (注10) 火打石と火打金の打撃によって火花を出す「切り火」という行為によって、魔除けや邪気を祓うことを期待したのであれば、火口や付木は不用であったかもしれない。
- (注11) 日常雑器には、この他に木製漆器の副葬も多かったと考えられるため、本来の副葬率はもっと高いと思われる。
- (注12) 磁器は、第240号土坑からも本製前系の色絵碗の破片(第197図)が出土しているが、混入の可能性が高く明確な副葬品と言えないため、ここでは除外している。
- (注13) 陶器は、第219号土坑と第371号土坑からも瀬戸美濃系の鉄輪(広口)壺の小破片(第192・201図)が出土しているが、これも混入の可能性が高く副葬されたものとは考えられないため、副葬品の個体数から除外している。
- (注14) 横崎修一郎氏によると、銅・鉢打葬にはお盆死亡説と病氣死亡説があり、民俗事例ではお盆死亡説は関東地方や西日本に多く、病氣死亡説は東北地方を中心とした東日本に多く認められ、隣接する群馬県ではお盆死亡説が有力とされている(横崎2009)。本庄市の山間部に位置する旧見玉町の太駄上一の一部では、「かつて盆を運ぶ直前に他界した人の入棺の際に頭に素焼きの皿などを被せたり「すり鉢」を逆さまにした形の絵を半紙に書いて額に貼り付けた」と言う伝承があり、その理由として「先祖様がお盆に呼ばれて帰るといいうの、あの世に行く奴があるかとお盆に帰ってくる先祖様たちに頭をたかれたので、かわいそうだからせめて皿などを頭にかぶらせてやるのだ」と言われている

(岡本1995)。遺体の頭に被せる道具に変化や形骸化が認められるが、当地域と隣接する群馬県地方との葬送における民俗的な共通性が窺える事例である。

- (注15) かわらけも、土坑出土遺物として図化したもののうち、小破片で誤入の可能性が高いと考えられるものは個体数から除外している。
- (注16) 当地方におけるこの時期のかわらけの傾向については、深谷市(旧岡部町)東光寺裏遺跡の17世紀後半から18世紀の近世土坑墓群から出土したかわらけを検討された住谷昭洋氏によってすでに指摘されている(住谷1980)。
- (注17) このような一文銭の銭貨と土器のかわらけを副葬品の主体としている墓地は、本墓地跡とはほぼ同時期の深谷市(旧岡部町)後積沢の東光寺裏遺跡(住谷1980)でも見られ、当地域における近世前半の庶民階層の一般的な副葬品のあり方と言えるかもしれない。なお、この東光寺裏遺跡の近世墓地は、典型的には「家墓」と考えられている(野澤2006)。
- (注18) 清福寺近世墓地跡の区画内から検出された116基の土坑墓のうち、副葬品が全く出土しなかったものは、南から第130・131・140・172・211・183・258・259・370号土坑の9基である。
- (注19) 墓坑の平面形態が埋葬施設である棺の形状を反映していない近世土坑墓の例は18世紀以降のものが多いが、方形土坑に円形木棺を埋設している例(新井2002、恋河内2003、小林正2015)や、円形土坑に方形木棺が埋設されていたと推測される例(谷川・井上1994)などがある。本遺跡では、隅丸方形の第239号土坑(第177図)や隅丸長方形の第263号土坑(第178図)の土層堆積を見ると、いずれも中心部に円形土坑墓と同様の筒状のものが埋設されていたような堆積部分があり、埋葬施設が長方形や方形の木棺ではなく、円形木棺であったことが窺える。
- (注20) 円形木棺においても、地域によってはその埋葬に北頭位が明確に意識されていた例がある。民俗事例では、遺体の入棺に際して、その頭の位置を外側に印を付けるか札を貼って明示し、その印を北側にして棺を墓坑に埋葬していた例や、塚調査による事例では、19世紀の土坑墓であるが、検出された棺の早稲のほとんどが上部を北側に向けて埋設されていた(押切・多田・西田2003)という例などが見られる。
- (注21) 鈴木徳雄氏は、中世後期から近世初期における当地域の特に丘陵部に位置する土坑墓の形態の変遷について、「概ね長楕円→長方形→円形→隅丸方形と言う墓坑形態の推移の傾向を捉え得る可能性を認めることができる(鈴木2005)」と言われている。本墓地跡の楕円形土坑墓としたものの中で、B類の大型のB1類については、底面も比較的広く平坦で、埋葬姿勢も仰臥屈葬の可能性が考えられるものであり、鈴木氏の言う中世後期の長楕円形墓坑との系譜関係を検討すべきかもしれない。
- (注22) 町の南側に土武山地の山間部が控える旧児玉町では、昭和25年～26年頃までは桶屋が12～13軒あり、それらの桶屋では大正時代までは棺桶も作っていたという。その後、棺桶は棺桶に換わったが、使用木材はいつでも杉材であったと言われている。杉材は、製材しやすく値段も安価なため、棺を使う風呂桶、松を使う井戸の水汲み桶などに対して、農具として使う桶・樽類や棺桶などに多く利用されていたようである(岡本1995)。この棺桶に使用する杉材の選択の利が、当地域においても江戸時代前期まで遡ることは注目されよう。

## <参考文献>

- 安芸 穂子(2005)「江戸遺跡出土のキセル」東京大学本郷構内の遺跡 医学部付属病院外来診療棟地点 東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書5
- 新井 仁(2002)「西田遺跡・村中遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第293集
- 荒川 正夫(1998)「久保山Ⅵ」早稲田大学本校地文化財調査報告書6
- 石神 裕之(2009)「六道銭研究の現状と課題」『六道銭の考古学』高志書院
- 石塚和則他(1986)「将塚集 一編時代一」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第63集
- 伊藤 順一(2007)「六道銭からみた上州近世墓の様相」『上毛野の考古学』群馬考古学ネットワーク
- 井上 尚明(1997)「道路跡について」『今井川越田遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書191集
- 岩瀬 謙(1991)「桶詰・砂田前」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書102集
- 内田 隆志(2014)「鏡と信仰 一和鏡の成立と展開一」印刷都市文化財センター第18回遺跡発表会講演資料
- 太田 博之(2002)「東五十子・川原町」東五十子遺跡調査会
- 大八木謙司(2013)「都市下層民と投げ込み寺」辞典 江戸の暮らしの考古学 吉川弘文館
- 岡本 一雄(1995)「桶屋」『児玉町史 民俗編』児玉町  
(1995)「人の一生」『児玉町史 民俗編』児玉町
- 押切 智紀・多田 和弘・西田明彦(2003)「茨田遺跡検出の墓域について」『研究紀要』創刊号(財)山形県埋蔵文化財センター
- 川根 正教(1996)「寛永通宝銭の径・重量における特徴」『考古学研究』第43巻第2号(通巻170号)考古学研究会
- 川根 正教・石川 功・榎本 真吾(2006)「寛永通宝銭の形態的特徴と金属成分分析」『日本考古学』第20号 日本考古学協会
- 恋河内昭彦(1995)「南共和・新宮遺跡」児玉町遺跡調査会報告書第5・6集  
(1995)「飯玉東Ⅱ・高職田・桶越・梅沢Ⅱ・東牧西分・鶴崎・毛無し前・石積」児玉町文化財調査報告書第17集  
(1996)「辻堂Ⅱ・南街道・宮田遺跡」児玉町文化財調査報告書第20集  
(1997)「城の内・日延・東田・浅見北遺跡」児玉町文化財調査報告書第23集  
(2003)「金屋西遺跡 -A・B地点の調査-」児玉町遺跡調査会報告書第13集  
(2005)「後張遺跡Ⅲ -C地点の調査-」児玉町遺跡調査会報告書第20集  
(2009)「真鏡寺後遺跡Ⅳ -G地点(新鏡寺館跡の調査)-」本市市遺跡調査会報告書第24集

- (2012)「久下前遺跡Ⅳ・久下東遺跡Ⅴ」 本市埋蔵文化財調査報告書第28集
- 恋河内昭彦・松本 完(2008)『七色塚遺跡Ⅱ・北堀新田前遺跡』 本市埋蔵文化財調査報告書第7集
- 恋河内昭彦・野 善行(2010)「北堀久下塚北遺跡Ⅱ(B地点)・久下東遺跡Ⅳ(C・D・E地点)・久下前遺跡Ⅱ(A・B・1地点)」  
本市埋蔵文化財調査報告書第19集
- (2014)「七色塚遺跡Ⅲ(B地点)・北堀久下塚北遺跡Ⅲ(C・D地点)・久下東遺跡Ⅴ(A・B・2・B・3・F・2  
地点)・有勝寺北東遺跡Ⅳ(C地点)」 本市埋蔵文化財調査報告書第37集
- 古泉 弘(1992)「日本の初期埋葬に関する覚え書き」『考古学論叢』大阪・郵政考古学会
- 小久保 徹(1978)「東谷・前山2号墳・古川端」 埼玉県遺跡発掘調査報告書第16集
- 小林 克(2015)「火打石研究の展望」『考古学研究』第62巻第3号(通巻247号) 考古学研究会
- 小林 正(2015)「東上之宮遺跡」 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第597集
- 小林 義平(2009)「葬墓制と銭貨」『六道銭の考古学』高志書院  
(2009)「六道銭の展開と変質」『六道銭の考古学』高志書院
- 斎藤 努・高橋 照彦・西川 裕一(1998)「中世～近世初期の模範銭に関する理化学的研究」『金融研究』日本銀行金融研究所  
(2000)「近世銭貨に関する理化学的研究」Discussion Paper No2000-J-1 日本銀行金融研究所
- 埼玉県立さきたま資料館(1985)「北武蔵の農具」
- 坂口 一・飯島 義雄・大西 雅夫(2014)「高崎市羅漢町出土木棺の構造と葬送」『研究紀要』32 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 佐々木雄雄(2010)「北堀新田遺跡」 本市埋蔵文化財調査報告書第22集
- 鈴木 公雄(1994)「念仏銭・題目銭と六道銭」『史学』第63巻第3号  
(1999)「出土銭貨の研究」東京大学出版会  
(2002)「銭の考古学」歴史文化ライブラリー140 吉川弘文館
- 鈴木 伸哉(2014)「台東区下谷同朋町遺跡から出土した数珠の材質と構成からみた17世紀の江戸における副葬品の様相」  
『古代』第136号 早稲田大学考古学会
- 鈴木 伸哉・能城 修一(2004)「東京都中央区八丁堀三丁目遺跡より出土した江戸時代の木棺の形態と樹種」『植生史研究』第12巻第2号  
(2000)「東京都新宿区岩淵寺・正見寺跡から出土した江戸時代の木棺の形態と樹種」『植生史研究』第14巻第2号
- 鈴木 徳雄(1991)「辻ノ内・中下田・塚島・児玉桑里遺跡」 児玉町文化財調査報告書第15集  
(1997)「将監塚東・平塚・塚塚遺跡」 児玉町文化財調査報告書第26集  
(2005)「児玉丘陵における地域社会の形成」『高柳原遺跡—B・C地点の調査—』 児玉町文化財調査報告書第39集
- 鈴木 正賢(1988)「増上寺院群出土の早稲について」『村上徹君追悼論文集』村上徹君追悼論文編集委員会
- 住谷 昭洋(1980)「葛城出土遺物—古銭、かわらけ—について」『伊勢塚・東光寺裏』 埼玉県遺跡発掘調査報告書第26集
- 関 義樹(2002)「埼玉県内出土の火打金」『埼玉考古』第37号 埼玉考古学会
- 園 達人(2002)「死者を映した鏡—副葬品に基づく近世鏡の研究—」『人文社会論叢・人文科学篇』7号 弘前大学  
(2003)「鏡被り葬考」『人文社会論叢・人文科学篇』9号 弘前大学
- 田口 哲也(2006)「江戸周辺地域に見る墓制」『埼玉の考古学Ⅱ』 埼玉県考古学会
- 谷川 章雄(2010)「江戸の墓制・葬制の考古学的研究」 早稲田大学審査学位論文
- 谷川 章雄・井上 裕一(1994)「お伊勢山遺跡の調査 第5部 鎌倉時代から江戸時代」 早稲田大学所設地域埋蔵文化財調査報告書
- 利根川章彦(1999)「西富田・四方田桑里遺跡」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第224集
- 中山 なな(2014)「近世江戸における子どもの墓制」『古代』第136号 早稲田大学考古学会
- 橋崎修一郎(2009)「群馬県の鏡被り葬・鉢被り葬と出土人骨」『研究紀要』27 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 野澤 均(2006)「埼玉県の近世墓について」『埼玉の考古学Ⅱ』 埼玉県考古学会
- 橋本 博文・佐々木雄雄他(1980)「有勝寺北東遺跡」 有勝寺北東遺跡調査会
- 長谷川勇他(1994)「将監塚遺跡B地点発掘調査報告書」 本市遺跡調査会報告書第4集
- 堀内 秀規(1997)「東京大学本郷構内の遺跡における年代的考察」『東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要』1
- 増田 一祐(1985)「本庄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ—久下東遺跡・道橋編—」 本市埋蔵文化財調査報告書第7集  
(1987)「東富田遺跡群発掘調査報告書」 本市埋蔵文化財調査報告書第10集  
(1989)「四方田・後張遺跡群発掘調査報告書」 本市埋蔵文化財調査報告書第14集
- 松本 完(2013)「久下前遺跡Ⅴ(F1地点)・久下東遺跡Ⅵ(G1地点)」 本市埋蔵文化財調査報告書第32集  
(2015)「北堀新田前遺跡Ⅱ(A・2・A3地点)・北堀新田遺跡Ⅳ(A・2・B地点)・久下東遺跡Ⅵ(G3地点)」 本市埋蔵文化財調査報告書第44集
- 松本 完・町田奈緒子・大田博之(2004)「東本庄」 本市埋蔵文化財調査報告書第29集
- 松本 完・大橋季広他(2009)「浅見山1遺跡(Ⅲ次)・久下東遺跡(Ⅲ次)A1・B1地点・北堀久下塚北遺跡」 本市埋蔵文化財調査報告書第13集
- 松本 完・町田奈緒子(2002)「久下前遺跡3地点発掘調査報告書」 本市埋蔵文化財調査報告書第25集
- 松本 完・野 善行(2010)「久下前遺跡Ⅲ(C1地点)・北堀新田遺跡Ⅱ(A1地点)・有勝寺北東遺跡Ⅲ(A1・B1地点)」  
本市埋蔵文化財調査報告書第23集
- 宮井栄一他(1989)「古井戸—一鏡文時代—」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第75集
- 宮田 忠洋・高橋 清文(2011)「新宮遺跡Ⅱ—C地点の調査—」 本市遺跡調査会報告書第42集

# 写真図版



本庄市マスコット

はにぽん



図版 1



久下東遺跡 C・D・E 地点 (北から)



久下東遺跡 C・D・E 地点 (西から)



久下東遺跡C地点全景（北から）

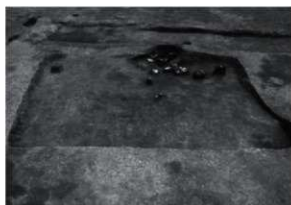


久下東遺跡C1・C2地点





第112(SI2)号住居跡



第112(SI2)号住居跡遺物出土状態



第112(SI2)号住居跡カマド



第113(SI10)号住居跡



第114(SI9)号住居跡



第114(SI9)号住居跡カマド



第114(SI9)号住居跡遺物出土状態(1)



第114(SI9)号住居跡遺物出土状態(2)



第115(SI12)号住居跡



第115(SI12)号住居跡カマド



第116(SI13)号住居跡



第116(SI13)号住居跡カマド



第117(SI11)号住居跡



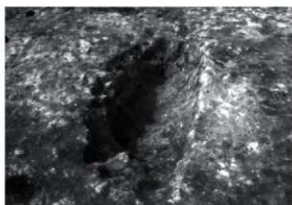
第117(SI11)号住居跡カマド



第117(SI11)号住居跡遺物出土状態



第117(SI11)号住居跡掘り方



第88(SK10)号土坑



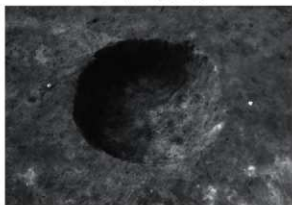
第89(SK 9)号土坑



第91(SK21)号土坑



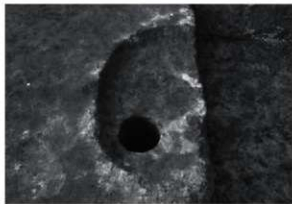
第92(SK 8)号土坑



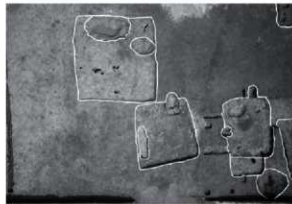
第93(SK12)号土坑



第94(SK13)号土坑



第96(SK15)号土坑



第113(SI10)~116(SI13)号住居跡



久下東道跡D地点全景（北から）



久下東道跡D 1・D 2・D 3地点全景（真上から）



第126(SI4)号住居跡



第126(SI4)号住居跡カマド



第126(SI4)号住居跡遺物出土状態



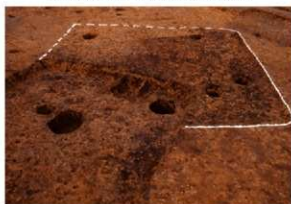
第126(SI4)号住居跡カマド遺物出土状態



第126(SI4)号住居跡和鏡出土状態



第126(SI4)・127(SI5)号住居跡



第127(SI5)号住居跡



第127(SI5)号住居跡遺物出土状態





第128(SI 6)号住居跡



第128(SI 6)号住居跡カマド



第129(SI 3)号住居跡



第129(SI 3)号住居跡遺物出土状態



第129(SI 3)号住居跡カマド



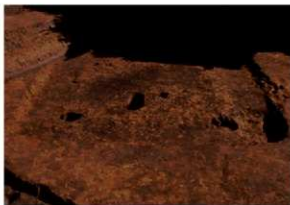
第129(SI 3)号住居跡貯蔵穴



第130(SI 1)号住居跡



第130(SI 1)号住居跡カマド



第131(SI2)号住居跡



第131(SI2)号住居跡遺物出土状態



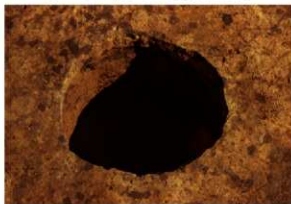
第132(SI7)号住居跡



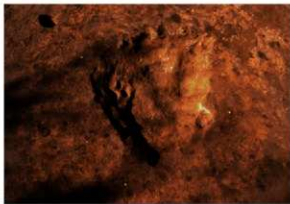
第132(SI7)号住居跡遺物出土状態



第1号掘立柱建物跡



第13(1)号井戸跡



第105(6)号土坑



第106(15)号土坑



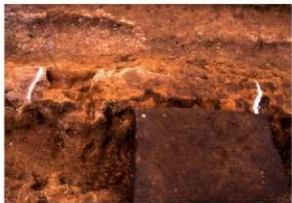
第107(3)号土坑



第108(14)号土坑



第109(2)号土坑



第110(5)号土坑



第111(1)号土坑



第27(1)~30(5)号沟迹



第27(1)~29(3)号沟迹



第31(7)号沟迹





久下東遺跡E2・E3地点全景（真上から）



久下東遺跡E2・E3地点全景（北西から）



久下東遺跡 E 2 地点全景（真上から）



久下東遺跡 E 2 地点全景（東から）



久下東遺跡 E3 地点全景（真上から）



久下東遺跡 E3 地点全景（北から）



久下東遺跡 E 4 地点全景 (南から)



久下東遺跡 E 4 地点全景 (北から)



第133(SI1)号住居跡



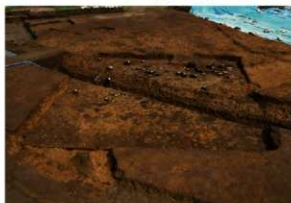
第133(SI1)号住居跡カマド



第134(SI2)号住居跡



第134(SI2)号住居跡カマド



第134(SI2)号住居跡遺物出土状態 (1)



第134(SI2)号住居跡遺物出土状態 (2)



第134(SI2)号住居跡遺物出土状態 (3)



第134(SI2)号住居跡遺物出土状態 (4)





第135(SI 3)号住居跡



第135(SI 3)号住居跡カマド



第135(SI 3)号住居跡遺物出土状態



第135(SI 3)号住居跡カマド遺物出土状態



第136(SI 4)号住居跡



第136(SI 4)号住居跡カマド



第140(SI 8)号住居跡



第140(SI 8)号住居跡カマド



第140(SI8)号住居跡遺物出土状態(1)



第140(SI8)号住居跡遺物出土状態(2)



第141(SI9)号住居跡



第142(SI10)号住居跡



第143(SI11)号住居跡



第143(SI11)号住居跡カマダ



第144(SI12)号住居跡



第145(SI13)号住居跡



第146(SI14)号住居跡



第146(SI14)号住居跡カマド



第147(SI15)号住居跡



第147(SI15)号住居跡カマド



第148(SI16)号住居跡



第148(SI16)号住居跡カマド・貯蔵穴



第149(SI17)号住居跡



第150(SI18)号住居跡





第150(SI18)号住居跡遺物出土状態



第150(SI18)号住居跡カマド



第151(SI19)号住居跡



第151(SI19)号住居跡カマド



第152(SI20)号住居跡



第152(SI20)号住居跡カマド



第153(SI21)号住居跡



第153(SI21)号住居跡遺物出土状態



第154(SI22)号住居跡遺物出土状態



第154(SI22)号住居跡炉



第155(SI23)号住居跡



第155(SI23)号住居跡カマド



第156(SI24)号住居跡



第156(SI24)号住居跡カマド



第157(SI25)号住居跡



第157(SI25)号住居跡遺物出土状態



第158(SI26)号住居跡



第158(SI26)号住居跡カマド



第158(SI26)号住居跡遺物出土状態 (1)



第158(SI26)号住居跡遺物出土状態 (2)



第159(SI27)号住居跡



第159(SI27)号住居跡遺物出土状態



第160(SI28)号住居跡



第160(SI28)号住居跡遺物出土状態



第161(SI29)号住居跡



第161(SI29)号住居跡カマド



第162(SI30)号住居跡



第162(SI30)号住居跡カマド



第163(SI31)号住居跡



第163(SI31)号住居跡遺物出土状態



第164(SI32)号住居跡



第164(SI32)号住居跡貯蔵穴





第165(SI33)号住居跡



第165(SI33)号住居跡カマド



第166(SI34)号住居跡



第166(SI34)号住居跡カマド



第167(SI35)号住居跡



第167(SI35)号住居跡カマド



第168(SI36)号住居跡



第168(SI36)号住居跡カマド



第169(SI37)号住居跡



第169(SI37)号住居跡カメラド



第169(SI37)号住居跡遺物出土状態(1)



第169(SI37)号住居跡遺物出土状態(2)



第170(SI38)号住居跡



第170(SI38)号住居跡遺物出土状態



第171(SI39)号住居跡



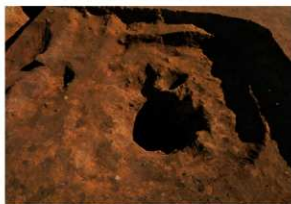
第171(SI39)号住居跡遺物出土状態



第172(SI40)号住居跡



第172(SI40)号住居跡カマド



第172(SI40)号住居跡貯蔵穴



第172(SI40)号住居跡遺物出土状態



第172(SI40)号住居跡カマド遺物出土状態



第172(SI40)号住居跡貯蔵穴遺物出土状態



第173(SI41)号住居跡



第174(SI42)号住居跡



第175(SI43)号住居跡



第175(SI43)号住居跡遺物出土状態



第175(SI43)号住居跡カマド



第175(SI43)号住居跡カマド遺物出土状態



第176(SI44)号住居跡



第176(SI44)号住居跡カマド



第177(SI45)号住居跡



第177(SI45)号住居跡カマド





第178(SI46)号住居跡



第178(SI46)号住居跡カマド



第179(SI47)号住居跡



第179(SI47)号住居跡カマド



第179(SI47)号住居跡貯蔵穴



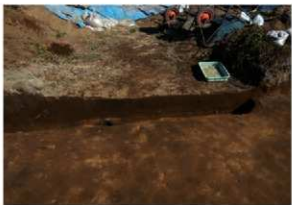
第180(SI48)号住居跡



第181(SI49)号住居跡



第181(SI49)号住居跡貯蔵穴



第182(S150)号住居跡



第1号竖穴状遺構



第4号掘立柱建物跡



第5号掘立柱建物跡



第6号掘立柱建物跡



第7号掘立柱建物跡



第8号掘立柱建物跡



第9号掘立柱建物跡



E3地点近世土坑墓群（西から）



E3地点近世土坑墓群（南から）



E 3 第113号土坑



E 3 第114号土坑



E 3 第115号土坑



E 3 第116号土坑



E 3 第117号土坑



E 3 第119号土坑



E 3 第120号土坑



E 3 第121号土坑



E 3 第122号土坑



E 3 第122号土坑骨出土状态



E 3 第123号土坑



E 3 第123号土坑骨出土状态



E 3 第124号土坑



E 3 第125号土坑



E 3 第126号土坑



E 3 第127号土坑





E 3 第128号土坑



E 3 第129号土坑



E 3 第130号土坑



E 3 第131号土坑



E 3 第132号土坑



E 3 第132号土坑  
遗物出土状态



E 3 第133号土坑



E 3 第134·135号土坑



E 3 第136号土坑



E 3 第137号土坑



E 3 第138号土坑



E 3 第139号土坑



E 3 第139号土坑遗物出土状态



E 3 第140号土坑



E 3 第141号土坑



E 3 第141号土坑遗物出土状态



E 3第142号土坑



E 3第143号土坑



E 3第143号土坑遗物出土状态



E 3第144号土坑



E 3第145号土坑



E 3第145号土坑遗物出土状态



E 3第146号土坑



E 3第147号土坑





E 3第148号土坑



E 3第148号土坑遺物出土状態



E 3第149号土坑



E 3第150号土坑



E 3第151号土坑



E 3第151号土坑遺物出土状態



E 3第152号土坑



E 3第152号土坑錢貨・木片出土状態



E 3第153号土坑



E 3第154号土坑



E 3第155号土坑



E 3第156号土坑



E 3第157号土坑



E 3第158号土坑



E 3第159号土坑



E 3第160号土坑



E 3第161号土坑



E 3第162号土坑



E 3第163·164号土坑



E 3第165号土坑



E 3第166号土坑



E 3第167号土坑



E 3第168号土坑



E 3第169号土坑



E 3 第170号土坑



E 3 第171号土坑



E 3 第172号土坑



E 3 第173号土坑



E 3 第173号土坑遺物出土狀態



E 3 第173号土坑錢貨出土狀態



E 3 第174号土坑



E 3 第175号土坑



E 3 第176号土坑



E 3 第177・178号土坑



E 3 第177号土坑遺物出土状態



E 3 第178号土坑ナイフ型石器出土状態



E 3 第179号土坑



E 3 第180号土坑



E 3 第181号土坑



E 3 第181号土坑遺物出土状態





E 3 第182号土坑



E 3 第183号土坑



E 3 第184号土坑



E 3 第185号土坑



E 3 第185号土坑遗物出土状态 (1)



E 3 第185号土坑遗物出土状态 (2)



E 3 第186号土坑



E 3 第187号土坑



E 3 第188号土坑



E 3 第189号土坑



E 3 第190号土坑



E 3 第190号土坑桶底部压痕



E 3 第191号土坑



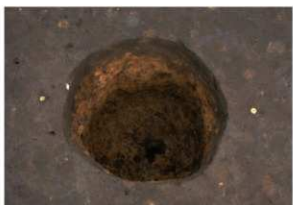
E 3 第192号土坑



E 3 第193号土坑



E 3 第193号土坑遗物出土状态



E 3 第194号土坑



E 3 第194号土坑銭貨出土状態



E 3 第195号土坑



E 3 第195号土坑遺物出土状態



E 3 第196号土坑



E 3 第197号土坑



E 3 第198号土坑



E 3 第199号土坑

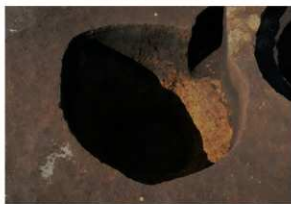




E 3 第200号土坑



E 3 第201号土坑



E 3 第202号土坑



E 3 第203号土坑



E 3 第203号土坑桶底部压痕



E 3 第204号土坑



E 3 第204号土坑遗物出土状态



E 3 第205号土坑



E 3 第206号土坑



E 3 第206号土坑遗物出土状态



E 3 第207号土坑



E 3 第207号土坑遗物出土状态



E 3 第208号土坑



E 3 第209号土坑



E 3 第210号土坑



E 3 第210号土坑遗物出土状态



E 3 第211号土坑



E 3 第212号土坑



E 3 第212号土坑桶底部压痕



E 3 第212号土坑土层断面



E 3 第213号土坑



E 3 第213号土坑遗物出土状态



E 3 第214号土坑



E 3 第215号土坑



E 3 第216号土坑



E 3 第216号土坑遺物出土狀態



E 3 第218号土坑



E 3 第218号土坑遺物出土狀態



E 3 第219号土坑



E 3 第219号土坑遺物出土狀態



E 3 第220号土坑



E 3 第220号土坑錢貨出土狀態



E 3 第221号土坑



E 3 第221号土坑遗物出土状态



E 3 第222号土坑



E 3 第223·224号土坑



E 3 第223号土坑遗物出土状态



E 3 第224号土坑遗物出土状态



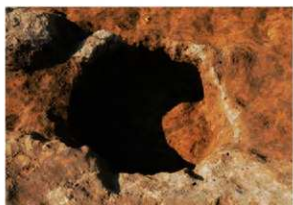
E 3 第225号土坑



E 3 第226号土坑



E 3 第227号土坑



E 3 第228号土坑



E 3 第229号土坑



E 3 第229号土坑桶底部压痕



E 3 第230号土坑



E 3 第230号土坑遗物出土状态



E 3 第231号土坑



E 3 第231号土坑遗物出土状态





E 3 第232号土坑



E 3 第232号土坑銭貨出土状態



E 3 第233号土坑



E 3 第234号土坑



E 3 第234号土坑かわらけ出土状態



E 3 第234号土坑銭貨出土状態



E 3 第235号土坑



E 3 第235号土坑遺物出土状態



E 3 第236号土坑



E 3 第236号土坑遺物出土狀態



E 3 第238号土坑



E 3 第238号土坑遺物出土狀態



E 3 第239号土坑



E 3 第239号土坑錢貨出土狀態



E 3 第240号土坑



E 3 第240号土坑遺物出土狀態





E 3 第241号土坑



E 3 第243(2)号土坑



E 3 第244(3)号土坑



E 3 第245(4)号土坑



E 3 第246(5)号土坑



E 3 第247(6)号土坑



E 3 第248(7)号土坑



E 3 第248(7)号土坑出土状态



E 3 第248(7)号土坑遗物出土状态



E 3 第249号土坑



E 3 第250号土坑



E 3 第251号土坑



E 3 第252号土层断面



E 3 第255号土坑



E 3 第257号土坑



E 3 第258号土坑



E 3 第259号土坑



E 3 第259号土坑桶底部压痕



E 3 第260号土坑



E 3 第260号土坑钱货出土状态



E 3 第261号土坑



E 3 第261号土坑遗物出土状态



E 3 第262号土坑



E 3 第262号土坑遗物出土状态



E 3 第263号土坑



E 3 第263号土坑遺物出土状態



E 3 第264号土坑



E 3 第264号土坑銭貨出土状態



E 3 第265号土坑



E 3 第265号土坑桶底部圧痕



E 3 第266号土坑



E 3 第267号土坑



E 3 第268号土坑



E 3 第268号土坑遗物出土状态



E 3 第269号土坑



E 3 第269号土坑遗物出土状态



E 2 第271(10)号土坑



E 2 第320(59)号土坑



E 2 第321(60)号土坑



E 2 第322(61)号土坑





E 2 第323(62)号土坑



E 2 第324(64)号土坑



E 2 第325(64)~327(66)号土坑



E 2 第328(67)·329(68)号土坑



E 2 第331(70)号土坑



E 3 第334号土坑



E 3 第335号土坑



E 3 第336号土坑



E 3 第337号土坑



E 3 第338号土坑



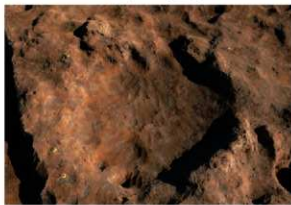
E 3 第339号土坑



E 3 第340号土坑



E 3 第341号土坑



E 3 第342号土坑



E 2 第343(82)号土坑



E 2 第344(83)号土坑



E 2 第345(84)号土坑



E 2 第346(85)号土坑



E 2 第347(86)号土坑



E 2 第348(87)号土坑



E 2 第348(87)号土坑钱貨出土状态



E 2 第349(88)号土坑



E 2 第350(89)号土坑



E 2 第351(90)号土坑





E 2 第352(91)号土坑



E 2 第352(91)号土坑遺物出土状態



E 2 第353(92)号土坑



E 2 第354(93)号土坑



E 2 第355(94)号土坑



E 2 第355(94)号土坑遺物出土状態



E 2 第356(95)号土坑



E 2 第357(96)号土坑



E 2 第357(96)号土坑遺物出土状態



E 2 第357(96)号土坑銭貨出土状態



E 2 第358(97)号土坑



E 2 第359(98)・365(104)号土坑



E 2 第360(99)号土坑



E 2 第361(100)号土坑



E 2 第362(101)・363(102)号土坑



E 2 第364(103)号土坑



E 2 第366(105)号土坑



E 2 第367(106)・368(107)号土坑



E 2 第369(108)号土坑



E 2 第370(109)号土坑



E 2 第371(110)号土坑



E 3 第112・372(111)号土坑



E 2 第47(5)～49(7)・74(4)号溝跡



E 2 第43(1)・44(2)・50(8)～52(10)号溝跡



E 2 第45(3)・50(8)・55(13)号溝跡



E 2 第58(16)～60(18)号溝跡



E 2 第65(23)号溝跡



E 2 第72(30)号溝跡



E 2 第39・72(30)号溝跡 (西から)



E 2 第39・63(21)・72(30)号溝跡 (北から)



E 3 第32・35・41・42号溝跡



E 3 第32号溝跡遺物出土状態



E 3第33・37・38号溝跡



E 3第35・37・38号溝跡



E 3第63(21)・70(38)号溝跡土層断面



E 3第65(23)・73(31)号溝跡



E 3第65(23)・68(26)・71(29)・73(31)号溝跡



E 3第67(25)・68(26)号溝跡



E 4第46・47・74・76・77号溝跡(東から)



E 4第46・47・74・76・77号溝跡(西から)





E 4 第49号溝跡 (東から)



E 4 第49号溝跡 (西から)



E 4 第75号溝跡



E 4 第75号溝跡遺物出土状態



E 2 地点調査風景



E 3 地点調査風景



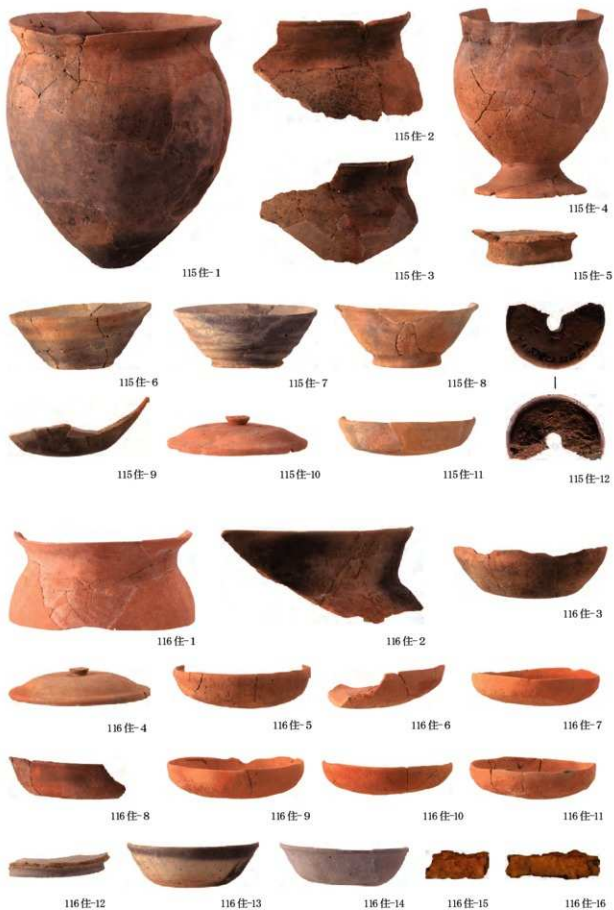
現地説明会風景 (1)



現地説明会風景 (2)

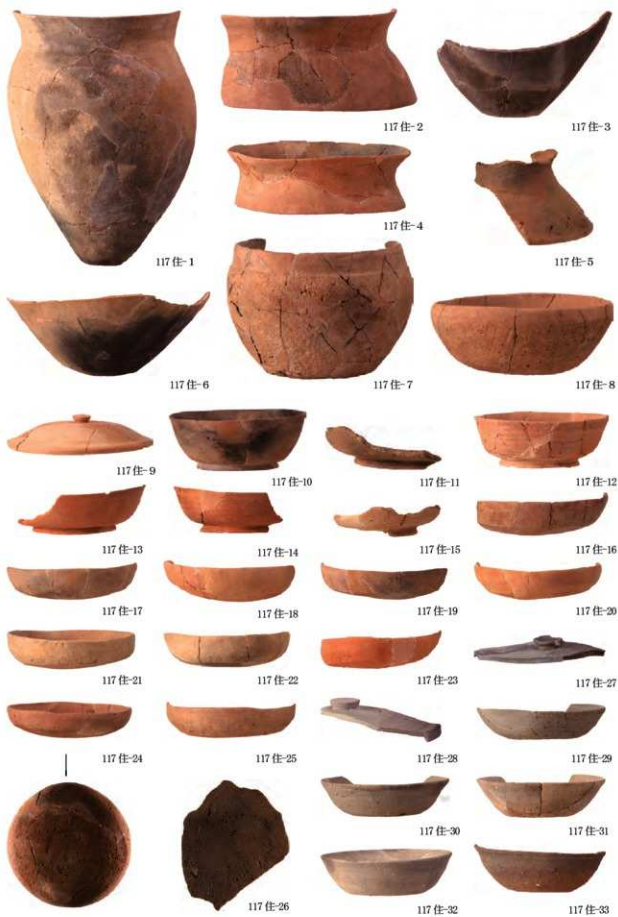


C2 地点住居跡出土遺物



C2 地点住居跡出土遺物





C2 地点住居跡出土遺物



117 住-34



SK92-1



SK92-2



126 住-2



126 住-3



126 住-1



126 住-6



126 住-4



126 住-5



126 住-7



126 住-8



126 住-9



126 住-11

C2地点住居跡・土坑、D2地点住居跡出土遺物



D2 地点住居跡出土遺物



127住-1

127住-3

127住-4



127住-2



127住-5



127住-6



127住-8

127住-9



127住-10



127住-11



127住-12



127住-13



127住-7



128住-1



128住-2



128住-3



129住-1



129住-2



129住-3

D2地点住居跡出土遺物



129 住-4



129 住-5



129 住-6



129 住-7



129 住-8



129 住-9



129 住-10



129 住-11



129 住-13

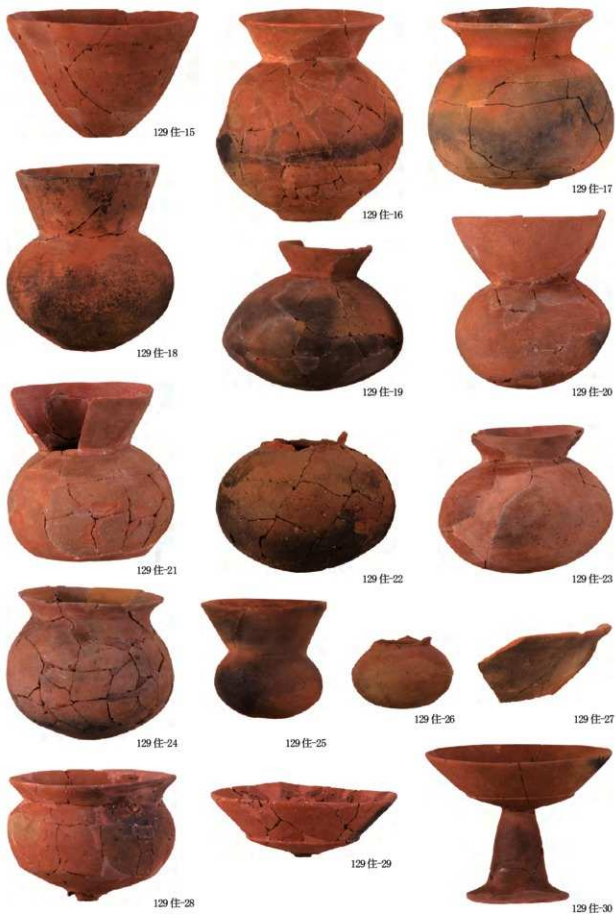


129 住-14



129 住-12

D 2 地点住居跡出土遺物



D 2 地点住居跡出土遺物



D 2 地点住居跡出土遺物





D2 地点住居跡出土遺物





D2地点井戸跡・土坑・溝跡、E2地点住居跡出土遺物



134住-4



134住-6



134住-7



134住-9



134住-10



134住-11



134住-13



134住-14



134住-15



134住-12



134住-16



134住-17



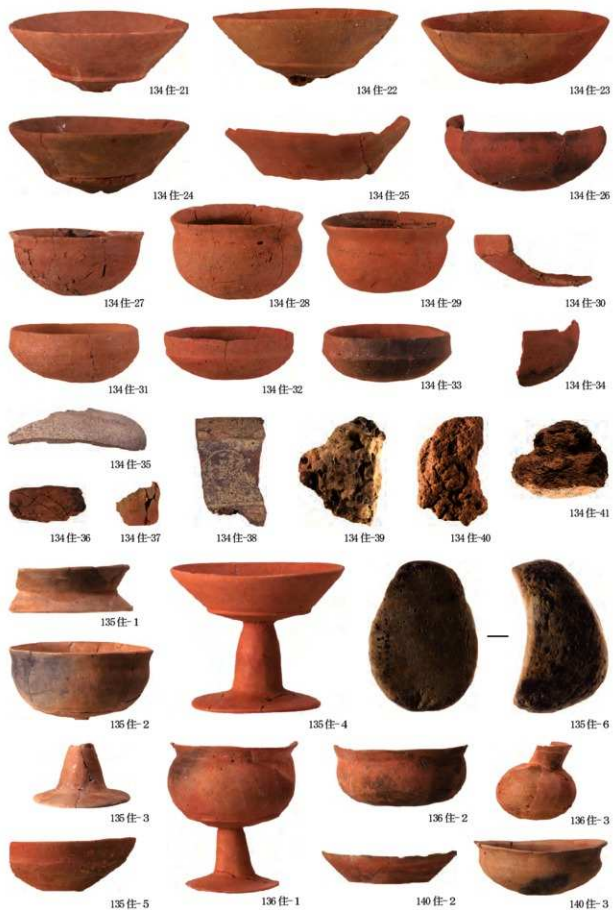
134住-18



134住-19



134住-20



E 2 地点住居跡出土遺物



E 2 地点住居跡出土遺物



E2・E3地点住居跡出土遺物



E3 地点住居跡出土遺物





E3 地点住居跡出土遺物

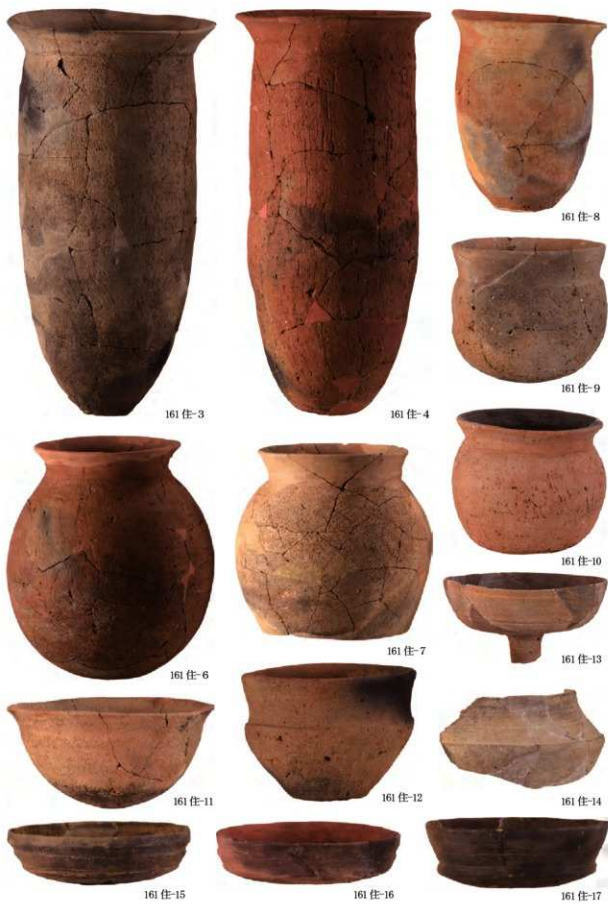


E3 地点住居跡出土遺物





E3地点住居跡出土遺物



E3 地点住居跡出土遺物



E3 地点住居跡出土遺物



E3 地点住居跡出土遺物



E3 地点住居跡出土遺物



E 3 地点住居跡出土遺物





E3 地点住居跡出土遺物



172住-1



172住-2



172住-7



172住-3



172住-4



172住-5



172住-6



172住-8



172住-9



172住-10



172住-11



172住-12



172住-13





E 3 地点住居跡出土遺物



175 住-5



175 住-6



175 住-7



175 住-8



175 住-10



175 住-11



175 住-12



175 住-13



175 住-15



175 住-14



175 住-16



175 住-17



175 住-18

E 3 地点住居跡出土遺物



E3 地点住居跡出土遺物



E3地点住居跡出土遺物



E3 地点住居跡出土遺物



E3 地点住居跡・掘立柱建物跡・土坑出土遺物





E3 地点土坑出土遺物

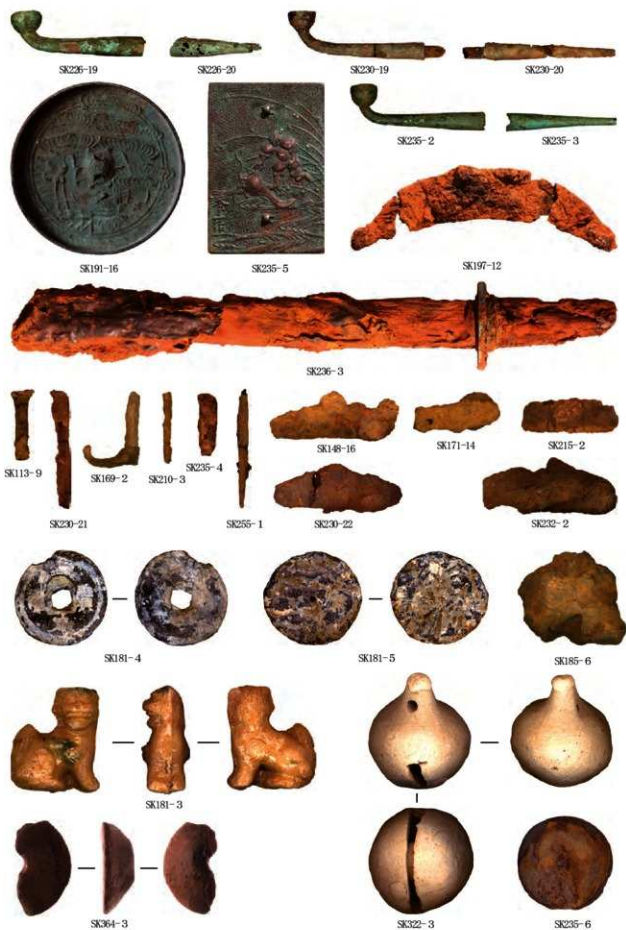


E 3 地点土坑出土遺物

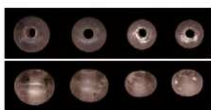




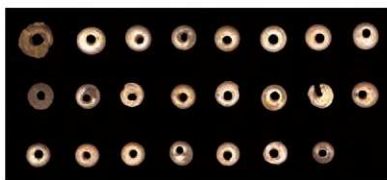
E2·E3 地点土坑出土遺物



E2·E3 地点土坑出土遺物



SK200 出土数珠玉



SK205 出土数珠玉



E2・E3地点土坑・溝跡出土遺物



E2·E3·E4 地点溝跡出土遺物



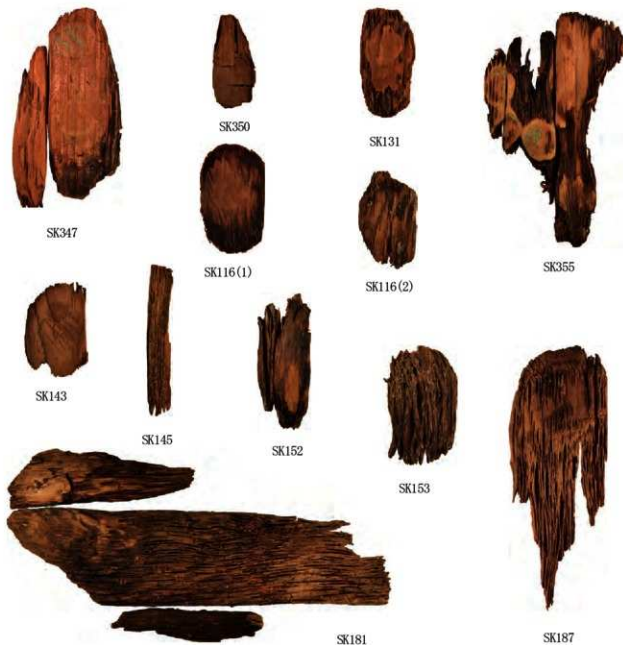
E2·E3溝跡出土遺物



E2·E3·E4 地点溝跡出土遺物



E2・E3地点溝跡・調査区内出土遺物



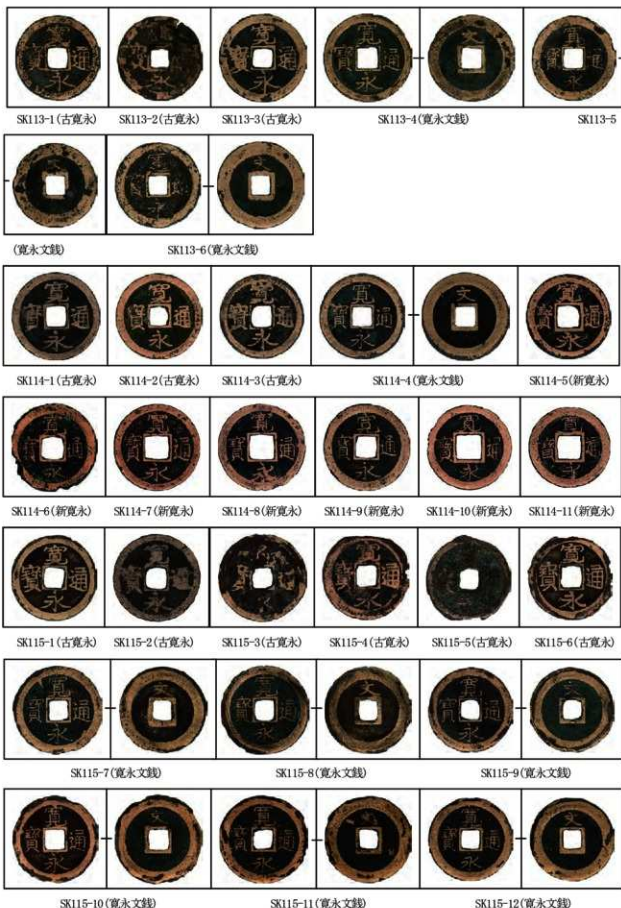
E2・E3地点近世土坑墓群出土木製品樹種同定試料(1)

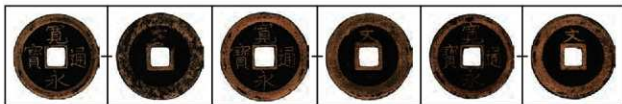
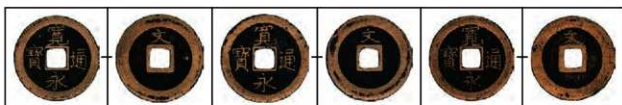
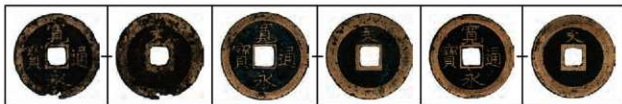




E2·E3 地点近世土坑墓群出土木製品樹種同定試料 (2)









SK122-17(寛永文銭)

SK122-18(寛永文銭)



SK124-1(元豊通寶)

SK124-2(古寛永)

SK124-3(寛永文銭)

SK124-4(寛永文銭)



SK124-5(寛永文銭)

SK124-6(寛永文銭)

SK124-7(新寛永)

SK124-8(新寛永)



SK124-9(新寛永)

SK124-10(新寛永)

SK124-11(新寛永)

SK124-12(新寛永)



SK125-1(古寛永)

SK125-2(古寛永)

SK125-3(古寛永)

SK125-4(古寛永)

SK125-5(古寛永)

SK125-6(古寛永)



SK125-7(古寛永)

SK125-8(古寛永)

SK125-9(古寛永)

SK125-10(寛永文銭)

SK125-11



(寛永文銭)

SK125-12(寛永文銭)



SK127-1(古寛永)

SK127-2(古寛永)

SK127-3(古寛永)

SK127-4(古寛永)

SK127-5(古寛永)

SK127-6(古寛永)



SK127-7(古寛永)

SK127-8(古寛永)

SK127-9(寛永文銭)

SK127-10(寛永文銭)



SK127-11(寛永文銭)



SK128-2(古寛永)

SK128-3(古寛永)

SK128-4(古寛永)

SK128-5(古寛永)

SK128-6(寛永文銭)



SK128-7(寛永文銭)

SK128-8(寛永文銭)

SK128-9(寛永文銭)



SK128-10(寛永文銭)

SK128-11(寛永文銭)

SK128-12(寛永文銭)



SK139-3(咸平元寶)

SK139-4(古寛永)

SK139-5(古寛永)

SK139-6(古寛永)

SK139-7(古寛永)

SK139-8



(寛永文銭)

SK139-9(寛永文銭)

SK139-10(寛永文銭)

SK139-11



(寛永文銭)

SK139-12(寛永文銭)

SK139-13(新寛永)

SK139-14(新寛永)

SK139-15(新寛永)

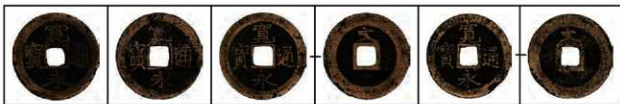


SK139-16(新寛永)

SK139-17(新寛永)

SK139-18(新寛永)

SK139-19(新寛永)

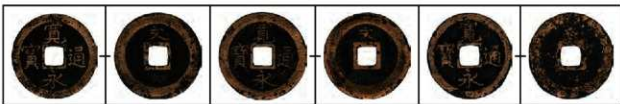


SK141-3(古寛永)

SK141-4(古寛永)

SK141-5(寛永文銭)

SK141-6(寛永文銭)



SK141-7(寛永文銭)

SK141-8(寛永文銭)

SK141-9(寛永文銭)



SK141-10(寛永文銭)



SK142-1(古寛永)

SK142-2(古寛永)

SK142-3(古寛永)

SK142-4(寛永文銭)

SK142-5





(寛永文銭)

SK142-6(寛永文銭)



SK143-2(古寛永)

SK143-3(古寛永)

SK143-4(古寛永)

SK143-5(古寛永)

SK143-6(古寛永)

SK143-7(古寛永)



SK143-8(古寛永)

SK143-9(古寛永)

SK143-10(古寛永)

SK143-11(古寛永)

SK143-12(古寛永)

SK143-13(古寛永)



SK143-14(寛永文銭)

SK143-15(寛永文銭)

SK143-16(寛永文銭)



SK143-17(寛永文銭)

SK143-18(寛永文銭)

SK143-19(寛永文銭)



SK143-20(寛永文銭)

SK143-21(寛永文銭)

SK143-22(寛永文銭)



SK143-23(寛永文銭)

SK143-24(寛永文銭)



SK145-4(古寛永)

SK145-5(古寛永)

SK145-6(古寛永)

SK145-7(古寛永)

SK145-8(古寛永)

SK145-9(古寛永)



SK145-10(古寛永)

SK145-11(古寛永)

SK145-12(古寛永)

SK145-13(古寛永)

SK145-14(古寛永)

SK145-15

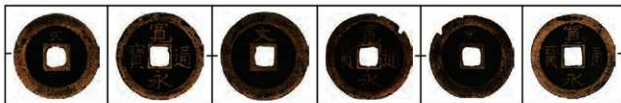


(寛永文銭)

SK145-16(寛永文銭)

SK145-17(寛永文銭)

SK145-18



(寛永文銭)

SK145-19(寛永文銭)

SK145-20(寛永文銭)

SK145-21



(寛永文銭)



SK146-4(古寛永)

SK146-5(古寛永)

SK146-6(古寛永)

SK146-7(古寛永)

SK146-8(古寛永)

SK146-9(古寛永)



SK146-10(古寛永)

SK146-11(古寛永)

SK146-12(寛永文銭)

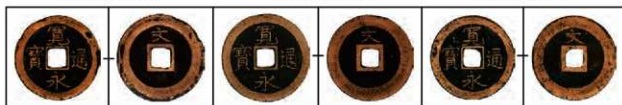
SK146-13(寛永文銭)



SK146-14(寛永文銭)

SK146-15(寛永文銭)

SK146-16(寛永文銭)



SK146-17(寛永文銭)

SK146-18(寛永文銭)

SK146-19(寛永文銭)



SK146-20(寛永文銭)

SK146-21(寛永文銭)

SK146-22(寛永文銭)



SK148-1(治平元寶)

SK148-2(古寛永)

SK148-3(古寛永)

SK148-4(古寛永)

SK148-5(古寛永)

SK148-6(古寛永)



SK148-7(古寛永)

SK148-8(寛永文銭)

SK148-9(寛永文銭)

SK148-10



(寛永文銭)

SK148-11(寛永文銭)

SK148-12(寛永文銭)

SK148-13



(寛永文銭)

SK148-14(寛永文銭)

SK148-15(寛永文銭)





SK151-4(古寛永)

SK151-5(古寛永)

SK151-6(古寛永)

SK151-7(古寛永)

SK151-8(寛永文銭)



SK151-9(新寛永)

SK151-10(新寛永)

SK151-11(新寛永)

SK151-12(新寛永)

SK151-13(新寛永)

SK151-14(新寛永)



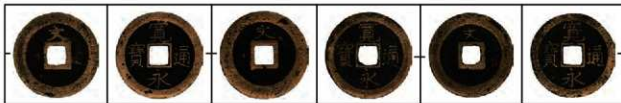
SK152-1(古寛永)

SK152-2(古寛永)

SK152-3(古寛永)

SK152-4(寛永文銭)

SK152-5



(寛永文銭)

SK152-6(寛永文銭)

K152-7(寛永文銭)

SK152-8



(寛永文銭)

SK152-9(寛永文銭)

SK152-10(新寛永)

SK152-11(新寛永)

SK152-12(新寛永)



SK152-13(新寛永)

SK152-14(新寛永)



SK153-1(古寛永)

SK153-2(古寛永)

SK153-3(古寛永)

SK153-4(古寛永)

SK153-5(古寛永)



SK155-1(古寛永)

SK155-2(古寛永)

SK155-3(古寛永)

SK155-4(寛永文銭)

SK155-5



(寛永文銭)

SK155-6(寛永文銭)

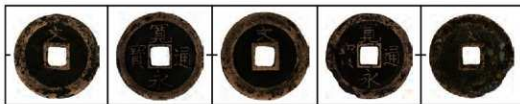


SK170-1(古寛永)

SK170-2(寛永文銭)

SK170-3(寛永文銭)

SK170-4



(寛永文銭)

SK170-5(寛永文銭)

SK170-6(寛永文銭)



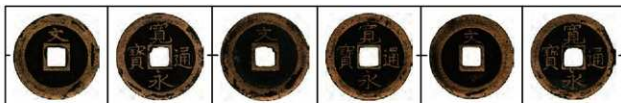
SK171-1(古寛永)

SK171-2(古寛永)

SK171-3(古寛永)

SK171-4(寛永文銭)

SK171-5



(寛永文銭)

SK171-6(寛永文銭)

SK171-7(寛永文銭)

SK171-8

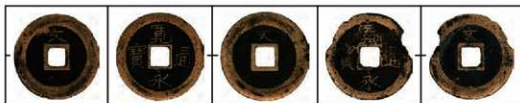


(寛永文銭)

SK171-9(寛永文銭)

SK171-10(寛永文銭)

SK171-11



(寛永文銭)

SK171-12(寛永文銭)

SK171-13(寛永文銭)



SK173-3(古寛永)

SK173-4(古寛永)

SK173-5(古寛永)

SK173-6(古寛永)

SK173-7(古寛永)



SK181-6(寛永文銭)

SK181-7(寛永文銭)

SK181-8(寛永文銭)



SK181-9(新寛永)

SK181-10(新寛永)

SK181-11(新寛永)

SK181-12(新寛永)

SK181-13(新寛永)

SK181-14(新寛永)



SK181-15(新寛永)

SK181-16(新寛永)

SK181-17(新寛永)



SK182-2(古寛永)

SK182-3(古寛永)

SK182-4(寛永文銭)

SK182-5(新寛永)

SK182-6(新寛永)



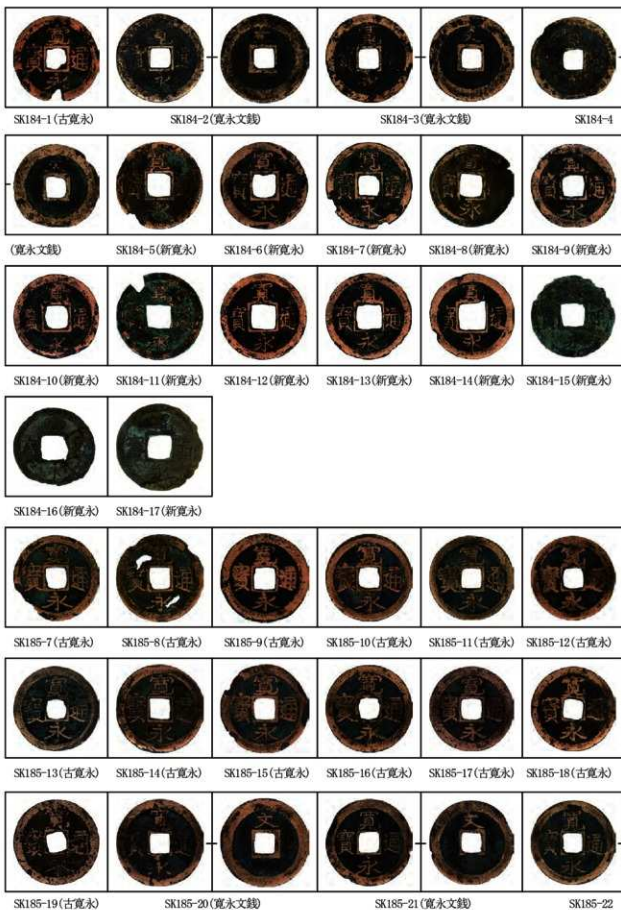
SK182-7(新寛永)

SK182-8(新寛永)

SK182-9(新寛永)

SK182-10(新寛永)

SK182-11(新寛永)





(寛永文銭)



SK187-3(古寛永)

SK187-4(寛永文銭)

SK187-5(寛永文銭)

SK187-6



(寛永文銭)

SK187-7(寛永文銭)

SK187-8(寛永文銭)



SK188-6(寛永文銭)

SK188-7(寛永文銭)

SK188-8(新寛永)

SK188-9(新寛永)



SK188-10(新寛永)

SK188-11(新寛永)

SK188-12(新寛永)

SK188-13(新寛永)

SK188-14(新寛永)



SK190-1(寛永文銭)



SK191-2(古寛永)

SK191-3(古寛永)

SK191-4(古寛永)

SK191-5(古寛永)

SK191-6(古寛永)

SK191-7(古寛永)





SK191-8(古寛永)

SK191-9(古寛永)

SK191-10(寛永文銭)

SK191-11(寛永文銭)



SK191-12(寛永文銭)

SK191-13(寛永文銭)

SK191-14(寛永文銭)



SK191-15(寛永文銭)



SK193-2(古寛永)

SK193-3(古寛永)

SK193-4(古寛永)

SK193-5(古寛永)

SK193-6(古寛永)

SK193-7(古寛永)



SK193-8(古寛永)

SK193-9(古寛永)

SK193-10(古寛永)

SK193-11(古寛永)

SK193-12(古寛永)

SK193-13(古寛永)



SK193-14(古寛永)

SK193-15(古寛永)

SK193-16(古寛永)

SK193-17(古寛永)

SK193-18(寛永文銭)



SK194-1(古寛永)

SK194-2(新寛永)

SK194-3(新寛永)

SK194-4(新寛永)

SK194-5(新寛永)

SK194-6(新寛永)



SK196-4(古寛永)

SK196-5(古寛永)

SK196-6(古寛永)

SK196-7(古寛永)

SK196-8(寛永文銭)



SK196-9(寛永文銭)

SK196-10(寛永文銭)

SK196-11(寛永文銭)



SK196-12(新寛永)

SK196-13(新寛永)



SK197-1(嘉祐通寶)

SK197-2(古寛永)

SK197-3(古寛永)

SK197-4(古寛永)

SK197-5(古寛永)

SK197-6(古寛永)



SK197-7(古寛永)

SK197-8(古寛永)

SK197-9(古寛永)

SK197-10(古寛永)

SK197-11(古寛永)



SK200-6(古寛永)

SK200-7(古寛永)

SK200-8(古寛永)

SK200-9(寛永文銭)

SK200-10



(寛永文銭)

SK200-11(寛永文銭)

SK200-12(寛永文銭)

SK200-13(新寛永)



SK200-14(新寛永) SK200-15(新寛永) SK200-16(新寛永) SK200-17(新寛永) SK200-18(新寛永) SK200-19(新寛永)



SK200-20(新寛永) SK200-21(新寛永) SK200-22(新寛永)



SK201-1(新寛永)



SK203-1(古寛永) SK203-2(古寛永) SK203-3(古寛永) SK203-4(寛永文銭) SK203-5



(寛永文銭) SK203-6(新寛永) SK203-7(新寛永) SK203-8(新寛永) SK203-9(新寛永) SK203-10(新寛永)



SK203-11(新寛永)



SK204-2(古寛永) SK204-3(古寛永) SK204-4(古寛永) SK204-5(古寛永) SK204-6(古寛永) SK204-7(古寛永)





SK204-8(古寛永)

SK204-9(寛永文銭)

SK204-10(寛永文銭)

SK204-11



(寛永文銭)

SK204-12(寛永文銭)

SK204-13(寛永文銭)

SK204-14



(寛永文銭)

SK204-15(新寛永)

SK204-16(新寛永)

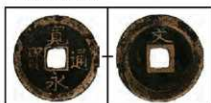
SK204-17(新寛永)

SK204-18(新寛永)

SK204-19(新寛永)



SK204-20(新寛永)



SK205-2(寛永文銭)



SK206-5(永樂通寶)

SK206-6(古寛永)

SK206-7(古寛永)

SK206-8(古寛永)

SK206-9(古寛永)

SK206-10(古寛永)

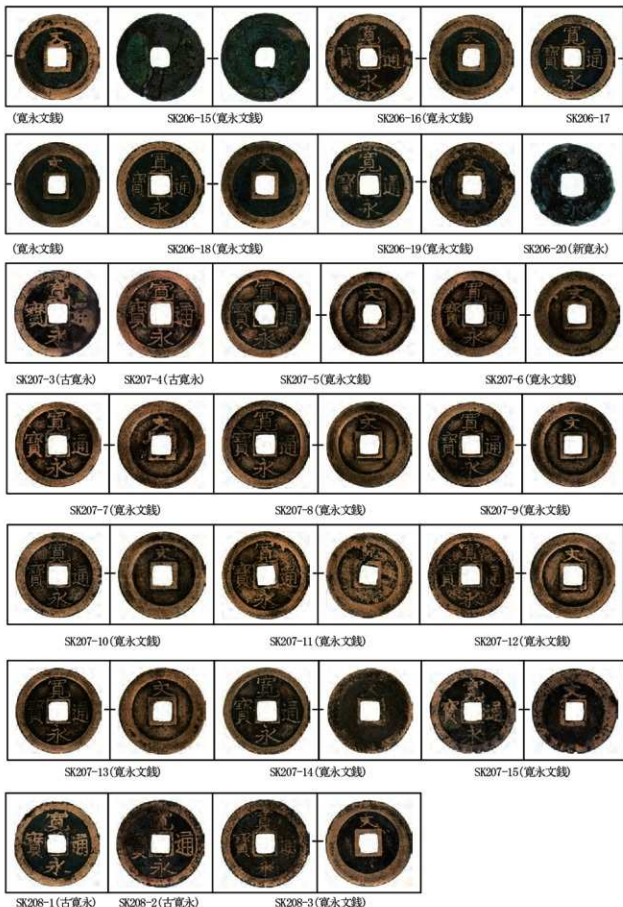


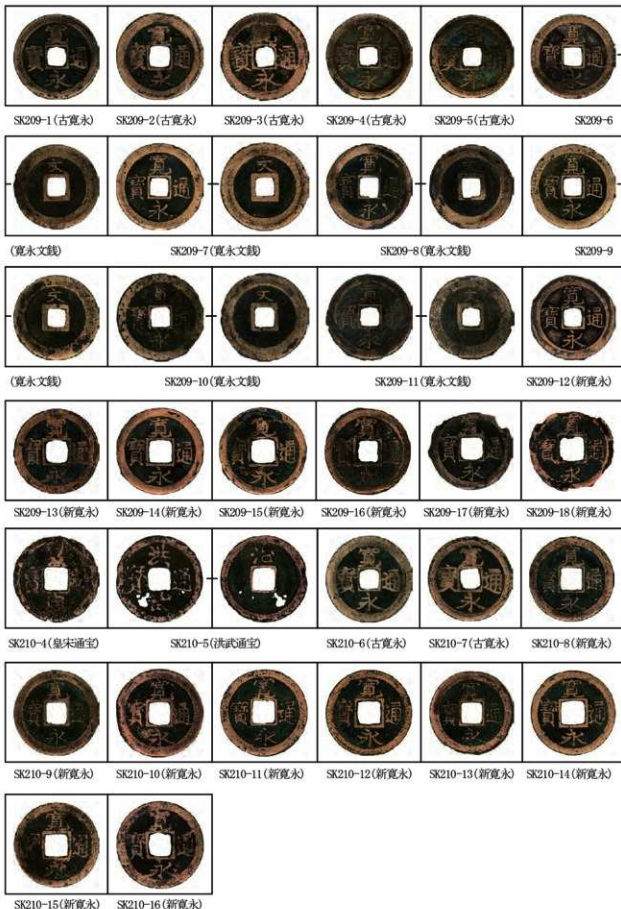
SK206-11(古寛永)

SK206-12(寛永文銭)

SK206-13(寛永文銭)

SK206-14







SK212-3(古寛永)

SK212-4(古寛永)

SK212-5(古寛永)

SK212-6(古寛永)

SK212-7(古寛永)

SK212-8(古寛永)

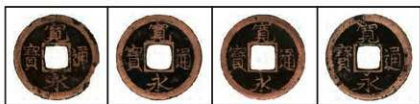


SK212-9(寛永文銭)

SK212-10(寛永文銭)

SK212-11(新寛永)

SK212-12(新寛永)



SK212-13(新寛永)

SK212-14(新寛永)

SK212-15(新寛永)

K212-16(新寛永)



SK213-4(古寛永)

SK213-5(古寛永)

SK213-6(古寛永)

SK213-7(寛永文銭)

SK213-8



(寛永文銭)

SK213-9(寛永文銭)

SK213-10(寛永文銭)



SK216-4(古寛永)

SK216-5(古寛永)

SK216-6(寛永文銭)

SK216-7(寛永文銭)



SK216-8(寛永文銭)

SK216-9(寛永)



SK217-1(元祐通寶)

SK217-2(口口元寶)

SK217-3(古寬永)

SK217-4(古寬永)

SK217-5(古寬永)

SK217-6(古寬永)



SK217-7(古寬永)

SK217-8(古寬永)

SK217-9(古寬永)

SK217-10(古寬永)

SK217-11(寬永文錢)



SK217-12(寬永文錢)

SK217-13(寬永文錢)

SK217-14(寬永文錢)



SK217-15(寬永文錢)

SK217-16(寬永文錢)



SK218-5(古寬永)

SK218-6(古寬永)



SK219-8(天祐通寶)

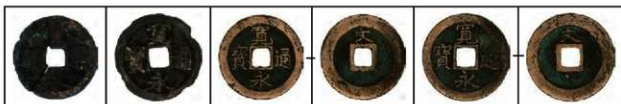
SK219-9(古寬永)

SK219-10(古寬永)

SK219-11(古寬永)

SK219-12(古寬永)

SK219-13(古寬永)



SK219-14(古寬永)

SK219-15(古寬永)

SK219-16(寬永文錢)

SK219-17(寬永文錢)







SK221-10(古寛永) SK221-11(古寛永) SK221-12(古寛永) SK221-13(古寛永) SK221-14(寛永文銭)



SK221-15(寛永文銭) SK221-16(寛永文銭) SK221-17(寛永文銭)



SK221-18(寛永文銭) SK221-19(寛永文銭) SK221-20(寛永文銭)



SK221-21(不明)



SK222-2(古寛永) SK222-3(古寛永) SK222-4(古寛永) SK222-5(古寛永) SK222-6(新寛永) SK222-7(新寛永)



SK222-8(新寛永) SK222-9(新寛永) SK222-10(新寛永)



SK223-5(古寛永) SK223-6(古寛永) SK223-7(古寛永) SK223-8(古寛永) SK223-9(古寛永) K223-10(古寛永)



SK223-11(寛永文銭)

SK223-12(寛永文銭)

SK223-13(寛永文銭)



SK223-14(寛永文銭)

SK223-15(寛永文銭)

SK223-16(寛永文銭)



SK224-4(古寛永)

SK224-5(古寛永)

SK224-6(古寛永)

SK224-7(古寛永)

SK224-8(寛永文銭)



SK225-1(古寛永)

SK225-2(古寛永)

SK225-3(新寛永)

SK225-4(新寛永)

SK225-5(新寛永)

SK225-6(新寛永)



SK226-1(永享通寶)

SK226-2(古寛永)

SK226-3(古寛永)

SK226-4(古寛永)

SK226-5(寛永文銭)



SK226-6(寛永文銭)

SK226-7(新寛永)

SK226-8(新寛永)

SK226-9(新寛永)

SK226-10(新寛永)



SK226-11(新寛永)

SK226-12(新寛永)

SK226-13(新寛永)

SK226-14(新寛永)

SK226-15(新寛永)

SK226-16(新寛永)





SK226-17(新寛永)

SK226-18(新寛永)



SK229-1(開元通寶)

SK229-2(古寛永)

SK229-3(古寛永)

SK229-4(古寛永)

SK229-5(古寛永)

SK229-6(古寛永)

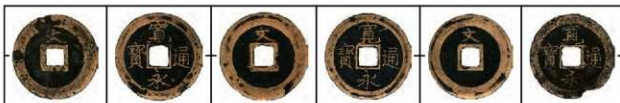


SK229-7(古寛永)

SK229-8(寛永文銭)

SK229-9(寛永文銭)

SK229-10



(寛永文銭)

SK229-11(寛永文銭)

SK229-12(寛永文銭)

SK229-13



(寛永文銭)

SK229-14(寛永文銭)

SK229-15(寛永文銭)

SK229-16



(寛永文銭)

SK229-17(新寛永)

SK229-18(新寛永)

SK229-19(新寛永)

SK229-20(新寛永)



SK230-1(永楽通寶)

SK230-2(古寛永)

SK230-3(古寛永)

SK230-4(古寛永)

SK230-5(古寛永)

SK230-6(古寛永)



SK230-7(古寬永)

SK230-8(古寬永)

SK230-9(寬永文銭)

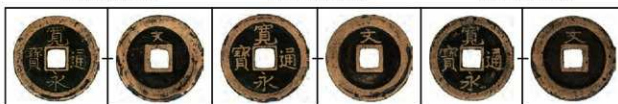
SK230-10(寬永文銭)



SK230-11(寬永文銭)

SK230-12(寬永文銭)

SK230-13(寬永文銭)



SK230-14(寬永文銭)

SK230-15(寬永文銭)

SK230-16(寬永文銭)



SK230-17(寬永文銭)

SK230-18(寬永文銭)



SK231-1(元祐通寶)

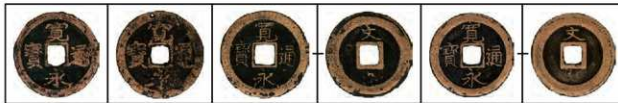
SK231-2(古寬永)

SK231-3(古寬永)

SK231-4(古寬永)

SK231-5(古寬永)

SK231-6(古寬永)



SK231-7(古寬永)

SK231-8(古寬永)

SK231-9(寬永文銭)

SK231-10(寬永文銭)



SK231-11(寬永文銭)



SK232-1(古寛永)

SK232-2(古寛永)

SK232-3(古寛永)

SK232-4(寛永文銭)

SK232-5



(寛永文銭)

SK232-6(新寛永)



SK233-6(古寛永)

SK233-7(古寛永)

SK233-8(古寛永)

SK233-9(古寛永)

SK233-10(古寛永)



SK233-11(古寛永)

SK233-12(古寛永)

SK233-13(古寛永)

SK233-14(古寛永)

SK233-15(古寛永)

SK233-16(古寛永)



SK233-17(古寛永)

SK233-18(古寛永)

SK233-19(古寛永)

SK233-20(寛永文銭)

SK233-21



(寛永文銭)

SK233-22(寛永文銭)

SK233-23(寛永文銭)

SK233-24



(寛永文銭)

SK233-25(寛永文銭)



SK234-3(古寬永) SK234-4(古寬永) SK234-5(古寬永) SK234-6(古寬永) SK234-7(古寬永) SK234-8(古寬永)



SK234-9(古寬永) SK234-10(古寬永) SK234-11(古寬永) SK234-12(古寬永) SK234-13(古寬永) SK234-14(古寬永)



SK234-15(古寬永) SK234-16(寬永文錢) SK234-17(寬永文錢) SK234-18



(寬永文錢)



SK235-7(古寬永) SK235-8(古寬永) SK235-9(古寬永) SK235-10(古寬永) SK235-11(寬永文錢)



SK235-12(寬永文錢) SK235-13(新寬永) SK235-14(新寬永)



SK236-4(古寬永) SK236-5(古寬永) SK236-6(古寬永) SK236-7(寬永文錢) SK236-8



(寛永文銭)

SK236-9(寛永文銭)

SK236-10(寛永文銭)

SK236-11



(寛永文銭)

SK236-12(寛永文銭)

SK236-13(寛永文銭)

SK236-14



(寛永文銭)

SK236-15(寛永文銭)

SK236-16(寛永文銭)

SK236-17



(寛永文銭)

SK236-18(寛永文銭)

SK236-19(寛永文銭)



SK238-3(寛永文銭)

SK238-4(寛永文銭)



SK239-1(皇宋通寶)

SK239-2(古寛永)

SK239-3(古寛永)

SK239-4(古寛永)

SK239-5(古寛永)

SK239-6(古寛永)



SK239-7(古寛永)

SK239-8(古寛永)

SK239-9(古寛永)

SK239-10(古寛永)

SK239-11(古寛永)

SK239-12(古寛永)





SK239-13(古寛永)

SK239-14(古寛永)

SK239-15(寛永文銭)

SK239-16(寛永文銭)



SK239-17(寛永文銭)



SK240-3(古寛永)

SK240-4(古寛永)

SK240-5(古寛永)

SK240-6(古寛永)

SK240-7(寛永文銭)



SK240-8(新寛永)

SK240-9(新寛永)

SK240-10(新寛永)

SK240-11(新寛永)



SK248-3(開元通寶)

SK248-4(元豐通寶)

SK248-5(元豐通寶)

SK248-6(元豐通寶)

SK248-7(元豐通寶)

SK248-8(熙寧元寶)



SK248-9(聖宋元寶)

SK248-10(嘉祐通寶)

SK248-11(嘉祐通寶)

SK248-12(元祐通寶)

SK248-13(天禧通寶)



SK256-1(古寛永)

SK256-2(寛永文銭)

SK256-3(寛永文銭)

SK256-4(新寛永)



SK256-5(新寛永)



SK257-1(寛水文銭)

SK257-2(新寛永)



SK260-2(古寛永)

SK260-3(古寛永)

SK260-4(古寛永)

SK260-5(古寛永)

SK260-6(古寛永)

SK260-7



(寛水文銭)

SK260-8(寛水文銭)

SK260-9(寛水文銭)

SK260-10(新寛永)



SK260-11(新寛永)

SK260-12(新寛永)

SK260-13(新寛永)

SK260-14(新寛永)



SK261-4(元豊通寶)

SK261-5(古寛永)

SK261-6(古寛永)

SK261-7(古寛永)

SK261-8(古寛永)

SK261-9(古寛永)



SK261-10(古寛永)

SK261-11(寛水文銭)

SK261-12(寛水文銭)

SK261-13



(寛永文銭)

SK261-14 (寛永文銭)

SK261-15 (寛永文銭)

SK261-16



(寛永文銭)

SK261-17 (寛永文銭)

SK261-18 (寛永文銭)

SK261-19



(寛永文銭)

SK261-20 (寛永文銭)



SK262-4 (熙寧元寶)

SK262-5 (古寛永)

SK262-6 (古寛永)

SK262-7 (古寛永)

SK262-8 (古寛永)

SK262-9 (古寛永)



SK262-10 (古寛永)

SK262-11 (古寛永)

SK262-12 (寛永文銭)

SK262-13 (寛永文銭)



SK262-14 (寛永文銭)

SK262-15 (寛永文銭)



SK263-3 (古寛永)

SK263-4 (古寛永)

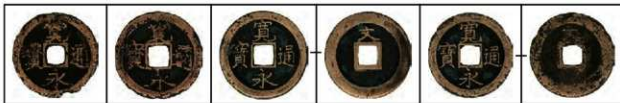
SK263-5 (古寛永)

SK263-6 (古寛永)

SK263-7 (古寛永)

SK263-8 (古寛永)



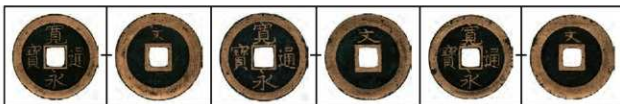


SK263-9(古寛永)

SK263-10(古寛永)

SK263-11(寛永文銭)

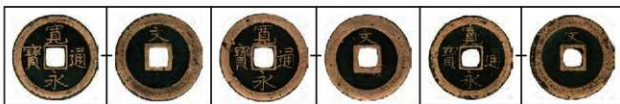
SK263-12(寛永文銭)



SK263-13(寛永文銭)

SK263-14(寛永文銭)

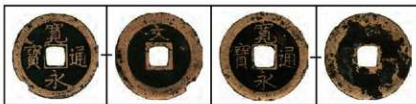
SK263-15(寛永文銭)



SK263-16(寛永文銭)

SK263-17(寛永文銭)

SK263-18(寛永文銭)



SK263-19(寛永文銭)

SK263-20(寛永文銭)



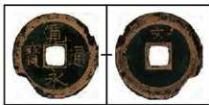
SK264-1(古寛永)

SK264-2(古寛永)

SK264-3(古寛永)

SK264-4(古寛永)

SK264-5(寛永文銭)



SK264-6(寛永文銭)



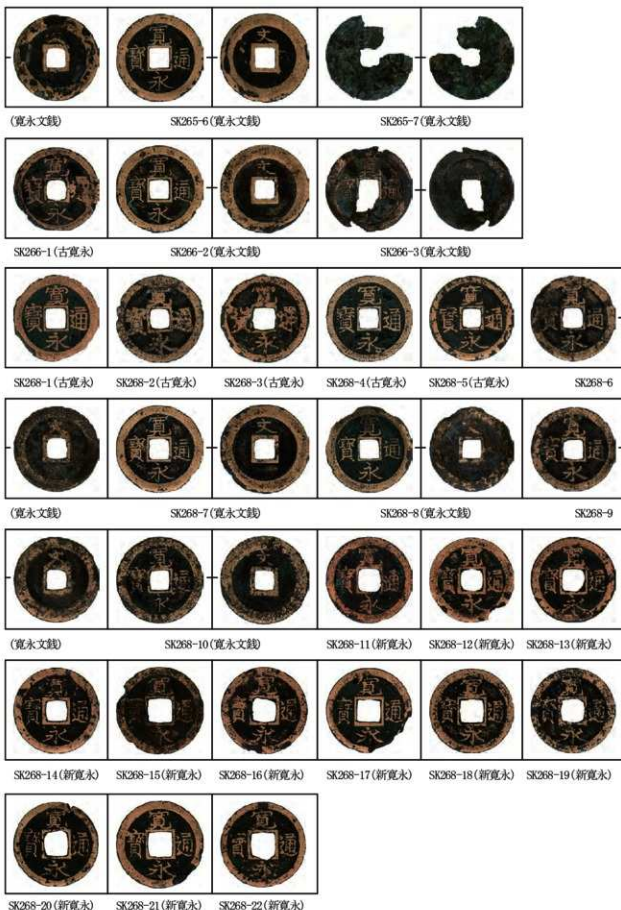
SK265-1(古寛永)

SK265-2(古寛永)

SK265-3(古寛永)

SK265-4(寛永文銭)

SK265-5





SK269-3(唐国通宝) SK269-4(咸平元寶) SK269-5(古寬永) SK269-6(古寬永) SK269-7(古寬永) SK269-8(古寬永)



SK269-9(古寬永) SK269-10(古寬永) SK269-11(古寬永) SK269-12(古寬永) SK269-13(古寬永) SK269-14(古寬永)



SK269-15(古寬永) SK269-16(古寬永) SK269-17(古寬永) SK269-18(古寬永) SK269-19(寬永文錢)



SK347-2(古寬永) SK347-3(古寬永) SK347-4(新寬永) SK347-5(新寬永) SK347-6(新寬永) SK347-7(新寬永)



SK347-8(新寬永) SK347-9(新寬永) SK347-10(新寬永) SK347-11(新寬永) SK347-12(新寬永) SK347-13(新寬永)



SK348-1(新寬永)



SK353-1(古寬永) SK353-2(古寬永)



SK355-2(古寛永)

SK355-3(古寛永)

SK355-4(寛永文銭)

SK355-5(寛永文銭)



SK355-6(寛永文銭)

SK355-7(寛永文銭)

SK355-8(寛永文銭)



SK355-9(寛永文銭)

SK355-10(寛永文銭)

SK355-11(寛永文銭)



SK355-12(寛永文銭)



SK355-13(不明)



SK356-1(古寛永)

SK356-2(古寛永)

SK356-3(古寛永)

SK356-4(古寛永)

SK356-5(古寛永)

SK356-6(古寛永)



SK356-7(古寛永)

SK356-8(寛永文銭)

SK356-9(寛永文銭)

SK356-10



(寛永文銭)

SK356-11(寛永文銭)



SK357-4(古寛永)



SK361-1(古寛永)

SK361-2(古寛永)

SK361-3(古寛永)

SK361-4(古寛永)

SK361-5(古寛永)

SK361-6



(寛永文銭)

E 2・E 3地点近世土坑墓出土銭貨 (37)



39溝-1(熙寧元寶)

39溝-2(寛永文銭)

39溝-3(新寛永)

39溝-4(新寛永)

39溝-5(新寛永)



57溝-7(新寛永)

57溝-8(新寛永)

57溝-9(寛永波銭)



70溝-20(新寛永)

70溝-21(新寛永)

70溝-22(新寛永)

70溝-23(寛永波銭)

E 2・E 3地点溝跡出土銭貨 (1)



71溝-10(古寛永)

71溝-11(古寛永)

71溝-12(古寛永)

71溝-13(古寛永)

71溝-14(古寛永)

71溝-15(古寛永)



71溝-16(古寛永)

71溝-17(古寛永)

71溝-18(古寛永)

71溝-19(寛永文銭)

71溝-20



(寛永文銭)

71溝-21(寛永文銭)

71溝-22(寛永文銭)

71溝-23



(寛永文銭)

E 3 地点溝跡出土銭貨 (2)

## 報告書抄録

フリガナ	クゲヒガシイセキⅨ(C2・D2・D3・E2・E3・E4チテン)							
書名	久下東遺跡Ⅸ(C2・D2・D3・E2・E3・E4地点)							
副書名	本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書9							
シリーズ	本庄市埋蔵文化財調査報告書					巻次	第49集	
編著者	忍河内昭彦、黒沼保子(麻バレオ・ラボ)							
編集機関	本庄市教育委員会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号			TEL 0495-25-1185				
発行日	西暦2016年(平成28年)11月14日							
フリガナ 所取遺跡	フリガナ 所在地	コード		北緯 (°'")	東経 (°'")	調査 期間	調査 面積	調査 原因
		市町村	遺跡					
クゲヒガシ 久下東C2地点	本庄市北堀1291,1292	112119	53-064	36°13'24"	139°10'57"	20080407 ～ 20080530	732㎡	造成
クゲヒガシ 久下東D2・D3地点	本庄市北堀1306,1305	112119	53-064	36°13'20"	139°10'58"	20080801 ～ 20081029	725㎡	造成
クゲヒガシ 久下東E2・E3地点	本庄市北堀1777 他	112119	53-064	36°13'22"	139°11'00"	20080616 ～ 20081204	4195㎡	造成
クゲヒガシ 久下東E4地点	本庄市北堀1778	112119	53-064	36°13'24"	139°11'01"	20100420 ～ 20100517	180㎡	造成
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
久下東C2地点		縄文			土器片(加曾利EⅢ式)			
	集落	奈良・平安	竪穴住居6、土坑9		土師器、須恵器、土製紡錘車、鉄鏝、刀子			
久下東D2地点		縄文			土器片(押型文、加曾利EⅢ式)、石鏝			
	集落	古墳	竪穴住居6		土師器、小形勾玉			
	集落	平安	竪穴住居1、掘立柱建物1、井戸1、土坑5		土師器、須恵器、和鏡(松鶴鏡)、羽口、鉄滓			
久下東D3地点		中世以降	土坑1、溝4		常滑系甕、かわらけ、平瓦			
	集落	中世以降	溝1					
久下東 E2・E3地点		旧石器			ナイフ形石器			
		縄文			土器片(加曾利EⅠ～Ⅱ、EⅢ)、石皿、凹石、磨製石斧、石鏝			
	集落	古墳時代	竪穴住居30、土坑3、溝2		土師器、須恵器、土玉、石製模造品(銅形)、白玉、砥石、桃核、ガラス小玉			
	集落	白鳳～平安時代	竪穴住居18、掘立柱建物6、土坑6、溝2		土師器、須恵器、灰軸陶器、平瓦、和鏡、刀子、土鏝、土製・石製紡錘車、砥石、鉄釘、鉄滓			
		中世	掘立柱建物1、土坑8、溝10		銭貨、常滑甕、内耳鍋、片口鉢			
	墓地	近世以降	土坑196、溝31		銭貨、和鏡(蓬萊鏡、方鏡)、小刀(脇差)、煙管、火打金、削器、碁石、数珠、陶磁器、かわらけ、棧瓦、砥石、土鈴、土人形		清福寺の近世墓地跡	
久下東E4地点		古墳～平安	溝6		土師器、須恵器			
		中世	溝2					
		近世以降	溝1					

---

本庄市埋蔵文化財調査報告書第49集

## 久下東遺跡 IX

(C2・D2・D3・E2・E3・E4 地点)

—本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書9—

---

平成28年 11月 7日 印刷

平成28年 11月 14日 発行

発行／本庄市教育委員会

埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

---

印刷／株式会社文林堂印刷所

埼玉県本庄市寿3丁目1番1号